

甲府城下町遺跡 29

(山梨県甲府市中央5丁目2～4区)

—都市計画道路和戸町竜王線街路事業に伴う発掘調査報告書—

2022

山梨県中北建設事務所
甲府市教育委員会
昭和測量株式会社

序

県都甲府の発展は、16世紀代の武田信虎、信玄、勝頼の三代によりはじまります。16世紀末には、豊臣家の五奉行の一人である浅野長政と幸長親子により、東国では数少ない総石垣の甲府城を中心に、東西約1.4km、南北約2kmの範囲に、三重の堀と土塁に囲まれた城下町が築かれました。

江戸時代17世紀代は、徳川家一門、18世紀以降は柳沢吉保・吉里、甲府勤番が治めました。江戸後期には、歌舞伎役者の市川団十郎が来甲し歌舞伎を上演し、歌川広重など浮世絵師が訪づれ、江戸の文化が流入し栄えていました。

本報告書は、令和元年度から実施されています。都市計画道路和戸町竜王線街路事業に伴い行われた、甲府市中央5丁目の令和2年度の発掘調査の結果です。特に今回調査が行われた中央5丁目周辺は甲府城下町の東南側に位置し、三の堀と濁川に近い「下連雀町」の町人地として栄え、近代以降も連雀問屋街として、物流の拠点として賑わいをみせていました。

発掘調査では、建物跡、穴蔵、地鎮具、火災・地震の地割など災害の痕跡、17世紀代まで遡る建物基礎などの遺構と、陶磁器、金属製品などが検出されました。これらの発見された遺構・遺物は、甲府城下町の江戸時代の様相を示す、調査研究の重要な資料であり、今後のまちづくりの一助となれば幸いです。

末筆となりましたが、このように発掘調査が実施できましたのも、地域住人皆様のご理解とご協力の賜物であるとともに、発掘調査及び整理作業に従事された皆様方のご努力の結果であります。ここに感謝申し上げますとともに、今後ともご支援・ご協力をお願い申し上げます。

令和4年3月

甲府市教育委員会
教育長 數野保秋

例 言

1. 本書は、山梨県甲府市中央5丁目地内に所在する甲府城下町遺跡（中央5丁目2～4区）の発掘調査報告書である。各調査区の所在地は以下の通りである。

中央5丁目2区（調査対象面積合計：767㎡）

A地点：中央5丁目461-1・461-2・461-3・462(216㎡) B地点：同464・465(133㎡)

C地点：同470・472・475-2・478(165㎡) D地点：同483・485(60㎡) E地点330・332・333(193㎡)

中央5丁目3区（調査対象面積合計：748㎡）

A地点：中央5丁目489(81㎡) B地点：同490(88㎡) C地点：同491(63㎡) D地点：同492(79㎡)

E地点：同494(81㎡) F地点：同497(79㎡) G地点：同320-2(42㎡) H地点：同319(28㎡)

I地点：同317(26㎡) J地点：同309(72㎡) K地点：同308(33㎡) L地点：同305(76㎡)

中央5丁目4区（調査対象面積合計：244㎡）

①②地点：中央5丁目329(47㎡) ③地点：同328(50㎡) ④⑤地点：同327(89㎡) ⑥⑦地点：同322(58㎡)

2. 発掘調査は都市計画道路和戸町竜王線街路事業に伴い、山梨県中北建設事務所の費用負担により実施した。
3. 発掘調査と整理報告書作成業務は、甲府市教育委員会が主体となり、業務委託を受けた昭和測量株式会社が実施した。

[調査体制]

調査担当 志村憲一（甲府市教育委員会）

2・4区：萩野谷主税・浅川晃一、3区：泉英樹（以上、昭和測量株式会社文化財調査課）

調査顧問 新津健（昭和測量株式会社文化財調査課研究顧問）

発掘従事者 青柳正史・加藤俊哉・川原剛・齊藤里美・内藤敏夫・林大介・松本榮一・三木一恵・
渡辺俊夫・広瀬ありさ

整理従事者 浅川悠起子・今福ともみ・尾川正美・垣内律子・齊藤里美・佐野香織・広瀬ありさ・
藤巻浩太郎・三木一恵

4. 発掘調査は2区を令和2年7月7日から令和2年12月26日、3区を令和2年10月7日から令和3年2月27日、4区は令和2年11月26日から令和3年2月27日まで行った。整理報告書作成業務は令和3年7月9日から令和4年3月18日まで、昭和測量株式会社文化財調査課事務所内で行った。
5. 本書に関わる遺構写真は、2区・4区：萩野谷主税、3区：泉英樹が撮影した。
遺物写真は浅川悠起子・今福ともみ・尾川正美・垣内律子が撮影した。
6. 本書の編集は萩野谷主税が行った。執筆分担は以下の通りである。

第1章第1節：志村憲一

第4章：泉英樹

第5章第1節：伊藤茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtadze・小林克也、第2節：小林克也、

第3節：三谷智広（以上、株式会社パレオ・ラボ）、第4節：森勇一（東海シニア自然大学）・株式会社パレオ・ラボ、

第5節：森将志、第6節：森将志、第7節：森将志・竹原弘展、第8節：バンダリ スダルシャン・森将志（以上、

株式会社パレオ・ラボ）

その他の執筆は萩野谷主税が行った。

7. 本調査における木製品および金属製品の保存処理は公益財団法人山梨文化財研究所に、自然科学分析は株式会社パレオ・ラボに委託した。
8. 発掘調査および報告書作成にあたって次の方々の御指導と御協力を賜った。深く感謝の意を表する。
公益財団法人山梨文化財研究所 株式会社パレオ・ラボ
9. 本書に関わる出土遺物および写真・記録図面類は甲府市教育委員会にて保管している。

凡 例

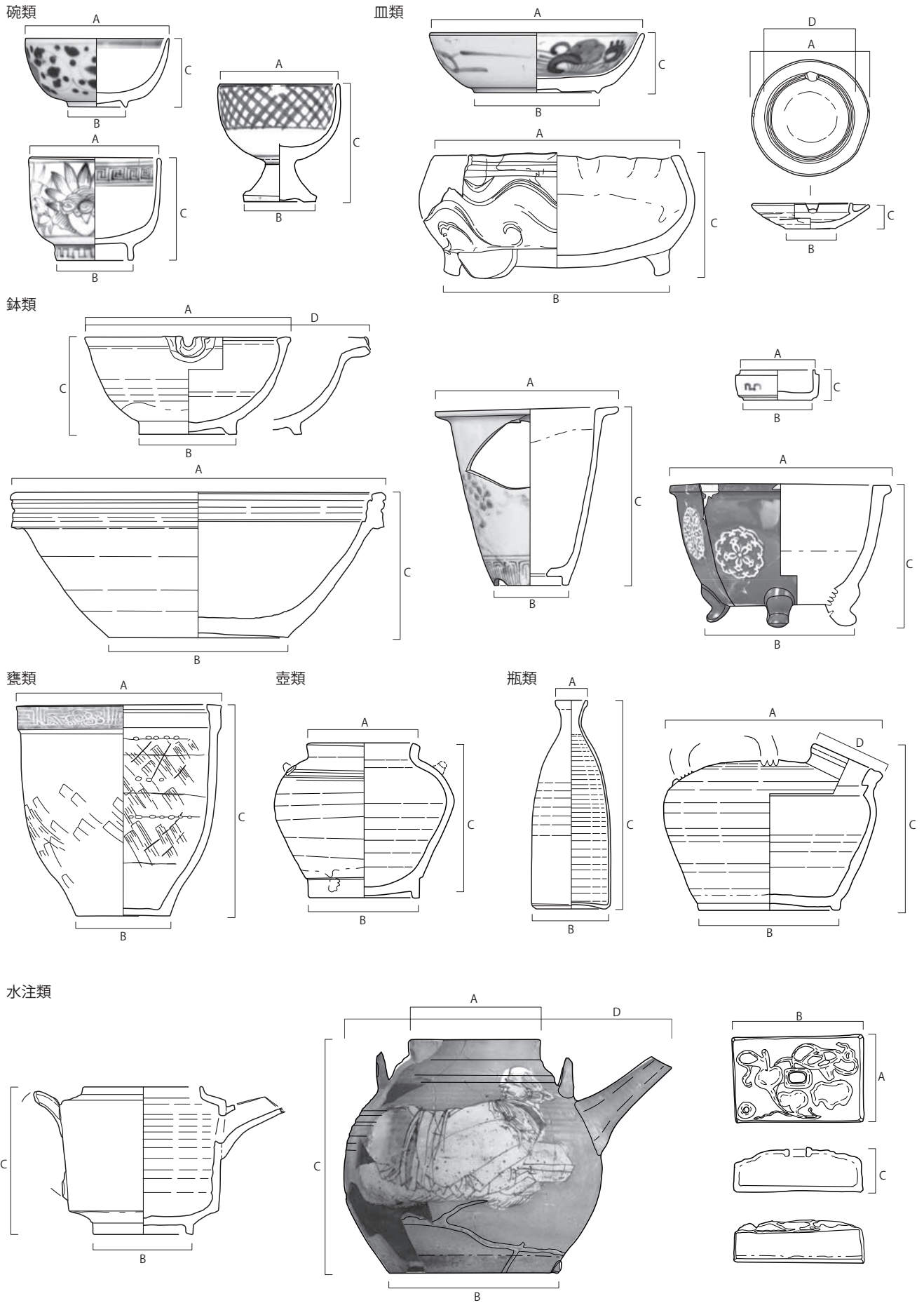
1. 本書で使用した地図は第1図：国土地理院発行の地形図『甲府』1/25,000、第2図：甲府市役所発行の都市計画基本図1/2,500である。
2. 本書で使用した絵図は第175図：国立国会図書館デジタルコレクションのインターネット公開資料『目黒行人阪火事絵巻』である。
3. 遺構・遺物の挿図縮尺は、各図に表示した。写真図版の縮尺は任意である。
4. 遺構平面図の方位は、各図に表示した。方位記号は方眼北を示している。
5. 遺構平面図のX・Y座標値は、世界測地系の平面直角座標系第Ⅷ系に基づく値である。単位はメートルである。
6. 遺構断面図の数値は、標高(T.P.)を示す。単位はメートルである。
7. 土層・遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)に基づいた。
8. 発掘調査では以下の遺構記号を使用した。遺構番号はあらかじめ調査地点ごとに番号を振り分けた上で、種別ごとに番号を付した。本書でも発掘調査時点のものを使用した。
土坑：S K 小穴：S P 集石遺構・石列：S S 建物跡：S B 井戸：S E 溝状遺構：S D
地鎮遺構：S U 性格不明遺構：S X
9. 遺物番号は出土地点にかかわらず連番で付した。本書における挿図・写真図版・遺物分布図・遺物観察表および本文中の遺物番号はそれぞれ対応している。
10. 遺構平面図における一点鎖線は攪乱、破線はサブトレンチ・試掘坑・推定線である。
11. 遺構挿図・遺物挿図で使用したトーンの凡例は以下の通りである。

焼土範囲 (遺構図)	炭化物範囲(遺構図) 煤・油煙・炭化物(遺物図)	石断面	
黒色処理・黒漆 (遺物図)	赤彩・赤漆 (遺物図)	付着物・錆 (遺物図)	

12. 江戸時代における時期区分には諸種の見解があるが、本書では以下の通りに区分した。
江戸時代前期：江戸幕府成立から、肥前磁器に京焼の影響を受けた半球碗の出現以前(1710年代)
江戸時代中期：肥前磁器の半球碗の出現から、筒形碗・小丸碗の出現以前(1740年代)
江戸時代後期：筒形碗・小丸碗の出現から、嘉永6年(1853)の黒船来航以前
幕末期(～明治改革期)：嘉永6年から、染付への酸化コバルト顔料使用や型紙摺り、銅板転写などの技法が現れる1870～80年代以前
明治期：1870～80年代以降から、甲府停車場が開場する明治36年(1903)

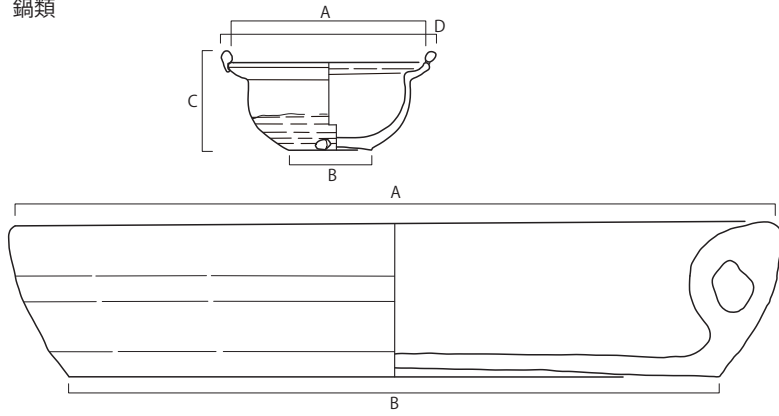
山梨県 第III期	山梨県 第IV期				山梨県 第V期	山梨県 第VI期				山梨県 第VII期														
	甲府城築城期 天正10年(1582)～慶長5年(1600)				城代・城番・甲府家期 慶長5年(1600)～宝永元年(1704)				柳沢期 宝永元年～享保9年				甲府勤番支配期 享保9年(1724)～慶応4年(1868)				明治期(甲府停車場開場まで) 明治元年(1868)～明治36年(1903)							
本書の時期区分	江戸時代前期				江戸時代中期				江戸時代後期				幕末期(～明治改革期)		明治期(甲府停車場開場まで)									
	慶長8年(1603)～1710年代				1710年代～1740年代				1740年代～嘉永6年(1853)				嘉永6年～1870年代		1870～80年代以降									
	17世紀				18世紀				19世紀															
	1600		1650		1700		1750		1800		1850		1900											
	17c1/4		17c2/4		17c3/4		17c4/4		18c1/4		18c2/4		18c3/4		18c4/4		19c1/4		19c2/4		19c3/4		19c4/4	
	前半				後半				前半				後半				前半		後半					
	前葉		中葉		後葉		前葉		中葉		後葉		前葉		中葉		後葉							

13. 遺物観察表の法量の計測方法の凡例は以下の通りである。

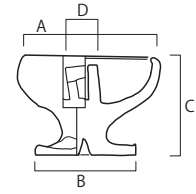


遺物計測位置の凡例 (1)

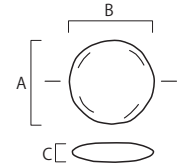
鍋類



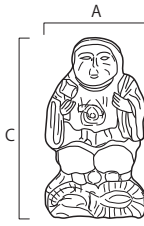
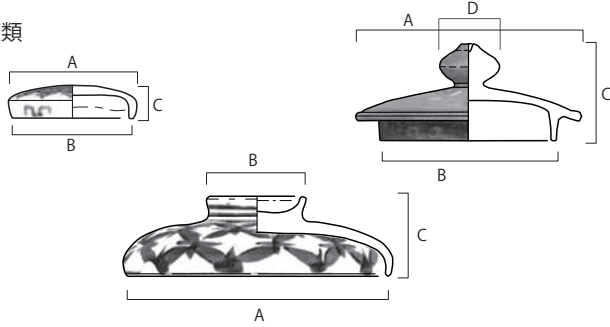
秉燭類



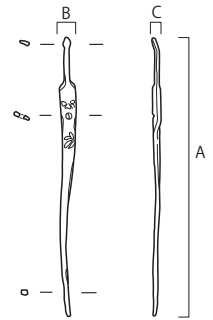
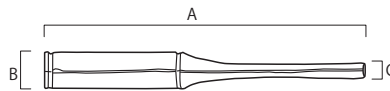
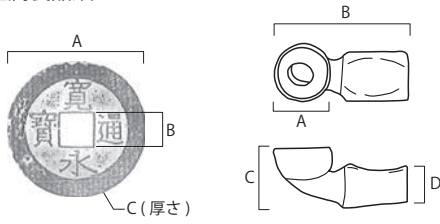
土製品類



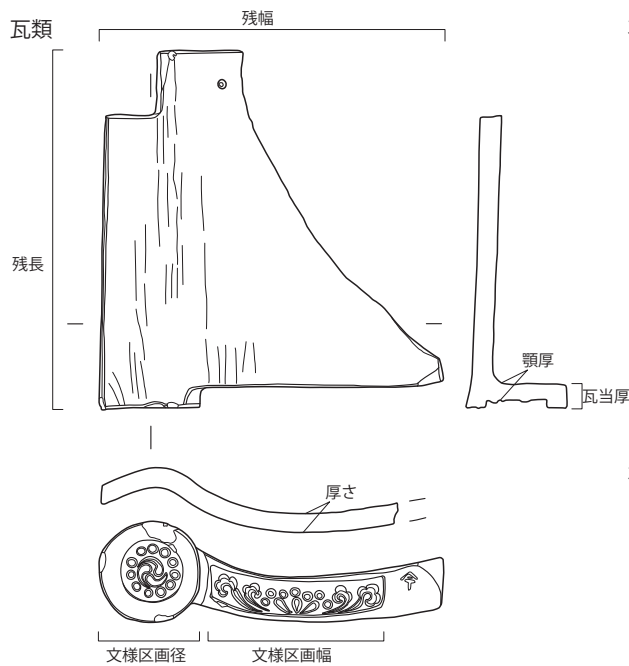
蓋類



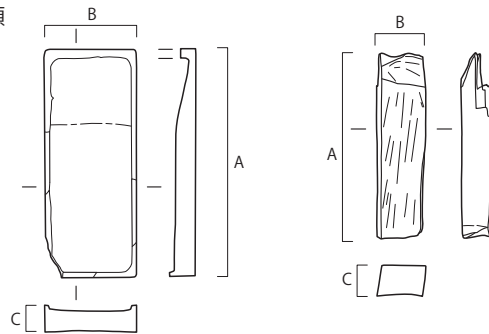
金属製品類



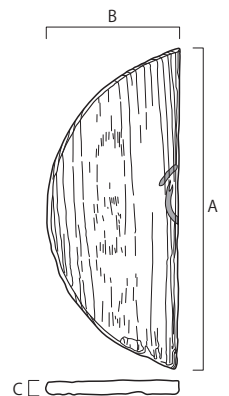
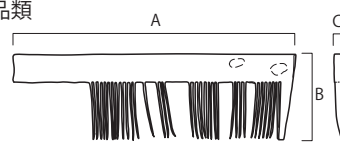
瓦類



石製品類



木製品類



本文目次

序	
例言	
凡例	
第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘作業の経過	1
第3節 整理等作業の経過	4
第2章 遺跡の位置と環境	8
第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	8
第3節 過去の発掘調査	12
第3章 中央5丁目2区の調査	15
第1節 調査の方法	15
第2節 基本層序	16
第3節 調査の成果	17
第1項 A地点	17
第2項 B地点	40
第3項 C地点	46
第4項 D地点	48
第5項 E地点	53
第4章 中央5丁目3区の調査	180
第1節 調査の方法	180
第2節 基本層序	181
第3節 調査の成果	183
第1項 A地点	183
第2項 B地点	187
第3項 C地点	191
第4項 D地点	194
第5項 E地点	194
第6項 F地点	196
第7項 G・H地点	198
第8項 I・J地点	199
第9項 K地点	199
第10項 L地点	201
第5章 中央5丁目4区の調査	249
第1節 調査の方法	249
第2節 基本層序	250
第3節 調査の成果	251
第1項 ①・②地点	251

第2項 ③地点	258
第3項 ④・⑤地点	261
第4項 ⑥・⑦地点	267
第6章 自然科学分析	314
第1節 放射性炭素年代測定	314
第2節 甲府城下町遺跡出土木材の樹種同定	318
第3節 甲府城下町遺跡(中央5丁目2・3・4区)出土の動物遺体	321
第4節 甲府城下町遺跡から発見された昆虫化石と古環境	324
第5節 甲府城下町遺跡(中央5丁目2・3・4区)の花粉分析	335
第6節 甲府城下町遺跡(中央5丁目2・3・4区)のプラント・オパール分析	340
第7節 甲府城下町遺跡(中央5丁目2・3・4区)の寄生虫卵分析、リン・カルシウム分析、X線回折	343
第8節 甲府城下町遺跡(中央5丁目2・3・4区)から出土した大型植物遺体	351
第7章 総括	361

挿図目次

第1図 調査地点位置図	5	第23図 B地点(3)	86
第2図 調査区区割図(2・4区)	6	第24図 B地点(4)	87
第3図 調査区区割図(3区)	7	第25図 B地点(5)	88
第4図 遺跡の位置・周辺遺跡分布図	11	第26図 C地点(1)	89
第5図 甲府城下町遺跡主要調査位置図	14	第27図 C地点(2)	90
第6図 A地点(1)	69	第28図 C地点(3)	91
第7図 A地点(2)	70	第29図 D地点(1)	92
第8図 A地点(3)	71	第30図 D地点(2)	93
第9図 A地点(4)	72	第31図 D地点(3)	94
第10図 A地点(5)	73	第32図 D地点(4)	95
第11図 A地点(6)	74	第33図 D地点(5)	96
第12図 A地点(7)	75	第34図 E地点(1)	97
第13図 A地点(8)	76	第35図 E地点(2)	98
第14図 A地点(9)	77	第36図 E地点(3)	99
第15図 A地点(10)	78	第37図 E地点(4)	100
第16図 A地点(11)	79	第38図 E地点(5)	101
第17図 A地点(12)	80	第39図 E地点(6)	102
第18図 A地点(13)	81	第40図 E地点(7)	103
第19図 A地点(14)	82	第41図 E地点(8)	104
第20図 A地点(15)	83	第42図 E地点(9)	105
第21図 B地点(1)	84	第43図 E地点(10)	106
第22図 B地点(2)	85	第44図 E地点(11)	107

第 45 图	E 地点 (12)	108	第 86 图	E 地点出土遺物 (7)	149
第 46 图	A 地点出土遺物 (1)	109	第 87 图	E 地点出土遺物 (8)	150
第 47 图	A 地点出土遺物 (2)	110	第 88 图	E 地点出土遺物 (9)	151
第 48 图	A 地点出土遺物 (3)	111	第 89 图	E 地点出土遺物 (10)	152
第 49 图	A 地点出土遺物 (4)	112	第 90 图	E 地点出土遺物 (11)	153
第 50 图	A 地点出土遺物 (5)	113	第 91 图	E 地点出土遺物 (12)	154
第 51 图	A 地点出土遺物 (6)	114	第 92 图	E 地点出土遺物 (13)	155
第 52 图	A 地点出土遺物 (7)	115	第 93 图	E 地点出土遺物 (14)	156
第 53 图	A 地点出土遺物 (8)	116	第 94 图	E 地点出土遺物 (15)	157
第 54 图	A 地点出土遺物 (9)	117	第 95 图	E 地点出土遺物 (16)	158
第 55 图	A 地点出土遺物 (10)	118	第 96 图	E 地点出土遺物 (17)	159
第 56 图	A 地点出土遺物 (11)	119	第 97 图	A 地点 (1)	203
第 57 图	A 地点出土遺物 (12)	120	第 98 图	A 地点 (2)	204
第 58 图	A 地点出土遺物 (13)	121	第 99 图	A 地点 (3)	205
第 59 图	A 地点出土遺物 (14)	122	第 100 图	A 地点 (4)	206
第 60 图	A 地点出土遺物 (15)	123	第 101 图	A 地点 (5)	207
第 61 图	A 地点出土遺物 (16)	124	第 102 图	A 地点 (6)	208
第 62 图	A 地点出土遺物 (17)	125	第 103 图	A 地点 (7)	209
第 63 图	A 地点出土遺物 (18)	126	第 104 图	B 地点 (1)	210
第 64 图	A 地点出土遺物 (19)	127	第 105 图	B 地点 (2)	211
第 65 图	A 地点出土遺物 (20)	128	第 106 图	B 地点 (3)	212
第 66 图	A 地点出土遺物 (21)	129	第 107 图	B 地点 (4)	213
第 67 图	A 地点出土遺物 (22)	130	第 108 图	C · D 地点 (1)	214
第 68 图	A 地点出土遺物 (23)	131	第 109 图	C · D 地点 (2)	215
第 69 图	A 地点出土遺物 (24)	132	第 110 图	C · D 地点 (3)	216
第 70 图	B -1 地点出土遺物 (1)	133	第 111 图	C · D 地点 (4)	217
第 71 图	B -1 地点出土遺物 (2)	134	第 112 图	E 地点 (1)	218
第 72 图	B -1 地点出土遺物 (3)	135	第 113 图	E 地点 (2)	219
第 73 图	B -1 地点出土遺物 (4)	136	第 114 图	E 地点 (3)	220
第 74 图	B -2 地点出土遺物	137	第 115 图	F 地点 (1)	221
第 75 图	B -2 · C -1 地点出土遺物	138	第 116 图	F 地点 (2)	222
第 76 图	C -1 · C -2 地点出土遺物	139	第 117 图	F 地点 (3)	223
第 77 图	D 地点出土遺物 (1)	140	第 118 图	G · H · I 地点	224
第 78 图	D 地点出土遺物 (2)	141	第 119 图	J 地点	225
第 79 图	D 地点出土遺物 (3)	142	第 120 图	K 地点	226
第 80 图	E 地点出土遺物 (1)	143	第 121 图	L 地点 (1)	227
第 81 图	E 地点出土遺物 (2)	144	第 122 图	L 地点 (2)	228
第 82 图	E 地点出土遺物 (3)	145	第 123 图	A 地点出土遺物 (1)	229
第 83 图	E 地点出土遺物 (4)	146	第 124 图	A 地点出土遺物 (2)	230
第 84 图	E 地点出土遺物 (5)	147	第 125 图	A 地点出土遺物 (3)	231
第 85 图	E 地点出土遺物 (6)	148	第 126 图	A · B 地点出土遺物	232

第127図	B地点出土遺物(1)	233	第156図	⑥地点(2)	289
第128図	B地点出土遺物(2)	234	第157図	⑦地点	290
第129図	B地点出土遺物(3)	235	第158図	①・②地点出土遺物(1)	291
第130図	C地点出土遺物(1)	236	第159図	①・②地点出土遺物(2)	292
第131図	C地点出土遺物(2)	237	第160図	①・②地点出土遺物(3)	293
第132図	C地点出土遺物(3)	238	第161図	①・②地点出土遺物(4)	294
第133図	C・D地点出土遺物	239	第162図	①・②地点出土遺物(5)	295
第134図	E・F地点出土遺物	240	第163図	①・②地点出土遺物(6)	296
第135図	F地点出土遺物	241	第164図	①・②地点出土遺物(7)	297
第136図	G・H・J地点出土遺物	242	第165図	③地点出土遺物(1)	298
第137図	K・L地点出土遺物	243	第166図	③地点出土遺物(2)	299
第138図	①・②地点(1)	271	第167図	③地点出土遺物(3)	300
第139図	①・②地点(2)	272	第168図	③地点出土遺物(4)	301
第140図	①・②地点(3)	273	第169図	④・⑤地点出土遺物(1)	302
第141図	①・②地点(4)	274	第170図	④・⑤地点出土遺物(2)	303
第142図	①・②地点(5)	275	第171図	④・⑤地点出土遺物(3)	304
第143図	①・②地点(6)	276	第172図	⑥地点出土遺物	305
第144図	①・②地点(7)	277	第173図	⑥・⑦地点出土遺物	306
第145図	③地点(1)	278	第174図	⑦地点出土遺物	307
第146図	③地点(2)	279	第175図	穴蔵「目黒行人阪火事絵」	362
第147図	③地点(3)	280	第176図	遺構変遷図(近世)	364
第148図	④・⑤地点(1)	281	第177図	遺構変遷図(明治期遺構)	365
第149図	④・⑤地点(2)	282			
第150図	④・⑤地点(3)	283			
第151図	④・⑤地点(4)	284			
第152図	④・⑤地点(5)	285			
第153図	④・⑤地点(6)	286			
第154図	④・⑤地点(7)	287			
第155図	⑥地点(1)	288			

表目次

第1表	周辺の遺跡	10	第8表	3区遺物観察表(木製品)	248
第2表	甲府城下町遺跡主要調査一覧	13	第9表	3区遺物観察表(石製品)	248
第3表	2区遺物観察表 (陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)	160	第10表	3区遺物観察表(銭貨・金属製品)	248
第4表	2区遺物観察表(木製品)	177	第11表	4区遺物観察表 (陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)	308
第5表	2区遺物観察表(石製品)	178	第12表	4区遺物観察表(木製品)	313
第6表	2区遺物観察表(銭貨・金属製品)	178	第13表	4区遺物観察表(石製品)	313
第7表	3区遺物観察表 (陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)	244	第14表	4区遺物観察表(銭貨・金属製品)	313

写真图版目录

- | | | | |
|-------|---------------|-------|----------------|
| 图版 1 | 2区A地点(1) | 图版 43 | 3区A地点(2) |
| 图版 2 | 2区A地点(2) | 图版 44 | 3区A·B地点 |
| 图版 3 | 2区A地点(3) | 图版 45 | 3区B·C地点 |
| 图版 4 | 2区A地点(4) | 图版 46 | 3区C地点 |
| 图版 5 | 2区A地点(5) | 图版 47 | 3区D·E地点 |
| 图版 6 | 2区A地点(6) | 图版 48 | 3区F·G·H地点 |
| 图版 7 | 2区A地点(7) | 图版 49 | 3区I·J·K·L地点 |
| 图版 8 | 2区B地点(1) | 图版 50 | 3区A地点出土遺物 |
| 图版 9 | 2区B地点(2) | 图版 51 | 3区A·B地点出土遺物 |
| 图版 10 | 2区B地点(3) | 图版 52 | 3区B·C地点出土遺物 |
| 图版 11 | 2区B·C地点 | 图版 53 | 3区C·D·E地点出土遺物 |
| 图版 12 | 2区C地点 | 图版 54 | 3区F·G·H地点出土遺物 |
| 图版 13 | 2区D地点(1) | 图版 55 | 3区K·L地点出土遺物 |
| 图版 14 | 2区D地点(2) | 图版 56 | 4区①·②地点(1) |
| 图版 15 | 2区D·E地点 | 图版 57 | 4区①·②地点(2) |
| 图版 16 | 2区E地点(1) | 图版 58 | 4区①·②地点(3) |
| 图版 17 | 2区E地点(2) | 图版 59 | 4区①·②·③地点 |
| 图版 18 | 2区E地点(3) | 图版 60 | 4区③·④·⑤地点 |
| 图版 19 | 2区E地点(4) | 图版 61 | 4区④·⑤地点(1) |
| 图版 20 | 2区E地点(5) | 图版 62 | 4区④·⑤地点(2) |
| 图版 21 | 2区A地点出土遺物(1) | 图版 63 | 4区④·⑤·⑥·⑦地点 |
| 图版 22 | 2区A地点出土遺物(2) | 图版 64 | 4区⑥·⑦地点 |
| 图版 23 | 2区A地点出土遺物(3) | 图版 65 | 4区①·②地点出土遺物(1) |
| 图版 24 | 2区A地点出土遺物(4) | 图版 66 | 4区①·②地点出土遺物(2) |
| 图版 25 | 2区A地点出土遺物(5) | 图版 67 | 4区①·②·③地点出土遺物 |
| 图版 26 | 2区A地点出土遺物(6) | 图版 68 | 4区③地点出土遺物 |
| 图版 27 | 2区A地点出土遺物(7) | 图版 69 | 4区④·⑤地点出土遺物 |
| 图版 28 | 2区A地点出土遺物(8) | 图版 70 | 4区④·⑤·⑥地点出土遺物 |
| 图版 29 | 2区A地点出土遺物(9) | 图版 71 | 4区⑥·⑦地点出土遺物 |
| 图版 30 | 2区A地点出土遺物(10) | | |
| 图版 31 | 2区B地点出土遺物(1) | | |
| 图版 32 | 2区B地点出土遺物(2) | | |
| 图版 33 | 2区B·C地点出土遺物 | | |
| 图版 34 | 2区D地点出土遺物 | | |
| 图版 35 | 2区E地点出土遺物(1) | | |
| 图版 36 | 2区E地点出土遺物(2) | | |
| 图版 37 | 2区E地点出土遺物(3) | | |
| 图版 38 | 2区E地点出土遺物(4) | | |
| 图版 39 | 2区E地点出土遺物(5) | | |
| 图版 40 | 2区E地点出土遺物(6) | | |
| 图版 41 | 2区E地点出土遺物(7) | | |
| 图版 42 | 3区A地点(1) | | |

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

都市計画道路和戸町竜王線街路事業に伴い、平成30年5月8日付け中北建第4857号で山梨県中北建設事務所長から文化財保護法第94条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の通知が山梨県教育委員会教育長宛に提出された。それに対して山梨県教育委員会から、平成30年7月10日付け教学文第1240号で周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等についての通知を受け、これに基づき甲府市教育委員会が試掘・確認調査を実施した。

調査対象地は、平成28年度から平成30年度にかけて本調査が実施された甲府市中央4丁目地内及び相生工区の東側に続く、同市中央5丁目地内から同市城東2丁目地内にかけての約6,040㎡の区域である。

周辺の調査状況等から、調査対象地には遺構・遺物が残存することが想定された。試掘調査及び建物解体時の立会調査により、近世から近代にかけての遺構・遺物が確認された。その結果を受けて山梨県中北建設事務所と協議を行い、令和2年度は2区5地点約767㎡、3区12地点約748㎡、4区7地点約244㎡を対象に本調査を実施した。

本調査は、甲府市教育委員会が山梨県中北建設事務所から事業の執行委任を受け、甲府市教育委員会歴史文化財課が主体となって、指名競争入札により昭和測量株式会社に業務委託した。調査は2区を令和2年7月29日から令和2年12月26日、3区を令和2年10月7日から令和3年2月27日、4区を令和2年11月26日から令和3年2月27日の期間実施した。また整理作業及び報告書作成業務に関しては、令和3年7月9日から令和4年3月18日までの期間で上記業者に業務委託を行い実施した。

第2節 発掘作業の経過（第1・2・3図）

調査地域周辺では都市計画道路和戸町竜王線街路事業に伴い、平成28年度より断続的に発掘調査が進められている。中央5丁目地内では、令和元年度に中央5丁目1区として計722㎡の発掘調査が行われ、令和3年3月に発掘調査報告書が刊行されている。令和2年度には中央5丁目2区（計767㎡）、中央5丁目3区（計748㎡）、中央5丁目4区（計244㎡）の発掘調査が行われた。中央5丁目地内における調査区の位置関係は1区がもっとも西側で、2区と4区を挟んで、3区はもっとも東側である。2区の調査では、現状の市街の区画を基準としてA～Eの地点名を付して5地点に分割した。さらにそれぞれを反転掘削とし、1～2地点ごとに調査を行っては埋め戻して原状復旧し、次の地点の調査に移るといった形で進めた。3区の調査では、現状の市街の区画の一筆ごとにA～Lの地点名を付して12地点に分割した。地点によってはさらに反転掘削とし、1～2地点ごとに調査を行っては埋め戻して原状復旧し、次の地点の調査に移るといった形で進めた。4区の調査では、現状の市街の区画を基準として①～⑦の地点名を付して7地点に分割した。但し④⑤地点は1地点として調査を行った。1～2地点ごとに調査を行っては埋め戻して原状復旧し、次の地点の調査に移るといった形で進めた。

調査日誌抄録

2区

令和2年

7月7日（火）～8月6日（木） 調査準備。工程打合せ、近隣住民ご挨拶、ヤード借り受け依頼。

8月7日（金）～12日（水） 機材搬入、仮囲いの設置。

8月17日（月） 占用許可を得た城東2丁目のヤードに仮設ハウス、トイレ、倉庫設置。A-1地点、表土掘削。

8月17日（月）～9月2日（水） A-1地点、発掘調査。

9月3日（木） A-1地点、埋戻し・原状復旧。A-2地点、表土掘削。

9月3日（木）～10月5日（月） A-2地点、発掘調査。

10月 6日(火) A- 2地点、埋戻し・原状復旧。
10月 7日(水) B- 1・B- 2地点、表土掘削。
10月 7日(水)～16日(金) B- 1地点、発掘調査。
10月16日(金)～22日(木) B- 2地点、発掘調査。
10月22日(木) B- 1・B- 2地点、埋戻し・原状復旧。C- 1・C- 2・C- 3地点、表土掘削。
10月22日(木)～10月28日(水) C- 1地点、発掘調査。
10月22日(木)～11月 4日(水) C-2地点、発掘調査。
10月22日(木) C- 3地点、発掘調査及び埋戻し・原状復旧。
11月 6日(金) C- 1・C- 2地点、埋戻し・原状復旧。D- 2地点、表土掘削。
11月 6日(金)～11月24日(火) D-2地点、発掘調査。
11月11日(水)～11月12日(木) E- 1地点、表土掘削。
11月12日(木)～12月14日(月) E- 1地点、発掘調査。
11月24日(火) D-2地点、埋戻し・原状復旧。
12月 4日(金) D- 1地点、表土掘削。
12月 4日(金)～12月21日(月) D- 1地点、発掘調査。
12月14日(月) E- 1地点、埋戻し・原状復旧。
12月15日(火) E- 2地点、表土掘削。
12月15日(火)～12月26日(土) E- 2地点、発掘調査。
12月26日(土) E-2地点、埋戻し・原状復旧。全調査地点の現場調査完了。

3区

令和2年

10月 7日(水)～19日(月) 調査準備。近隣住民挨拶、仮設ヤードの環境整備等。
10月20日(火) C地点西半部・E地点、表土掘削。調査地点仮囲い。
10月21日(水) A地点西半部、表土掘削。調査地点仮囲い。
10月22日(木) E地点、遺構検出。
10月27日(火) E地点で新たに井戸2基を検出。
10月28日(水) E地点の遺構掘削が終了し、完掘状況の写真撮影。
10月29日(木) C地点西半部の遺構検出。粘土埋土の大形土坑を検出。
11月 2日(月) A地点西半部、表土直下で検出した漆喰面を写真撮影。漆喰面の掘り下げ。
11月 4日(水) C地点西半部の遺構掘削終了。完掘状況の写真撮影。
A地点西半部でクランク状の石列を検出。
11月 6日(金) E地点、断割確認調査(井戸2基)。
11月 7日(土) C地点西半部・E地点埋戻し。原状復旧作業。
A地点西半部、石列の下から大形土坑を検出。
11月 9日(月) A地点西半部、石列の底面で胴木を検出。
11月10日(火) C地点東半部、表土掘削。仮囲い。
11月11日(水) A地点西半部、大形土坑完掘、写真撮影。調査終了。
11月12日(木) A地点西半部、埋戻し・原状復旧。
A地点東半部の表土掘削と仮囲い。
C地点東半部、遺構検出。
11月13日(金) C地点東半部で大形土坑と埋桶・埋甕を検出。

- 11月16日(月) A地点東半部、遺構検出。
- 11月17日(火) A地点東半部、完掘状況の写真撮影。
- 11月19日(木) C地点東半部、大形土坑完掘、写真撮影。
- 11月23日(月) A地点東半部・C地点東半部、埋戻し、原状復旧。
D地点西半部、表土掘削。仮囲い。
- 11月24日(火) B地点東半部、表土掘削。
- 11月25日(水) D地点西半部の攪乱掘削。攪乱下の遺構なし。
- 11月26日(木) B地点東半部、遺構検出。戦災瓦礫の廃棄土坑を検出。
- 11月27日(金) B地点東半部、土坑の一つから据え付けの曲物を検出。
遺構掘削が終了し、完掘状況を写真撮影。
- 11月28日(土) D地点西半部、埋戻し、原状復旧。
D地点東半部、表土掘削、仮囲い。
- 11月30日(月) D地点東半部の攪乱掘削。攪乱下の遺構なし、調査終了。
- 12月2日(水) B地点東半部・D地点東半部、埋戻し、原状復旧。
L地点表土掘削。
- 12月4日(金) B地点西半部、表土掘削。仮囲い。
L地点、遺構検出。
- 12月8日(火) B地点西半部、第一面で石敷きを検出。写真撮影後、除去し、下層確認掘削。
- 12月9日(水) B地点西半部、第二面遺構検出。陶磁器が大量に廃棄された土坑を検出。
- 12月10日(木) B地点西半部、完掘状況を写真撮影。
L地点、遺構掘削と地山確認のためのサブトレンチ掘削。
- 12月14日(月) B地点西半部、埋戻し、原状復旧。
- 12月15日(火) L地点、完掘状況を写真撮影。調査終了。
K地点東半部、表土掘削。
- 12月16日(水) K地点東半部、遺構検出・遺構掘削。
- 12月17日(木) K地点東半部、完掘状況を写真撮影。埋戻し、原状復旧。
- 12月18日(金) K地点西半部、表土掘削。その後、遺構検出。
- 12月21日(月) L地点埋戻し、原状復旧。
- 12月22日(火) K地点西半部、完掘状況の写真撮影。
- 12月25日(金) K地点西半部、埋戻し、原状復旧。
- 12月28日(月) 機材の片付け、仮設ヤードの整備を行い、年内の現場作業終了。
- 令和3年
- 1月8日(金) G地点・J地点東半部、表土掘削。仮囲い。
- 1月15日(金) G地点、完掘状況を写真撮影。
- 1月16日(土) J地点東半部、遺構が確認できず、攪乱の掘り下げ確認掘削。
- 1月18日(月) J地点東半部、完掘状況を写真撮影。
- 1月19日(火) G地点・J地点東半部、埋戻し、原状復旧。
- 1月25日(月) H地点・J地点西半部、表土掘削。仮囲い。J地点駐車場進入路にゴムマット敷設。
- 1月26日(火) H地点、遺構検出。
- 1月27日(水) H地点、遺構掘削・攪乱掘削後、完掘状況を写真撮影。
- 1月28日(木) J地点西半部、遺構検出。
- 1月29日(金) J地点西半部、完掘状況を写真撮影。

- 2月 3日 (水) H地点・J地点西半部、埋戻し、原状復旧。
- 2月 9日 (火) I地点・F地点表土掘削。仮囲い。
※ I地点は全面的に攪乱。甲府市教育委員会の確認後当日中に埋戻し・原状復旧。
- 2月10日 (水) F地点、遺構検出。
- 2月12日 (金) F地点、大形土坑を検出。
- 2月17日 (水) F地点全体の完掘状況写真撮影。
- 2月24日 (水) F地点、大形土坑を完掘。底面付近で礎板と礎石を検出。
完掘状況再撮影。
- 2月25日 (木) F地点埋戻し・原状復旧。全調査地点の現場調査完了。
- 2月27日 (土) 仮設ハウス・トイレなどを撤去。現場を撤収。

4区

令和2年

11月26日(木)～12月14日(月) 調査準備。工程打合せ、近隣住民ご挨拶等。

12月15日(火) ①地点、表土掘削。

12月15日(火)～12月26日(土) ①地点、発掘調査。

12月26日(土) ①地点、埋戻し・原状復旧。

令和3年

1月 5日(火) ③地点、表土掘削。

1月 6日(水) ②地点、表土掘削。

1月 7日(木)～2月 2日(火) ②地点、発掘調査。

1月 7日(木)～1月22日(金) ③地点、発掘調査。

1月 8日(金) ⑥地点、表土掘削。

1月15日(金)～1月22日(金) ⑥地点、発掘調査。

1月25日(月)～1月26日(火) ③・⑥地点、埋戻し・原状復旧。

1月26日(火) ④・⑤地点、表土掘削。

1月27日(水)～2月22日(月) ④⑤地点、発掘調査

2月 3日(水) ②地点、埋戻し・原状復旧。

2月 9日(火) ⑦地点、表土掘削。

2月10日(水)～2月17日(水) ⑦地点、発掘調査

2月25日(木)～2月26日(金) ⑦地点、埋戻し・原状復旧。

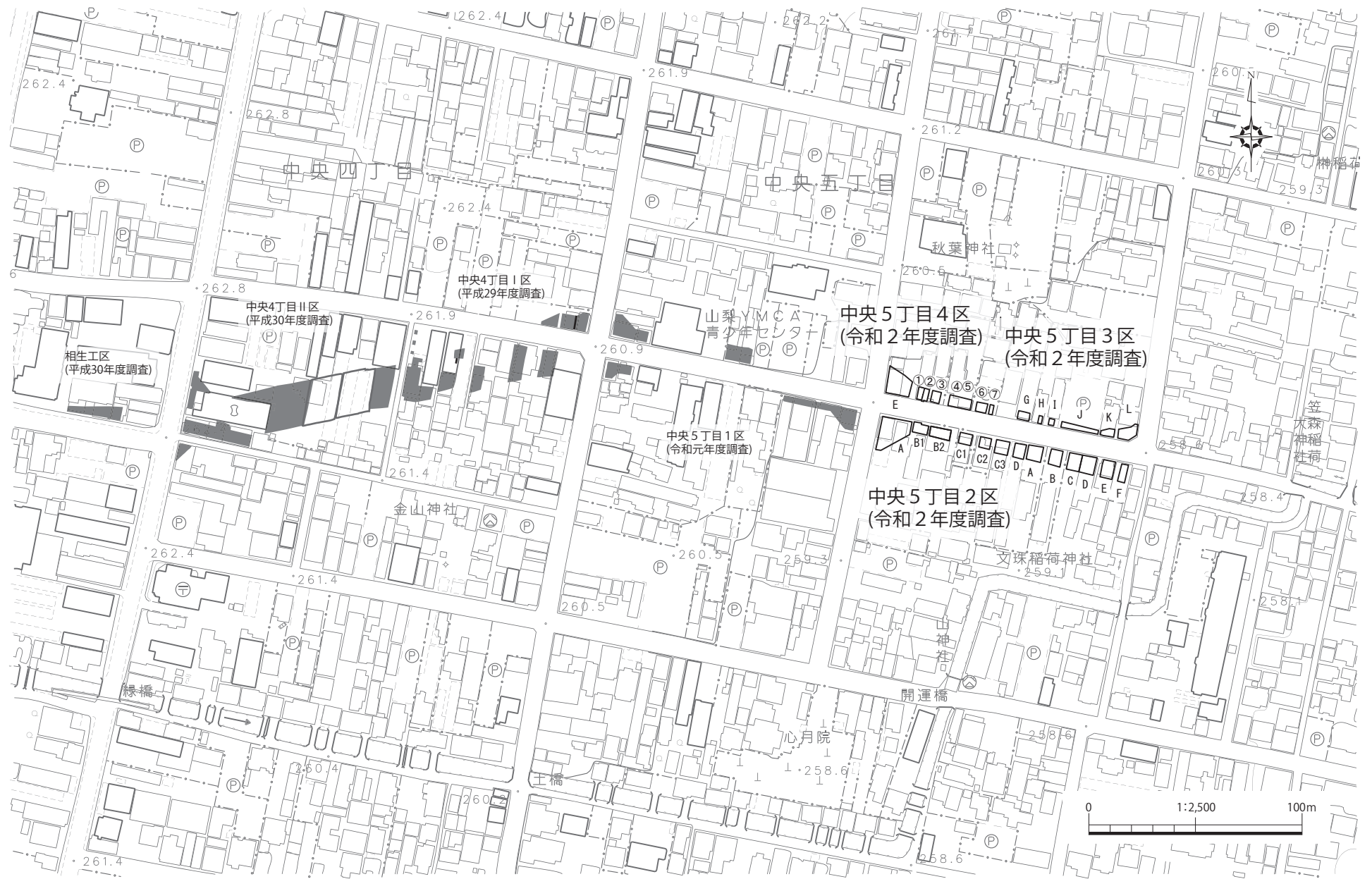
2月26日(金) ④・⑤地点、埋戻し・原状復旧。全調査地点の現場調査完了

2月27日(土) 仮設ハウス・トイレなどを撤去。現場を撤収。

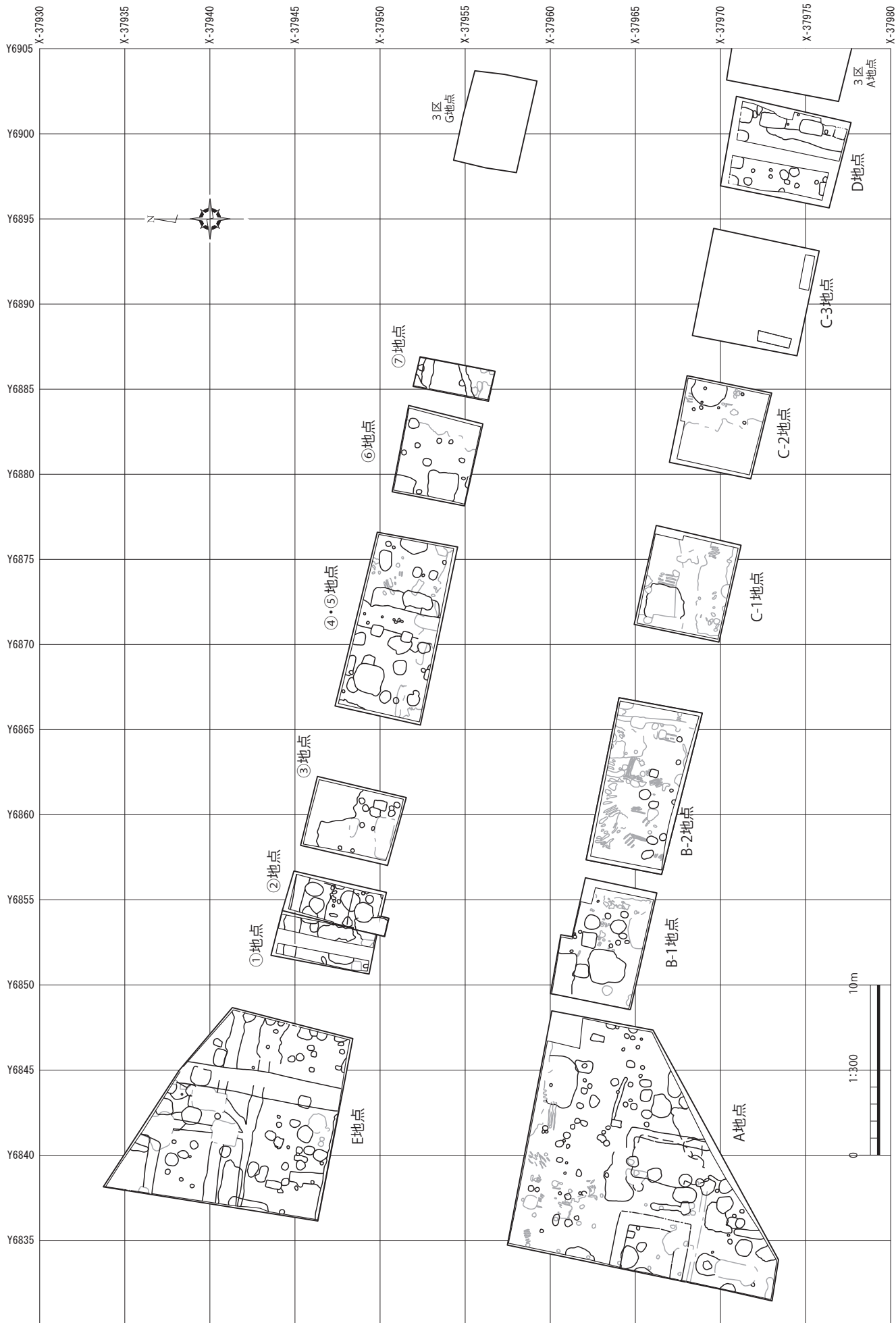
第3節 整理等作業の経過

整理・報告書刊行業務は、令和3年7月9日から令和4年3月18日の間、山梨県笛吹市石和町に所在する昭和測量株式会社文化財調査課の事務所内にて行った。

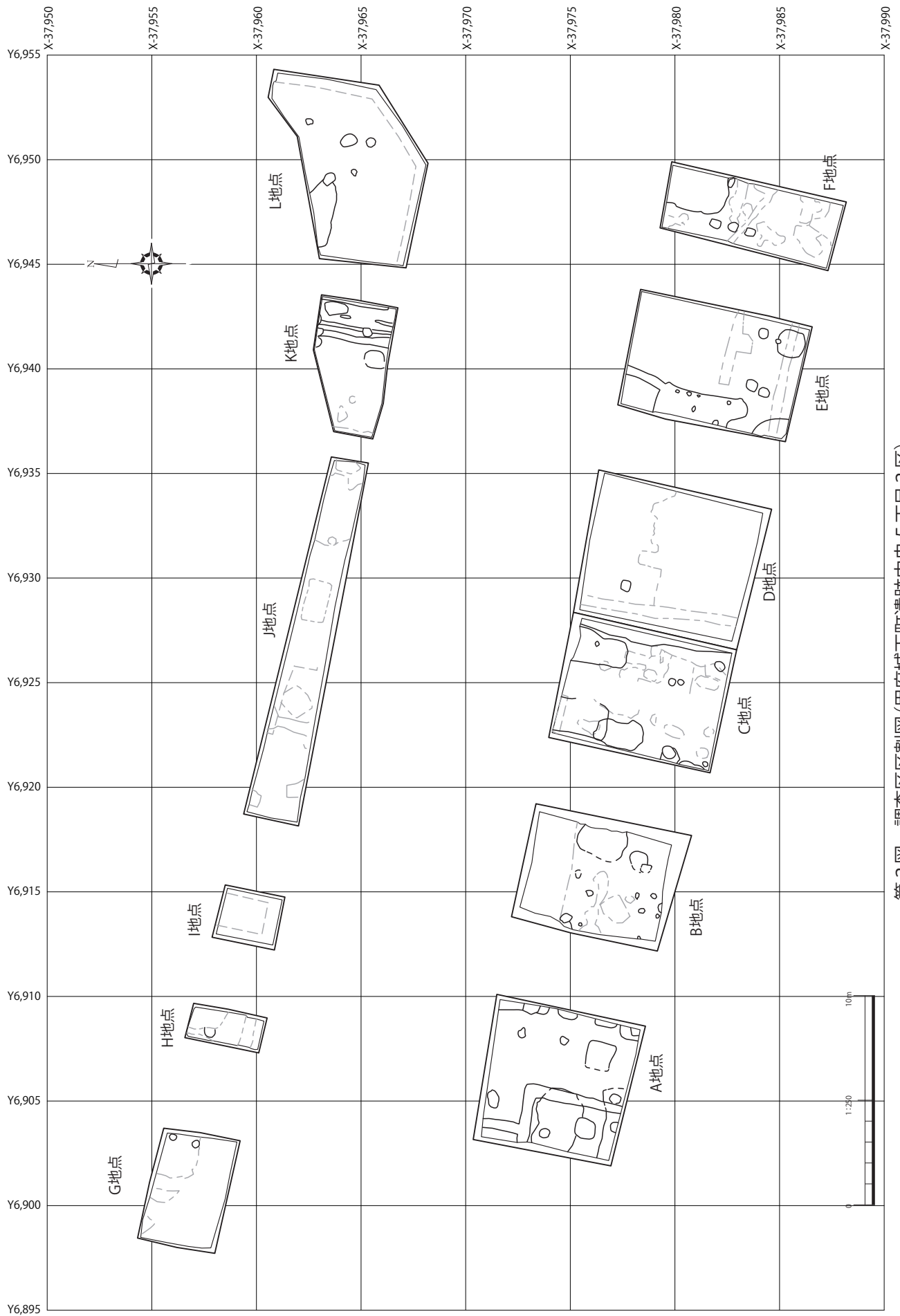
整理作業は遺物の水洗・注記から開始した。遺物の接合・復元・選別作業と進め、実測とトレース、写真撮影などの記録作業を行った後、木製品・金属製品の一部について、保存処理を公益財団法人山梨文化財研究所に委託した。木製品や土壌試料などの自然科学分析については株式会社パレオ・ラボに委託した。現場の調査写真や遺構図面についても順次整理作業を進め、遺物観察表の作成、報告書の挿図・図版の編集、本文執筆と作業を進め、令和4年3月18日に報告書を刊行した。



第1図 調査地点位置図



第2図 調査区割図(甲府城下町遺跡中央5丁目2・4区)



第3図 調査区分割図(甲府城下町遺跡中央5丁目3区)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境（第4図）

甲府城下町遺跡は、16世紀末から17世紀初頭に造営された近世城下町である。甲府盆地北縁部に位置し、北方の山地から流れる相川が形成した扇状地の扇端部にあたる。西側に相川、南側に荒川、北東側に愛宕山（標高423m）の縁辺部を東へ走る藤川が流れ、それらの河川に囲まれた範囲に立地する。愛宕山から南西方向の一条小山（標高304m）の地には甲府城の天守台が築かれた。甲府城下町は、この天守台を中心として内堀・二の堀・三の堀と、三重の堀を巡らせた城下町である。二の堀の内側は武家屋敷地、その外側は町人地が形成された。

調査地点は、甲府城下町遺跡の南東部に位置し、三の堀に囲まれた町人地に該当する場所である。調査地点の東側と南側、それぞれ約200mの地点には三の堀の東辺部と南辺部が現在も残る。

甲府城下町遺跡全体は、概ね標高260～300mの扇状地斜面に立地する。今回の調査地点の現況地盤の標高は258.6～259.6mであり、もっとも低い場所に立地している。

第2節 歴史的環境（第4図・第1表）

旧石器時代

周辺では、居住地とみられる遺跡は知られていない。八幡神社遺跡（42）ではナイフ形石器や切出形石器など4点の石器が見つかったが、石器のみで剥片は無く、居住地とは考えられていない。他に、緑が丘スポーツ公園東側の相川の河床でナウマンゾウの臼歯の化石が発見されている。出土した地層から8万年前のものと推定されており、当時の環境の一端を窺い知ることができる。

縄文時代

散布地と位置付けられる遺跡がほとんどであるが、甲府城下町遺跡から荒川を挟んで南西方向には上石田遺跡（77）が所在する。甲府盆地の底部という立地で初めて報告された縄文集落で、竪穴建物2軒、石囲い土坑1基などを検出している。主に中期後半の遺物が出土した。八幡神社遺跡では、主に中期中葉から後葉の土器や土偶が出土した他、黒曜石を主体とする石器や剥片が大量に出土しており、石器製作跡と位置付けられている。集落遺跡としては他に朝気遺跡（98）などがある。

弥生時代

前期の遺跡は確認されていない。周辺で最も古い段階の遺跡は、幸町A遺跡（91）で、中期後半の土器が出土している。後期以降では遺跡数が増加し、古墳時代や平安時代まで継続する複合遺跡も多い。

古墳時代

甲府城下町遺跡の北西に位置する緑が丘二丁目遺跡（39）、西に位置する塩部遺跡（52）、南東に位置する朝気遺跡（98）などが代表的な集落遺跡である。緑が丘二丁目遺跡（2017年度調査）では、弥生後期末から平安の竪穴建物を合わせて14軒、掘立柱建物を3軒検出している。中には排水溝を持つ竪穴建物（古墳後期）やカマドをもつ平地式建物（奈良）なども報告されている。塩部遺跡も弥生後期から平安まで継続する集落遺跡である。複数地点で発掘調査が実施されており、これまでに報告された竪穴建物・掘立柱建物などの建物の総数は148軒にのぼる。甲府工業高校地点では4世紀後半とされる方形周溝墓の周溝からウマの歯が出土した他、駿台甲府学園地点では古墳時代後期の流路から織機の部材と推定される木製品をはじめとして多数の木製品が出土している。朝気遺跡でも複数地点で調査が行われており、弥生時代末から平安時代の建物の他、弥生時代末の土器棺墓、古墳時代の方形周溝墓、平安時代の伸展葬人骨を伴う土坑墓なども検出している。これらの遺跡から想定される当時の環境は、活況を呈しており、甲府城下町遺跡内では近世以前の遺構の検出例は少ないが、城下町の範囲内にも各時代の生活域が広がっていた状況が想定できる。

古墳としては、甲府盆地北側の湯村山山麓に湯村山古墳群（31～36）、万寿森古墳（37）などが位置している。

古代

奈良・平安時代では、周辺は『和名類聚抄』にみえる巨麻郡9郷のうち、青沼郷に属すると推定される地域である。天平勝宝3年(751)以前に貢進されたとされる正倉院宝物の布に「巨麻郡青沼郷」の墨書銘があり、8世紀の中頃には、青沼郷が成立していたみられる。上述した緑が丘二丁目遺跡や塩部遺跡、朝気遺跡などでも平安時代の遺構が検出されている。特に朝気遺跡は青沼郷の中心地とも推定されており、第4・5次調査では、古墳時代後期から平安時代の竪穴建物・シガラミ状遺構、古墳前期の大溝、弥生末の合わせ口甕棺、平安時代の伸展葬人骨がみつきり、大溝からは人形・田舟・石製巡方・緑釉陶器なども出土している。

中世

後に甲府城が築城される一条小山(2)には、平安時代末に武田信義の嫡男である一条忠頼が居館を置いた。一条小山の名称はこれに由来する。寿永3年(1184)、忠頼は源頼朝に謀殺され、その弔いのため忠頼夫人によって尼寺が建立されたが、正和元年(1312)には一条時信によって時宗寺院に改められ、稲久山一条道場一蓮寺となった。一蓮寺はその後、武田信虎の一条小山への砦の普請に伴って小山原の地に移されたとされている。武田城下町遺跡(3)は、武田信虎が永正16年(1519)に甲府市東部に位置する川田館から、躑躅ヶ崎(現在の武田神社付近)へ居館を移したことにより開かれた城下町である。躑躅ヶ崎館の北には詰城の要害城、西に枝城の湯村山城などを築き、周囲の丘陵に烽火台が設置され要塞化が図られた。館の南側に開かれた城下町には、館の主郭部を軸として2町(約218m)間隔に設定した5本の南北基幹街路とこれに交差する東西街路が整備され、基幹街路には敵の進入に備えたクランクが設けられた。武田城下町の南辺は近世の甲府城下町と重なっている。その他の遺跡では、緑が丘二丁目遺跡の1993年度調査では、屈葬の人骨が出土した。中世の土坑墓と推定され、北に位置する法泉寺に関係する墓地の可能性がある。法泉寺は武田信武が月舟禅師を招いて創建した寺院である。後には武田信玄が甲府五山の一つに定めたとされ、武田勝頼の菩提寺ともなった。秋山氏館跡(83)からは土坑墓23基、茶毘状遺構2基、建物跡、井戸跡、区画溝が検出された。中世には墓域、近世に至って秋山氏の屋敷となったと推定されている。秋山氏は中世から続く郷土で、江戸時代には村役人を務めた。

近世

天正10年(1582)の武田氏滅亡後の甲斐は、織田信長家臣河尻秀隆による支配となったが、まもなく本能寺で信長が倒れ、徳川家康家臣平岩親吉の支配となる。家康は甲府城の築城に着手するが、関東移封によって、今度は豊臣秀吉の家臣たちによる支配となる。甲府城の築城も関東の徳川を牽制する拠点として、加藤光泰、浅野長政・幸長父子といった豊臣家の家臣に引き継がれ、浅野長政・幸長父子の頃(1600年頃)に一応の完成に至ったようである。関ヶ原の戦いの以後、甲斐は再び徳川家の支配となった。徳川家一門の城主や幕府直轄による支配が続いた後、宝永元年(1704)からの20年間は、柳沢吉保とその子吉里が甲府藩主となって、甲府城の改修や城下町の再整備が行われた。柳沢氏は多数の家臣とその家族を引き連れ、移転してきたため、郭外にも武家屋敷地が拡張され、城下町整備の一大画期となった。柳沢吉里の大和郡山への転封以後は、幕末まで幕府直轄領として甲府勤番による支配となった。甲府城下町遺跡(1)は、一条小山に総石垣の平山城として整備された甲府城(2)の周囲に、内堀・二の堀・三の堀と、三重の堀を巡らせた城下町である。二の堀の内側は武家屋敷地、その外側は町人地とされた。町人地は城の北側と南東側に整備された。城の北側の町人地は上府中(古府中)と総称された。上府中では武田時代の商職人町が組み込まれ、26町に区画されている。城の南東側の町人地は、新しく建設されたもので、下府中(新府中)と総称された。南北4条、東西6条の街路が整備され、碁盤目状に23町に区画された。調査地点は下府中の下連雀町に該当する。また、城下町の整備にあたって甲府上水が敷設されている。甲府上水は山宮で荒川から取水し、湯川を通して城下の下府中まで水を通したものであった。

近代

慶応4（明治元）年（1868）3月に板垣退助率いる官軍により甲府城は開城した。6月に「甲斐鎮撫府」が置かれ、11月に甲斐鎮撫府が「甲斐府」、明治2年（1869）7月に「甲府県」となり、明治4年（1871）11月に「山梨県」と改められる。明治6年（1873）に県令となった藤村紫朗の施策により、甲府城は内城のみを残し、二の堀、三の堀を埋め立てられ市街地化された。その後、内城は明治政府の施策であった殖産興業の一環を担う場として勸業試験場が設置され、農業試験場の他、葡萄酒醸造所が建設されている。明治30年（1897）に鉄道建設のため清水曲輪が鉄道院に割譲され、明治36年（1903）には中央線の開通と甲府停車場（甲府駅）の設置に伴って、屋形曲輪、清水曲輪が解体された。これにより、甲府城下町は南北に分断され、その後の市街地形成に大きな影響を与えた。明治37年（1904）に甲府城は舞鶴城公園として公園整備される。その後、昭和30年代まで堀の埋め立てや石垣の解体が行われ、城下町は次第に市街地へと姿を変えていくこととなる。

第1表 周辺の遺跡

番号	遺跡名	時代	種別
1	甲府城下町遺跡	近世	城下町
2	甲府城跡	近世	城館跡
3	武田城下町	中世	城下町
4	武田氏館跡	中世	城館跡
5	西前田A遺跡	中・近世	散布地
6	西前田B遺跡		散布地
7	不動遺跡	近世～	散布地
8	日影遺跡		散布地
9	御馬屋小路A遺跡	中世	散布地
10	御馬屋小路B遺跡		散布地
11	土屋氏館跡	中世	城館跡
12	十二天遺跡	平安	散布地
13	永井遺跡	古墳・平安	散布地
14	お塚さん古墳	古墳・平安	古墳
15	三光寺山遺跡	古墳・平安	古墳
16	躑躅ヶ崎亭跡	中世	城館跡
17	峰本南A遺跡	近世	寺院跡
18	峰本南B遺跡	近世	散布地
19	村之内遺跡	古墳～平安	散布地
20	向田A遺跡	弥生～古墳	散布地
21	向田B遺跡		散布地
22	長閑遺跡	中世	包蔵地
23	大手下遺跡	縄文	散布地
24	永慶寺跡	近世	寺院跡
25	岩窪C遺跡	古墳	散布地
26	中道東遺跡	近世	散布地
27	中道西遺跡	古墳	散布地
28	岩窪遺跡	奈良～中世	包蔵地
29	茶堂峠火台	中世	城館跡
30	湯村山城跡	中世	城館跡
31	湯村山6号古墳	古墳	古墳
32	湯村山5号古墳	古墳	古墳
33	湯村山4号古墳	古墳	古墳
34	湯村山3号古墳	古墳	古墳
35	湯村山2号古墳	古墳	古墳
36	湯村山1号古墳	古墳	古墳
37	万寿森古墳	古墳	古墳
38	和田無名墳	古墳	古墳
39	緑が丘二丁目遺跡	縄文～平安	集落跡
40	緑が丘一丁目遺跡	古墳	集落跡
41	山梨大学遺跡	奈良・平安	包蔵地
42	八幡神社遺跡	縄文	散布地
43	コツ塚古墳	古墳	古墳
44	一ツ塚古墳	古墳	古墳
45	二ツ塚1号墳	古墳	古墳
46	二ツ塚2号墳	古墳	古墳
47	二ツ塚3号墳	古墳	古墳
48	善光寺塚1号墳	古墳	古墳
49	善光寺塚2号墳	古墳	古墳
50	北原無名1号墳	古墳	古墳
51	富士見遺跡	古墳・平安	散布地
52	塩部遺跡	弥生～平安	集落跡
53	新紺屋小学校遺跡	近世	散布地
54	大笠山水の元遺跡	古墳～平安	散布地
55	堤下A遺跡	平安～	散布地
56	堤下B遺跡	平安～	散布地
57	北原遺跡	縄文・平安	集落跡
58	善光寺裏遺跡	縄文～平安	散布地
59	南善光B遺跡	古墳～平安	散布地
60	地藏北遺跡	古墳～平安	散布地
61	亥ノ兎遺跡	平安～	散布地
62	大六天遺跡	平安～	散布地
63	宮裏遺跡	平安～	散布地
64	宮の脇A遺跡	縄文・平安～	散布地
65	宮の脇B遺跡	縄文・平安～	散布地
66	御崎田遺跡	平安	散布地
67	銀杏之木	平安～	散布地
68	東光寺遺跡	平安～	散布地
69	宮の前遺跡	縄文	散布地
70	上郷遺跡	平安～	散布地
71	本郷遺跡	縄文・古墳～	包蔵地
72	本郷B遺跡	平安～	散布地
73	本郷C遺跡	古墳～中世	散布地
74	宝町遺跡	縄文・平安	散布地
75	寿町遺跡	古墳～	散布地
76	上石田B遺跡	平安	散布地
77	上石田遺跡	縄文	集落跡
78	上河原遺跡	平安～	散布地
79	渋沢遺跡	平安～	散布地
80	久保北河原遺跡	平安	散布地
81	大北河原遺跡	平安	散布地
82	宮北遺跡	縄文・平安	散布地
83	秋山氏館跡	中世	城館跡
84	千松院遺跡	中世～	散布地
85	太田町遺跡	古墳～	散布地
86	青沼遺跡	古墳	包蔵地
87	青沼三丁目遺跡	中世～	散布地
88	湯田一丁目遺跡	古墳	散布地
89	伊勢町遺跡	古墳	包蔵地
90	食糧工場遺跡	縄文・弥生	包蔵地
91	幸町A遺跡	弥生	包蔵地
92	幸町B遺跡	古墳	散布地
93	南口A遺跡	平安	散布地
94	南口B遺跡	平安	散布地
95	木俣遺跡	近世	散布地
96	般舟院跡	中世	寺院跡
97	住吉天神遺跡	古墳～平安	散布地
98	朝気遺跡	縄文～平安	集落跡
99	里吉天神遺跡	古墳～平安	散布地
100	家之前遺跡	平安	散布地
101	中坪遺跡	古墳	散布地
102	十丁遺跡	古墳	散布地
103	十丁B遺跡	古墳	散布地
104	字前A遺跡	古墳	散布地
105	字前B遺跡	古墳	散布地
106	字前C遺跡	古墳	散布地
107	村之内遺跡	古墳～平安	散布地
108	青葉町遺跡	平安	散布地
109	北桜遺跡	平安	散布地
110	野村遺跡	古墳～平安	散布地
111	油田遺跡	平安	散布地
112	居村遺跡	近世	散布地
113	淵之上遺跡	古墳	散布地
114	二又遺跡	古墳	包蔵地
115	外河原ヂクヤ遺跡	古墳～平安	散布地

※4図および第1表は、甲府市教育委員会発行の『甲府市遺跡地図』（平成4年）をもとに、現在までに範囲等の情報が更新された遺跡については、更新後の情報を反映し作成した。



第4図 遺跡の位置・周辺遺跡分布図

第3節 過去の発掘調査（第5図・第2表）

甲府城跡及び甲府城下町遺跡における本格的な調査は、昭和42年に実施した甲府城総合学術調査にはじまる。この調査は甲府城跡総合学術調査団が実施し、甲府城の歴史、建築、自然地形などをまとめ、城跡の保護と史跡指定を目的に進められた。この調査により甲府城跡は県史跡に指定された。

その後、平成2年から石垣改修工事や園路広場整備、歴史的建造物復元を中心とした舞鶴城公園整備事業に伴い、山梨県埋蔵文化財センターによる発掘調査・石垣解体調査が実施されている。平成16年までに実施された調査では、天守台・本丸・人質曲輪・天守曲輪・帯曲輪・稲荷曲輪・数寄屋曲輪・二の丸・鍛冶曲輪・堀を対象として進められた。この調査では、各曲輪から多量の瓦・土師質土器・陶磁器類に加え、輪宝などの地鎮祭に関連する遺物が出土している。また築城期以前の中世の井戸跡や、五輪塔をはじめとする石造物や石臼等が多数出土し、これらは一蓮寺に関連する遺構・遺物と推定される。

平成19年には甲府駅周辺土地区画整理事業に伴い、清水曲輪の発掘調査が甲府市教育委員会・山梨文化財研究所により実施された。調査では多量の瓦・土器・陶磁器が焼土とともに廃棄された状態で発見された。これらの遺物には焼けて発泡するほど高温となったものや、壁材が溶融したと思われる遺物があり、享保12年（1727）の大火により焼失した城内の施設の瓦などを廃棄したものであると推定される。

平成22年から平成27年には、県庁舎耐震化等整備事業に伴い、山梨県埋蔵文化財センターにより発掘調査及び石垣解体調査が実施された。楽屋曲輪・屋形曲輪・清水曲輪を対象として進められ、絵図に描かれている温泉施設に関連する遺構やそれに伴う水路などが検出される。

甲府城下町遺跡の調査については、甲府駅周辺の開発事業や土地区画整理事業、道路整備事業や住宅地建設などを調査要因として、山梨県埋蔵文化財センターや甲府市教育委員会により、発掘調査が断続的に実施される。

甲府駅北口周辺では、山梨県による北口県有地開発事業や甲府市による新都市拠点整備事業に伴う発掘調査が、二の堀と森下小路周辺で実施されている。同地域周辺には17世紀末から18世紀初頭には岡野伊豆守御役屋敷、18世紀前半には柳沢家の家老藪田五郎右衛門の屋敷地が置かれていた。発掘調査では、武家地の区画溝や井戸跡、園池遺構などが検出され、大火による被害の痕跡を示す遺構も確認されている。また甲府城築城以前の武田城下町に関連する遺構・遺物も検出されている。区画溝や井戸跡、墓壇の他、金属溶融物が付着したカワラケや鞆の羽口、北宋銭、銅滓などが検出され、武田城下町の南端部における金属加工施設の存在が推定される。

甲府駅西側周辺では、18世紀前半には柳沢家の家老柳沢権太夫の屋敷、18世紀中葉以降には山手御役宅が置かれていた。発掘調査では、区画溝、井戸跡、園池遺構、廃棄土坑などが検出されている。平成25年の山梨県埋蔵文化財センターによる調査では、大型の建物跡と予想される柱穴列が検出され、柳沢権太夫屋敷に関連する建物跡であると推定されている。中世段階の同地域周辺は、甲府城築城に伴って南方に移転した長延寺の推定地とされており、平成14年に山梨県埋蔵文化財センターによる調査で、中世段階の井戸や区画溝、北宋銭を伴う土壇墓などが検出されている。また平成21年の甲府市教育委員会・山梨文化財研究所の調査では、長延寺以前の段階のものであるが、火葬遺構が検出される。

その他、二の堀内側の調査事例としては、丸の内二丁目ホテル地点で『楽只堂年録』に記載された馬場を仕切る柵列跡、公用車駐車等駐車場地点で石組の集水枡、甲府市庁舎建設地点で城代平岡将監屋敷地時代の園池遺構と追手役宅時代の「流し」と推定される上水遺構などが検出される。

二の堀南辺部では、平成17年に集会所建設工事に伴う調査が甲府市教育委員会・山梨文化財研究所により実施され、追手小路から二の堀におよぶ範囲が調査された。大火による被害の痕跡を示す遺構が多数検出され、享保12年（1727）と享和3年（1803）の火災の被害を受けたと推定される。

下府中の調査事例としては、山梨県埋蔵文化財センターや甲府市教育委員会が、旧柳町及び旧連雀町で発掘調査を行っている。

旧柳町の調査では、平成23年の山梨県埋蔵文化財センターの調査で金精練遺構が検出され、柳町に所在した甲州金座の一部であると推定される。また平成24年の甲府市教育委員会・株式会社パスコの調査や令和3年の甲府市教育委員会・昭和測量株式会社の調査で、金属溶融物が付着したカワラケが多数出土しており、周辺に金属精錬・加工施設の存在が推定される。

旧連雀町では、平成29年から平成31年の甲府市教育委員会・昭和測量株式会社の調査で、多数の大型廃棄土坑が検出され、多量の土器・陶磁器類が出土した。廃棄土坑の中には火災により発生したゴミを投棄したと推定される遺構もあり、18世紀後半から19世紀初頭頃の火災被害を受けた痕跡が確認できる。その他、竹樋・木樋や水溜の埋桶などの上水施設や、圧搾機の基礎と推定される木組遺構が検出されている。

第2表 甲府城下町遺跡主要調査一覧

番号	調査地点	報告書			
1a	甲府城下町遺跡(北口二丁目(桜シルク跡A区))	市教委2001『甲府城下町遺跡I』市報告15	22a	甲府城下町遺跡(北口駐車場増築地点)	山梨文化財研究所2020『甲府城下町遺跡22』市報告110
1b	甲府城下町遺跡(北口二丁目(桜シルク跡B区))	市教委2001『甲府城下町遺跡I』市報告15			
2	甲府城下町遺跡(武田二丁目(いちやまマート駐車場跡))	市教委2002『甲府城下町遺跡II』市報告19	22b	甲府城下町遺跡(山梨文化学園地点)	山梨文化財研究所2020『甲府城下町遺跡22』市報告110
3	甲府城下町遺跡(丸の内2丁目ホテル地点)	市教委2006『甲府城下町遺跡III』市報告33	23	甲府城下町遺跡(中央二丁目393地点)	国際文化財株式会社2021『甲府城下町遺跡24』市報告114
4	甲府城下町遺跡(集会所建設工事)	市教委・山梨文化財研究所2007『甲府城下町遺跡IV』市報告39	24	甲府城下町遺跡(中央5丁目1区)	市教委・昭和測量株式会社2021『甲府城下町遺跡26』市報告117
5	甲府城下町遺跡(紅梅地区再開発)	市教委2009『甲府城下町遺跡V』市報告52	25	甲府城下町遺跡(日向町遺跡第1地点)	県理文1999『日向町遺跡発掘調査報告書』県理文第170集
6	甲府城下町遺跡(丸の内二丁目109地点)	山梨文化財研究所2011『甲府城下町遺跡(丸の内二丁目109地点)』	26	甲府城下町遺跡(甲府駅周辺土地区画整理事業地内43街区)	県理文2004『甲府城下町遺跡』県理文第215集
7a	甲府城下町遺跡(舞鶴城公園西通り線 西区)	市教委・山梨文化財研究所2012『甲府城下町遺跡VI』市報告57	27	甲府城下町遺跡(日向町遺跡第2地点)	県理文2004『甲府城下町遺跡(日向町遺跡第2地点)』県理文第220集
7b	甲府城下町遺跡(舞鶴城公園西通り線 北区)	市教委・山梨文化財研究所2012『甲府城下町遺跡VI』市報告57	28	甲府城下町遺跡(甲府地方裁判所地点)	県理文2007『甲府城下町遺跡(甲府地方裁判所地点)』県理文第249集
7c	甲府城下町遺跡(舞鶴城公園西通り線 南区)	市教委・山梨文化財研究所2012『甲府城下町遺跡VI』市報告57	29	甲府城下町遺跡(北口県有地)	県理文2008『甲府城下町遺跡(北口県有地)』県理文第258集
8	甲府城下町遺跡(集会所建設工事)	市教委・国際文化財株式会社2012『甲府城下町遺跡VII』市報告61	30a	甲府城下町遺跡(古府中環状浅原橋線街路事業エリア1)	県理文2013『甲府城下町遺跡』県理文第288集
9a	甲府城下町遺跡(甲府駅周辺土地区画整理事業17街区)	市教委・山梨文化財研究所2013『甲府城下町遺跡VIII』市報告62	30b	甲府城下町遺跡(古府中環状浅原橋線街路事業エリア2)	県理文2013『甲府城下町遺跡』県理文第288集
9b	甲府城下町遺跡(甲府駅周辺土地区画整理事業43街区)	市教委・山梨文化財研究所2013『甲府城下町遺跡VIII』市報告62	31	甲府城下町遺跡(甲府法務総合庁舎建設)	県理文2013『甲府城下町遺跡』県理文第292集
10	甲府城下町遺跡(庁舎建設)	市教委2013『甲府城下町遺跡IX』市報告64	32	甲府城下町遺跡(駅前駐輪場地点)	県理文2015『甲府城下町遺跡(駅前駐輪場地点)』県理文第305集
11	甲府城下町遺跡(舞鶴城公園西通り線2)	市教委・株式会社シン技術コンサル2014『甲府城下町遺跡X』市報告66	33	甲府城下町遺跡(旧柳町一丁目地点)	県理文2016『甲府城下町遺跡(旧柳町一丁目地点)』県理文第308集
12	甲府城下町遺跡(アーバンパレス甲府丸の内建設)	市教委2014『甲府城下町遺跡XI』市報告69	34	甲府城下町遺跡(旧柳町一丁目地点)	県理文2016『甲府城下町遺跡(旧柳町一丁目地点)』県理文第308集
13a	甲府城下町遺跡(中央2・4丁目地内 Ⅰ区①地点)	市教委・株式会社パスコ2015『甲府城下町遺跡XII』市報告72	35	甲府城下町遺跡(甲府駅南口周辺地域修景計画)	県理文2019『甲府城下町遺跡』県理文第322集
13b	甲府城下町遺跡(中央2・4丁目地内 Ⅰ区②・③地点)	市教委・株式会社パスコ2015『甲府城下町遺跡XII』市報告72	36	甲府城三の堀跡	
13c	甲府城下町遺跡(中央2・4丁目地内 Ⅱ区⑤地点)	市教委・株式会社パスコ2015『甲府城下町遺跡XII』市報告72	37	甲府城下町遺跡(武田二丁目10-100地点)	
13d	甲府城下町遺跡(中央2・4丁目地内 Ⅳ区⑧・⑩・⑪地点)	市教委・株式会社パスコ2015『甲府城下町遺跡XII』市報告72	38	甲府城下町遺跡(新紺屋小学校校庭地点)	
14	甲府城下町遺跡(中央4丁目144他)	市教委・昭和測量株式会社2015『甲府城下町遺跡XIII』市報告74	39	甲府城下町遺跡(武田二丁目82-3)	
15	甲府城下町遺跡(相生2丁目226番地他)	市教委・昭和測量株式会社2015『甲府城下町遺跡XIV』市報告75	40	甲府城下町遺跡(朝日四丁目99他地点)	
16a	甲府城下町遺跡(丸の内2丁目145-2地点)	市教委・昭和測量株式会社2015『甲府城下町遺跡XV』市報告76	41	甲府城下町遺跡(北口一丁目50-1地点)	
16b	甲府城下町遺跡(丸の内2丁目丸の内1丁目12-10地点)	市教委・昭和測量株式会社2015『甲府城下町遺跡XV』市報告76	42	甲府城下町遺跡(北口二丁目12-1地点)	
17a	甲府城下町遺跡(KJ2-3)	市教委2015『甲府城下町遺跡XVI』市報告79	43	甲府城下町遺跡(北口二丁目(二の堀跡))	
17b	甲府城下町遺跡(KJ42)	市教委2015『甲府城下町遺跡XVI』市報告79	44	甲府城下町遺跡(北口二丁目14-9地点)	
17c	甲府城下町遺跡(KJ8-8)	市教委2015『甲府城下町遺跡XVI』市報告79	45	甲府城下町遺跡(武田県道沿い)	
18a	甲府城下町遺跡(北口2丁目17・18・21地点)	市教委2016『甲府城下町遺跡XVII』市報告85	46	甲府城下町遺跡(北口二丁目94地点)	
18b	甲府城下町遺跡(北口2丁目1-1地点)	市教委2016『甲府城下町遺跡XVII』市報告85	47	甲府城下町遺跡(数田氏屋敷跡)	
18c	甲府城下町遺跡(北口2丁目22-5地点)	市教委2016『甲府城下町遺跡XVII』市報告85	48	甲府城下町遺跡(北口三丁目101(納戸小路武家屋敷跡))	
18d	甲府城下町遺跡(北口2丁目地内歩道拡幅地点)	市教委2016『甲府城下町遺跡XVII』市報告85	49	甲府城下町遺跡(丸の内一丁目13(市道))	
18e	甲府城下町遺跡(甲府駅南通り線地点)	市教委2016『甲府城下町遺跡XVII』市報告85	50	甲府城下町遺跡(丸の内一丁目13-9地点)	
19	甲府城下町遺跡(丸の内一丁目1-3地点)	山梨文化財研究所2017『甲府城下町遺跡(丸の内一丁目1-3地点)』市報告96	51	甲府城下町遺跡(朝日二丁目214)	
20	甲府城下町遺跡(北口一丁目19他)	山梨文化財研究所2018『甲府城下町遺跡XIX』市報告101	52	甲府城下町遺跡(横沢口)	
21a	甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅰ区)	市教委・昭和測量株式会社2020『甲府城下町遺跡XX』市報告107	53	甲府城二の堀跡	
21b	甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅱ区)	市教委・昭和測量株式会社2020『甲府城下町遺跡XX』市報告107	54	甲府城下町遺跡(丸の内二丁目(裏先手小路跡))	
22c	甲府城下町遺跡(相生工区)	市教委・昭和測量株式会社2020『甲府城下町遺跡XX』市報告107	55	甲府城下町遺跡(B西区)	
			56	甲府城下町遺跡(B区)	
			57	北口一丁目1-5(山手御役宅跡)	
			58	甲府城下町遺跡(A区)	
			59	甲府城下町遺跡(丸の内二丁目31-9地点)	
			60	甲府城下町遺跡(舞鶴小学校)	
			61	甲府城下町遺跡(丸の内二丁目623(百石町武家屋敷地))	
			62	甲府城下町遺跡(丸の内一丁目505-1他地点)	
			63	甲府城下町遺跡(中央一丁目115他地点)	
			64	甲府城下町遺跡(相生二丁目4地点)	
			65	甲府城下町遺跡(城東二丁目9)	



第5図 甲府城下町遺跡主要調査位置図

第3章 中央5丁目2区の調査

第1節 調査の方法（第1・2図）

中央5丁目地内は民家の集中する市街地であり、いずれの調査地点も複数の民家や駐車場の前にまたがっている。これらを横断して一つの調査区として調査を行うことは困難な状況であったため、反転調査や調査区の分割によって、進入路やヤードを確保しながらの調査となった。

2区の調査では、現状の市街の区画を基準としてA～Eの地点名を付して5地点に分割した。1～2地点ごとに調査を行っては埋め戻して原状復旧し、次の地点の調査に移るという形で進めた。また、水道管など現状で使用されている地下埋設物の敷設が多く、その範囲は甲府市教育委員会と協議の上、掘削調査の対象外とした。現況のアスファルト舗装やコンクリート舗装は山梨県中北建設事務所があらかじめ撤去を行った。表土掘削は、0.2m³相当のバックホウを用いた。調査で生じた掘削土は、A地点は反転掘削を行い、それ以外の地点は調査が終了したA地点へ搬出した。表土掘削時は2tダンプ、人力掘削時は軽ダンプを用いて掘削土を運搬した。掘削土はブルーシートで覆って養生し、近隣への土砂の飛散防止を図った。埋め戻しは掘削土を用いて行き、上面には碎石を敷き均す形で復旧した。重機が稼働する際は交通誘導員を配置し、歩行者や車両の交通の安全確保に努めた。各調査地点はネットフェンスで仮囲いした上で、視認性の高い安全コーンや点滅灯を設置し、夜間の交通にも配慮した。

発掘調査では、甲府空襲時の焼土や瓦礫が出土する戦災焼土層と明らかに現代と判断できる土層までをバックホウによる表土掘削の対象とした。それより下位については各地点の壁面で土層確認しながら人力で掘り下げを行った。土層では上下に複数の整地層が確認できる箇所があり、層位ごとの遺構確認に努めた。整地層の面的な広がりがない場合や遺構検出が困難な場合は、地山上面まで掘り下げて遺構確認を行った。遺構掘削は全て人力で行った。

各地点の遺構検出状況は写真や概略図などで記録した。遺構番号は各地点を通して、調査を行った順に付した。このため、各調査地点間をまたいで番号が付されている。なお、遺構番号は遺構検出時点で使用したものを報告書まで用いることとし、調査および整理の過程で新たに遺構の性格が判明した場合は本文中に記述した。遺構測量は、土層断面は手描き実測にて行き、平面図はトータルステーションによる測量と写真測量を併用した。写真測量は主にポール撮影で行った。測量図化システムとしてCUBIC社「遺構くん」、写真測量にはAgisoft社「PhotoScan Professional」を用いた。各地点の完掘時には完掘状況の全体写真撮影と合わせてポール写真撮影を行い、「PhotoScan Professional」を用いて地点ごとのオルソモザイク写真を作成した。遺物は原則的にトータルステーションを使用して位置を記録して取り上げた。小片については、遺構出土のものは遺構一括とし、遺構外出土物については地点ごと一括して取り上げた。遺構写真撮影にはデジタル一眼レフカメラ（NikonD7000）を使用した。各地点の調査終了時には甲府市教育委員会の確認を受けた。

整理作業は遺物の水洗、注記、接合、復元と進めつつ、実測遺物・分析試料・保存処理遺物を選定した。選定にあたっては甲府市教育委員会の確認を受けた。土壌試料等の自然科学分析は株式会社パレオ・ラボに、木製品・金属製品の保存処理については公益財団法人山梨文化財研究所にそれぞれ委託した。写真撮影はデジタル一眼レフカメラ（NikonD7500）を用いた。遺物実測は手描きで行い、染付などの図化については手描き実測図のトレースデータに補正した写真データを合成した。また、遺物実測の一部はキーエンス社製3Dスキャナ型三次元測定機「VL300シリーズ」を用いた。デジタルトレース、写真データの補正、挿図・写真図版作成、報告書編集作業にはadobe社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」、「InDesignCC」をそれぞれ使用した。

陶磁器類の分類や遺物観察表の記載については『内藤町遺跡』（新宿区内藤町遺跡調査会他1992）、『甲府城下町遺跡（甲府駅周辺土地区画整理事業地内43街区）』（山梨県埋蔵文化財センター2004）を参考とし、隣接する『甲府城下町遺跡XX』（甲府市教育委員会2020）の報告に準拠することとした。

第2節 基本層序

最終的な遺構検出面とした地山上面の標高は、全調査地点を通じて257.9～259.0mを測る。北西から南東へ向かってゆるやかに低くなる地形である。

基本層序は各調査地点の壁面で観察した。攪乱などを除き、一定の範囲で連続する土層を画期ととらえて基本層序を記録した。現表土と近現代とみられる土層はⅠ層、近世から近代とみられる土層をⅡ層、地山はⅢ層とし、必要に応じて小文字のアルファベットや枝番を付与して細分した。

Ⅰ層では甲府空襲(昭和20年7月6日から7日未明)で生じた焼土・瓦礫を含む層(戦災焼土層)があり、多くの調査地点で、現地盤の直下に堆積する。発掘調査ではこの戦災焼土層と明らかに現代と考えられる土層を重機による表土掘削の対象とした。戦災焼土層下では複数の整地層を検出している。整地層は黒褐色砂、にぶい黄褐色砂、オリーブ黒色砂、黒褐色砂質シルト、黒色粘土、黒褐色粘土、暗オリーブ褐色粘土などを基調とした客土とみられる土層である。層厚5～10cm程度で硬く締まり、ほぼ水平堆積する。場所によっては上下に複数の整地層が観察できた。これらの整地層の多くは、中央5丁目1区の報告で推定されているように、明治以降に城下町が市街化される過程で進められた造成によるものであろう。

Ⅱ層は、地山直上付近に堆積する土層である。黒褐色砂・黒褐色砂質シルトなどを基調とし、焼土や炭化物の粒を含むことが多い。主に近世の堆積を想定したが、出土遺物からも厳密に分けることは困難であり、実際には近代に至る時期の堆積も含まれる。

Ⅲ層は自然堆積層で地山である。黒色粘土を基調とした土層である。西端部の調査地点では、標高258.2mまで掘り下げると灰色粘土がまじり、標高257.6mまで掘り下げると灰色粘土層となる。最終的な遺構検出はⅢ層の地山上面で行った。

以下、調査地点ごとに層序の概要を記述する。

A地点(第8・14図)

地山上面の標高は258.8～259.0mを測る。調査時点の現表土は碎石に戦災焼土の混入が見られる(ⅠaⅠ層)。その下に暗褐色砂や黒褐色砂質シルト、オリーブ褐色砂を基調とするⅠc層やⅠe層が堆積し、これらは近代の整地層である。これらを剥ぐとⅡa層とした近世の遺物包含層が層厚5～20cm堆積している。Ⅱa層の直下は、部分的に焼土層(Ⅱb層)や黒褐色砂質シルトを基調とするⅡc層の堆積がみられるが、地山(Ⅲ層)となる。最終的な遺構検出は地山上面で行った。

B地点(第21図)

地山上面の標高は258.8mを測る。調査地点をB-1、B-2地点の東西2つに分けて調査を行った。B-1地点では、コンクリート舗装撤去後の碎石層直下に部分的な戦災焼土の遺存がみられた。その直下には黒褐色砂を基調とし、近代の整地層と見られるⅠc層が堆積する。Ⅰc層の下には、一部近世の焼土層(Ⅱb層)がみられるが、基本的には地山(Ⅲ層)となる。一方、B-2地点は全体に現代の攪乱をうけており、表土直下が地山(Ⅲ層)となる。いずれの調査地点も遺構検出は地山上面で行った。

C地点(第26・27図)

地山上面の標高は258.3～258.8mを測る。調査地点をC-1、C-2、C-3地点の3つに分けて調査を行った。このうちC-3地点は近隣住民の聞き取り調査から、地下数メートルにわたって攪乱をうけている可能性が指摘されていた。そのため表土掘削前に試掘トレンチを2ヶ所設定し、重機による掘削を行った。現地表面下1mまで掘削を行ったところ、碎石やコンクリート片の堆積層が続き、地山は検出されなかった。さらに水も湧きはじめ、攪乱の深度が深いことを確認できたため、甲府市教育委員会との協議の上、C-3地点は全面に攪乱を受け、遺跡は遺存していないとして調査を終了した。一方、C-1、C-2地点は現地表面下20～30cmで戦災焼土層(Ⅰb層)が検出された。C-1地点は広い範囲で攪乱を受けており、Ⅰb層下は地山(Ⅲ層)となる。C-2地点も西半部は攪乱が深いものの、東半部ではⅠb層下に黒褐色粘土や碎石層、暗オリーブ褐色粘土を基調とした近代の整地層(Ⅰc・Ⅰd・Ⅰe層)がみられ、これらを剥ぐと黒褐色砂質シルトを基調とするⅡ層が堆積する。Ⅱ層の直下は地山(Ⅲ層)となる。遺構検出は地山上面で行った。

D 地点 (第 29・30 図)

地山上面の標高は 257.9～258.2m を測る。アスファルト舗装除去後の碎石層直下には、戦災焼土層 (I b 層) が層厚 10～40cm 堆積している。I b 層の下には、黒褐色砂、黒色粘土、にぶい黄褐色砂、黒色シルト、灰白色細粒砂、オリーブ黒色砂などを基調とした近代の整地層 (I c～e 層) が互層状に堆積し、最下層には径 5cm の礫や瓦片が堆積している (I f 層)。これらの下には、調査地点の南端部で、黒色シルト、オリーブ黒色粘土、黒色砂、オリーブ黒色砂質シルトが互層状に堆積した近世の整地層 (II a 層) が確認できるものの、面的な広がり確認できず、地山 (III 層) となる。遺構検出は地山上面で行った。

E 地点 (第 36・37 図)

地山上面の標高は 259.0m を測る。現地表面下 15～45cm で戦災焼土層 (I b 層) が検出された。その下には、現地表面下 30～40cm まで、黒褐色砂、にぶい黄褐色砂、黒褐色粘土などを基調とする近代～現代の整地層 (I c 層) が堆積している。これらの層を剥ぐと、黒褐色砂質シルトや黒色粘土、黒褐色砂などを基調とする近世の遺物包含層 (II a～d 層) が堆積し、これらの下が地山 (III 層) となる。最終的な遺構検出は地山上面で行った。

第 3 節 調査の成果

第 1 項 A 地点

A 地点は現在の連雀町通りの南側で、今回の調査範囲の西端部に位置する。掘削時の排土置き場を確保するため、調査は反転掘削で行った。現表土 (I a 層) 中に戦災焼土の混入が見られ、面的な広がりは見られなかった。近代の整地層とした I c 層や I e 層が堆積し、これらを剥ぐと II a 層とした近世の遺物包含層が層厚 5～20cm 堆積している。II a 層の直下は、部分的に焼土層 (II b 層) や黒褐色砂質シルトを基調とする II c 層の堆積がみられるが、地山となる。これらを剥ぎつつ、最終的に地山上面まで掘り下げて遺構検出を行った。A 地点全体で土坑 36 基、埋桶 7 基、埋甕 4 基、井戸 3 基、小穴 53 基、集石遺構 13 基、石垣造りの溝 1 条、建物跡 1 基、溝状遺構 4 条、地鎮遺構 1 基を検出した。

S K 1 (第 9・46 図、図版 1・21)

[位置・重複] 調査地点北西部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 想定される平面形は楕円形で、長径 69cm、幅 48cm、深さ 12cm を測る。掘方の断面形は皿状である。中央部は攪乱をうけている。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土はブロック状の焼土・炭化物が堆積している。

[出土遺物] 陶器が 3 点出土している。そのうち 2 点を図示した。1・2 は瀬戸・美濃系陶器の播鉢である。

[時期] 検出状況と出土遺物より、江戸時代後期の可能性がある。

S K 2 (廃棄土坑) (第 8・46 図、図版 1・21)

[位置・重複] 調査地点の西壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 1.7m、幅 60cm、深さ 64cm を測る。掘方の断面形は播鉢状で、南側にテラス状の段が付く。

[検出状況・埋土] I a 層直下の地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、ブロック状の焼土や粒状の炭化物を多量に含む。2 次被熱を受けた遺物も出土しており、火災で生じたこれらを廃棄した土坑と推測する。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器が出土している。7 点を図示した。3～5 は肥前系磁器である。3・4 は丸碗である。5 は丸形の皿である。6・7 は陶器である。6 は瀬戸・美濃系陶器の丸碗の口縁である。7 は内面に陰刻を施した鉢である。8・9 は土器である。8 はカワラケである。9 は焙烙である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期の可能性がある。

S K 3 (第9・46・47 図、図版2・21)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いではS S 12に先行し、S P 19より新しい。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ2.9m、幅1.7m、深さ23cmを測る。掘方の断面形は方形に近い。

[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂質シルトを基調とし、褐色砂や径2～5cmの礫、粒状の焼土・炭化物を含む。下層は黒色砂質シルトを基調とし、径6～7cmの礫や腐食した木片を含む。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・銭貨・石製品・木製品が出土している。21点を図示した。10は瀬戸・美濃系磁器、11～13は肥前系磁器である。10は端反形の小坏である。11・12は皿である。13は端反形の鉢である。14～22は陶器である。14・15は瀬戸・美濃系陶器の丸碗である。16は仏飯器の碗部分である。17は端反形の皿である。18は瀬戸・美濃系陶器で菊花形の皿である。19は瀬戸・美濃系陶器で平形の皿である。20は瀬戸・美濃系陶器の捏鉢である。21は火入である。22は急須蓋である。23～26は土器である。23・24はカワラケである。25・26は焙烙である。27は寛永通宝である。28は硯である。29・30は木製品の連歯下駄である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期と推測する。

S K 4 (第8 図、図版2)

[位置・重複] 調査地点の西壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ1.2m、幅30cm、深さ20cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。時期は不明である。

S K 5 (第9 図、図版2)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形はやや不整形な楕円形である。長径63cm、短径48cm、深さ15cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒褐色砂質シルトを基調とし、腐食した木片を含む。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の細片が出土しているが、図示できない。出土遺物より江戸時代後期の可能性がある。

S K 6 (第9・48 図、図版2・21)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いではS B 1に先行する。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径1.3m、短径1.0m、深さ36cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトや黒色シルトを基調とし、5層に分層できる。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器の細片と木製品が出土している。木製品1点を図示した。31は円盤形の板で手桶の底板か。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期の可能性がある。

S K 7 (第9 図、図版2)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いではS B 1に先行する。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ45cm、幅40cm、深さ11cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。下層は黒色粘土を基調とし、地山に似た土である。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の細片が出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S K 8 (第 10 図、図版 2)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いでは S K 9・S D 1 より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 80cm、短径 60cm、深さ 42cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は 3 層に分層でき、上層は黒色粘土を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。中層は黒色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含み、腐食した木片が堆積する。下層は黒色粘土を基調とし、地山に似た土である。

[出土遺物・時期] 土器の細片が出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S K 9 (埋桶) (第 10・48 図、図版 2・21)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いでは S K 8 に先行し、S K 20 より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 1.4m、短径 86cm、深さ 30cmを測る。掘方の断面形は方形に近い形状であり、径 42cmの桶が据えられている。

[検出状況・埋土] I c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、土坑のやや南よりに桶が据えられている。桶内には径 2～4cmの礫や瓦片が堆積しており、底板の直上にはにぶい黄褐色粗粒砂が層厚 5～8cm堆積している。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・瓦片が出土している。そのうち 5 点を図示した。32 は瀬戸・美濃系磁器、33・34 は肥前系磁器である。32 は端反碗である。33 は菊花形の紅皿である。34 は碗蓋である。35 は瀬戸・美濃系陶器の播鉢である。36 は明石・堺系陶器の播鉢である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期～幕末期と推測する。

S K 10 (第 10・48 図、図版 2・21・22)

[位置・重複] 調査地点南西隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 98cm、深さ 27cmを測る。掘方の断面形は播鉢状であるが、東側にテラス状の段が付く。

[検出状況・埋土] I c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒色粘土を基調とし、地山に似た土である。

[出土遺物] 磁器・陶器・土製品が出土し、13 点を図示した。37・39～41・43・44 は肥前系磁器、38・42 は瀬戸・美濃系磁器である。37 は小丸碗である。38・39 は端反碗である。40 は丸形の小坏である。41 は丸形の皿である。42 は稜皿形の皿である。43 は碗蓋である。44 は蓋物蓋である。45～48 は陶器である。45 は平底の灯明受皿である。開口部を U 字状につくる瀬戸・美濃系陶器である。46・47 は算盤玉形の土瓶である。48 は土鍋である。49 は碁石形土製品である。

[時期] 出土遺物から幕末期～明治期と推測する。

S K 11 (第 10・49 図、図版 2・22)

[位置・重複] 調査地点南西隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分で長さ 1.18m、幅 95cm、深さ 42cmを測る。掘方の断面形は播鉢状に立ち上がり、北側で一度掘り窪む形状である。

[検出状況・埋土] I c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、径 10～20cmの礫が多量に堆積している。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・瓦片が出土している。そのうち 5 点を図示した。50・51 は瀬戸・美濃系磁器である。50 は稜皿形の皿である。51 は端反形の鉢である。52・53 は陶器の土瓶蓋である。54 は硯である。

[時期] 出土遺物から幕末期～明治期の可能性がある。

S K 12 (第 11・49 図、図版 2・22)

[位置・重複] 調査地点南西部に位置する。切り合いでは S K 14 より新しい。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 53cm、幅 52cm、深さ 15cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器・土器の細片と寛永通宝（55）1点が出土している。遺構の時期は不明である。

S K 13（第8図、図版2）

[位置・重複] 調査地点の西壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ1.06m、幅40cm、深さ18cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂を基調とし、径5cmの礫を含む。下層は黒色粘土を基調とし、地山に似た土である。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S K 14（井戸）（第11・49図、図版2・3・22）

[位置・重複] 調査地点南西部に位置する。切り合いではS K 12に先行する。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形に近い。長さ1.34m、幅1.26mを測る。掘方の断面形は上面付近は皿状に開き、その下は円筒形である。上面部は石敷きであったとみられ、開口部に沿って弧状に配置された間知石が2個残存している。内部には井戸側が残存しており、径67cm、長さ81cmの桶の側板で構築されている。積み重ねは確認されず、1段のみ検出された。井戸側の直下には井桁状に組まれた材が敷かれていた。材までの深さは、現地盤下1.3mを測る。その下は素掘りとなっており、現地盤下1.7mまで掘削したが、それ以上の断割掘削ができず、底面までの深さ・形状は確認できなかった。

[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、皿状に開く上面付近では暗灰黄色砂や暗オリーブ褐色砂を基調とし、固く締まった土が堆積している。その下に黒褐色砂質シルト、オリーブ黒色砂質シルト、灰色シルト、黒色シルトが積み重なる。井戸側の外周には、灰色粘土ブロックを含む黒色粘土が充填されている。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・木製品が出土している。そのうち8点を図示した。56は肥前系陶器の呉器手碗である。57・58はカワラケである。59～63は木製品である。59は内面朱漆塗り、外面黒漆塗りの漆器椀である。60は内外面朱漆塗りの漆器椀の蓋である。61～63は箸である。

[時期] 出土遺物から、開削時期は近世に遡る可能性が高く、江戸時代後期に埋没した可能性がある。

S K 15（第11・49・50図、図版3・22）

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。切り合いではS S 1・S S 2に先行し、S K 17より新しい。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ1.7m、幅1.67m、深さ55cmを測る。掘方の断面形は播鉢状に近いが、南側にテラス状の段が付く。

[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、径5～10cmの礫が堆積する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・石臼が出土している。そのうち9点を図示した。64～66は磁器である。64は肥前系磁器の丸碗である。65は瀬戸・美濃系磁器の薄手酒坏である。66は根付か。67～71は陶器である。67・68は碗の高台部である。69は瀬戸・美濃系陶器で菊花形の皿である。70は瀬戸・美濃系陶器の播鉢である。71は端反形の鉢で、破断面に漆継ぎの痕跡がみられる。72は上臼である。

[時期] 切り合いと出土遺物から、江戸時代後期～幕末期と推定する。

S K 16（第11・50図、図版3・22）

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。切り合いではS K 17より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径55cm、短径52cm、深さ15cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は炭化物が堆積している。

[出土遺物] 陶器・土器が出土している。そのうち2点を図示した。73は陶器の半球碗で、いわゆる肥前

系京焼風陶器である。2次被熱により表面の釉薬が溶けている。74はカワラケである。

[時期] 17世紀後半から18世紀前半にみられる肥前系京焼風陶器が出土しているが、切り合いから江戸時代後期に埋没した可能性がある。

S K 17 (第11・50図、図版3・22)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。切り合いではS K 15・S K 16に先行する。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径70cm、短径64cm、深さ24cmを測る。掘方の断面形は播鉢状であるが、北側にテラス状の段が付く。

[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、径5～10cmの礫が堆積する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・石製品が出土している。そのうち5点を図示した。75は肥前系磁器の小坏である。76・77は陶器である。76は丸碗である。77は瀬戸・美濃系陶器の播鉢である。78はカワラケである。79は硯である。

[時期] 切り合いと出土遺物から、江戸時代後期の可能性がある。

S K 18 (埋桶) (第10・51図、図版3・22)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。切り合いではS K 20・S K 25より新しい。

[形状・規模] 平面形は円形で、径76cm、深さ21cmを測る。掘方は、底面は平坦で、桶に沿って筒状に立ち上がり、上面付近は大きく広がっている。

[検出状況] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。桶は側板の下位と底板が遺存しており径は70cmを測る。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・瓦片・金属製品・ガラス製品が出土している。そのうち10点を図示した。80～82は磁器である。80は筒丸碗である。81は肥前系磁器で丸形の皿である。82は急須である。83・84は陶器である。83は瀬戸・美濃系陶器で丸形の皿で、いわゆる馬の目皿である。84は土鍋である。85～87は金属製品である。85は一銭銅貨か。86は煙管の雁首である。87は飾り金具である。88・89はガラス製品である。88はおはじき(石蹴)である。89は魚の形を象った玩具か。

[時期] 出土遺物から近代である。

S K 19 (埋桶) (第10・51図、図版3・23)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。切り合いではS K 24・S K 25より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径50cm、短径46cm、深さ35cmを測る。掘方は、底面は平坦で、桶に沿って筒状に立ち上がる。

[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。桶は側板と底板が遺存しており径は50cmを測る。埋土は黒褐色砂を基調とし、径3cmの礫や木片が堆積する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・瓦の細片と銭貨が出土している。そのうち銭貨3点を図示した。90は寛永通宝である。91は銅貨であるが、表裏の摩耗激しく判読不明である。92は一銭銅貨である。

[時期] 出土遺物から大正9年以降に埋没したと考えられる。

S K 20 (廃棄土坑) (第12・52～57図、図版3・23～25)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いではS K 9・S K 18・S K 21・S K 22・S K 45・S S 12・S S 13・S D 3に先行し、S K 25・S K 46より新しい。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形を呈す。長さ3.4m、幅2.6m、深さ1.0mを測る。掘方の断面形は方形に近い形状である。

[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。陶磁器を中心とした遺物が多量に出土しており、2次被熱を受けた遺物もみられる。火災で使用不能となった陶磁器類を一括して廃棄した土坑と推定する。

[出土遺物] 陶磁器を中心として非常に多くの遺物が出土している。90点を図示した。93～123まで磁器で、115のみ瀬戸・美濃系磁器であるが、それ以外は全て肥前系磁器である。93は半球碗である。破

断面に漆継ぎの痕跡がみられる。94は端反碗である。95・97～99は丸碗である。96は小広東碗である。2次被熱により表面の釉葉が溶けている。100は腰張形碗である。101～106は小丸碗である。107・108は丸碗である。109～112は筒形碗である。113は小丸碗か。114は広東碗か。115は筒丸碗か。他の遺物に比べて年代に隔たりがあるため、上層から混入した可能性が高い。116・117は仏飯器である。118～120は丸形の皿である。121は植木鉢である。122は辣蕪形の瓶である。123は蓋物蓋である。124～152は陶器である。124は瀬戸・美濃系陶器のせんじである。125は肥前系陶器の呉器手碗である。126は小杉碗で、京・信楽系陶器か。127は肥前系陶器の刷毛目碗である。128は瀬戸・美濃系陶器の柳茶碗か。129は肥前系京焼風陶器の碗である。130は瀬戸・美濃系陶器の半球碗か。131は丸碗で、瀬戸・美濃系陶器か。132は瀬戸・美濃系陶器の仏飯器である。133・134は瀬戸・美濃系陶器の灯明皿である。135・136は灯明受皿で、136は瀬戸・美濃系陶器である。137は瀬戸・美濃系陶器の輪禿鉢である。138は瀬戸・美濃系陶器の鉢か。139は合子である。140・141は捏鉢である。142～144は播鉢である。145は半筒形の香炉である。146は火入か。147・148は壺である。149は瓶である。150は仏花瓶である。151は乗燭である。152は壺蓋である。153～159は土器である。153～155はカワラケである。156は火鉢である。157は火鉢か。158は朝顔形の七輪五徳である。159は焙烙である。160は丸瓦である。161は土鈴である。162～174は銭貨である。162は至和通宝である。163～174は寛永通宝である。175～178は金属製品である。175は松葉簪である。176は耳搔簪である。177・178は頭巻釘である。179は上白である。180は樽の蓋板である。181・182は土壁材で、いずれも2次被熱をうけている。
[時期] 切り合いと出土遺物から、江戸時代後期と推測する。

S K 21 (井戸) (第12・57図、図版3・25)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いではS K 20より新しい。
[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ80cm、幅75cm、深さ53cmを測る。掘方の断面形は方形に近い形状である。中心よりやや南東に竹樋が打ち込まれており、いわゆる上総掘りの井戸である。
[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色シルトを基調とし、径10～20cmの礫・瓦片・木片が堆積する。
[出土遺物] 磁器・陶器・土器・瓦片・木製品が出土している。そのうち14点を図示した。183～187は磁器である。183は端反碗である。184は碗の高台部である。185は肥前系磁器の段重である。186は肥前系磁器の蓋物蓋である。187は皿か。188～193は陶器である。188は瀬戸・美濃系陶器のせんじである。189は皿か。190は鉢か。191は瀬戸・美濃系陶器で播鉢の口縁部である。192は香炉か。193は瓶である。194はカワラケである。195・196は箸である。これらの出土遺物には近代に属するものと、18世紀代に属するものがみられる。また、S K 20との接合もみられた。このことから、S K 21出土遺物の中で18世紀代に属するものは、S K 20に属する遺物であると考えられる。
[時期] 上総掘りの井戸は明治時代に普及した工法であることから、遺構の年代は近代である。

S K 22 (埋桶) (第9・58図、図版3・25)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いではS K 20より新しい。
[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径52cm、短径42cm、深さ32cmを測る。掘方は、底面は平坦で、桶に沿って筒状に立ち上がる。
[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。攪乱をうけているものの、桶の側板と底板が遺存しており径は40cmを測る。埋土は黒褐色細粒砂を基調とし、径3～4cmの礫や瓦片が堆積する。
[出土遺物] 磁器・陶器・瓦片・木製品が出土している。そのうち5点を図示した。197・198は磁器である。197は丸碗である。198は肥前系磁器で菊花形の紅皿である。199・200は陶器である。199は瀬戸・美濃系陶器の文字徳利で、いわゆる「高田徳利」である。200は急須蓋である。201は箸である。
[時期] 出土遺物から近代である。

S K 23 (第 12・58 図、図版 3・25)

[位置・重複] 調査地点の南壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 75cm、幅 70cm、深さ 25cmを測る。掘方の断面形は方形に近い形状である。

[検出状況・埋土] I c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色砂質シルトを基調とし、焼土を粒状に含む。

[出土遺物] 磁器・陶器が出土している。そのうち 3 点を図示した。202・203 は瀬戸・美濃系磁器の丸碗である。204 は瀬戸・美濃系陶器の播鉢である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期～幕末期の可能性がある。

S K 24 (第 12 図、図版 4)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。切り合いは S K 19 に先行し、S K 25 より新しい。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 95cm、幅 90cm、深さ 14cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒色粘土を基調とし、地山に似た土である。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の細片が出土しているが、図示できない。切り合いから近世の可能性はある。

S K 25 (第 12 図、図版 4)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。切り合いでは S K 18・S K 19・S K 20・S K 24・S K 45 に先行する。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 1.35m、幅 1.1m、深さ 30cmを測る。掘方の断面形は方形に近い形状である。

[検出状況・埋土] I c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒色シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒色粘土を基調とし、地山に似た土である。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器の細片が出土したが、図示できない。切り合いから近世と推測する。

S K 26 (廃棄土坑) (第 13・58 図、図版 4・25)

[位置・重複] 調査地点北東隅に位置する。切り合いでは S P 40 より新しい。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形に近いがやや不整形である。検出部分で長さ 3.0m、幅 1.9m、深さ 16cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は暗褐色砂質シルトを基調とし、ブロック状の焼土・炭化物を多量に含む。出土遺物には被熱を受けたものもみられることから、火災により生じたこれらを廃棄した土坑と推測する。

[出土遺物] 磁器・陶器・金属溶融物が出土している。このうち 5 点を図示した。205 は肥前系磁器で仏飯器の碗部分か。206・207 は瀬戸・美濃系陶器である。206 は播鉢である。207 は鉢か。208 はカワラケである。209 は鉄滓か。

[時期] 出土遺物から近世と推測する。

S K 27 (第 13・58 図、図版 4・26)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S D 4 に先行する。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ 62cm、幅 40cm、深さ 18cmを測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況・埋土] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色シルトを基調とし、径 10～20cmの礫が堆積する。

[出土遺物] 磁器・陶器が出土している。3 点を図示した。210 は肥前系磁器の仏飯器の碗部分か。211・212 は陶器である。211 は瀬戸・美濃系陶器の片口か。212 は乗燭蓋である。

[時期] 出土遺物から近世と推測する。

S K 28 (第 13 図、図版 4)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 70cm、幅 58cm、深さ 28cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器の細片が出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S K 29 (第 13・58 図、図版 4・26)

[位置・重複] 調査地点北東隅に位置する。切り合いでは S K 26・S S 4 に先行し、S P 51 より新しい。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形であるが、やや不整形である。長さ 1.05m、幅 72cm、深さ 10cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒色粘土を基調とし、地山に似た土である。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器が出土した。1 点を図示した。213 は肥前系磁器の腰張形碗である。

[時期] 切り合いと出土遺物から、近世と推測する。

S K 30 (第 13 図、図版 4)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ 80cm、幅 40cm、深さ 63cmを測る。掘方の断面形は播鉢状であるが、南側にはテラス状の段が付き、土坑の最下部が突出する。

[検出状況・埋土] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂質シルトを基調とし、径 10～20cmの礫が堆積する。下層は黒色粘土を基調とし、地山に似た土である。

[出土遺物・時期] 陶器の細片が出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S K 31 (第 14 図、図版 4)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 54cm、幅 42cm、深さ 8cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒褐色シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器の細片が出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S K 32 (第 14 図、図版 4)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ 50cm、幅 40cm、深さ 10cmを測る。掘方の断面形は皿状である。東端部に小穴状の窪みが 2ヶ所みられる。

[検出状況・埋土] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S K 33 (埋桶) (第 14 図、図版 4)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 38cm、深さ 20cmを測る。掘方の断面形は円筒形で、径 27cmの桶の底板が据えられている。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。桶の周囲には黒褐色シルトを基調とした土が充填されている。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S K 34 (第 14・58 図、図版 4・26)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 28cm、深さ 10cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色砂を基調とし、径 10cmの礫や 1 辺 10cm程度の木片を含む。

[出土遺物] 肥前系磁器が 1 点出土している。214 は小丸碗である。

[時期] 検出状況と出土遺物から、近世と推測する。

S K 35 (第 14 図、図版 4)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 68cm、短径 44cm、深さ 23cmを測る。掘方の断面形は皿状であるが、最下部が突出する。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器の細片が 1 点出土したが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S K 36 (第 8・59 図、図版 4・26)

[位置・重複] 調査地点の東壁に沿って検出した。切り合いでは S P 50 より新しい。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 60cm、幅 20cm、深さ 42cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、径 10cmの礫を含む。

[出土遺物・時期] 肥前系磁器が 1 点出土している。215 は半球碗である。破断面に漆継ぎの痕跡がある。

[時期] 検出状況から近世の可能性はある。

S K 37 (第 8 図、図版 4)

[位置・重複] 調査地点の東壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 50cm、幅 25cm、深さ 22cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色シルトを基調とし、径 5～10cmの礫を含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況からは近世の可能性はある。

S K 38 (廃棄土坑) (第 14 図、図版 5)

[位置・重複] 調査地点の南壁に沿って検出した。切り合いでは S S 9 に先行する。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 1.3m、幅 1.1m、深さ 34cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は 3 層に分層でき、上層は黒色砂を基調とし、ブロック状の焼土や粒状の炭化物を含み、固く締まる。中層は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒色シルトを基調とし、多量の木片が堆積している。木片には板状のものや棒状のものがみられ、なんらかの廃材を一括廃棄した土坑であると推測する。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の細片が出土したが、図示できない。検出状況からは近世の可能性はある。

S K 39 (第 14・59 図、図版 5・26)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ 73cm、幅 66cm、深さ 12cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物物を粒状に含む。

[出土遺物] 磁器・陶器が出土している。3 点を図示した。216 は肥前系磁器の筒形碗である。217・218 は瀬戸・美濃系陶器である。217 は播鉢である。218 は半胴甕である。

[時期] 検出状況と出土遺物から、江戸時代後期の可能性がある。

S K 40 (第 15・59 図、図版 5・26)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S K 43・S S 9 に先行する。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 1.36m、幅 1.18m、深さ 54cm を測る。掘方の断面形は播鉢状であるが、東側にテラス状の段が付く。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は 3 層に分層でき、上層は黒褐色砂を基調とし、ブロック状の黒色粘土、粒状の焼土・炭化物を含む。中層は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。下層は黒色粘土を基調とし、地山に似た土である。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器が出土している。2 点を図示した。219 は肥前系磁器の丸碗である。220 は陶器の蓋物蓋である。

[時期] 検出状況と出土遺物から、近世と推測する。

S K 41 (第 15・59 図、図版 5・26)

[位置・重複] 調査地点の南壁に沿って検出した。切り合いでは S D 3 に先行し、S K 44・S K 46 より新しい。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 2.24m、幅 1.2m、深さ 42cm を測る。掘方の断面形は方形に近い形状だが、東側に段が付く。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色粘土や黒褐色粘土を基調とするが、焼土や木片が堆積する層もみられる。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器の細片と銭貨・木製品が出土している。そのうち 2 点を図示した。221 は寛永通宝である。222 は内面朱漆塗り、外面黒漆塗りの漆器碗の蓋である。

[時期] 検出状況と切り合いから、江戸時代後期の可能性がある。

S K 42 (第 14 図、図版 5)

[位置・重複] 調査地点の南壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形の全容不明である。検出部分では長さ 72cm、幅 62cm、深さ 35cm を測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I e 1 層を剥いだ II a 層上面で検出した。埋土は、上層は黒色粘土を基調とする。下層は黒褐色シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の細片が出土したが、図示できない。検出状況から近代である。

S K 43 (第 15 図、図版 5)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S K 40 より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 60cm、短径 50cm、深さ 64cm を測る。掘方の断面形は円筒形に近い。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層はオリーブ黒色砂質シルトを基調とする。下層は黒色シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性がある。

S K 44 (埋桶) (第 15 図、図版 5)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S K 41 に先行する。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 46cm、深さ 16cm を測る。掘方の断面形は円筒形で、底面は平坦である。

[検出状況] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。径 38cm の桶の底板が残存している。

[出土遺物・時期] 土器の細片が出土したが、図示できない。検出状況から江戸時代後期の可能性がある。

S K 45 (埋桶) (第 12・59 図、図版 5・26)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。切り合いでは S S 12 に先行し、S K 20・S K 25・S K 46 より新しい。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 74cm、深さ 25cmを測る。掘方は、底面は平坦で、桶に沿って筒状に立ち上がる。

[検出状況・埋土] I c1 層を剥いだ地山上面で検出した。桶は西側の側板と底板が遺存し、径 79cmを測る。埋土は黒褐色砂、黒色粘土、黒色砂が互層状に堆積する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・金属製品・木製品が出土している。4 点を図示した。223 は瀬戸・美濃系磁器の広東碗である。224 は明石・堺系陶器の播鉢である。225 は煙管の吸口である。226 は曲物である。

[時期] 切り合いから江戸時代後期～幕末期の可能性はある。

S K 46 (井戸) (第 15・60・61 図、図版 5・26)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。切り合いでは S K 20・S K 41・S K 45・S S 12・S D 3 に先行する。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 1.24m、短径 1.15mを測る。掘方の断面形は上面部分は播鉢状に開き、その下は円筒形となる。現地盤下 1.7mまで掘削したが、それ以上の断割り掘削ができず、底面までの深さ、形状は確認できなかった。

[検出状況・埋土] 上層の遺構掘削後に検出した。埋土は、上面部分に黒色粘土を基調として、黄灰色粘土をブロック状に含む土が堆積し、その下層には黒色シルトが堆積する。坑内に井戸側などの構築材は確認できない。素掘り井戸とみられる。

[出土遺物] 磁器・陶器・木製品が出土している。16 点を図示した。227・228 は磁器である。227 は瀬戸・美濃系磁器の筒丸碗である。228 は肥前系磁器で丸形の皿である。229・230 は陶器である。229 は鉢か。230 は播鉢で、明石・堺系陶器か。231～242 は木製品である。231～233 は漆器碗である。234～241 は下駄である。242 は部材か。

[時期] 切り合いと出土遺物から、開削時期は江戸時代後期に遡る可能性が高い。

S P 1 (第 18 図)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形であるが、やや不整形である。径 32cm、深さ 5cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II c 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 2 (第 18 図)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形であるが、やや不整形である。径 28cm、深さ 5cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II c 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 3 (集石遺構) (第 18 図、図版 5)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 45cm、幅 42cm、深さ 15cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とする。径 5～10cmの礫が堆積しており、根固めの石である可能性がある。

[出土遺物・時期] 磁器・土器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S P 4 (第 18 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 48cm、短径 38cm、深さ 10cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。上面は攪乱をうけている。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 5 (第 18 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ 20cm、幅 19cm、深さ 5cmを測る。掘方の断面形は方形に近い形状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 6 (第 18 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形であるが、やや不整形である。径 18cm、深さ 5cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 7 (第 18 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形であるが、やや不整形である。径 14cm、深さ 3cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 8 (第 18 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形であるが、やや不整形である。径 13cm、深さ 9cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 9 (第 18 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 35cm、短径 29cm、深さ 23cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 10 (第 18 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 30cm、短径 25cm、深さ 4cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I a層を剥いだ地山上面で検出した。上面は攪乱をうけている。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 11 (第 18 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 16cm、深さ 16cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] I a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 12 (第 18 図、図版 5)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 40cm、短径 30cm、深さ 6cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。中央に径 20cmの礫が据えられている。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 13 (第 18 図、図版 5)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形であるが、やや不整形である。径 28cm、深さ 20cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] I a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 14 (第 18 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形であるが、やや不整形である。径 20cm、深さ 18cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、径 2cmの礫を含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 15 (第 18 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 30cm、短径 25cm、深さ 20cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 土器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S P 16 (第 18 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 14cm、深さ 5cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] I c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 17 (第 18 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形であるが、やや不整形である。長径 14cm、短径 10cm、深さ 8cmを測る。

掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S P 18 (第 18 図)

[位置・重複] 調査地点南西隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形であるが、やや不整形である。径 20cm、深さ 17cm を測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 土器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S P 19 (第 18 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いでは S K 3 に先行する。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 26cm、短径 23cm、深さ 36cm を測る。掘方の断面形は漏斗状である。

[検出状況] S K 3 の底面で検出した。

[出土遺物・時期] 土器の細片が出土しているが、図示できない。切り合いから江戸時代後期と推測する。

S P 20 (第 18 図)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 25cm、短径 20cm、深さ 27cm を測る。掘方の断面形は播鉢状であるが、南側にテラス状の段が付く。

[検出状況・埋土] I c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器・土器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S P 21 (第 19・61 図、図版 26)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 22cm、短径 18cm、深さ 12cm を測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 寛永通宝 (243) 1 点が出土している。遺構の時期は不明である。

S P 22 (第 19 図)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 48cm、短径 46cm、深さ 12cm を測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、ブロック状の黒色粘土や粒状の焼土・炭化物を含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 23 (第 19 図)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 22cm、短径 19cm、深さ 14cm を測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S P 24 (第 19 図)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 35cm、深さ 6cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 25 (第 19 図)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 24cm、短径 20cm、深さ 9cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色粘土を基調とし、黒褐色砂質シルトを含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 26 (第 19 図)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 40cm、短径 38cm、深さ 6cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、黒色粘土ブロックを含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 27 (第 19 図、図版 5)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。切り合いでは S P 28 に先行する。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ 31cm、幅 28cm、深さ 8cmを測る。掘方の断面形は擂鉢状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 28 (第 19 図、図版 5)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。切り合いでは S P 27 より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 20cm、短径 15cm、深さ 25cmを測る。掘方の断面形は擂鉢状であるが、東側が突出する。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 29 (第 19 図)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 18cm、短径 13cm、深さ 9cmを測る。掘方の断面形は擂鉢状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 30 (第 19 図)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いでは S S 6 に先行する。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ 21cm、幅 21cm、深さ 22cmを測る。掘方の断面形は擂鉢状である。

[検出状況・埋土] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 31 (第 19 図)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 18cm、短径 15cm、深さ 30cmを測る。掘方の断面形は最深部が突出し、播鉢状に立ち上がる。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 32 (第 19 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 42cm、短径 32cm、深さ 15cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 33 (第 19 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S S 10 に先行する。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形に近い。長さ 36cm、幅 34cm、深さ 12cmを測る。掘方の断面形は方形に近い形状である。

[検出状況・埋土] S S 10 の下層で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 34 (第 19 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 28cm、幅 25cm、深さ 34cmを測る。掘方の断面形は播鉢状であるが、東側にテラス状の段が付く。

[検出状況・埋土] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 35 (第 19 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 28cm、短径 24cm、深さ 6cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 36 (第 19 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 44cm、短径 30cm、深さ 7cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 37 (第 19・61 図、図版 26)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ 46cm、幅 42cm、深さ 11cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 寛永通宝(244)が1点出土している。遺構の時期は不明である。

S P 38 (第20図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形であるが、やや不整形である。径20cm、深さ7cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I e1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である

S P 39 (第20図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形であるが、やや不整形である。長径32cm、短径28cm、深さ22cmを測る。掘方の断面形は最深部が突出し、播鉢状に立ち上がる。

[検出状況・埋土] I e1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 40 (第20図)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。切り合いではS K 26に先行する。

[形状・規模] 平面形は円形で、径16cm、深さ17cmを測る。掘方の断面形は最深部が突出し、播鉢状に立ち上がる。

[検出状況・埋土] S K 26の底面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。切り合いから近世と推測する。

S P 41 (第20図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径28cm、深さ14cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 42 (第20図)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径27cm、短径22cm、深さ8cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I e1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 43 (第20図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径27cm、深さ19cmを測る。掘方の断面形は最深部が突出し、播鉢状に立ち上がる。

[検出状況・埋土] II a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 44 (第 20 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 21cm、短径 16cm、深さ 22cmを測る。掘方の断面形は方形に近い。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 45 (第 20 図、図版 6)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 22cm、短径 17cm、深さ 18cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。中央に径 12cmの礫が据えられている。

[出土遺物・時期] 陶器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 46 (第 20 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 21cm、短径 15cm、深さ 4cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は暗褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 47 (第 20 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 22cm、短径 20cm、深さ 9cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 48 (第 20 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 24cm、短径 22cm、深さ 18cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、径 5～10cmの礫が堆積する。

[出土遺物・時期] 磁器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 49 (第 20 図、図版 6)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 30cm、短径 26cm、深さ 12cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。中央に径 10cmの礫が据えられている。

[出土遺物・時期] 陶器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 50 (第 8 図)

[位置・重複] 調査地点東壁に沿って検出した。切り合いでは S K 36 に先行する。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 16cm、幅 15cm、深さ 11cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 51 (第 20 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S K 29・S S 4 に先行する。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 28cm、短径 24cm、深さ 24cmを測る。掘方の断面形は挿鉢状で、北側にテラス状の段が付く。

[検出状況・埋土] S K 29 の底面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。切り合いから近世と推測する。

S P 52 (第 20 図、図版 6)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 26cm、短径 22cm、深さ 14cmを測る。掘方の断面形は挿鉢状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 53 (第 20 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 14cm、短径 12cm、深さ 13cmを測る。掘方の断面形は挿鉢状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色シルトを基調とし、焼土を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 54 (第 13 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S D 4 より新しい。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 18cm、深さ 21cmを測る。掘方の断面形は挿鉢状である。

[検出状況] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S S 1 (集石遺構) (第 16 図、図版 6・27)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いでは S K 15 より新しい。

[形状・規模] 東西 83cm、南北 56cmの範囲に径 10～20cmのまばらな集石を検出し、この範囲を S S 1 とした。

[検出状況] 表土直下の I c1 層上面に敷き並べられている。掘方は検出されなかった。礫は一段のみであり、礫の下に捨杭等の地業は行われていない。何らかの構造物の基礎の可能性はある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近代である。

S S 2 (集石遺構) (第 11・61 図、図版 6・27)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。切り合いでは S K 15 より新しい。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 1.0m、幅 96cm、深さ 43cmを測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況] 表土直下の I c1 層上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、径 10～20cmの礫が堆積する。また下層では多量の腐食した木片が検出されている。何らかの構造物の基礎の可能性と、礫や廃材などを投棄した土坑の可能性はある。

[出土遺物] 磁器・陶器・石臼が出土している。6 点を図示した。245・246 は肥前系磁器、247 は瀬戸・美濃系磁器である。245 は小丸碗である。246 は筒形碗である。247 は爛徳利である。248・249 は陶器である。248 は灯明受皿である。開口部を U 字状につくる瀬戸・美濃系陶器である。249 は行平鍋の蓋である。250 は上臼である。

[時期] 検出状況から近代である。

S S 3 (集石遺構) (第 9・62 図、図版 6・27)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長さ 60cm、幅 45cm、深さ 12cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況] I c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色粘土を基調とする。土坑の中心に石臼が据えられ、その周囲に径 10～20cmの礫を据えて根固めをしている。石臼を礎石に転用したものと推測する。

[出土遺物・時期] 石臼 (251) 1 点を図示した。柄穴の痕跡が残る上臼である。遺構の時期は不明である。

S S 4 (集石遺構) (第 16 図、図版 6)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S K 29・S P 51 より新しい。

[形状・規模] 東西 50cm、南北 52cmの範囲に集石を検出した。この範囲を S S 4 とした。

[検出状況] I e1 層上面に敷き並べられている。掘方は検出されなかった。中心に 1 辺 30～40cm、厚さ 14cmの礎石を据え、周囲に径 10～20cmの礫を据えて根固めをしている。礫の下に捨杭等はない。S S 5 と同じ軸線上に並び、S S 5 との芯々距離は約 1.8m である。S S 5～S S 9・S S 13 と一連の遺構であった可能性があり、方形区画の建物を構成していた可能性がある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況より近代である。

S S 5 (集石遺構) (第 16 図、図版 6)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複遺構はない。

[形状・規模] 東西 75cm、南北 74cmの範囲に集石を検出した。この範囲を S S 5 とした。

[検出状況] I e1 層上面に敷き並べられている。掘方は検出されなかった。径 20cm前後の礫が据えられ、礫の下に捨杭等はない。S S 4・S S 6 と同じ軸線上に並ぶ。S S 4 との芯々距離は約 1.8m で、S S 6 との芯々距離は約 3.7m である。S S 4・S S 6～S S 9・S S 13 と一連の遺構であった可能性があり、方形区画の建物を構成していた可能性がある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況より近代である。

S S 6 (集石遺構) (第 16 図、図版 6)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いでは S P 30 より新しい。

[形状・規模] 東西 52cm、南北 46cmの範囲に、四角く加工した石が据えられている。この範囲を S S 6 とした。

[検出状況] I e1 層上面に敷き並べられている。掘方は検出されなかった。平面形は四角く加工した石を組み合わせて、1 辺 50cm前後の方形に配列されている。礫の下に捨杭等はない。S S 5・S S 7・S S 8 と同じ軸線上に並ぶ。S S 5 との芯々距離は約 3.7m で、S S 7 との芯々距離は約 0.9m、S S 8 との芯々距離は約 1.8m である。S S 4・S S 5・S S 7～S S 9・S S 13 と一連の遺構であった可能性があり、方形区画の建物を構成していた可能性がある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況より近代である。

S S 7 (集石遺構) (第 16 図、図版 6)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 東西 54cm、南北 55cmの範囲に集石を検出した。この範囲を S S 7 とした。

[検出状況] I e1 層上面に径 10～40cmの礫が敷き並べられている。掘方は検出されなかった。礫の下に捨杭等はない。S S 6 と同じ軸線上に並び、S S 6 との芯々距離は約 0.9m である。S S 4～S S 6・S S 8・S S 9・S S 13 と一連の遺構であった可能性があり、方形区画の建物を構成していた可能性がある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況より近代である。

S S 8 (集石遺構) (第 16 図、図版 6)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いでは S D 3 より新しい。

[形状・規模] 東西 55cm、南北 55cmの範囲に集石を検出した。この範囲を S S 8 とした。

[検出状況] I e1 層上面で検出した。掘方は検出されなかった。中心に 1 辺 25～35cm、厚さ 15cmの礎石を据え、周囲に径 10cm前後の礫を据えて根固めをしている。礫の下に捨杭等はない。S S 6・S S 13 と同じ軸線上に並ぶ。芯々距離はともに約 1.8m である。S S 4～S S 7・S S 9・S S 13 と一連の遺構であった可能性があり、方形区画の建物を構成していた可能性がある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況より近代である。

S S 9 (集石遺構) (第 16 図、図版 6)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S K 38・S K 40 より新しい。

[形状・規模] 東西 70cm、南北 60cmの範囲に集石を検出した。この範囲を S S 9 とした。

[検出状況] I e1 層上面に径 10～30cmの礫が敷き並べられている。掘方は検出されなかった。礫の下に捨杭等はない。S S 5・S S 13 と同じ軸線上に並ぶ。S S 5 との芯々距離は約 3.7m、S S 13 との芯々距離は約 2.7mである。S S 4～S S 8・S S 13 と一連の遺構であった可能性があり、方形区画の建物を構成していた可能性がある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況より近代である。

S S 10 (集石遺構・礎石) (第 16 図、図版 6)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S P 33 より新しい。

[形状・規模] 径 32cm、厚さ 14cmの礫が据えられている。礎石の可能性はある。これを S S 10 とした。

[検出状況] I e1 層上面で検出した。掘方は検出されなかった。S S 11 と同じ軸線上に並び、S S 11 との芯々距離は約 1.8mを測る。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況より近代である。

S S 11 (集石遺構・礎石) (第 13 図、図版 6)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 径 32cm、厚さ 14cmの礫が据えられている。礎石の可能性はある。これを S S 11 とした。

[検出状況] I e1 層上面で検出した。掘方は検出されなかった。S S 10 と同じ軸線上に並び、S S 10 との芯々距離は約 1.8mを測る。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況より近代である。

S S 12 (石垣造りの溝) (第 17・62・63 図、図版 7・27)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いでは 3 号埋襲に先行し、S K 3・S K 20・S K 45・S D 3 より新しい。

[形状・規模] 検出部分で長さ 6.7m、幅 60cm、深さ 60cmを測る。石垣造りの溝の側壁であり、長さ 40～50cm、幅 30～40cm、厚さ 20～30cmの間知石を 2 段積み、隙間には径 5～10cmの礫や煉瓦片、瓦片などが裏込めとして詰められている。間知石の最下部には、径 12cm前後の丸太材が胴木として 2 列敷設されている。

[検出状況] I a 層掘削時に検出した。調査地点中央から南に向かって間知石が並び、調査区外へと延びる。西壁部分の石垣は検出されなかったが、径 12～20cmの丸太材が検出されており、西壁部分の胴木の可能性がある。これらの丸太材間の幅から、石垣間の溝の幅は 10～20cmと推測する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・銭貨が出土している。石垣構築時に混入したものと推測する。13 点を図示した。252・255～257 は肥前系磁器、253・254 は瀬戸・美濃系磁器である。252 は筒形碗である。253 は筒丸碗である。254 は薄手酒坏である。255～257 は皿である。258 は磁器製品の戸車である。259～261 は陶器である。259 は信楽系陶器の端反碗である。260 は瀬戸・美濃系陶器の皿で、いわゆる太白である。261 は瀬戸・美濃系陶器の壺の底部か。262 は土器で焙烙である。263・264 は寛永通宝である。

[時期] 検出状況から近代に構築されたと推測する。

S S 13 (集石遺構) (第 16 図、図版 7)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いでは S K 20・S D 3 より新しい。

[形状・規模] 東西 42cm、南北 42cmの範囲に集石を検出した。この範囲を S S 13 とした。

[検出状況] I e1 層上面に、径 10～30cmの礫が敷き並べられている。掘方は検出されなかった。礫の下に捨杭等はない。S S 8・S S 9 と同じ軸線上に並ぶ。S S 8 との芯々距離は約 1.8m、S S 9 との芯々

距離は約 2.7m である。S S 4～S S 9 と一連の遺構であった可能性があり、方形区画の建物を構成していた可能性がある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況より近代である。

S B 1 (建物跡) (第 9 図、図版 7)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いでは S K 6・S K 7 と重複する。

[形状・規模] 壁位置に掘られた布掘りの基礎であり、西端部は調査区外へ延びる。想定される平面形は口の字状である。検出部分では東西 3.3m、南北 4.3m を測る。溝の規模は幅 70cm、深さ 30cm を測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況] I c1 層を剥いだ地山上面で検出した。溝内には径 5～10cm の礫が充填されている。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の細片が出土しているが、図示できない。構築時に混入したものと推測する。遺構の時期は不明である。

S D 1 (第 10・63 図、図版 27)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S K 8 に先行する。

[形状・規模] 長さ 1.8m、幅 28cm を測り、南北方向に走る。南端部は S K 8 により切られている。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色粘土を基調とし、地山に似た土である。

[出土遺物・時期] 石臼 (265) の破片が 1 点出土した。遺構の時期は不明である。

S D 2 (第 10 図、図版 7)

[位置・重複] 調査地点南端部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 長さ 1.76m、幅 44cm を測り、南北方向に走る。南端部は調査区外へと延びる。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S D 3 (第 12・63 図、図版 27)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いでは S S 8・S S 12・S S 13 に先行し、S K 20・S K 41・S K 46 より新しい。

[形状・規模] 長さ 5.0m、幅 54cm を測る。南北方向に走り、北端部は西方向に直角に曲がる。南端部は調査区外へと延びる。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色砂を基調とし、径 4～5cm の礫を含む。

[出土遺物] 磁器・陶器・金属製品が出土している。10 点を図示した。266 は瀬戸・美濃系磁器、267・268 は肥前系磁器である。266 は端反碗である。267 は広東碗である。268 は瓶である。269～273 は陶器である。269 は肥前系陶器の刷毛目碗である。270 は瀬戸・美濃系陶器の灯明皿である。271 は瀬戸・美濃系陶器の灯明受皿である。272 は壺の高台部か。273 は土瓶蓋である。274・275 は金属製品である。274 は煙管の吸口である。275 は平打簪である。

[時期] 切り合いと出土遺物から、江戸時代後期と推測する。

S D 4 (第 13 図、図版 7)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S K 27・S P 54 に先行する。

[形状・規模] 長さ 2.6m、幅 22cm を測り、東西方向に走る。西端部は S K 27 に切られる。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I e1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器・土器の細片が出土しているが、図示できない。切り合いから近世の可能性はある。

S U 1 (地鎮遺構) (第 14・64 図、図版 7・27)

[位置・重複] 調査地点東半部で検出した。重複する遺構はない。

[検出状況] I e1 層を剥いだ II a 層上面で検出した。II a 層上面に薄く白色細粒砂が広がり、その上に灯明皿 3 枚 (282・290・292) と灯明受皿 2 枚 (276・279) が T 字状に配置されていた。このうち北端に配置された灯明皿 (282・290) は 2 枚重ねとなっており、それ以外はそれぞれ 1 枚ずつ伏せられ、下に小石 (277)・粘土塊 (278)・火打ち石 (280・281)・水晶片 (283～289・291・293～299) が置かれていた。これらの遺物は土地の地鎮に伴い埋納された地鎮具であると推測する。またこの地鎮具の付近からは、明治 18 年の記銘がある半銭銅貨 (383) が出土している。

[時期] 検出状況と出土遺物から、近代に埋納されたものであると推測する。

1～4 号埋甕 (第 17・64 図、図版 7・28)

[位置] 調査地点南半部の S S 12 付近で 4 基の埋甕を検出した。1・2 号埋甕は S S 12 の西側に位置し、3・4 号埋甕は S S 12 の東側に位置する。

[検出状況] いずれも I a 層掘削時に検出した。1・2 号埋甕は I c1 層を掘り込み埋設されており、甕の底部の標高は、いずれも 258.85m である。3・4 号埋甕は S S 12 の裏込めを掘り込み設置されており、甕の底部の標高は 3 号埋甕が 258.88m、4 号埋甕が 258.93m である。いずれの甕の内面には白色の結晶物が多量に付着している。この結晶物について X 線回析を行ったところ、リン (P₂O₅) とカルシウム (CaO) が非常に多く含まれているという結果が得られ、この結晶物は尿尿に由来する可能性が高い。以上のことから、1～4 号埋甕は埋甕式の便槽であることが分かる。

[出土遺物・時期] 1 号埋甕内より出土した植木鉢 (300) と 1 号埋甕 (301) を図示した。検出状況から近代に埋設されたものであると推測する。

遺構外出土遺物 (第 65～69 図、図版 28～30)

302～332 は磁器である。302・303 は瀬戸・美濃系磁器の端反碗である。304～307 は平碗である。308 は瀬戸・美濃系磁器の筒丸碗である。309 は細筒形碗である。310 は瀬戸・美濃系磁器の丸碗である。311 は肥前系磁器の小丸碗である。312 は肥前系磁器の端反碗である。313 は瀬戸・美濃系磁器の筒丸碗である。314・315 は瀬戸・美濃系磁器で端反形のの小杯である。316 は端反形のの小杯である。317 は肥前系磁器の薄手酒杯である。318 は瀬戸・美濃系磁器の薄手酒杯である。319 は肥前系磁器で菊花形の紅皿である。320 は肥前系磁器の仏飯器である。321・325 は瀬戸・美濃系磁器で丸形の皿である。322～324 は肥前系磁器で丸形の皿である。326 は肥前系磁器の変形皿である。327・328 は肥前系磁器で端反形の鉢である。329 は瀬戸・美濃系磁器の爛徳利である。330・331 は碗蓋で、331 は肥前系磁器である。332 は人物の人形である。333～345 は陶器である。333 は瀬戸・美濃系陶器の丸碗である。334 は端反碗で、瀬戸・美濃系陶器か。335 は瀬戸・美濃系陶器の丸碗である。336 は灯明受皿で、開口部を U 字状につくる瀬戸・美濃系陶器である。337 は容器付きの灯明受皿で、開口部を半月形につくる京・信楽系陶器である。338～340 は明石・堺系陶器の挿鉢である。341 は瓶である。342 は急須である。343 は土瓶である。344 は行平鍋の把手である。345 は土瓶蓋である。346・347 はカワラケである。348～356 は土製品である。348 は人物の人形である。349 は巾着を模した泥面子である。350～355 は碁石形土製品である。356 はミニチュア土器である。357～399 は金属製品である。357 は元祐通宝である。358～378 は寛永通宝である。379・380 は寛永通宝か。381 は天保通宝である。382 は文久永宝である。383・384 は半銭銅貨である。385 は一銭銅貨である。386・387 は雁首銭である。388～390 は煙管の雁首である。391～396 は煙管の吸口である。397 は松葉簪である。398 は耳搔簪である。399 は頭巻釘である。400～404 は石製品である。400 は石臼の上臼である。401～404 は碁石形石製品である。405～407 は木製品である。405 は箸である。406 は敷居の一部か。407 は花卉を模した何らかの部材である。

第2項 B地点

B地点は現在の連雀町通りの南側で、A地点の東側に位置する。現況はマンション及び民家の前となっている。調査地点をB-1、B-2地点の東西2つに分け、A地点とB-1地点の間の約1m、B-1地点とB-2地点の間の約1m、B-2地点とC-1地点の間の約4.5mの範囲には現状で使用中の埋設構造物があり、甲府市教育委員会との協議の上、調査対象外とした。B-1地点では、コンクリート舗装撤去後の碎石層直下に部分的な戦災焼土の遺存がみられた。その直下は近代の整地層と見られるIc層が堆積する。Ic層の下には、一部近世の焼土層がみられるが、基本的には地山となる。一方、B-2地点は全体に現代の攪乱をうけており、表土直下が地山となっていた。いずれの調査地点も地山上面まで掘り下げて遺構検出を行った。B地点全体で土坑12基、小穴15基、集石遺構7基を検出した。

B-1地点

SK 47 (廃棄土坑) (第21・70図、図版8・31)

[位置・重複] 調査地点の北壁に沿って検出した。切り合いではSS19に先行する。

[形状・規模] 平面形の全容は不明であるが、隅丸方形と推測する。検出部分では長さ2.55m、幅1.15m、深さ72cmを測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況・埋土] Ic層を剥いだ地山上面で検出した。埋土はブロック状の焼土や粒状の炭化物が多量に堆積する。最上層には、土坑の蓋をするかのように固く締まった黒色砂層が広がっている。火災で生じた焼土などを廃棄した土坑と推測する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器が出土している。7点を図示した。408～410は肥前系磁器である。408・409は皿である。410は瓶である。411～413は陶器である。411・412は碗の口縁部か。413は瀬戸・美濃系陶器の灯明皿である。底部がクリ底で、口唇部に摘みが付く。414は土器で焙烙の口縁である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期と推測する。

SK 48 (第22図、図版8)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径90cm、短径85cm、深さ40cmを測る。掘方の断面形は楕鉢状である。

[検出状況・埋土] Ic層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色粘土を基調とし、地山に似た土である。底面には径15cm前後の礫が5個据えられている。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の細片が出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

SK 49 (集石遺構) (第22・70図、図版8・9・31)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ85cm、幅84cm、深さ1.15mを測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況] 表土掘削時に蠟燭石の頭頂部を検出した。蠟燭石は一辺30cm、高さ40cmの角柱状を呈す。蠟燭石の周囲は径10～15cmの礫で根固めされており、さらに蠟燭石の下には長さ68cm、幅54cm、厚さ16cmの板石が敷かれている。板石の周囲も同様に根固めされ、板石の下には径10～15cmの礫が敷き並べられており、最下層は径20cm前後の礫が4個据えられていた。軟弱地盤の基礎工法である蠟燭地業の基礎とみられる。

[出土遺物] 磁器・陶器・瓦片が出土している。6点を図示した。415・416は瀬戸・美濃系磁器、417・418は肥前系磁器である。415は碗である。416は薄手酒坏である。417は皿である。418は香炉の口縁部か。419は瀬戸・美濃系陶器の楕鉢である。420は土器で土瓶蓋である。

[時期] 検出状況から近代と推測する。

S K 50 (瓦廃棄土坑) (第 22・71 図、図版 9・31)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ 78cm、幅 78cm、深さ 55cmを測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒色粘土を基調とし、締まりはゆるい。下層は多量の瓦片が堆積している。東側には S K 49 が位置し、掘方の形状が似ていることから、礫の代わりとして、瓦を充填した構造物の基礎である可能性がある。S K 49 との芯々距離は約 1.8m を測る。

[出土遺物] 多量の瓦片が出土した。そのうち 3 点を図示した。421・422 は棧瓦である。423 は目板瓦である。

[時期] 出土遺物と S K 49 との関連性から、近代と推測する。

S K 51 (廃棄土坑) (第 22・71～73 図、図版 9・31・32)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 2.3m、幅 2.0m、深さ 72cmを測る。掘方の断面形は擂鉢状である。

[検出状況・埋土] I c 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土はブロック状の焼土・炭化物が多量に堆積する。出土遺物には 2 次被熱を受けたものも多くみられる。火災により生じたこれらの遺物を廃棄した土坑であると推測する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器が出土している。35 点を図示した。424～431 は肥前系磁器である。424～426 は丸碗である。いずれも 2 次被熱により釉が溶けている。427・428 は丸形の皿である。427 は 2 次被熱により表面の釉薬が溶けている。429 は変形の皿である。430 は香炉である。431 は髪油壺で、やや被熱をうけている。432～450 は陶器である。432 は丸碗である。433 は肥前系陶器の呉器手碗で、やや被熱をうけている。434 は肥前系京焼風陶器の平碗である。435 は平碗で、内面に赤色の付着物が残る。436 は肥前系陶器で折縁形の皿である。437 は肥前系陶器の皿である。438～440 は肥前系陶器で丸形の皿である。441 は瀬戸・美濃系陶器の皿である。442・443 は瀬戸・美濃系陶器で、いわゆる志野皿である。442 は端反形の皿、443 は菊花形の皿である。444 は瀬戸・美濃系陶器で木葉形の皿である。2 次被熱により表面の釉薬が溶けている。445 は肥前系の鉢で、2 次被熱により表面の釉薬が溶けている。446～448 は半筒形の火入である。449 は壺の口縁部である。450 は仏花瓶で、瀬戸・美濃系陶器か。451～455 は土器である。451～454 はカワラケである。455 は焙烙である。456～458 は寛永通宝である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期と推測する。

S K 52 (第 22 図、図版 9)

[位置・重複] 調査地点の東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 92cm、短径 86cm、深さ 62cmを測る。掘方の断面形は擂鉢状である。

[検出状況・埋土] I c 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器・土器の細片が出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S P 55 (第 23 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 34cm、深さ 6cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I c 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 56 (第 23 図)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 28cm、深さ 4cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I c 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 57 (第 23 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 44cm、短径 38cm、深さ 6cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I c 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、ブロック状の焼土や粒状の炭化物を含む。

[出土遺物・時期] 磁器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S P 58 (第 23 図)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 22cm、深さ 9cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I c 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 59 (第 23 図、図版 9)

[位置・重複] 調査地点北端部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 19cm、短径 18cm、深さ 10cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色粘土を基調とし、浅黄色粘土や炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 60 (第 23 図)

[位置・重複] 調査地点北端部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 22cm、短径 18cm、深さ 3cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 61 (第 23 図)

[位置・重複] 調査地点北端部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 13cm、短径 9cm、深さ 3cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 62 (第 23 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 14cm、短径 10cm、深さ 6cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 63 (第 23・73 図、図版 9・32)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 48cm、短径 34cm、深さ 19cmを測る。掘方の断面形は挿鉢状であるが、北側にテラス状の段が付く。

[検出状況・埋土] I c 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物] 土器が 2 点出土している。459 はカワラケである。460 は焙烙である。

[時期] 出土遺物から近世の可能性はある。

S P 64 (第 23 図、図版 9)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 26cm、短径 18cm、深さ 45cmを測る。掘方の断面形は筒状である。

[検出状況・埋土] I c 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 65 (第 23 図、図版 9)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 18cm、短径 15cm、深さ 44cmを測る。掘方の断面形は筒状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S S 14 (集石遺構) (第 22 図、図版 9)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 東西 40cm、南北 20cmの範囲に集石を検出した。この範囲を S S 14 とした。

[検出状況] 地山上面で検出した。掘方は検出されなかった。1 辺 30～40cm、厚さ 18cm の礎石を据え、周囲を径 5～15cmの礫で根固めをした痕跡がみられる。礫の下に捨杭等はない。何らかの構造物の基礎の可能性はある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S S 19 (集石遺構) (第 21 図、図版 9)

[位置・重複] 調査地点西壁に沿って検出した。切り合いでは S K 47 に先行する。

[検出状況] 表土掘削時に蠟燭石の頭頂部を検出した。蠟燭石は一辺 30cm、高さ 55cmの角柱状を呈す。蠟燭石の周囲は径 10～15cmの礫で根固めされている。蠟燭石の下には 1 辺 68cm、厚さ 15cmの板石が敷かれ、板石の周囲も同様に根固めされている。板石の下には径 10～20cmの礫が敷き並べられている。S K 49 と同様の蠟燭地業の基礎とみられるが、同じ軸線上にはない。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近代と推測する。

遺構外出土遺物 (第 73 図、図版 32)

461 は瀬戸・美濃系磁器、462～465 は肥前系磁器である。461 は端反碗である。462・463 は筒形碗である。464 は菊花形の紅皿である。465 は丸形の小皿である。466～468 は陶器である。466 は瀬戸・美濃系陶器の端反碗である。467 は灯明受皿で、開口部を半月形につくる京・信楽系陶器である。468 は明石・堺系陶器の挿鉢である。469～471 は土器である。469・470 はカワラケである。471 は植木鉢である。472 は土鈴であり、表面に人物の顔が模られている。473～478 は銭貨である。473 は聖宋元宝か。474～477 は寛永通宝である。478 は一銭銅貨である。479 はガラス製品でおはじき(石蹴)である。

B-2 地点

S K 53 (第 24 図、図版 10)

[位置・重複] 調査地点南東隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形だが、やや不整形である。径 40cm、深さ 60cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。底面には径 15cmの礫が据えられている。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S K 54 (第 24・74 図、図版 10・32)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 92cm、幅 66cm、深さ 12cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、径 5～10cmの礫を多量に含む。焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器が出土している。3点を図示した。480・481は陶器である。480は碗の高台部である。481は瓶の底部か。482は土器で焙烙の口縁部である。

[時期] 出土遺物から近世の可能性はある。

S K 55 (第 24 図、図版 10)

[位置・重複] 調査地点南東隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径 65cm、短径 46cm、深さ 10cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S K 56 (第 24 図、図版 10)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いでは S S 18 に先行する。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形である。長さ 50cm、幅 45cm、深さ 15cmを測る。掘方の断面形は方形であるが、北壁付近に小穴状の落ち込みがある。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S K 57 (第 25 図、図版 10)

[位置・重複] 調査地点南東隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径 75cm、短径 48cm、深さ 50cmを測る。掘方の断面形は皿状であるが、南北の壁付近にそれぞれ小穴状の落ち込みがある。南側の落ち込みには、底面に径 18cmの礫が据えられている。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S K 58 (第 25・74 図、図版 11・32)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径 57cm、短径 42cm、深さ 14cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] カワラケ (483) が 1 点出土している。出土遺物から近世の可能性はある。

S K 59 (第 25・74 図、図版 11・32)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径 67cm、短径 55cm、深さ 14cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は3層に分層できる。上層は褐色細粒砂を基調とする。中層は暗褐色砂を基調とし、被熱を受け固く締まる。下層は黒褐色砂を基調とし、固く締まる。土坑内で何らかの焼成作業を行った痕跡がある。

[出土遺物] 陶器・土器が2点出土している。484は瀬戸・美濃系陶器の皿の破片か。485はカワラケである。

[時期] 出土遺物から近世の可能性はある。

S P 66 (第25図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形である。径28cm、深さ3cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 67 (第25図、図版11)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径32cm、短径30cm、深さ19cmを測る。掘方の断面形は楕鉢状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 68 (第25図、図版11)

[位置・重複] 調査地点中央で検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径20cm、短径18cm、深さ15cmを測る。掘方の断面形は方形に近い。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 69 (第25図、図版11)

[位置・重複] 調査地点南壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形と推測する。検出部分では長径28cm、短径20cm、深さ8cmを測る。掘方の断面形は皿状に近い。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S S 15 (集石遺構) (第24図、図版11)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 東西28cm、南北32cmの範囲に集石を検出した。この範囲をS S 15とした。

[検出状況] 地山上面で検出した。掘方は検出されなかった。径6cm前後の礫が敷き並べられている。掘方は検出されなかった。礫の下に捨杭等はない。S S 16・S S 17と同じ軸線上に並ぶ。S S 16との芯々距離は約70cm、S S 17との芯々距離は約95cmである。S S 16～S S 18と一連の遺構であった可能性があり、方形区画の建物を構成していた可能性がある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S S 16 (集石遺構) (第24図、図版11)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 東西38cm、南北38cmの範囲に集石を検出した。この範囲をS S 16とした。

[検出状況] 地山上面で検出した。掘方は検出されなかった。径5～20cmの礫が敷き並べられている。掘方は検出されなかった。礫の下に捨杭等はない。S S 15・S S 18と同じ軸線上に並ぶ。S S 15との芯々距離は約70cm、S S 18との芯々距離は約95cmである。S S 15・S S 17・S S 18と一連の遺構であった可能性があり、方形区画の建物を構成していた可能性がある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S S 17 (集石遺構) (第 24 図、図版 11)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 東西 32cm、南北 32cmの範囲に集石を検出した。この範囲を S S 17 とした。

[検出状況] 地山上面で検出した。掘方は検出されなかった。径 8cm前後の礫が敷き並べられている。掘方は検出されなかった。礫の下に捨杭等はない。S S 15・S S 18 と同じ軸線上に並ぶ。S S 15 との芯々距離は約 95cm、S S 18 との芯々距離は約 75cmである。S S 15・S S 16・S S 18 と一連の遺構であった可能性があり、方形区画の建物を構成していた可能性がある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S S 18 (集石遺構) (第 24 図、図版 11)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S K 56 より新しい。

[形状・規模] 東西 35cm、南北 42cmの範囲に集石を検出した。この範囲を S S 18 とした。

[検出状況] 地山上面で検出した。掘方は検出されなかった。径 6cm前後の礫が敷き並べられている。掘方は検出されなかった。礫の下に捨杭等はない。S S 16・S S 17 と同じ軸線上に並ぶ。S S 16 との芯々距離は約 95cm、S S 17 との芯々距離は約 75cmである。S S 15～S S 17 と一連の遺構であった可能性があり、方形区画の建物を構成していた可能性がある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

遺構外出土遺物 (第 74・75 図、図版 33)

486～491 は磁器である。486 は端反碗で肥前系磁器か。487 は肥前系磁器で菊花形の紅皿である。488 は瀬戸・美濃系磁器の皿である。489 は皿である。490 は蓋物蓋である。491 は集緒器である。492・493 は陶器である。492 は蓋物か。493 は火鉢である。494・495 は土器である。494 はカワラケである。495 は焙烙である。496～498 は土製品である。496 は人物を模った人形である。497 は水鳥を模った人形である。498 は中心に孔が穿たれた土製円盤で、蠟燭などの受皿か。499～501 は寛永通宝である。502 は碁石形石製品である。

第 3 項 C 地点

C 地点は現在の連雀町通りの南側で、B 地点の東側に位置する。現況は空き地及び駐車場の前となっている。調査地点を C-1、C-2、C-3 地点の 3 つに分け、B-2 地点と C-1 地点の間の約 4.5m、C-1 地点と C-2 地点の間の約 4m、C-2 地点と C-3 地点の間の約 2.5mには現状で使用中の埋設構造物があり、甲府市教育委員会との協議の上、調査対象外とした。また C-3 地点は近隣住民の聞き取り調査から、地下数メートルにわたって攪乱をうけている可能性が指摘されていた。そのため表土掘削前に試掘トレンチを 2ヶ所設定し、重機による掘削を行った。現地表面下 1m まで行ったところ、碎石やコンクリート片の堆積層が続き、地山は検出されなかった。さらに水も湧きはじめ、攪乱の深度が深いことを確認できたため、甲府市教育委員会との協議の上、C-3 地点は全面に攪乱を受けて、遺跡は遺存していないとして、調査を終了した。一方、C-1、C-2 地点は広い範囲で攪乱を受けているものの、わずかに近世の包含層が検出されている。これらの層を剥ぎ取り、地山直上で遺構を検出した。C-1 地点では土坑 1 基を検出し、C-2 地点では土坑 2 基、小穴 7 基を検出を検出した。

C-1 地点

S K 60 (廃棄土坑) (第 26・75 図、図版 11・33)

[位置・重複] 調査地点北西隅に位置する。重複する遺構は無い

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 23.5m、幅 2.25m、深さ 30cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。最上面は広く攪乱を受けている。埋土はブロック状の焼土や粒状の炭化物が多量に堆積する。火災により生じたそれらを廃棄した土坑であると推測する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器が出土している。そのうち 14 点を図示した。503～510 は陶器である。503 は肥前系陶器の刷毛目碗である。504・505 は丸碗である。506・507 は瀬戸・美濃系陶器の丸碗である。508 は碗の高台部で、瀬戸・美濃系陶器か。509 は香炉で、瀬戸・美濃系陶器か。510 が瓶か。511～515 は土器である。511～514 はカワラケである。515 は焙烙である。516 は土壁材である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期と推測する。

遺構外出土遺物 (第 76 図、図版 33)

517～519 は陶器である。517 は瀬戸・美濃系陶器の広東碗である。518 は京・信楽系陶器の端反碗である。519 は肥前系陶器の呉器手碗の高台部である。520 は半銭銅貨である。521 はガラス瓶である。

C-2 地点

S K 61 (廃棄土坑) (第 27・76 図、図版 11・33)

[位置・重複] 調査地点東壁に沿って検出した。切り合いでは S P 74・S P 75 より新しい。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分で長さ 1.73m、幅 1.14m、深さ 43cm を測る。掘方の断面形は擂鉢状である。

[検出状況・埋土] II 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土はブロック状の焼土・炭化物が多量に堆積する。火災により生じたそれらを廃棄した土坑であると推測する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器が出土している。そのうち 6 点を図示した。522 は肥前系磁器の丸碗である。523～525 は陶器である。523 は半球碗である。524 は瀬戸・美濃系陶器の腰鍔碗である。525 は鉢か。526・527 は土器である。526 は七輪か。527 は焙烙である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期と推測する。

S K 62 (第 28 図、図版 11)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 46cm、幅 34cm、深さ 41cm を測る。掘方の断面形は方形であるが、北側にテラス状の段が付く。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土はオリーブ黒色シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。最深部には径 12cm の木杭が打ち込まれ、その上に径 20cm の礫が据えられていた。何らかの構造物の基礎の可能性はあるが、対応する遺構は検出されなかった。

[出土遺物・時期] 陶器・土器の細片が出土したが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 70 (第 28 図)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 22cm、短径 20cm、深さ 25cm を測る。掘方の断面形は擂鉢状である。

[検出状況・埋土] II 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 土器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 71 (第 28 図)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 17cm、深さ 30cm を測る。掘方の断面形は筒状に近い。

[検出状況・埋土] II 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 72 (第 28 図)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 12cm、深さ 15cm を測る。掘方の断面形は筒状に近い。

[検出状況・埋土] II層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 73 (第 28 図)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 20cm、短径 17cm、深さ 23cmを測る。掘方の断面形は筒状に近い。

[検出状況・埋土] II層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。最深部に径 6cmの木杭が打ち込まれている。

[出土遺物・時期] 陶器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 74 (第 28 図)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。切り合いでは S K 61 に先行する。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 17cm、短径 16cm、深さ 22cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] S K 61 の底面より検出した。埋土は黒色シルトを基調とする。最深部に径 3cmの木杭が打ち込まれている。

[出土遺物・時期] 磁器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から江戸時代後期と推測する。

S P 75 (第 28 図)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。切り合いでは S K 61 に先行する。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 13cm、短径 11cm、深さ 10cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] S K 61 の底面より検出した。埋土は黒色シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から江戸時代後期と推測する。

S P 76 (第 28 図)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 17cm、深さ 43cmを測る。掘方の断面形は筒状に近い。

[検出状況・埋土] II層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。最深部に径 3cmの木杭が打ち込まれている。

[出土遺物・時期] 磁器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

遺構外出土遺物 (第 76 図、図版 33)

528～530は磁器である。528は平碗である。529は瀬戸・美濃系磁器の丸碗である。530は瀬戸・美濃系磁器の薄手酒杯である。531・532は陶器である。531は植木鉢の口縁部である。532は壺の高台部である。533・534は銭貨である。533は寛永通宝である。534は半銭銅貨である。535はガラス製品でおはじき(石蹴)である。

第 4 項 D 地点

D地点は現在の連雀通りの南側で、今回の調査範囲の東端部に位置する。現況は駐車場の前となっており、車の進入路を確保するため、調査は反転掘削で行った。アスファルト舗装除去後の碎石層直下には、戦災焼土層が層厚 10～40cm堆積している。戦災焼土層の下には、近代の整地層が互層状に堆積し、最下層には径 5cmの礫や瓦片が堆積している(I f 層)。I f 層の下には、調査地点の南端部で近世の包含層が確認できるものの、面的な広がり確認できず、地山となる。そのため遺構検出は地山上面で行った。D地点全体で土坑 6 基、小穴 11 基、集石遺構 7 基、建物跡 1 基を検出した。

S K 63 (第 32 図、図版 14)

[位置・重複] 調査地点の東壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分で長さ 51cm、幅 35cm、深さ 25cmを測る。掘方の断

面形は播鉢形であるが、南側にテラス状の段が付く。最深部には径 15cmの礫が 1つ据えられていた。

[検出状況・埋土] I f層を剥いだ地山上面で検出した。埋土はオリーブ黒色シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S K 64 (第 32 図、図版 14)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 43cm、短径 23cm、深さ 53cmを測る。掘方の断面形は方形に近い形状であるが、東端部が小穴状に突出する。

[検出状況・埋土] I f層を剥いだ地山上面で検出した。埋土はオリーブ黒色シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S K 98 (第 32 図、図版 14)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 48cm、短径 44cm、深さ 14cmを測る。掘方の断面形は皿状であるが、中央部が小穴状に突出する。

[検出状況・埋土] I f層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、径 3～5cmの礫や焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S K 99 (第 33 図、図版 14)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 60cm、短径 50cm、深さ 21cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I f層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S K 100 (廃棄土坑) (第 30・77・78 図、図版 14・34)

[位置・重複] 調査地点南壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形の全容は不明だが、検出部分で長さ 75cm、幅 35cm、深さ 15cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II e5層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色粘土を基調とする。下層は黒色シルトを基調とし、径 3cmの小礫を多量に含む。陶磁器片が多量に出土しており、これらを廃棄した土坑であると推測する。

[出土遺物] 磁器・陶器を中心として多量の遺物が出土した。そのうち 22 点を図示した。536・537・540・541・544～547 は肥前系磁器、538・539・542・543 は瀬戸・美濃系磁器である。536 は丸碗である。537 は～539 は端反碗である。540 は丸碗である。541 は筒形碗である。542 は端反碗である。543 は筒丸碗である。544 は丸形の皿である。545～547 は碗蓋である。548～557 は陶器である。548 は京・信楽系陶器の轆轤拳骨形碗である。549 は灯明受皿で、開口部を U 字状につくる瀬戸・美濃系陶器である。550 は瀬戸・美濃系陶器で丸形の片口か。551 は明石・堺系陶器の播鉢の口縁部である。552 は甕の底部か。553 は算盤玉形の土瓶である。554 は丸形の土瓶か。555 は行平である。556・557 は土瓶蓋である。

[時期] 検出状況と出土遺物から、江戸時代後期から幕末期と推測する。

S K 101 (第 33 図、図版 14)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 60cm、幅 57cm、深さ 10cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I f層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 77 (第 33 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 25cm、短径 18cm、深さ 28cmを測る。掘方の断面形は播鉢状であるが、東側にテラス状の段が付く。

[検出状況・埋土] I f 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土はオリーブ黒色シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 78 (第 33 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 12cm、深さ 9cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I f 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土はオリーブ黒色シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 79 (第 33 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 11cm、深さ 20cmを測る。掘方の断面形は筒状である。

[検出状況・埋土] I f 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土はオリーブ黒色シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 94 (第 33 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 21cm、深さ 5cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I f 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 95 (第 33 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 18cm、短径 15cm、深さ 39cmを測る。掘方の断面形は筒状である。

[検出状況・埋土] I f 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 磁器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S P 96 (第 33 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 21cm、深さ 20cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I f 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 97 (第 29 図)

[位置・重複] 調査地点西壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形と推測する。検出部分で長径 45cm、短径 25cm、深さ 24cmを測る。掘方の断面形は播鉢状であるが、最深部が突出する。

[検出状況・埋土] I f 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層はオリーブ黒色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 98 (第 33 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 32cm、短径 25cm、深さ 15cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I f層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 99 (第 33 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 30cm、幅 27cm、深さ 3cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I f層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 100 (第 33 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 24cm、短径 22cm、深さ 13cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I f層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 101 (第 30 図、図版 14)

[位置・重複] 調査地点南壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形と推測する。検出部分では長径 74cm、短径 24cm、深さ 31cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I f層上面で検出した。埋土はオリーブ黒色砂を基調とし、径 10cmの礫を多量に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況より近代である。

S S 20 (集石遺構) (第 31 図、図版 14)

[位置・重複] 調査地点北壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形と推測する。検出部分で長さ 65cm、幅 60cm、深さ 1.15mを測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況] 表土掘削時に検出した。底面中央に厚さ約 12cmの方形の礎石が据えられ、その周りを径 10～15cmの礫で根固めしている。礎石の下には径 15cmの捨杭が確認できる。中央の蠟燭石が失われているが、蠟燭地業の基礎とみられる。S S 21～S S 24・S S 29・S S 30 と一連の遺構である可能性が高く、方形区画の建物を構成していたと推測する。S S 21 との芯々距離は約 1.3m、S S 30 との芯々距離は約 1.4mである。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況や一連の遺構との関連から、近代と推測する。

S S 21 (集石遺構) (第 31 図、図版 14)

[位置・重複] 調査地点北壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形と推測する。検出部分で長さ 90cm、幅 70cm、深さ 1.1mを測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況] 表土掘削時に検出した。底面中央に 1 辺 35～50cm、厚さ約 25cmの方形の礎石が据えられ、その周りを径 10～20cmの礫で根固めしている。礎石の下には径 16～20cmの捨杭が 3 本打ち込まれている。中央の蠟燭石が失われているが、蠟燭地業の基礎とみられる。S S 20・S S 22・S S 23・S S 24・S S 29・S S 30 と一連の遺構である可能性が高く、方形区画の建物を構成していたと推測する。S S 20 との芯々距離は約 1.3m、S S 22 北側の礎石との芯々距離は約 1.4mである。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況や一連の遺構との関連から、近代と推測する。

S S 22 (集石遺構) (第 32 図、図版 14)

[位置・重複] 調査地点東半部で検出した。切り合いでは S B 2 より新しい。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形と推測する。検出部分で長さ 1.53m、幅 86cm、深さ 43cmを測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況] I f層掘削時に検出した。底面中央に礎石が2つ並んで据えられている。北側の礎石は1辺約35cm、厚さ約23cmの方形を呈し、南側の礎石は長辺60cm、短辺45cm、厚さ32cmの長方形を呈す。礎石の周囲は径10～20cmの礫で根固めしている。礎石の下にはそれぞれ、径15～20cmの捨杭が3本ずつ打ち込まれている。何らかの建造物の基礎とみられる。S S 20・S S 21・S S 23・S S 24・S S 29・S S 30と一連の遺構である可能性が高く、方形区画の建物を構成していたと推測する。北側の礎石とS S 21の芯々距離は約1.4mで、南側の礎石とS S 23北側の礎石の芯々距離は約1.8mである。

[出土遺物・時期] 土器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況や一連の遺構との関連から、近代と推測する。

S S 23 (集石遺構) (第32図、図版14)

[位置・重複] 調査地点東半部で検出した。切り合いではS B 2より新しい。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形である。長さ1.4m、幅82cm、深さ45cmを測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況] I f層掘削時に検出した。底面中央に礎石が2つ並んで据えられている。北側の礎石は長辺約50cm、短辺約40cm、厚さ約24cmの長方形を呈し、南側の礎石は長辺50cm、短辺30cm、厚さ17cmの長方形を呈す。礎石の周囲は径10～20cmの礫で根固めしている。礎石の下にはそれぞれ、径15～20cmの捨杭が3本ずつ打ち込まれている。何らかの建造物の基礎とみられる。S S 20・S S 21・S S 22・S S 24・S S 29・S S 30と一連の遺構である可能性が高く、方形区画の建物を構成していたと推測する。北側の礎石とS S 22南側の礎石の芯々距離は約1.8mで、南側の礎石とS S 24の礎石の芯々距離は約1.5mである。

[出土遺物・時期] 土製品の細片が出土しているが、図示できない。検出状況や一連の遺構との関連から、近代と推測する。

S S 24 (集石遺構) (第32図、図版14)

[位置・重複] 調査地点南東隅に位置する。切り合いではS B 2より新しい。

[形状・規模] 東西65cm、南北70cmの範囲に、蠟燭石とそれを固める根石を検出した。崩落の危険性があったため、掘方の検出はできなかった。

[検出状況] 表土掘削時に蠟燭石の頭頂部を検出した。蠟燭石は1辺30cm、高さ94cmの角柱状を呈す。蠟燭石の周囲には径10～15cmの礫で根固めしている。蠟燭石の下には1辺40cm、厚さ24cmの方形の礎石が据えられている。さらに礎石の下には径20cmの捨杭が確認できる。蠟燭地業の基礎とみられ、S S 20～S S 23・S S 29・S S 30と一連の遺構である可能性が高い。これらと方形区画の建物を構成していたと推測する。S S 23南側の礎石との芯々距離は約1.5mである。

[出土遺物] 京・信楽系陶器の灯明受皿(558)1点が出土している。

[時期] 検出状況と一連の遺構との関連から、近代と推測する。

S S 29 (集石遺構) (第31図、図版14)

[位置・重複] 調査地点北西隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形と推測する。検出部分で長さ55cm、幅50cm、深さ1.12mを測る。掘方の断面形は方形に近い形状である。

[検出状況] 表土掘削時に蠟燭石の頭頂部を検出した。蠟燭石は高さ94cmの角柱状を呈す。蠟燭石の周囲には径10～15cmの礫で根固めしている。蠟燭石の下には厚さ15cmの方形の礎石が確認できる。調査地点が狭く、崩落の危険性があったため、断割り掘削はできず、捨杭の存在は確認できなかった。蠟燭地業の基礎とみられ、S S 20～S S 24・S S 30と一連の遺構である可能性が高い。これらと方形区画の建物を構成していたと推測する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況と一連の遺構との関連から、近代と推測する。

S S 30 (集石遺構) (第 31 図、図版 14)

[位置・重複] 調査地点北壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形と推測する。検出部分で長さ 70cm、幅 68cm、深さ 1.02mを測る。掘方の断面形は方形に近い形状である。

[検出状況] 表土掘削時に検出した。底面中央に方形の礎石が 2 段積まれていることが確認できる。礎石の周囲は径 10～20cmの礫で根固めしている。調査地点が狭く、崩落の危険性があったため、断割り掘削はできず、捨杭の存在は確認できなかった。蠟燭石が失われているが、蠟燭地業の基礎とみられる。S S 20～S S 24・S S 29 と一連の遺構である可能性が高く、方形区画の建物を構成していたと推測する。S S 20 との芯々距離は約 1.4mである。

[出土遺物・時期] 陶器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況や一連の遺構との関連から、近代と推測する。

S B 2 (集石遺構) (第 32 図、図版 14・15)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S S 22・S S 23・S S 24 に先行する。

[形状・規模] 布掘りの基礎であり、想定される平面形は口の字状である。南北の両端は調査区外へと延び、北端部は東側に直角に曲がる。検出部分は西側の辺と北西の角部分であり、長さ 4.7m、幅 55～80cm、深さ 40cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況] I f 層を剥いだ地山上面で検出した。溝内には径 10～45cmの礫が充填され、底面には径 12cmの丸太が 2 本、胴木として据えられ、径 10～20cmの礫で根固めされている。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・瓦辺が出土している。そのうち 2 点を図示した。559 は肥前系磁器で香炉の底部か。560 は軒棧瓦の瓦当部分である。

[時期] 切り合いと出土遺物から、近代の可能性はある。

遺構外出土遺物 (第 79 図、図版 34)

561・562・564・565 は肥前系磁器、563 は瀬戸・美濃系磁器である。561 は丸碗である。562 は筒形碗である。563 は木盃形の小坏である。564 は皿である。565 は蓋物である。566～568 は陶器である。566 は瀬戸・美濃系陶器のせんじである。567 は瀬戸・美濃系陶器の植木鉢である。568 は甕か。569 は土器で焙烙である。570 は軒棧瓦である。571 はミニチュア土器である。572・573 は寛永通宝である。574・575 は銅製の皿である。576 は碁石形石製品である。

第 5 項 E 地点

E 地点は現在の連雀町通りの北側で、今回の調査範囲の西端部に位置する。調査地点の北側には民家があり、調査地点の北端部が一部、民家の出入り口を塞ぐ位置にあり、車の出入口を確保する必要があった。そのため、E 地点北側の約 1.5mを甲府市教育委員会と協議の上、調査の対象外とした。E 地点では現地盤下 30～40cmまで、黒褐色砂や黒褐色砂質シルト、黒褐色粘土などを基調とする近代～現代の整地層 (I 層) が堆積している。これらの層を剥ぐと、黒褐色砂質シルトや黒色粘土、黒褐色砂などを基調とする近世の遺物包含層 (II 層) が堆積し、この下は地山となる。これらを剥ぎつつ、最終的に地山上面まで掘り下げて遺構検出を行った。E 地点全体で土坑 38 基、埋桶 5 基、小穴 19 基、集石遺構 6 基、石垣造りの溝 1 条、建物跡 1 基、溝状遺構 7 条を検出した。

S K 65 (第 38・80 図、図版 15・35)

[位置・重複] 調査地点南端部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径 82cm、短径 68cm、深さ 55cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物] 陶器の細片と銭貨が出土している。銭貨2点を図示した。577・578は寛永通宝である。

[時期] 検出状況と出土遺物から、近世と推測する。

S K 66 (第39・80図、図版15・35)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いではS P 88より新しい。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形である。長さ91cm、幅46cm、深さ16cmを測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況・埋土] II a1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層では黒色粘土を基調とし、にぶい黄褐色砂や焼土・炭化物を粒状に含む。下層では黒色粘土を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物] 磁器・陶器が出土している。2点を図示した。579は肥前系磁器の皿である。580は陶器の乗燭である。

[時期] 検出状況と出土遺物から、近世と推測する。

S K 67 (第39図、図版15)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径44cm、短径42cm、深さ10cmを測る。掘方の断面形は皿状であるが、北側にテラス状の段が付く。

[検出状況・埋土] II a1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S K 68 (第39図、図版16)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径45cm、短径42cm、深さ13cmを測る。掘方の断面形は擂鉢状である。

[検出状況・埋土] II a1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層では焼土ブロックが堆積し、その直下は炭化物とにぶい黄橙色砂が互層状に堆積している。最下層は黒褐色粘土を基調とし、被熱し固く締まる。土坑内で何らかの焼成作業が行われたと推測する。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S K 69 (第38・80図、図版16・35)

[位置・重複] 調査地点南端部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径63cm、短径68cm、深さ6cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は暗褐色砂質シルトを基調とし、にぶい黄橙色砂、ブロック状の焼土、粒状の炭化物を含む。

[出土遺物・時期] 瀬戸・美濃系陶器の丸碗(581)が1点出土している。検出状況と出土遺物から近世と推測する。

S K 70 (第39図、図版16)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形である。長さ68cm、幅53cm、深さ10cmを測る。掘方の断面形は皿状であるが、小穴状の落ち込みが各所に見られる。

[検出状況・埋土] II a1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層に焼土ブロックや炭化物が堆積し、下層は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S K 71 (第38図、図版16)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いではS K 77より新しい。

[形状・規模] 当初一つの土坑であると想定していたが、調査の結果、小穴(S K 71-1)と土坑(S K 71-2)の切り合いであることが分かった。S K 71-2がS K 71-1に先行する。S K 71-1の平面形は楕円形である。長径18cm、短径16cm、深さ36cmを測る。掘方の断面形は筒状に近い。S K 71-2の平面形は

楕円形である。長径 38cm、短径 35cm、深さ 30cmを測る。掘方の断面形は方形に近い。

[検出状況・埋土] II a1 層を剥いだ地山上面で検出した。S K 71-1 の埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。S K 71-2 の埋土は、上層では黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層では黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S K 72 (大型土坑) (第 41・80・81 図、図版 16・35)

[位置・重複] 調査地点西壁に接して検出した。切り合いでは S D 6 に先行し、S K 80 より新しい。

[形状・規模] 想定される平面形は隅丸方形であるが、北東の角が突出している。検出部分では長さ 2.6m、幅 1.3m、深さ 50cmを測る。掘方の断面形は播鉢状であるが、底面から北東角に向かって小階段状の狭い平坦面がある。土坑内への足掛かりとして地山を掘り込んで造り出したものと推定する。ある種の地下室として利用された可能性を考えたい。

[検出状況・埋土] I a6 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色細粒砂を基調とし、炭化物をブロック状に含む。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・瓦片・金属製品が出土している。そのうち 16 点を図示した。582 は肥前系磁器の皿である。583～588 は陶器である。583 は瀬戸・美濃系陶器せんじである。584 は瀬戸・美濃系陶器の皿である。585 は皿である。586 は灯明皿である。587 は灯明受皿で、開口部を凹字状につくる瀬戸・美濃系陶器である。588 は播鉢で、明石・堺系陶器か。589～592 はカワラケである。593 は棧瓦か。594～597 は金属製品である。594 は煙管の雁首である。595・596 は煙管の吸口である。597 は頭巻釘である。

[時期] 検出状況と出土遺物から、江戸時代後期と推測する。

S K 73 (第 39 図、図版 16)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径 90cm、幅 60cm、深さ 8cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II a1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色粘土を基調とし、砂・焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器・土器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S K 74 (第 39・81 図、図版 16・35)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形である。長さ 1.0m、幅 63cm、深さ 11cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II a1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色粘土を基調とし、砂・焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器・土器の細片と寛永通宝 (598) 1 点が出土している。検出状況から近世の可能性はある。

S K 75 (第 38・81 図、図版 16・35)

[位置・重複] 調査地点南端部に位置する。切り合いでは S K 77 より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径 57cm、短径 52cm、深さ 49cmを測る。掘方の断面形は播鉢状であるが、最深部が突出する。

[検出状況・埋土] II c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層では黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒褐色シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物] 陶器・土器の細片と金属製品が出土している。3 点を図示した。599・600 は寛永通宝である。601 は雁首銭である。

[時期] 検出状況から近世の可能性はある。

S K 76 (第 38 図、図版 16)

[位置・重複] 調査地点南壁に接して検出した。切り合いでは S P 81・S D 5 に先行する。

[形状・規模] 想定される平面形は隅丸方形であるが、西壁の一部が突出する。検出部分で長さ 2.0m、幅 85cm、深さ 26cm を測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況・埋土] II c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色粘土を基調とし、炭化物を粒状に含む。地山に似た土である。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S K 77 (第 38 図、図版 16)

[位置・重複] 調査地点南端部に位置する。切り合いでは S K 71・S K 75 に先行する。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形である。長さ 78cm、幅 34cm、深さ 10cm を測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況・埋土] II c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は暗褐色砂を基調とし、ブロック状の黒色粘土ブロックや粒状の焼土・炭化物を含む。

[出土遺物・時期] 陶器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S K 78 (第 39・81 図、図版 17・35)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径 64cm、短径 54cm、深さ 11cm を測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] II a1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] カワラケ (602) が 1 点出土している。検出状況から近世の可能性はある。

S K 79 (第 40・81 図、図版 17・35)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いでは S D 7 に先行する。

[形状・規模] 平面形は円形である。径 66cm、深さ 27cm を測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] I a6 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層では焼土・炭化物が堆積する。下層では黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器・土器の細片と寛永通宝 (603) が 1 点出土している。切り合いから江戸時代後期の可能性はある。

S K 80 (大型土坑) (第 36 図、図版 17)

[位置・重複] 調査地点西壁沿って検出した。切り合いでは S K 72・S D 6 に先行する。

[形状・規模] 平面形の全容は不明だが、想定される平面形は隅丸方形である。検出部分では長さ 2.4m、幅 55cm、深さ 1.14m を測る。掘方の断面形は方形に近いが、南壁と東壁がフラスコ状に立ち上がる。また底面で土坑状の落ち込みを 2 基検出している。北側の遺構は長さ 42cm、幅 18cm、深さ 40cm、南側の遺構は長さ 40cm、幅 12cm、深さ 32cm である。平面形はいずれも円形と推測する。

[検出状況・埋土] II a1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は 4 層に分かれるがいずれも黒色粘土を基調とする。上 2 層はブロック状の灰黄色粘土と粒状の炭化物を含む。下 3 層は緑灰色粘土ブロックを含む。いずれの土層も混入物が少なく、地山を掘り返して、そのまま埋め戻したような埋土で、短期間で人為的な埋め戻しが行われたと推測する。底面で検出した 2 基の土坑状遺構も同様な埋土であったが、締まりはゆるい。

[出土遺物・時期] 磁器・土器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況と切り合いから江戸時代後期の可能性はある。

S K 81 (第 43・81 図、図版 97・35)

[位置・重複] 調査地点北壁に接して検出した。切り合いでは S B 3 に先行する。

[形状・規模] 想定される平面形は隅丸方形である。検出部分では長さ 1.05m、幅 1.0m、深さ 18cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] S B 3 の下層で検出した。埋土は黒色シルトを基調とし、径 10 ～ 20cmの礫や炭化物を粒状に含む。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器が出土している。そのうち 13 点を図示した。604 ～ 608 は肥前系磁器である。604 ～ 606 は丸碗である。607 は小丸碗である。608 は桶形の鉢の高台部であり、そば猪口か。609 ～ 613 は陶器である。609 は丸碗である。610 は瀬戸・美濃系陶器の丸碗で、いわゆる尾呂茶碗である。611 は瀬戸・美濃系陶器で菊花形の皿である。612 は瀬戸・美濃系陶器の灯明皿である。613 は瓶である。614 ～ 616 は土器である。614 はカワラケである。615・616 は焙烙である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期と推測する。

S K 82 (第 41・82 図、図版 17・35)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径 76cm、短径 73cm、深さ 10cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a4 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色粘土を基調とし、にぶい黄褐色砂や焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物] 陶器・土器が出土している。そのうち 1 点を図示した。617 は土器で火鉢の脚部か。

[時期] 遺構の時期は不明である。

S K 83 (第 41 図、図版 17)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径 50cm、短径 48cm、深さ 17cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a4 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S K 84 (第 41・82 図、図版 17・35)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径 64cm、短径 45cm、深さ 8cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I a4 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器が出土している。1 点を図示した。618 は肥前系陶器の呉器手碗である。

[時期] 遺構の時期は不明である。

S K 85 (第 38・82 図、図版 17・35)

[位置・重複] 調査地点南端部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形はやや歪んだ隅丸方形である。長さ 94cm、幅 90cm、深さ 20cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は 4 層に分かれ、最上層は黒褐色砂を基調とし、ブロック状の焼土や粒状の炭化物を含む。2 層目は暗褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。3 層目は焼土や灰が堆積する。最下層は黒色粘土を基調とし、被熱し固く締まっている。土坑内で何らかの焼成作業が行われたと推測する。

[出土遺物・時期] 磁器の細片と聖宋元宝 (619) が出土している。検出状況から近世の可能性がある。

S K 86 (第 42・82 図、図版 17・35)

[位置・重複] 調査地点北壁に接して検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 想定される平面形は隅丸方形である。検出部分では長さ 1.0m、幅 96cm、深さ 42cmを測る。

掘方の断面形は播鉢状で、最下面が突出する。

[検出状況・埋土] I a4層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。下層は黒色シルトを基調とし、締まりのゆるい土である。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器が出土している。そのうち4点を図示した。620は肥前系磁器の小坏か。621～623は陶器である。621は瀬戸・美濃系陶器の腰鍔碗である。622は肥前系陶器の呉器手碗である。623は皿か。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期の可能性がある。

S K 87 (埋桶) (第42・82図、図版17・36)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いではS K 91・S K 92・S D 8より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径1.14m、短径1.05m、深さ78cmを測る。掘方の断面形は方形であるが、最下面が突出する。

[検出状況・埋土] I a4層を剥いだ地山上面で検出した。径76cmの桶の底板が据えられている。埋土は黒色砂を基調とし、桶の側板とみられる木片が堆積する。桶の周囲には地山に似た黒色粘土が堆積している。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・金属製品・木製品が出土している。そのうち14点を図示した。624～626は肥前系磁器である。624は丸碗である。625は丸形の皿である。626は辣蕪形の瓶である。627～634は陶器である。627は半球碗で、京・信楽系陶器か。628は筒形碗である。629は瀬戸・美濃系陶器の灯明受皿である。630は鉢である。631・632は瀬戸・美濃系陶器の播鉢である。633は鉢か。634は瀬戸・美濃系陶器の瓶の口縁部である。635は焙烙である。636は煙管の雁首である。637は漆器碗の蓋である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期と推測する。

S K 88 (第38図、図版17)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径60cm、短径45cm、深さ5cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II a1層を剥いだ地山上面で検出した。径34cmの碟が据えられている。礎石の可能性はあるが、周囲に対応する遺構は検出されなかった。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S K 90 (埋桶) (第42図、図版18)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。切り合いではS K 92・S K 95より新しい。

[形状・規模] 平面形は円形である。径70cm、深さ20cmを測る。掘方の断面形は筒状に近い。

[検出状況・埋土] I a4層を剥いだ地山上面で検出した。土坑内に桶が据えられている。桶は底板と側板が残存し、径52cmを測る。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S K 91 (第42・83図、図版18・36)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いではS K 87に先行し、S D 8より新しい。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ1.1m、幅1.0m、深さ35cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a4層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は3層に分かれ、最上層は黒色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。中層は黒褐色砂質シルトを基調とし、木片が堆積する。最下層は黒色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・木製品が出土している。そのうち9点を図示した。638～643は陶器で

ある。638 は丸碗である。639 は端反碗か。640 は皿の高台部か。641 は肥前系陶器の鉢か。642 は瀬戸・美濃系陶器の香炉である。643 は瀬戸・美濃系陶器の壺か。644 は土器で焙烙である。645・646 は木製品である。645 は無眼下駄である。646 は連歯下駄である。

[時期] 切り合いと出土遺物から、江戸時代中期～後期の可能性がある。

S K 92 (第 42 図、図版 18)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。切り合いでは S K 87・S K 90 に先行する。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 62cm、幅 15cm、深さ 35cm を測る。掘方の断面形は方形に近い。

[検出状況・埋土] I a4 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒色粘土を基調とし、砂やブロック状の焼土、粒状の炭化物を含む。下層は黒色粘土を基調とし、砂や焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器の細片が出土しているが、図示できない。切り合いから江戸時代後期の可能性がある。

S K 93 (第 42・83・84 図、図版 18・36)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。切り合いでは S S 27 に先行する。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形である。長さ 1.3m、幅 1.0m、深さ 50cm を測る。掘方の断面形は擂鉢状であるが、壁際に溝状の落ち込みが巡る。また北側にはテラス状の段が付く。

[検出状況・埋土] S S 27 の下層で検出した。埋土は黒色粘土を基調とし、地山を掘り返してそのまま埋めたかのような埋土で、壁面や底面の検出は困難であった。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・木製品が出土している。647・649 は肥前系磁器、648 は瀬戸・美濃系磁器である。647 は平碗である。648 は端反形の小坏である。649 は丸形の皿である。650・651 は陶器である。650 は肥前系陶器の呉器手碗である。651 は丸碗である。652～654 は土器である。652 はカワラケである。653 は焜炉である。654 は焙烙である。655・656 は木製品である。655 は樽の蓋板である。656 は箸である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期～幕末期と推測する。

S K 94 (第 43 図、図版 18)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形である。長さ 1.02m、幅 64cm、深さ 17cm を測る。掘方の断面形は方形に近い。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 土器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S K 95 (第 42・84 図、図版 18・36)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。切り合いでは S K 90・S K 96 に先行する。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 1.1m、幅 1.0m、深さ 22cm を測る。掘方の断面形は擂鉢状であるが、東側にテラス状の段が付く。

[検出状況・埋土] I a4 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒色シルトを基調とし、締めりのゆるい土である。

[出土遺物] 磁器・陶器・銭貨が出土している。そのうち 6 点を図示した。657・658 は肥前系磁器である。657 は丸碗である。658 は丸形の皿である。659～661 は陶器である。659 は碗の高台部か。660 は瀬戸・美濃系陶器で半胴形の甕である。661 は土鍋である。662 は寛永通宝である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期の可能性がある。

S K 96 (埋桶) (第 42・84 図、図版 18・36)

[位置・重複] 調査地点北壁に接して検出した。切り合いでは S K 95 より新しい。

[形状・規模] 想定される平面形は円形である。検出部分では径 70cm、深さ 25cm を測る。掘方は、底面は平坦で、桶に沿って筒状に立ち上がる。

[検出状況・埋土] I a4層を剥いだ地山上面で検出した。桶は底板と側板が残存し、径60cmを測る。埋土は黒色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器の細片と煙管の吸口(663)が出土している。遺構の時期は不明である。

S K 97 (第43図、図版18)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いではS S 27に先行する。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形である。長さ72cm、幅67cm、深さ12cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] S S 27の下層で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、径3～5cmの礫を多量に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S K 102 (第43図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径41cm、短径36cm、深さ7cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I a1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S K 103 (第43図、図版18)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径46cm、短径44cm、深さ1cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I a1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S K 104 (第37図、図版18)

[位置・重複] 調査地点東壁に接して検出した。切り合いではS K 105より新しい。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ64cm、幅64cm、深さ36cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a1層を剥いだII a4層上面で検出した。埋土は、上層では黒褐色砂を基調とし、径2～3cmの礫や焼土・炭化物を粒状に含む。下層では黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S K 105 (第37図、図版18)

[位置・重複] 調査地点東壁に接して検出した。切り合いではS K 104に先行し、S K 106より新しい。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ54cm、幅32cm、深さ20cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a1層を剥いだII a4層上面で検出した。埋土は、上層では黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層では黒色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S K 106 (第37図、図版18)

[位置・重複] 調査地点東壁に接して検出した。切り合いではS K 105に先行する。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ55cm、幅44cm、深さ12cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II a4層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層では暗褐色砂を基調とし、被熱を受け固く締まった土である。下層は黒色粘土を基調とし砂を含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S K 107 (第 37 図、図版 18)

[位置・重複] 調査地点南壁に接して検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 90cm、幅 20cm、深さ 12cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II a4 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器・土器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S K 108 (第 37 図、図版 18)

[位置・重複] 調査地点東壁に接して検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 90cm、幅 28cm、深さ 12cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II a4 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S K 109 (第 43 図、図版 18)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形である。長さ 52cm、幅 40cm、深さ 22cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S K 110 (埋桶) (第 37・84 図、図版 18・36)

[位置・重複] 調査地点東壁に接して検出した。切り合いでは S D 11 に先行する。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 72cm、幅 52cm、深さ 32cmを測る。掘方の断面形は筒状に近い。

[検出状況・埋土] S D 11 の下層で検出した。土坑内に桶の底板が残存している。検出部分での底板の径は 40cmを測る。埋土は黒褐色細粒砂を基調とする。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器の細片と煙管の吸口(664)が出土している。切り合いから江戸時代後期の可能性はある。

S K 111 (第 27・84 図、図版 19・36)

[位置・重複] 調査地点東壁に接して検出した。切り合いでは S D 10 に先行する。

[形状・規模] 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 60cm、幅 34cm、深さ 22cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] S D 10 の下層で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とする。

[出土遺物・時期] 頭巻釘(665)が 1 点出土している。遺構の時期は不明である。

S P 80 (第 36 図、図版 19)

[位置・重複] 調査地点西壁に接して検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 想定される平面形は円形である。検出部分では径 25cm、深さ 35cmを測る。掘方の断面形は筒状である。

[検出状況・埋土] II b1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 81 (第 44 図、図版 19)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。切り合いでは S K 76 より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 26cm、短径 17cm、深さ 5cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 82 (第 44 図)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 20cm、短径 18cm、深さ 19cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 83 (第 44 図)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 20cm、短径 17cm、深さ 3cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II c1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 84 (第 44 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 25cm、短径 21cm、深さ 17cmを測る。掘方の断面形は筒状である。

[検出状況・埋土] I a4 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 85 (第 44 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 22cm、短径 20cm、深さ 15cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a4 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 86 (第 45 図、図版 19)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 31cm、短径 28cm、深さ 15cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a4 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S P 87 (第 45 図、図版 19)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 18cm、短径 15cm、深さ 22cmを測る。掘方の断面形は筒状である。

[検出状況・埋土] II a1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 88 (第 45 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いでは S K 66 に先行する。

[形状・規模] 平面形は不整形で、検出部分では長さ 33cm、幅 27cm、深さ 10cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II a1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況と切り合いから、近世の可能性はある。

S P 89 (第 45 図、図版 19)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 24cm、短径 20cm、深さ 9cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] I a4 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S P 90 (第 41 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 14cm、短径 12cm、深さ 22cmを測る。掘方の断面形は筒状である。

[検出状況・埋土] I a4 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 91 (第 45 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 30cm、深さ 11cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] II a1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 92 (第 45 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 20cm、幅 15cm、深さ 17cmを測る。掘方の断面形は楕円状であるが、南側にテラス状の段が付く。

[検出状況・埋土] II a1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 93 (第 45 図、図版 19)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 14cm、幅 13cm、深さ 9cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] I a1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S P 102 (第 45 図、図版 19)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 41cm、短径 31cm、深さ 19cmを測る。掘方の断面形は楕円状であるが、南東隅に小穴状の落ち込みがある。

[検出状況・埋土] I a1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 103 (第 45 図、図版 19・36)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 34cm、幅 32cm、深さ 6cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I a1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 煙管の吸口(666)が1点出土している。遺構の時期は不明である。

S P 104 (第 43 図)

[位置・重複] 調査地点南東隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 30cm、短径 26cm、深さ 15cmを測る。掘方の断面形は播鉢状であるが、最深部が突出する。

[検出状況・埋土] II a4 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 105 (第 45 図)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 36cm、短径 24cm、深さ 12cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II a4 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 106 (第 45 図)

[位置・重複] 調査地点南東隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 34cm、短径 22cm、深さ 6cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II a4 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 107 (第 45 図、図版 19)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 31cm、短径 27cm、深さ 10cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a1 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土には多量の灰が堆積する。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S S 25 (集石遺構) (第 36 図、図版 19)

[位置・重複] 調査地点東壁に接して検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 東西 30cm、南北 32cmの範囲に集石を検出した。この範囲を S S 25 とした。

[検出状況] I a4 層を剥いだ地山上面で検出した。掘方の断面形は方形に近い。径 10cm前後の礫が敷き並べられている。礫の下に捨杭等はない。何らかの構造物の基礎の可能性はある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S S 26 (集石遺構・礎石) (第 39 図、図版 19)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 長さ 42cm、幅 32cm、厚さ 10cmの礫が据えられている。礎石の可能性はある。これを S S 26 とした。

[検出状況] II a1 層を剥いだ地山上面で検出した。掘方は検出されなかった。礫の下に捨杭等はない。礎石の可能性はあるが、周辺に対応する遺構は検出されなかった。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況により近世の可能性はある。

S S 27 (石垣造りの溝) (第 37 図、図版 19・36)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置し、南北方向に横断する。切り合いでは S K 93・S K 97・S D 6・S D 10・S D 11 より新しい。

[形状・規模] 検出部分で長さ 9.8m、幅 1.7m、深さ 75cmを測る。両側壁に間知石を積んだ石垣造りの溝である。径 10cm前後の胴木を 2 列平行に並べ、その上に長さ 40cm前後、幅 30～40cm、厚さ 20cm前後の間知石を据えて、径 5～10cmの礫を裏込めとして詰めている。東西で地山の掘り込み面の高さが違い、間知石の段数も異なる。西側は間知石を 2 段積んでいるが、東側は 1 段のみとなっている。溝の底にはコンクリートが敷かれていた。

[検出状況・埋土] 表土掘削時に検出した。調査地点を南北方向に横断し、調査区外へと延びる。溝内の埋土からはコンクリート片やプラスチック片などが出土している。近隣住民から、この場所にドブがあったとの証言も得られ、近年まで使用されていたことが分かる。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器が出土している。そのうち 3 点を図示した。667 は肥前系磁器の筒形碗である。668 は陶器の腰鍔碗である。669 は土器の焙烙である。

[時期] 検出状況と近隣住民の証言から、近代～現代と推定する。

S S 28 (集石遺構) (第 40 図)

[位置・重複] 調査地点中央部に位置する。切り合いでは S D 6 より新しい。

[検出状況] S D 6 の溝内で検出した。溝に沿って、径 10～40cmの礫が溝の両岸に並べられている。礫の下に胴木や捨杭等はない。この範囲を S S 28 とした。当初は S D 6 の両側壁に据えられた石列と考えていたが、向かい合う石の間隔が狭く、流路を塞いでしまうことから、別の遺構である可能性がある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の磁器は不明である。

S S 31 (集石遺構) (第 43 図、図版 20)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 東西 54cm、南北 45cmの範囲に集石を検出した。この範囲を S S 31 とした。

[検出状況] I a1 層を剥いだ地山上面で検出した。掘方の断面形は皿状である。径 5～20cmの礫を充填している。何らかの構造物の基礎の可能性があるが、周辺に対応する遺構は検出されなかった。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S S 32 (集石遺構・礎石) (第 43 図、図版 20)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 一辺約 30cm、厚さ 21cmの礫が据えられている。礎石の可能性がある。これを S S 32 とした。

[検出状況] I a1 層を剥いだ地山上面で検出した。掘方は検出されなかった。S S 33 と同じ直線上に並び、芯々距離は約 1.7mを測る。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S S 33 (集石遺構・礎石) (第 43 図、図版 20)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 長さ 32cm、幅 22cm、厚さ 22cmの礫が据えられている。礎石の可能性がある。これを S S 33 とした。

[検出状況] II a4 層を剥いだ地山上面で検出した。掘方は検出されなかった。S S 32 と同じ直線上に並び、芯々距離は約 1.7mを測る。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性がある。

S B 3 (建物跡) (第 36・84 図、図版 20・36)

[位置・重複] 調査地点北東隅に位置する。切り合いでは S K 81 より新しい。

[形状・規模] 建物の壁位置に掘られた布掘りの基礎であり、北端部と西端部は調査区外へ延びる。想定される平面形は口の字状である。検出部分では東西 3.4m、南北 1.4mを測る。溝の規模は幅 60cm、深さ

30cmを測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況] I a1層を剥いだI a4層上面で検出した。溝内には径10cm前後の礫が充填されている。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器が出土している。4点を図示した。670・671は磁器である。670は肥前系磁器の半球碗である。671は瀬戸・美濃系磁器で端反形の皿である。672・673は陶器である。672は丸形の小坏である。673は瀬戸・美濃系陶器の捏鉢である。

[時期] 検出状況から近代～現代に構築されたものと推測する。

S D 5 (第37図、図版20)

[位置・重複] 調査地点南壁に沿って検出した。切り合いではS K 76より新しい。

[形状・規模] 調査地点を東西方向に走り、西端部は調査区外へと延びる。検出部分では長さ6.3m、幅20cm、深さ20cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II c1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色シルトを基調とし、西側は多量の焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性がある。

S D 6 (第40・84～86図、図版20・37)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いではS S 27・S S 28に先行し、S K 72・S K 80より新しい。

[形状・規模] 調査地点を東西方向に走る。東端部はS S 27に切られ、西端部は調査区外へと延びる。溝の中央部でS D 8とS D 9に分岐する。検出部分では長さ6.5m、幅40～80cm、深さ8cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I a6層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は褐色細粒砂を基調とする。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・石製品が出土している。17点を図示した。674～681は肥前系磁器である。674・675は丸碗である。676・677は小丸碗である。678は丸碗である。679は丸形の皿である。680は桶形の鉢である。681は辣蕪形の瓶である。682～688は陶器である。682は碗の高台部か。683は瀬戸・美濃系陶器で腰鏝碗の高台部か。684は瀬戸・美濃系陶器の灯明受皿である。685・686は明石・堺系陶器の播鉢である。687は浅筒形の香炉である。688甕か。689はカワラケである。690は石白の下白である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期と推測する。

S D 7 (第40・86図、図版20・37)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いではS K 79に先行する。

[形状・規模] 調査地点を東西方向に走る。東端部は攪乱に切られ、西端部は調査区外へと延びる。西端部には径8cm前後の胴木を敷き、その上に径10～40cmの礫を並べて護岸をした痕跡が残る。溝の規模は、検出部分で長さ3.5m、幅80cm、深さ20cmを測る。掘方の断面形は方形に近い。

[検出状況・埋土] I a6層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・石製品・銭貨が出土している。6点を図示した。691は肥前系磁器の碗蓋である。692・693は瀬戸・美濃系陶器である。692は碗の高台部である。693は灯明受皿である。694は土器の焙烙である。695は寛永通宝である。696は砥石である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期の可能性がある。

S D 8 (第41・86図、図版20・37)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いではS K 87・S K 91より新しい。

[形状・規模] 調査地点を南北方向に走る。北端部は攪乱に切られ、南端部は攪乱を挟んで、S D 6と合流する。北側には護岸の痕跡がみられ、径6cm前後の胴木と根石とみられる径10cm前後の礫が残存している。溝の規模は、検出部分で長さ4.1m、幅52cm、深さ8cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I a4層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は灰黄褐色細粒砂を基調とする。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・石製品が出土している。7点を図示した。697・698は肥前系磁器である。697は端反形の小坏である。698は丸形の皿である。699～701は陶器である。699は碗の高台部である。700は半筒形の香炉である。701は鉢か。702・703は石製品である。702は石臼の上臼である。703は硯である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期と推測する。

S D 9 (第40・87図、図版20・37)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 調査地点を南西から北東方向に走る。北端部は攪乱に切られ、南端部はS D 6と合流する。溝の規模は、検出部分で長さ1.6m、幅43cm、深さ10cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I a4層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色細粒砂を基調とする。

[出土遺物] 磁器・陶器が出土している。5点を図示した。704・705は肥前系磁器の筒形碗である。706～708は瀬戸・美濃系陶器である。706は丸碗である。707は灯明受皿である。708は甕の口縁部である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期と推測する。

S D 10 (第44・87図、図版20・37)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いではS S 27に先行し、S K 111より新しい。

[形状・規模] 調査地点を東西方向に走る。東端部は調査区外へと延び、西端部はS S 27に切られる。護岸の痕跡がみられ、径10～30cmの礫が溝の両岸に並んでいる。礫の下に胴木等は検出されなかった。溝の規模は、検出部分で長さ3.1m、幅1.3m、深さ35cmを測る。掘方の断面形は播鉢状であるが、小穴状の落ち込みが各所にみられる。

[検出状況・埋土] I a1層を剥いだII a層上面で検出した。埋土は5層に分けられ、黒褐色砂や黒色砂質シルトを基調とする。埋土中に礫が混じることから、廃絶後に護岸が崩され、埋土が攪乱を受けたと推測する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器が出土している。14点を図示した。709～715は肥前系磁器である。709は丸碗である。710・711は小丸碗である。712・713は筒形碗である。714は瓶である。715は蓋物蓋である。716～719は陶器である。716は小杉碗である。717は瀬戸・美濃系陶器で木葉形の皿である。718は瀬戸・美濃系陶器で捏鉢の高台部か。719は瀬戸・美濃系陶器の瓶である。720・721はカワラケである。722は煙管の雁首である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期と推測する。

S D 11 (第44・87～89図、図版20・38)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いではS S 27に先行し、S K 110より新しい。

[形状・規模] 調査地点を東西方向に走る。東端部は調査区外へと延び、西端部はS S 27に切られる。護岸の痕跡がみられ、径10cm前後の胴木と根石とみられる径10cm前後の礫が残存している。溝の規模は、検出部分で長さ3.4m、幅0.8～1.3m、深さ36cmを測る。掘方の断面形は播鉢状であるが、底面はところどころに起伏がある。

[検出状況・埋土] I b1層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は5層に分けられ、黒褐色砂質シルトや黒色シルト、黒色砂を基調とする。埋土中に礫が混じることから、廃絶後に護岸が崩され、埋土が攪乱を受けたと推測する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・金属製品・石製品が出土している。34点を図示した。723～732は肥前系磁器である。723・724は小丸碗である。725～727は碗の高台部か。728は筒形碗である。729は仏飯器の碗部分である。730は丸形の皿である。731は桶形の鉢である。732は辣蕪形の瓶である。733～749は陶器である。733・734は瀬戸・美濃系陶器の碗である。735は瀬戸・美濃系陶器の天目茶碗である。736・737は瀬戸・美濃系陶器で丸形の片口である。738は明石・堺系陶器の播鉢である。739～741は瀬戸・美濃系陶器の播鉢である。742～744は瀬戸・美濃系陶器の植木鉢である。745は

鉢の高台部か。746 は胴筒形の壺である。747 は瀬戸・美濃系陶器で半胴形の甕である。748 は土瓶の底部である。749 は土鍋である。750・751 は土器である。750 は焙烙である。751 は置き竈か。752 は碁石形土製品である。753 は瓦質の土製品である。754 は頭巻釘である。755 は石臼の上臼である。756 は砥石である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期と推測する。

1号埋桶 (第40図)

[位置] 調査地点中央で桶の底板を検出した。

[検出状況] I a4層を剥いだ地山上面で検出した。底板の径は29cmを測る。掘方は検出されなかった。

[時期] 遺構の時期は不明である。

遺構外出土遺物 (第90～96図、図版39～41)

757～803は磁器である。757・758・760・762は肥前系磁器の丸碗である。759・761は瀬戸・美濃系磁器の丸碗である。763は肥前系磁器の半球碗である。764は肥前系磁器の小丸碗である。765・766は肥前系磁器の筒形碗である。767は瀬戸・美濃系磁器の端反碗である。768・769は肥前系磁器の端反碗である。770は平碗である。771・772は肥前系磁器の丸碗である。773は肥前系磁器の筒形碗である。774は瀬戸・美濃系磁器の端反碗である。775・776は瀬戸・美濃系磁器の筒丸碗である。777は瀬戸・美濃系磁器の薄手酒杯である。778は瀬戸・美濃系磁器で菊花形の紅皿である。779は肥前系磁器の仏飯器である。780～783は肥前系磁器で丸形の皿である。784は瀬戸・美濃系磁器で丸形の皿である。785は肥前系磁器で稜皿形の皿である。786は瀬戸・美濃系磁器で菊花形の皿である。787は肥前系磁器の蓋物である。788は肥前系磁器の段重である。789・790・792は肥前系磁器の瓶である。791は瀬戸・美濃系磁器の瓶である。793～795・797は肥前系磁器の碗蓋である。796は瀬戸・美濃系磁器の碗蓋である。798・801・802は肥前系磁器で豆腐形の水滴である。799・800は瀬戸・美濃系磁器で豆腐形の水滴である。803は集緒器である。804～854は陶器である。804・805は瀬戸・美濃系陶器の碗である。806・807は瀬戸・美濃系陶器の丸碗である。808は瀬戸・美濃系陶器の腰張形碗である。809・810は半球碗である。811～814は肥前系陶器の呉器手碗である。815・816は瀬戸・美濃系陶器の腰鏝碗である。817は肥前系陶器の刷毛目碗である。818は瀬戸・美濃系陶器のせんじである。819・820は瀬戸・美濃系陶器で丸形の小坏である。821・822は仏飯器である。823～827は瀬戸・美濃系陶器の灯明皿である。828は灯明皿である。829は瀬戸・美濃系陶器の灯明受皿である。830は容器付きの灯明受皿で、開口部をU字形につくる瀬戸・美濃系陶器である。831・834は瀬戸・美濃系陶器の鉢である。832・833は鉢である。835は合子か。836・837は瀬戸・美濃系陶器の片口である。838・839は瀬戸・美濃系陶器の片口か。840は瀬戸・美濃系陶器の捏鉢か。841～843は瀬戸・美濃系陶器の挿鉢である。844は明石・堺系の挿鉢である。845は肥前系陶器の香炉か。846は植木鉢である。847は円筒形の火鉢である。848は瀬戸・美濃系陶器の瓶掛である。849は鉢か。850は瓶である。851は爛徳利である。852は土鍋である。853は秉燭である。854は土瓶蓋である。855～864は土器である。855～857はカワラケである。858・859は火鉢か。860～862は焙烙である。863は鍋か。864は火消し壺の蓋である。865～869は土製品である。865は馬を模った人形である。866は大黒天を模った人形である。867は碁石形土製品である。868は・869は土鈴である。870～894は金属製品である。870は嘉祐通宝か。871～879は寛永通宝である。880は五銭銅貨である。881・882は一銭銅貨である。883は雁首銭である。884～888は煙管の雁首である。889は煙管の火皿である。890・891は煙管の吸口である。892は切羽である。893・894は頭巻釘である。895・896は石製品である。895は硯の破片か。896は碁石形石製品である。897～902はガラス製品である。897・898は瓶である。899はミニチュア容器である。900～902はおはじき(石蹴)である。903は筒状の骨角製品である。904～908は木製品である。904～906は連歯下駄である。907・908は箸である。

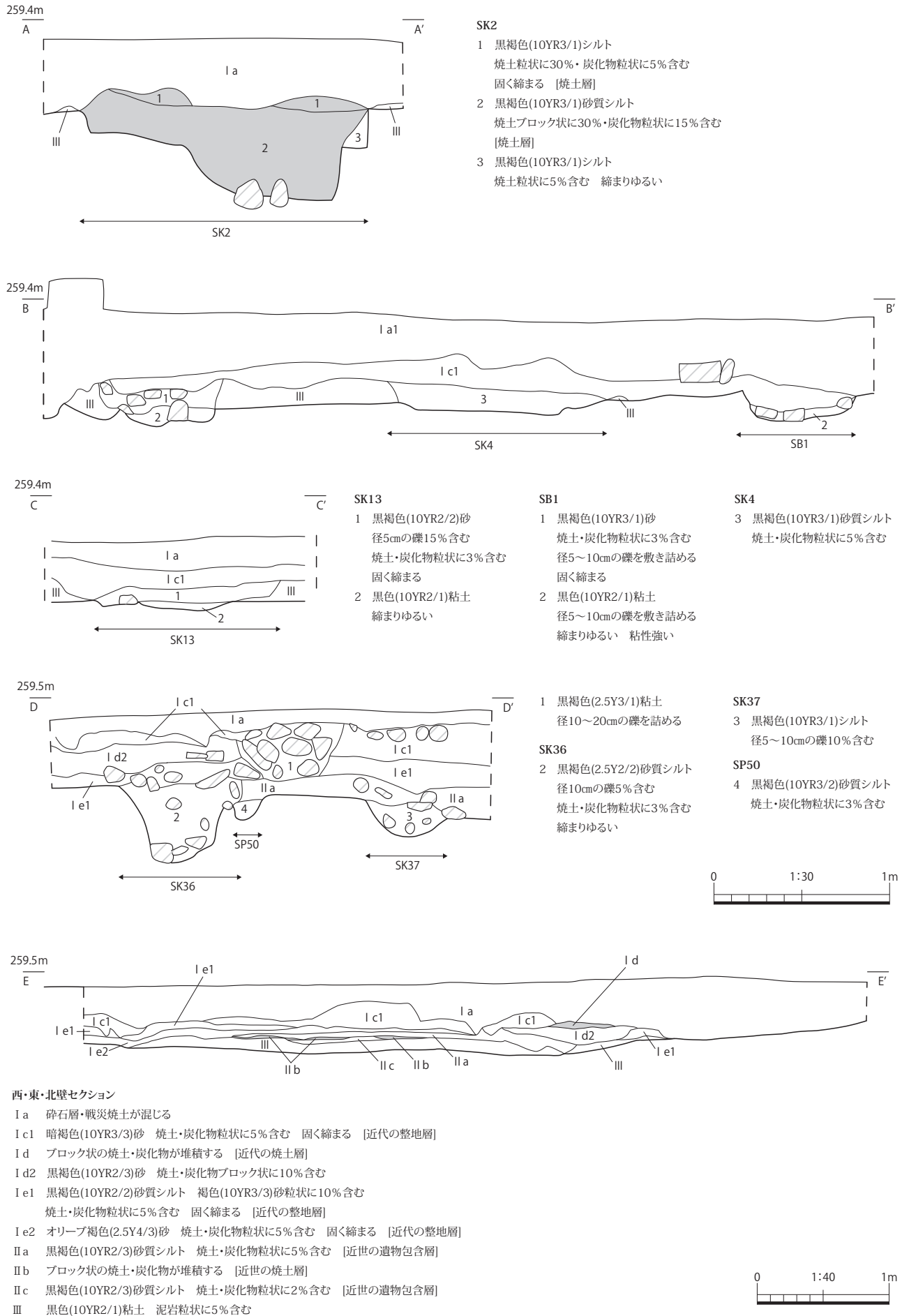


A地点上層遺構全体図

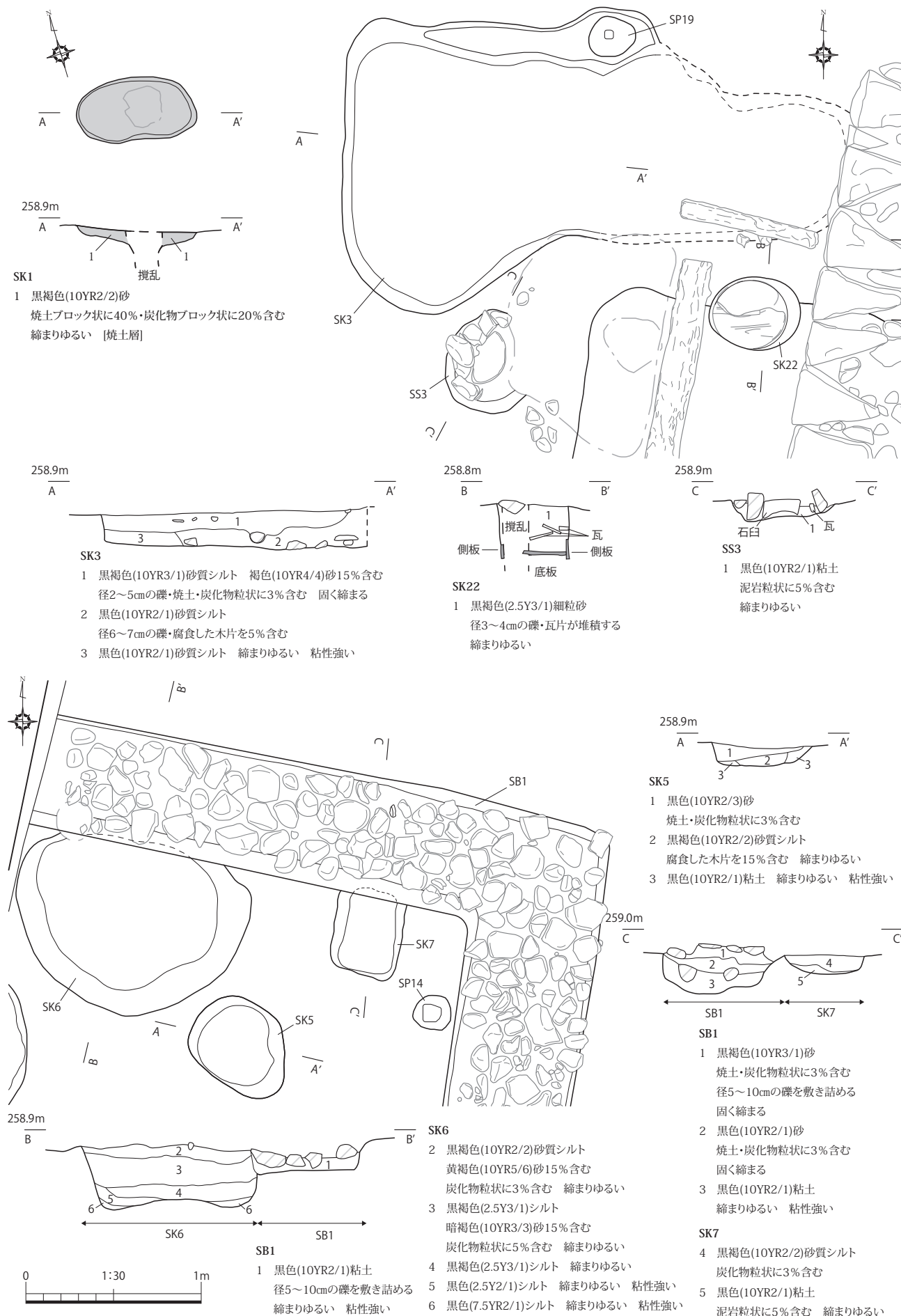
第6図 A地点(1)



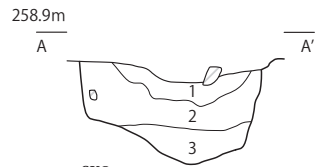
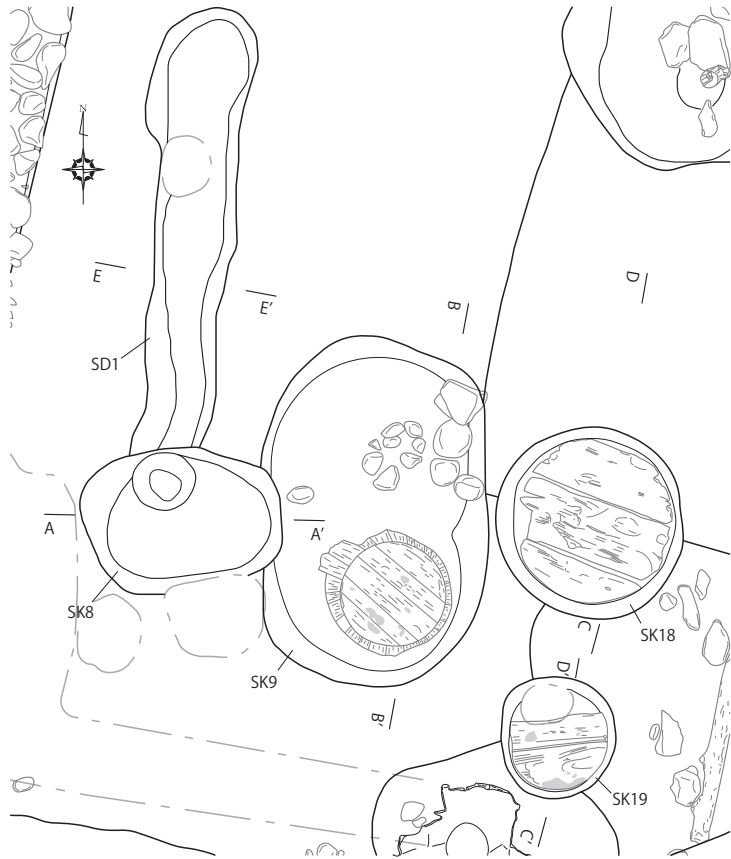
第7図 A地点(2)



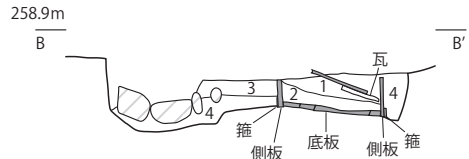
第8図 A地点(3)



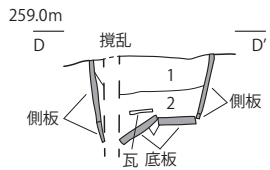
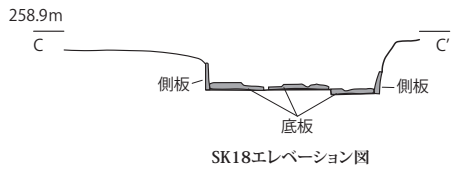
第9図 A地点(4)



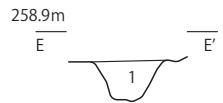
- SK8**
- 1 黒色(10YR2/1)粘土
泥岩粒状に5%含む
焼土・炭化物粒状に3%含む
縮まりゆるい
 - 2 黒色(5Y2/1)砂質シルト
砂・泥岩粒状に5%含む
焼土・炭化物粒状に3%含む
腐敗した木片が下層に堆積する
縮まりゆるい
 - 3 黒色(10YR2/1)粘土
泥岩粒状に5%含む
縮まりゆるい 粘性強い



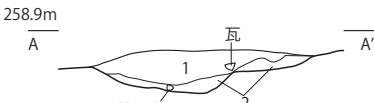
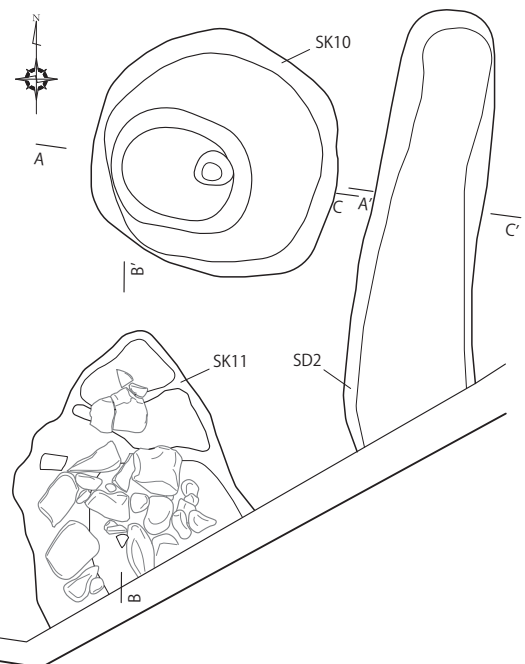
- SK9**
- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
径2~4cmの礫・瓦片が堆積する
炭化物粒状に5%含む
 - 2 にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粒砂
 - 3 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
径2~4cmの礫が混じる
炭化物粒状に5%含む
 - 4 黒褐色(2.5Y3/1)シルト 縮まりゆるい



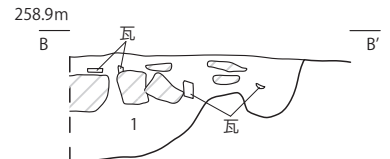
- SK19**
- 1 黒褐色(2.5Y3/1)砂
径3cmの礫・木片が堆積する
縮まりゆるい
 - 2 黒褐色(2.5Y3/2)粗粒砂



- SD1**
- 1 黒色(10YR1.7/1)粘土
泥岩粒状に5%含む
縮まりゆるい 粘性強い



- SK10**
- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に5%含む
 - 2 黒色(10YR2/1)粘土
泥岩粒状に5%含む 縮まりゆるい



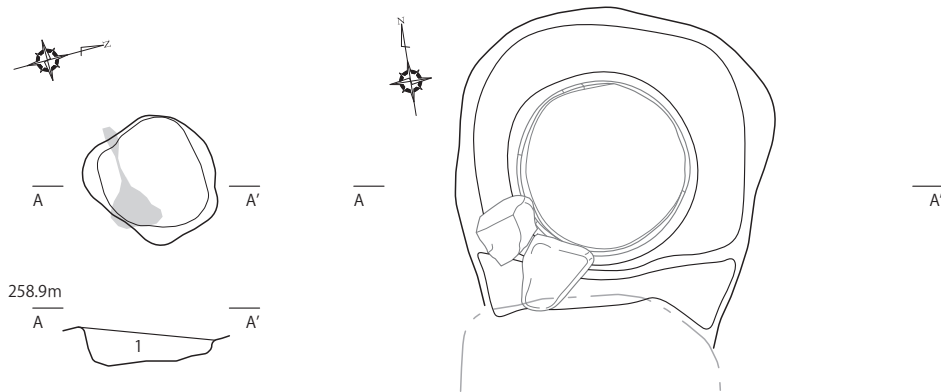
- SK11**
- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
径10~20cmの礫多量に堆積する
焼土・炭化物粒状に5%含む
縮まりゆるい



- SD2**
- 1 黒褐色(10YR2/2)砂
焼土・炭化物粒状に3%含む



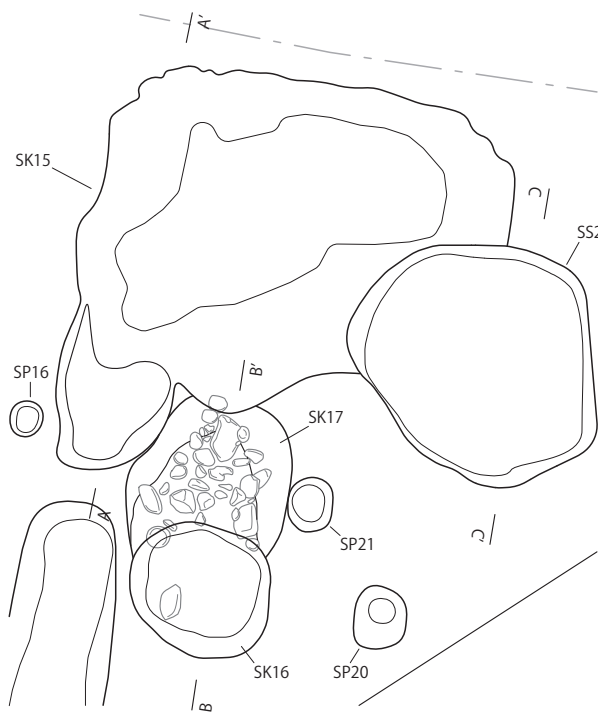
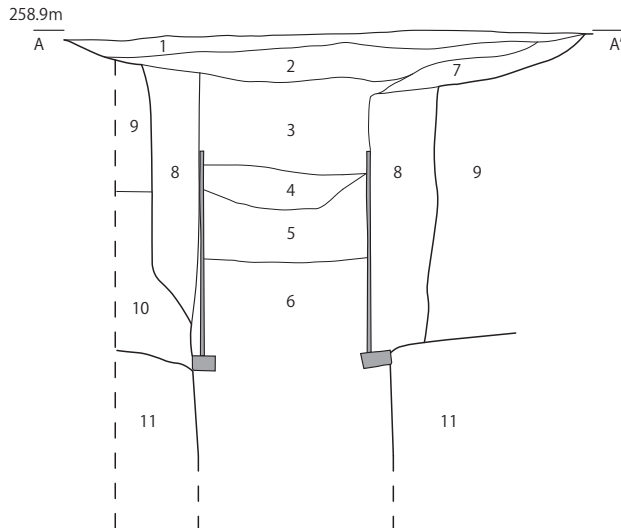
第10図 A地点(5)



SK12
 1 黒褐色(10YR2/3)砂
 焼土粒状に15%・炭化物粒状に10%含む
 縮まりゆるい

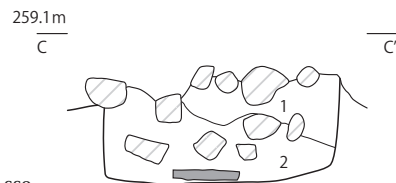
SK14

- 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂
焼土・炭化物粒状に3%含む
固く締まる
- 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂
焼土・炭化物粒状に3%含む
固く締まる
- 黒褐色(2.5Y3/2)砂質シルト
炭化物粒状に3%含む
縮まりゆるい
- オリーブ黒色(5Y3/1)砂質シルト
縮りゆるい 粘性強い
- 灰色(N4/0)シルト 縮まりゆるい 粘性強い
- 黒色(N2/0)シルト 縮まりゆるい 粘性強い
- 黒色(2.5Y2/1)粘土 縮まりあり
- 黒色(7.5YR2/1)粘土
灰色(N1.5/0)粘土ブロック状に30%含む
縮まりゆるい
- 黒色(10YR7/1)粘土
泥岩粒状に15%含む
縮まりゆるい [地山]
- 黒色(10YR1.7/1)粘土
灰色(N1.5/0)粘土20%含む
縮まりゆるい [地山]
- 灰色(N1.5/0)粘土 固く締まる [地山]



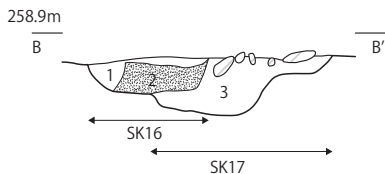
SK15

- 黒褐色(2.5Y3/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む
- 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む
径5~10cmの礫が堆積する 縮まりゆるい
- 黒色(10YR1.7/1)粘土 泥岩粒状に5%含む



SS2

- 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に3%含む
径10~20cmの礫が堆積する
- 黒色(10YR2/1)砂質シルト 砂・腐食した木片を多量に含む
径10~15cmの礫が堆積する 縮まりゆるい



SK16

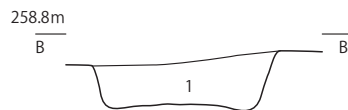
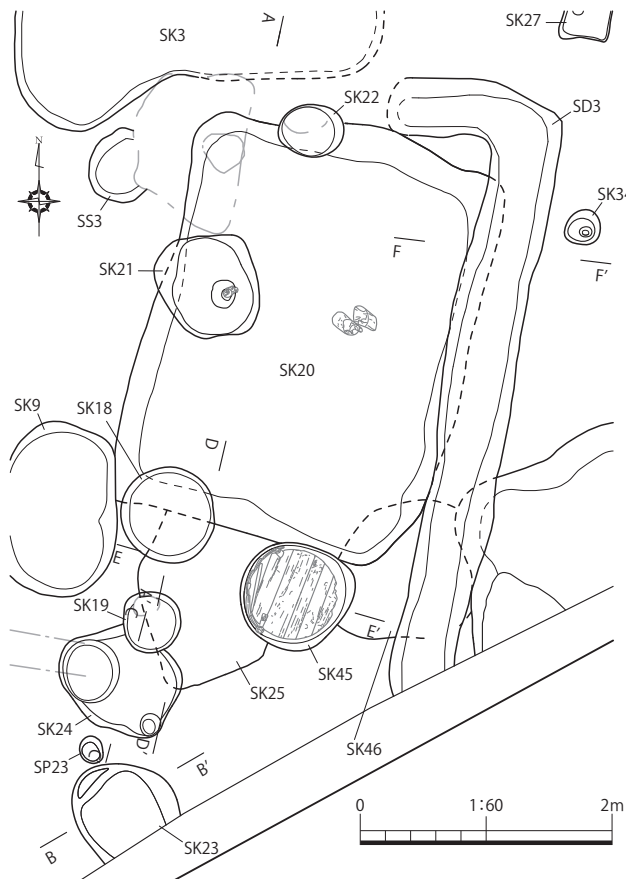
- 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土・炭化物粒状に10%含む 固く締まる
- 炭化物が堆積する 上層に焼土ブロックが堆積する 固く締まる

SK17

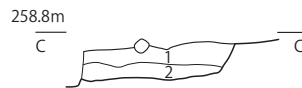
- 黒褐色(10YR2/3)砂 径5~10cmの礫が堆積する



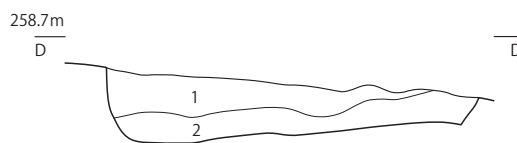
第11図 A地点(6)



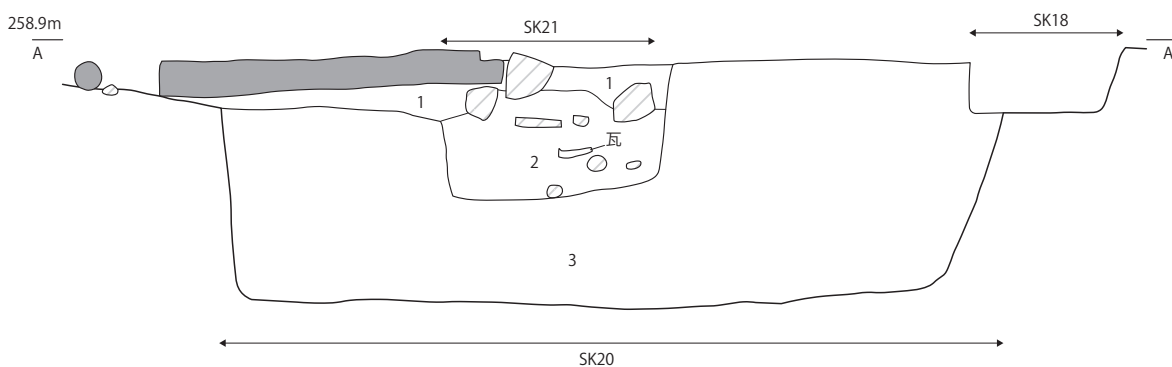
SK23
 1 黒色(10YR2/1)砂質シルト
 焼土粒状に3%含む



SK24
 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
 焼土・炭化物粒状に3%含む 縮まりゆるい
 2 黒色(10YR2/1)粘土
 泥岩粒状に5%含む 縮まりゆるい



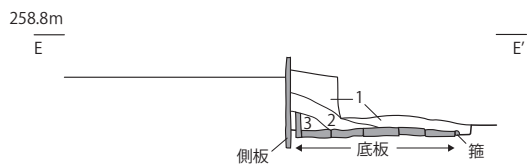
SK25
 1 黒色(2.5Y2/1)シルト 焼土・炭化物粒状に3%含む 縮まりゆるい
 2 黒色(5Y2/1)粘土 縮まりゆるい 粘性強い



1 黒色(10YR2/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に5%含む 縮まりゆるい

SK21
 2 黒色(2.5Y2/1)シルト 灰色(5Y4/1)粘土ブロック状に15%含む
 径10~20cmの礫・瓦片・木片が堆積する 縮まりゆるい 粘性強い

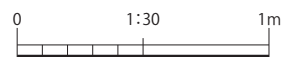
SK20
 3 黒色(10YR2/1)粗粒砂 焼土ブロック状に10%・炭化物粒状に5%含む



SK45
 1 黒褐色(10YR3/1)砂 径5cmの焼土ブロック5%含む 縮まりゆるい
 2 黒色(N1.5/0)粘土 縮まりゆるい 粘性強い
 3 黒色(10YR1.7/1)砂 縮まりゆるい



SD3
 1 黒褐色(10YR2/2)砂
 径4~5cmの礫15%含む
 固く締まる

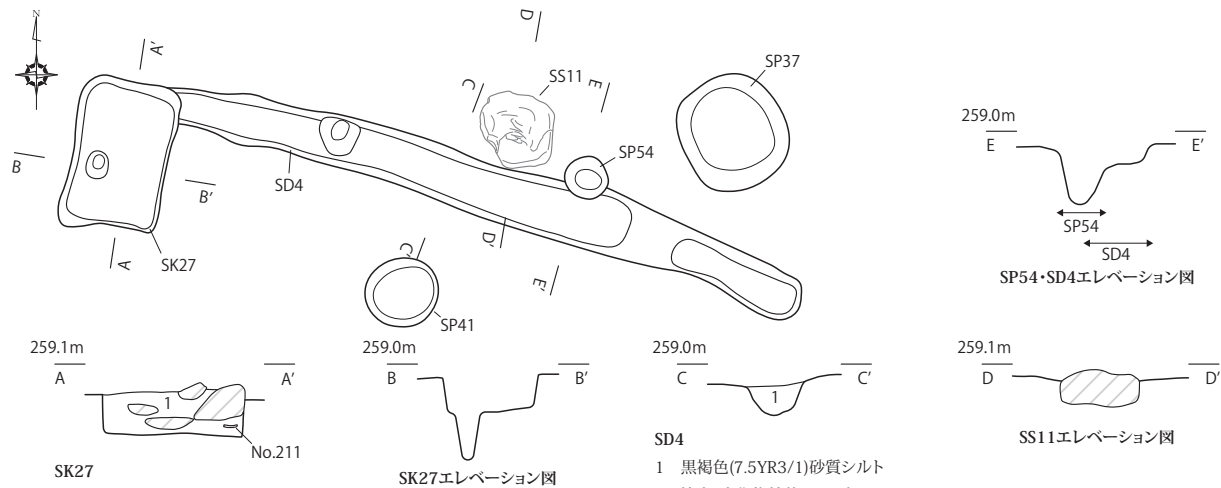


第12図 A地点(7)



SK26

1 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト 径2~3cmの焼土・炭化物ブロック状に20%含む 固く締まる (焼土層)

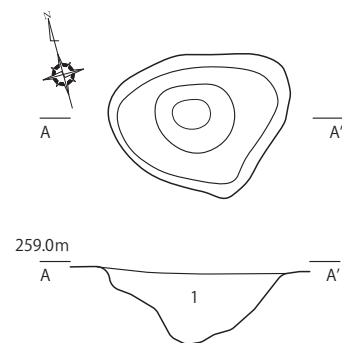


SK27

1 黒褐色(10YR2/2)シルト
焼土・炭化物粒状に5%含む
径10~20cmの礫が堆積する
固く締まる

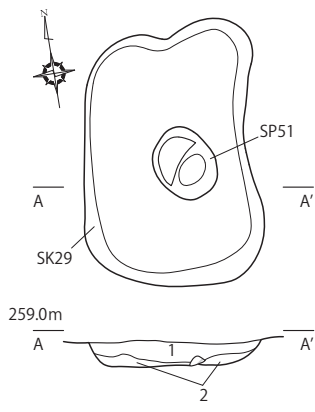
SD4

1 黒褐色(7.5YR3/1)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に3%含む
固く締まる



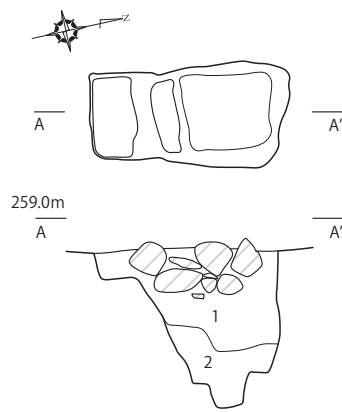
SK28

1 黒褐色(10YR2/2)シルト
焼土・炭化物粒状に3%含む



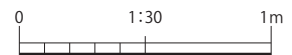
SK29

1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に5%含む 締まりゆるい
2 黒色(10YR2/1)粘土
泥岩粒状に5%含む 締まりゆるい

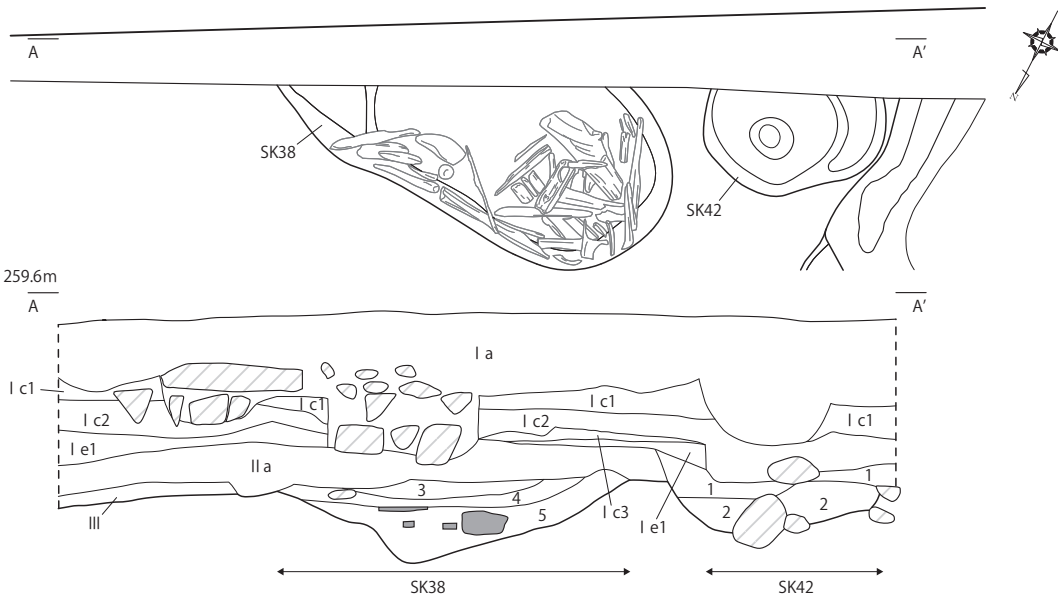
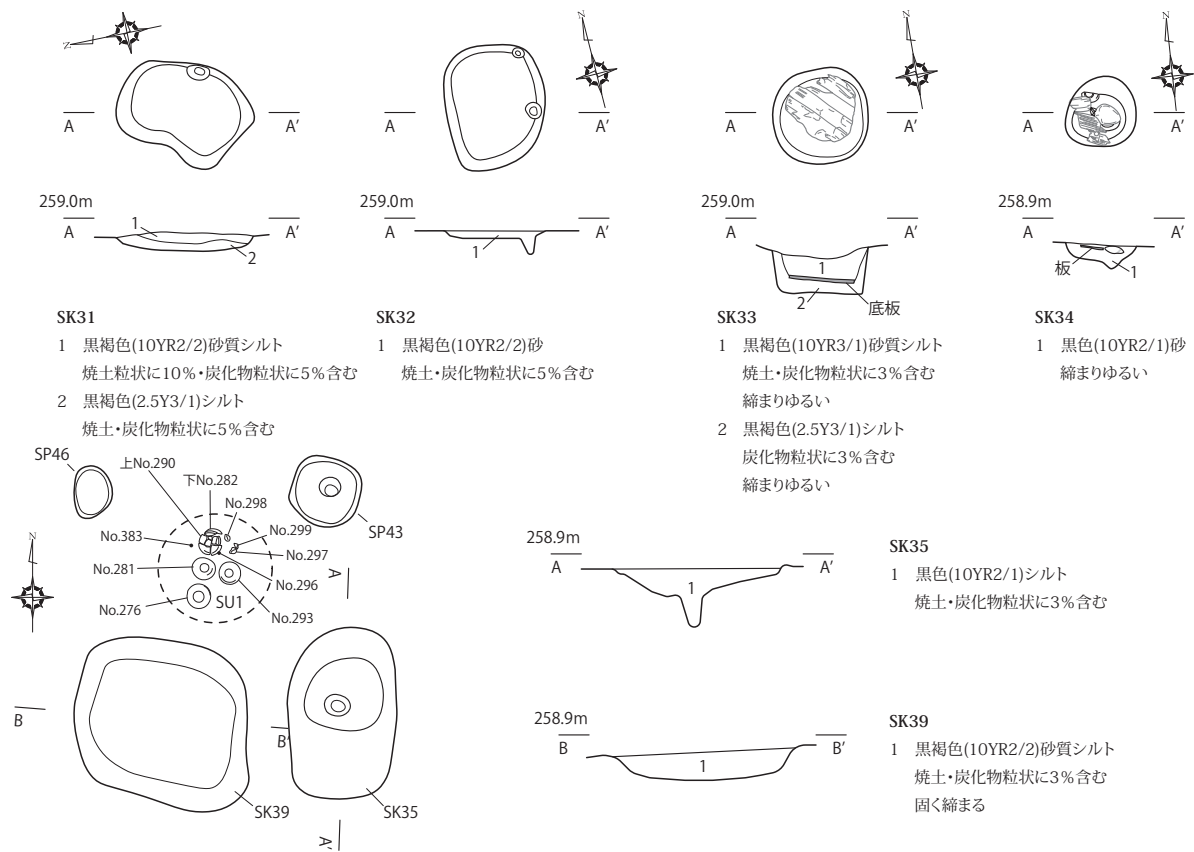


SK30

1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に5%含む
径10~20cmの礫が堆積する 締まりゆるい
2 黒色(10YR2/1)シルト 泥岩粒状に5%含む
締まりゆるい 粘性強い



第13図 A地点(8)



南壁セクション

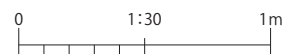
- I a 碎石層・戦災焼土が混じる
- I c1 暗褐色(10YR3/3)砂 焼土・炭化物粒状に5%含む 固く締まる [近代の整地層]
- I c2 黒色(7.5YR2/1)砂質シルト 褐色(10YR3/3)砂15%含む 焼土・炭化物粒状に5%含む 固く締まる [整地層]
- I c3 黒色(10YR2/1)粘土 焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる
- I e1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 褐色(10YR3/3)砂粒状に10%含む 焼土・炭化物粒状に5%含む 固く締まる [近代の整地層]
- II a 黒褐色(10YR2/3)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に5%含む [近世の遺物包含層]
- III 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に5%含む

SK42

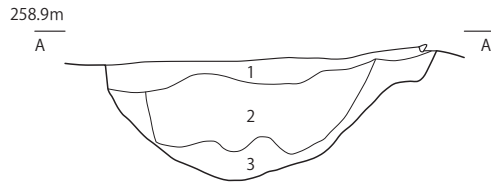
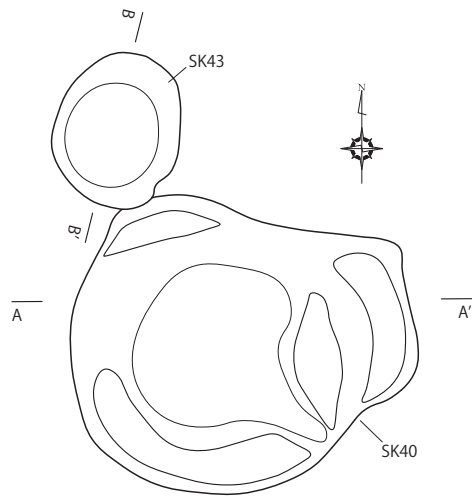
- 1 黒色(10YR2/1)粘土
- 2 黒褐色(10YR3/1)シルト 締めりゆるい

SK38

- 3 黒色(10YR2/1)砂 径2cmの焼土ブロック15%・炭化物粒状に5%含む 固く締まる
- 4 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に5%含む 締めりゆるい
- 5 黒色(2.5Y2/1)シルト 多量の木片が堆積する 締めりゆるい

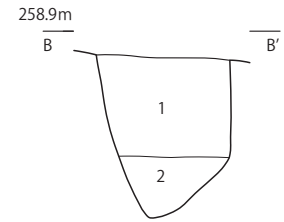


第14図 A地点(9)



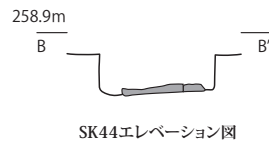
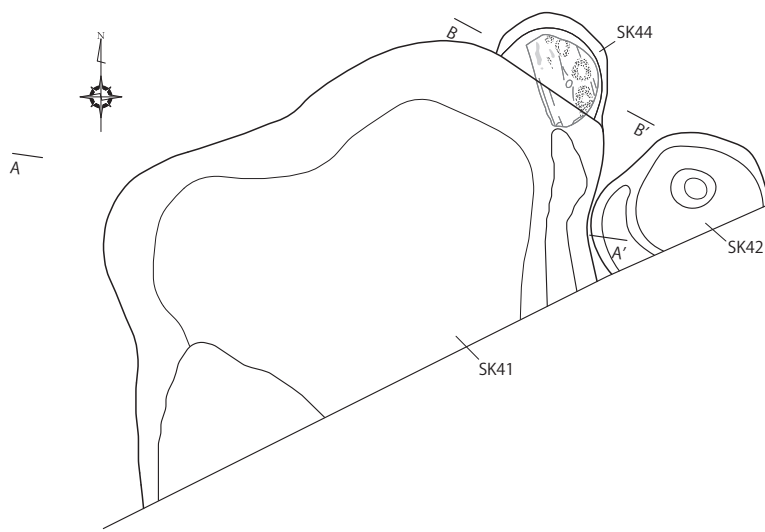
SK40

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂
黒色(10YR2/1)粘土ブロック状に15%含む
焼土・炭化物粒状に3%含む
- 2 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト
炭化物粒状に3%含む 縮まりゆるい 粘性強い
- 3 黒色(2.5Y2/1)粘土
泥岩粒状に5%含む 縮まりゆるい 粘性強い

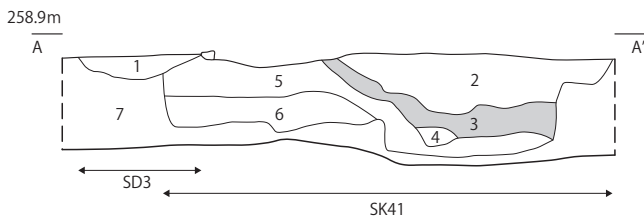


SK43

- 1 オリーブ黒色(5Y3/1)砂質シルト
縮まりゆるい 粘性強い
- 2 黒色(5Y2/1)シルト
縮まりゆるい 粘性強い



SK44エレベーション図

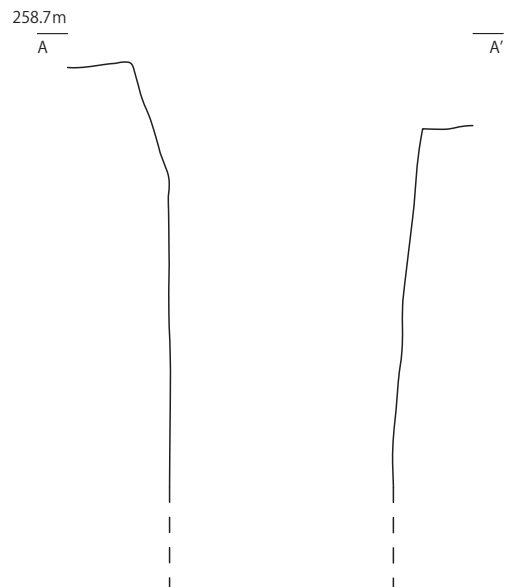


SD3

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂 径4~5cmの礫多量に含む 固く締まる (SS12の掘り方か)

SK41

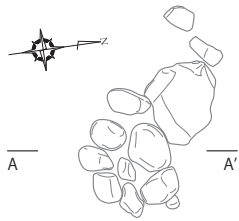
- 2 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に5%含む 砂・焼土粒状に3%含む 固く締まる
- 3 多量の焼土粒・炭化物粒が堆積する [焼土層]
- 4 黒色(10YR1.7/1)粘土 縮まりゆるい 粘性強い
- 5 黒褐色(10YR3/1)粘土 砂3%含む 縮まりゆるい
- 6 黒褐色(10YR3/1)粘土 砂3%含む 多量の木片が堆積する 縮まりゆるい
- 7 黒色(10YR1.7/1)粘土 泥岩粒5%含む [地山]



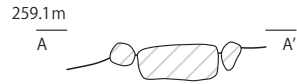
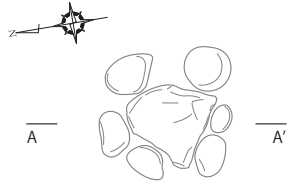
SK46エレベーション図



第15図 A地点(10)



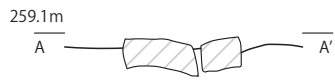
SS1エレベーション図



SS4エレベーション図



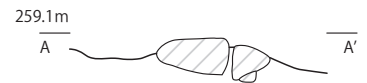
SS5エレベーション図



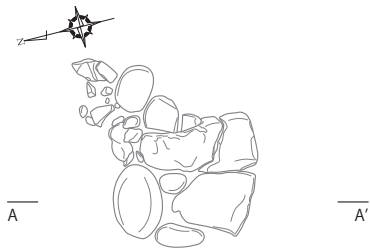
SS6エレベーション図



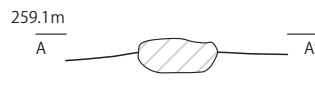
SS7エレベーション図



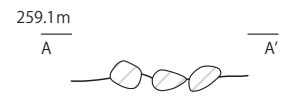
SS8エレベーション図



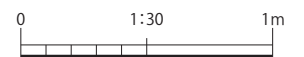
SS9エレベーション図



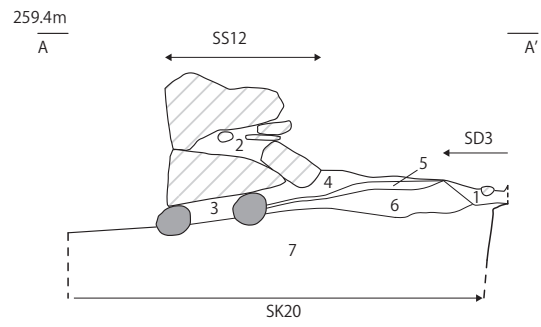
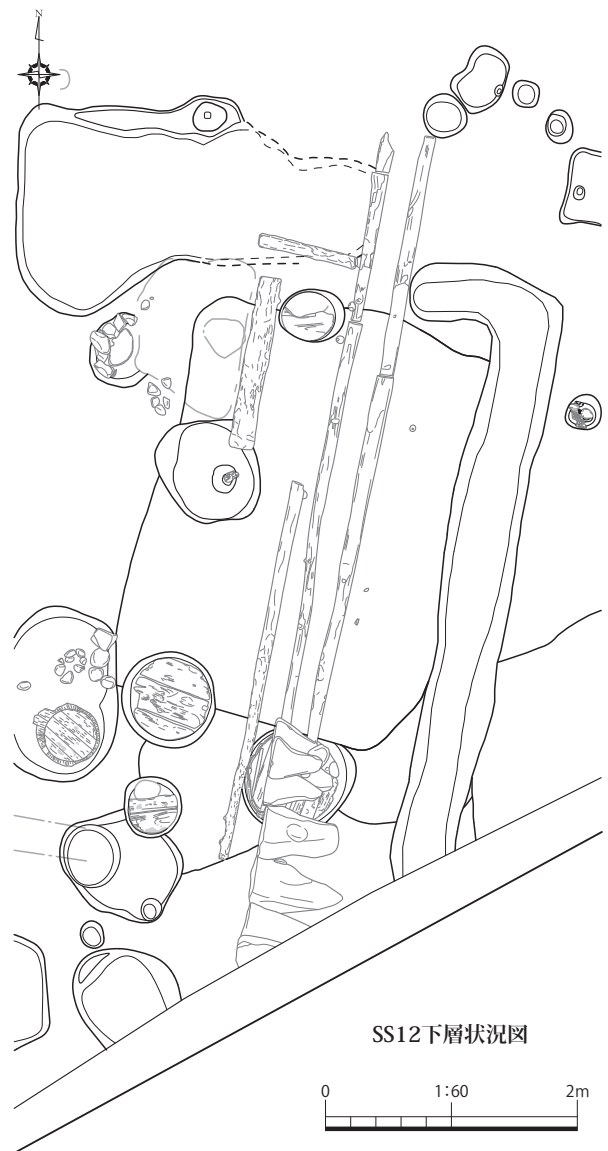
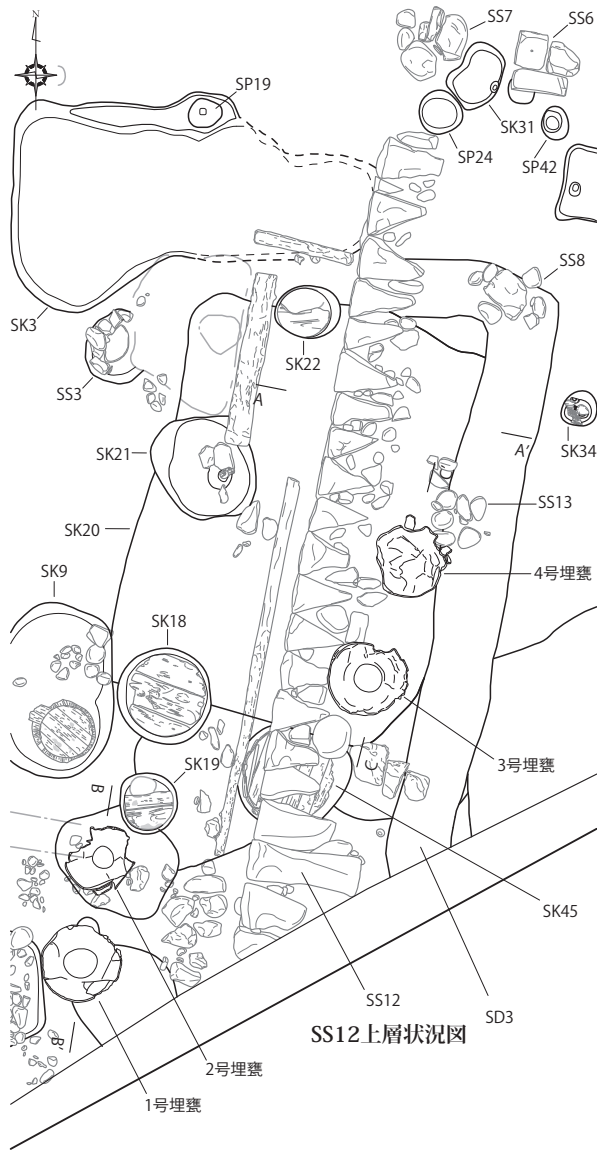
SS10エレベーション図



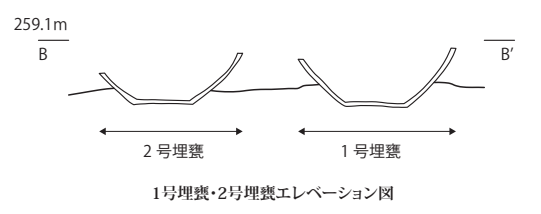
SS13エレベーション図



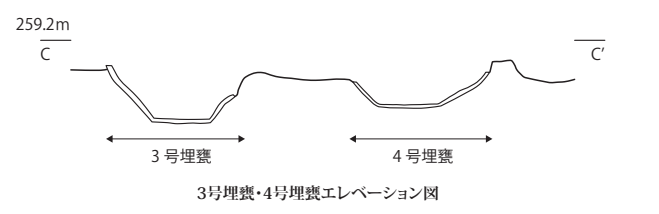
第16図 A地点(11)



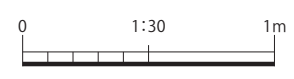
- SD3**
- 1 黒褐色(10YR2/2)砂
径4~5cmの礫多量に含む
固く締まる
 - 2 黒褐色(10YR2/1)シルト
炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい
 - 3 黒褐色(2.5Y3/1)砂
径10cm前後の礫・瓦片を詰める
 - 4 黒色(10YR2/1)粗粒砂
焼土ブロック状に10%・炭化物粒状に5%含む
 - 5 木質遺物が堆積する (おが屑か)
 - 6 黒色(10YR2/1)細粒砂 締まりゆるい
- SS12**
- 2 黄褐色(2.5Y5/3)粗粒砂
径5cmの礫・レンガ片を詰める
 - 3 黒褐色(2.5Y3/1)砂
径10cm前後の礫・瓦片を詰める
- SK20**
- 7 黒色(10YR2/1)粗粒砂
焼土ブロック状に10%・炭化物粒状に5%含む



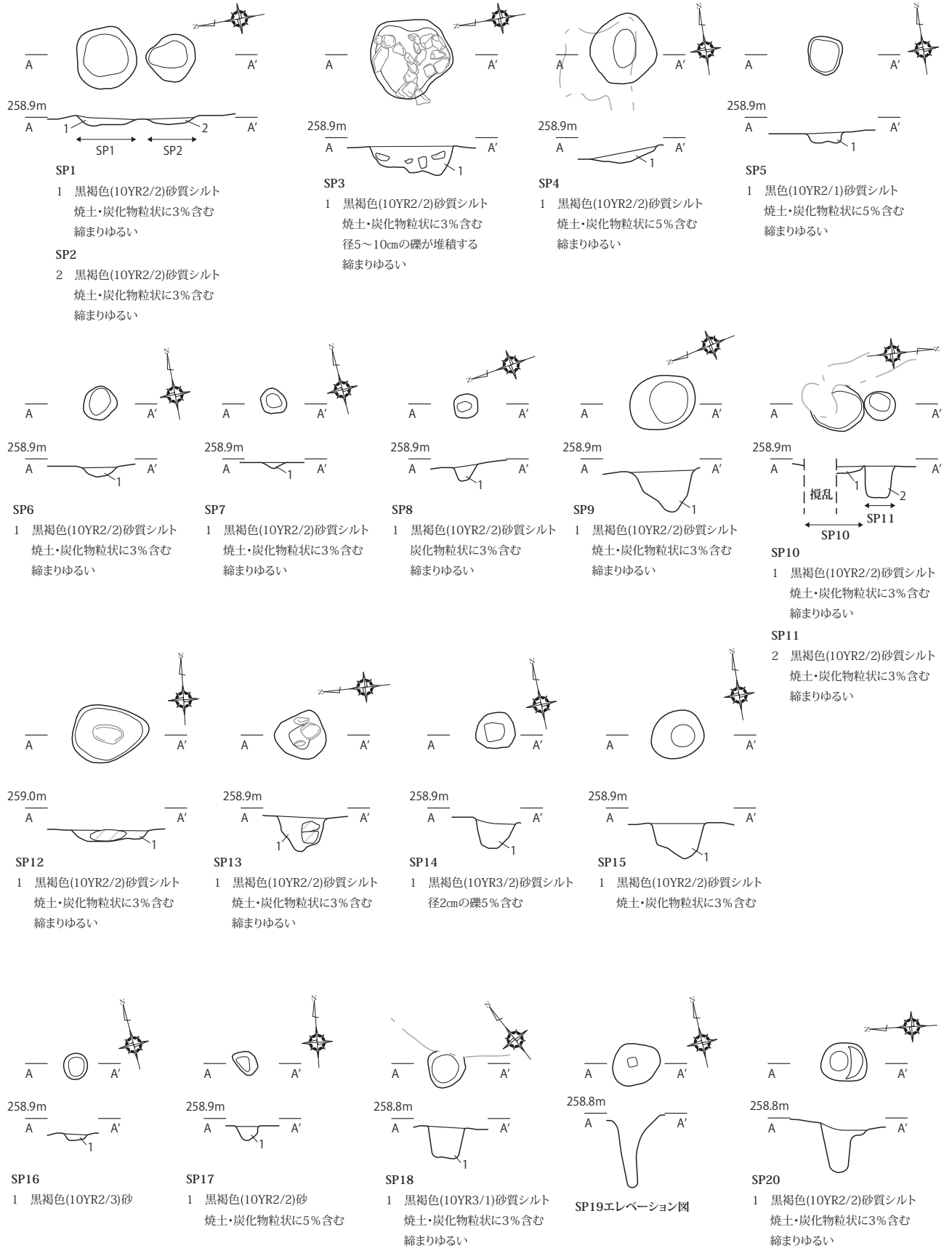
1号埋甕・2号埋甕エレベーション図



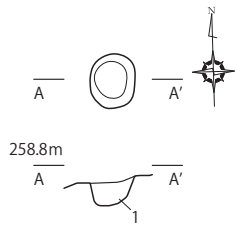
3号埋甕・4号埋甕エレベーション図



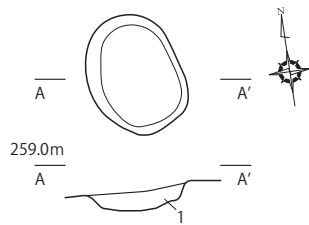
第17図 A地点(12)



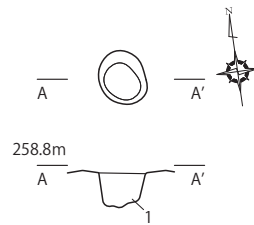
第18図 A地点(13)



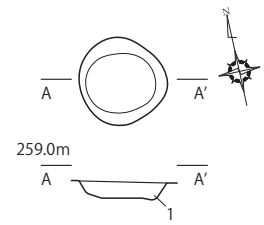
SP21
 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
 焼土粒状に10%・炭化物粒状に5%含む
 縮まりゆるい



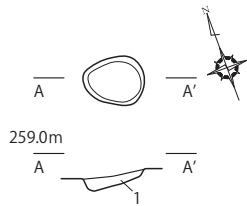
SP22
 1 黒褐色(2.5Y3/2)砂
 黒色(10YR2/1)粘土ブロック状に3%
 焼土・炭化物粒状に3%含む
 縮まりゆるい



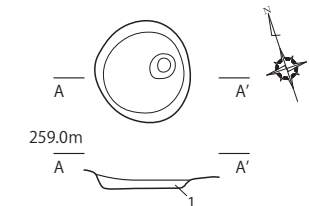
SP23
 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
 焼土・炭化物粒状に3%含む
 縮まりゆるい



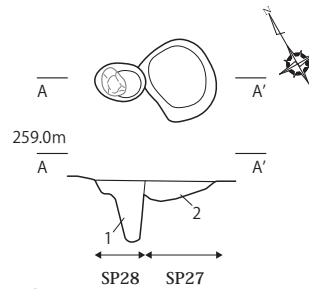
SP24
 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
 焼土・炭化物粒状に3%含む



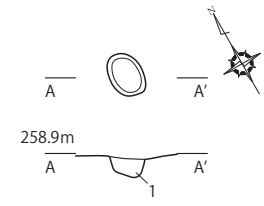
SP25
 1 黒色(10YR2/1)粘土
 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト30%含む
 焼土・炭化物粒状に3%含む
 縮まりゆるい



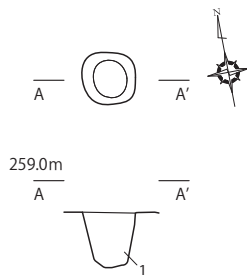
SP26
 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
 黒色(10YR2/1)粘土ブロック状に15%含む
 焼土・炭化物粒状に3%含む
 縮まりゆるい



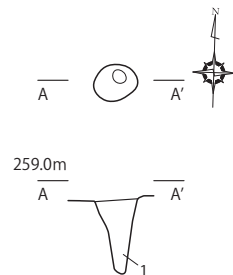
SP28
 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
 焼土・炭化物粒状に3%含む
SP27
 2 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
 焼土・炭化物粒状に3%含む



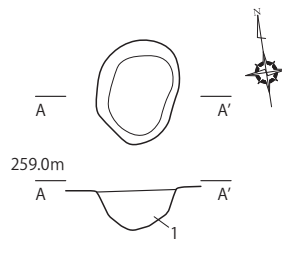
SP29
 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
 焼土・炭化物粒状に3%含む



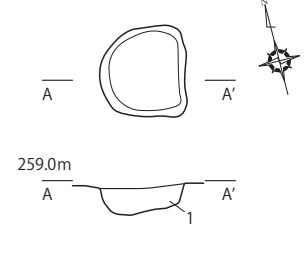
SP30
 1 黒褐色(10YR3/2)砂
 焼土粒状に15%・炭化物粒状に5%含む



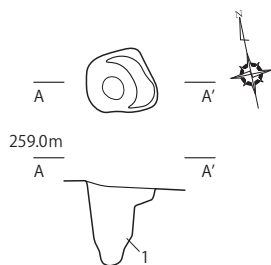
SP31
 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
 焼土・炭化物粒状に3%含む



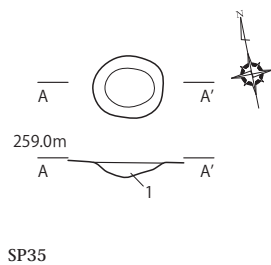
SP32
 1 黒褐色(10YR2/3)砂
 焼土・炭化物粒状に3%含む



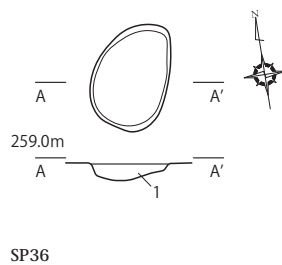
SP33
 1 黒褐色(10YR2/3)砂
 焼土粒状に5%・炭化物粒状に3%含む



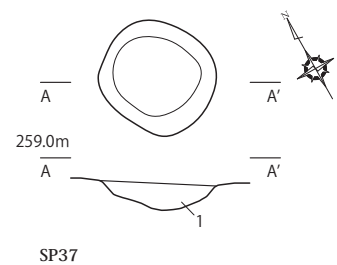
SP34
 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
 焼土粒状に5%・炭化物粒状に3%含む
 縮まりゆるい



SP35
 1 黒褐色(10YR3/2)砂
 焼土・炭化物粒状に3%含む
 固く縮まる



SP36
 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
 焼土・炭化物粒状に3%含む
 固く縮まる



SP37
 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
 焼土・炭化物粒状に2%含む
 固く縮まる



第19図 A地点(14)



259.0m
A — A'

SP38

1 黒褐色(10YR3/2)砂
焼土・炭化物粒状に3%含む
固く縮まる



259.0m
A — A'

SP39

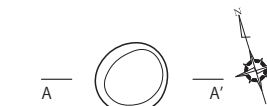
1 黒褐色(10YR2/2)砂
焼土粒状に10%・炭化物粒状に3%含む



258.9m
A — A'

SP40

1 黒褐色(10YR2/3)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に5%含む



259.0m
A — A'

SP41

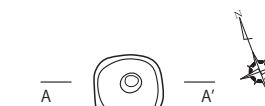
1 黒褐色(10YR2/2)シルト
焼土・炭化物粒状に3%含む



259.0m
A — A'

SP42

1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に3%含む



259.0m
A — A'

SP43

1 黒褐色(10YR2/3)砂
焼土・炭化物粒状に5%含む



259.0m
A — A'

SP44

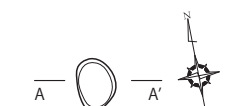
1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に2%含む



259.0m
A — A'

SP45

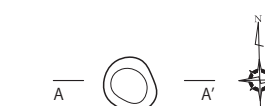
1 黒褐色(10YR2/3)砂
焼土・炭化物粒状に2%含む



259.0m
A — A'

SP46

1 暗褐色(10YR3/3)砂
焼土粒状に10%・炭化物粒状に5%含む



259.0m
A — A'

SP47

1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に2%含む



258.9m
A — A'

SP48

1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
径5~10cmの礫が堆積する
縮まりゆるい



259.0m
A — A'

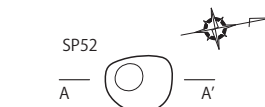
SP49エレベーション図



258.9m
A — A'

SP51

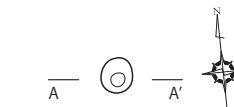
1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト
炭化物粒状に2%含む



259.0m
A — A'

SP52

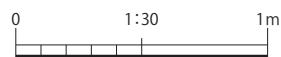
1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト
炭化物粒状に2%含む
縮まりゆるい



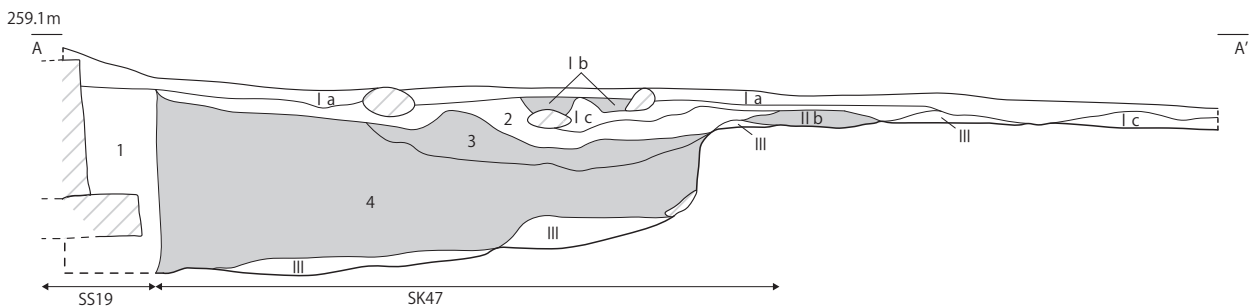
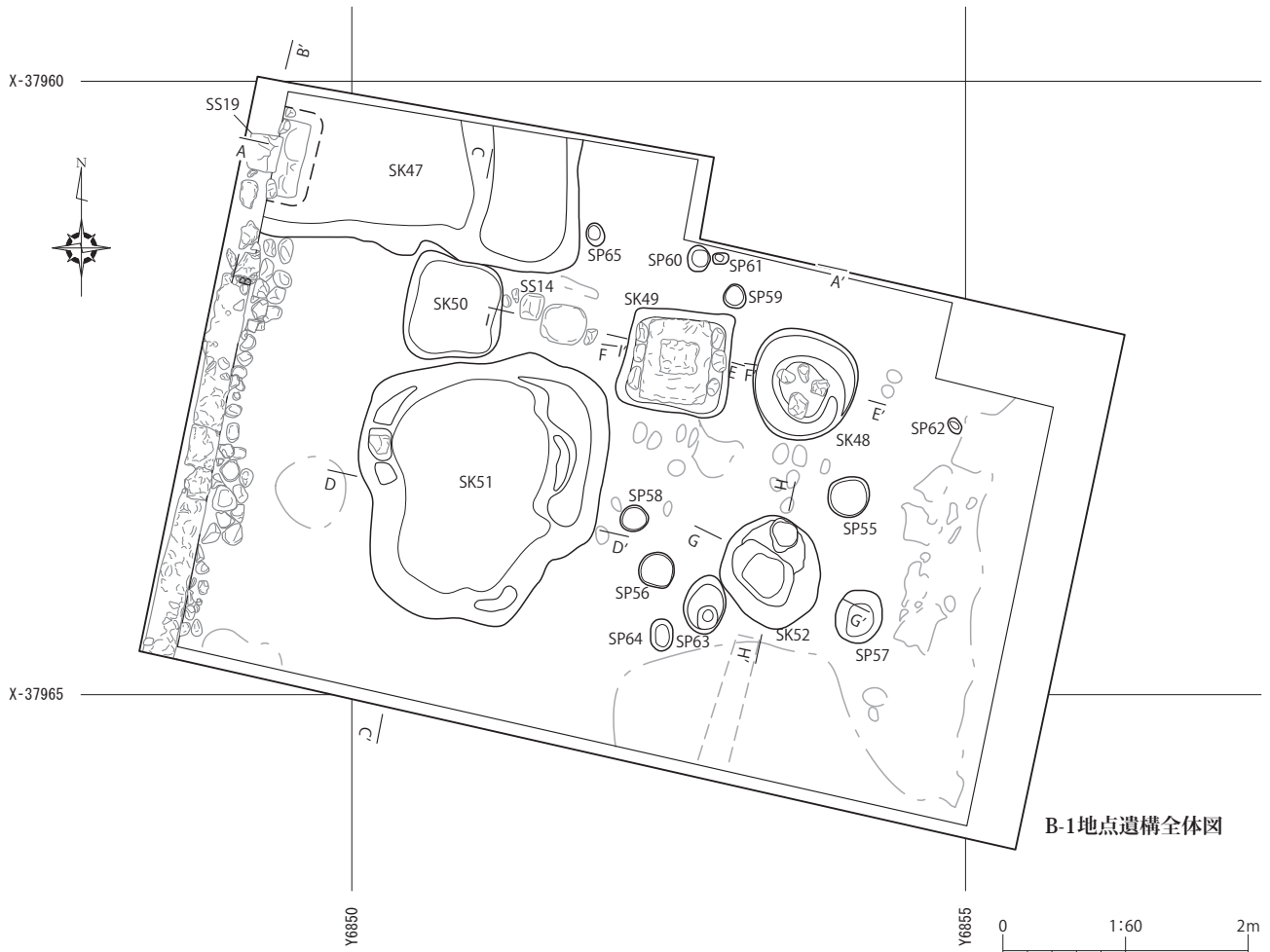
258.9m
A — A'

SP53

1 黒褐色(10YR3/1)シルト
焼土粒状に10%含む
縮まりゆるい



第20図 A地点(15)



北壁セクション

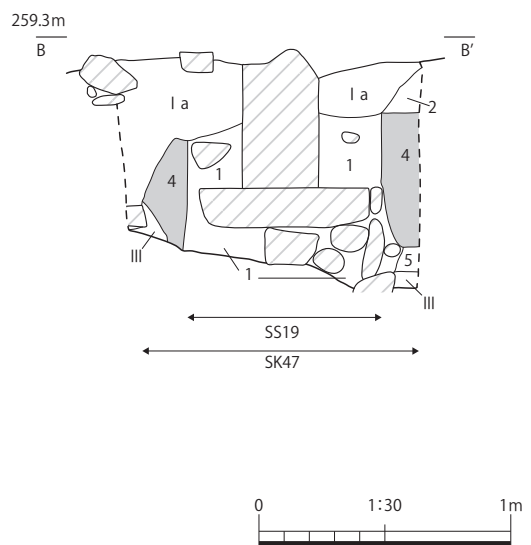
- I a 表土・碎石・近～現代の整地層
- I b 焼土・瓦片が堆積する [戦災焼土層]
- I c 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む
- II b 黒褐色(10YR3/1)砂 焼土ブロック状に15%・炭化物粒状に5%含む 固く締まる [近世の焼土層]
- III 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に15%含む 固く締まる [地山]

SS19

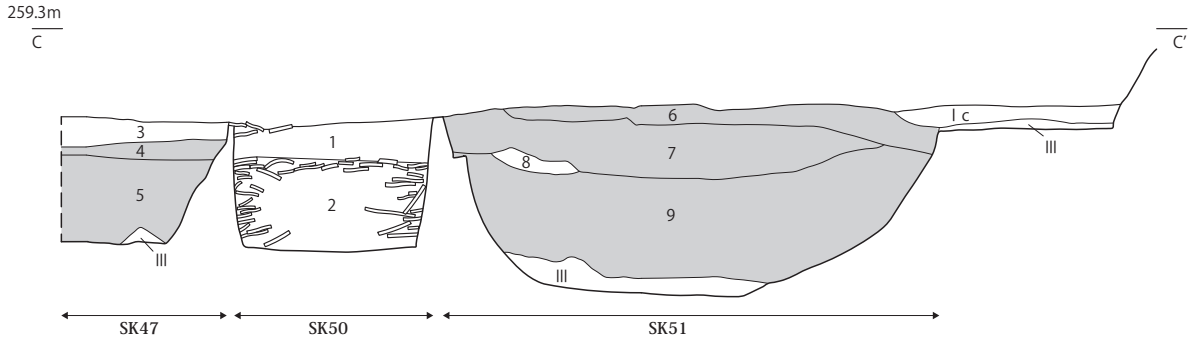
- 1 黒色(10YR2/1)粘土 焼土・炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい 粘性強い
径10～15cmの礫を敷き詰め、その上に厚さ約15cmの板石を敷き、
板石の中心に厚さ約30cm、長さ54cmの直方体の蠟燭石を据え、
径10～15cmの礫を敷き詰めて固定する。

SK47

- 2 黒色(10YR2/1)砂 焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる
- 3 黒褐色(10YR2/2)砂 径2cmの焼土ブロック10%・炭化物粒状に5%含む
- 4 黒色(10YR2/1)砂 径2cmの焼土ブロック15%・炭化物粒状に7%含む
- 5 黒色(2.5Y2/1)シルト 締まりゆるい 粘性強い



第21図 B地点(1)



I c 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む
 III 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に15%含む 固く締まる [地山]

SK50

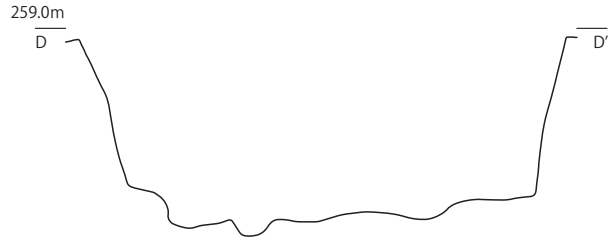
- 1 黒色(10YR1.7/1)粘土 締まりゆるい 粘性強い
- 2 多量の瓦片が堆積している

SK47

- 3 黒色(10YR2/1)砂 焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる
- 4 黒褐色(10YR2/2)砂 径2cmの焼土ブロック10%・炭化物粒状に5%含む
- 5 黒色(10YR2/1)砂 径2cmの焼土ブロック15%・炭化物粒状に5%含む

SK51

- 6 黒褐色(10YR2/2)砂 径1cmの焼土ブロック7%・径1cmの炭化物ブロック3%含む
- 7 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 径3cmの焼土ブロック20%・径3cmの炭化物ブロック10%含む
- 8 灰黄褐色(10YR4/2)粘土ブロック
- 9 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 径3cmの焼土ブロック10%・径1cmの炭化物ブロック5%含む



SK51 エレベーション図



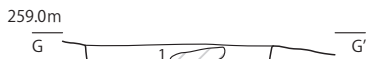
SK48

- 1 黒色(10YR1.7/1)粘土 締まりゆるい



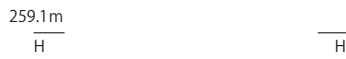
SK49

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂 炭化物粒状に2%含む 瓦片40%含む 固く締まる
- 2 黒色(10YR1.7/1)粘土 瓦片40%含む 締まりゆるい 粘性強い
- 3 黒色(10YR1.7/1)粘土 締まりゆるい 粘性強い
- 4 黒褐色(10YR3/1)砂 径5~10cmの礫を詰める
- 5 黒色(10YR1.7/1)粘土 締まりゆるい 粘性強い
- 6 径10~15cmの礫を敷き並べ、最下層には径20cm前後の礫を4個据える



SK52

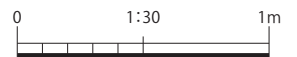
- 1 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む
- 2 黒色(10YR2/1)粘土 炭化物粒状に3%・砂5%含む 締まりゆるい



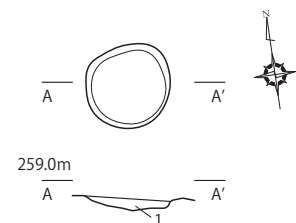
SK52 エレベーション図



SS14 エレベーション図

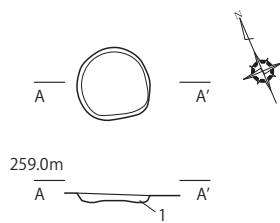


第22図 B地点(2)



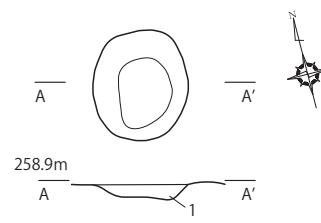
SP55

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 5% 含む



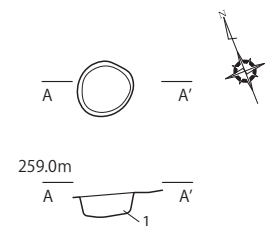
SP56

- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト
焼土・炭化物粒状に 2% 含む



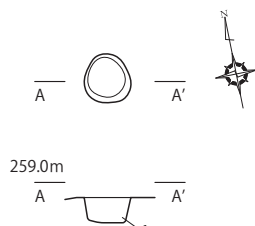
SP57

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂
径 2 cm の焼土ブロック 5%
炭化物粒状に 2% 含む
縮まりゆるい



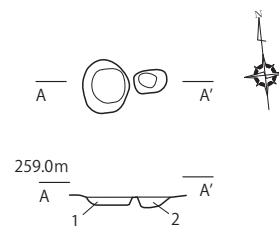
SP58

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂
焼土・炭化物粒状に 5% 含む



SP59

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土
浅黄色 (2.5Y7/3) 粘土 15%
炭化物粒状に 2% 含む

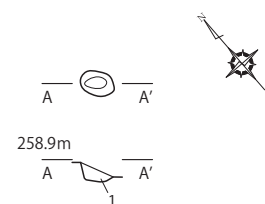


SP60

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂
焼土・炭化物粒状に 5% 含む
固く縮まる

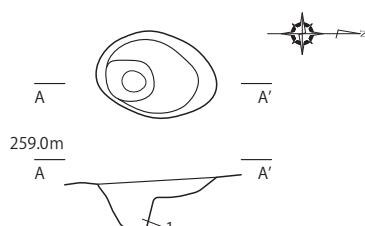
SP61

- 2 黒褐色 (5Y2/1) 砂質シルト
縮まりゆるい



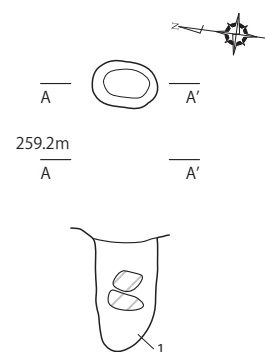
SP62

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂
焼土・炭化物粒状に 5% 含む



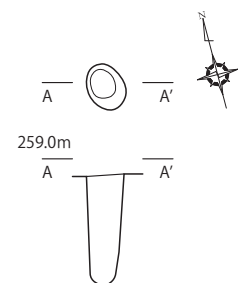
SP63

- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト
炭化物粒状に 2% 含む
縮まりゆるい



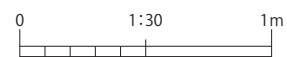
SP64

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
炭化物粒状に 2% 含む 縮まりゆるい

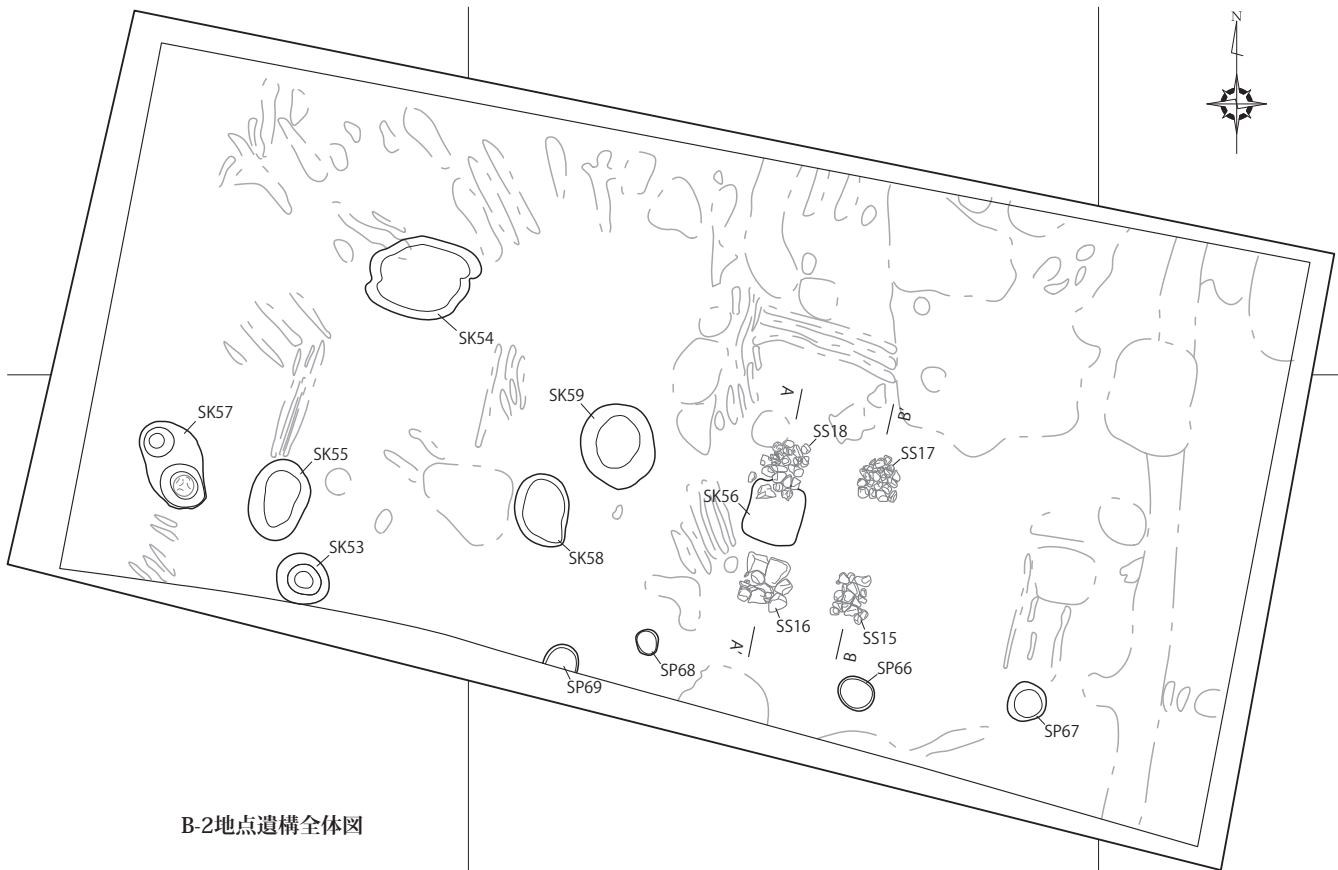


SP65

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂
焼土粒状に 15%・炭化物粒状に 5% 含む
縮まりゆるい



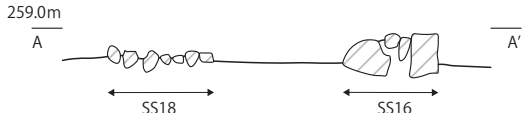
第23図 B地点(3)



B-2地点遺構全体図

Y6860

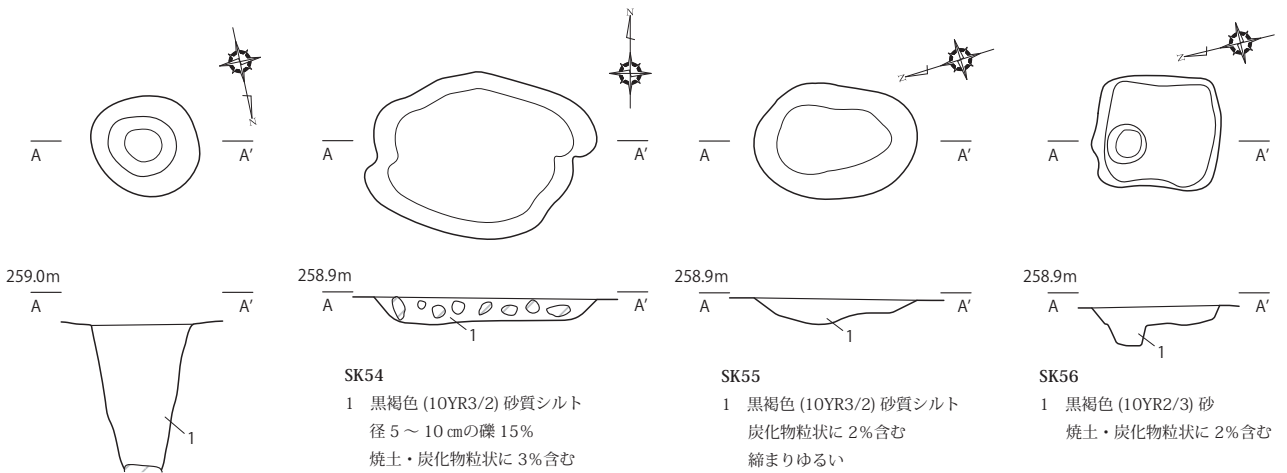
Y6865



SS16・18 エレベーション図



SS15・17 エレベーション図

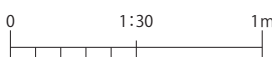


SK53
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
炭化物粒状に 2% 含む
縮まりゆるい

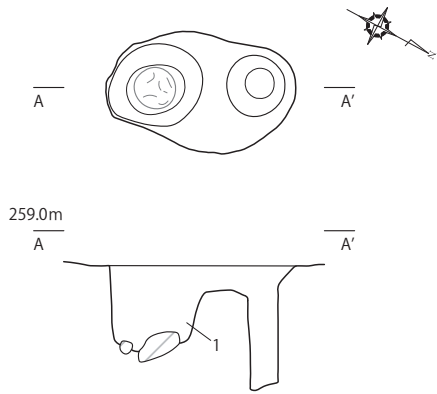
SK54
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
径 5 ~ 10 cm の礫 15%
焼土・炭化物粒状に 3% 含む

SK55
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
炭化物粒状に 2% 含む
縮まりゆるい

SK56
1 黒褐色 (10YR2/3) 砂
焼土・炭化物粒状に 2% 含む

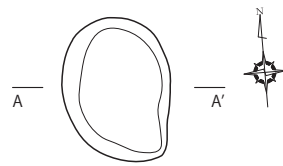


第24図 B地点(4)



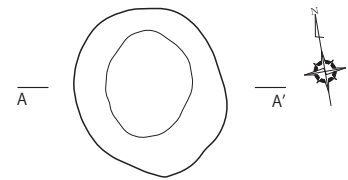
SK57

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
炭化物粒状に 2% 含む
縮まりゆるい



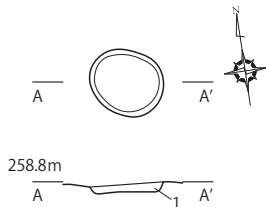
SK58

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 2% 含む



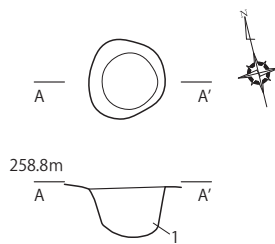
SK59

- 1 褐色 (10YR4/4) 細砂粒
2 暗褐色 (7.5YR3/2) 砂
被熱し固く締まる
3 黒褐色 (10YR2/3) 砂
固く締まる



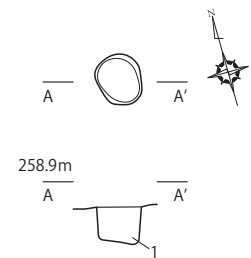
SP66

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 5% 含む
縮まりゆるい



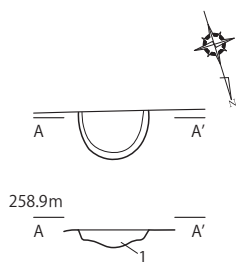
SP67

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
炭化物粒状に 5% 含む
縮まりゆるい



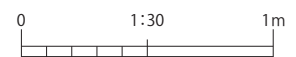
SP68

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
炭化物粒状に 2% 含む
縮まりゆるい

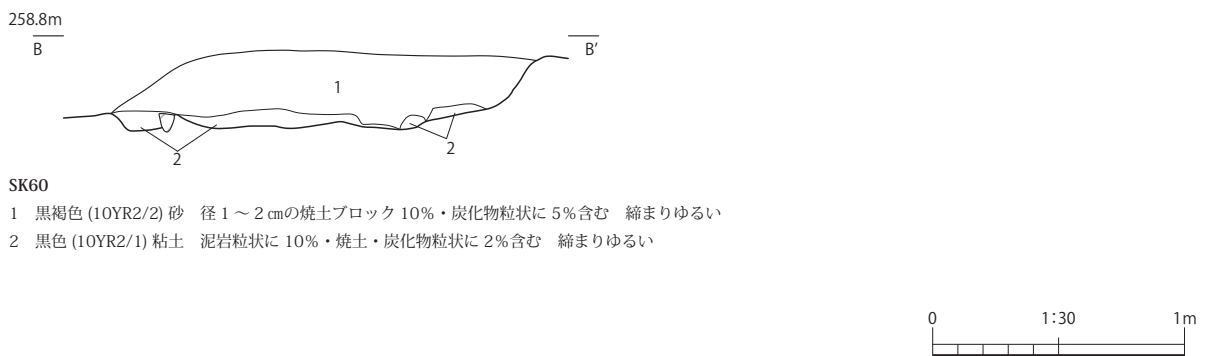
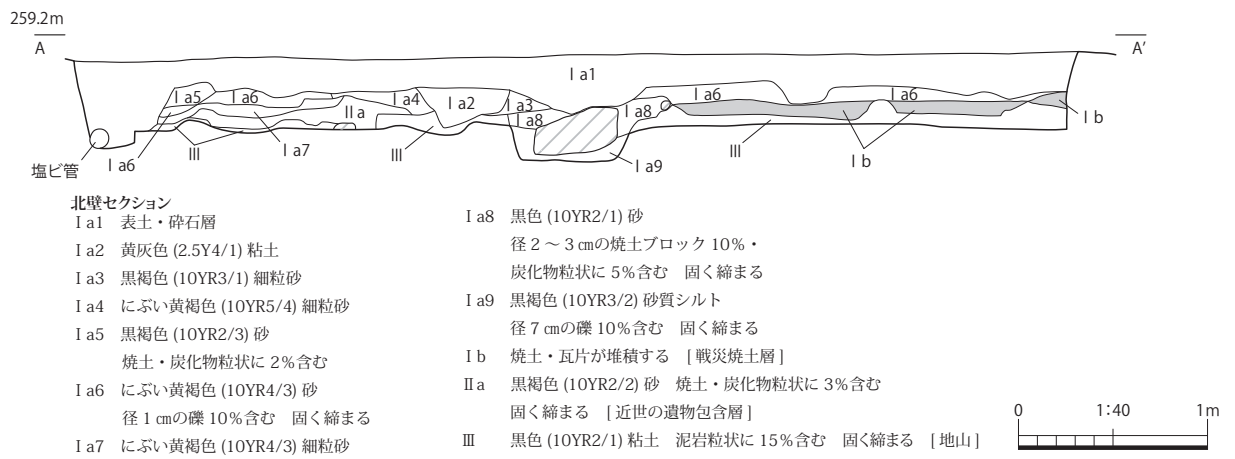
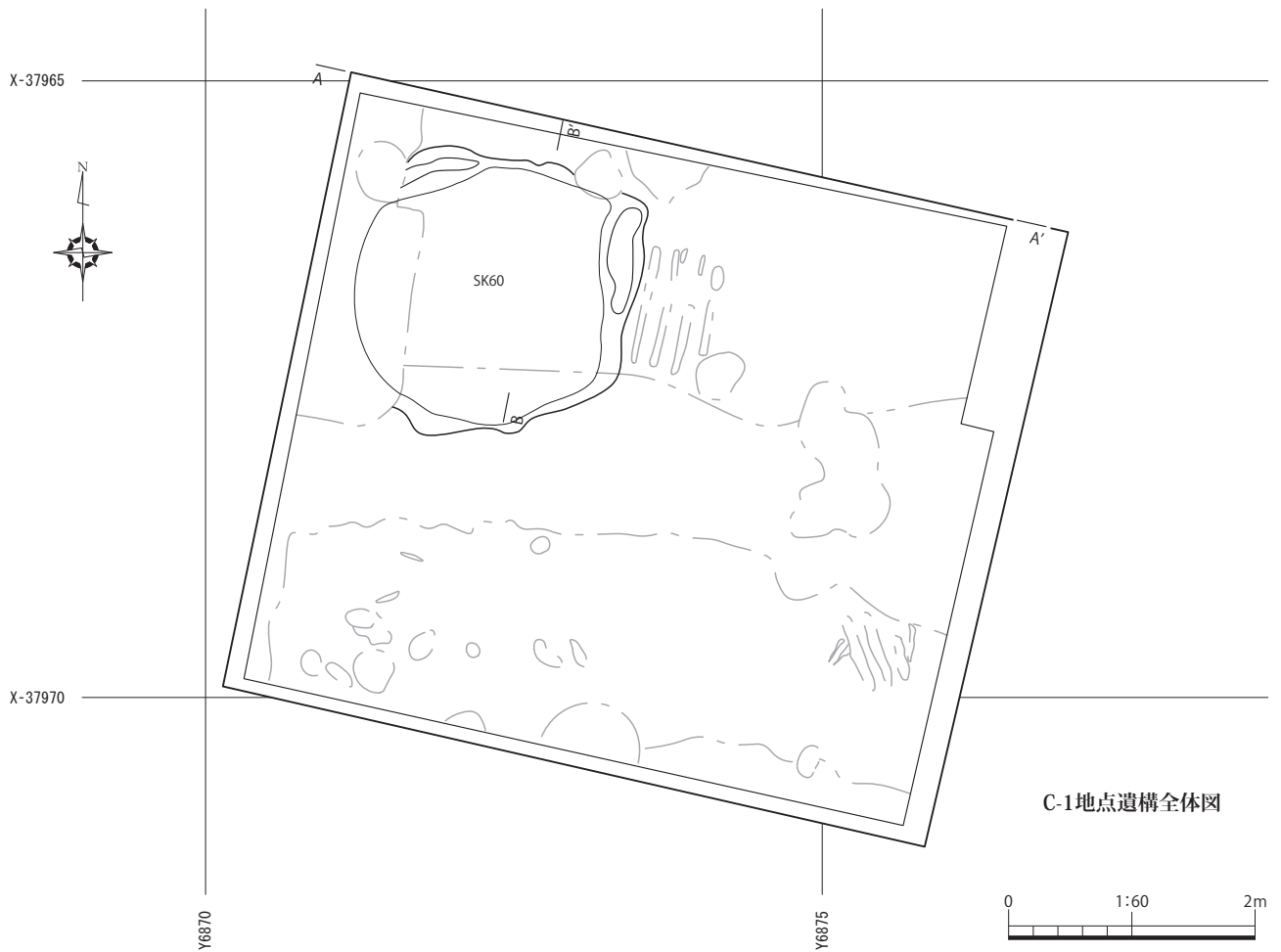


SP69

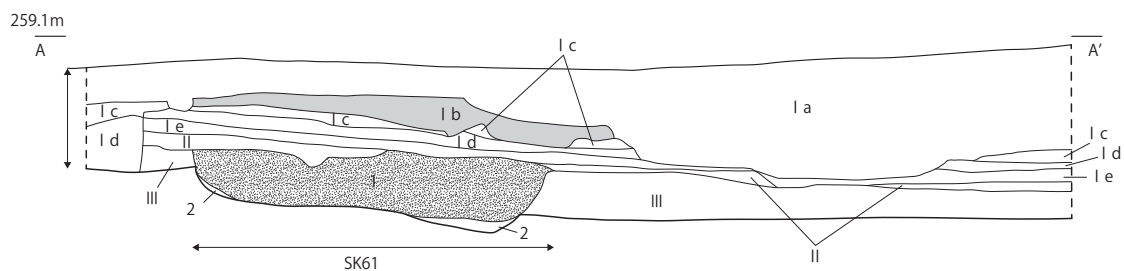
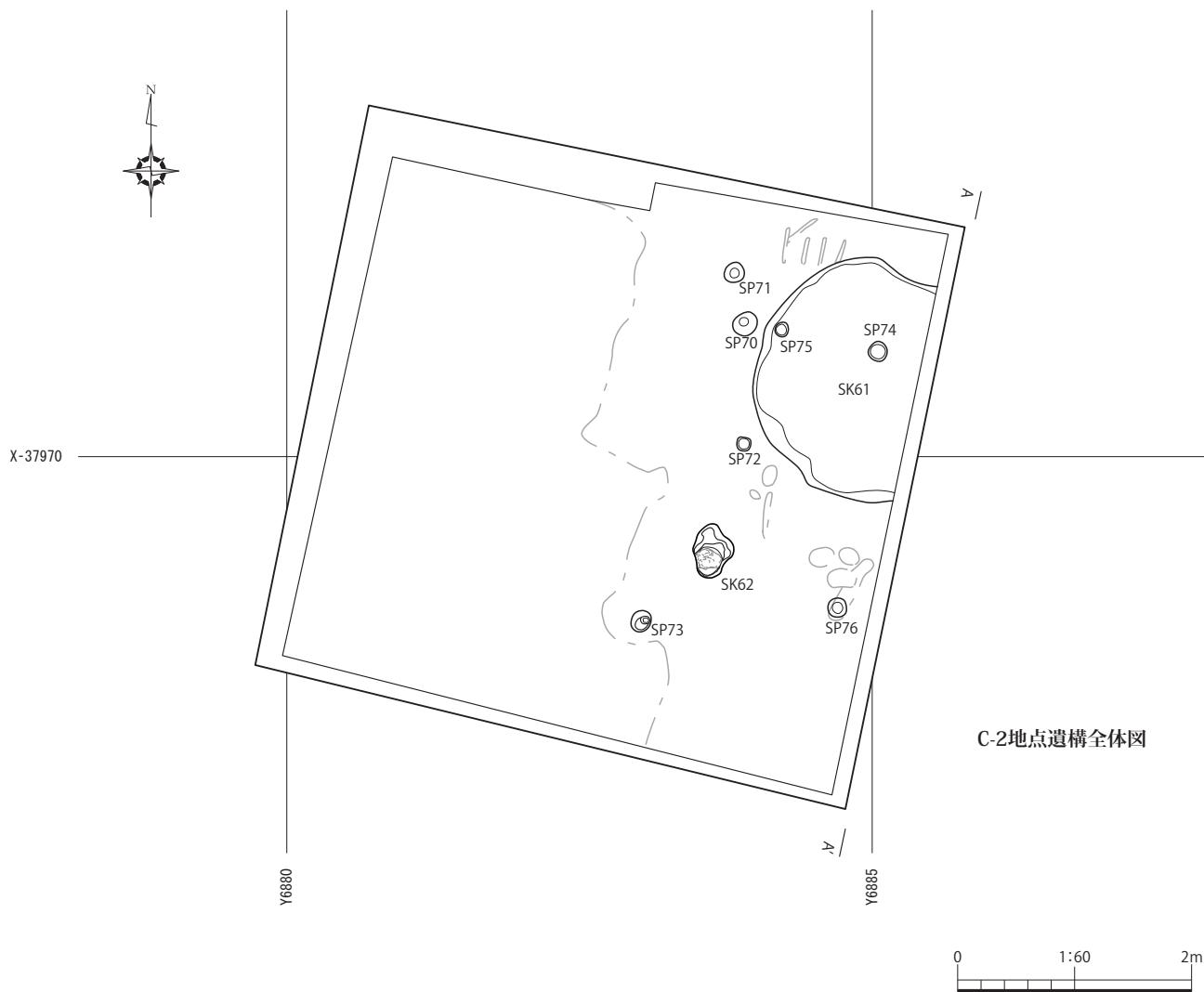
- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 5% 含む
縮まりゆるい



第25図 B地点(5)



第26図 C地点(1)



東壁セクション

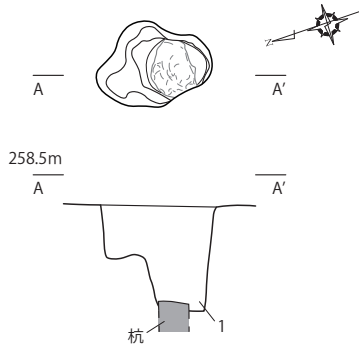
- I a 碎石層
- I b 焼土・炭化物が堆積する [戦災焼土層]
- I c 黒褐色(10YR2/2)粘土 焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる [近代の整地層]
- I d 碎石層
- I e 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粘土 砂・焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる [近代の整地層]
- II 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる [近世の遺物包含層]
- III 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に15%含む 固く締まる [地山]

SK61

- 1 黒色(10YR2/1)砂 径2cmの焼土ブロック10%・炭化物ブロック30%含む
- 2 黒褐色(10YR3/1)シルト 焼土・炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい

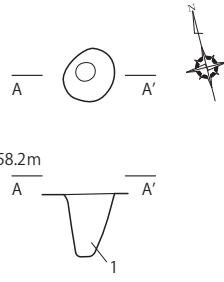


第27図 C地点(2)



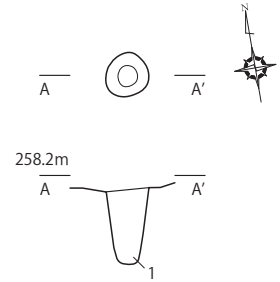
SK62

1 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルト
炭化物粒状に 2% 含む



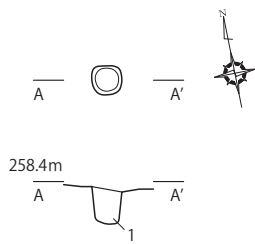
SP70

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 5% 含む



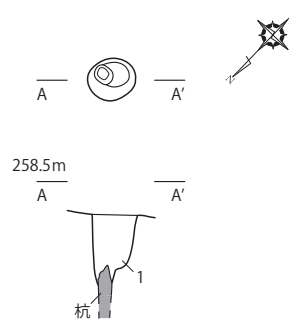
SP71

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
締まりゆるい 粘性強い



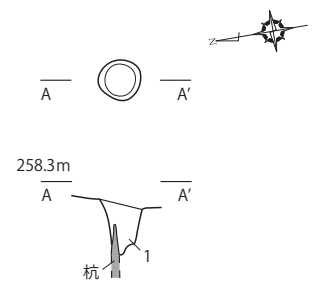
SP72

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 5% 含む
締まりゆるい 粘性強い



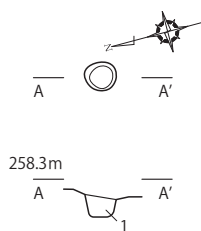
SP73

1 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 2% 含む
締まりゆるい 粘性強い



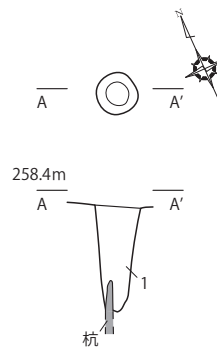
SP74

1 黒色 (10YR2/1) シルト
締まりゆるい 粘性強い



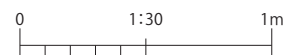
SP75

1 黒色 (10YR2/1) シルト
締まりゆるい 粘性強い

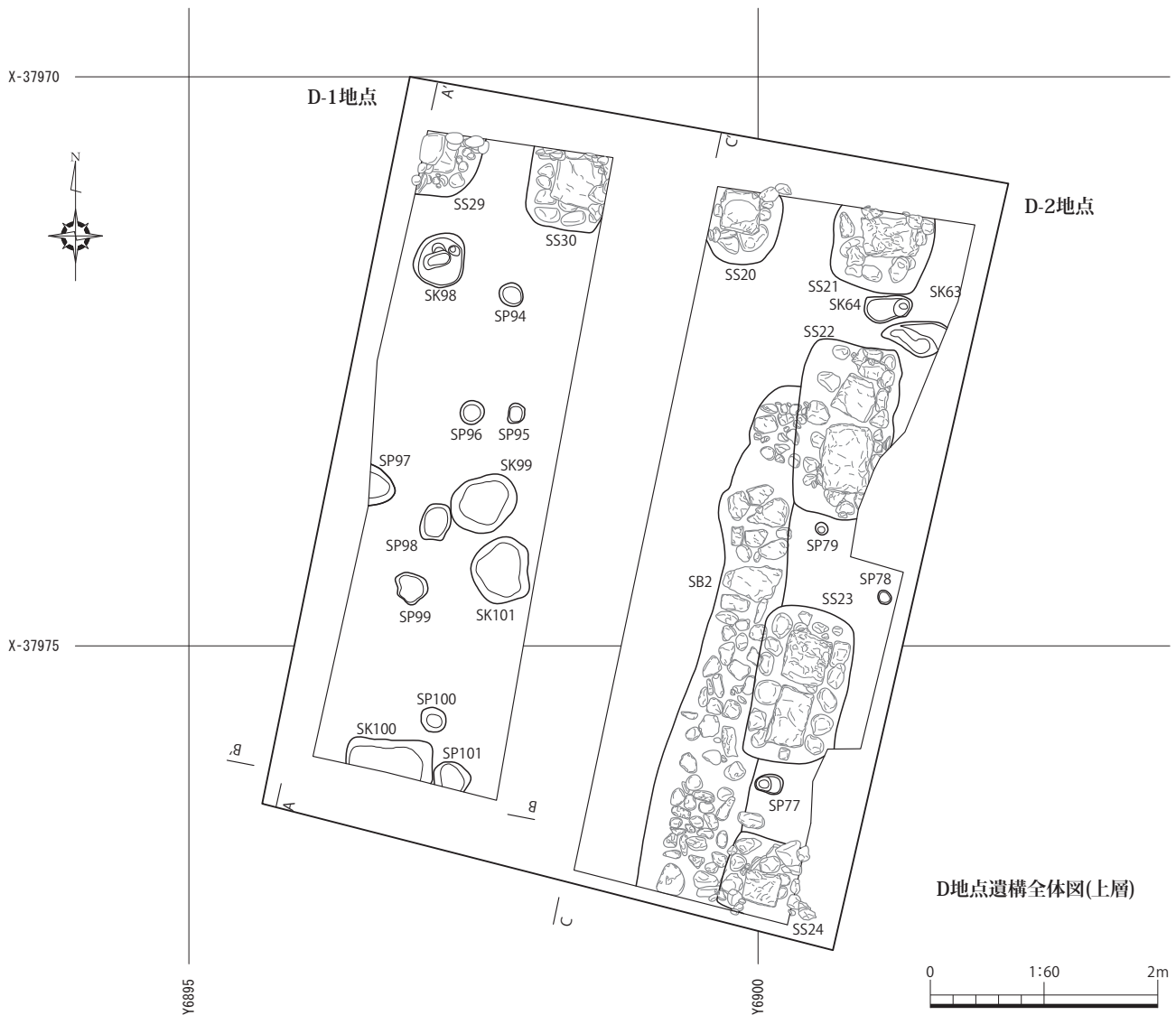


SP76

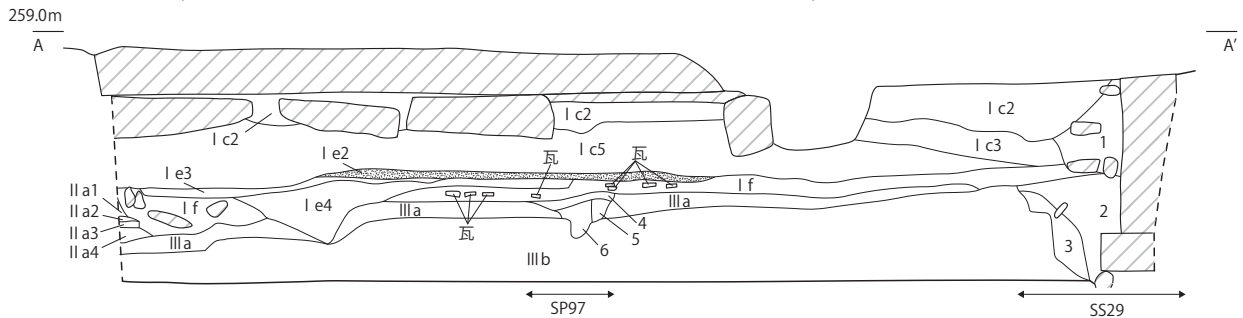
1 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に 2% 含む
締まりゆるい 粘性強い



第28図 C地点(3)



D地点遺構全体図(上層)



西壁セクション

- I c2 黒色(5Y2/1)粘土 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂20%・焼土粒状に10%・炭化物粒状に5%含む 固く締まる [近代の造成土]
- I c3 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂 締まりゆるい [近代の造成土]
- I c5 黒色(10YR2/1)シルト 漆喰片10%・炭化物粒状に5%含む 締まりゆるい [近代の造成土]
- I e2 炭化物の堆積層 固く締まる
- I e3 オリーブ黒色(5Y3/1)砂 固く締まる [近代の整地層・硬化面]
- I e4 黒色(10YR2/1)粘土 瓦片・焼土・炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい
- I f 径5cmの礫・瓦片の堆積層 固く締まる
- II a1 黒色(10YR2/1)シルト 締まりゆるい [近世の整地層]
- II a2 オリーブ黒色(5Y3/1)粘土 締まりゆるい [近世の整地層]
- II a3 黒色(10YR2/1)砂 炭化物粒状に2%含む 固く締まる [近世の整地層・硬化面]
- II a4 黒色(2.5Y2/1)砂 炭化物粒状に20%含む 締まりゆるい
- III a 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に15%含む 固く締まる [地山]
- III b 黒色(10YR1.7/1)粘土 泥岩粒状に15%含む [地山]

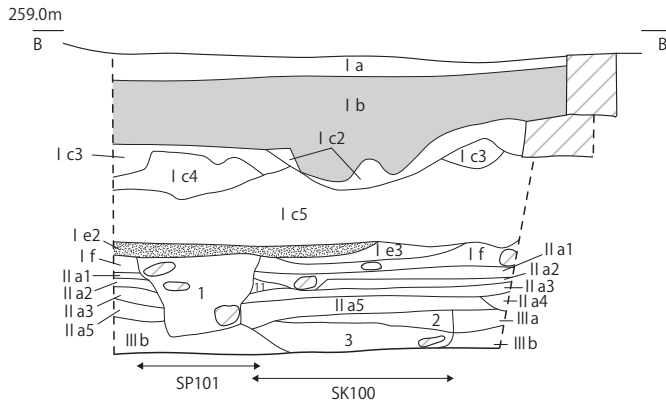
SS29

- 1 黒色(5Y2/1)粘土 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂10%含む 径10~15cmの礫を敷き詰める 固く締まる
- 2 黒褐色(2.5Y3/1)粘土 砂・炭化物粒状に5%含む 径10~15cmの礫を敷き詰める 固く締まる
- 3 黒色(2.5Y2/1)粘土 明オリーブ灰色(2.5G7/1)粘土20% 泥岩粒状に10%含む 締まりゆるい

SP97

- 4 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい
- 5 4層に砂利が混じる
- 6 オリーブ黒色(5Y3/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい

第29図 D地点(1)



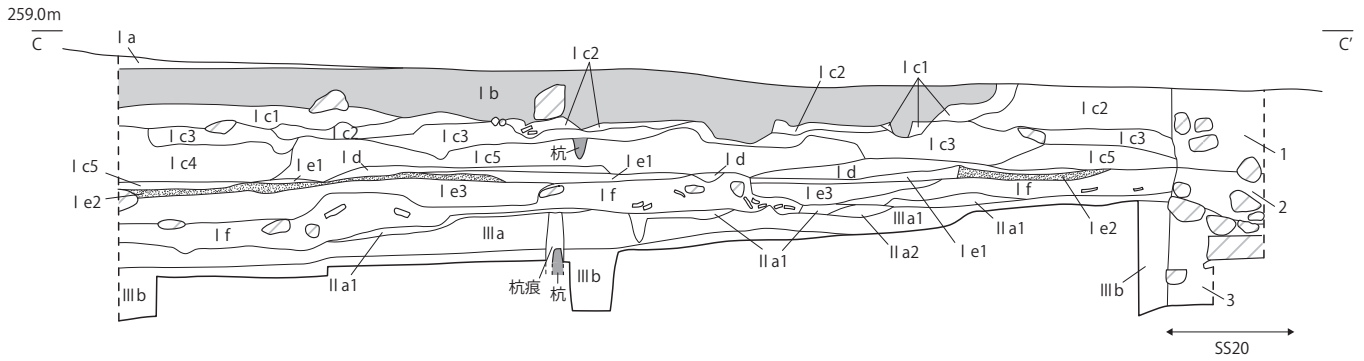
SP101

1 オリーブ黒色(5Y3/1)砂 径10cmの礫を15%含む 固く締まる

SK100

2 黒褐色(2.5Y3/1)粘土 締まりゆるい

3 黒色(5Y2/1)シルト 径3cmの礫を15%含む 締まりゆるい

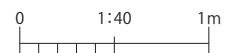


南壁・中央セクション

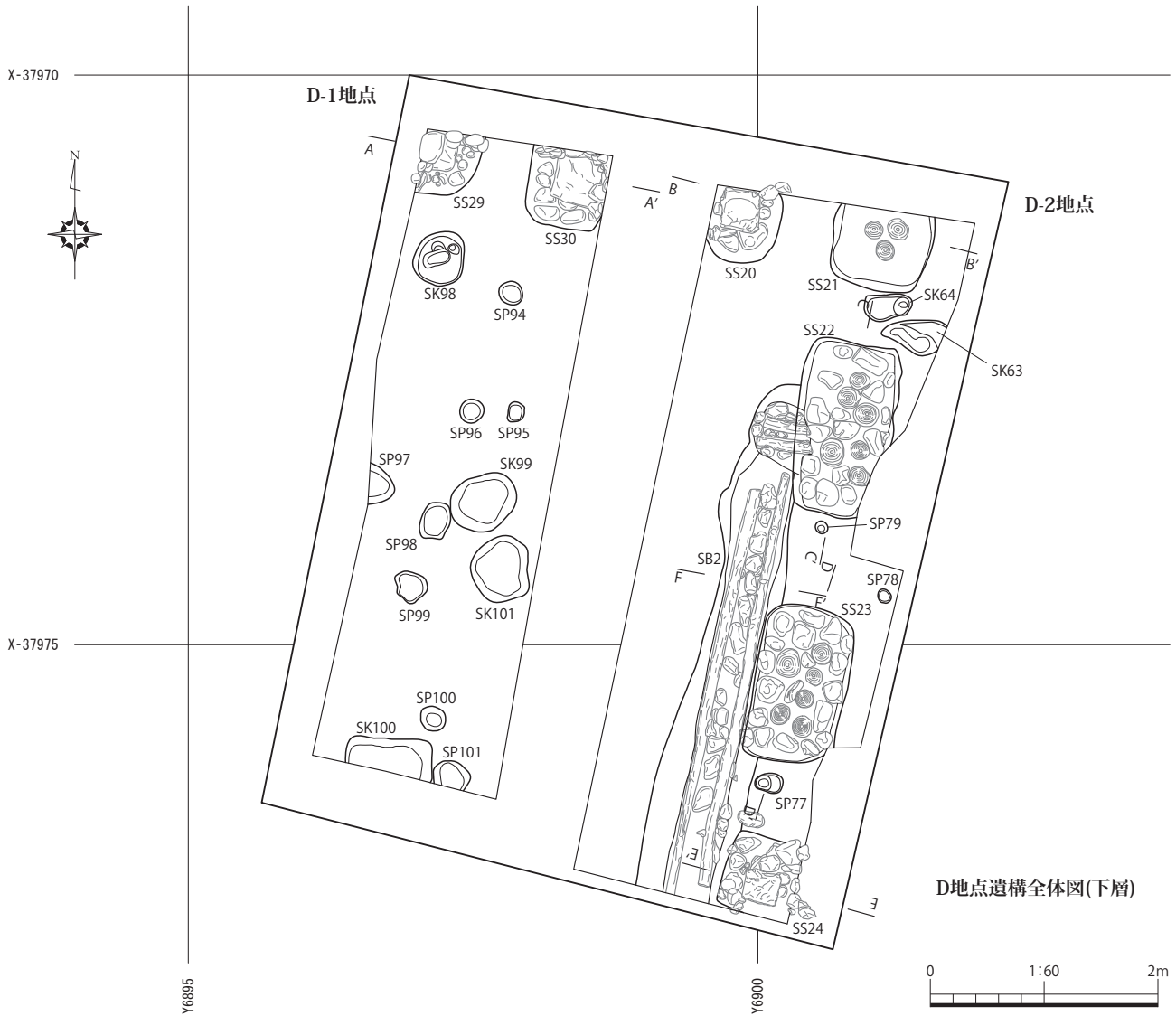
- I a 表土・碎石・近～現代の整地層
- I b 焼土・瓦片が堆積する [戦災焼土層]
- I c1 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物が微量に混じる 固く締まる [近代の造成土]
- I c2 黒色(5Y2/1)粘土 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂粒状に20%
焼土粒状に10%・炭化物粒状に5%含む
固く締まる [近代の造成土]
- I c3 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂 締まりゆるい [近代の造成土]
- I c4 黒色(5Y2/1)粘土 青灰色(5B5/1)粘土粒状に20%・黒褐色(2.5Y3/1)砂粒状に10%
炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい
- I c5 黒色(10YR2/1)シルト 漆喰片10%・炭化物粒状に5%含む
締まりゆるい [近代の造成土]
- I d 黒褐色(2.5Y3/1)砂 漆喰片・瓦片が堆積する
- I e1 灰白色(2.5Y7/1)細粒砂 炭化物が極微量に混じる 固く締まる [近代の整地層・硬化面]
- I e2 炭化物の堆積層 固く締まる
- I e3 オリーブ黒色(5Y3/1)砂 固く締まる [近代の整地層・硬化面]
- I f 径5cmの礫・瓦片の堆積層 固く締まる
- II a1 黒色(10YR2/1)シルト 締まりゆるい [近世の整地層]
- II a2 オリーブ黒色(5Y3/1)粘土 締まりゆるい [近世の整地層]
- II a3 黒色(10YR2/1)砂 炭化物粒状に2%含む 固く締まる [近世の整地層・硬化面]
- II a4 黒色(2.5Y2/1)砂 炭化物粒状に20%含む 締まりゆるい
- II a5 オリーブ黒色(5Y3/1)砂質シルト 炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい [近世の整地層]
- III a 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に15%含む 固く締まる [地山]
- III b 黒色(10YR1.7/1)粘土 泥岩粒状に15%含む [地山]

SS20

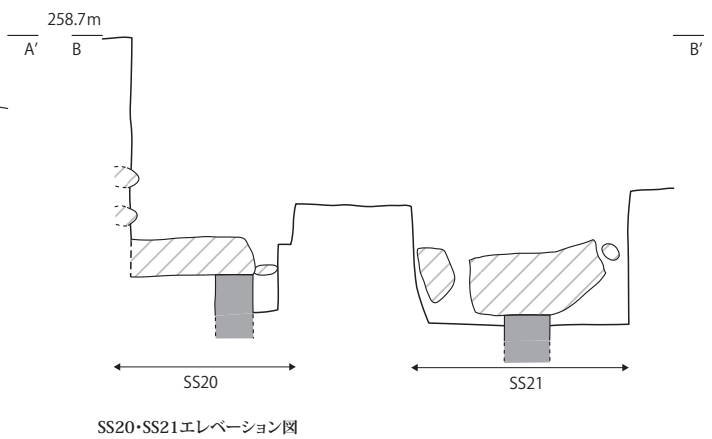
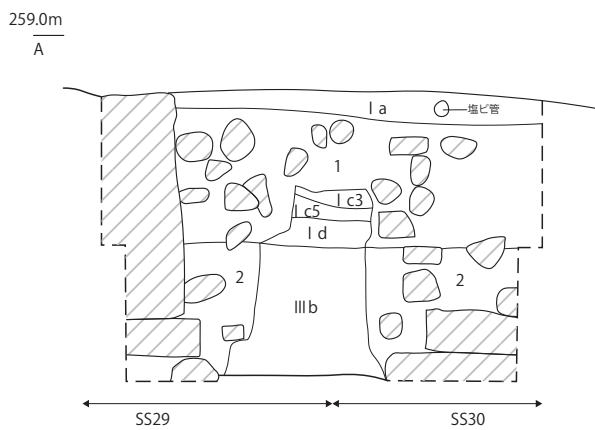
- 1 黒色(5Y2/1)粘土 径10～15cmの礫を敷き詰める 固く締まる
- 2 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト 黒褐色(2.5Y3/1)粘土ブロック状に15%・炭化物粒状に5%含む 径10～15cmの礫を敷き詰める 締まりゆるい
- 3 黒色(5Y2/1)粘土 砂を10%含む 締まりゆるい 粘性強い
径10～15cmの礫を敷き詰め、その上に厚さ約12cmの板石を敷き、
径10～15cmの礫を敷き詰めて固定する



第30図 D地点(2)



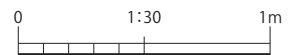
D地点遺構全体図(下層)



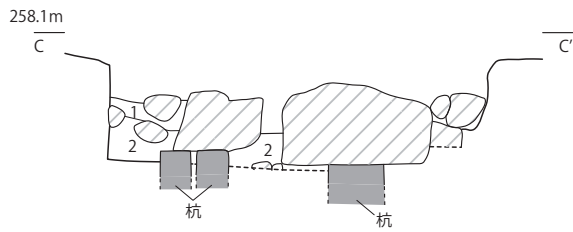
SS29・SS30

- 1 黒色(5Y2/1)粘土 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂10%含む
固く締まる 径10~15cmの礫を敷き詰める
- 2 黒褐色(2.5Y3/1)粘土 砂・炭化物粒状に5%含む 固く締まる
厚さ約15cmの板石を敷き、径10~15cmの礫を敷き詰めて固定する

- I a 表土・碎石・近～現代の整地層
 I c3 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂 締まりゆるい [近代の造成土]
 I c5 黒色(10YR2/1)シルト 漆喰片10%・炭化物粒状に5%含む
 締まりゆるい [近代の造成土]
 I d 黒褐色(2.5Y3/1)砂 漆喰片・瓦片が堆積する
 III b 黒色(10YR1.7/1)粘土 泥岩粒状に15%含む [地山]

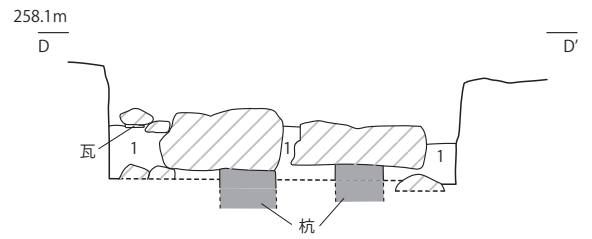


第31図 D地点(3)



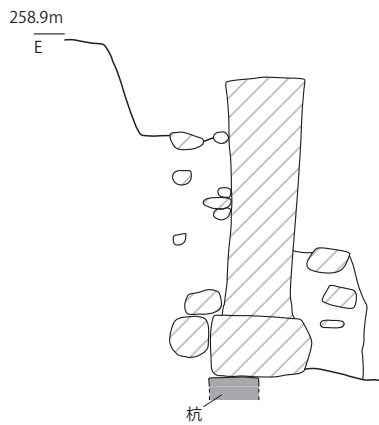
SS22

- 1 黒色(2.5Y2/1)シルト 縮まりゆるい
径10~15cmの礫を敷き詰める
- 2 黒色(5Y2/1)粘土 縮まりゆるい
径10~20cmの木杭を6本打ち込み、
その上に厚さ約20~30cmの板石を据える

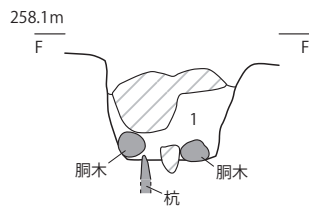


SS23

- 1 黒色(5Y2/1)粘土 灰オリーブ色(5Y6/2)粘土15%含む 縮まりゆるい

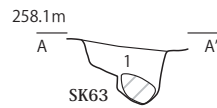
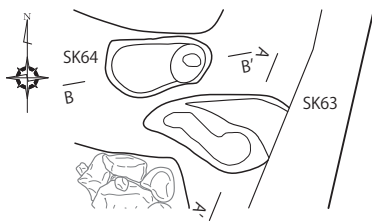


SS24エレベーション図



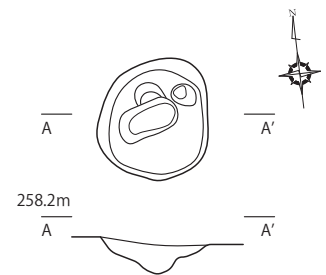
SB2

- 1 黒色(5Y2/1)粘土 砂5%含む 縮まりゆるい



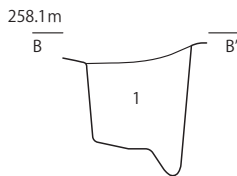
SK63

- 1 オリーブ黒色(5Y3/1)シルト
炭化物粒状に2%含む 縮まりゆるい



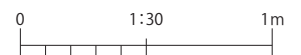
SK98

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂
径3~5cmの礫5%・
焼土・炭化物粒状に2%含む
固く縮まる

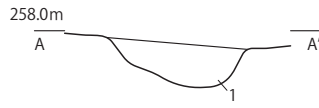
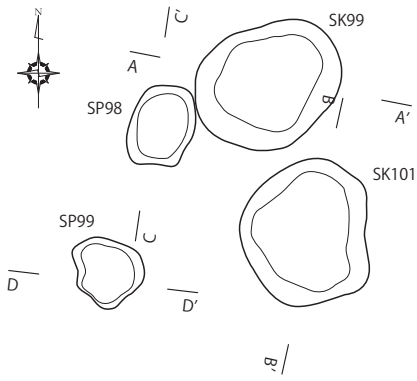


SK64

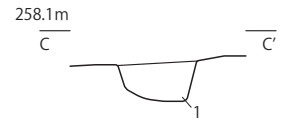
- 1 オリーブ黒色(5Y3/1)シルト
縮まりゆるい



第32図 D地点(4)



SK99
1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト



SP98
1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
縮まりゆるい



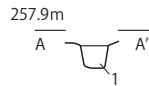
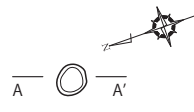
SK101
1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト



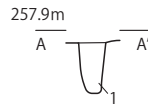
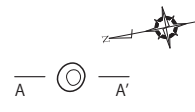
SP99
1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
縮まりゆるい



SP77
1 オリーブ黒色(5Y3/1)シルト
縮まりゆるい



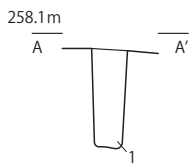
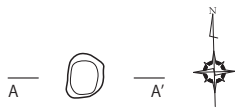
SP78
1 オリーブ黒色(5Y3/1)シルト
縮まりゆるい



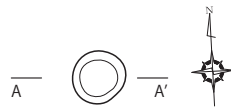
SP79
1 オリーブ黒色(5Y3/1)シルト
縮まりゆるい



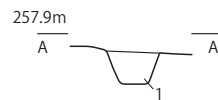
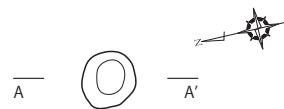
SP94
1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に5%含む
縮まりゆるい



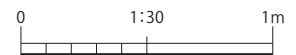
SP95
1 黒色(10YR2/1)砂質シルト
縮まりゆるい



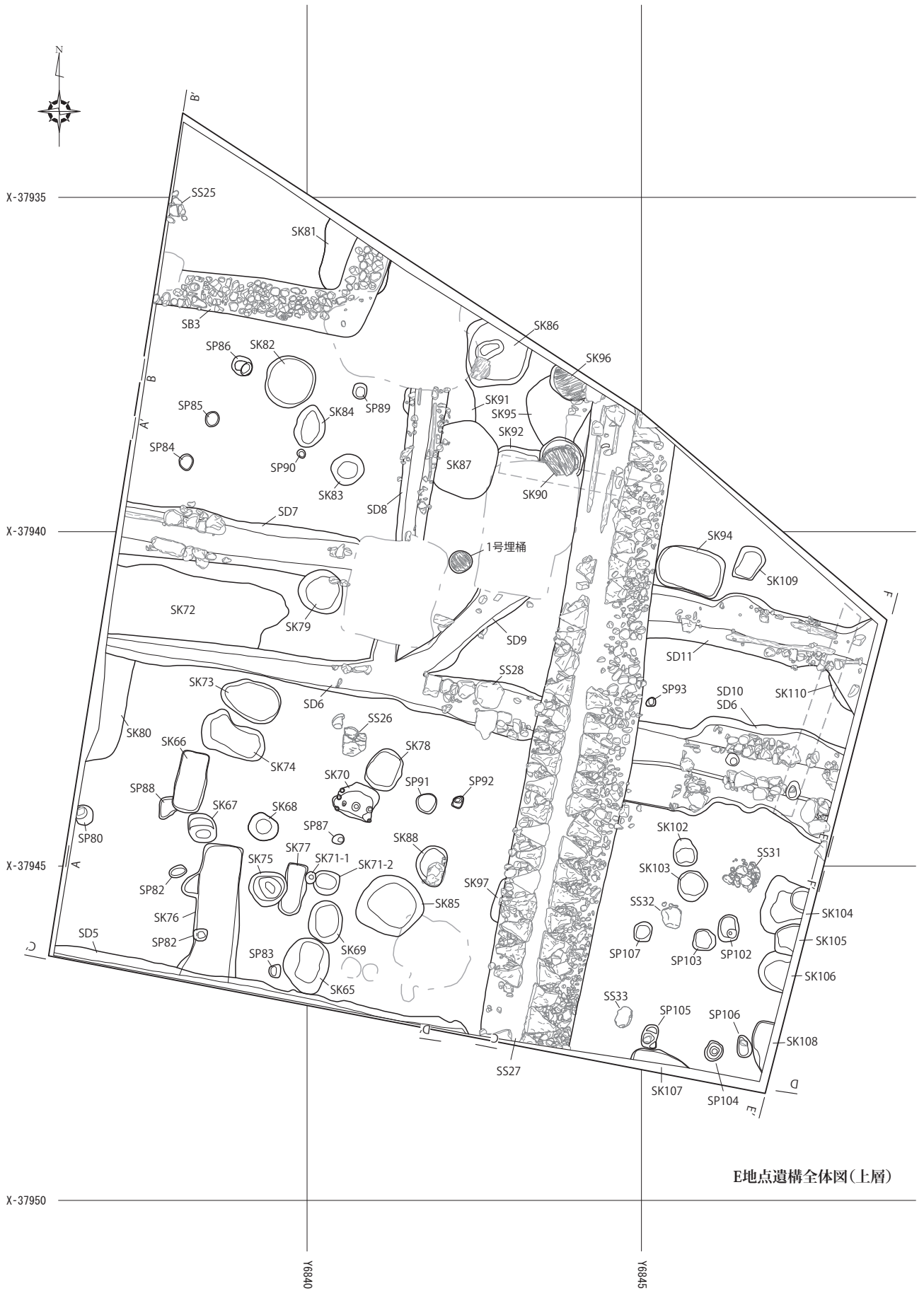
SP96
1 黒色(10YR2/1)砂質シルト
縮まりゆるい



SP100
1 黒褐色(2.5Y2/1)シルト
縮まりゆるい

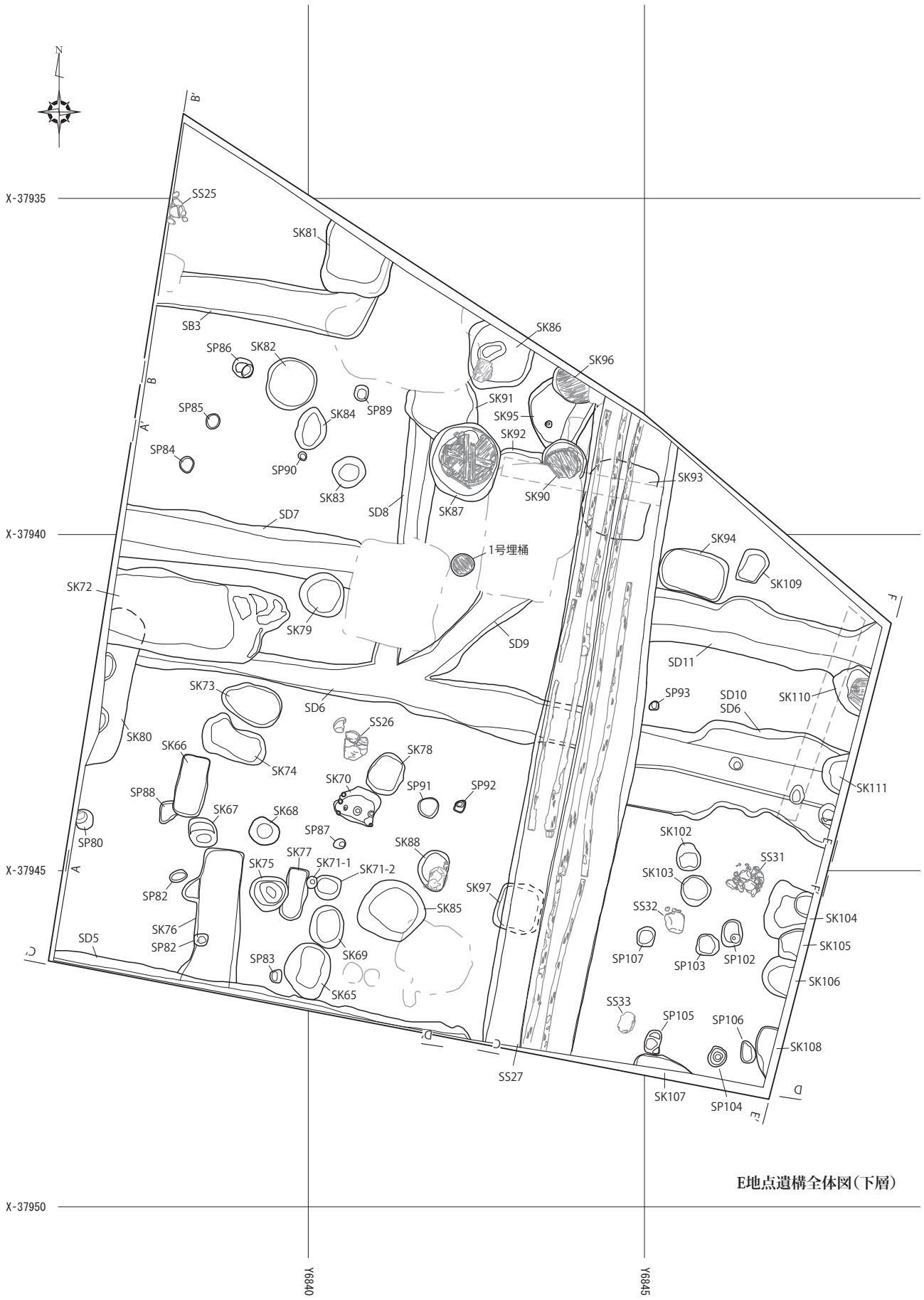


第33図 D地点(5)



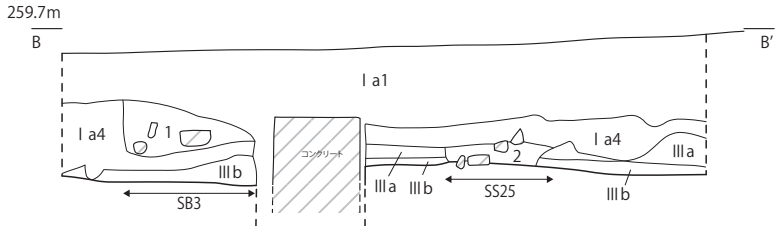
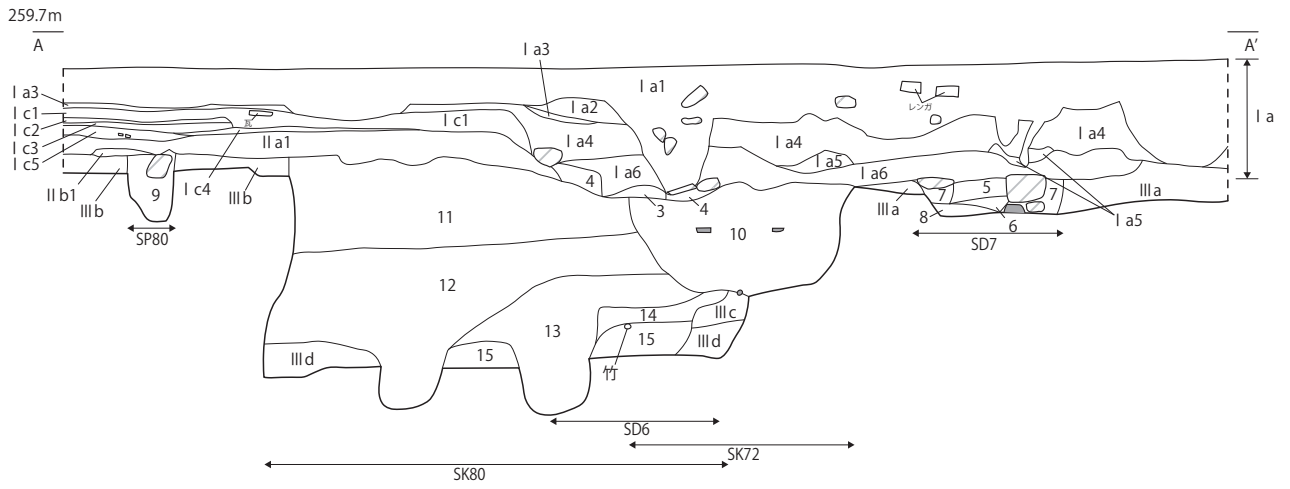
E地点遺構全体図(上層)

第34図 E地点(1)



E地点遺構全体図(下層)

第35図 E地点(2)



西・東・南壁セクション

- I a1 表土・碎石層
- I a2 黒褐色(10YR3/1)砂 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂15%含む
焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる
- I a3 黒褐色(10YR3/1)砂とにぶい黄褐色(10YR5/4)砂が互層状に堆積する
焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる
- I a4 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に10%含む 固く締まる
- I a5 黒褐色(10YR3/2)粘土 焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる
- I a6 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に10%含む 締まりゆるい
- I b 焼土・瓦片が堆積する [戦災焼土層]
- I c1 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物粒状に5%含む 固く締まる
- I c2 にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂 締まりゆるい
- I c3 黒褐色(10YR3/2)粘土 炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい
- I c4 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる
- I c5 黒褐色(10YR3/2)砂 炭化物粒状に5%含む 固く締まる
- II a1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に5%含む
- II a2 黒褐色(10YR2/3)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に5%含む 固く締まる
- II a3 ブロック状の焼土・炭化物が堆積する
- II a4 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる
- II b1 黒色(10YR2/1)粘土 灰黄褐色(2.5Y7/2)粘土10%含む 固く締まる
- II b2 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 締まりゆるい
- II b3 黒褐色(10YR2/2)砂 上層が被熱し固く締まる
- II b4 焼土ブロックが堆積する
- II c1 黒褐色(10YR2/3)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に2%含む
- II c2 黒褐色(10YR2/2)砂 黄褐色(2.5Y5/4)砂10%含む 固く締まる
- II d1 ブロック状の焼土・炭化物が堆積する
- II d2 黒褐色(10YR2/2)砂 被熱し固く締まる
- III a 黒色(1.7/1)粘土 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト7%・焼土・炭化物粒状に3%含む [地山]
- III b 黒色(1.7/1)粘土 泥岩粒状に15%含む [地山]
- III c 黒色(7.5Y2/1)粘土 緑灰色(10GY6/1)粘土5%含む 粘性強い [地山]
- III d 緑灰色(10GY6/1)粘土 黒色(7.5Y2/1)粘土40%含む 固く締まる 粘性強い [地山]

SB3

- 1 黒褐色(10YR2/3)砂 径5~10cmの礫を敷き詰める
焼土・炭化物粒状に10%含む 固く締まる

SS25

- 2 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
1辺17cmの板石を敷き、周囲を径10~15cmの礫で囲う
焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる

SD6

- 3 褐色(10YR4/4)細粒砂
- 4 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
炭化物粒状に5%含む 締まりゆるい

SD7

- 5 黒褐色(10YR3/2)砂 炭化物粒状に2%含む
締まりゆるい
- 6 黒色(10YR2/1)砂質シルト 締まりゆるい
- 7 黒色(10YR2/1)粘土 暗褐色(10YR3/3)砂15%含む
締まりゆるい
- 8 黒色(10YR2/1)シルト 締まりゆるい 粘性強い

SP80

- 9 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物粒状に5%含む

SK72

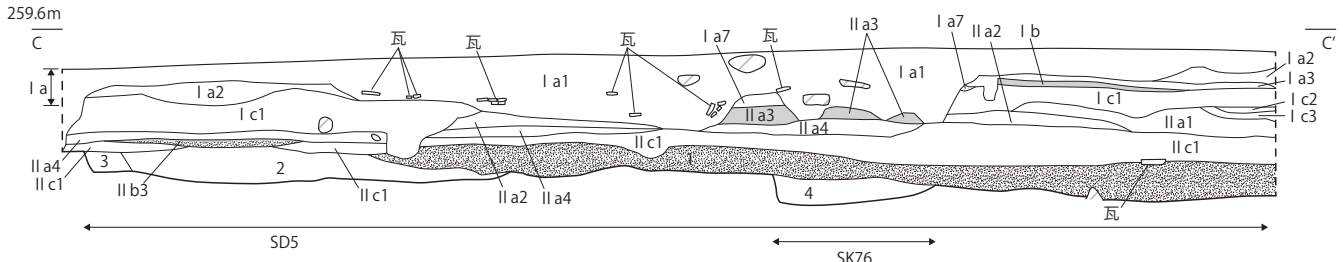
- 10 黒色(10YR1.7/1)細粒砂 炭化物粒状に10%含む
締まりゆるい

SK80

- 11 黒色(10YR1.7/1)粘土 灰黄色(2.5Y7/2)粘土ブロック状に10%・
泥岩粒状に15%含む 締まりゆるい
- 12 黒色(7.5Y2/1)粘土 灰黄色(2.5Y7/2)粘土ブロック状に10%・
炭化物粒状に5%含む 締まりゆるい
- 13 黒色(7.5Y2/1)粘土 黒褐色(10YR3/1)砂15%・
緑灰色(10GY6/1)粘土ブロック状に10%含む
締まりゆるい 粘性強い
- 14 黒色(7.5Y2/1)粘土 緑灰色(10GY6/1)粘土ブロック状に10%含む
締まりゆるい 粘性強い
- 15 黒色(7.5Y2/1)粘土 緑灰色(10GY6/1)粘土ブロック状に15%含む
締まりゆるい 粘性強い



第36図 E地点(3)

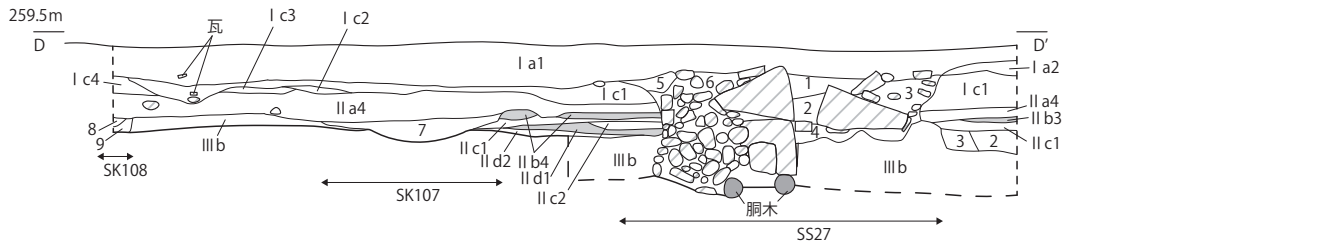


SD5

- 1 黒褐色(2.5Y3/1)シルト 焼土粒状に2%・炭化物粒状に30%含む 締まりゆるい
- 2 黒褐色(2.5Y3/1)シルト 焼土・炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい
- 3 黒褐色(10YR3/1)粘土 焼土・炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい

SK76

- 4 黒褐色(10YR3/1)粘土 泥岩粒状に10%・炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい



SK107

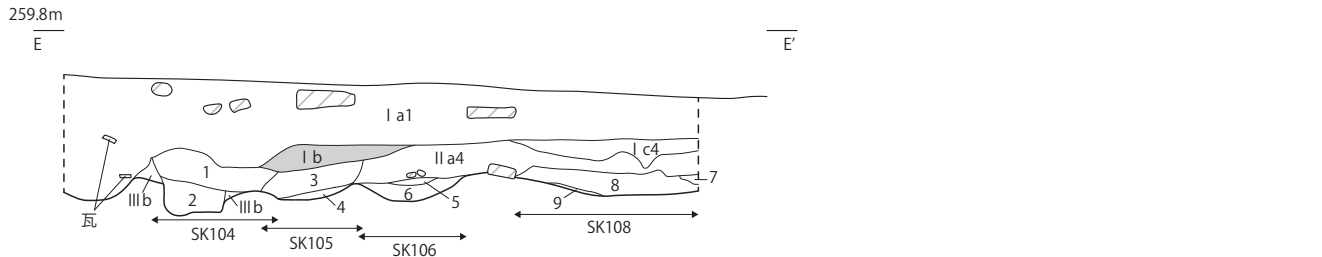
- 7 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる

SK108

- 8 黒褐色(10YR3/1)粘土
- 9 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる

SS27

- 1 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂 コンクリート片を多量に含む 焼土粒状に5%含む 固く締まる
- 2 暗褐色(10YR3/3)砂 プラスチックフィルム片を含む 焼土粒状に3%含む 固く締まる
- 3 黒褐色(10YR3/2)砂 径10cmの礫を詰める
- 4 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる
- 5 黒色(5Y2/1)粘土 泥岩粒状に5%含む 固く締まる
- 6 黒褐色(10YR2/2)砂 径5~10cmの礫を詰める



SK104

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂 径2~3cmの礫・焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる
- 2 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい

SK105

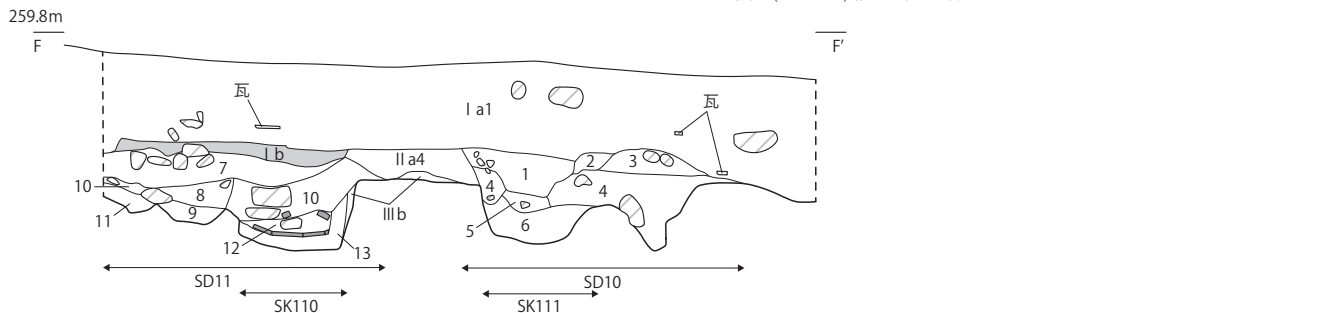
- 3 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる
- 4 黒色(10YR2/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい

SK106

- 5 暗褐色(10YR3/3)砂 被熱し固く締まる
- 6 黒色(10YR2/1)粘土 砂3%含む 固く締まる

SK108

- 7 黒褐色(10YR3/1)粘土
- 8 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる
- 9 黒色(10YR2/1)粘土 砂3%含む



SD10

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂 径2~5cmの礫・焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる
- 2 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい
- 3 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 径3~5cmの礫を10%・焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる
- 4 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 径3~5cmの礫・焼土・炭化物粒状に3%含む
- 5 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 炭化物2%含む 締まりゆるい

SK111

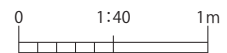
- 6 黒褐色(2.5Y3/1)砂 締まりゆるい

SD11

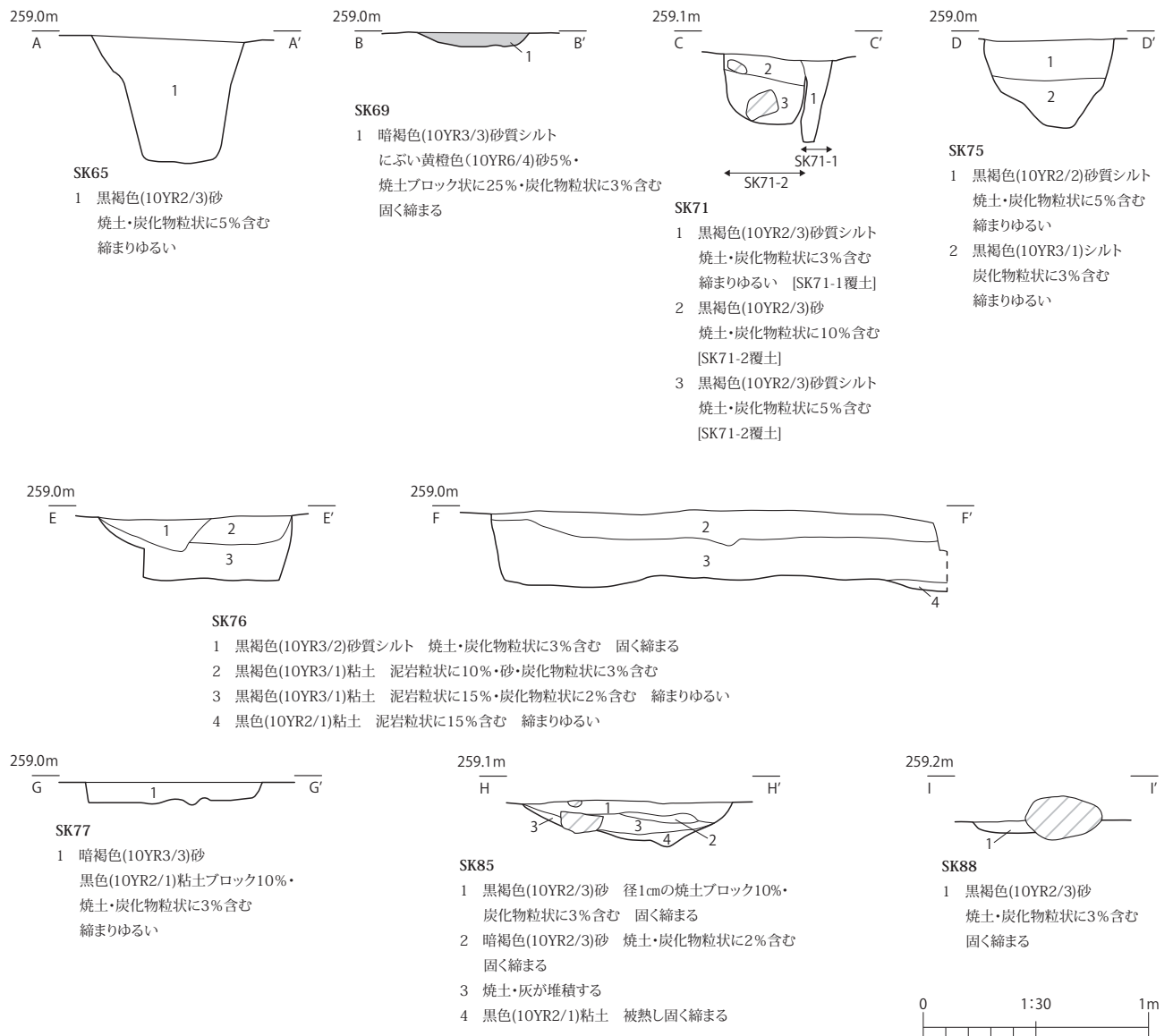
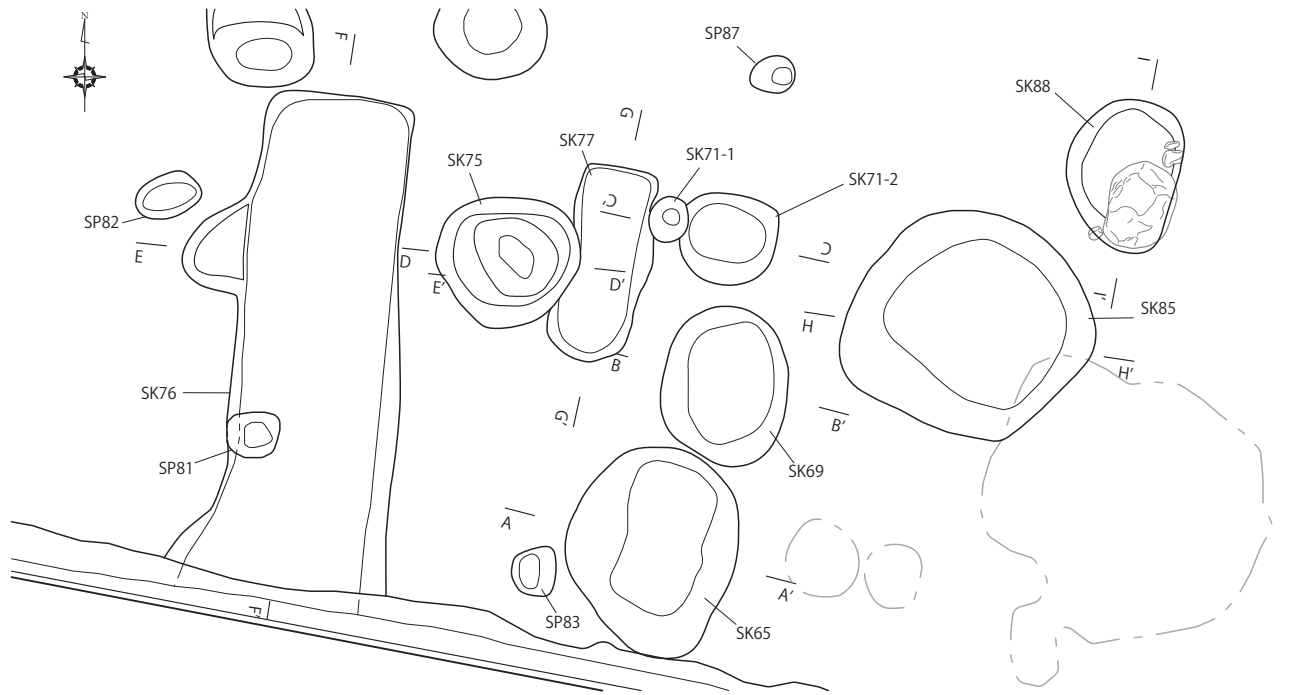
- 7 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 径5~10cmの礫を10%含む 焼土・炭化物粒状に5%含む 締まりゆるい
- 8 黒褐色(10YR3/1)シルト 炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい
- 9 黒色(2.5Y2/1)砂 締りゆるい
- 10 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 径10~20cmの礫を5%含む 締まりゆるい
- 11 黒色(10YR2/1)砂質シルト 締まりゆるい

SK110

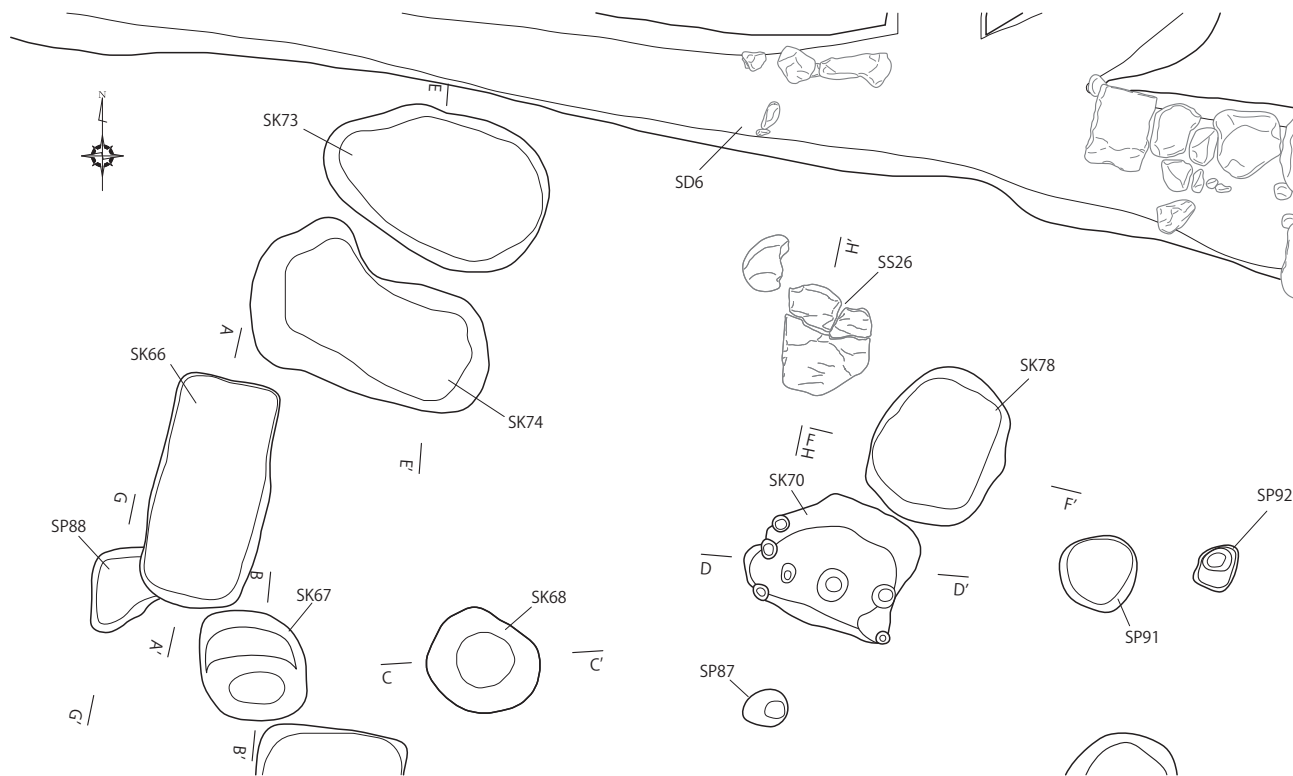
- 12 黒色(10YR2/1)細粒砂 締まりゆるい
- 13 黒色(2.5Y2/1)シルト 締まりゆるい



第37図 E地点(4)

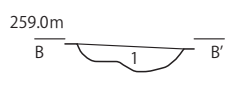


第38図 E地点(5)



SK66

- 1 黒色(10YR2/2)粘土
にぶい黄褐色(10YR7/2)砂10%・
焼土・炭化物粒状に5%含む
- 2 黒色(10YR2/1)粘土
焼土・炭化物粒状に5%含む
縮まりゆるい



SK67

- 1 黒褐色(10YR2/3)砂
焼土・炭化物粒状に5%含む



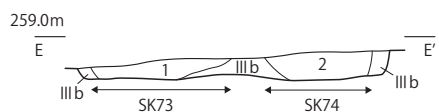
SK68

- 1 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に10%含む
- 2 焼土ブロックが堆積する 固く締まる
- 3 炭化物・にぶい黄褐色(10YR6/4)砂が
互層状に堆積する
- 4 黒褐色(10YR2/2)粘土 被熱し固く締まる



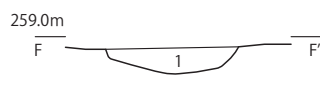
SK70

- 1 焼土ブロック・炭化物が堆積する
固く締まる
- 2 黒褐色(10YR2/3)砂
焼土・炭化物粒状に2%含む
固く締まる



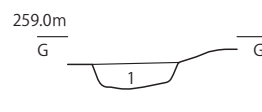
SK73・SK74

- 1 黒褐色(10YR3/1)粘土 泥岩粒状に15%・
砂・焼土・炭化物粒状に2%含む 縮まりゆるい
- 2 1層と同様
- IIIb 黒色(10YR1.7/1)粘土 泥岩粒状に15%含む [地山]



SK78

- 1 黒褐色(10YR2/3)砂
焼土・炭化物粒状に5%含む

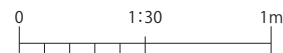


SP88

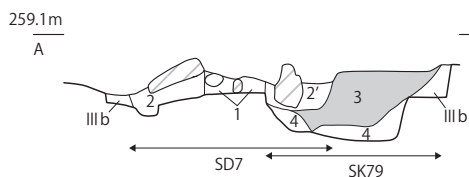
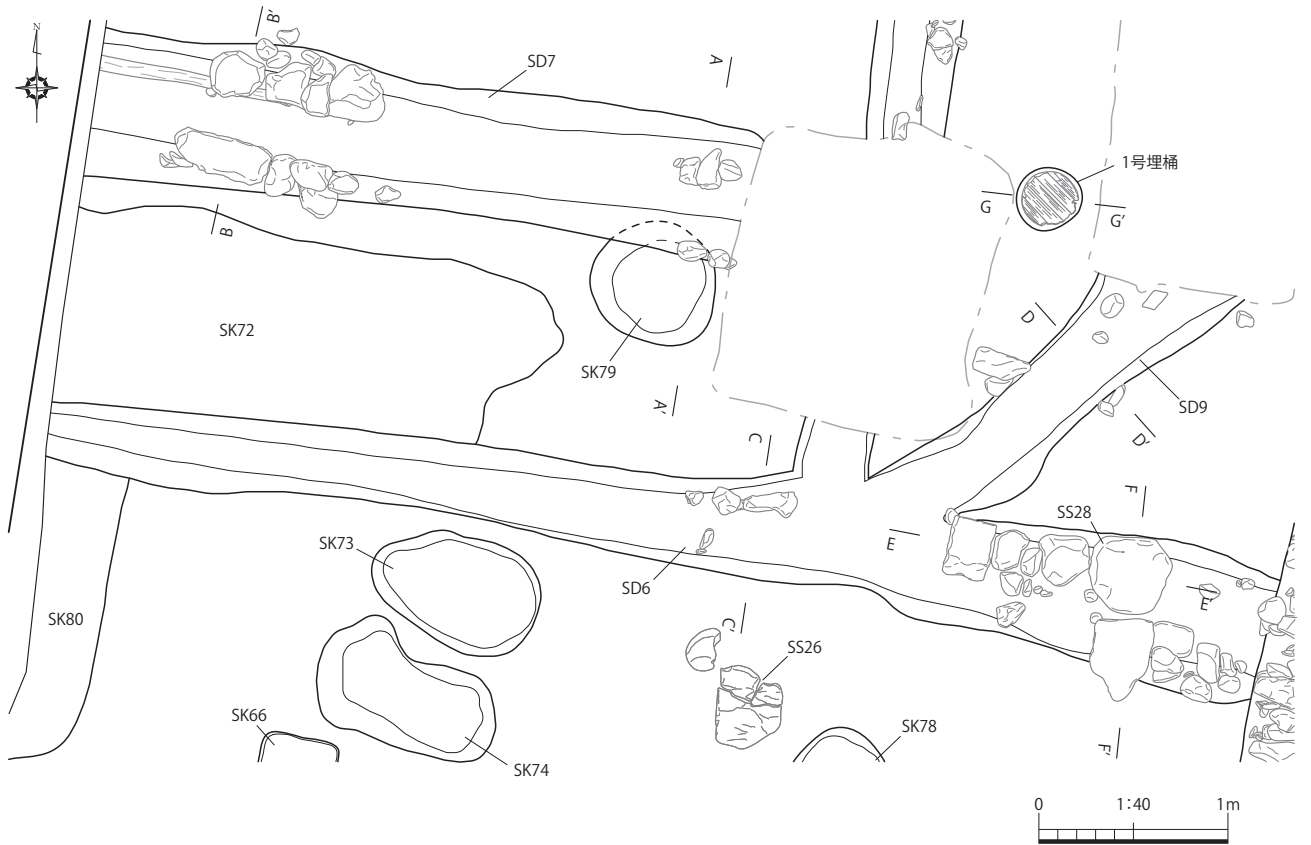
- 1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト
泥岩粒状に3%・炭化物粒状に2%含む



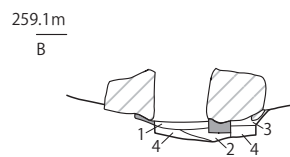
SS26エレベーション図



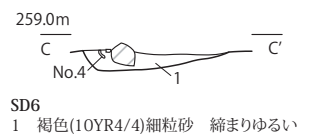
第39図 E地点(6)



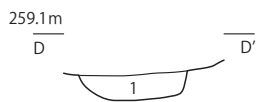
- SD7**
- 1 黄褐色(2.5Y5/4)砂 径3~6cmの礫10%含む 固く締まる
 - 2 黒褐色(10YR3/1)粘土 砂3%含む 締まりゆるい
 - 2' 黒褐色(10YR3/1)粘土 焼土・炭化物ブロック状に5%含む 締まりゆるい
- SK79**
- 3 焼土・炭化物が堆積する 締まりゆるい
 - 4 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい
- IIIb** 黒色(10YR1.7/1)粘土 泥岩粒状に15%含む [地山]



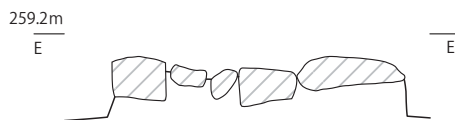
- SD7**
- 1 黒褐色(10YR3/2)砂 炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい
 - 2 黄褐色(2.5Y5/3)砂
 - 3 黒褐色(10YR3/1)粘土 砂3%含む 締まりゆるい
 - 4 黒色(10YR2/1)シルト 締まりゆるい 粘性強い



- SD6**
- 1 褐色(10YR4/4)細粒砂 締まりゆるい



- SD9**
- 1 黒色(10YR2/1)細粒砂 締まりゆるい



SS28エレベーション図(東西)



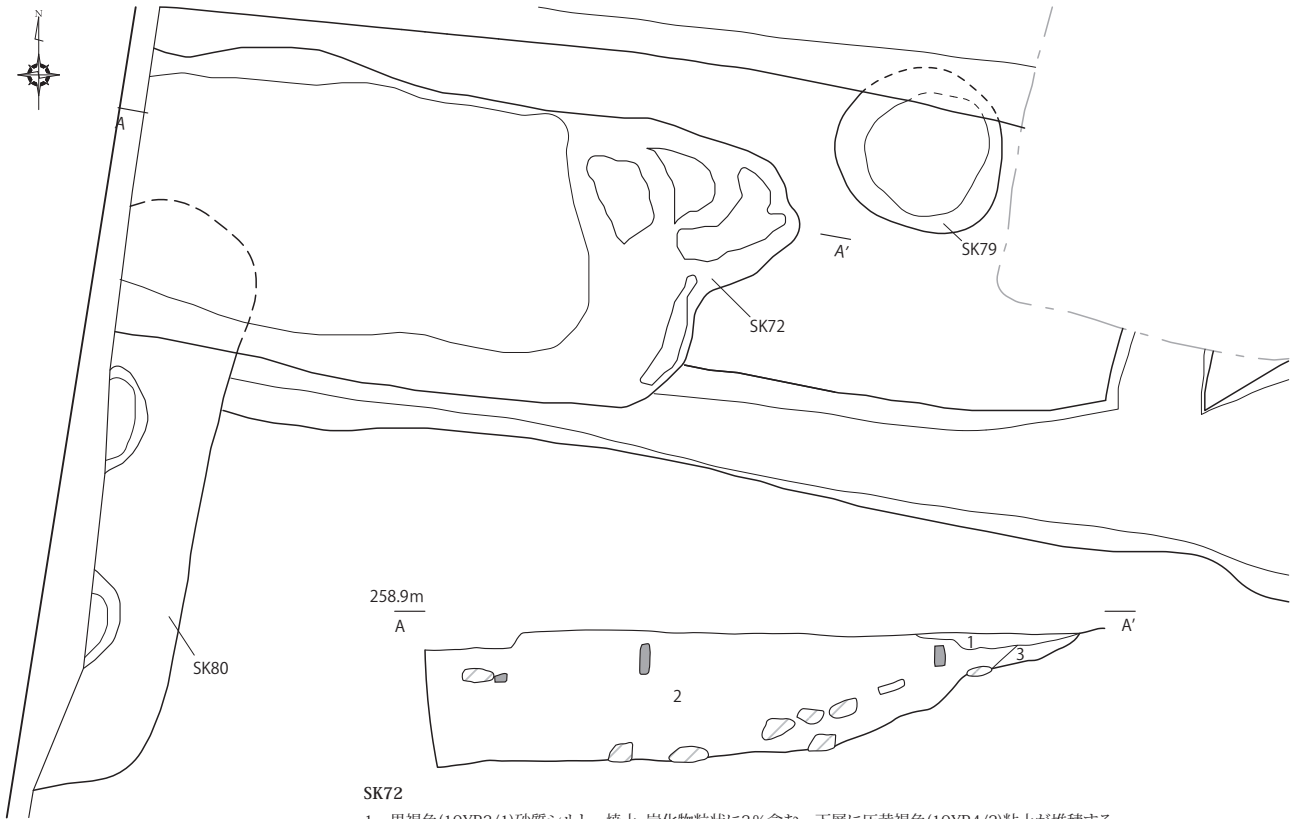
SS28エレベーション図(南北)



1号埋桶エレベーション図

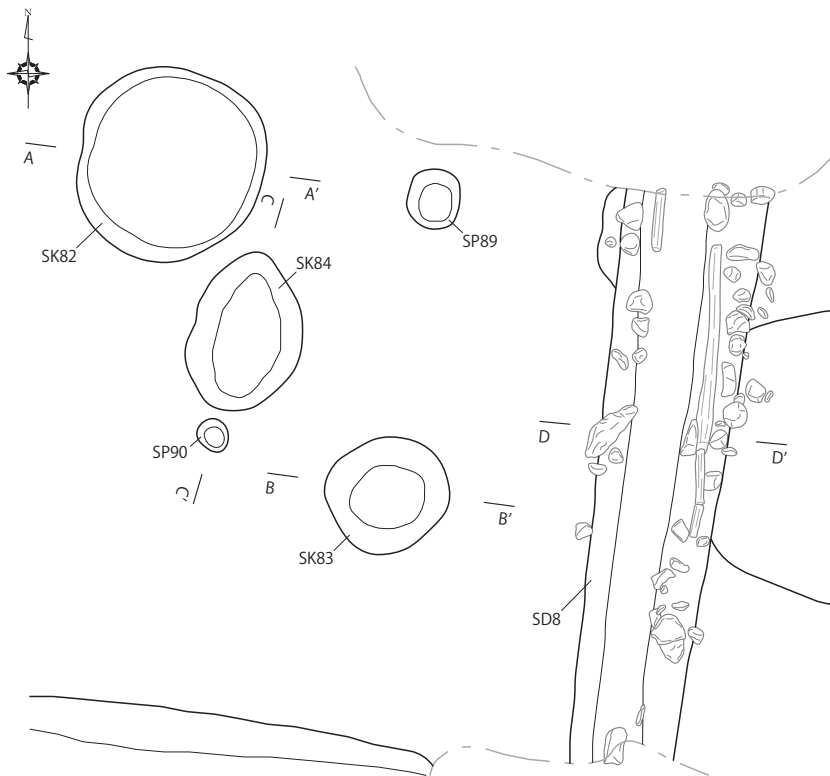


第40図 E地点(7)



SK72

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に3%含む 下層に灰黄褐色(10YR4/2)粘土が堆積する
- 2 黒色(10YR1.7/1)細粒砂 径1~2cmの炭化物ブロック5%含む 締まりゆるい
- 3 黒色(10YR2/1)シルト 締まりゆるい



258.9m

SK82

- 1 黒褐色(10YR3/1)粘土 にぶい黄色(2.5Y6/4)砂20%・焼土・炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい

258.9m

SK83

- 1 黒褐色(10YR2/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい

258.9m

SK84

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい

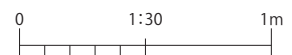
SP90

- 2 黒褐色(10YR3/1)シルト 焼土・炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい

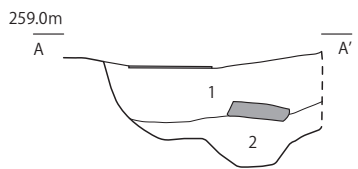
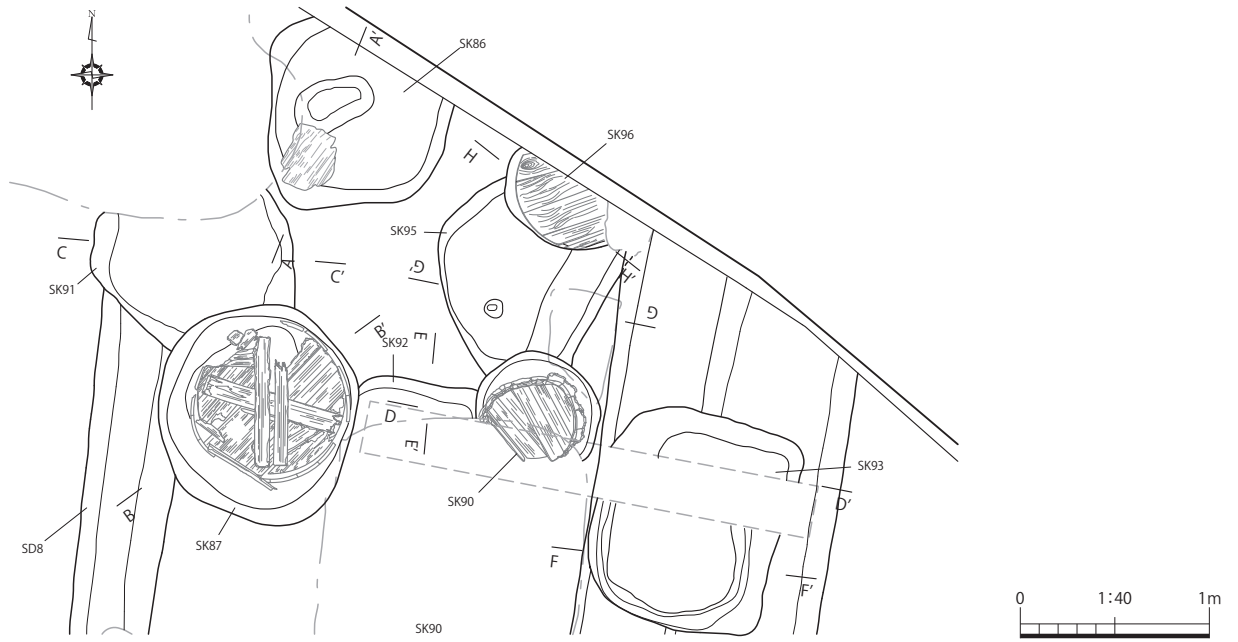
259.0m

SD8

- 1 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂 締まりゆるい

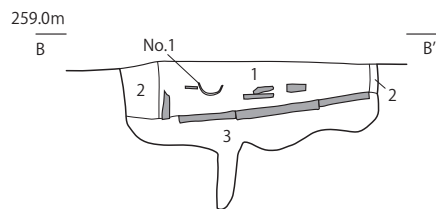


第41図 E地点(8)



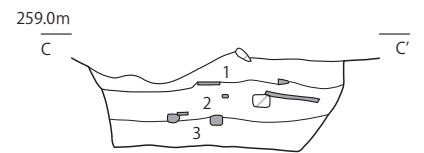
SK86

- 1 黒褐色(10YR3/1)シルト
炭化物粒状に2%含む 縮まりゆるい
- 2 黒色(7.5Y2/1)シルト 縮まりゆるい
粘性強い



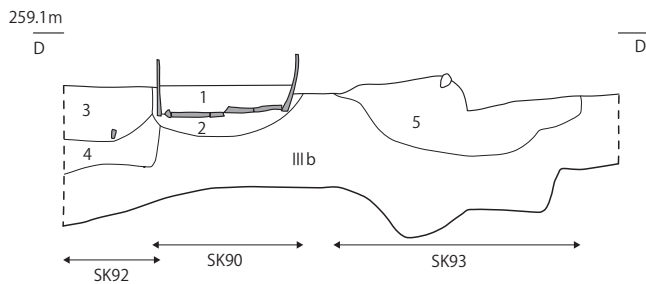
SK87

- 1 黒色(10YR1.7/1)砂 木片が堆積する
縮まりゆるい
- 2 黒色(7.5Y2/1)粘土 砂2%含む
縮まりゆるい [埋桶の掘方]
- 3 黒色(5Y2/1)粘土 縮まりゆるい



SK91

- 1 黒色(7.5Y2/1)砂質シルト
炭化物粒状に2%含む 縮まりゆるい
- 2 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト 木片が堆積する
縮まりゆるい
- 3 黒色(7.5Y2/1)砂質シルト



SK90

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む 固く縮まる
- 2 黒色(7.5Y2/1)粘土 砂2%含む 縮まりゆるい

SK92

- 3 黒色(7.5Y2/1)粘土 砂・焼土ブロック・炭化物粒状に3%含む 縮まりゆるい
- 4 黒色(N1.5/0)粘土 砂・焼土・炭化物粒状に2%含む 縮まりゆるい

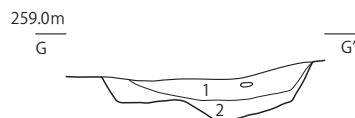
SK93

- 5 黒色(2.5Y2/1)粘土 黒褐色(10YR2/2)砂20%・焼土・炭化物粒状に3%含む
縮まりゆるい

IIIb 黒色(10YR1.7/1)粘土 泥岩粒状に15%含む [地山]

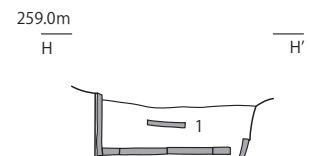


SK92エレベーション図



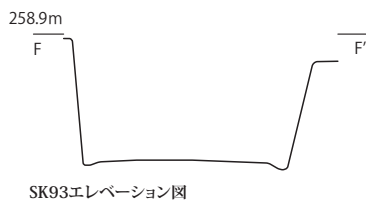
SK95

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に3%含む 縮まりゆるい
- 2 黒色(10YR2/1)シルト 縮まりゆるい

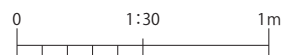


SK96

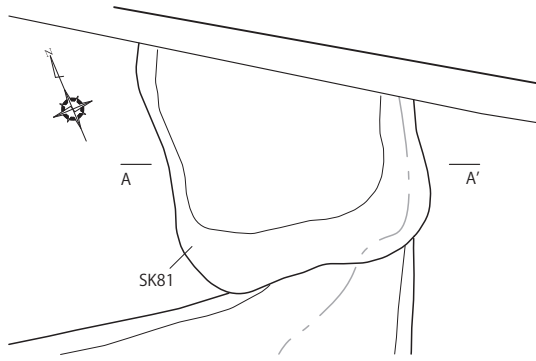
- 1 黒色(2.5Y2/1)砂
焼土・炭化物粒状に2%含む
縮まりゆるい



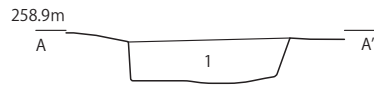
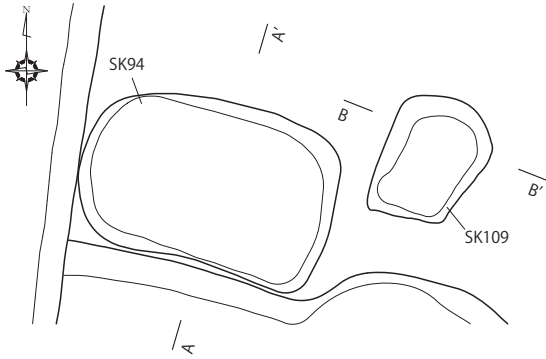
SK93エレベーション図



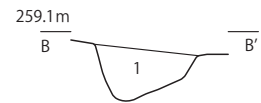
第42図 E地点(9)



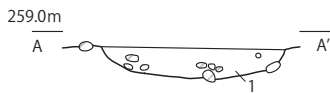
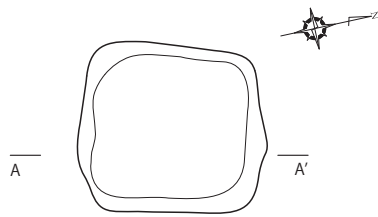
SK81
 1 黒色(10YR1.7/1)シルト 径10~20cmの礫5%・炭化物粒状に15%含む 縮まりゆるい



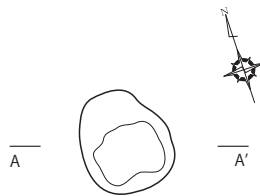
SK94
 1 黒色(10YR1.7/1)砂質シルト 炭化物粒状に2%含む



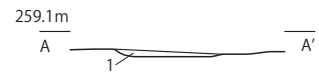
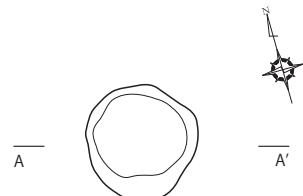
SK109
 1 黒褐色(10YR2/2)砂 炭化物粒状に2%含む



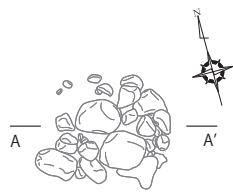
SK97
 1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 径3~5cmの礫を20%含む



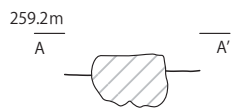
SK102
 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に3%含む



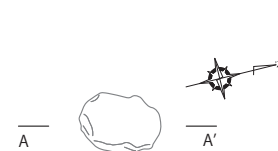
SK103
 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 焼土粒状に10%・炭化物粒状に3%含む 固く縮まる



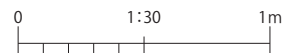
SS31
 1 黒褐色(10YR2/2)砂 径5~20cmの礫を充填する 焼土・炭化物粒状に2%含む



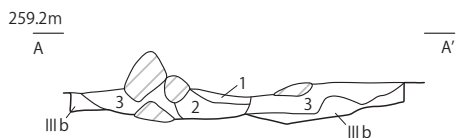
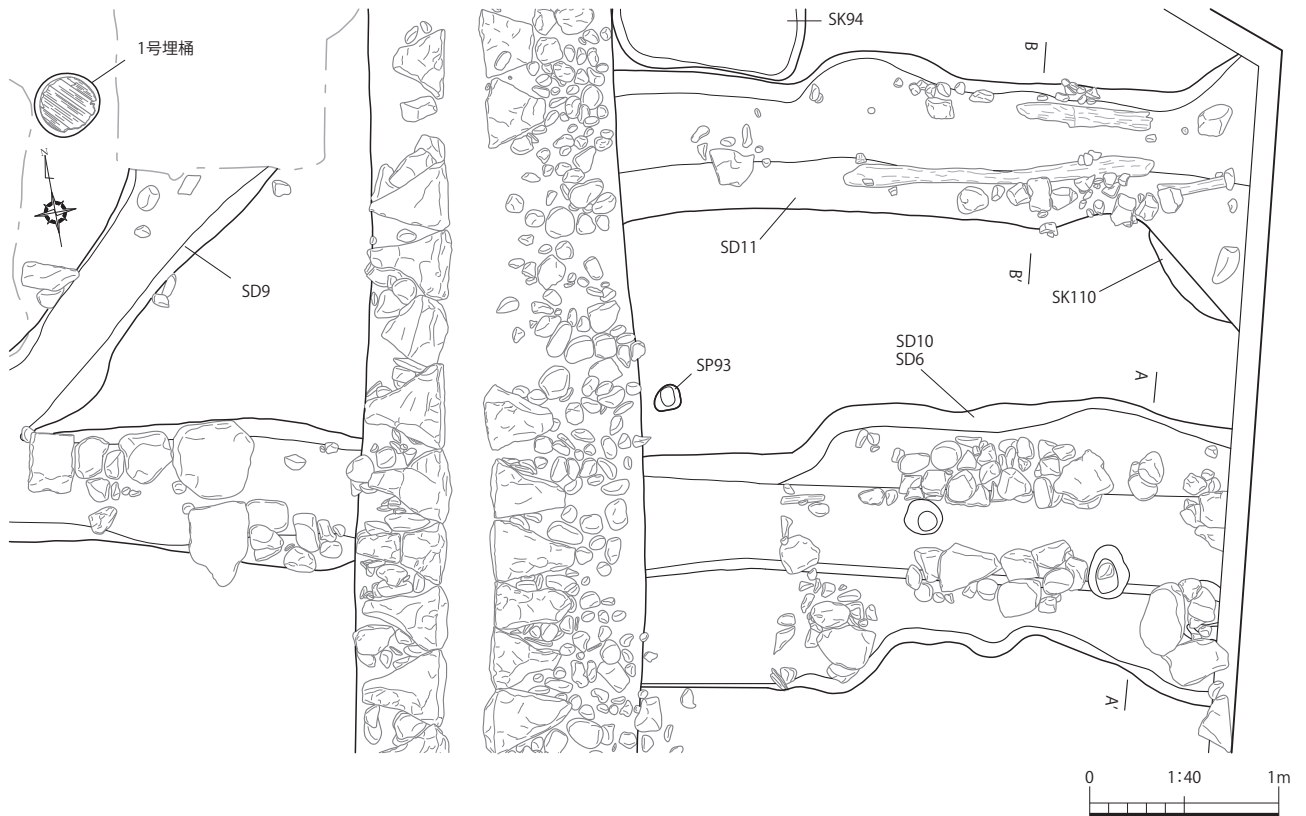
SS32 エレベーション図



SS33 エレベーション図

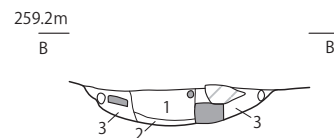


第43図 E地点(10)



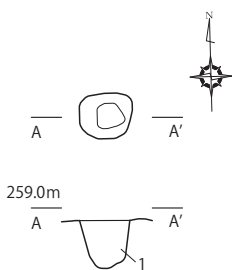
SD10

- 1 黒褐色(10YR3/1)粘土 砂・焼土・炭化物粒状に2%含む 縮まりゆるい
- 2 黒褐色(10YR2/2)細粒砂 焼土・炭化物粒状に2%含む 縮まりゆるい
- 3 黒色(10YR2/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に2%含む 縮まりゆるい
- IIIb 黒色(10YR1.7/1)粘土 泥岩粒状に15%含む [地山]



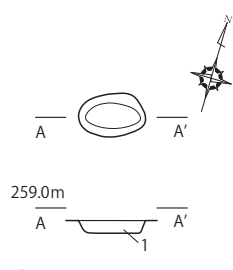
SD11

- 1 黒色(2.5Y2/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に2%含む 縮まりゆるい
- 2 黒色(2.5Y2/1)粘土 縮まりゆるい
- 3 黒褐色(10YR3/1)粘土 砂・焼土・炭化物粒状に2%含む 縮まりゆるい



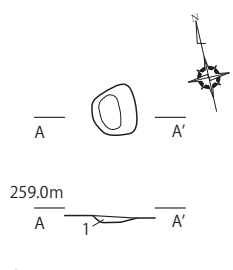
SP81

- 1 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土・炭化物粒状に5%含む 縮まりゆるい



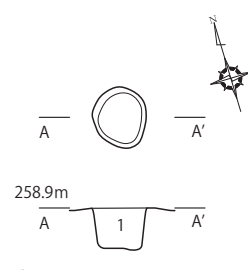
SP82

- 1 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土・炭化物粒状に5%含む 縮まりゆるい



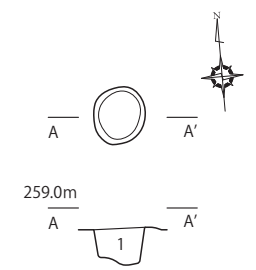
SP83

- 1 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土・炭化物粒状に5%含む 縮まりゆるい



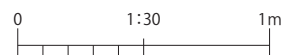
SP84

- 1 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土・炭化物粒状に5%含む 縮まりゆるい

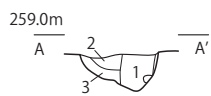


SP85

- 1 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土・炭化物粒状に5%含む 縮まりゆるい

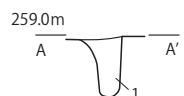
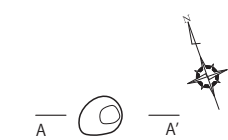


第44図 E地点(11)



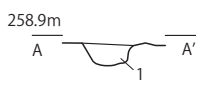
SP86

- 1 黒褐色(10YR2/2)細粒砂
焼土・炭化物粒状に2%含む
締まりゆるい
- 2 黒褐色(10YR2/3)砂
焼土・炭化物粒状に5%含む
締まりゆるい
- 3 黒褐色(10YR2/1)粘土
焼土・炭化物粒状に2%含む
締まりゆるい



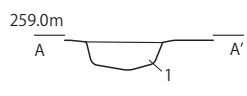
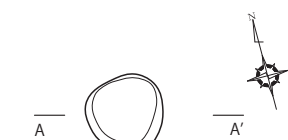
SP87

- 1 黒褐色(7.5YR2/2)砂
焼土・炭化物粒状に2%含む
締まりゆるい



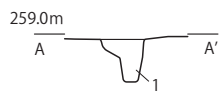
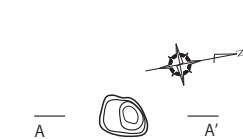
SP89

- 1 黒褐色(10YR3/2)砂
焼土・炭化物粒状に3%含む
締まりゆるい



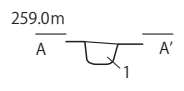
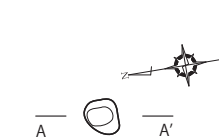
SP91

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に3%含む
締まりゆるい



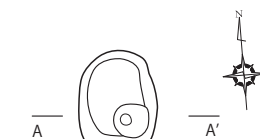
SP92

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に3%含む
締まりゆるい



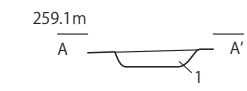
SP93

- 1 黒褐色(10YR3/2)砂
焼土・炭化物粒状に7%含む
締まりゆるい



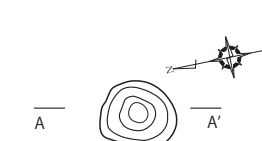
SP102

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に2%含む
締まりゆるい



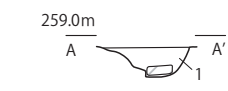
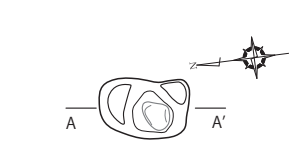
SP103

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
炭化物粒状に3%含む



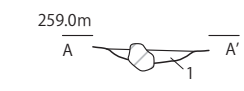
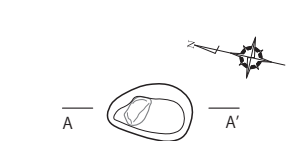
SP104

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
炭化物粒状に2%含む
締まりゆるい



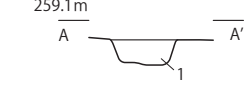
SP105

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に2%含む
締まりゆるい



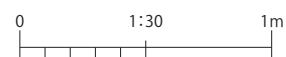
SP106

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に2%含む
締まりゆるい



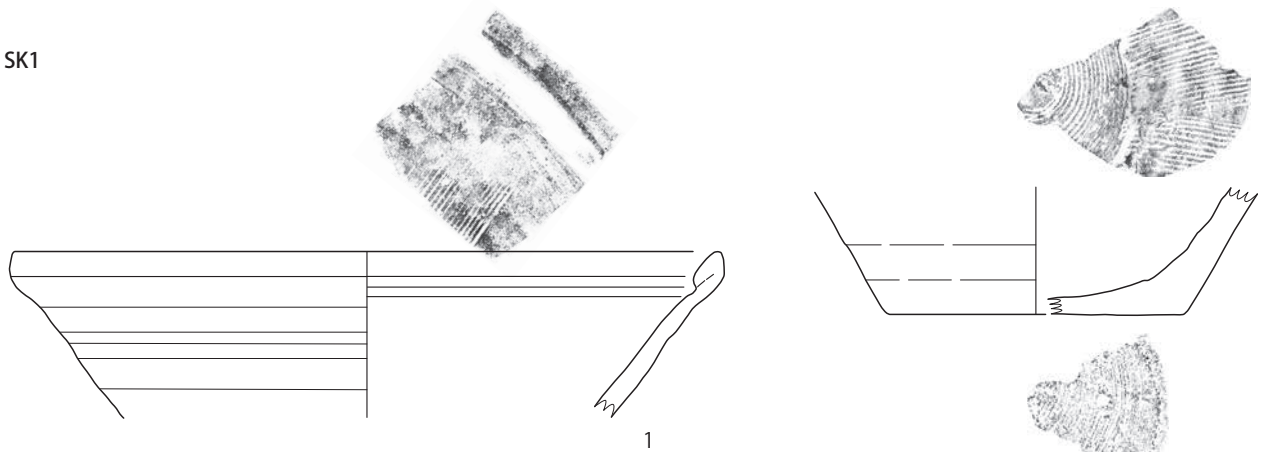
SP107

- 1 灰が堆積する
焼土粒状に3%・炭化物粒状に5%含む
固く締まる

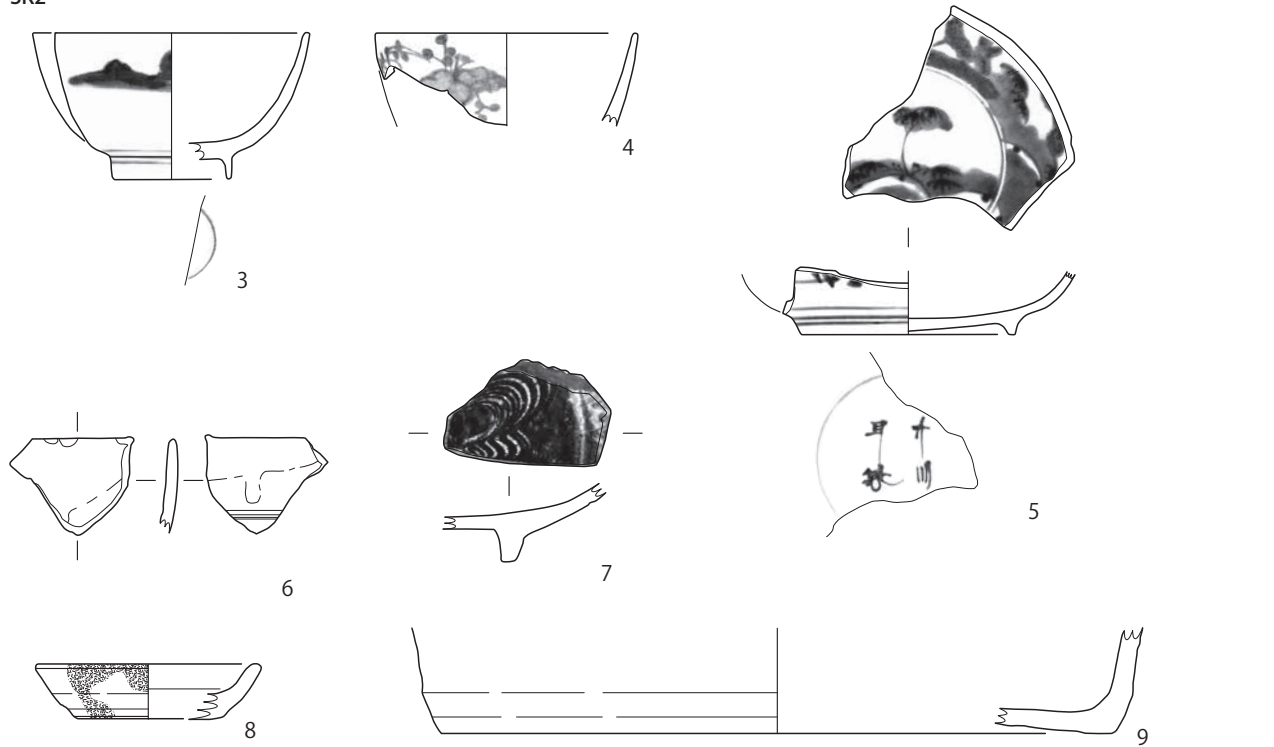


第45図 E地点(12)

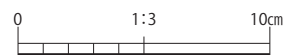
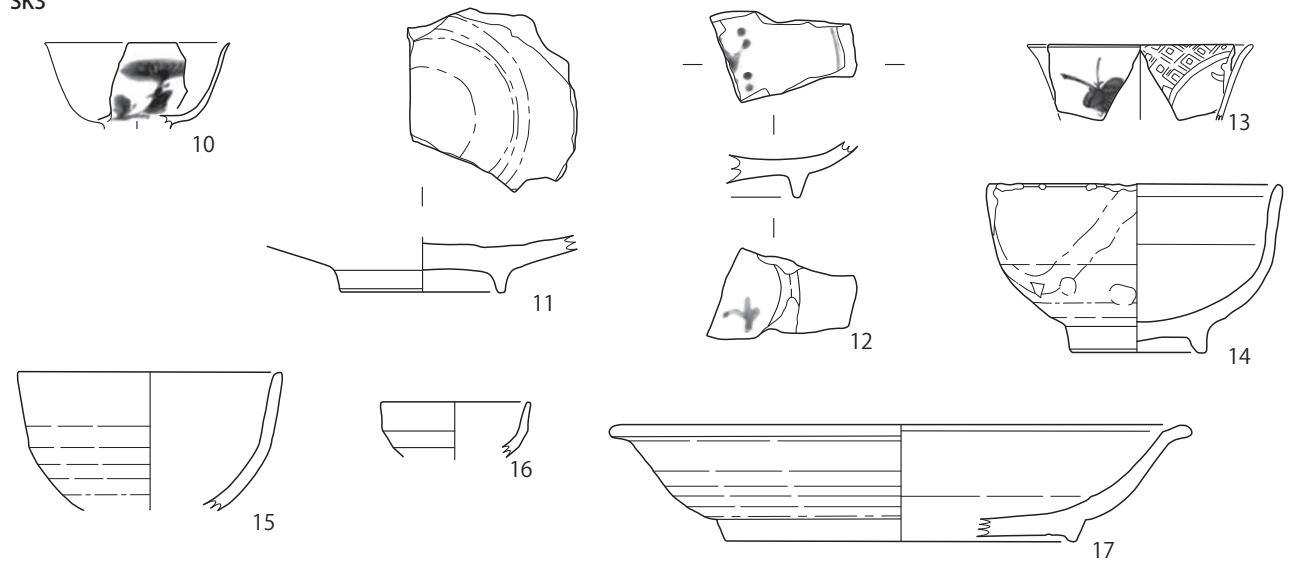
SK1



SK2

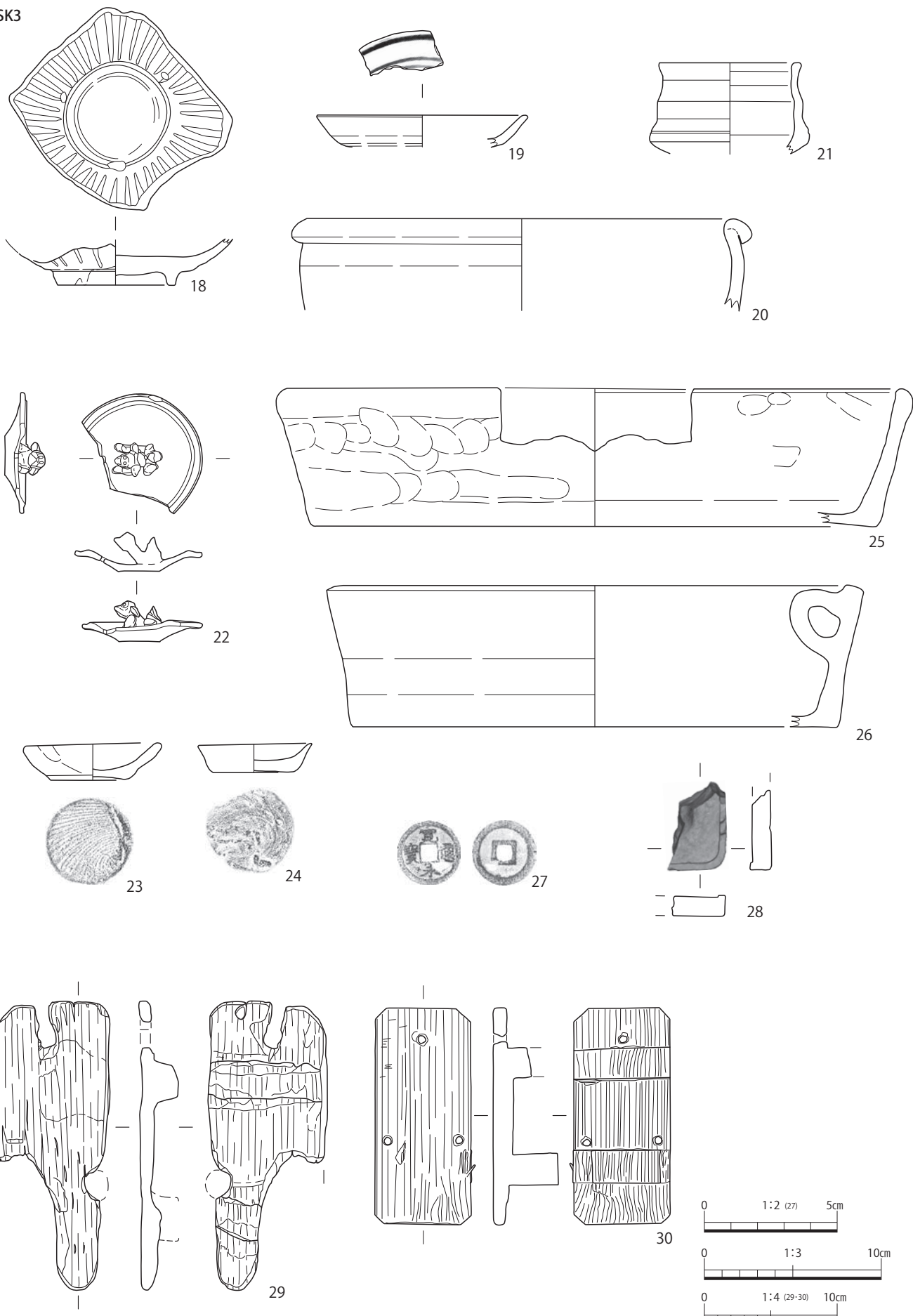


SK3



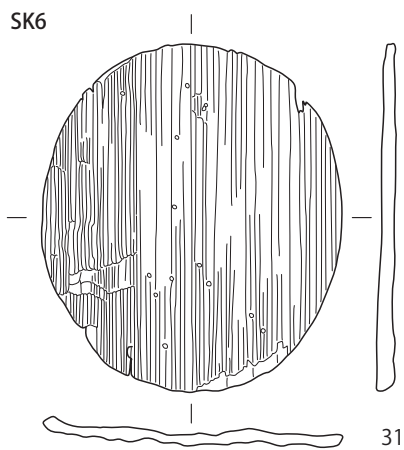
第 46 图 A 地点出土遺物 (1)

SK3

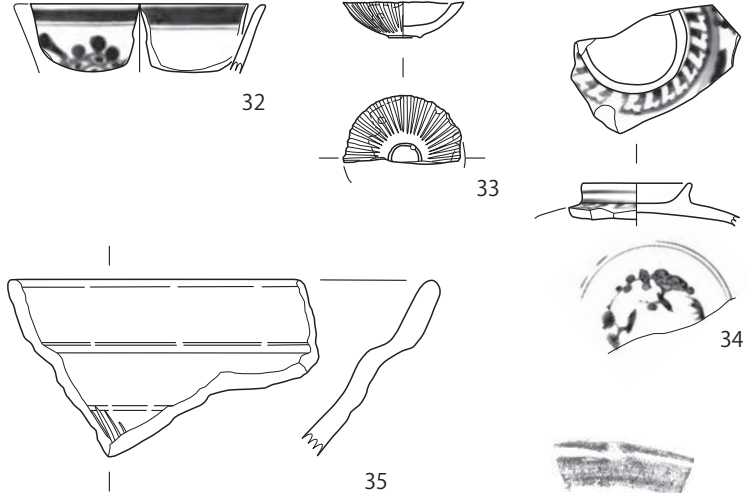


第 47 图 A 地点出土遺物 (2)

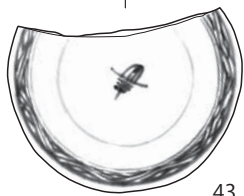
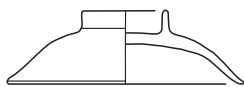
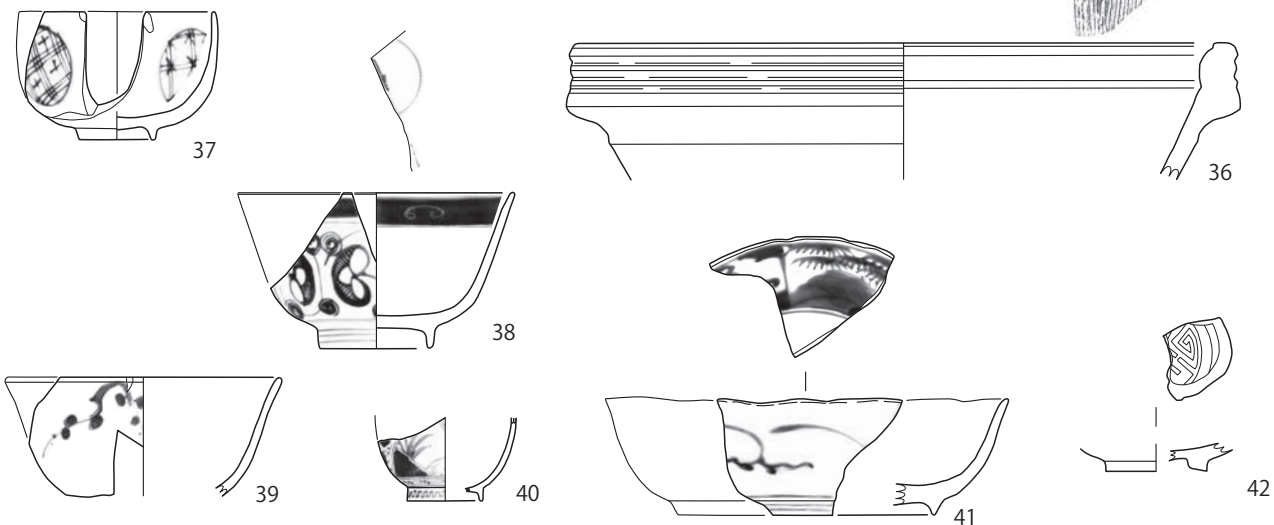
SK6



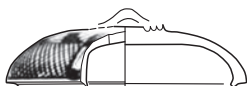
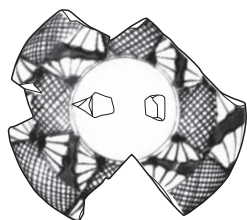
SK9



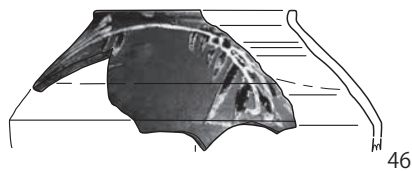
SK10



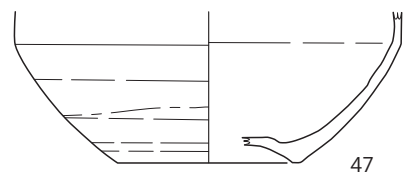
43



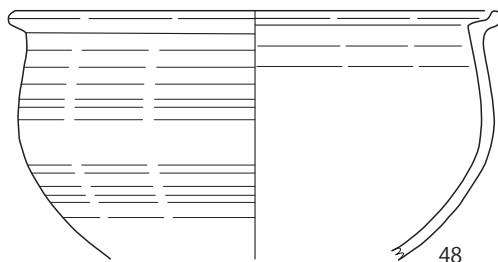
44



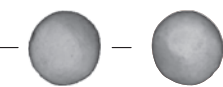
46



47



48

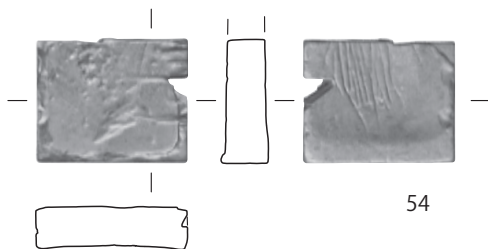
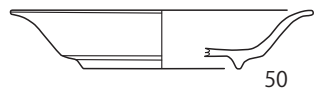
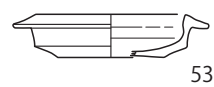
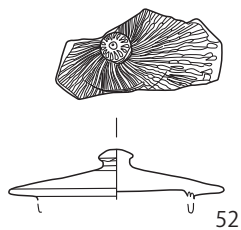
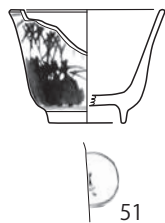


49



第 48 图 A 地点出土遗物 (3)

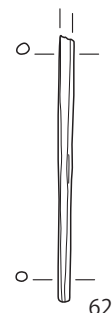
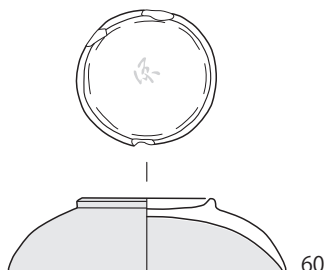
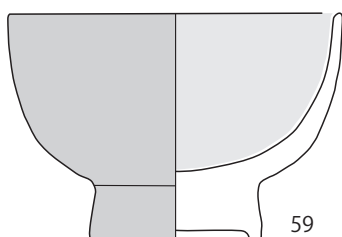
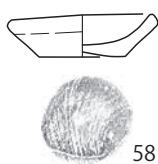
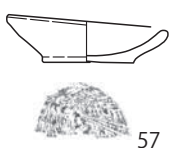
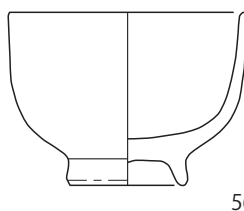
SK11



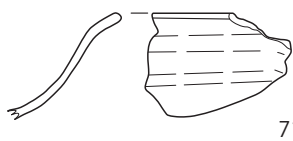
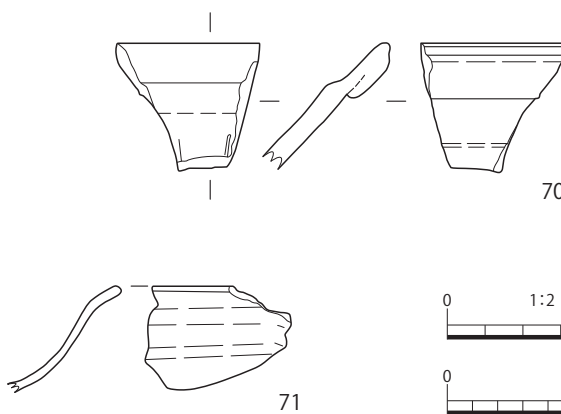
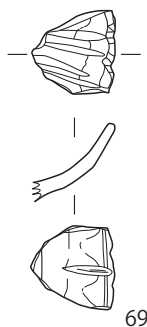
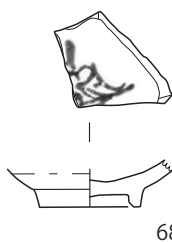
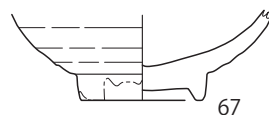
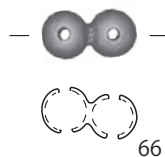
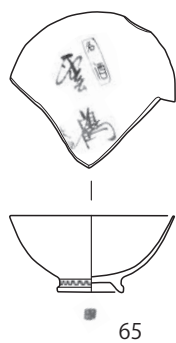
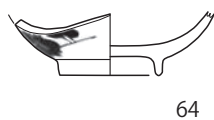
SK12



SK14

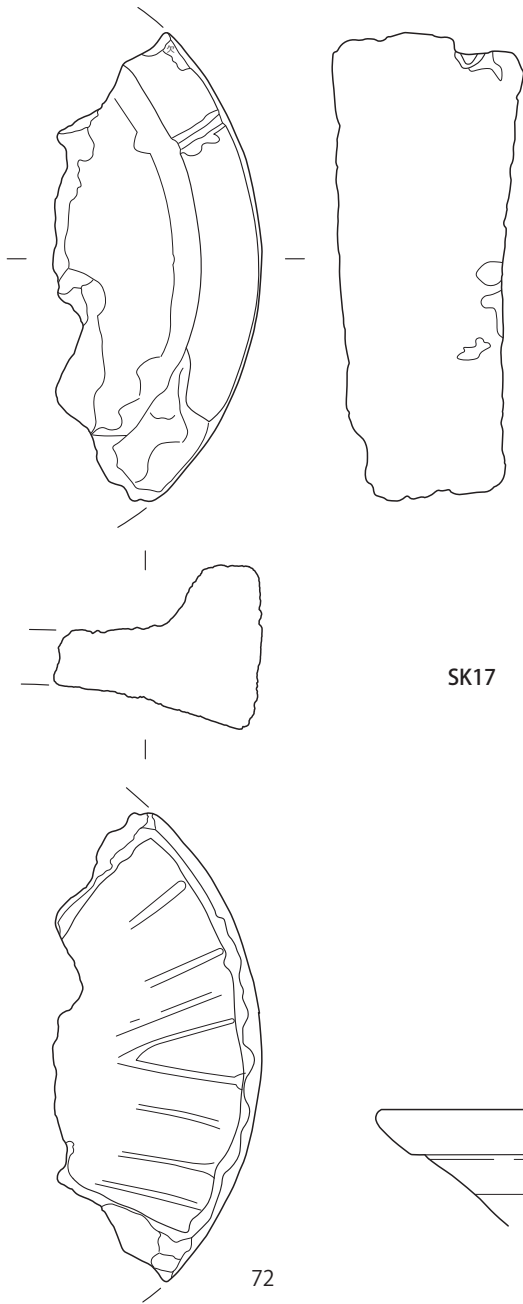


SK15

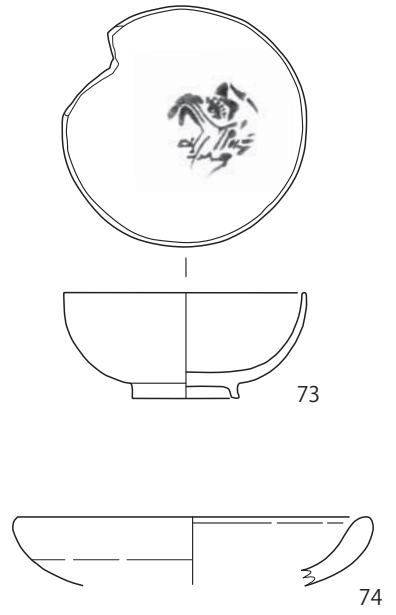


第49图 A地点出土遗物(4)

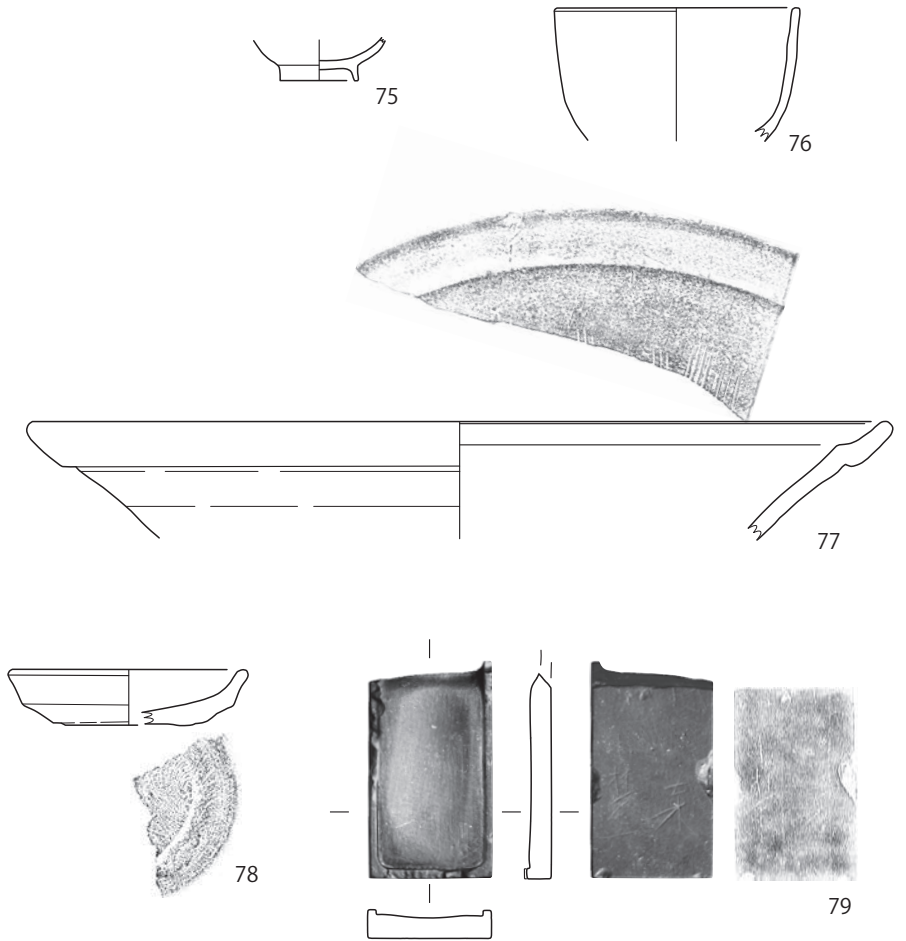
SK15



SK16



SK17

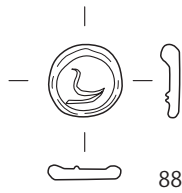
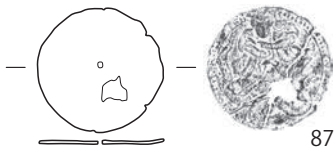
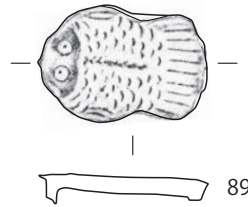
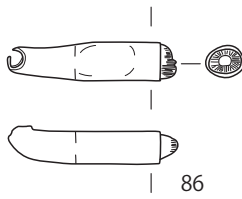
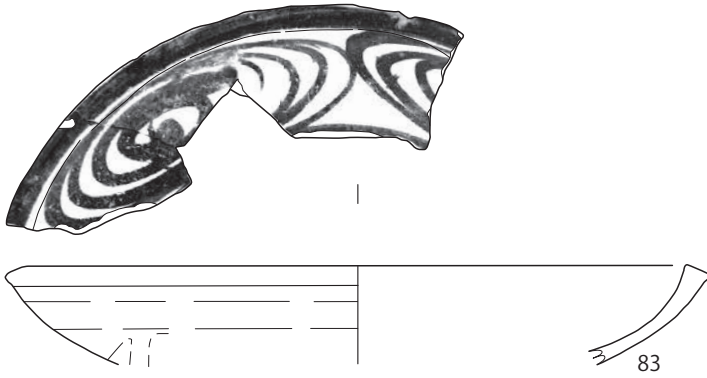
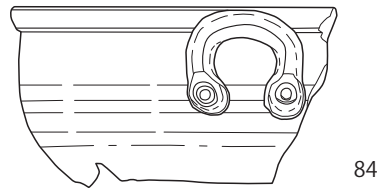
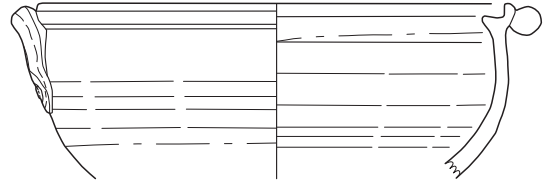
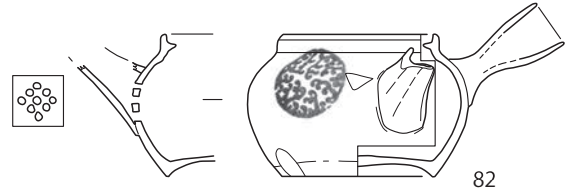
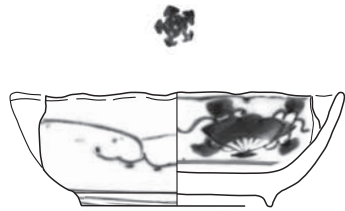
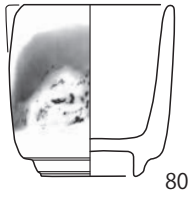


0 1:3 10cm

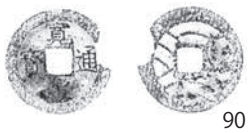
0 1:4 (72) 10cm

第 50 图 A 地点出土遺物 (5)

SK18

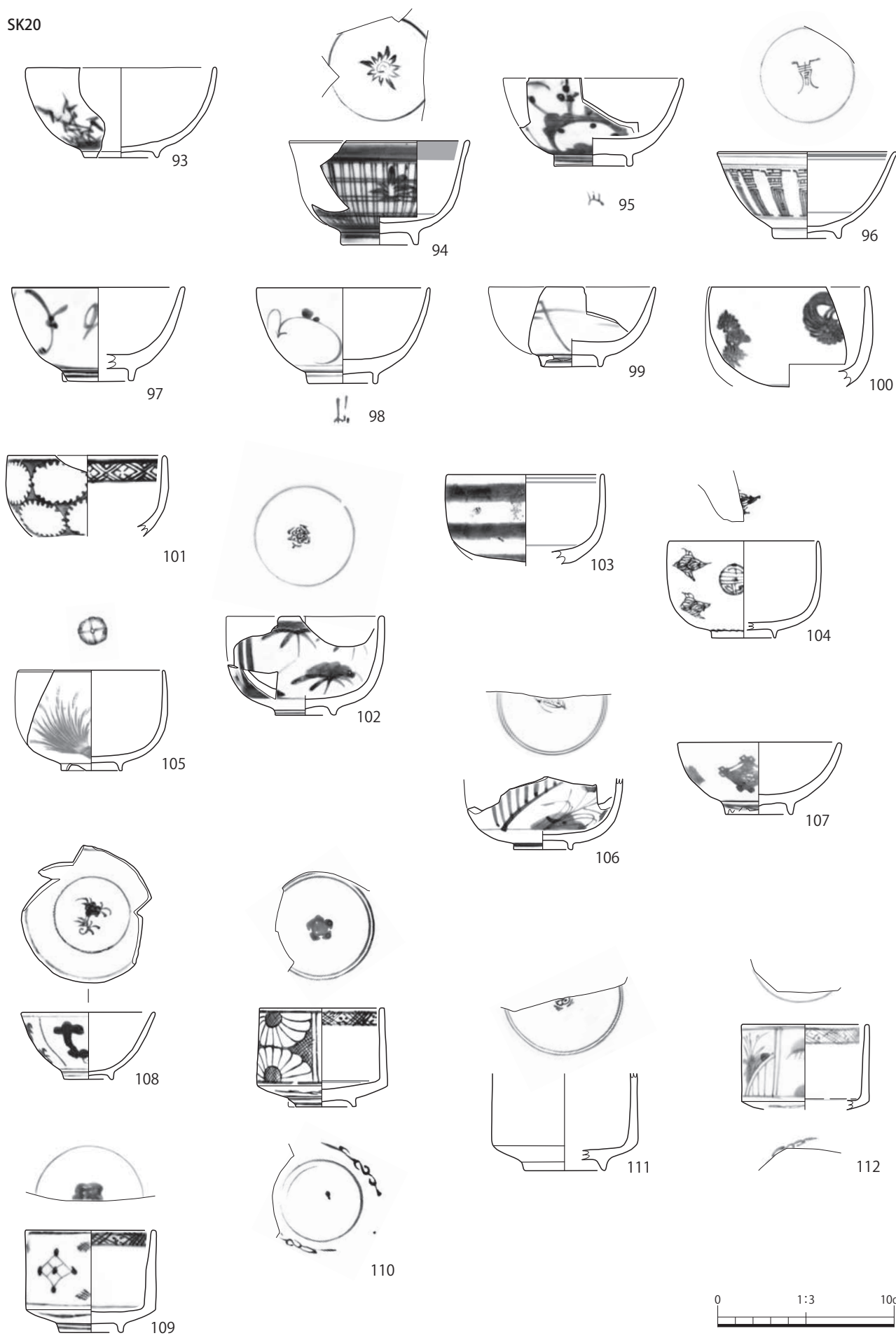


SK19



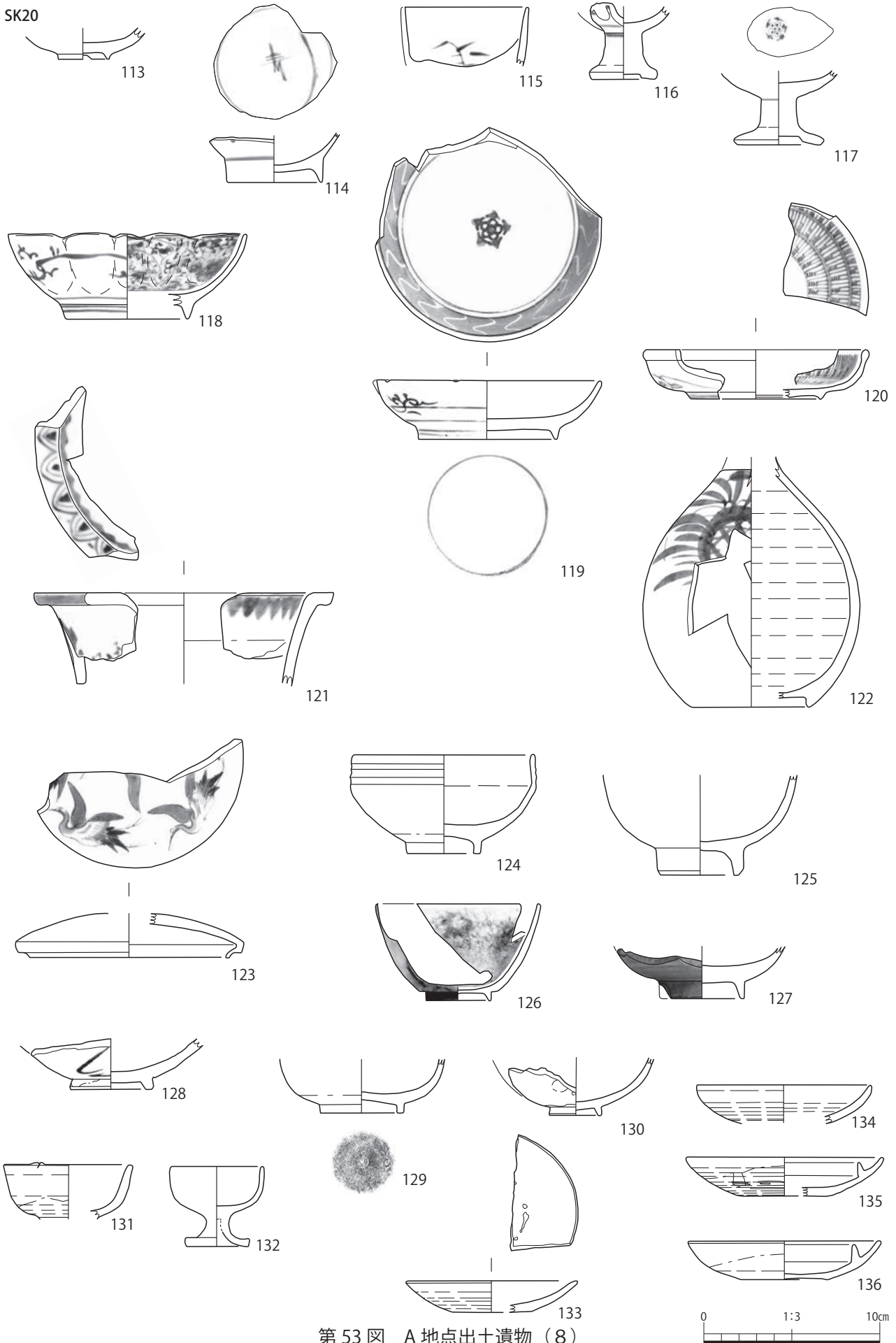
第51図 A地点出土遺物(6)

SK20



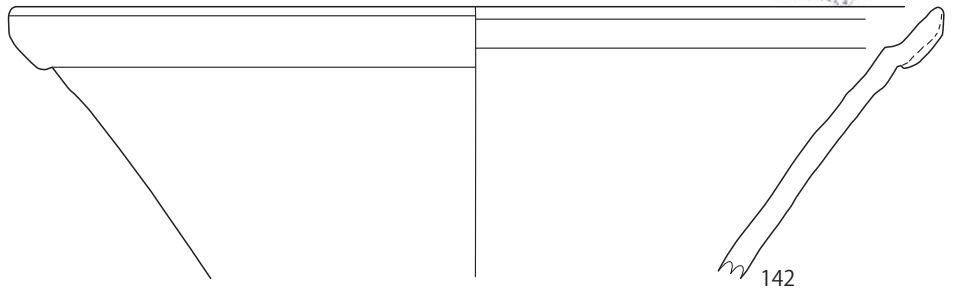
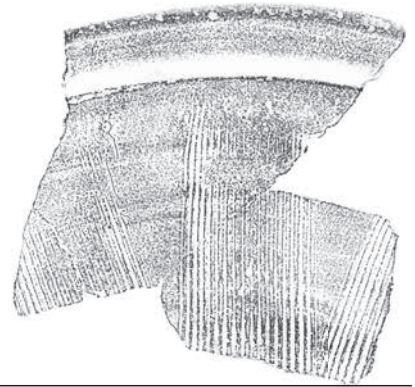
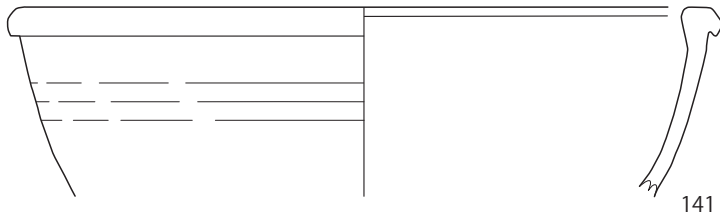
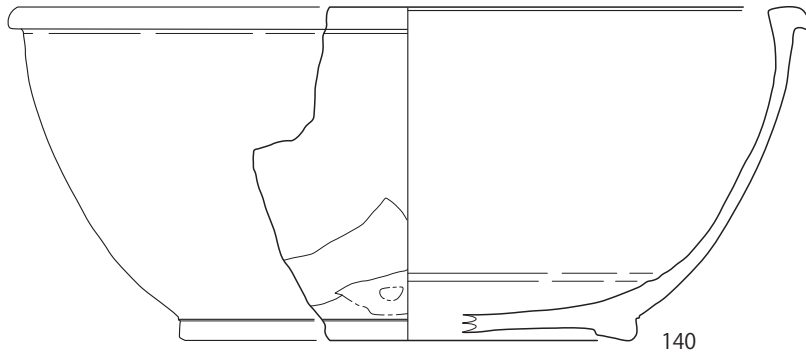
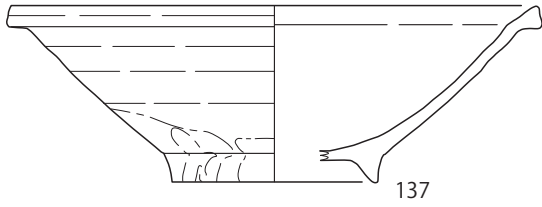
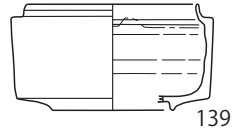
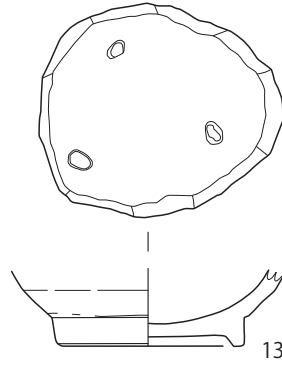
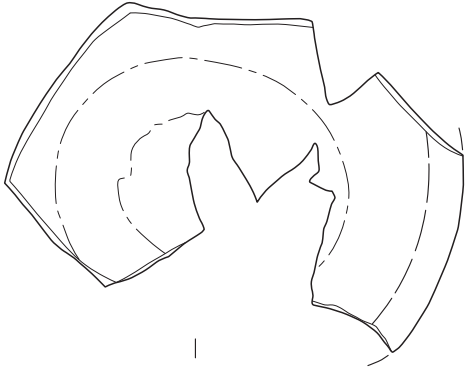
第 52 图 A 地点出土遺物 (7)

SK20



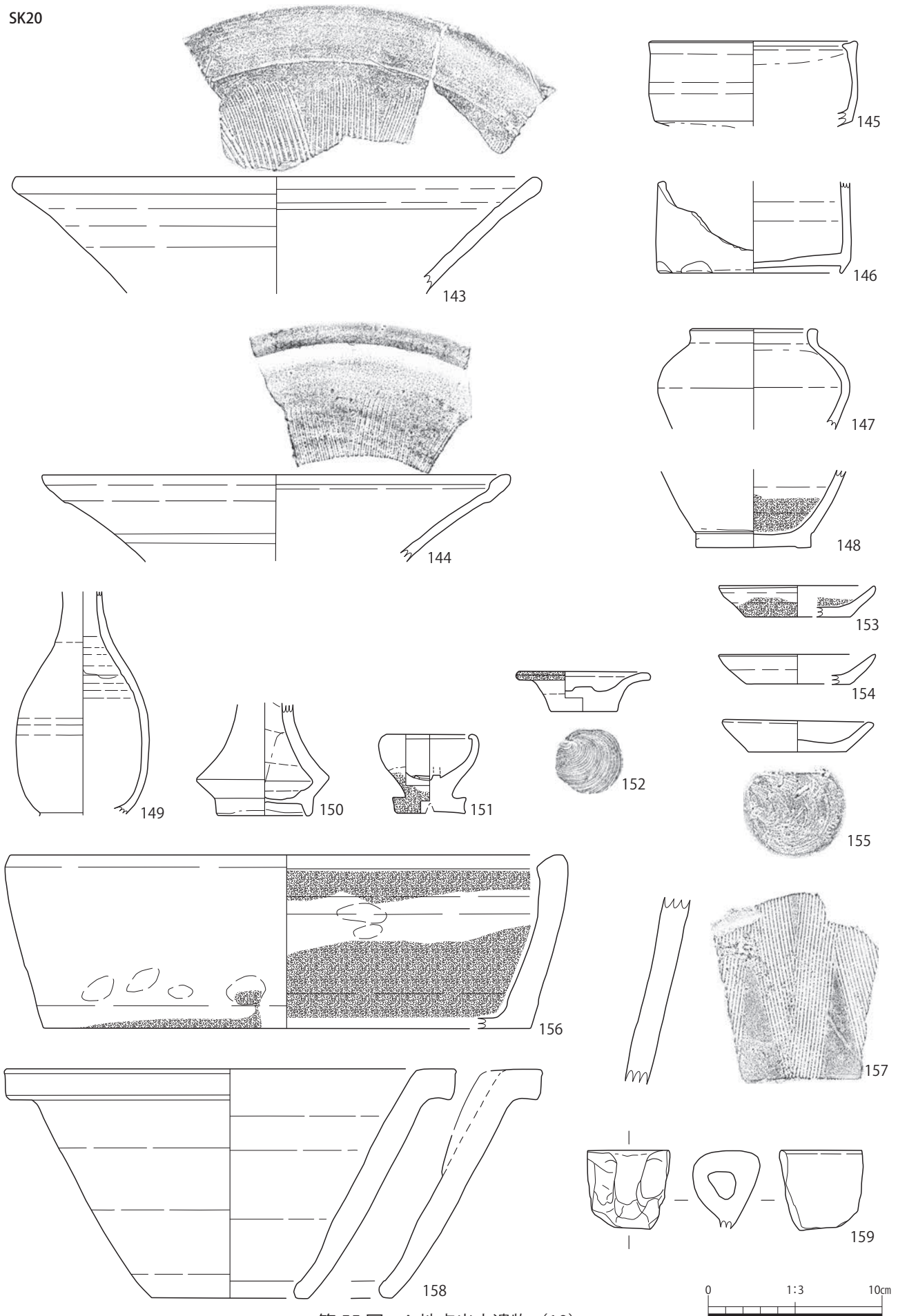
第 53 图 A 地点出土遺物 (8)

SK20



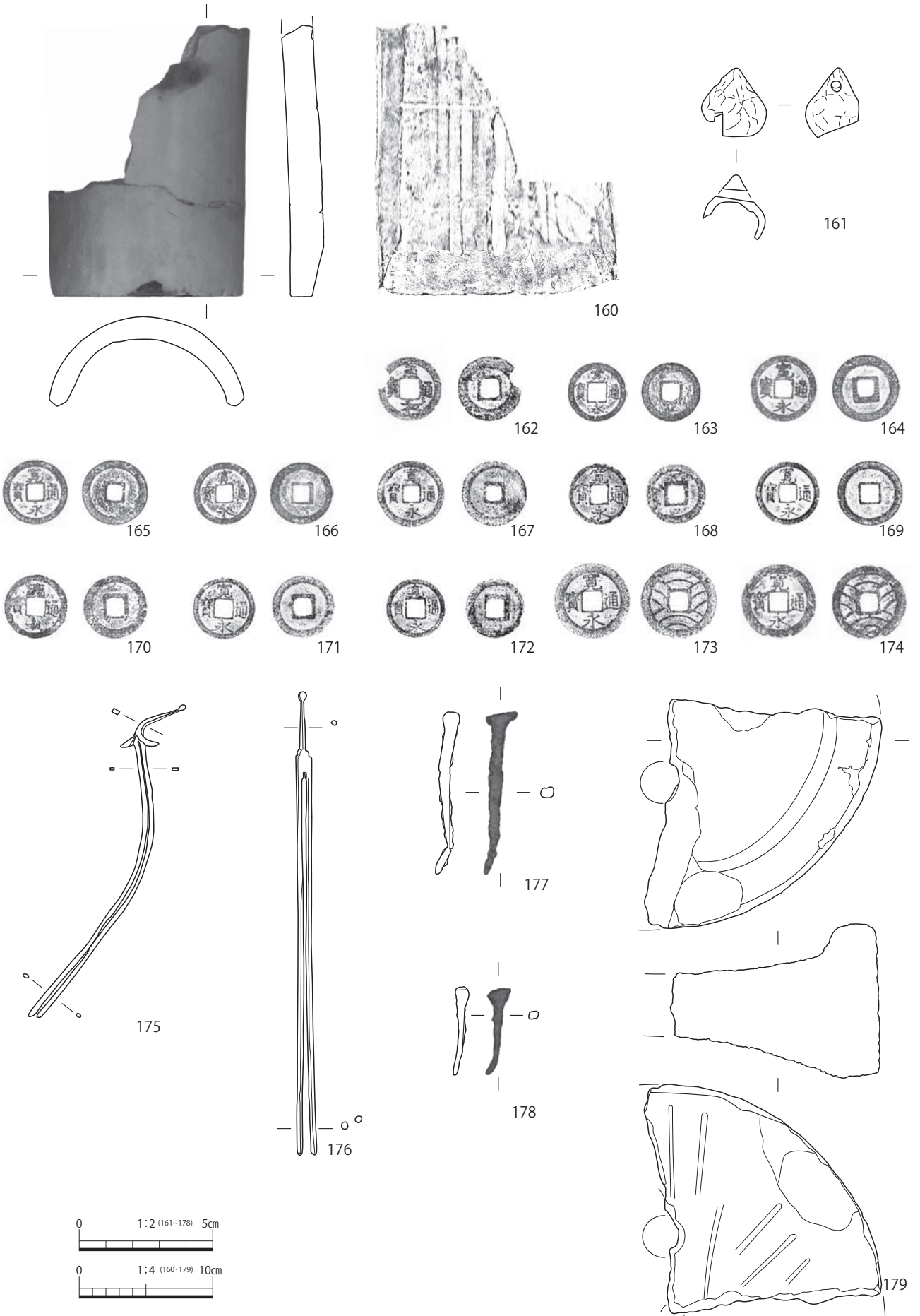
第 54 图 A 地点出土遺物 (9)

SK20



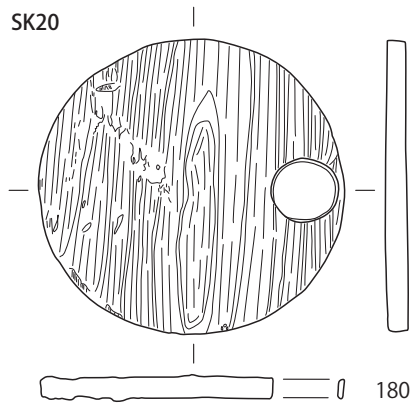
第55图 A地点出土遺物(10)

SK20



第 56 图 A 地点出土遺物 (11)

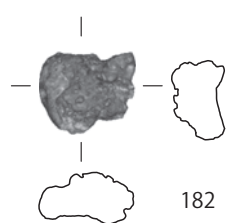
SK20



180

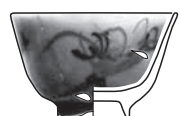


181

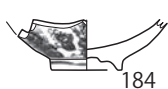


182

SK21



183



184



185



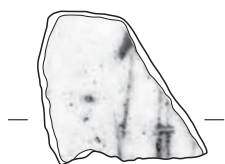
186



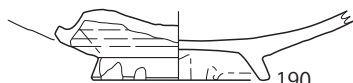
187



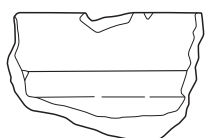
188



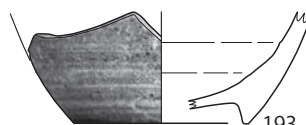
189



190



191



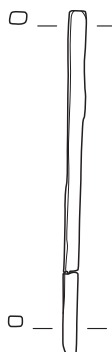
193



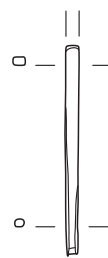
192



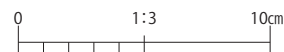
194



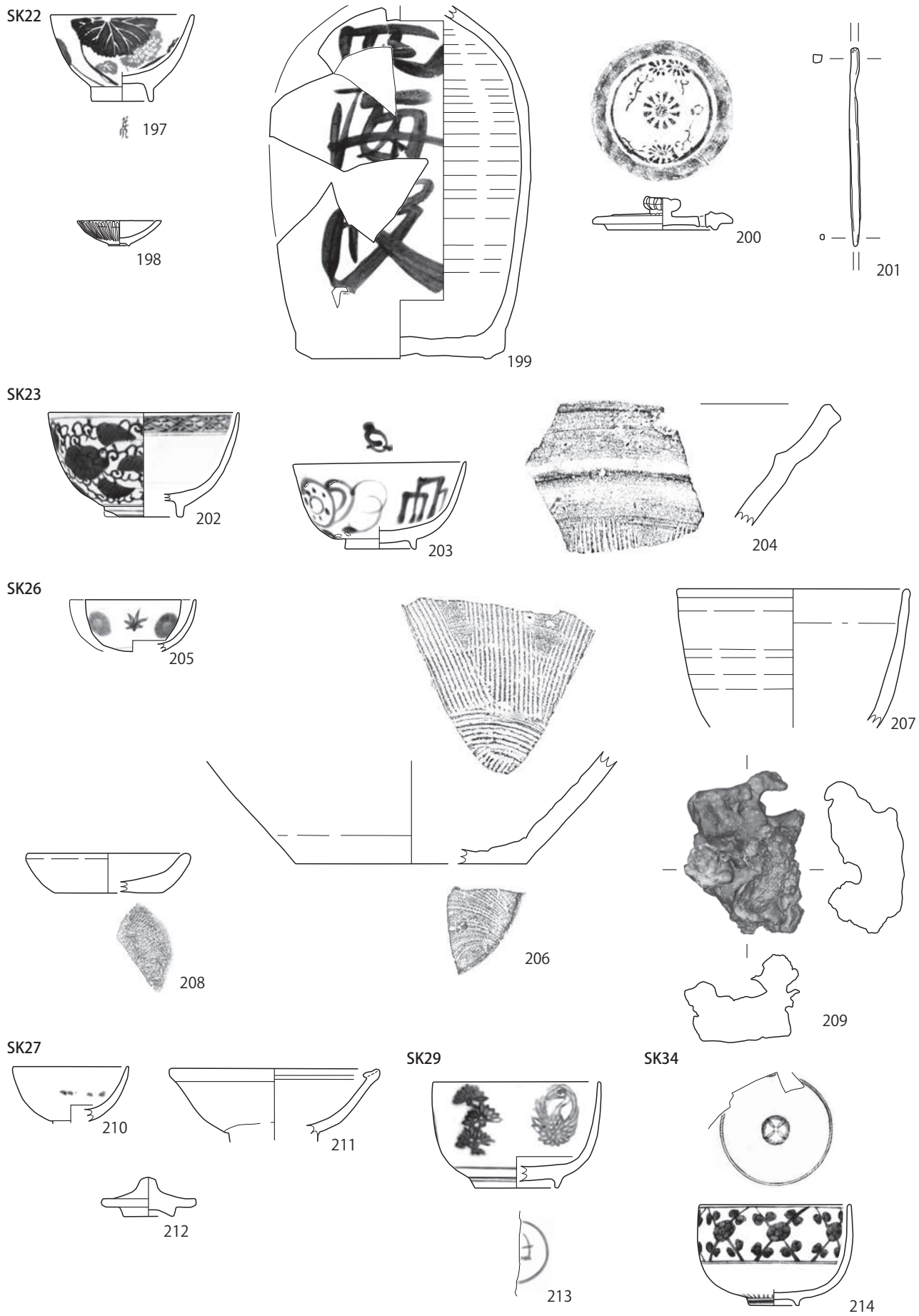
195



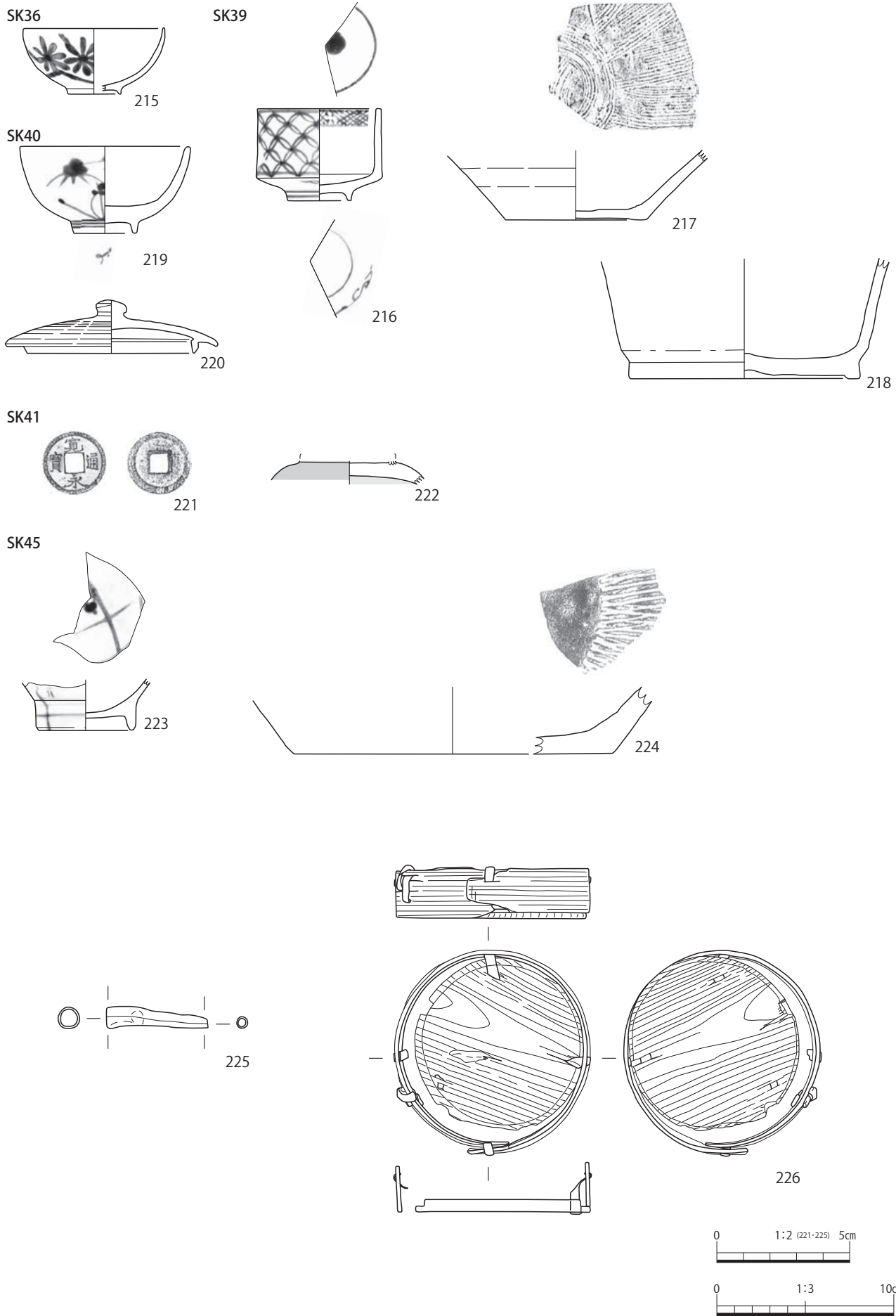
196



第 57 图 A 地点出土遺物 (12)

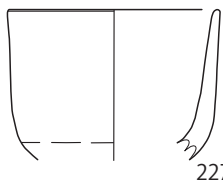


第 58 图 A 地点出土遺物 (13)

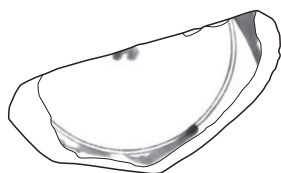


第 59 图 A 地点出土遺物 (14)

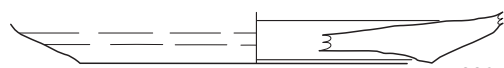
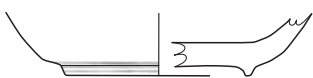
SK46



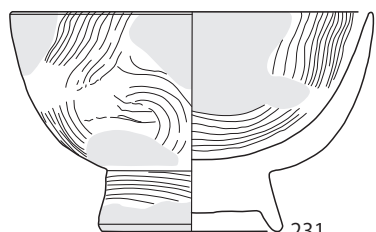
227



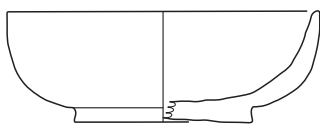
228



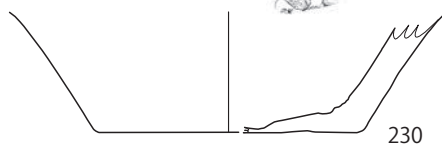
229



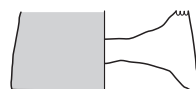
231



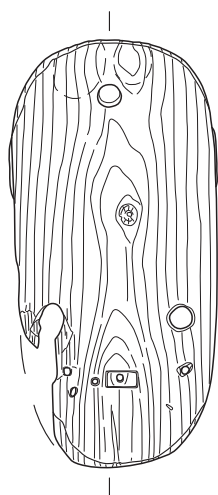
232



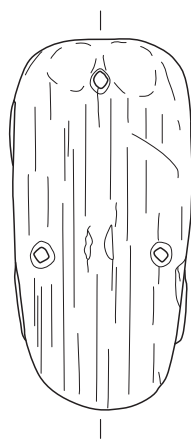
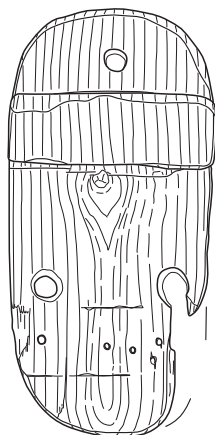
230



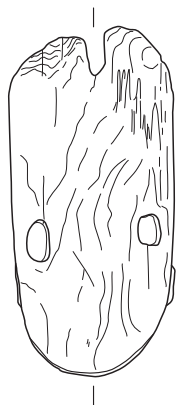
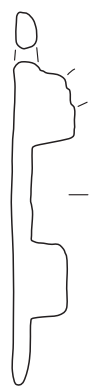
233



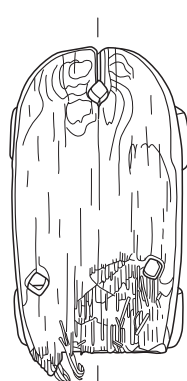
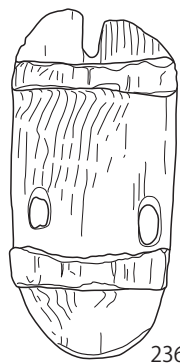
234



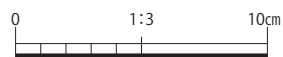
235



236

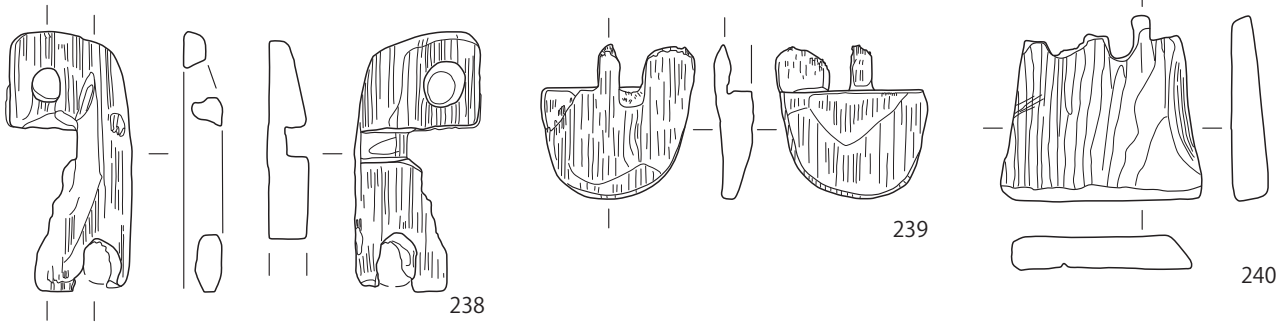


237



第60图 A地点出土遗物(15)

SK46



SP21

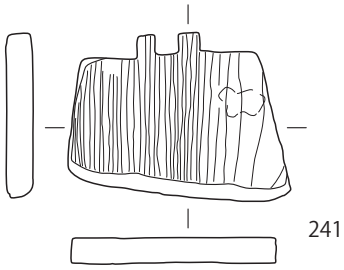


243

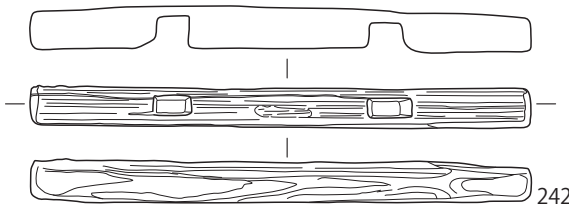
SP37



244

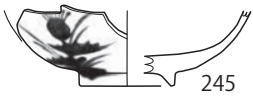


241

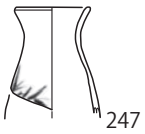


242

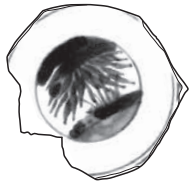
SS2



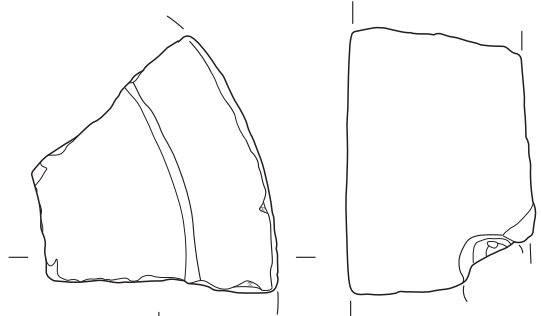
245



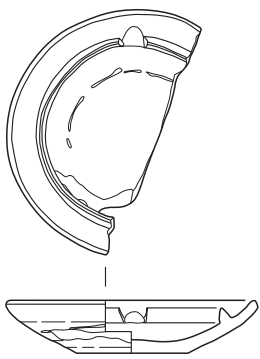
247



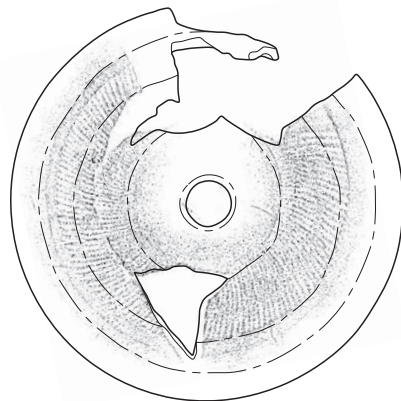
246



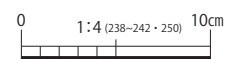
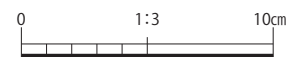
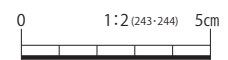
250



248

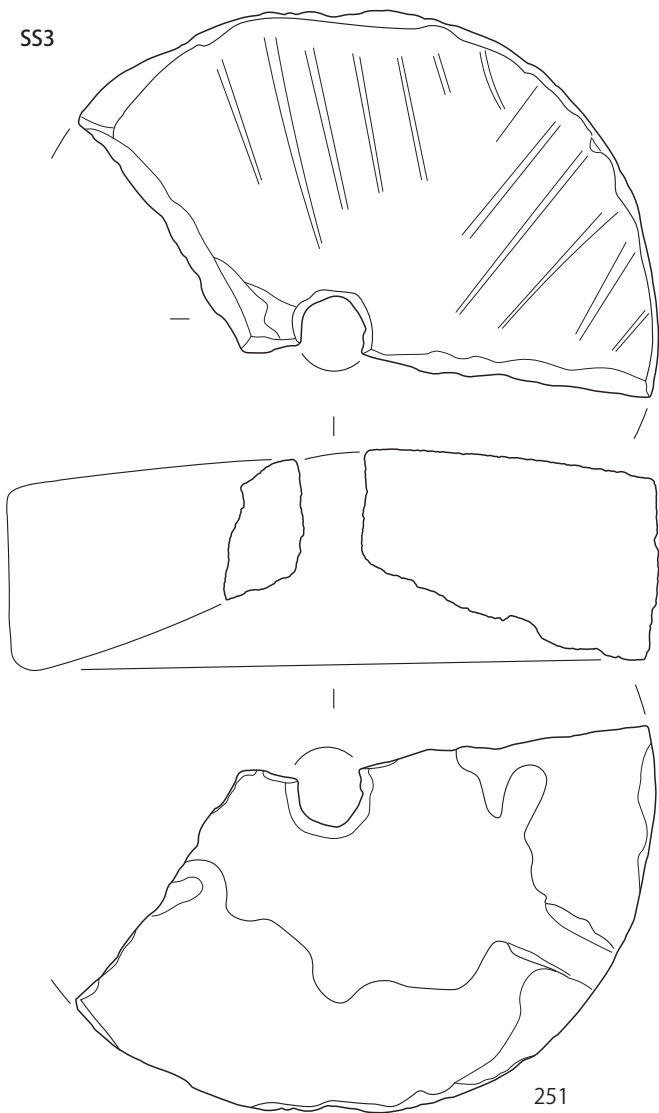


249

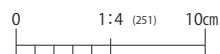
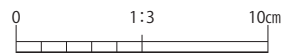
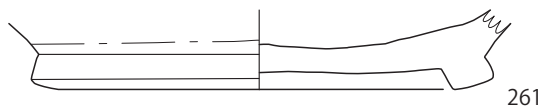
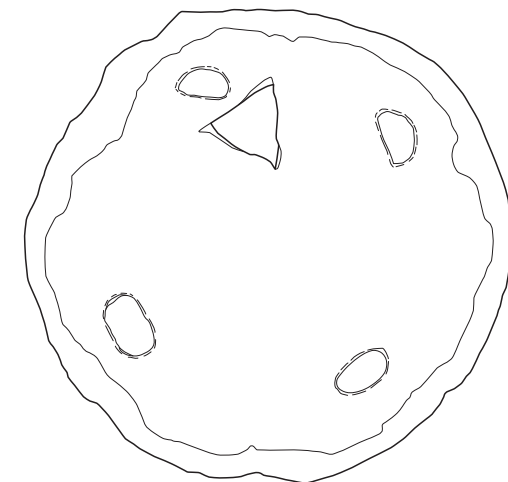
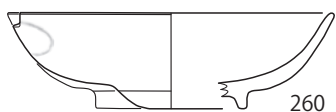
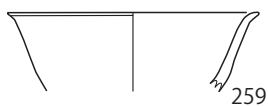
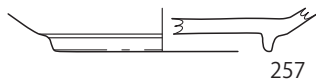
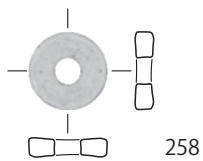
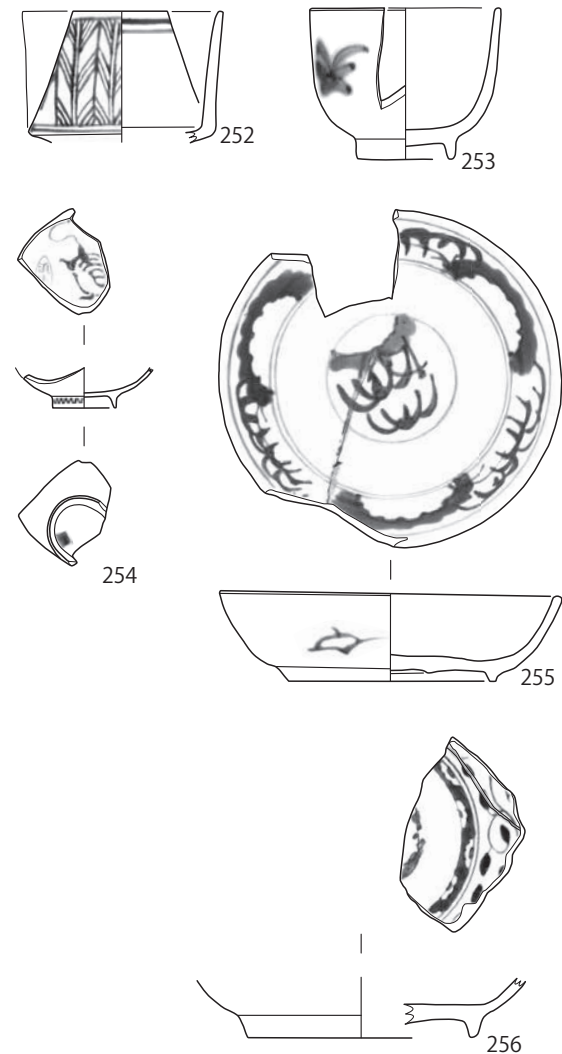


第61图 A地点出土遺物(16)

SS3



SS12



第 62 图 A 地点出土遗物 (17)

SS12



262

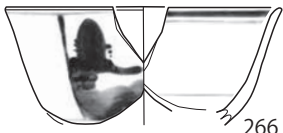


263

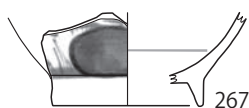


264

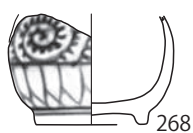
SD3



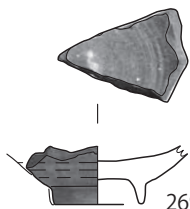
266



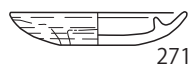
267



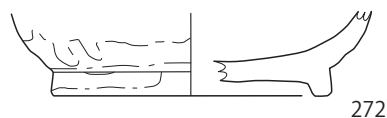
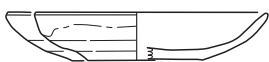
268



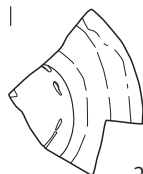
269



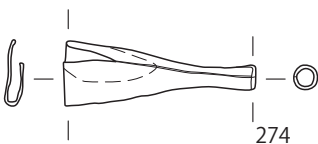
271



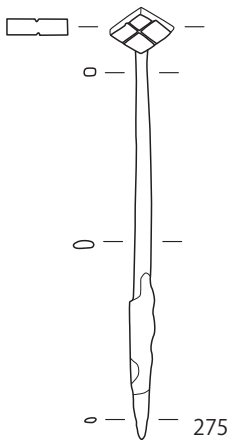
272



270

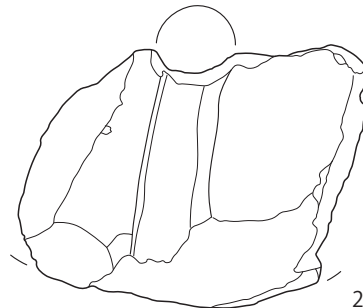
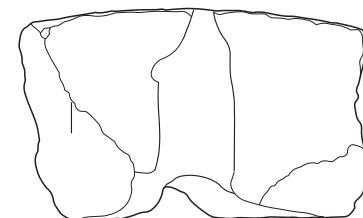
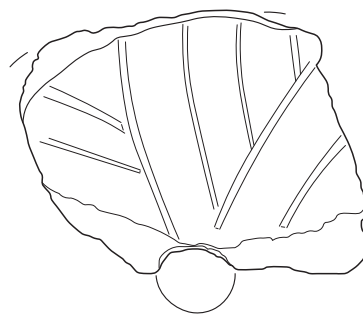


274

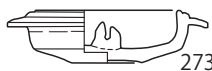
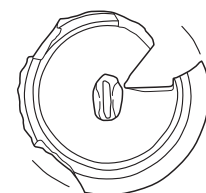


275

SD1



265



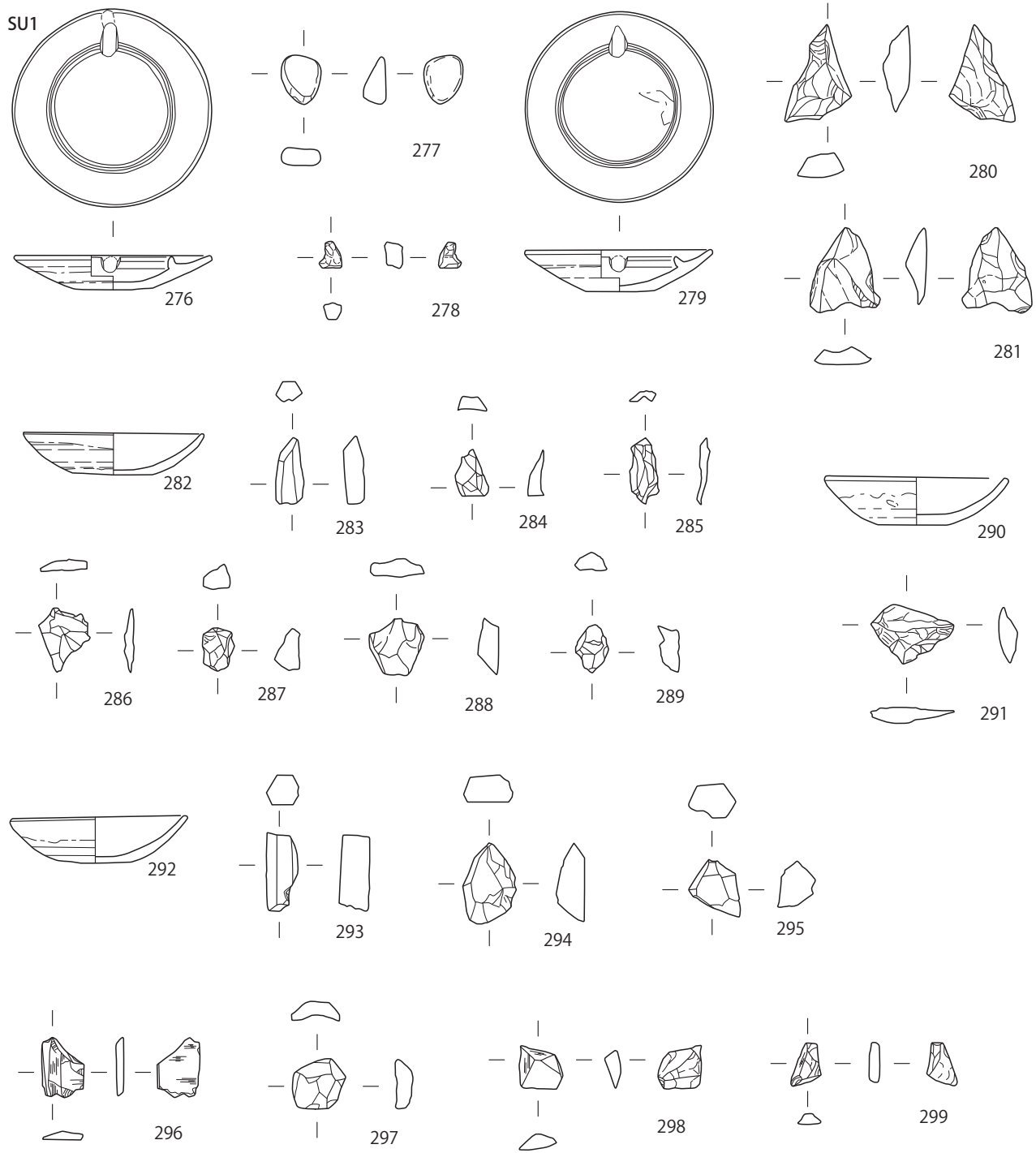
273

0 1:2 5cm
(263-264-274-275)

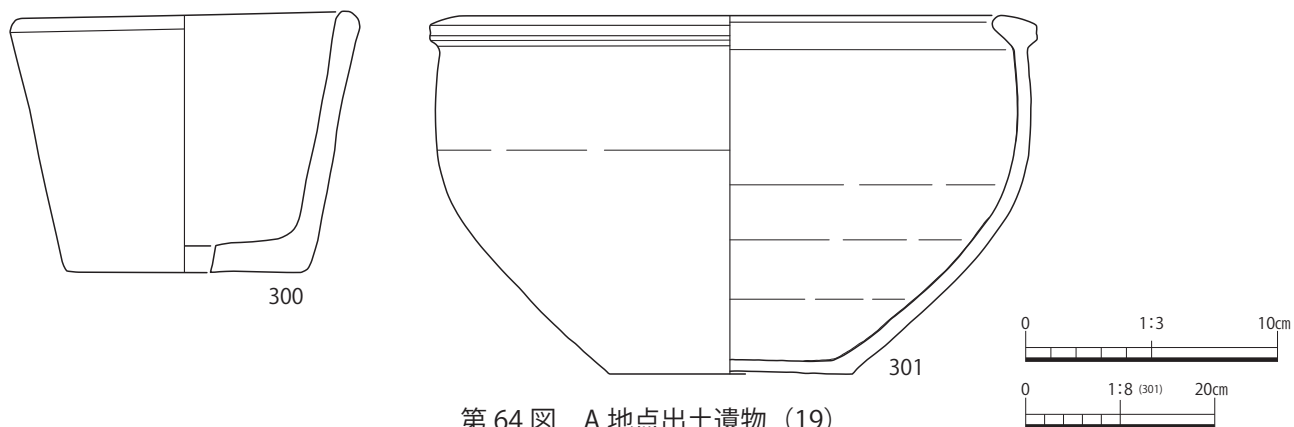
0 1:3 10cm

0 1:4 (265) 10cm

第 63 图 A 地点出土遺物 (18)

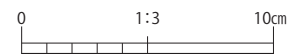


1号埋囊



第64图 A地点出土遗物(19)

遺構外

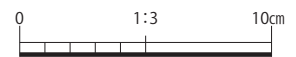
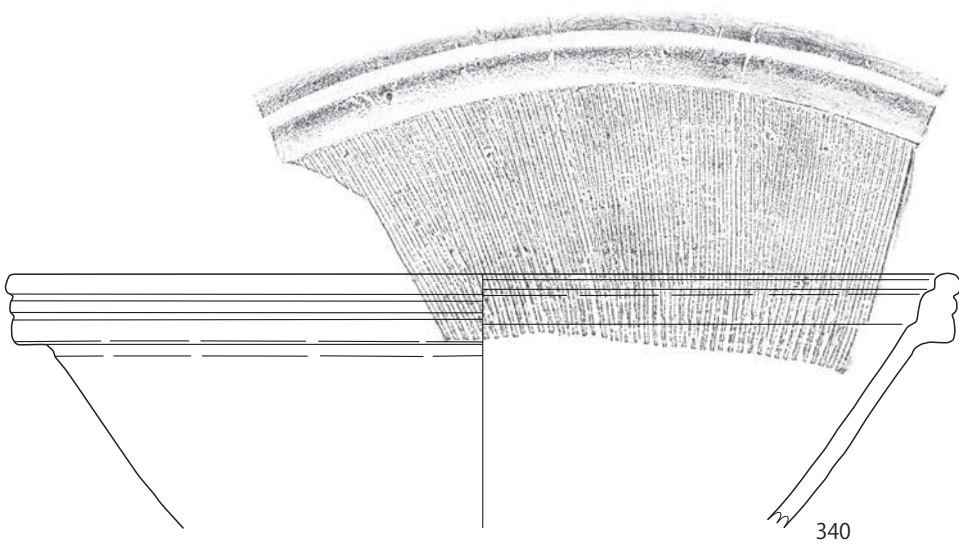
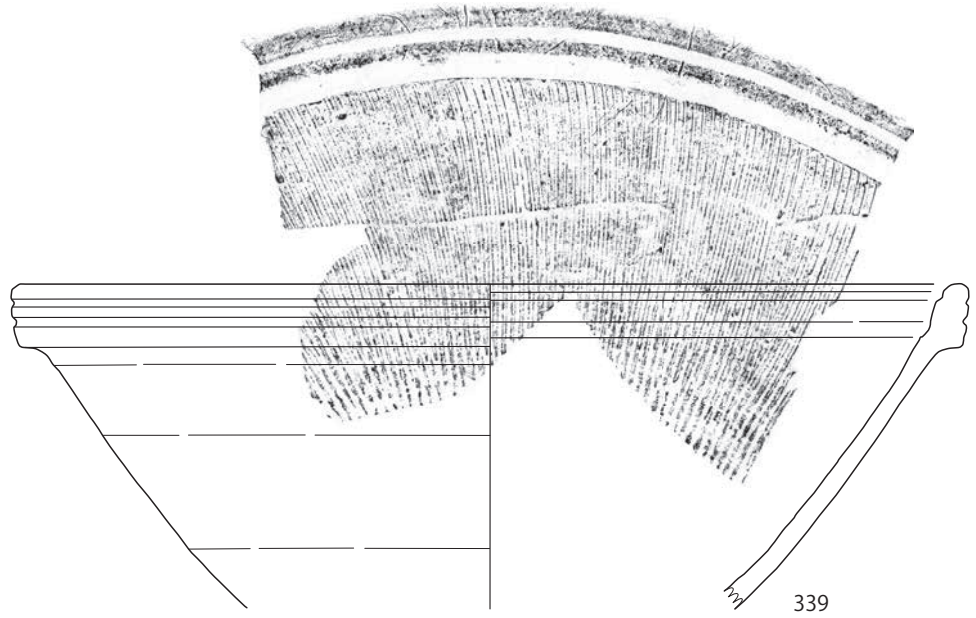
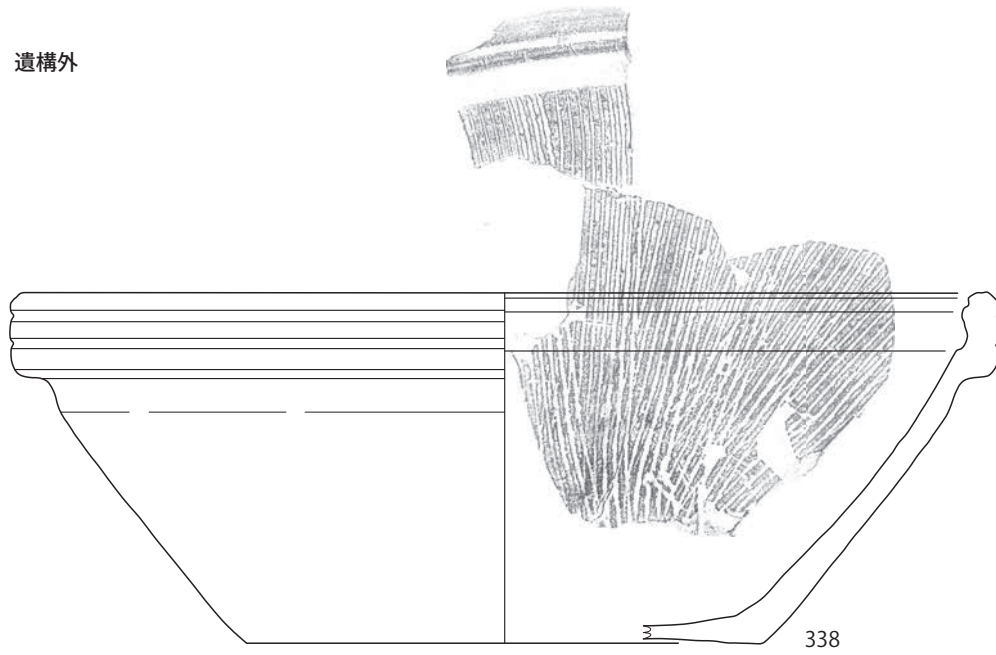


第 65 图 A 地点出土遺物 (20)

遺構外

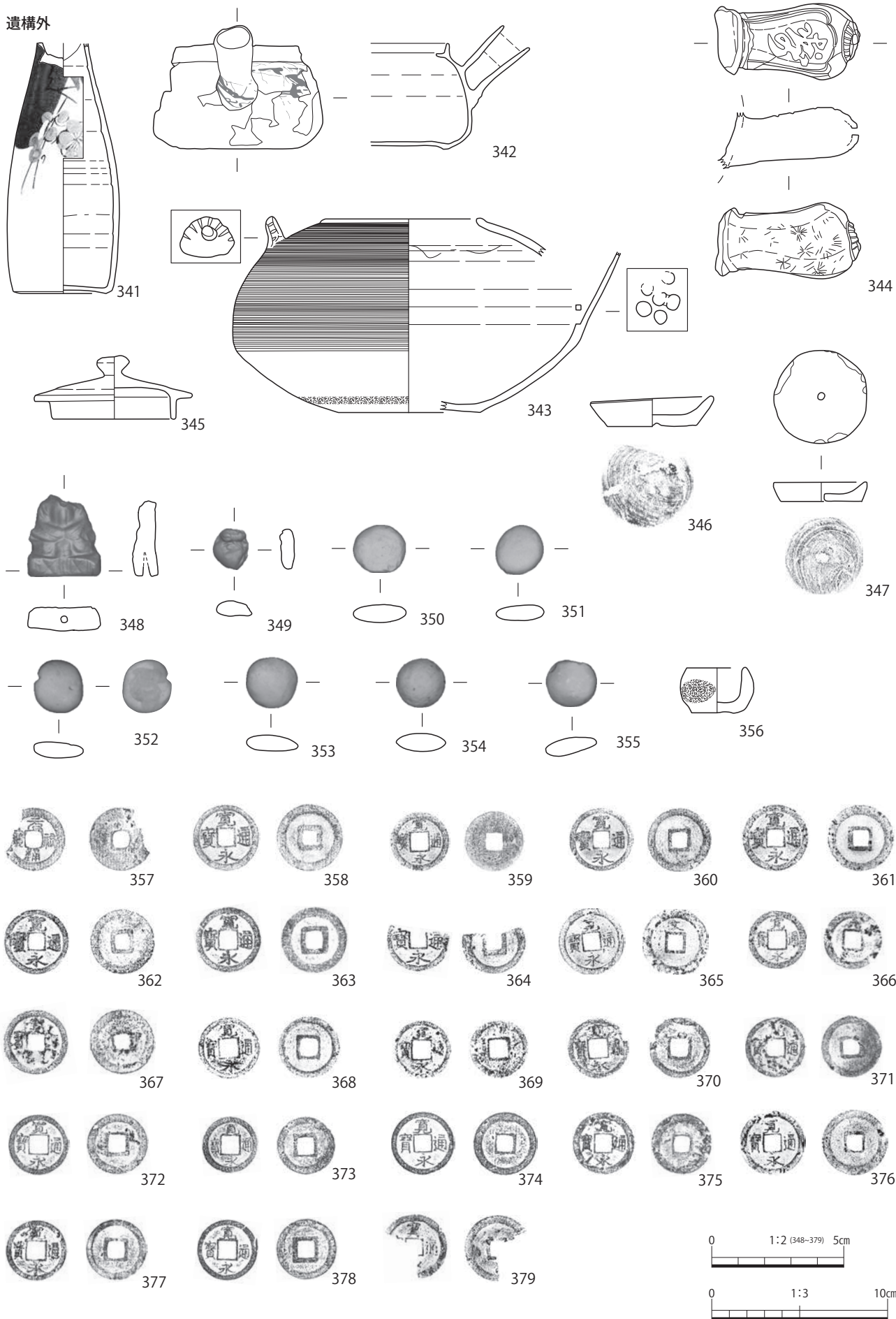


第 66 图 A 地点出土遺物 (21)



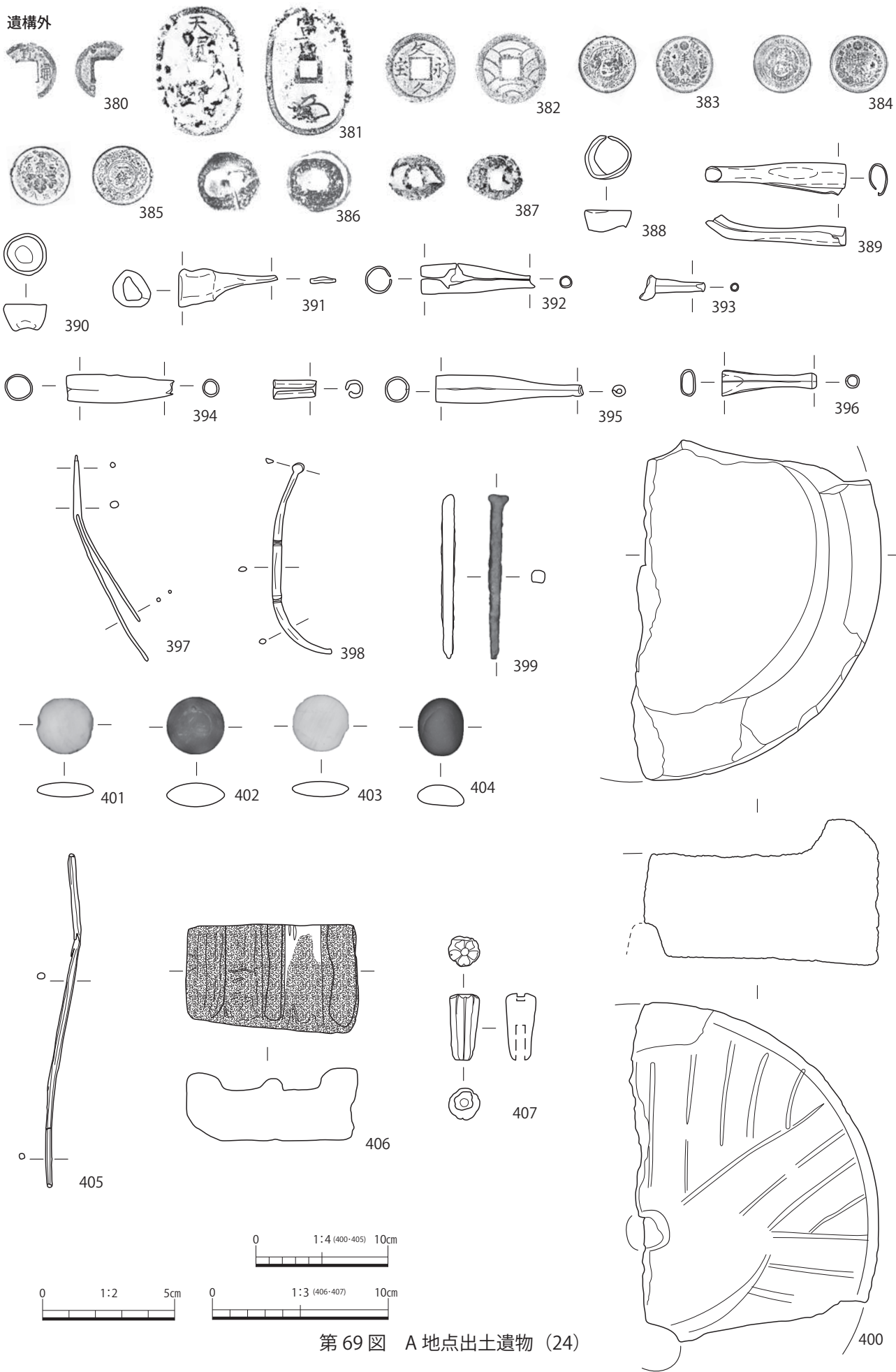
第 67 図 A 地点出土遺物 (22)

遺構外



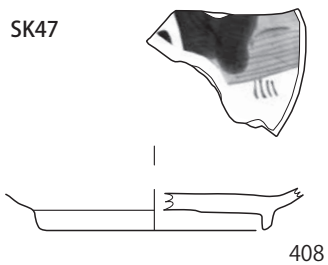
第 68 圖 A 地点出土遺物 (23)

遺構外

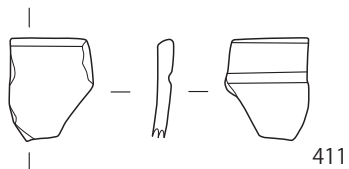


第 69 图 A 地点出土遺物 (24)

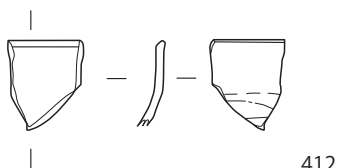
SK47



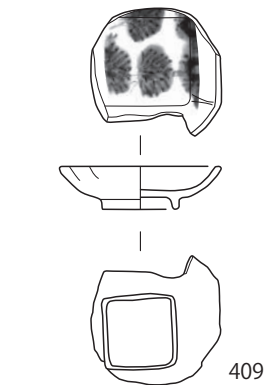
408



411



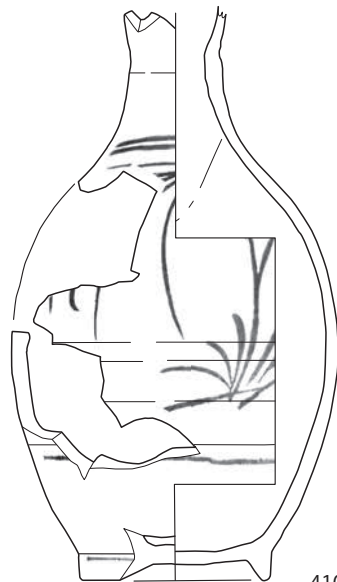
412



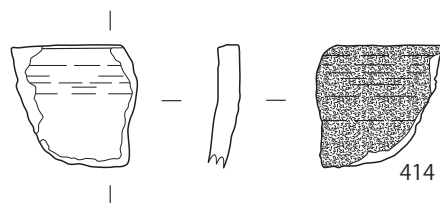
409



413

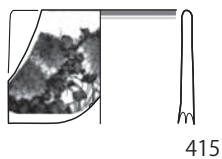


410



414

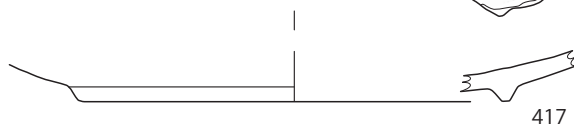
SK49



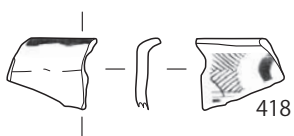
415



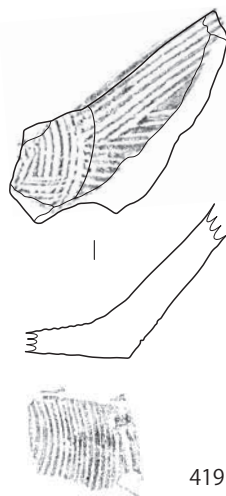
416



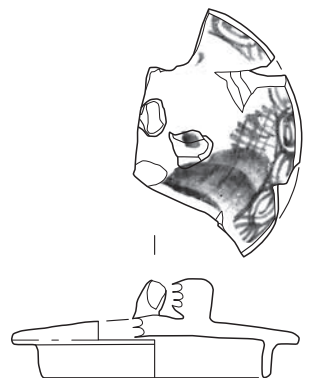
417



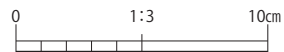
418



419

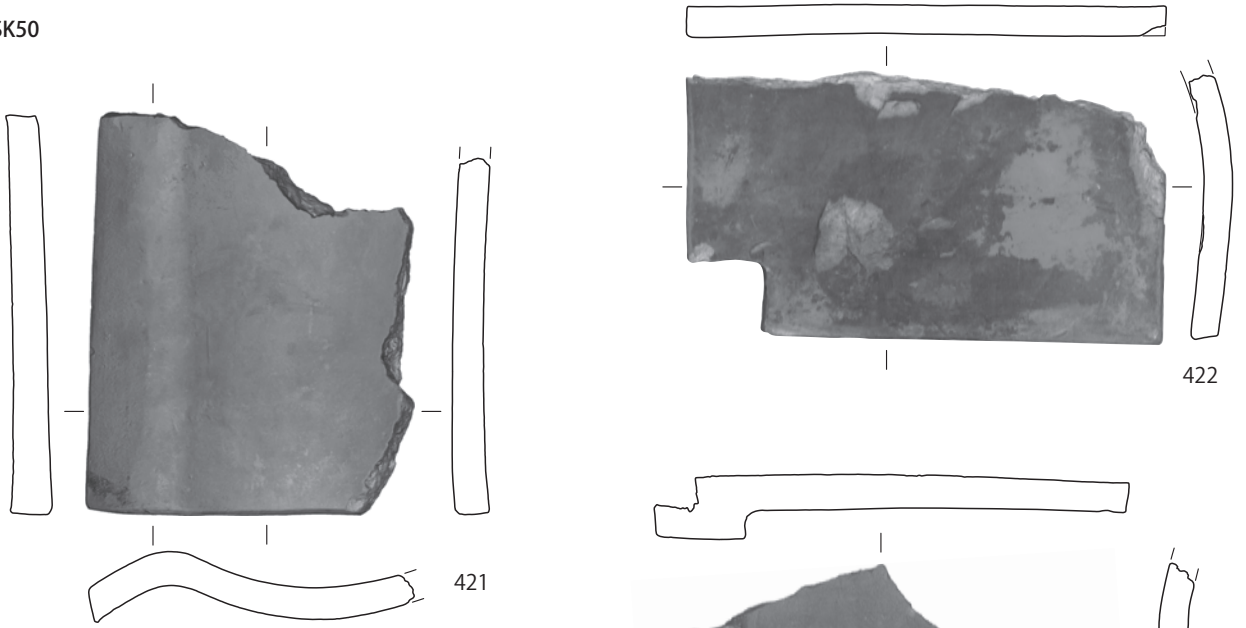


420

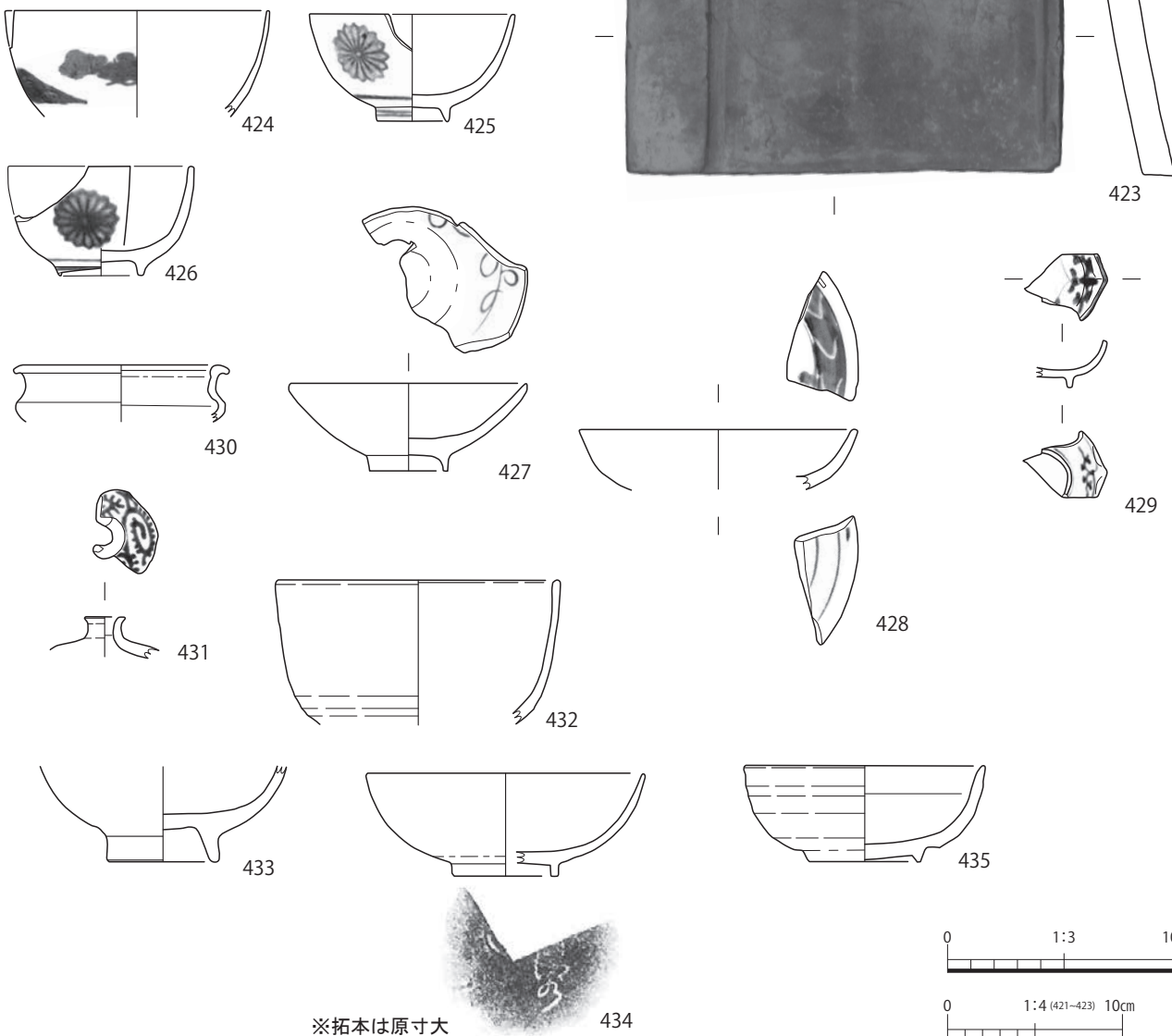


第 70 图 B-1 地点出土遺物 (1)

SK50



SK51



※拓本は原寸大

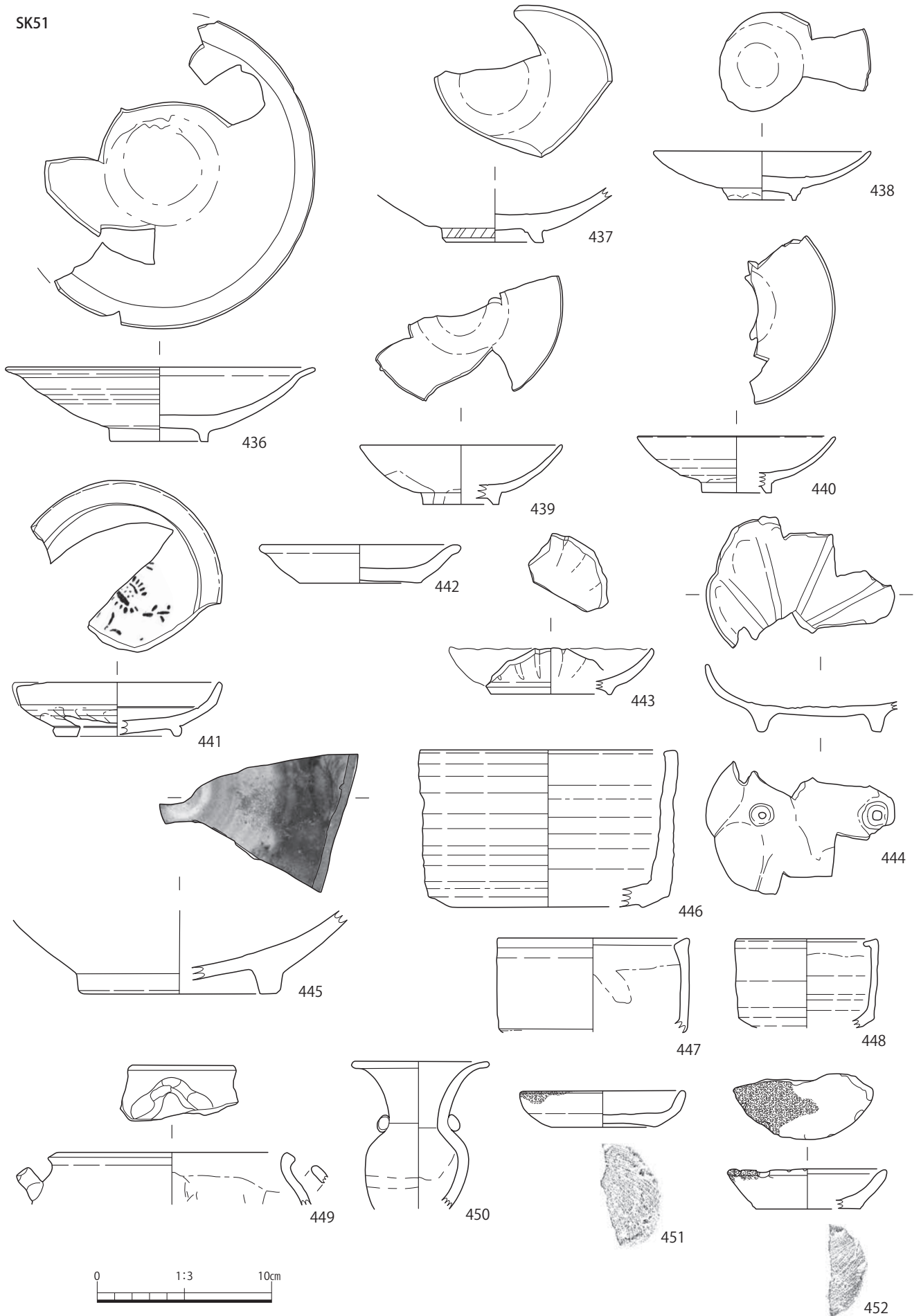
434

0 1:3 10cm

0 1:4 (421-423) 10cm

第 71 図 B-1 地点出土遺物 (2)

SK51

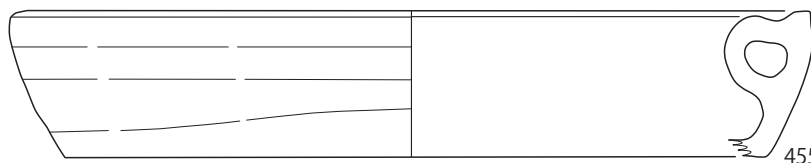


第 72 图 B-1 地点出土遺物 (3)

SK51



453



455



454



456



457



458

SP63

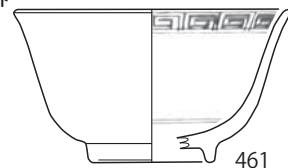


459



460

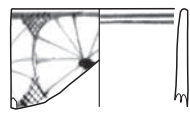
遺構外



461



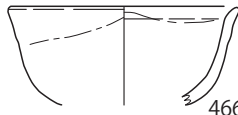
462



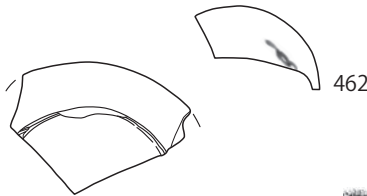
463



464



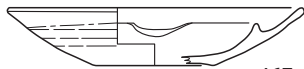
466



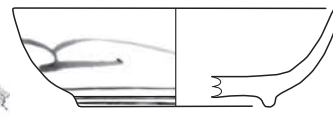
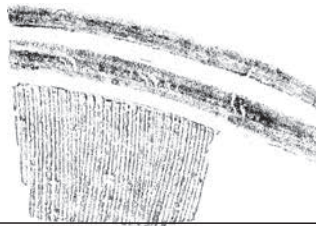
462



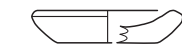
469



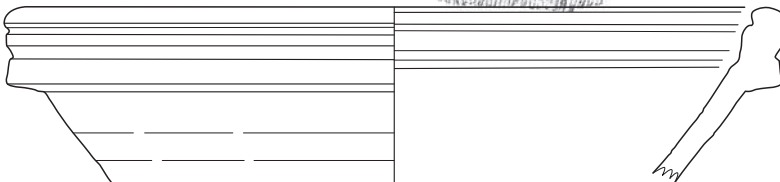
467



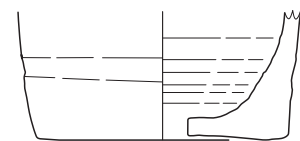
465



470



468



471



472



473



474



475



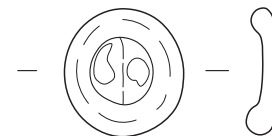
476



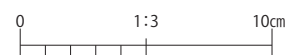
477



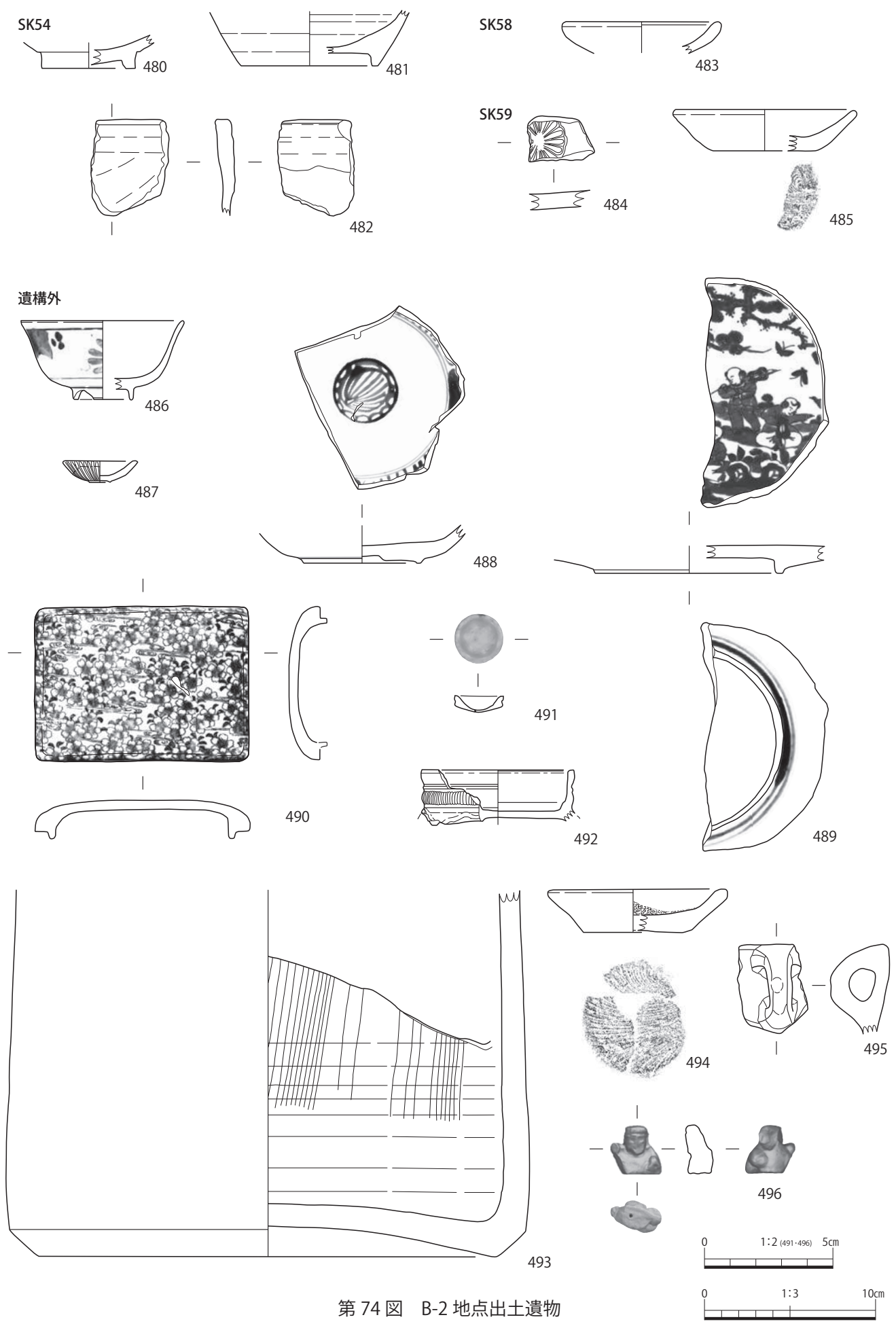
478



479

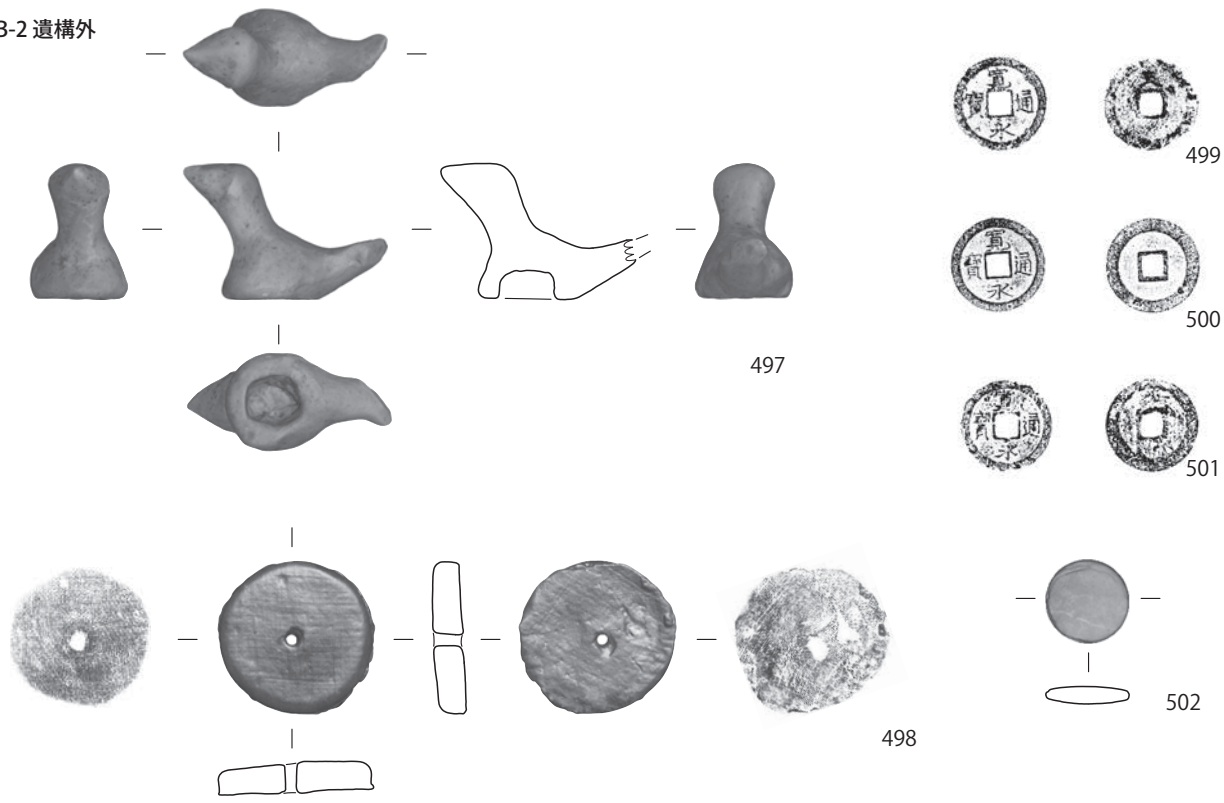


第 73 图 B-1 地点出土遺物 (4)

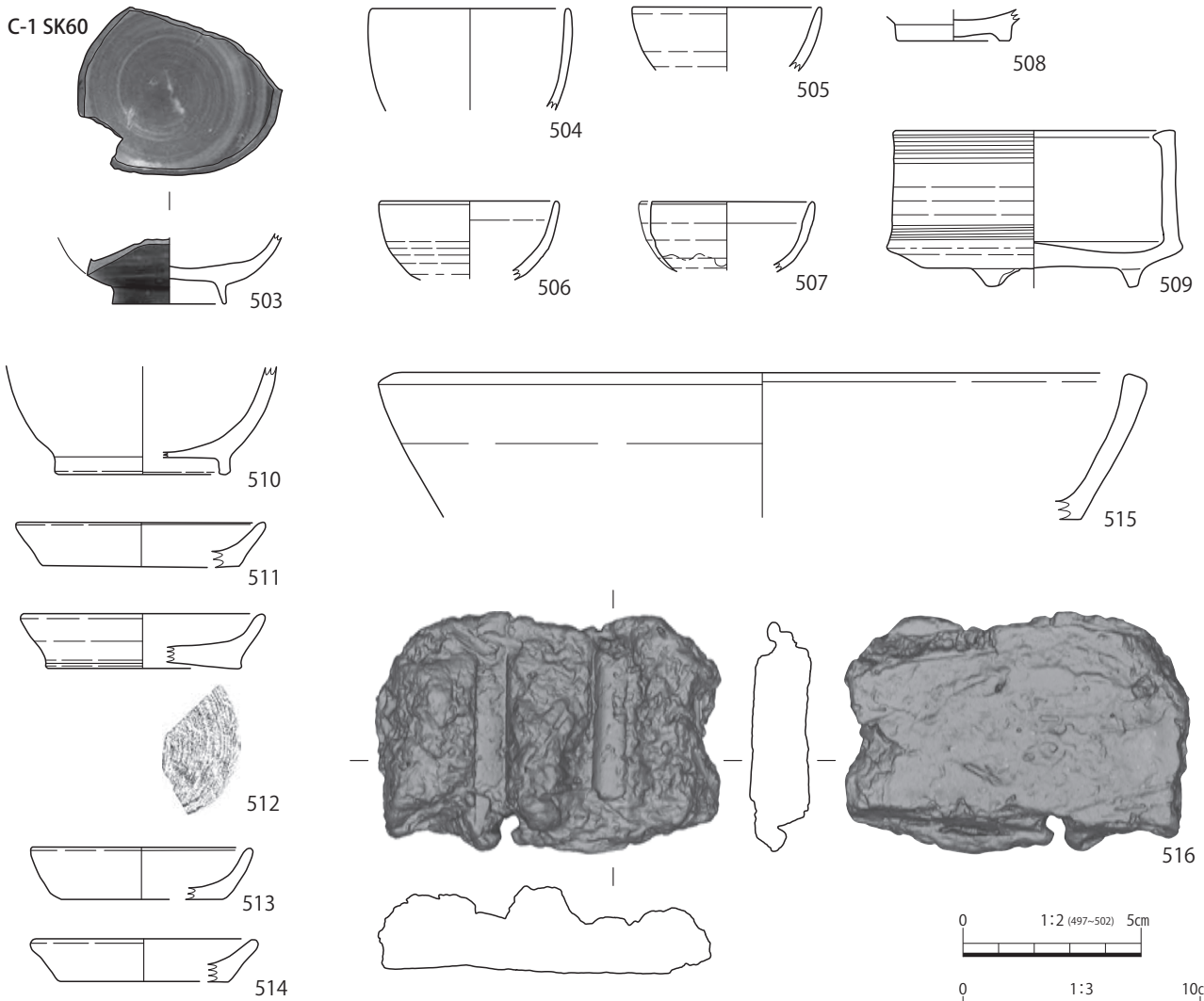


第 74 图 B-2 地点出土遺物

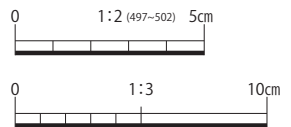
B-2 遺構外



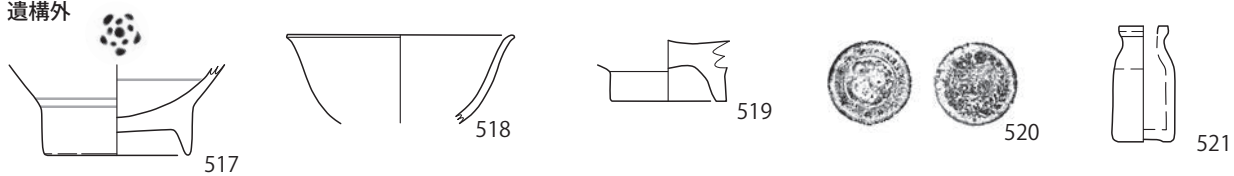
C-1 SK60



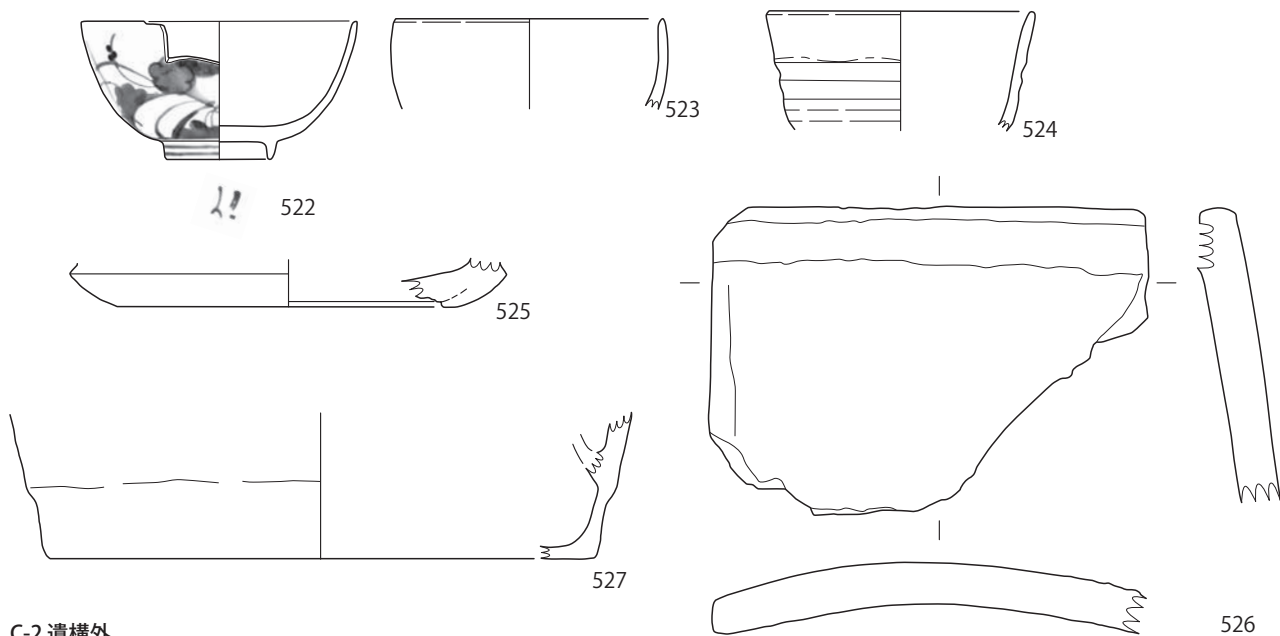
第 75 図 B-2・C-1 地点出土遺物



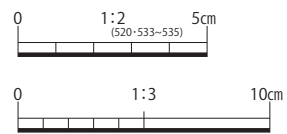
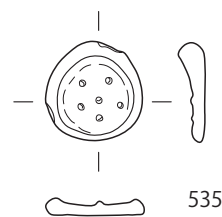
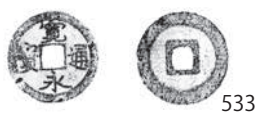
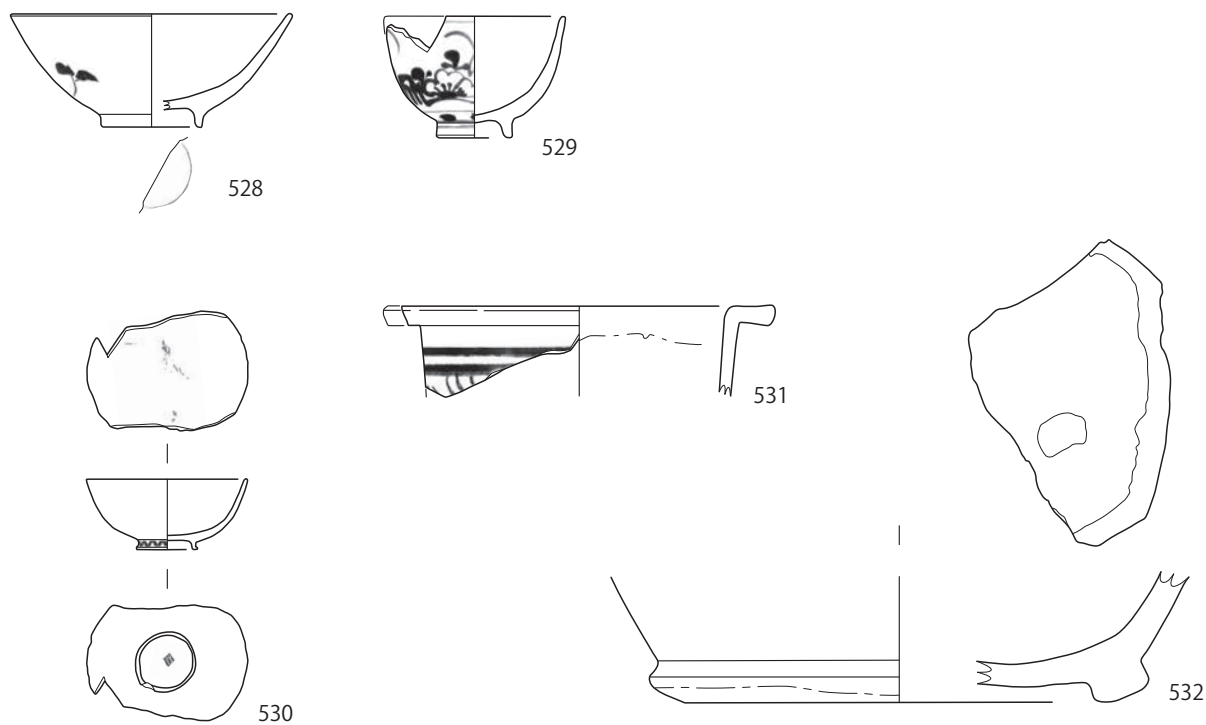
C-1 遺構外



C-2 SK61



C-2 遺構外

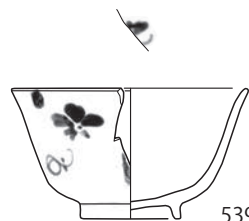


第 76 图 C-1・C-2 地点出土遺物

SK100

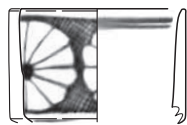


537



539

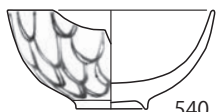
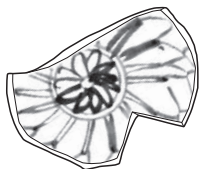
536



541



538



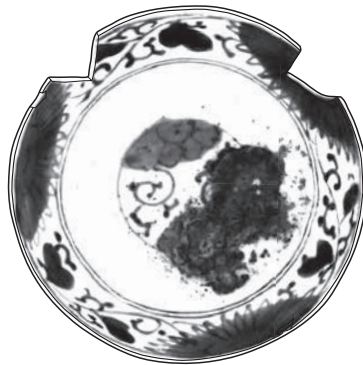
540



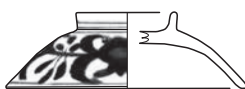
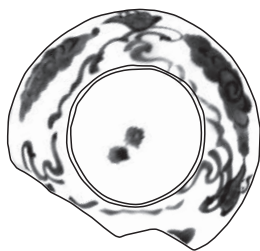
543



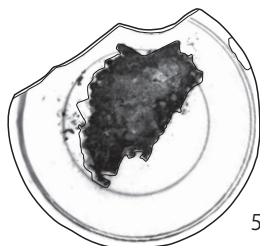
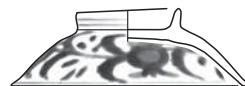
542



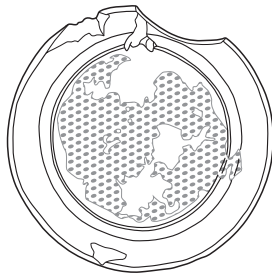
544



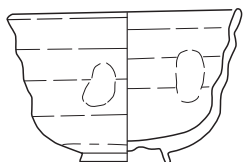
546



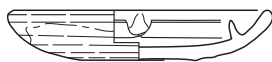
545



547



548

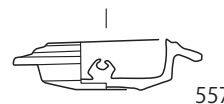
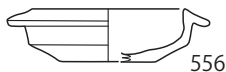
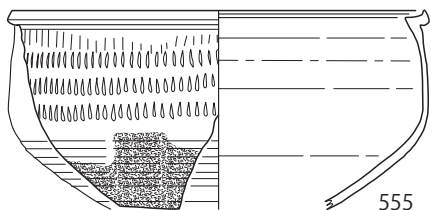
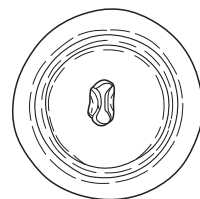
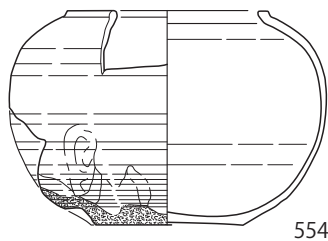
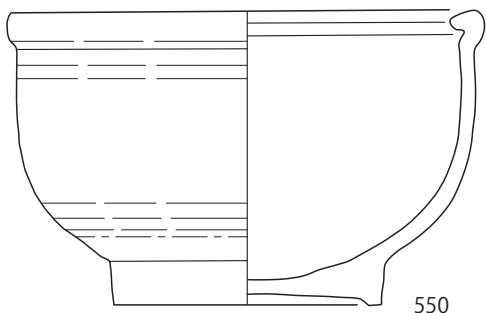
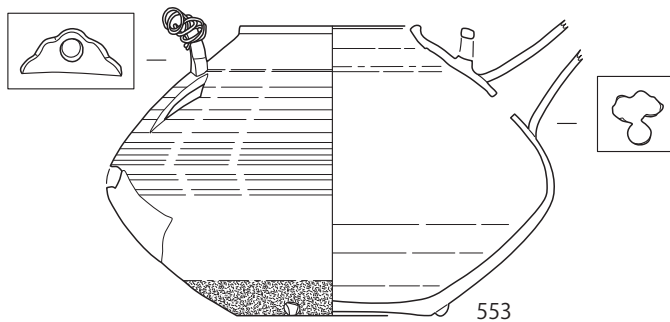
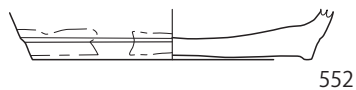
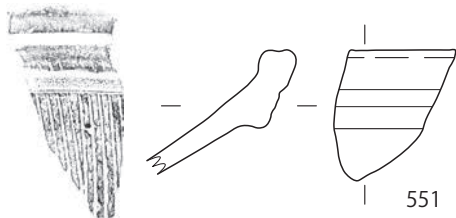
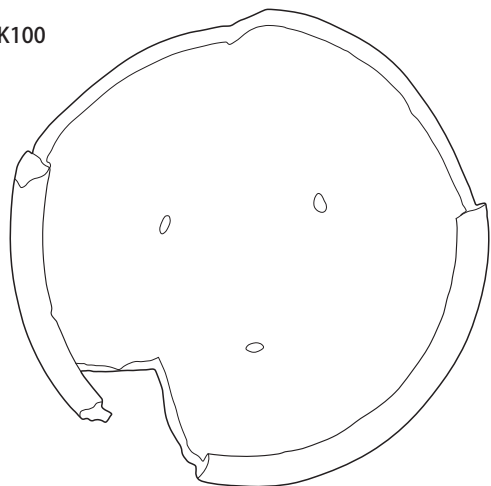


549

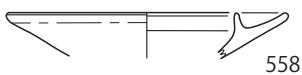


第 77 图 D 地点出土遺物 (1)

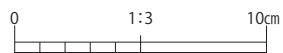
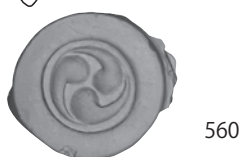
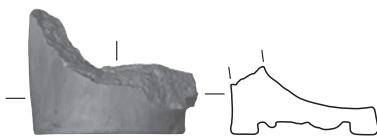
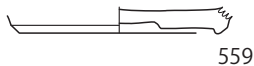
SK100



SS24

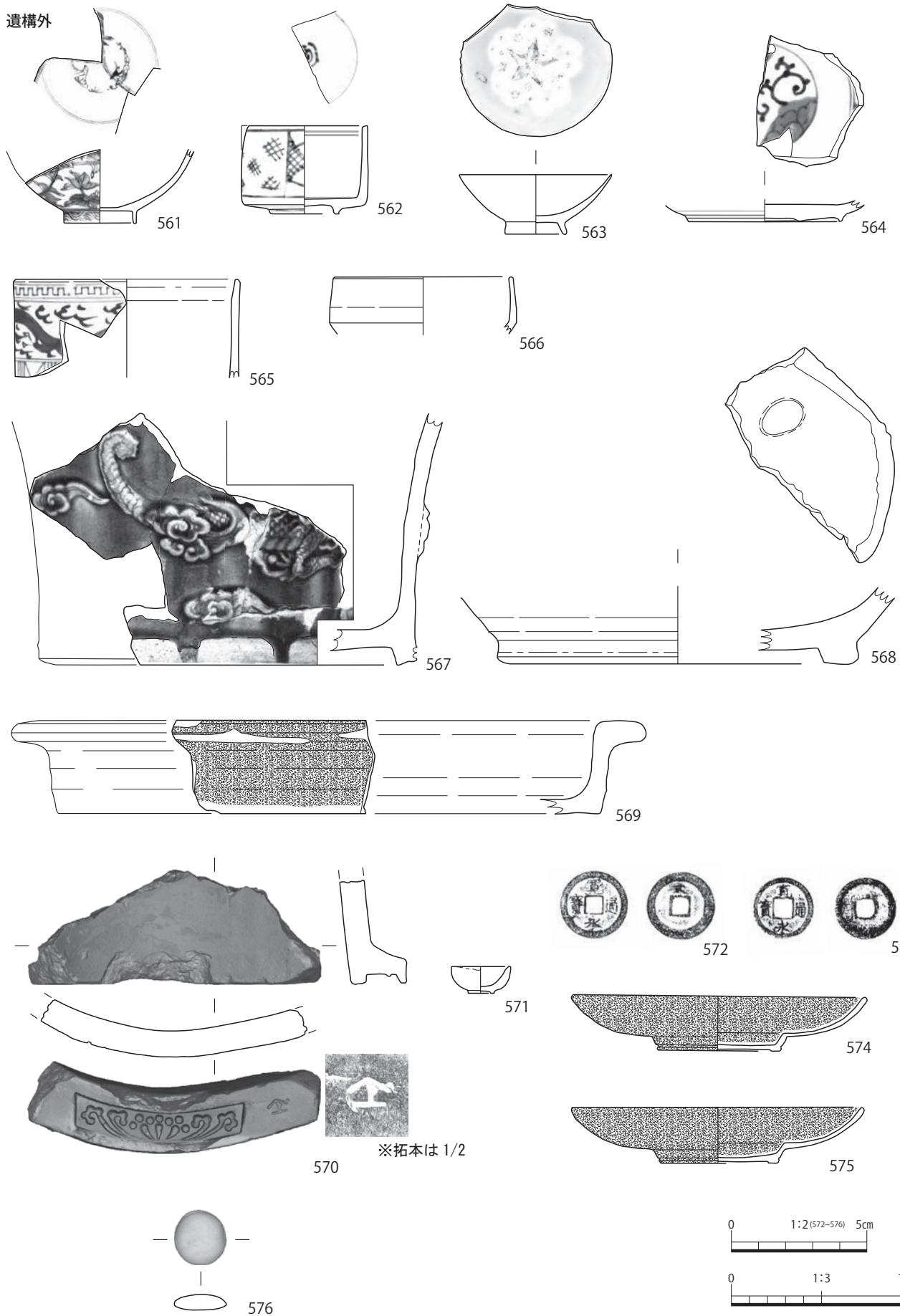


SB2



第 78 图 D 地点出土遺物 (2)

遺構外



第 79 図 D 地点出土遺物 (3)

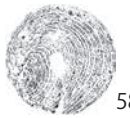
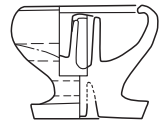
SK65



577

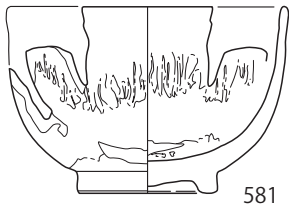
578

SK66



580

SK69

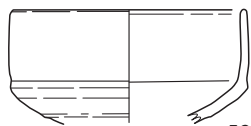
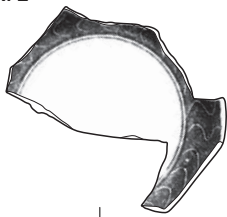


581

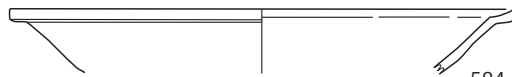
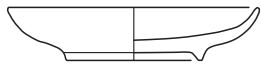


579

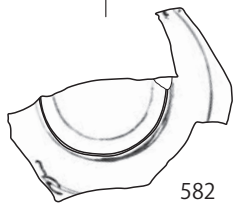
SK72



583



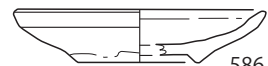
584



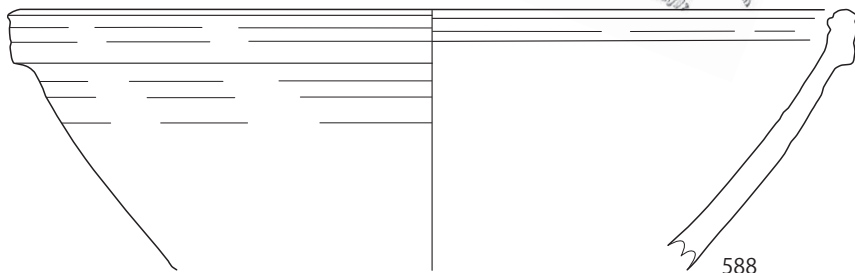
582



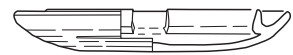
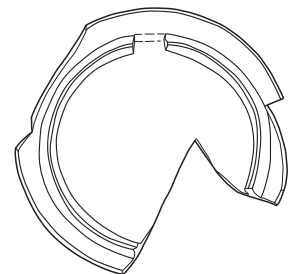
585



586



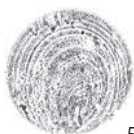
588



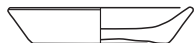
587



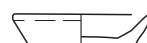
589



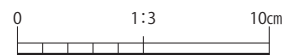
590



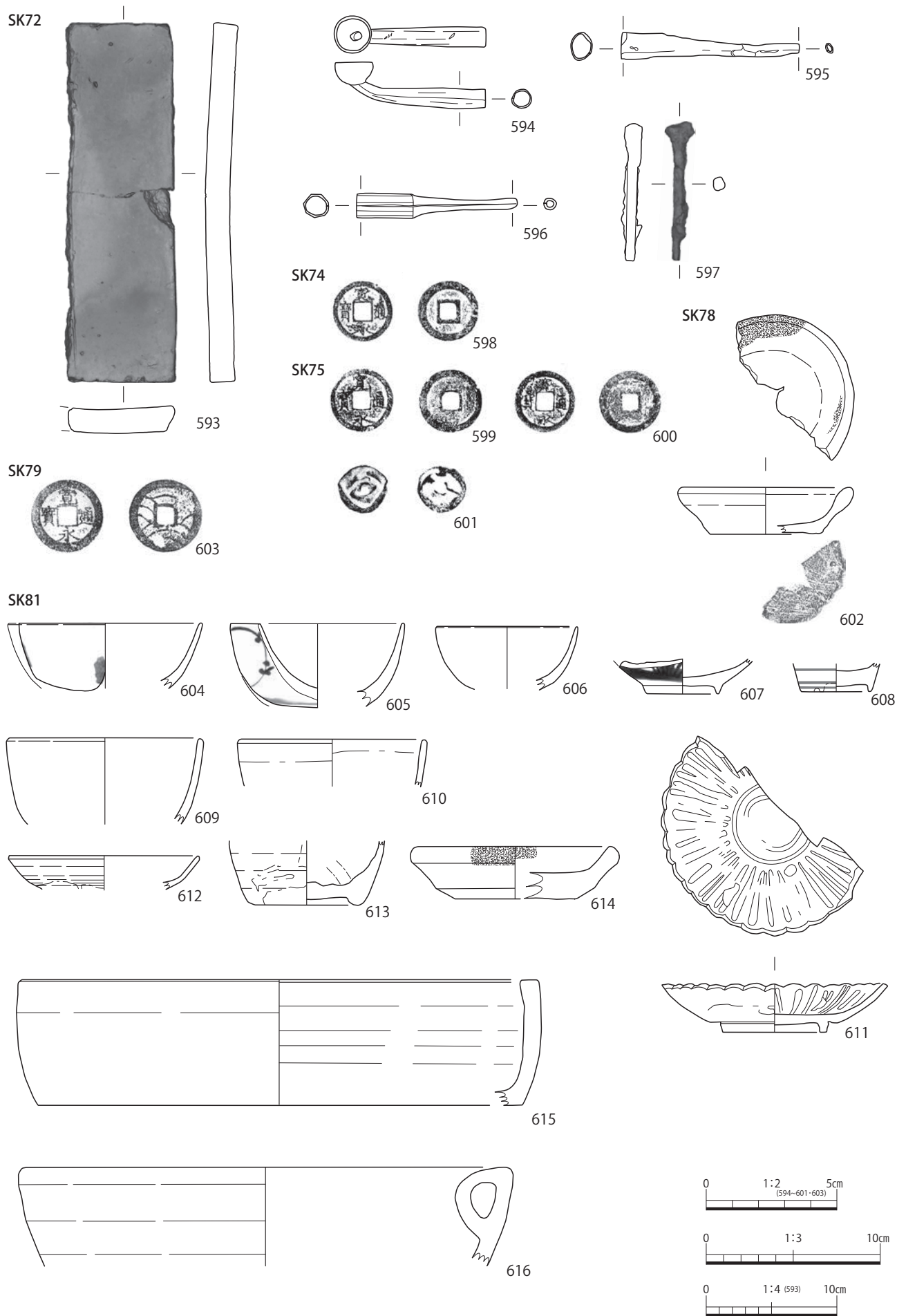
591



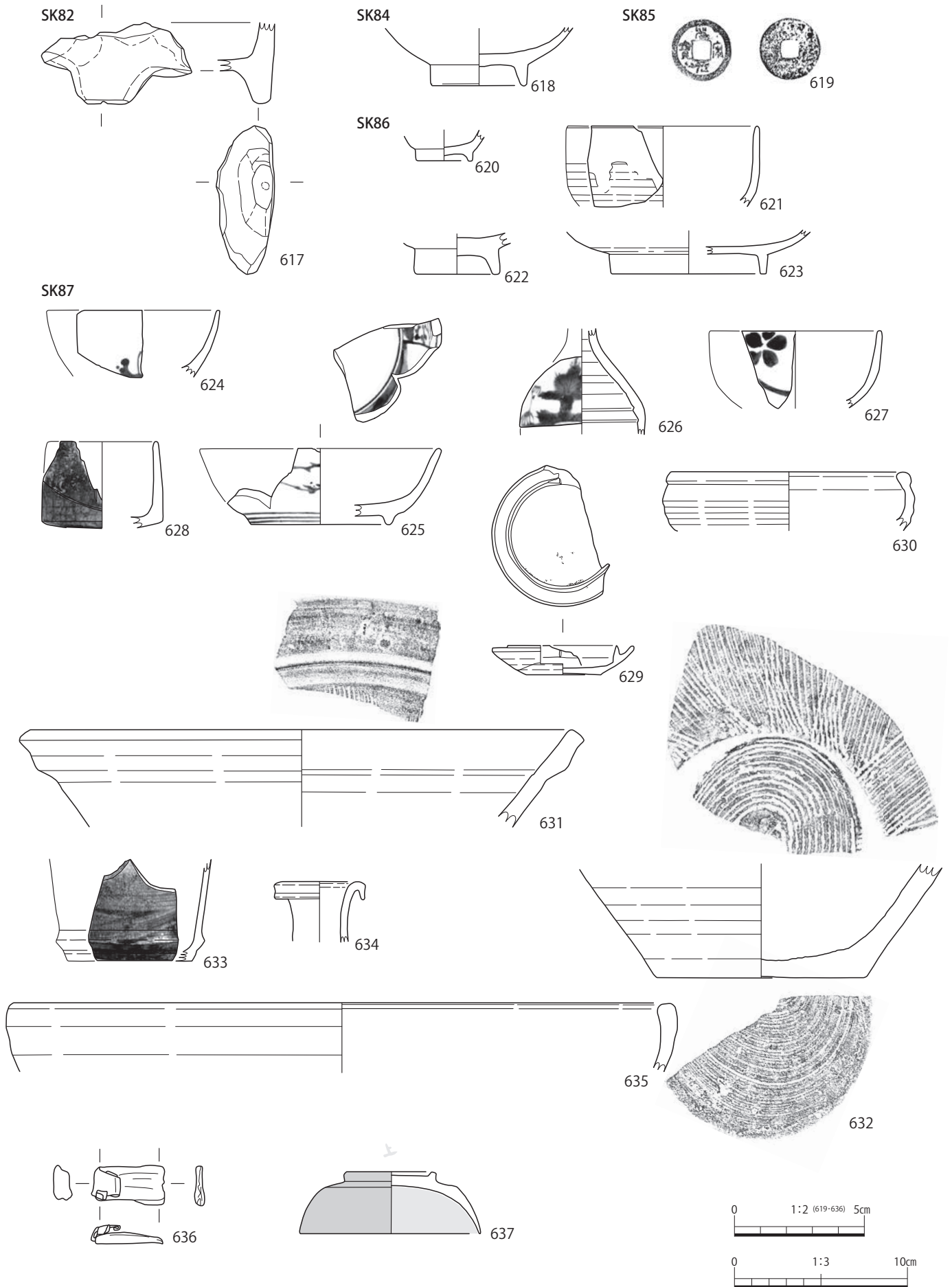
592



第 80 图 E 地点出土遺物 (1)

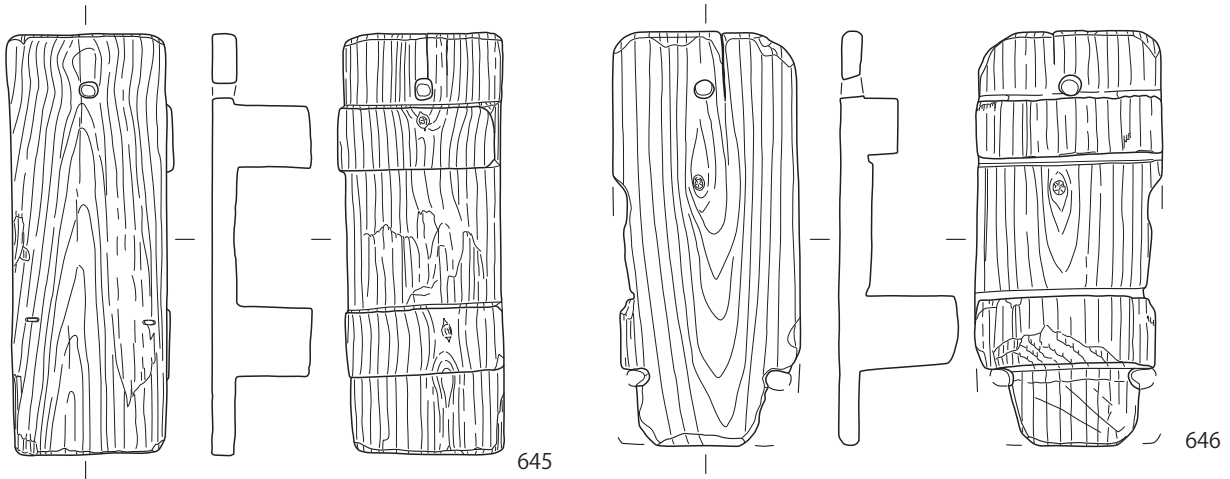
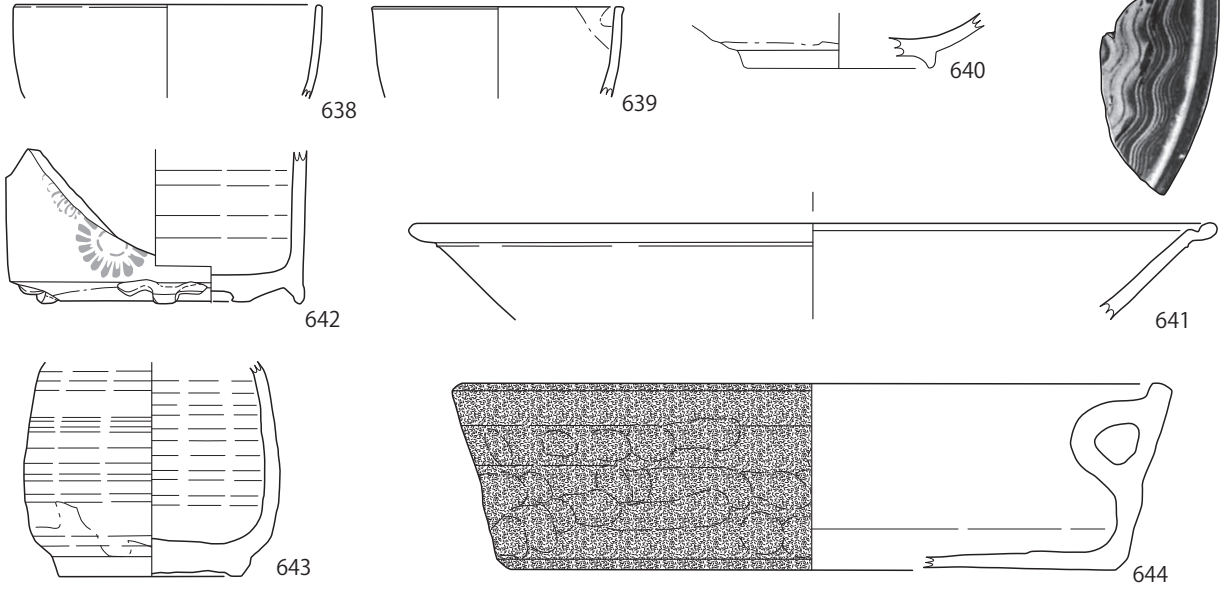


第 81 图 E 地点出土遺物 (2)

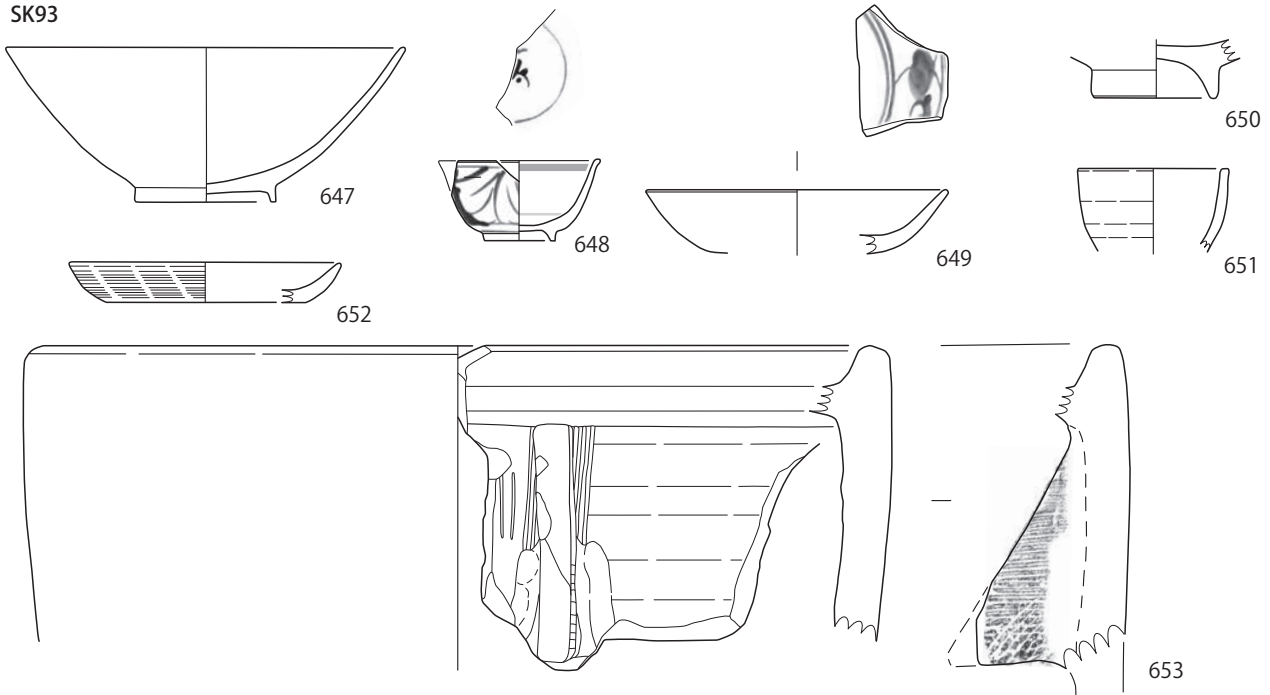


第 82 图 E 地点出土遺物 (3)

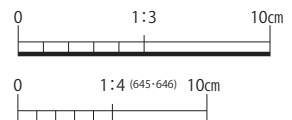
SK91



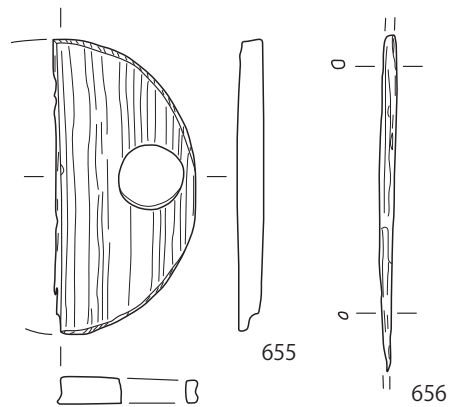
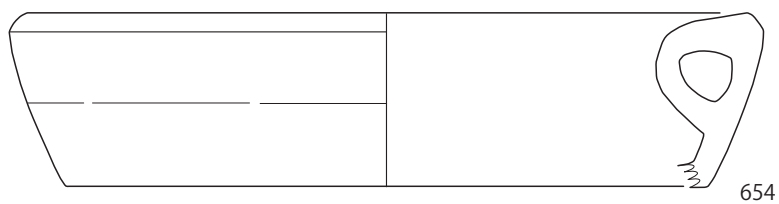
SK93



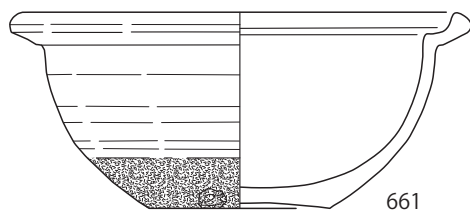
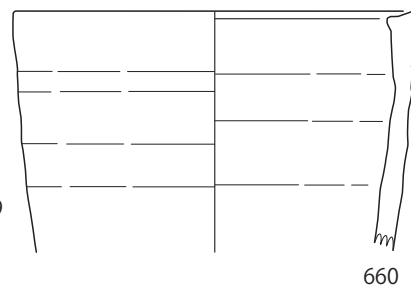
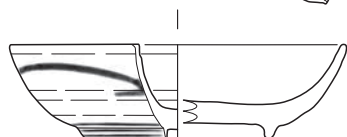
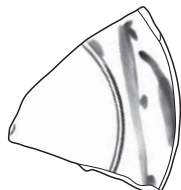
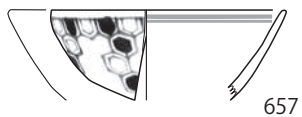
第 83 图 E 地点出土遗物 (4)



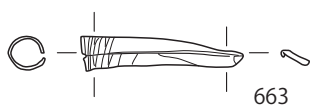
SK93



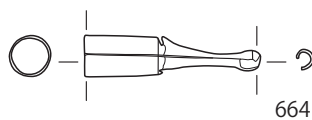
SK95



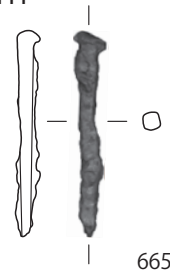
SK96



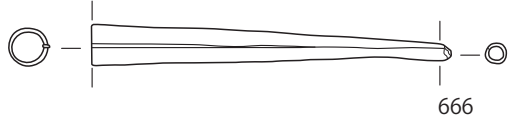
SK110



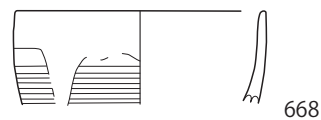
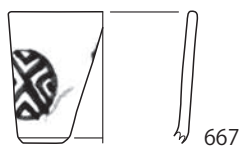
SK111



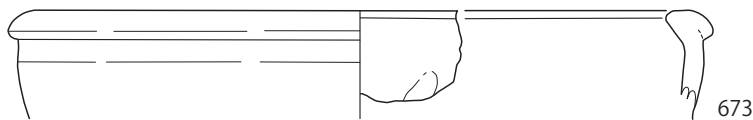
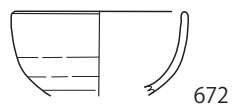
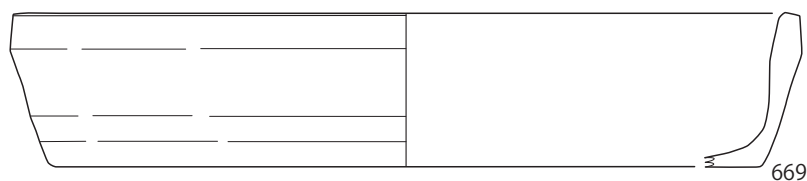
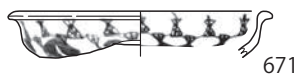
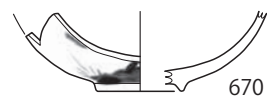
SP103



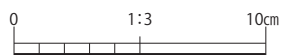
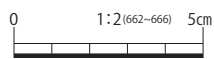
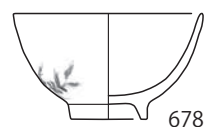
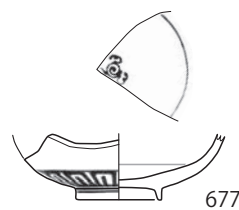
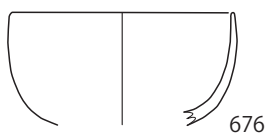
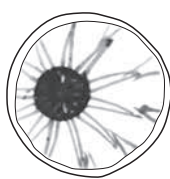
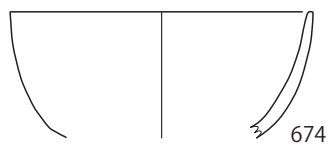
SS27



SB3

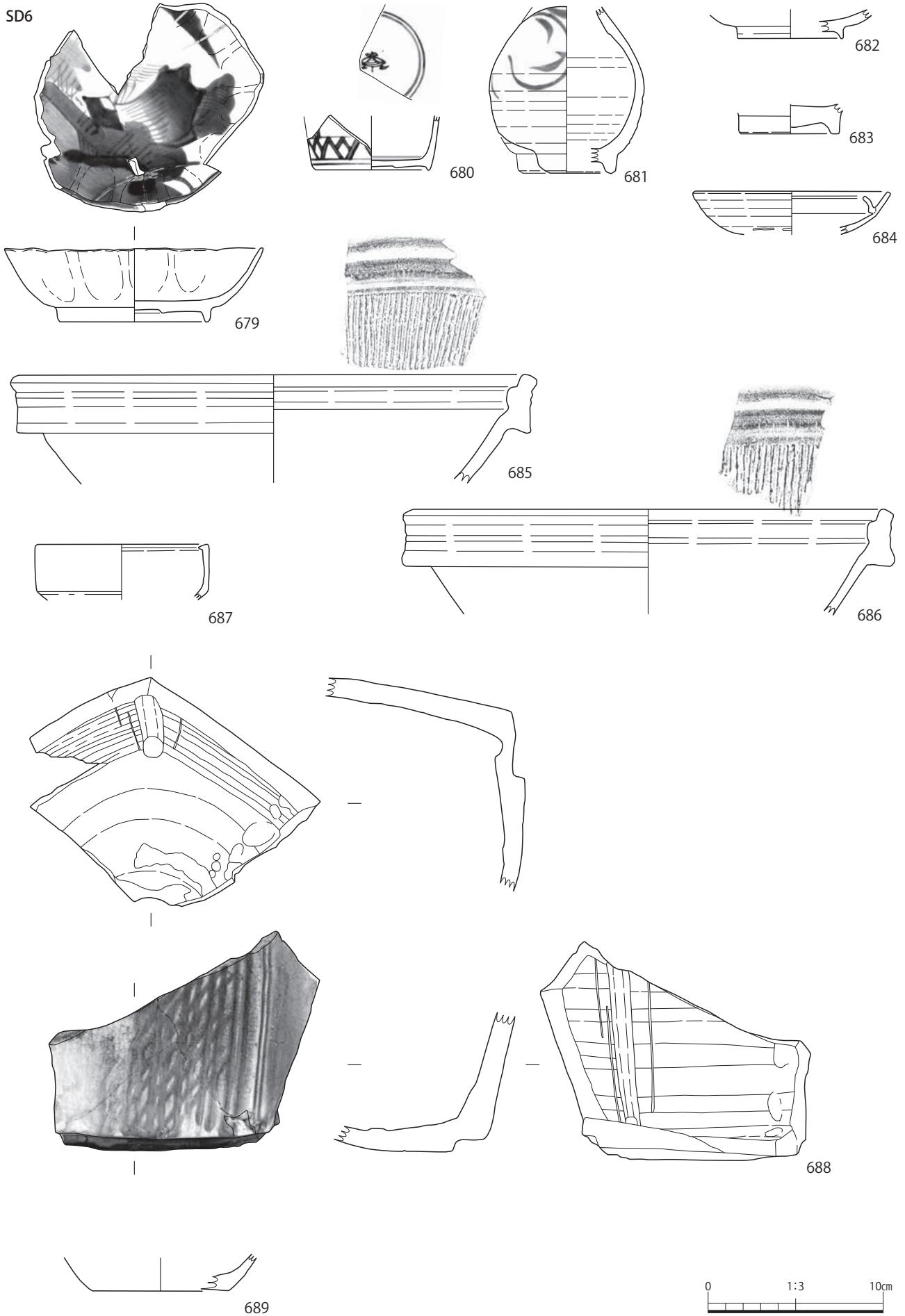


SD6

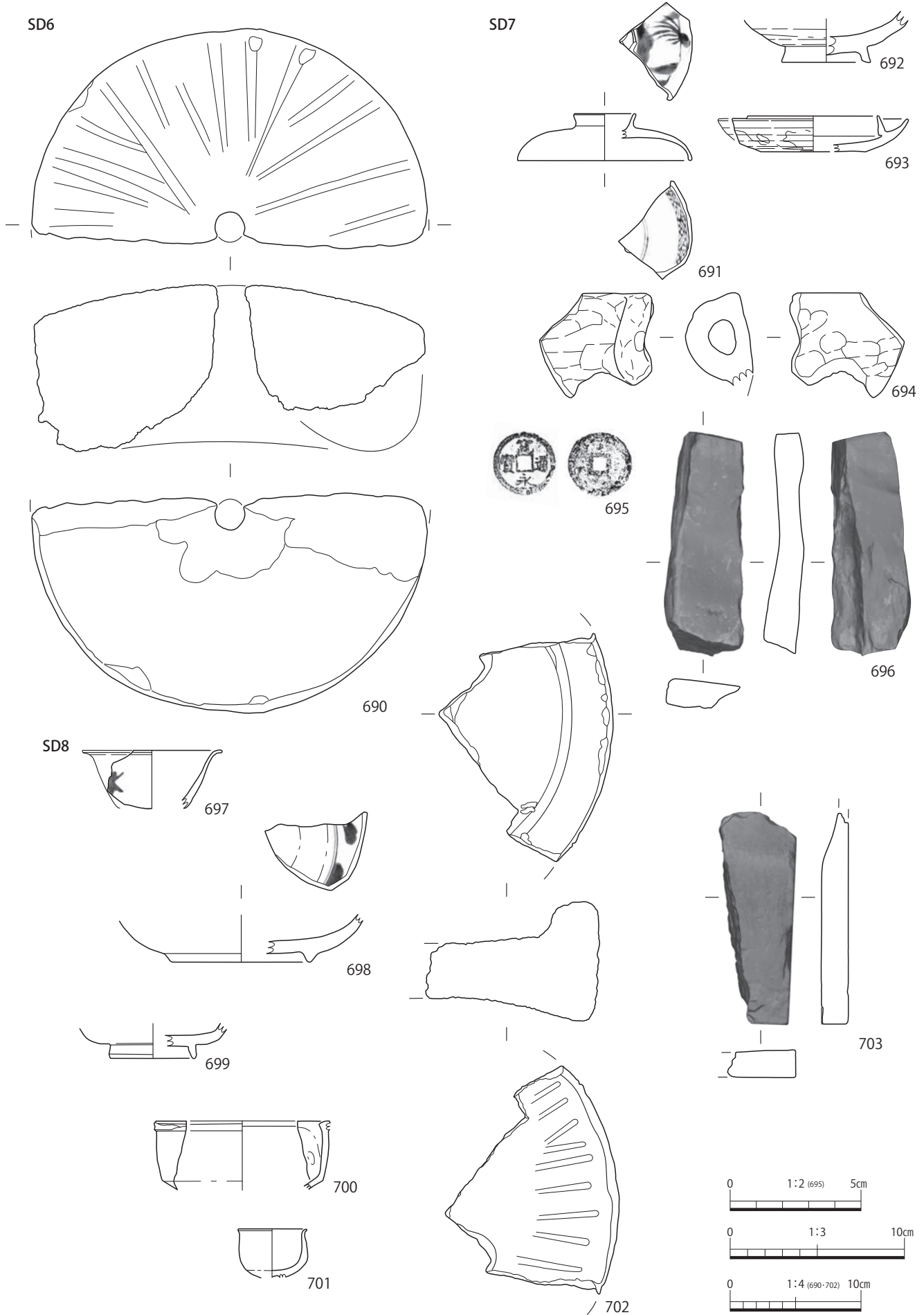


第 84 图 E 地点出土遺物 (5)

SD6

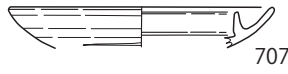
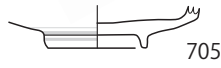
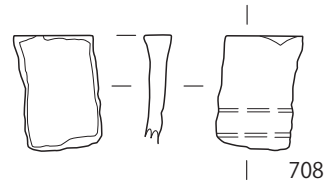
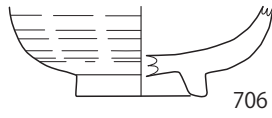
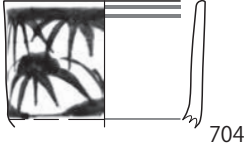


第 85 图 E 地点出土遺物 (6)

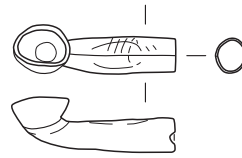
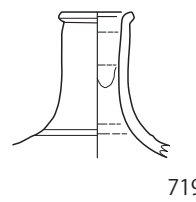
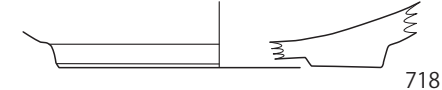
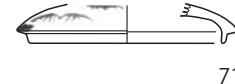
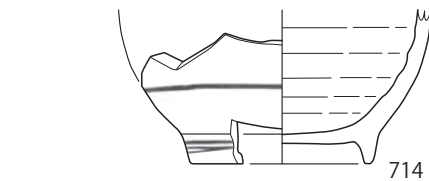
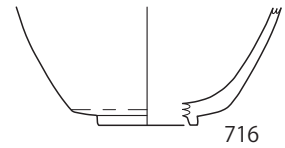
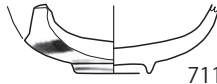
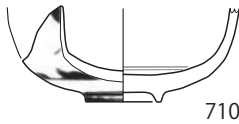
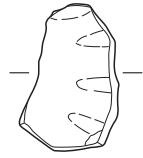
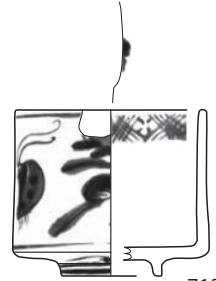
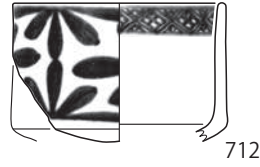
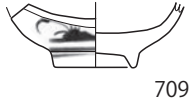


第 86 图 E 地点出土遺物 (7)

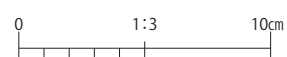
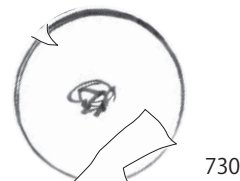
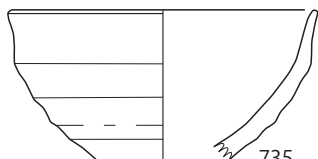
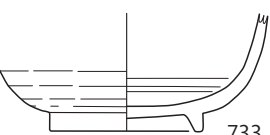
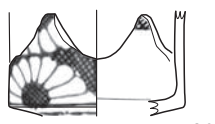
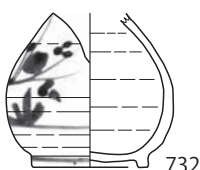
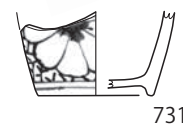
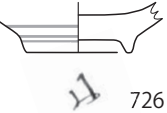
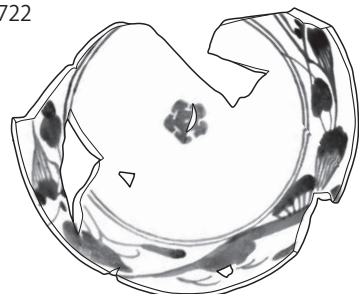
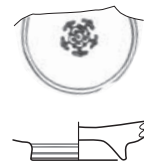
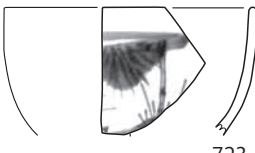
SD9



SD10

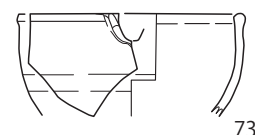
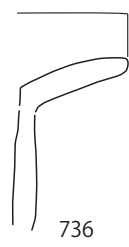
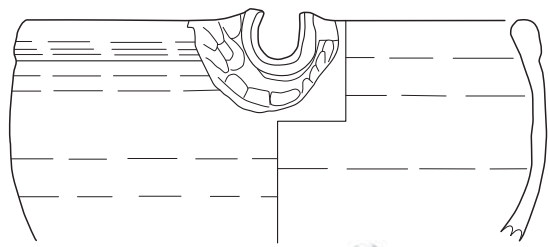


SD11



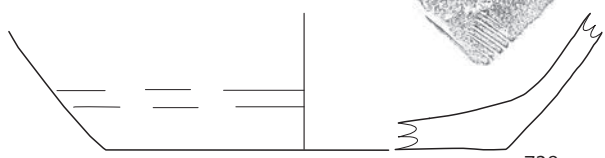
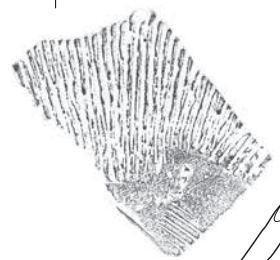
第 87 图 E 地点出土遺物 (8)

SD11

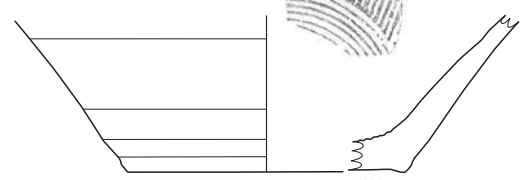


737

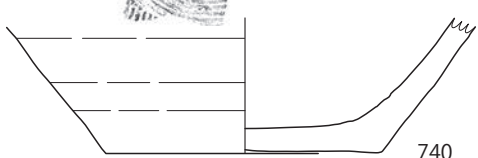
736



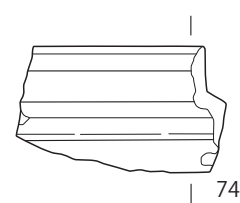
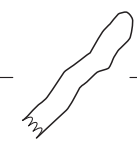
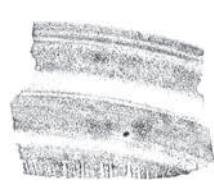
738



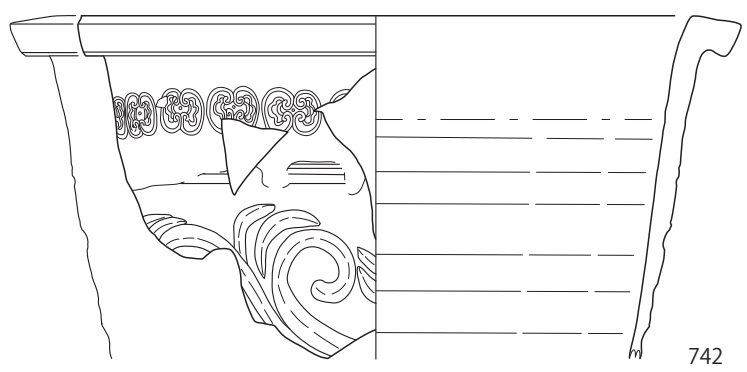
739



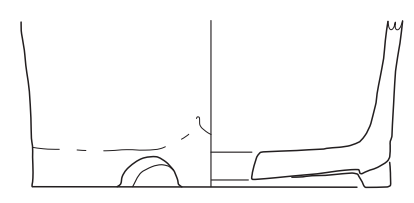
740



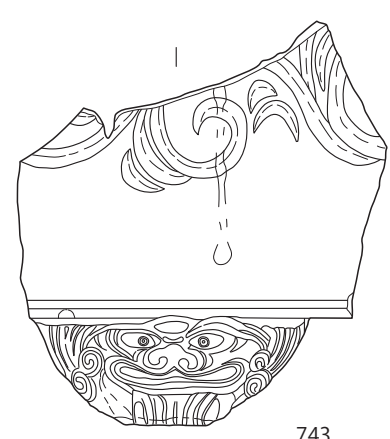
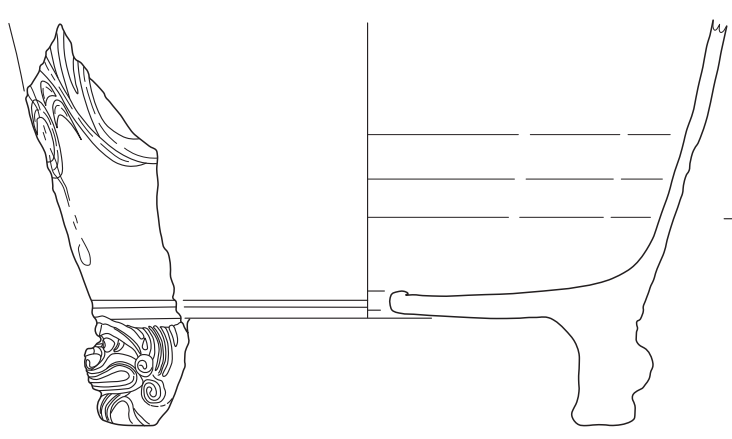
741



742

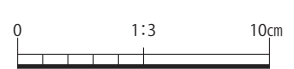


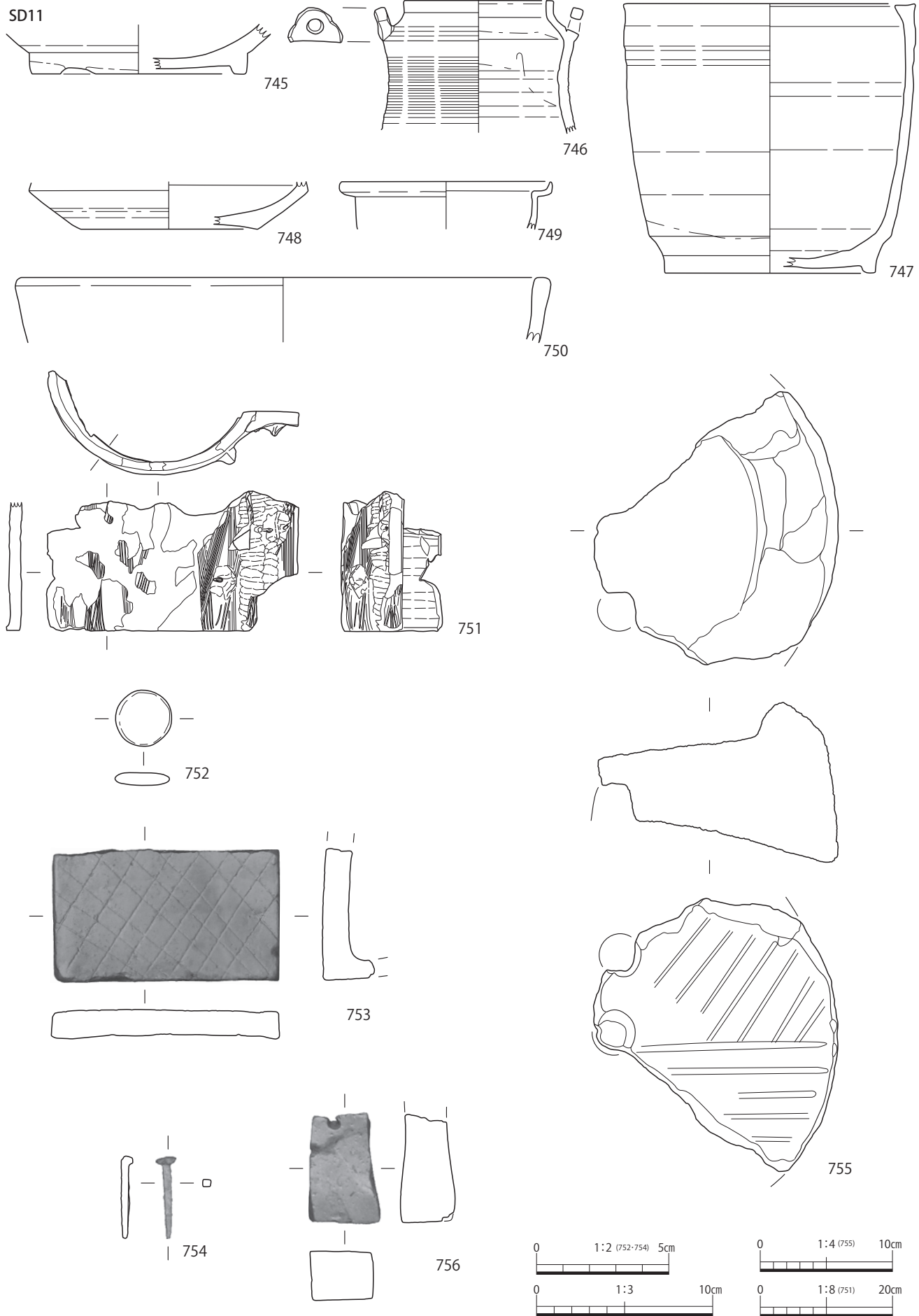
744



743

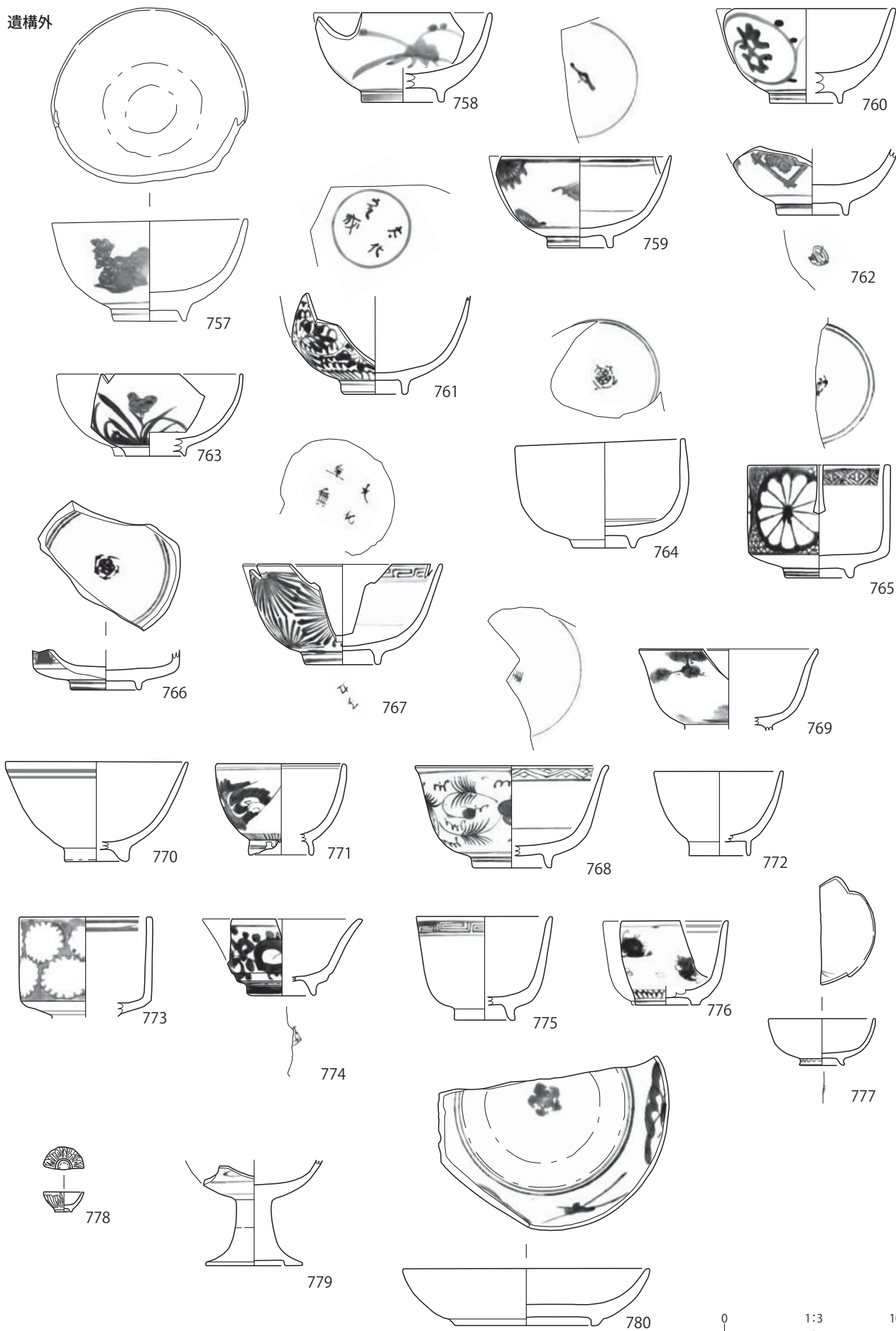
第 88 图 E 地点出土遗物 (9)



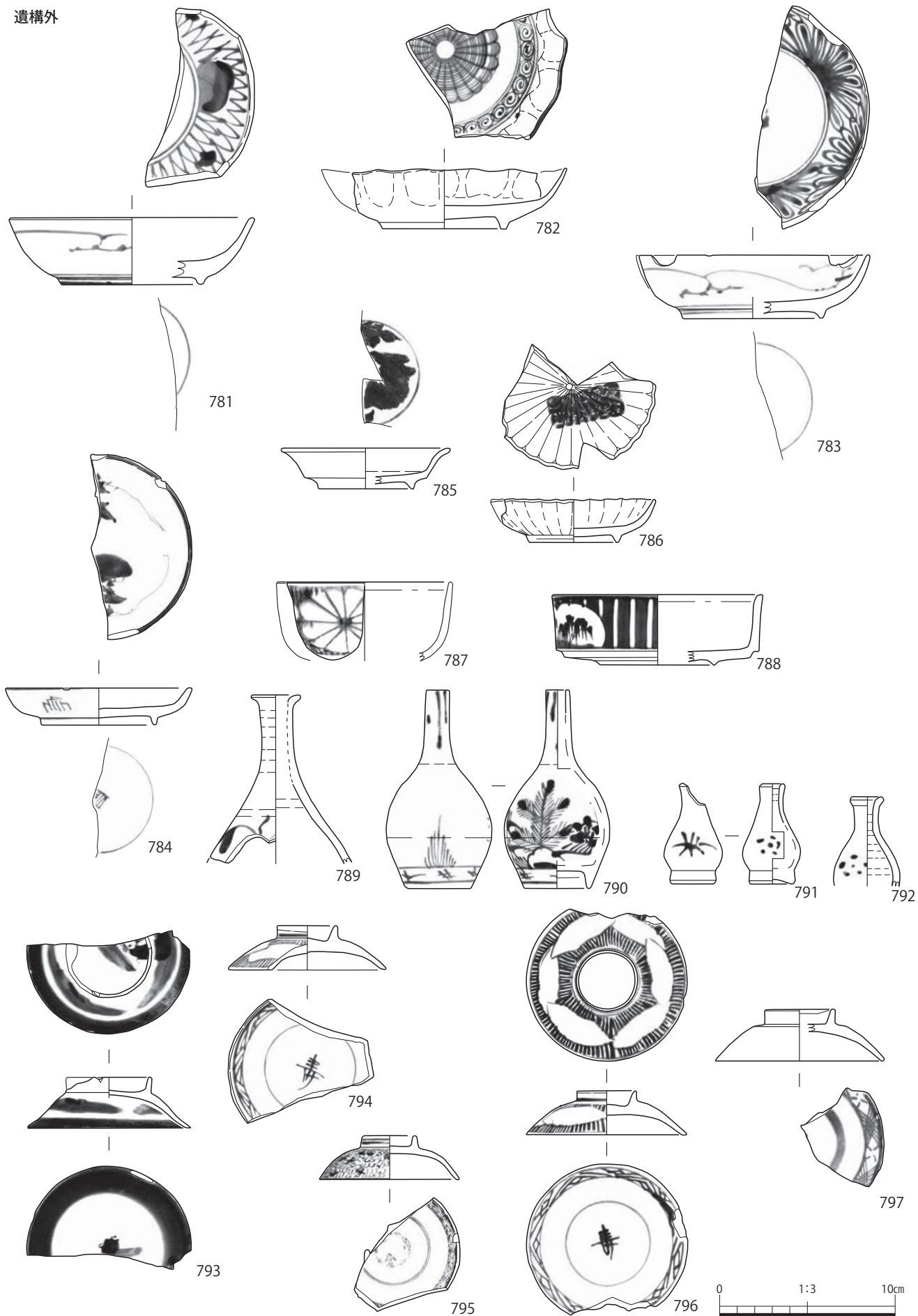


第 89 图 E 地点出土遺物 (10)

遺構外

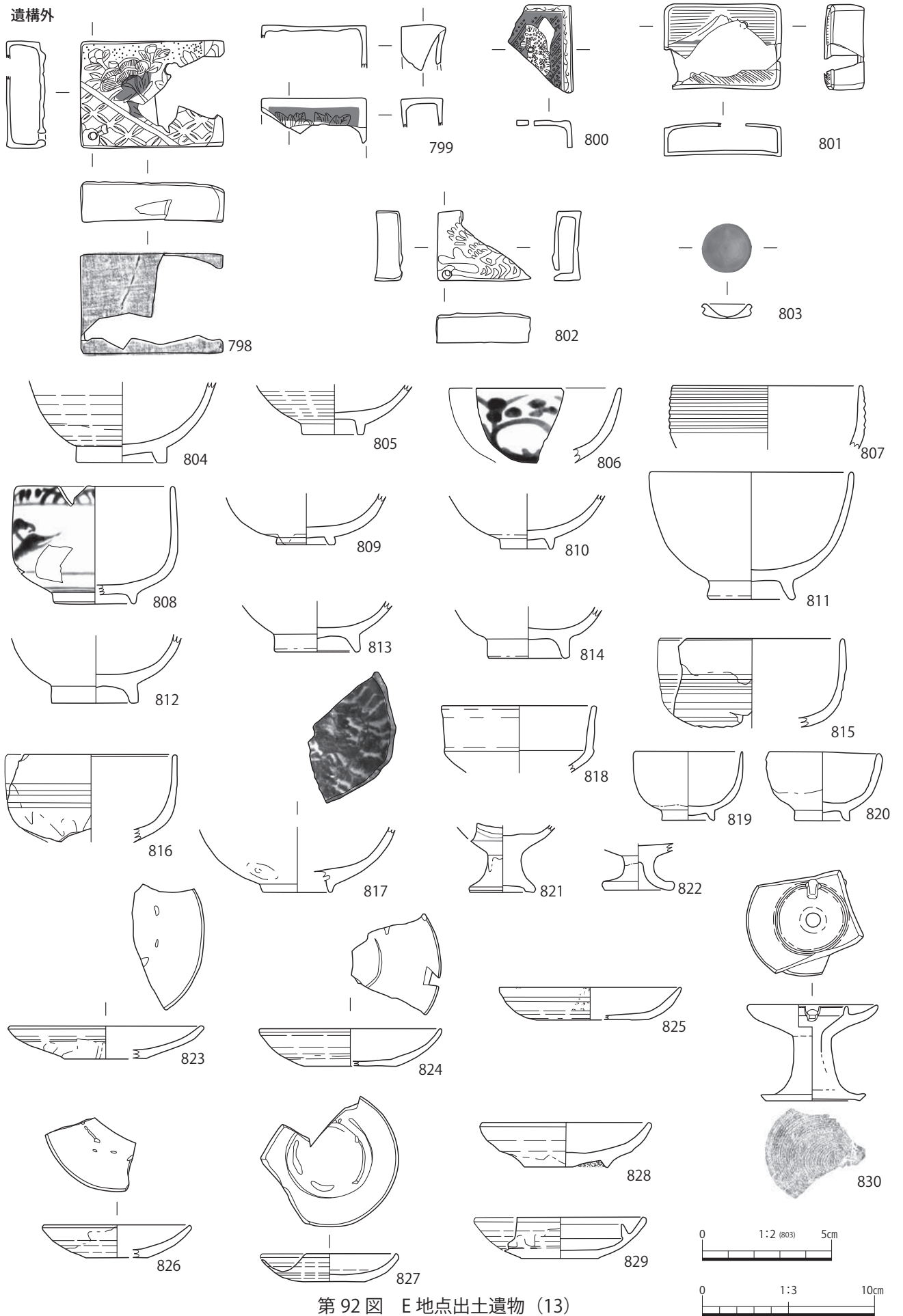


第 90 图 E 地点出土遺物 (11)



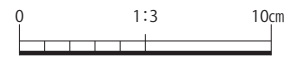
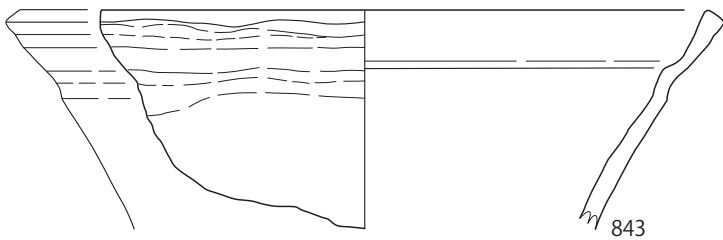
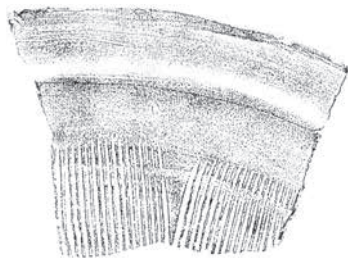
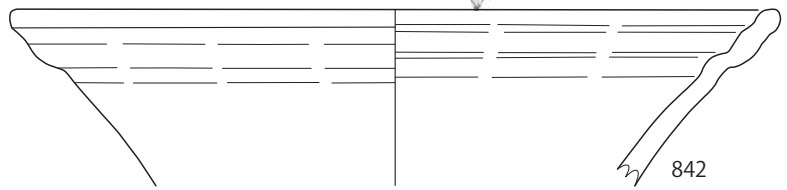
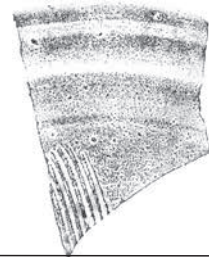
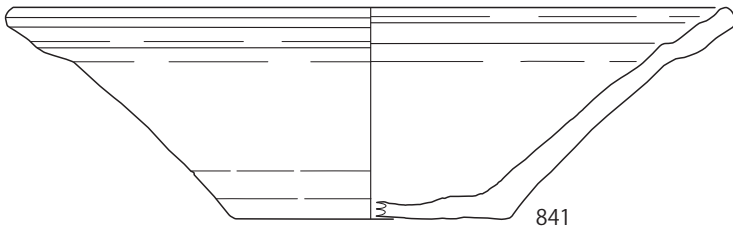
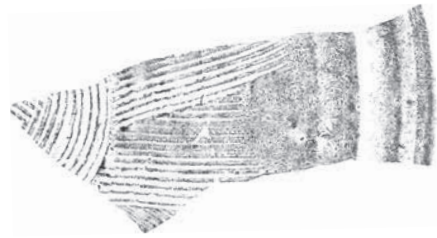
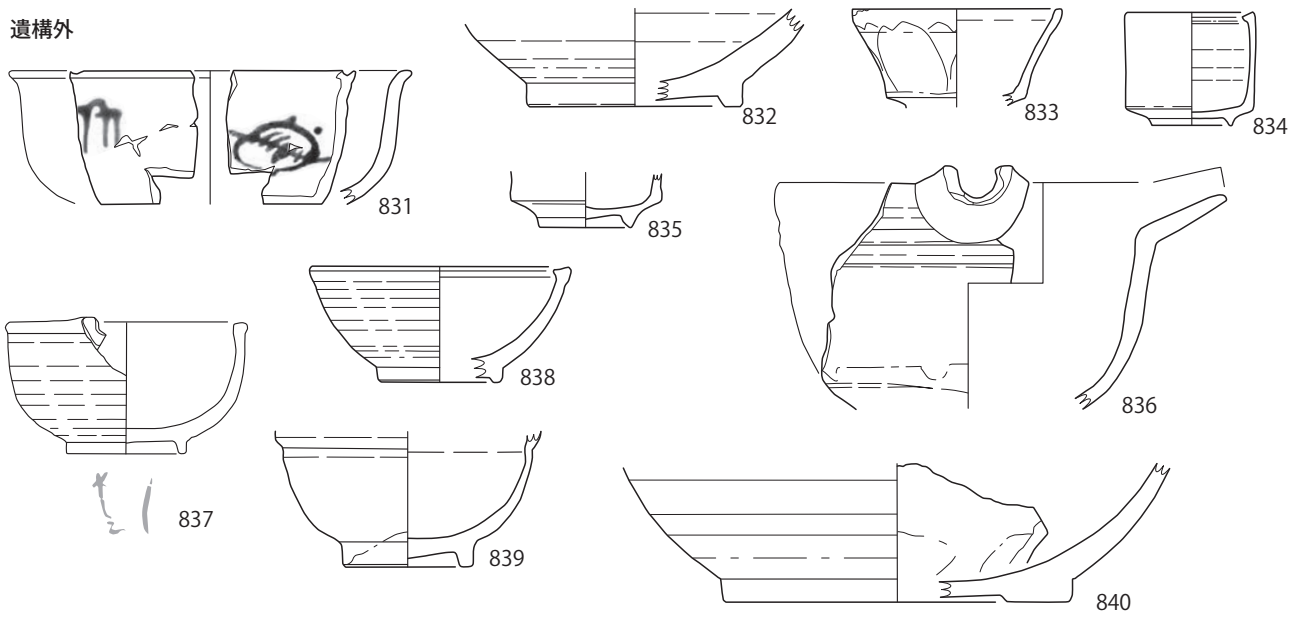
第 91 图 E 地点出土遺物 (12)

遺構外



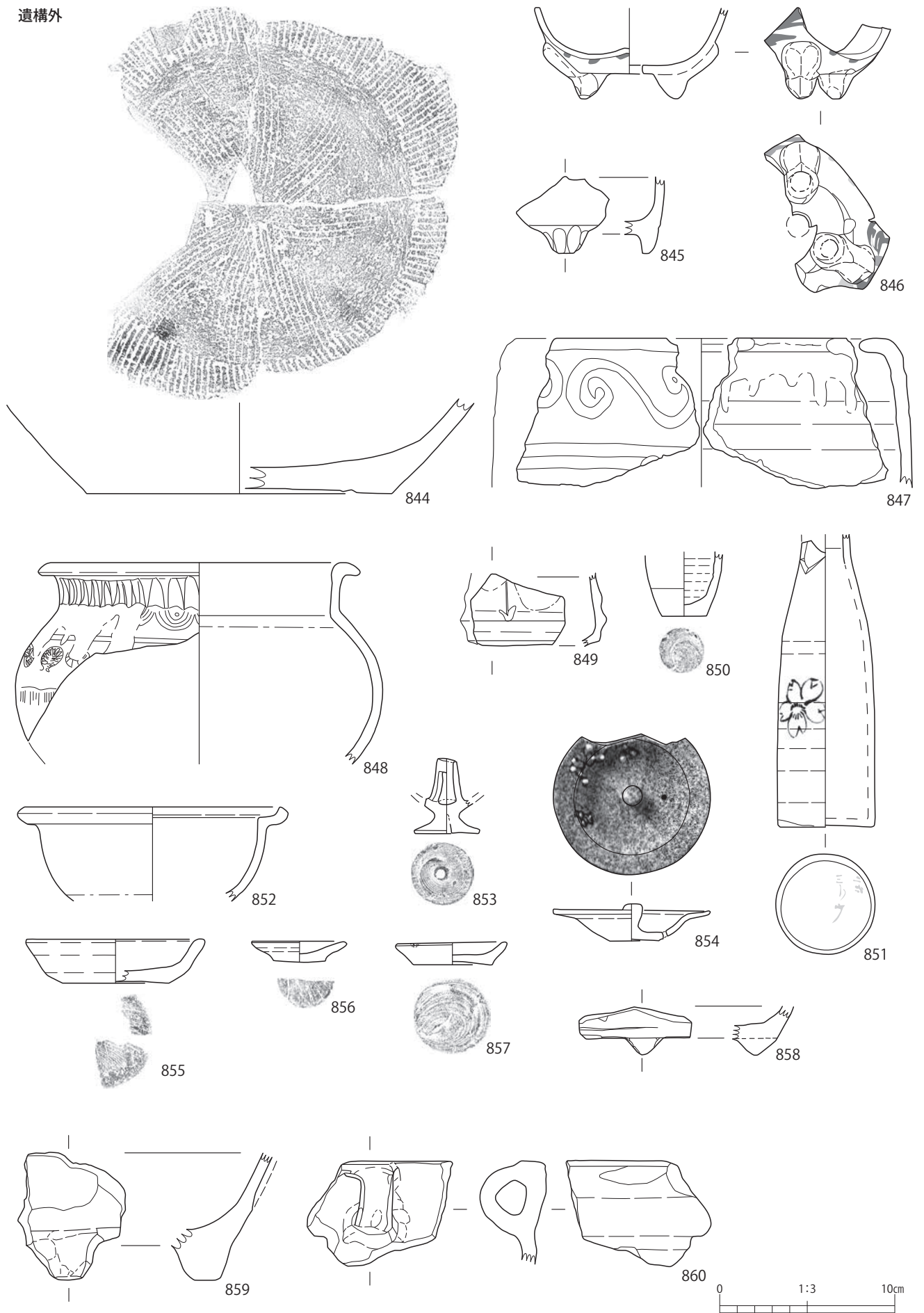
第92図 E地点出土遺物(13)

遺構外



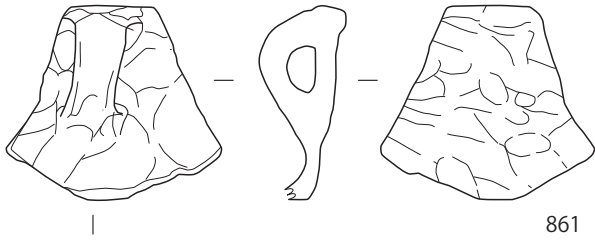
第93图 E地点出土遺物(14)

遺構外

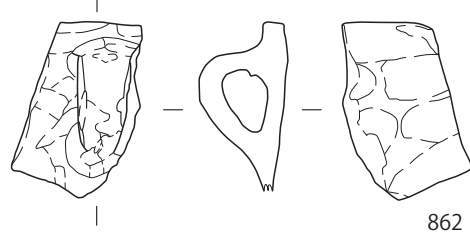


第94図 E地点出土遺物(15)

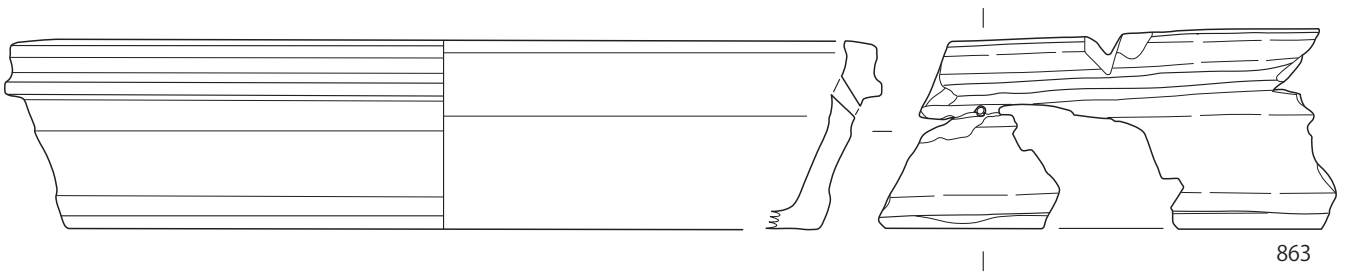
遺構外



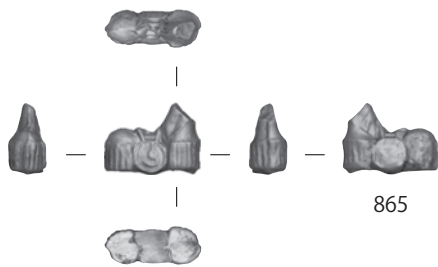
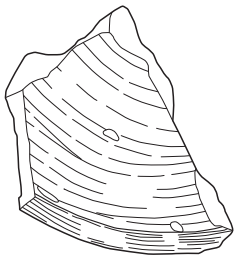
861



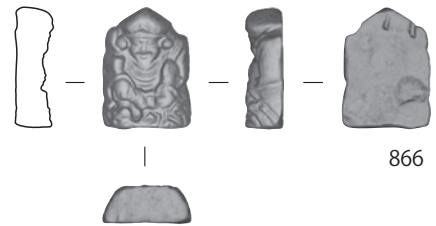
862



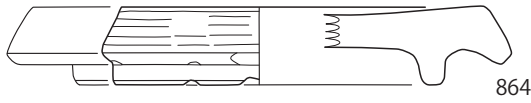
863



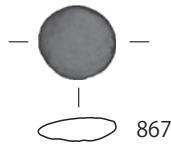
865



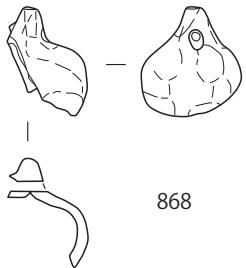
866



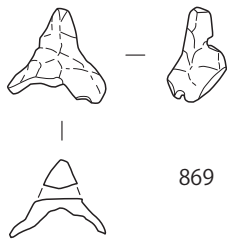
864



867



868



869



870



871



872



873



874



875



876



877



878



879



880



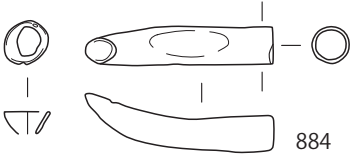
881



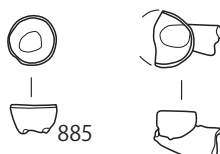
882



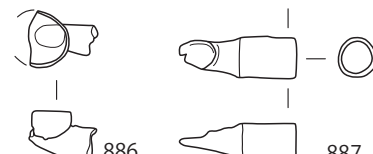
883



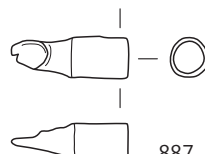
884



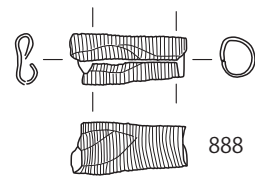
885



886



887



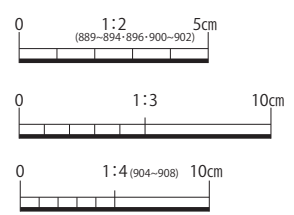
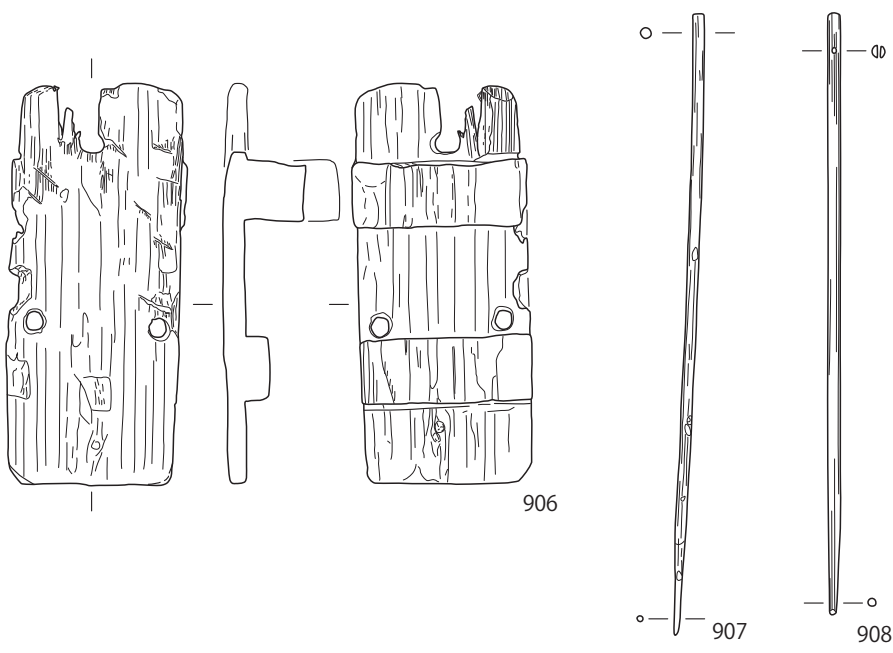
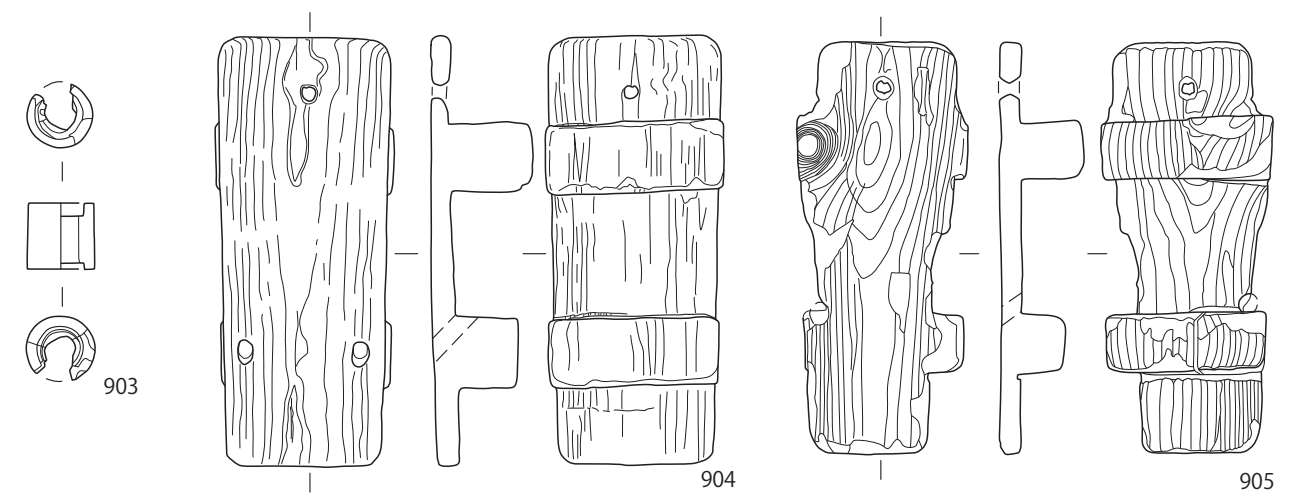
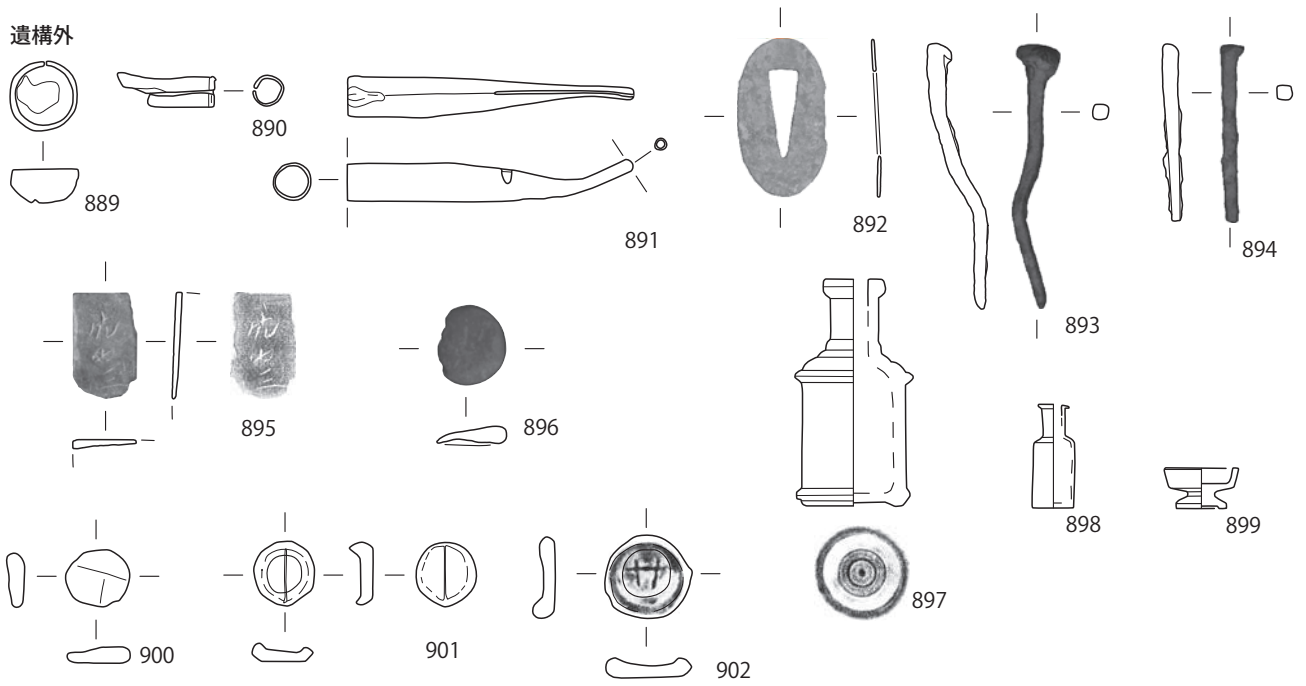
888

0 1:2 (865-888) 5cm

0 1:3 10cm

第95图 E地点出土遺物(16)

遺構外



第 96 图 E 地点出土遺物 (17)

第3表 2区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	押図 図版	写真 回数	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
									A	B	C	D								
1	46	21	2	A	SK1	陶器	擂鉢	口縁玉縁形	(28.0)	(5.6)	—	口縁1/8~底部1/8	口縁成形・底 部回転糸切	鉄釉	—	黒色粒・長石	瀬戸・美濃系	18Cか	2と同一個体か	
2	46	21	2	A	SK1	陶器	擂鉢	—	—	(11.6)	(5.1)	—	口縁成形・底 部回転糸切	鉄釉	—	黒色粒・長石	瀬戸・美濃系	18Cか	1と同一個体か	
3	46	21	2	A	SK2	磁器	中碗	丸碗	(11.0)	(4.6)	—	口縁1/4~底部1/2	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	—	
4	46	21	2	A	SK2	磁器	中碗	丸碗	(10.4)	(3.7)	—	口縁1/4~底部1/4	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	2次破熟により釉が剥けている	
5	46	21	2	A	SK2	磁器	中皿	丸形	(10.0)	(3.8)	—	口縁小~底部小	透明釉	染付・高台内路「大明年製」	黒色粒	肥前系	—	—	2次破熟により釉が剥けている	
6	46	21	2	A	SK2	陶器	中碗	丸碗	(10.0)	(3.1)	—	口縁小~底部小	鉄釉・ウノフ釉 鉄釉(外)	—	—	黒色粒・長石	瀬戸・美濃系	—	—	
7	46	21	2	A	SK2	陶器	鉢	—	—	(3.1)	—	口縁小~底部小	鉄釉(外)	—	—	—	—	—	高台にトチン痕あり	
8	46	21	2	A	SK2	土器	カワラケ	無高台平形	(8.6)	(5.5)	2.2	—	口縁1/4~底部小	口縁成形・底 部回転糸切	—	—	白色粒・金色雲母・長石・石 英	—	—	口縁部から底部にかけて煤付着
9	46	21	2	A	SK2	土器	焙烙	—	—	(27.0)	(4.2)	—	口縁小~底部小	—	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	内面に煤付着	
10	46	21	2	A	SK3	磁器	小坏	端反形	(7.4)	(3.4)	—	口縁1/8~底部1/8	透明釉	染付	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	
11	46	21	2	A	SK3	磁器	中皿	—	—	(6.3)	(2.3)	—	口縁小~底部1/3	青磁釉・鉄釉	—	黒色粒	肥前系	18C中葉頃か	高台内に乾の目状釉剥ぎ(釉剥ぎ部に 鉄釉を施す)	
12	46	21	2	A	SK3	磁器	皿	—	—	(2.3)	(2.3)	—	口縁小~底部小	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	
13	46	21	2	A	SK3	磁器	鉢	端反形	(8.9)	(3.0)	—	口縁1/8~底部小	透明釉	染付(外)・彫刻(内)	黒色粒	肥前系	—	—	—	
14	46	21	2	A	SK3	陶器	中碗	丸碗	(11.4)	5.2	6.7	—	口縁1/3~底部	鉄釉	—	長石	瀬戸・美濃系	18C初頭	かみた窯採取遺物表軸丸碗E類と同型 か	
15	46	21	2	A	SK3	陶器	中碗	丸碗	(10.4)	—	(5.5)	—	口縁1/4~底部1/4	鉄釉	—	白色粒・長石	瀬戸・美濃系	18C中葉	かみた窯採取遺物表軸丸碗C類と同型 か	
16	46	21	2	A	SK3	陶器	仏飯器	—	(5.8)	—	(2.2)	—	口縁1/6~底部	灰釉・ウノフ釉	—	—	—	—	—	
17	46	21	2	A	SK3	陶器	中皿	端反形	(23.1)	(14.0)	4.7	—	口縁1/6~底部1/8	灰釉・ウノフ釉	—	白色粒・黒色粒	—	—	—	
18	47	21	2	A	SK3	陶器	中皿	菊花形	—	6.8	(2.6)	—	口縁小~底部	灰釉・緑釉	—	—	—	—	見込みに目跡1ヶ所あり	
19	47	21	2	A	SK3	陶器	小皿	平形	(12.0)	—	(2.8)	—	口縁小~底部小	長石釉	—	—	—	—	見込みに目跡3ヶ所あり・底部に付着 物あり	
20	47	21	2	A	SK3	陶器	握鉢	口縁玉縁形	(24.0)	(5.2)	—	口縁小	口縁成形	鉄釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	17C2/4	穴田窯出土鉄絵皿A類と同型か	
21	47	21	2	A	SK3	陶器	火入	膝籠半脚形	(8.0)	—	(5.2)	—	口縁小~底部1/4	口縁成形	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	
22	47	21	2	A	SK3	陶器	蓋	急須蓋	(7.2)	2.3	2.3	2.8	柄部~受部	口縁成形	—	—	—	—	口縁部に煤痕あり	
23	47	21	2	A	SK3	土器	カワラケ	無高台平形	7.5	4.6	2.1	—	口縁小~底部	口縁成形・底 部回転糸切	—	赤色粒・雲母・黒色雲母・長 石・石英	—	—	口縁部に指頭痕あり	
24	47	21	2	A	SK3	土器	カワラケ	無高台平形	6.3	4.6	1.6	—	口縁1/2~底部	口縁成形・底 部回転糸切	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・金 色雲母	—	—	内面に煤付着・付着物あり	
25	47	21	2	A	SK3	土器	焙烙	—	(34.6)	(32.0)	7.8	—	口縁小~底部小	—	—	白色粒・雲母	—	—	内外面に指頭痕あり	
26	47	21	2	A	SK3	土器	焙烙	有耳	(28.4)	(27.4)	8.0	—	口縁1/2~底部1/2	口縁成形	—	白色粒・雲母	—	—	外面に煤付着	
32	48	21	2	A	SK9	磁器	碗	端反碗	(9.8)	(2.7)	1.4	—	口縁小	口縁成形	透明釉	染付	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	口縁の外反が非常に強い
33	48	21	2	A	SK9	磁器	紅皿	菊花形	(4.8)	1.3	1.4	—	口縁1/2~底部1/2	型打ち成形	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—
34	48	21	2	A	SK9	磁器	蓋	—	(4.4)	(1.7)	—	口縁小~底部1/2	口縁成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	—
35	48	21	2	A	SK9	陶器	擂鉢	口縁折縁形	(36.0)	(7.0)	—	口縁小	口縁成形	鉄釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	18C4/4	—	
36	48	21	2	A	SK9	陶器	擂鉢	口縁外折三段	(26.0)	(5.4)	—	口縁小	口縁成形	—	—	赤色粒・白色粒・長石・石英	瀬戸・美濃系	—	—	
37	48	21	2	A	SK10	磁器	小丸碗	小丸碗	(7.7)	(3.0)	(5.1)	—	口縁小~底部1/3	口縁成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C中葉~19C初頭 (1740~1810年代)	—
38	48	21	2	A	SK10	磁器	小碗	端反碗	(11.0)	(4.4)	6.2	—	口縁小~底部1/3	口縁成形	透明釉	染付・墨澤き	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C2/4か	煤痕あり・口縁の外反が非常に強い
39	48	21	2	A	SK10	磁器	小碗	端反碗	(10.8)	—	(4.7)	—	口縁1/4~底部	口縁成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	19C前葉~中葉 (1810~1860年代)	—
40	48	21	2	A	SK10	磁器	小坏	丸形	—	(3.0)	(3.3)	—	口縁小~底部1/4	口縁成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	煤痕あり
41	48	21	2	A	SK10	磁器	中皿	丸形	(15.8)	(10.2)	4.6	—	口縁1/6~底部小	口縁成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C	煤痕あり・口縁を輪花に作る
42	48	21	2	A	SK10	磁器	小皿	椀形	—	(8.0)	(1.1)	—	底部1/4	型打ち成形	透明釉	—	黒色粒	瀬戸・美濃系 (1850~1860年代)	—	—
43	48	21	2	A	SK10	磁器	蓋	碗蓋	(9.4)	3.4	2.9	—	柄部~受部3/4	口縁成形	透明釉	染付・見込み「朗丸蓋」	黒色粒	肥前系	—	—
44	48	21	2	A	SK10	磁器	蓋	蓋物蓋	(9.5)	(8.5)	(2.5)	3.0	柄部~受部1/2	口縁成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—
45	48	22	2	A	SK10	陶器	灯明受皿	平底	(7.0)	3.4	1.8	4.4	口縁1/2~底部	口縁成形	鉄釉	—	黒色粒	瀬戸・美濃系か	—	—
46	48	22	2	A	SK10	陶器	土瓶	寶篋玉形	(7.8)	—	(5.6)	—	口縁1/4~底部1/2	口縁成形	鉄釉	—	—	—	—	—
47	48	22	2	A	SK10	陶器	土瓶	寶篋玉形	—	(7.4)	(6.0)	—	口縁小~底部1/3	口縁成形	鉄釉	—	—	—	—	—
48	48	22	2	A	SK10	陶器	土鶺	—	(19.0)	—	(9.9)	—	口縁1/6~底部	口縁成形	灰釉	—	黒色粒	—	—	—

第3表 2区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
									A	B	C	D								
49	48	22	2	A	SK10	土製品	礫石形土 製品	—	—	1.9	1.9	0.6	—	—	—	—	—	—	—	—
50	49	22	2	A	SK11	磁器	小皿	縁皿形	—	(12.0)	(6.2)	2.3	—	透明釉	表面に胡粉による彩色の痕跡あり	黒色粒・雲母	—	—	—	
51	49	22	2	A	SK11	磁器	鉢	端反形	—	(6.0)	(3.0)	(4.5)	—	透明釉	染付・陰刻	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C 中葉～後葉	—	
52	49	22	2	A	SK11	陶器	蓋	土瓶蓋	—	(8.5)	(6.0)	(2.0)	1.4	透明釉	染付	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	
53	49	22	2	A	SK11	陶器	蓋	土瓶蓋	—	(7.8)	(4.2)	1.6	—	灰釉	—	黒色粒	—	—	—	
56	49	22	2	A	SK14	陶器	中碗	呉器手碗	—	(9.2)	4.6	6.9	—	灰釉	—	黒色粒	肥前系	17C 中葉～18C 中葉 (1950～1740 年代)	—	
57	49	22	2	A	SK14	土器	カワラケ	無高台平形	—	6.2	3.6	1.9	—	—	—	赤色粒・長石	—	—	—	
58	49	22	2	A	SK14	土器	カワラケ	無高台平形	—	5.6	3.4	1.7	—	—	—	赤色粒・白色粒・長石・石英	—	—	—	
64	49	22	2	A	SK15	磁器	碗	丸碗	—	—	4.0	(2.4)	—	透明釉	染付・外面コンニャク印判	黒色粒	肥前系	18C 前半頃か	—	
65	49	22	2	A	SK15	磁器	薄手酒杯	丸形御高台	—	(6.5)	2.5	3.1	—	透明釉	染付・見込みに色絵(青)	—	瀬戸・美濃系	19C2/4～3/4 (1820～1860 年代)	—	
66	49	22	2	A	SK15	磁器製品	根付か	—	—	1.3	2.5	0.1	—	透明釉	—	—	—	—	—	
67	49	22	2	A	SK15	陶器	碗	—	—	—	4.9	(3.4)	—	透明釉	—	赤色粒・白色粒・黒色粒	—	—	—	
68	49	22	2	A	SK15	陶器	碗	—	—	(2.0)	(1.9)	—	—	透明釉	呉須絵	赤色粒・白色粒・黒色粒	—	—	—	
69	49	22	2	A	SK15	陶器	小皿	菊花形	—	—	(3.1)	—	—	透明釉	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	
70	49	22	2	A	SK15	陶器	挿鉢	口縁折縁形	—	—	(5.0)	—	—	灰釉	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	
71	49	22	2	A	SK15	陶器	鉢	端反形	—	—	(4.2)	—	—	透明釉	—	—	—	—	—	
73	50	22	2	A	SK16	陶器	小碗	半球碗	—	9.6	4.2	4.2	—	透明釉	—	赤色粒・白色粒・黒色粒	—	—	—	
74	50	22	2	A	SK16	土器	カワラケ	—	—	(14.0)	—	(2.7)	—	透明釉	—	赤色粒・白色粒・黒色粒	—	—	—	
75	50	22	2	A	SK17	陶器	中碗	丸碗	—	—	(1.6)	—	—	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	
76	50	22	2	A	SK17	陶器	中碗	丸碗	—	(9.4)	—	(5.3)	—	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	
77	50	22	2	A	SK17	陶器	挿鉢	口縁折縁形	—	(34.0)	—	(4.8)	—	透明釉	—	黒色粒・長石	瀬戸・美濃系	18C3/4	—	
78	50	22	2	A	SK17	土器	カワラケ	無高台平形	—	(9.0)	(5.0)	2.2	—	—	—	赤色粒・白色粒・金色雲母・ 黒色雲母	—	—	—	
80	51	22	2	A	SK18	磁器	碗	筒丸碗	—	(6.4)	(3.8)	6.8	—	透明釉	印刷	黒色粒	—	近代	—	
81	51	22	2	A	SK18	磁器	小皿	丸形	—	(13.0)	7.6	4.5	—	透明釉	染付・見込みにコンニャク印判五弁花 高台内「杵なし崩れ清福」	黒色粒	肥前系	18C 後葉～19C 初頭 (1780～1810 年代)	—	
82	51	22	2	A	SK18	磁器	急須	構手形	—	6.0	6.1	5.6	—	透明釉	銅板転写	黒色粒	肥前系	近代	—	
83	51	22	2	A	SK18	陶器	大皿	丸形	—	(28.0)	—	(3.9)	—	灰釉	鉄絵	黒色粒・白色粒・長石	瀬戸・美濃系	—	—	
84	51	22	2	A	SK18	陶器	土鍋	紐状双耳	—	(18.0)	—	(6.9)	—	鉄釉	—	長石	—	—	—	
88	51	22	2	A	SK18	ガラス 製品	おはじき (石罫)	—	—	0.9	0.9	0.5	—	—	—	—	—	—	近代	—
89	51	22	2	A	SK18	ガラス 製品	玩具か	魚形	—	4.5	3.1	0.8	—	—	—	—	—	—	近代	—
93	52	23	2	A	SK20	磁器	中碗	半球碗	—	(10.6)	(4.2)	5.1	—	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C 初頭～中葉 (1710～1750 年代)	—	
94	52	23	2	A	SK20	磁器	中碗	端反碗	—	(10.1)	4.4	5.9	—	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	19C	—	
95	52	23	2	A	SK20	磁器	中碗	丸碗	—	(10.0)	4.4	5.0	—	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C	—	
96	52	23	2	A	SK20	磁器	中碗	小皿兼碗	—	(10.0)	(3.8)	4.9	—	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C 後葉～19C 初頭 (1770～1810 年代)	—	
97	52	23	2	A	SK20	磁器	中碗	丸碗	—	(9.8)	(4.0)	5.3	—	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C	—	
98	52	23	2	A	SK20	磁器	中碗	丸碗	—	(9.8)	3.8	5.4	—	透明釉	染付・高台内「崩れ大明年製」	黒色粒	肥前系	18C 前葉～中葉 (1710～1760 年代)	—	
99	52	23	2	A	SK20	磁器	中碗	丸碗	—	(9.4)	3.5	4.5	—	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C	—	
100	52	23	2	A	SK20	磁器	中碗	腰張形碗	—	(8.8)	—	(5.6)	—	透明釉	体部コンニャク印判	黒色粒	肥前系	18C 前半 (1700～1740 年代)	—	

第3表 2区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図 番号	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
									A	B	C	D							
101	52	23	2	A	SK20	磁器	中碗	小丸碗	(9.0)	—	(4.6)	—	口縁1/2	染付	透明釉	黒色粒	肥前系	18C中葉~19C初頭 (1740~1810年代)	—
102	52	23	2	A	SK20	磁器	中碗	小丸碗	(8.6)	3.4	5.6	—	口縁小~底部	染付・見込み手描き五弁花	透明釉	黒色粒	肥前系	18C中葉~19C初頭 (1740~1810年代)	—
103	52	23	2	A	SK20	磁器	中碗	小丸碗	8.6	—	5.1	—	口縁1/2~底部1/2	染付	透明釉	黒色粒	肥前系	18C中葉~19C初頭 (1740~1810年代)	—
104	52	23	2	A	SK20	磁器	中碗	小丸碗	8.5	3.6	5.5	—	口縁1/3~底部1/2	染付	透明釉	黒色粒	肥前系	18C中葉~19C初頭 (1740~1810年代)	—
105	52	23	2	A	SK20	磁器	中碗	小丸碗	(8.2)	3.4	5.7	—	口縁小~底部	染付	透明釉	黒色粒	肥前系	18C中葉~19C初頭 (1740~1810年代)	—
106	52	23	2	A	SK20	磁器	中碗	小丸碗	—	(3.4)	(4.0)	—	底部小~底部1/2	染付	透明釉	黒色粒	肥前系	18C中葉~19C初頭 (1740~1810年代)	—
107	52	23	2	A	SK20	陶器	小碗	丸碗	9.0	3.8	4.1	—	口縁2/3~底部	染付・体部コンニャク印判	透明釉	白色粒・黒色粒	肥前系	18C	—
108	52	23	2	A	SK20	磁器	小碗	丸碗	(7.6)	2.8	3.8	—	口縁1/2~底部	染付	透明釉	黒色粒	肥前系	—	—
109	52	23	2	A	SK20	磁器	小碗	筒形碗	(7.2)	(3.6)	5.8	—	口縁1/2~底部1/2	染付	透明釉	黒色粒	肥前系	18C中葉~19C初頭 (1740~1810年代)	—
110	52	23	2	A	SK20	磁器	小碗	筒形碗	(7.0)	(3.8)	5.6	—	口縁3/4~底部1/2	染付	透明釉	黒色粒	肥前系	18C中葉~19C初頭 (1740~1810年代)	—
111	52	23	2	A	SK20	磁器	小碗	筒形碗	—	(4.6)	(5.5)	—	体部1/4~底部1/2	見込み手描き五弁花	青磁釉(外) 透明釉(内)	黒色粒	肥前系	18C中葉~後葉 (1750~1780年代)	青磁染付碗
112	52	23	2	A	SK20	磁器	小碗	筒形碗	(7.0)	—	(4.8)	—	口縁1/2~底部	染付	透明釉	黒色粒	肥前系	18C中葉~19C初頭 (1740~1810年代)	—
113	53	23	2	A	SK20	磁器	碗	小丸碗か	—	2.9	(1.8)	—	底部小~底部	—	青磁釉	黒色粒	肥前系	18C中葉~19C初頭 (1750~1810年代)	切り高台
114	53	23	2	A	SK20	磁器	碗	広東碗か	—	5.3	(2.7)	—	底部	染付	透明釉	黒色粒	肥前系	18C後葉~19C中葉 (1770~1840年代)	—
115	53	23	2	A	SK20	磁器	碗	筒丸碗か	(7.2)	—	(3.3)	—	口縁1/2~底部	染付	透明釉	黒色粒	肥前系	—	—
116	53	23	2	A	SK20	磁器	仏飯器	台座輪高台	—	(3.6)	(4.1)	—	底部小~底部	染付	透明釉	黒色粒	肥前系	—	—
117	53	23	2	A	SK20	磁器	仏飯器	台座輪高台	—	4.6	(4.2)	—	底部小~底部	染付・見込み手描き五弁花	透明釉	黒色粒	肥前系	—	—
118	53	23	2	A	SK20	磁器	小皿	丸形	(13.5)	(7.0)	4.8	—	口縁1/4~底部1/5	染付	透明釉	黒色粒	肥前系	18C前葉頃か	口縁部を輪花に作る
119	53	23	2	A	SK20	磁器	小皿	丸形	(12.8)	7.9	3.3	—	口縁1/2~底部	染付・藍染・見込みコンニャク印 判五弁花	透明釉	黒色粒	肥前系	18C	焼成不良
120	53	23	2	A	SK20	磁器	小皿	丸形	(12.6)	(7.4)	2.8	—	口縁1/8~底部1/6	染付	透明釉	黒色粒	肥前系	18C後葉~19C中葉 (1780~1860年代)	蛇の目出形高台・口縁玉縁形
121	53	23	2	A	SK20	磁器	桶木鉢	筒縁桶形	(17.0)	—	(5.2)	—	口縁1/4~底部小	染付	透明釉	黒色粒	肥前系	—	—
122	53	23	2	A	SK20	磁器	瓶	珠重形	—	(6.6)	(14.2)	—	体部1/2~底部1/2	染付	透明釉	黒色粒	肥前系	—	—
123	53	23	2	A	SK20	磁器	蓋	蓋物蓋	(12.6)	(11.4)	(3.0)	—	体部1/3~底部1/4	染付	透明釉	黒色粒	肥前系	—	—
124	53	24	2	A	SK20	陶器	中碗	せんじ	(10.0)	(4.1)	5.6	—	口縁1/5~底部1/4	—	灰釉	黒色粒	瀬戸・美濃系か	—	—
125	53	24	2	A	SK20	陶器	中碗	呉器手碗	—	4.5	(5.7)	—	底部~底部	—	灰釉	黒色粒	肥前系	—	—
126	53	24	2	A	SK20	陶器	中碗	小形碗	(9.2)	3.6	5.5	—	口縁1/4~底部	鉄絵	灰釉・鉄釉	黒色粒	京・信濃系か	—	—
127	53	24	2	A	SK20	陶器	碗	剛毛目碗	—	(4.7)	(3.0)	—	体部~底部1/2	剛毛目	透明釉	—	肥前系	—	—
128	53	24	2	A	SK20	陶器	碗	柳茶碗か	—	(4.6)	(2.5)	—	口縁小~底部1/2	鉄絵	透明釉	黒色粒・黒石	瀬戸・美濃系か	—	柳茶碗か
129	53	24	2	A	SK20	陶器	碗	—	—	4.8	(3.1)	—	体部小~底部	高台内路あり	灰釉	黒色粒	肥前系	17C後半~18C前半	肥前系京風陶器
130	53	24	2	A	SK20	陶器	碗	半球碗か	—	2.9	(3.3)	—	体部小~底部	色絵(緑)	灰釉	黒色粒	瀬戸・美濃系か	—	半球碗か
131	53	24	2	A	SK20	陶器	碗	丸碗	(7.4)	—	(3.1)	—	口縁1/3~底部1/3	—	灰釉	黒色粒・白色粒	瀬戸・美濃系か	—	—
132	53	24	2	A	SK20	陶器	仏飯器	台座鉢り込み	(5.1)	3.4	4.5	—	口縁1/4~底部	—	灰釉	黒色粒	瀬戸・美濃系か	—	—
133	53	24	2	A	SK20	陶器	仏飯器	無高台平形	(9.8)	(4.6)	(1.8)	—	口縁1/4~底部小	—	灰釉	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	体部外面から底部にかけて煤付着
134	53	24	2	A	SK20	陶器	灯明皿	無高台平形	(9.8)	—	(2.2)	—	口縁小~底部小	—	灰釉	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	見込みと底部に目跡あり
135	53	24	2	A	SK20	陶器	灯明受皿	平底	(11.0)	(4.7)	2.2	(8.4)	口縁1/4~底部1/4	—	灰釉	—	—	—	—
136	53	24	2	A	SK20	陶器	灯明受皿	平底	(10.8)	(5.0)	2.2	(8.0)	口縁1/5~底部3/4	—	灰釉	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	体部下半に目跡あり
137	54	24	2	A	SK20	陶器	鉢	折縁形	(20.8)	8.2	7.0	—	口縁1/8~底部3/4	—	灰釉	黒色粒・白色粒	瀬戸・美濃系	—	見込みに乾の目跡あり
138	54	24	2	A	SK20	陶器	鉢か	—	—	7.3	(3.1)	—	体部~底部	—	灰釉	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	見込みに目跡3ヶ所あり

第3表 2区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
									A	B	C	D								
198	58	25	2	A	SK22	磁器	瓶口皿	菊花形	4.6	1.1	1.4	—	外形	透明釉	—	—	肥前系	—	—	—
199	58	25	2	A	SK22	陶器	瓶	文字徳利	(10.0)	(19.6)	—	—	体部1/3~底部	透明釉	呉須絵「四海(波)」(知)〇(厘)「〇〇〇」	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	19C~20C前半頃か	高田徳利	
200	58	25	2	A	SK22	陶器	蓋	急須蓋	7.8	6.2	1.8	1.8	外形	鉄釉	—	—	—	—	—	—
202	58	25	2	A	SK23	磁器	中碗	丸碗	(10.6)	(4.2)	(5.8)	—	口縁1/2~体部1/2	透明釉	—	—	—	—	—	—
203	58	25	2	A	SK23	磁器	中碗	丸碗	9.6	3.9	4.8	—	外形	透明釉	—	—	—	—	—	—
204	58	25	2	A	SK23	陶器	指鉢	口縁折縁形	—	—	(6.8)	—	口縁小	鉄釉	—	—	—	—	—	—
205	58	25	2	A	SK26	磁器	仏飯器か	—	(7.0)	—	(2.9)	—	口縁1/3~体部小	透明釉	—	—	—	—	—	—
206	58	25	2	A	SK26	陶器	指鉢	—	—	(12.8)	(5.7)	—	口縁小~体部小	鉄釉	—	—	—	—	—	—
207	58	25	2	A	SK26	陶器	鉢か	—	(12.7)	—	(7.7)	—	口縁1/6~体部小	鉄釉	—	—	—	—	—	—
208	58	25	2	A	SK26	土器	カワラケ	無高台平形	(8.8)	(6.0)	2.2	—	口縁1/8~底部1/3	—	—	赤色粒・白色粒・金色厚母・長石・石英	—	—	内外面に輝付着	
210	58	26	2	A	SK27	磁器	仏飯器か	—	(6.4)	—	(3.1)	—	口縁1/2~体部	透明釉	—	—	—	—	—	—
211	58	26	2	A	SK27	陶器	片口か	—	(11.4)	—	(4.0)	—	口縁1/2~底部小	鉄釉	—	—	—	—	—	—
212	58	26	2	A	SK27	陶器	蓋	康燗蓋	5.2	2.8	2.3	0.8	ほぼ完形	鉄釉	—	—	—	—	—	—
213	58	26	2	A	SK29	磁器	中碗	腰形碗	(9.2)	(4.6)	5.9	—	口縁1/2~底部1/2	透明釉	—	—	—	—	—	—
214	58	26	2	A	SK34	磁器	中碗	小丸碗	(8.4)	2.8	5.6	—	口縁3/4~底部	透明釉	—	—	—	—	—	—
215	59	26	2	A	SK36	磁器	小碗	半球碗	(8.0)	(3.0)	3.7	—	口縁1/3~底部1/4	透明釉	—	—	—	—	—	—
216	59	26	2	A	SK39	磁器	小碗	筒形碗	(7.0)	(3.6)	5.2	—	口縁1/4~底部1/2	透明釉	—	—	—	—	—	—
217	59	26	2	A	SK39	陶器	指鉢	—	(8.0)	(3.9)	—	—	体部~底部1/4	鉄釉	—	—	—	—	—	—
218	59	26	2	A	SK39	陶器	蓋	半胴蓋	—	13.1	(6.8)	—	体部小~底部2/3	灰釉	—	—	—	—	—	—
219	59	26	2	A	SK40	磁器	中碗	丸碗	(9.6)	(3.6)	4.9	—	口縁1/2~底部1/2	透明釉	—	—	—	—	—	—
220	59	26	2	A	SK40	陶器	蓋	蓋物蓋	12.0	9.5	3.0	1.8	胴部~受部1/3	鉄釉	—	—	—	—	—	—
223	59	26	2	A	SK45	磁器	碗	広東碗	—	(5.2)	(2.9)	—	体部小~底部1/2	透明釉	—	—	—	—	—	—
224	59	26	2	A	SK45	陶器	指鉢	—	—	(18.0)	(3.8)	—	体部小~底部1/6	—	—	白色粒・黒色粒・長石・粗石	肥前系	19C/A~19C3/4 (1800~1870年代)	焼継・焼継印あり	
227	60	26	2	A	SK46	磁器	碗	筒丸碗	(8.4)	—	(6.0)	—	口縁1/5~体部	透明釉	—	—	—	—	—	—
228	60	26	2	A	SK46	磁器	皿	丸形	—	(7.4)	(2.5)	—	体部小~底部1/2	透明釉	—	—	—	—	—	—
229	60	26	2	A	SK46	陶器	鉢か	—	—	(14.0)	(2.0)	—	体部小~底部1/8	透明釉	—	—	—	—	—	—
230	60	26	2	A	SK46	陶器	指鉢	—	—	(10.4)	(4.8)	—	体部小~底部小	紺積み口縁鉄釉	—	—	—	—	—	—
245	61	27	2	A	SS2	磁器	碗	小丸碗	—	(3.8)	(3.0)	—	体部小~底部1/2	透明釉	—	—	—	—	—	—
246	61	27	2	A	SS2	磁器	碗	筒形碗	—	(4.1)	(1.4)	—	底部	透明釉	—	—	—	—	—	—
247	61	27	2	A	SS2	磁器	燗徳利	端反形	(3.0)	—	(4.4)	—	口縁1/2~体部小	透明釉	—	—	—	—	—	—
248	61	27	2	A	SS2	陶器	灯明受皿	平底	(9.8)	(4.4)	2.1	—	口縁1/2~底部2/3	鉄釉	—	—	—	—	—	—
249	61	27	2	A	SS2	陶器	蓋	行平蓋	15.6	12.6	4.3	1.8	胴部~受部	—	—	—	—	—	—	—
252	62	27	2	A	SS12	磁器	小碗	筒形碗	(7.8)	—	(5.2)	—	口縁1/6~体部小	透明釉	—	—	—	—	—	—
253	62	27	2	A	SS12	磁器	小碗	筒丸碗	7.4	3.8	6.0	—	口縁1/2~底部	透明釉	—	—	—	—	—	—
254	62	27	2	A	SS12	磁器	薄手酒杯	丸形	—	(2.6)	(1.6)	—	体部~底部1/2	透明釉	—	—	—	—	—	—
255	62	27	2	A	SS12	磁器	小皿	丸形	13.4	8.3	3.6	—	口縁2/3~底部	透明釉	—	—	—	—	—	—
256	62	27	2	A	SS12	磁器	皿	丸形	—	(9.0)	(2.4)	—	体部小~底部1/4	透明釉	—	—	—	—	—	—
257	62	27	2	A	SS12	磁器	皿	—	—	(8.6)	(1.7)	—	体部小~底部1/4	透明釉	—	—	—	—	—	—

第3表 2区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図 番号	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考		
									A	B	C	D										
258	62	27	2	A	S512	磁器製品	戸車	—	3.0	3.1	0.7	—	楕円形	透明釉	—	—	—	—	—	—		
259	62	27	2	A	S512	陶器	碗	端反碗	(9.8)	(3.1)	—	—	口縁小へ底部小	灰釉	—	—	—	—	—	—		
260	62	27	2	A	S512	陶器	皿	端反皿	(12.8)	(6.0)	3.8	—	口縁1/4へ底部1/4	呉須絵	—	—	—	18C/4 ~ 19C/4	太白	—		
261	62	27	2	A	S512	陶器	壺小	—	—	15.7	(3.2)	—	底部	鉄釉	—	—	—	—	—	見込みに目跡4ヶ所あり		
262	63	27	2	A	S512	土器	焙烙	有耳	—	—	(4.4)	—	内耳部分	—	—	赤色粒・白色粒・黒色塵母・塵母	—	—	—			
266	63	27	2	A	S03	磁器	中碗	端反碗	(10.8)	—	(4.7)	—	口縁1/6へ底部小	染付	—	—	—	19C	—	—		
267	63	27	2	A	S03	磁器	碗	広車碗	—	(6.0)	(3.7)	—	底部小へ	染付	—	—	—	18C後葉 ~ 19C初頭 (1780 ~ 1810年代)	—	—		
268	63	27	2	A	S03	磁器	瓶	—	—	(4.4)	(4.4)	—	底部小へ	染付	—	—	—	—	—	—		
269	63	27	2	A	S03	陶器	碗	胸毛目碗	—	(3.6)	(2.3)	—	底部小へ	灰釉	—	—	—	—	—	—		
270	63	27	2	A	S03	陶器	灯明皿	平底	(10.2)	(5.2)	1.9	—	口縁1/6へ底部1/4	鉄釉	—	—	—	—	—	—	—	
271	63	27	2	A	S03	陶器	灯明受皿	平底	(7.2)	(3.0)	1.3	(4.6)	口縁1/4へ底部1/2	鉄釉	—	—	—	—	—	—	—	
272	63	27	2	A	S03	陶器	壺小	—	—	(10.8)	(3.3)	—	底部小へ	鉄釉	—	—	—	—	—	—	—	
273	63	27	2	A	S03	陶器	壺	土瓶壺	5.6	3.0	2.1	1.8	口縁1/3へ底部	鉄釉	—	—	—	—	—	—	—	
276	64	27	2	A	SU1	陶器	灯明受皿	平底	9.6	4.1	1.7	6.0	弁形	灰釉	—	—	—	—	—	—	—	
279	64	27	2	A	SU1	陶器	灯明受皿	平底	9.0	3.5	2.1	5.8	弁形	灰釉	—	—	—	—	—	—	—	
282	64	27	2	A	SU1	陶器	灯明皿	無高台平形	8.7	3.8	2.1	—	弁形	灰釉	—	—	—	—	—	—	—	
290	64	27	2	A	SU1	陶器	灯明皿	無高台平形	8.6	3.5	2.4	—	楕円形	灰釉	—	—	—	—	—	—	—	
292	64	27	2	A	SU1	陶器	灯明皿	無高台平形	8.5	3.7	2.3	—	弁形	灰釉	—	—	—	—	—	—	—	
300	64	28	2	A	1号埋藏土器	—	榎木鉢	楕形	13.0	9.5	10.4	—	楕円形	—	—	—	—	—	—	—	—	
301	64	28	2	A	1号埋藏土器	—	大甕	口縁断面T字形	(65.2)	25.7	37.9	—	口縁1/4へ底部	透明釉	—	—	—	—	—	—	—	
302	65	28	2	A	遺構外	磁器	中碗	端反碗	(12.2)	4.3	6.8	—	口縁1/2へ底部	透明釉	染付	—	—	—	—	—	—	
303	65	28	2	A	遺構外	磁器	中碗	端反碗	(9.2)	(3.8)	4.8	—	口縁1/2へ底部1/2	透明釉	染付	—	—	—	—	—	—	
304	65	28	2	A	遺構外	磁器	中碗	平碗	(11.2)	4.0	4.6	—	口縁1/2へ底部	透明釉	型紙留	—	—	—	—	—	—	
305	65	28	2	A	遺構外	磁器	中碗	平碗	(11.0)	4.0	4.4	—	口縁1/3へ底部1/2	透明釉	脚板転写	—	—	—	—	—	—	
306	65	28	2	A	遺構外	磁器	中碗	平碗	(11.4)	(4.0)	5.0	—	口縁1/4へ底部1/2	透明釉	脚板転写	—	—	—	—	—	—	
307	65	28	2	A	遺構外	磁器	中碗	平碗	(11.2)	(3.6)	4.9	—	口縁1/2へ底部1/2	透明釉	脚板転写	—	—	—	—	—	—	
308	65	28	2	A	遺構外	磁器	中碗	筒丸碗	(8.2)	4.2	7.5	—	口縁1/5へ底部	透明釉	染付	—	—	—	—	—	—	
309	65	28	2	A	遺構外	磁器	中碗	細筒形碗	(7.2)	(5.0)	(7.8)	—	口縁小へ底部1/2	透明釉	型紙留・染付	—	—	—	—	—	—	
310	65	28	2	A	遺構外	磁器	小碗	丸碗	(9.0)	3.2	4.6	—	口縁1/3	透明釉	色絵(赤)	—	—	—	—	—	—	
311	65	28	2	A	遺構外	磁器	小碗	小丸碗	(7.3)	3.2	5.1	—	口縁1/2へ底部	透明釉	染付	—	—	—	—	—	—	
312	65	28	2	A	遺構外	磁器	小碗	端反碗	(7.0)	(3.4)	5.0	—	口縁1/4へ底部3/4	透明釉	—	—	—	—	—	—	—	
313	65	28	2	A	遺構外	磁器	小碗	筒丸碗	(7.1)	3.5	5.0	—	楕円形	透明釉	脚板転写・高台内銘「清江」	—	—	—	—	—	—	
314	65	28	2	A	遺構外	磁器	小碗	端反形	(7.4)	(3.0)	3.3	—	口縁1/4へ底部1/2	透明釉	染付	—	—	—	—	—	—	
315	65	28	2	A	遺構外	磁器	小碗	端反形	(6.6)	(3.0)	4.5	—	口縁1/3へ底部1/2	透明釉	色絵(黒)	—	—	—	—	—	—	
316	65	28	2	A	遺構外	磁器	小碗	端反形	6.1	2.5	4.5	—	楕円形	透明釉	染付(青・緑)	—	—	—	—	—	—	
317	65	28	2	A	遺構外	磁器	薄手盥手	端反形	(5.8)	(2.8)	3.2	—	口縁1/4へ底部	透明釉	見込みに色絵(赤・金)	—	—	—	—	—	—	
318	65	28	2	A	遺構外	磁器	薄手盥手	丸形脚高台	6.1	2.3	2.7	—	楕円形	透明釉	染付・見込みに色絵(青・金)	—	—	—	—	—	—	
319	65	28	2	A	遺構外	磁器	缸皿	梅花形	4.3	1.1	1.3	—	弁形	透明釉	—	—	—	—	—	—	—	
320	65	28	2	A	遺構外	磁器	仏飯器	台座輪高台	(6.3)	3.4	5.6	—	口縁1/4へ底部	透明釉	染付	—	—	—	—	—	—	
321	65	28	2	A	遺構外	磁器	中皿	丸形	(13.4)	6.4	3.9	—	口縁1/4へ底部	透明釉	染付	—	—	—	—	—	—	
322	65	28	2	A	遺構外	磁器	中皿	丸形	(13.9)	(7.5)	3.4	—	口縁1/3へ底部1/4	透明釉	染付	—	—	—	—	—	—	
323	65	28	2	A	遺構外	磁器	中皿	丸形	13.6	8.1	4.3	—	口縁2/3へ底部	透明釉	染付・見込みコンニャク印判五弁花・高台内銘「梓あり馬字状流福」	—	—	—	—	—	—	—

第3表 2区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法重 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考	
									A	B	C	D									
324	66	28	2	A	遺構外	磁器	中皿	丸形	(13.3)	(7.3)	2.8	-	口縁1/3~底部	ロクロ型打ち成形透明釉	染付・線繪	黒色粒	肥前系か	19C2/4 (1820~1830年代)	底の目田形高台・口縁部を輪花に作る・ 焼継印あり・見込みと破断面に瓦の痕 跡あり		
325	66	28	2	A	遺構外	磁器	小皿	丸形	(9.0)	(5.6)	2.4	-	口縁1/6~底部1/2	ロクロ型打ち成形透明釉	髹	黒色粒	瀬戸・美濃系か	19C (1670~1700年代)	口縁部を輪花に作る		
326	66	28	2	A	遺構外	磁器	皿	変形	-	-	2.2	-	口縁小~底部小	型打ち成形 透明釉	染付	黒色粒	肥前系か	-	楕円か・焼継・焼継印あり		
327	66	28	2	A	遺構外	磁器	鉢	端反形	(5.4)	3.2	5.8	-	口縁1/2~底部	ロクロ成形 透明釉	染付	黒色粒	肥前系	-	口縁部を輪花に作る		
328	66	28	2	A	遺構外	磁器	鉢	端反形	7.9	3.8	5.9	-	ほぼ完形	ロクロ成形 透明釉	染付	黒色粒	肥前系	-	口縁部を輪花に作る		
329	66	28	2	A	遺構外	磁器	燗徳利	-	-	(13.3)	-	底部~底部	ロクロ成形 透明釉	染付	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	-	-		
330	66	29	2	A	遺構外	磁器	蓋	碗蓋	9.5	3.5	2.4	-	ほぼ完形	ロクロ成形 透明釉	髹	黒色粒	-	近代	-	-	
331	66	29	2	A	遺構外	磁器	蓋	碗蓋	9.4	3.4	2.5	-	ほぼ完形	ロクロ成形 透明釉	染付・見込み「大化年製」	-	肥前系	-	-	-	
332	66	29	2	A	遺構外	磁器製品	人形	人物	7.4	5.4	3.6	-	完形	型押し成形(型 合わせ)	色絵(赤・青・緑・黒)	-	-	近代	-	-	
333	66	29	2	A	遺構外	陶器	中碗	丸碗	(12.6)	5.9	8.9	-	口縁1/4~底部	ロクロ成形 灰釉	-	-	瀬戸・美濃系	-	-	外面に鉄付着・2次破熱により釉が溶 けている	
334	66	29	2	A	遺構外	陶器	中碗	端反碗	(12.3)	5.0	6.4	-	口縁1/2~底部	ロクロ成形 灰釉	-	-	瀬戸・美濃系か	-	-	-	
335	66	29	2	A	遺構外	陶器	小碗	丸碗	(6.7)	3.4	3.6	-	口縁1/4~底部	ロクロ成形 灰釉	-	-	瀬戸・美濃系	-	-	-	
336	66	29	2	A	遺構外	陶器	灯明受皿	平底	7.0	3.6	2.5	4.6	完形	ロクロ成形 鉄釉	-	-	瀬戸・美濃系	-	-	開口部リ字形・体部下半に環状痕(目 跡)あり	
337	66	29	2	A	遺構外	陶器	灯明受皿	容器付き	-	5.5	(4.9)	4.6	受部~底部	ロクロ成形 灰釉	-	-	京・信濃系	-	-	開口部半月形	
338	67	29	2	A	遺構外	陶器	播鉢	口縁外帯三段	(8.0)	(20.4)	13.9	-	口縁小~底部小	ロクロ成形 -	-	赤色粒・白色粒・黒色粒・長 石	京・信濃系	-	-	-	
339	67	29	2	A	遺構外	陶器	播鉢	口縁外帯三段	(37.4)	-	(12.9)	-	口縁1/4~底部	ロクロ成形 灰釉	-	-	白色粒・長石・細石粒	明石・堺系	-	-	-
340	67	29	2	A	遺構外	陶器	播鉢	口縁外帯三段	(37.0)	-	(10.1)	-	口縁1/4~底部小	ロクロ成形 鉄釉	-	-	白色粒・長石・細石粒	明石・堺系	-	-	-
341	68	29	2	A	遺構外	陶器	瓶	-	-	(14.2)	-	底部~底部	ロクロ成形 鉄釉	鉄絵	黒色粒	-	-	-	-	-	
342	68	29	2	A	遺構外	陶器	急須	鳩手形	(8.0)	(7.4)	7.0	-	底部1/2~底部1/2	ロクロ成形 鉄釉	イッチン	-	-	-	-	-	-
343	68	29	2	A	遺構外	陶器	土瓶	腰折形	9.0	(8.0)	11.1	-	口縁~底部3/4	ロクロ成形 鉄釉	糸目	-	-	-	-	-	底部に鉄付着
344	68	29	2	A	遺構外	陶器	行平 (把手部)	-	(8.2)	(4.3)	(3.5)	-	把手部	型押し成形(型 合わせ)	髹	白色粒・黒色粒	-	-	-	-	-
345	68	29	2	A	遺構外	陶器	蓋	土瓶蓋	9.0	7.0	3.6	1.8	ほぼ完形	ロクロ成形 鉄釉	-	-	白色粒・黒色粒	-	-	-	-
346	68	29	2	A	遺構外	土器	カワラケ	無高台平形	6.8	5.2	1.7	-	口縁3/4~底部3/4	ロクロ成形・底 部回転糸切	-	-	赤色粒・白色粒・金色雲母	-	-	内外面に鉄付着	
347	68	29	2	A	遺構外	土器	カワラケ	無高台平形	5.2	4.6	1.1	-	ほぼ完形	ロクロ成形・底 部回転糸切	-	-	白色粒・黒色粒・金色雲母・ 長石	-	-	底部焼成後穿孔あり・胎用芯押えか	
348	68	29	2	A	遺構外	土製品	人形	人物	(3.1)	2.7	0.9	-	頸部欠損	型押し成形 -	髹	赤色粒・白色粒・黒色粒・雲 母	-	-	-	-	-
349	68	29	2	A	遺構外	土製品	泥面子	玩具(中着)	1.5	1.3	0.5	-	完形	型押し成形 -	髹	赤色粒・黒色粒・雲母	-	-	-	-	-
350	68	29	2	A	遺構外	土製品	磨石形土製品	-	1.8	1.9	0.6	-	完形	手づくね成形 -	髹	赤色粒・黒色粒・雲母	-	-	-	-	-
351	68	29	2	A	遺構外	土製品	磨石形土製品	-	1.8	1.8	0.5	-	完形	手づくね成形 -	髹	赤色粒・黒色粒・雲母	-	-	-	-	-
352	68	29	2	A	遺構外	土製品	磨石形土製品	-	2.0	1.8	0.5	-	ほぼ完形	手づくね成形 -	髹	赤色粒・白色粒・黒色粒・雲 母	-	-	-	-	-
353	68	29	2	A	遺構外	土製品	磨石形土製品	-	1.9	1.9	0.6	-	完形	手づくね成形 -	髹	赤色粒・雲母	-	-	-	-	-
354	68	29	2	A	遺構外	土製品	磨石形土製品	-	1.8	1.8	0.6	-	完形	手づくね成形 -	髹	赤色粒・雲母	-	-	-	-	-
355	68	29	2	A	遺構外	土製品	磨石形土製品	-	1.7	1.9	0.6	-	ほぼ完形	手づくね成形 -	髹	赤色粒・雲母	-	-	-	-	-
356	68	29	2	A	遺構外	土製品	ミニチュ ア土器	-	2.2	2.0	1.7	-	ほぼ完形	ロクロ成形 -	髹	赤色粒・白色粒・金色雲母・ 黒色雲母・長石	-	-	-	-	-
408	70	31	2	B1	SK47	磁器	皿	-	-	(9.0)	(1.6)	-	底部1/8	ロクロ成形 透明釉	染付	黒色粒	肥前系	-	-	底の目田形高台	
409	70	31	2	B1	SK47	磁器	皿	八角形	(6.4)	3.0	1.7	-	口縁小~底部	型打ち成形 透明釉	染付	黒色粒	肥前系	-	-	-	
410	70	31	2	B1	SK47	磁器	瓶	練直形	-	(7.2)	(22.5)	-	底部3/4~底部3/4	ロクロ成形 透明釉	染付	白色粒・黒色粒	肥前系	-	-	焼成不良	
411	70	31	2	B1	SK47	陶器	碗か	-	-	(4.0)	-	-	口縁小~底部小	ロクロ成形 鉄釉	-	石英	-	-	-	-	
412	70	31	2	B1	SK47	陶器	碗か	-	-	(3.6)	-	-	口縁小~底部小	ロクロ成形 鉄釉	-	白色粒	-	-	-	-	
413	70	31	2	B1	SK47	陶器	灯明皿	クリ底	10.2	4.6	2.3	-	口縁2/3~底部7/8	ロクロ成形 灰釉	-	赤色粒・金色雲母・黒色雲母・ 長石・石英	瀬戸・美濃系	18C前半~中葉	捕み付・かみた窯出土資料と同型小 外面に鉄付着		
414	70	31	2	B1	SK47	土器	焙烙	-	-	(4.9)	-	-	輪組み成形	-	-	-	-	-	-	-	

第3表 2区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図 番号	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考	
									A	B	C	D									
415	70	31	2	B1	SK49	磁器	碗	—	(7.0)	—	(4.5)	—	口縁1/4~底部小	透明釉	染付(コバルト)	黒色粒	瀬戸・美濃系	近代	—		
416	70	31	2	B1	SK49	磁器	樽手酒環	丸形	(5.9)	—	(2.4)	—	口縁1/5~底部小	透明釉	色絵(青)	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	—		
417	70	31	2	B1	SK49	磁器	皿	—	(17.0)	(2.0)	—	底部1/8	透明釉	染付	—	—	肥前系	—	—		
418	70	31	2	B1	SK49	磁器	香炉か	—	—	(2.8)	—	口縁小	透明釉	染付・色絵(赤・黒)	黒色粒	—	肥前系	—	—		
419	70	31	2	B1	SK49	陶器	福鉢	—	—	(6.1)	—	底部小~底部小	鉄釉	—	赤色粒・白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—		
420	70	31	2	B1	SK49	土器	蓋	土瓶蓋	(11.4)	(9.0)	(3.9)	口縁1/4~底部1/4	黒口輪糸切	黒口輪糸切	白色粒・黒色粒	—	肥前系	—	—		
421	71	31	2	B1	SK50	瓦	棧瓦	—	(21.3)	(17.4)	1.8	—	椀~平部1/2	—	—	白色粒	—	—	—		
422	71	31	2	B1	SK50	瓦	棧瓦	—	25.4	(14.3)	1.5	—	椀作リ・型当り	—	—	白色粒	—	—	—		
423	71	31	2	B1	SK50	瓦	目板瓦	—	25.1	20.6	1.6	—	椀作リ・型当り	—	—	白色粒	—	—	—		
424	71	31	2	B1	SK51	磁器	中碗	丸碗	(11.2)	—	(4.6)	—	口縁1/6~底部	透明釉	体部コンニャク印判	黒色粒	肥前系	17C後葉~18C前半 (1680~1740年代)	2次焼熱により釉が溶けている		
425	71	31	2	B1	SK51	磁器	小碗	丸碗	(8.7)	3.1	4.6	—	口縁1/2~底部1/2	透明釉	染付・体部コンニャク印判	黒色粒	肥前系	17C末~18C前半 (1680~1740年代)	2次焼熱により釉が溶けている		
426	71	31	2	B1	SK51	磁器	小碗	丸碗	(7.8)	(3.6)	4.7	—	口縁小~底部小	透明釉	染付・体部コンニャク印判	黒色粒	肥前系	17C末~18C前半 (1680~1740年代)	2次焼熱により釉が溶けている		
427	71	31	2	B1	SK51	磁器	小皿	丸形	(10.1)	(3.4)	3.8	—	口縁1/8~底部1/3	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	—	
428	71	31	2	B1	SK51	磁器	小皿	丸形	(12.0)	—	(2.6)	—	口縁1/6	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	—	
429	71	31	2	B1	SK51	磁器	小皿	変形	(2.0)	(3.6)	3.5	—	口縁小~底部1/3	透明釉	染付・縁綳	黒色粒	肥前系	—	—	—	
430	71	31	2	B1	SK51	磁器	香炉	—	(8.4)	—	(2.5)	—	口縁1/8~底部	青磁釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	
431	71	31	2	B1	SK51	磁器	髪油壺	—	(1.8)	—	(1.7)	—	口縁1/2~底部小	透明釉	染付	—	—	肥前系	—	—	—
432	71	31	2	B1	SK51	陶器	大碗	丸碗	(12.0)	—	(6.2)	—	口縁1/4~底部	灰釉	—	白色粒・黒色粒	肥前系	—	—	—	
433	71	31	2	B1	SK51	陶器	呉器手碗	—	—	4.8	(4.1)	—	底部小~底部	灰釉	—	—	肥前系	—	—	—	
434	71	31	2	B1	SK51	陶器	中碗	平碗	(11.8)	(4.4)	4.4	—	口縁1/2~底部3/4	灰釉	高台内に刻印あり	—	肥前系	17C後半~18C前半	やや破熱を受けている		
435	71	31	2	B1	SK51	陶器	小碗	平碗	(10.2)	4.8	4.1	—	口縁1/4~底部	長石釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	
436	72	31	2	B1	SK51	陶器	中皿	折縁形	(17.4)	5.6	4.2	—	口縁1/2~底部	緑釉	—	—	肥前系	—	—	—	
437	72	31	2	B1	SK51	陶器	中皿	—	—	5.6	(3.1)	—	底部~底部2/3	緑釉	—	—	肥前系	—	—	—	
438	72	31	2	B1	SK51	陶器	小皿	丸形	(12.4)	3.8	2.8	—	口縁小~底部	灰釉	—	白色粒・黒色粒	肥前系	—	—	—	
439	72	31	2	B1	SK51	陶器	小皿	丸形	(11.6)	(4.4)	3.4	—	口縁1/3~底部1/2	灰釉	—	赤色粒・白色粒・黒色粒	肥前系	—	—	—	
440	72	31	2	B1	SK51	陶器	小皿	丸形	(11.2)	(4.0)	3.2	—	口縁1/3~底部1/3	灰釉	—	赤色粒	肥前系	—	—	—	
441	72	31	2	B1	SK51	陶器	小皿	丸形	(11.8)	(6.6)	3.1	—	口縁1/2~底部1/3	灰釉	鉄絵	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	18C前半代か	—	—	
442	72	31	2	B1	SK51	陶器	小皿	端反形	(11.0)	(7.0)	2.2	—	口縁小~底部1/4	長石釉	—	—	瀬戸・美濃系	—	—	—	
443	72	31	2	B1	SK51	陶器	小皿	菊花形	(11.6)	(7.0)	2.7	—	口縁小~底部1/4	黒口輪打ち成形長石釉	—	—	瀬戸・美濃系	—	—	—	
444	72	31	2	B1	SK51	陶器	皿	変形 (木製形)	(11.0)	(7.1)	(3.9)	—	口縁小~底部小	灰釉	—	—	瀬戸・美濃系	—	—	—	
445	72	31	2	B1	SK51	陶器	鉢	—	—	(11.6)	(4.8)	—	底部小~底部1/6	鉄釉・緑釉・透明釉	刷毛目	赤色粒・白色粒	肥前系	17C末~18C中葉 (1690~1750年代)	2次焼熱により釉が溶けている		
446	72	31	2	B1	SK51	陶器	火入	半筒形	(14.6)	(11.0)	9.0	—	口縁1/8~底部1/4	鉄釉	—	白色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	
447	72	31	2	B1	SK51	陶器	火入	半筒形	(10.8)	—	(5.4)	—	口縁1/6~底部小	灰釉	—	白色粒・黒色粒	肥前系	—	—	—	
448	72	31	2	B1	SK51	陶器	火入	半筒形	(8.0)	—	(5.1)	—	口縁1/5~底部	灰釉	—	—	肥前系	—	—	—	
449	72	32	2	B1	SK51	陶器	蓋	双耳蓋	(13.0)	—	(3.0)	—	口縁1/6	鉄釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	
450	72	32	2	B1	SK51	陶器	仏花瓶	瓶子丸耳形	(7.7)	—	(8.5)	—	口縁3/4~底部	鉄釉・灰釉	—	—	瀬戸・美濃系	—	—	—	
451	72	32	2	B1	SK51	土器	カワラケ	無高台平形	(9.0)	(6.0)	2.1	—	口縁1/2~底部1/2	—	—	白色粒・黒色粒・金色塵母	肥前系	—	—	—	
452	72	32	2	B1	SK51	土器	カワラケ	無高台平形	(8.8)	(6.0)	2.3	—	口縁1/3~底部1/3	—	—	赤色粒・白色粒・黒色粒	肥前系	—	—	—	
453	73	32	2	B1	SK51	土器	カワラケ	無高台平形	(5.1)	(4.0)	1.0	—	口縁1/4~底部1/4	—	—	白色粒・金色塵母・黒色塵母・ 長石・石英	肥前系	—	—	—	

第3表 2区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考	
									A	B	C	D									
454	73	32	2	B1	SK51	土器	カワラケ	無高台平形	4.9	4.1	2.0	-	ほぼ完形	-	-	-	-	-	-	-	
455	73	32	2	B1	SK51	土器	焙烙	有耳	(31.5)	27.9	5.8	-	口縁1/2~体部	-	-	白色粒・黒色粒	-	-	-	-	
459	73	32	2	B1	SP63	土器	カワラケ	無高台平形	(7.5)	(6.0)	1.1	-	口縁1/5~底部	-	-	赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	-	-	-	内外面に磨付着	
460	73	32	2	B1	SP63	土器	焙烙	-	-	(26.6)	(5.6)	-	口縁小~底部小	-	-	白色粒・雲母	-	-	-	-	
461	73	32	2	B1	遺構外	磁器	中碗	端反碗	(10.8)	(5.0)	6.1	-	口縁1/3~底部小	染付	染付	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	-	焼継あり	
462	73	32	2	B1	遺構外	磁器	小碗	筒形碗	(7.0)	-	(4.9)	-	口縁1/4~体部1/4	染付	染付	黒色粒	肥前系	18C中葉~19C初頭 (1740~1810年代)	-	-	
463	73	32	2	B1	遺構外	磁器	小碗	筒形碗	(7.0)	-	(3.9)	-	口縁1/4	染付	染付	黒色粒	肥前系	18C中葉~19C初頭 (1740~1810年代)	-	-	
464	73	32	2	B1	遺構外	磁器	紅血	梅花形	(2.2)	-	0.9	-	口縁1/2~体部	透明釉	透明釉	黒色粒	肥前系	18C	-	-	
465	73	32	2	B1	遺構外	磁器	小皿	丸形	(12.8)	(7.6)	3.9	-	口縁1/3~底部1/2	透明釉	透明釉	黒色粒	肥前系	18C	-	-	
466	73	32	2	B1	遺構外	陶器	碗	端反碗	(9.0)	-	(3.9)	-	口縁1/6~体部	灰釉・呉須釉	染付	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C前葉~中葉	-	-	厚右衛門窯出土資料と同型か
467	73	32	2	B1	遺構外	陶器	灯明受皿	平底	(11.6)	(4.6)	2.3	(8.0)	口縁1/3~底部小	灰釉	-	黒色粒	京・信濃系	-	-	-	開口部半月形
468	73	32	2	B1	遺構外	陶器	播鉢	口縁外滑三段	(29.4)	-	(7.0)	-	口縁1/8~体部	鉄釉	-	赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	肥前系	-	-	-	-
469	73	32	2	B1	遺構外	土器	カワラケ	無高台平形	(8.0)	(5.1)	1.9	-	口縁1/4~底部1/2	-	-	赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	肥前系	-	-	-	-
470	73	32	2	B1	遺構外	土器	カワラケ	無高台平形	(5.2)	(4.0)	1.3	-	口縁1/3~底部1/3	-	-	赤色粒・白色粒・金色雲母・黒色雲母・長石・石英	肥前系	-	-	-	-
471	73	32	2	B1	遺構外	土器	榎木鉢	-	-	9.9	(5.1)	-	体部~底部1/2	-	-	赤色粒・白色粒・金色雲母	肥前系	-	-	-	-
472	73	32	2	B1	遺構外	土製品	土鈴	人物	2.4	1.9	(1.7)	-	後部欠損	-	-	赤色粒・白色粒・金色雲母	肥前系	-	-	-	-
479	73	32	2	B1	遺構外	ガラス 製品	おほじき (石鏡)	-	3.4	3.2	0.7	-	完形	-	彫刻(木眼図)	-	-	-	近代	-	気泡あり
480	74	32	2	B2	SK54	陶器	碗	-	(5.4)	(1.5)	-	底部1/2	灰釉	-	-	黒色粒・長石	-	-	-	-	-
481	74	32	2	B2	SK54	陶器	瓶か	-	(8.0)	(3.3)	-	体部~底部1/4	鉄釉	-	-	赤色粒・黒色粒・雲母・長石	-	-	-	-	-
482	74	32	2	B2	SK54	土器	焙烙	-	-	(5.6)	-	口縁小	-	-	赤色粒・黒色粒・雲母・長石	-	-	-	-	-	
483	74	32	2	B2	SK58	土器	カワラケ	-	(9.0)	-	(1.8)	-	口縁1/6	-	-	赤色粒・黒色粒・雲母・長石	-	-	-	-	-
484	74	32	2	B2	SK59	陶器	皿か	-	-	-	(1.1)	-	底部小	灰釉	彫刻	-	黒色雲母・長石	瀬戸・美濃系か	-	-	-
485	74	32	2	B2	SK59	土器	カワラケ	無高台平形	(10.4)	(6.0)	2.4	-	口縁小~底部1/4	-	-	赤色粒・白色粒・金色雲母・長石・石英	-	-	-	-	-
486	74	32	2	B2	遺構外	磁器	小碗	端反碗	(9.4)	(3.2)	4.6	-	口縁1/3~底部1/3	透明釉	色絵(赤・青・黒・白)	黒色粒	肥前系か	19C	-	-	-
487	74	32	2	B2	遺構外	磁器	紅血	梅花形	(4.1)	(1.2)	1.3	-	口縁1/4~底部1/2	透明釉	-	黒色粒	肥前系	-	-	-	-
488	74	32	2	B2	遺構外	磁器	皿	-	(6.8)	(2.2)	-	底部3/4	透明釉	染付	-	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	-	-	蛇の目凹形高台
489	74	32	2	B2	遺構外	磁器	皿	-	(11.0)	(1.6)	-	底部1/2	透明釉	脚板転写	-	黒色粒	-	近代	-	-	高台部砂付着
490	74	32	2	B2	遺構外	磁器	蓋	蓋物蓋	-	12.5	10.8	2.2	受部1/4欠損	透明釉	脚板転写	黒色粒	-	近代	-	-	-
491	74	32	2	B2	遺構外	磁器製 集緒器	集緒器	-	1.9	1.9	0.2	-	ほぼ完形	透明釉	-	黒色粒	-	近代	-	-	-
492	74	32	2	B2	遺構外	陶器	蓋物か	-	(9.0)	-	(3.0)	-	口縁1/6~体部	鉄釉	-	-	-	-	-	-	-
493	74	32	2	B2	遺構外	陶器	火鉢	-	(27.0)	(21.4)	-	体部~底部1/2	粗積み口縁鉄釉	-	-	白色粒・黒色粒	-	-	-	-	-
494	74	33	2	B2	遺構外	土器	カワラケ	無高台平形	10.0	5.8	2.5	-	口縁1/3~底部	-	-	白色粒・金色雲母・長石・石英	-	-	-	-	-
495	74	33	2	B2	遺構外	土器	焙烙	-	-	-	(5.2)	-	口縁小~体部小	-	-	赤色粒・白色粒・黒色雲母・雲母	-	-	-	-	-
496	74	33	2	B2	遺構外	土製品	人形	人物	1.9	(1.9)	0.9	-	頭部~体部1/2	-	-	赤色粒・黒色粒・雲母	-	-	-	-	-
497	75	33	2	B2	遺構外	土製品	人形	動物(水鳥)	3.6	(5.4)	1.2	-	ほぼ完形	-	表面に彩色の痕跡あり	赤色粒・白色粒・雲母	-	-	-	-	-
498	75	33	2	B2	遺構外	土製品	土製口蓋	-	4.0	4.1	0.7	-	完形	-	-	赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	-	-	-	-	阿面に布目あり・磨傷などの変色か
503	75	33	2	C1	SK60	陶器	碗	刷毛目碗	-	4.8	(2.8)	-	底部~体部小	透明釉	刷毛目	白色粒	肥前系	17C中葉~18C前葉	-	-	-

第3表 2区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図 写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法重 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考		
								A	B	C	D										
504	75 33	2	C1	SK60	陶器	碗	丸碗	8.2	—	(4.3)	—	口縁1/8~体部	ロクロ成形	灰釉	—	黒色粒	—	—	—		
505	75 33	2	C1	SK60	陶器	碗	丸碗	(7.8)	—	(2.7)	—	口縁~体部小	ロクロ成形	灰釉	—	—	—	—			
506	75 33	2	C1	SK60	陶器	碗	丸碗	(7.4)	—	(3.3)	—	口縁1/4~体部	ロクロ成形	灰釉・ウノノ釉	—	白色	瀬戸・美濃系	—	—		
507	75 33	2	C1	SK60	陶器	碗	丸碗	(7.2)	—	(2.9)	—	口縁1/4~体部	ロクロ成形	灰釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—		
508	75 33	2	C1	SK60	陶器	碗	—	—	(4.8)	(1.3)	—	底部小	ロクロ成形	鉄釉	—	白色粒・黒色粒・長石	瀬戸・美濃系か	—	—		
509	75 33	2	C1	SK60	陶器	香炉	有足半筒形	(11.8)	(9.3)	6.6	—	口縁1/6~底部1/4	ロクロ成形	緑釉	—	白色粒	瀬戸・美濃系か	18C頃か	見込みに目跡2ヶ所あり・口縁に敲打痕多数あり・灰濁しとして使用したか		
510	75 33	2	C1	SK60	陶器	瓶か	—	—	(7.0)	(4.6)	—	体部~底部1/5	ロクロ成形	鉄釉	—	赤色粒・黒色粒	—	—	—		
511	75 33	2	C1	SK60	土器	カワラケ	無高台平形	(10.4)	(8.4)	1.9	—	口縁1/6~底部小	ロクロ成形	—	—	赤色粒・白色粒・金色雲母・黒色雲母	—	—	—		
512	75 33	2	C1	SK60	土器	カワラケ	無高台平形	(10.0)	(8.0)	2.3	—	口縁1/5~底部1/4	ロクロ成形・底 部回転糸切	—	—	白色粒・黒色粒・長石	—	—	内面に線付着		
513	75 33	2	C1	SK60	土器	カワラケ	無高台平形	(9.2)	(6.8)	(2.2)	—	口縁1/4~底部1/4	ロクロ成形	—	—	白色粒・黒色粒・金色雲母・黒色雲母	—	—	内面に線付着		
514	75 33	2	C1	SK60	土器	カワラケ	無高台平形	(9.1)	(7.0)	1.8	—	口縁1/6~底部1/6	ロクロ成形・底 部回転糸切	—	—	赤色粒・白色粒・金色雲母・長石・石英	—	—	—		
515	75 33	2	C1	SK60	土器	焙烙	—	(31.0)	—	6.1	—	口縁小~底部小	細積みロクロ成形	—	—	赤色粒・白色粒・金色雲母・黒色雲母	—	—	—		
516	75 33	2	C1	SK60	土器	土甎材	—	14.5	10.2	3.5	—	—	—	—	金色雲母・長石・石英	—	—	—	—		
517	76 33	2	C1	遺構外	陶器	碗	広東碗	—	(5.6)	(3.6)	—	体部~底部1/6	ロクロ成形	透明釉	染付・見込み手描き五弁花	白色粒	瀬戸・美濃系	19C	陶胎染付		
518	76 33	2	C1	遺構外	陶器	碗	端反碗	(9.0)	—	(3.5)	—	口縁小~体部	ロクロ成形	灰釉	—	黒色粒	京・信濃系	18C中葉~19C中葉頃か	—		
519	76 33	2	C1	遺構外	陶器	碗	呉器手碗	—	4.6	(2.4)	—	底部3/4	ロクロ成形	透明釉	—	—	肥前系	17C中葉~18C中葉 (1650~1750年代)	—	—	
521	76 33	2	C1	遺構外	ガラス 製品	瓶	—	2.0	2.4	4.6	—	球形	形吹き成形	—	—	—	—	—	気泡あり		
522	76 33	2	C2	SK61	磁器	中碗	丸碗	(10.8)	4.1	5.5	—	口縁1/5~底部3/4	ロクロ成形	透明釉	染付・高台内「崩れ大明年製」	黒色粒	肥前系	18C (1710~1770年代)	—	—	
523	76 33	2	C2	SK61	陶器	碗	半球碗	(10.6)	—	(3.6)	—	口縁1/4~体部	ロクロ成形	灰釉	—	—	—	—	—		
524	76 33	2	C2	SK61	陶器	中碗	腰筒碗	(10.4)	—	(4.7)	—	口縁1/8~体部	ロクロ成形	鉄釉・灰釉	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	
525	76 33	2	C2	SK61	陶器	鉢か	—	—	(13.4)	(1.9)	—	底部小	ロクロ成形	長石釉	—	赤色粒・白色粒・黒色粒	—	—	—	—	
526	76 33	2	C2	SK61	土器	七輪か	—	(12.2)	(17.2)	(1.7)	—	口縁小	細積みロクロ成形	—	—	—	—	—	—	—	
527	76 33	2	C2	SK61	土器	焙烙	有耳	—	(21.6)	(5.8)	—	体部小~底部小	細積みロクロ成形	—	—	赤色粒・白色粒・黒色雲母・雲母	—	—	—	—	
528	76 33	2	C2	遺構外	磁器	中碗	平碗	(11.0)	(4.0)	4.5	—	口縁3/4~底部1/2	ロクロ成形	青磁釉(外) 透明釉(内)	色絵(緑)・鉄絵・染付・口鏤	—	—	近代	—	—	
529	76 33	2	C2	遺構外	磁器	小碗	丸碗	(7.0)	(3.0)	4.8	—	口縁1/6~底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	焼継・焼継印あり		
530	76 33	2	C2	遺構外	磁器	彈手型坏	丸形駒高台	6.4	2.4	2.8	—	口縁1/2~底部	ロクロ成形	透明釉	染付・色絵(金)	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C中葉 (1820~1860年代)	—	—	
531	76 33	2	C2	遺構外	陶器	榎木鉢	腰縁筒形	(15.2)	—	(3.6)	—	口縁1/5~体部	ロクロ成形	透明釉	鉄絵	—	—	—	—	見込みに目跡1ヶ所あり	
532	76 33	2	C2	遺構外	陶器	壺	—	—	(16.8)	(5.0)	—	底部1/4	ロクロ成形	鉄釉	—	—	—	—	—	—	
533	76 33	2	C2	遺構外	ガラス 製品 (右置)	おぼしき 製品	—	2.7	2.5	0.7	—	ほぼ完形	型押し成形	—	—	—	—	近代	—	—	
536	77 34	2	D	SK100	磁器	中碗	丸碗	—	(6.0)	(3.7)	—	体部小~底部小	ロクロ成形	透明釉	染付	—	—	18C	肥前系	高台砂付着	
537	77 34	2	D	SK100	磁器	中碗	端反碗	(10.6)	—	(4.1)	—	口縁1/4~体部	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系か	19C前葉~中葉 (1810~1860年代)	—	—	焼継あり
538	77 34	2	D	SK100	磁器	中碗	端反碗	9.6	4.0	5.0	—	ほぼ完形	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	—	—	焼継・焼継印あり
539	77 34	2	D	SK100	磁器	中碗	端反碗	(9.4)	(4.0)	5.2	—	口縁1/4~底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	—	—	19C	肥前系	—	—
540	77 34	2	D	SK100	磁器	小碗	丸碗	(8.1)	2.8	3.9	—	口縁小~底部	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C前葉~中葉 (1700~1750年代)	—	—	—
541	77 34	2	D	SK100	磁器	小碗	筒形碗	(6.8)	—	(4.5)	—	口縁1/5~体部	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C中葉~19C初頭 (1740~1910年代)	—	—	—
542	77 34	2	D	SK100	磁器	小碗	端反碗	(9.4)	3.8	4.5	—	口縁3/4~底部	ロクロ成形	透明釉	染付	—	—	19C	肥前系	—	—
543	77 34	2	D	SK100	磁器	小碗	筒丸碗	7.2	3.8	6.2	—	ほぼ完形	ロクロ成形	透明釉	染付・釘描き	黒色粒	瀬戸・美濃系	18C中葉	—	—	—
544	77 34	2	D	SK100	磁器	中皿	丸形	14.0	8.8	3.5	—	ほぼ完形	ロクロ成形	透明釉	染付	—	—	18C2/4~18C3/4頃か	—	—	疵の目凹形高台・焼継・焼継印あり・内面に付着物あり

第3表 2区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図 図版	写真 工区	地点	遺構	種別	器種	形状	質量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考		
								A	B	C	D										
545	77	34	2	D	SK100	磁器	碗蓋	碗蓋	(10.0)	5.6	2.7	-	柄部~受部 3/4	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C 後葉~19C 中葉 (1780~1860年代)	内面に付着物あり	
546	77	34	2	D	SK100	磁器	碗蓋	碗蓋	(9.6)	(4.0)	3.0	-	柄部 1/2~受部 1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	19C	-	
547	77	34	2	D	SK100	磁器	碗蓋	碗蓋	9.3	4.0	3.1	-	縁部 1/2~受部 1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	19C	-	
548	77	34	2	D	SK100	陶器	土瓶蓋	土瓶蓋	9.0	3.5	6.1	-	口縁 1/2~底部	ロクロ成形	灰釉	-	黒色粒	京・美濃系	18C3/4 ~ 4/4	-	開口部より字形・内面に付着物あり
549	77	34	2	D	SK100	陶器	土瓶蓋	土瓶蓋	10.1	4.4	2.0	7.2	口縁 3/4~底部	ロクロ成形	灰釉	-	黒色粒	瀬戸・美濃系	19 C 2/4 頃か	-	見込み目跡 3ヶ所あり
550	78	34	2	D	SK100	陶器	片口か	丸形	18.2	10.7	11.7	-	口縁 1/2~底部	ロクロ成形	灰釉	-	黒色粒	瀬戸・美濃系	-	-	-
551	78	34	2	D	SK100	陶器	挿鉢	挿鉢	-	-	(5.0)	-	口縁小	細輪みロクロ成形	-	-	黒色粒	肥前系	-	-	-
552	78	34	2	D	SK100	陶器	挿鉢	挿鉢	-	-	(2.0)	-	底部	ロクロ成形	灰釉	-	黒色粒	肥前系	-	-	-
553	78	34	2	D	SK100	陶器	土瓶	土瓶	(7.2)	7.7	(11.5)	-	口縁 1/4~底部	ロクロ成形	鉄釉	-	黒色粒	肥前系	-	-	体部下下に染付着
554	78	34	2	D	SK100	陶器	土瓶か	丸形	(8.0)	(6.0)	8.5	-	口縁 1/4~底部 1/4	ロクロ成形	鉄釉	-	黒色粒	肥前系	-	-	-
555	78	34	2	D	SK100	陶器	行平	行平	(16.4)	-	(7.9)	-	口縁 1/4~底部	ロクロ成形	鉄釉	-	黒色粒	肥前系	-	-	-
556	78	34	2	D	SK100	陶器	土瓶蓋	土瓶蓋	(6.1)	(3.8)	2.1	(8.0)	口縁 1/4~底部 1/2	ロクロ成形	鉄釉	-	白色粒・黒色粒	肥前系	-	-	-
557	78	34	2	D	SK100	陶器	土瓶蓋	土瓶蓋	4.7	2.5	2.0	7.5	先形	ロクロ成形	鉄釉	-	黒色粒	京・信濃系	-	-	-
558	78	34	2	D	S524	陶器	灯明受皿	灯明受皿	(11.0)	-	(1.8)	(3.6)	口縁 1/4~底部	ロクロ成形	灰釉	-	黒色粒	肥前系	-	-	蛇の目凹形高台
559	78	34	2	D	S82	磁器	香炉	香炉	-	(8.0)	(1.1)	-	底部 1/4	ロクロ成形	青磁釉	-	赤色粒・白色粒	肥前系	-	-	椀・丸み・小丸瓦当文様：三つ巴文左 巻き
560	78	34	2	D	S82	瓦	軒瓦	軒瓦	(6.9)	(8.8)	2.0	-	椀部瓦当小	板作り・型当て・ 型押し成形	-	-	赤色粒・白色粒	肥前系	-	-	蛇の目凹形高台
561	79	34	2	D	遺構外	磁器	中碗	中碗	-	4.0	(4.1)	-	体部小~底部 3/4	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	19C2/4 ~ 19C3/4 (1820~1860年代)	焼継あり・年木台 3 号窯出土資料と同じ 型か	
562	79	34	2	D	遺構外	磁器	小碗	筒形碗	(7.0)	(3.8)	4.9	-	口縁 1/4~底部 1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C 中葉~19C 初頭 (1840~1910年代)	-	
563	79	34	2	D	遺構外	磁器	小杯	木盃形	8.4	3.4	3.3	-	口縁 1/2~底部	ロクロ成形	透明釉	色絵(金)・吹墨	黒色粒	肥前系	近代	-	蛇の目凹形高台・焼継印あり
564	79	34	2	D	遺構外	磁器	皿	皿	-	(8.6)	(1.2)	-	底部	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	-	-	-
565	79	34	2	D	遺構外	磁器	蓋物	半筒形	(12.4)	-	(5.5)	-	口縁 1/5~底部	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	-	-	-
566	79	34	2	D	遺構外	陶器	中碗	せん心	(9.8)	-	(3.2)	-	口縁 1/8~底部	ロクロ成形	灰釉	-	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	18C3/4 頃か	-	内面に赤色の付着物あり
567	79	34	2	D	遺構外	陶器	椀木鉢	椀木鉢	-	(21.0)	(13.5)	-	体部小~底部小	ロクロ成形	鉄釉	彫刻	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	-	勇右衛門窯出土資料と同じ型か
568	79	34	2	D	遺構外	陶器	椀か	椀か	-	(19.2)	(4.3)	-	体部~底部 1/6	ロクロ成形	鉄釉	-	白色粒・黒色粒	肥前系	-	-	見込み目跡 1ヶ所あり
569	79	34	2	D	遺構外	土器	焙烙か	焙烙形	(32.2)	(30.0)	5.1	-	口縁 1/8~底部 1/8	細輪みロクロ成形	-	-	赤色粒・黒色粒・金色塵母・ 長石・石英	肥前系	-	-	体部外面から口縁にかけて爆付着
570	79	34	2	D	遺構外	瓦	軒瓦	軒瓦	(8.5)	(21.6)	1.8	-	平部瓦当小	板作り・型当て・ 型押し成形	-	-	白色粒・黒色粒	肥前系	-	-	瓦当文様：くびれのある唐草 2 対反転・ 中心飾り：点珠 7・逆流状 3
571	79	34	2	D	遺構外	土製品	三子ユ ア土器	三子ユ ア土器	3.0	(1.4)	1.5	-	口縁 3/4~底部 1/2	型押し成形	緑釉	-	長石	肥前系	-	-	施釉土器
579	80	35	2	E	SK66	磁器	小皿	丸形	(13.2)	(7.0)	3.5	-	口縁 1/3~底部 1/2	ロクロ成形	透明	染付	黒色粒	肥前系	-	-	高台に砂付着
580	80	35	2	E	SK66	陶器	蓋物	台付たみころ形	4.7	4.3	4.5	1.1	先形	ロクロ成形・底 部回転糸切	鉄釉	-	白色粒・黒色粒	肥前系	-	-	底部輪孔あり・溝状文立
581	80	35	2	E	SK69	陶器	中碗	丸碗	(11.0)	(5.5)	7.4	-	口縁 1/6~底部 2/3	ロクロ成形	鉄釉・ウノフ釉	-	黒色粒	瀬戸・美濃系	18C 前半	-	尾呂茶碗
582	80	35	2	E	SK72	磁器	小皿	丸形	(9.9)	(5.4)	2.1	-	口縁小~底部 1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	-	-	-
583	80	35	2	E	SK72	陶器	中碗	せん心	(9.2)	-	(4.5)	-	口縁 1/8~底部	ロクロ成形	灰釉	-	黒色粒	瀬戸・美濃系	18C3/4 ~ 18C4/4	-	-
584	80	35	2	E	SK72	陶器	皿	皿	(20.0)	-	(2.5)	-	口縁小~底部	ロクロ成形	灰釉	-	白色粒・黒色粒・長石	瀬戸・美濃系	-	-	-
585	80	35	2	E	SK72	陶器	皿	端反形	(11.4)	(5.0)	2.9	-	口縁 1/8~底部 1/8	ロクロ成形	灰釉	-	白色粒	肥前系	-	-	蛇の目状輪孔ざ
586	80	35	2	E	SK72	陶器	灯明皿	クリ底	(10.0)	(4.8)	2.1	-	口縁 1/2~底部 1/2	ロクロ成形	鉄釉	-	白色粒	肥前系	-	-	内面に染付着
587	80	35	2	E	SK72	陶器	灯明受皿	平底	(10.8)	6.2	1.7	8.4	口縁 1/2~底部 3/4	ロクロ成形	鉄釉	-	白色粒	瀬戸・美濃系	-	-	開口部凹字形
588	80	35	2	E	SK72	陶器	挿鉢	口縁外帯三段	(33.0)	-	(10.3)	-	口縁小~底部小	細輪みロクロ成形	-	-	白色粒・黒色粒・金色塵母	肥前系	-	-	-
589	80	35	2	E	SK72	土器	カワラケ	無高台平形	(9.3)	(6.4)	1.8	-	口縁 1/6~底部 1/3	ロクロ成形・底 部回転糸切	-	-	赤色粒・白色粒・金色塵母	肥前系	-	-	-
590	80	35	2	E	SK72	土器	カワラケ	無高台平形	7.2	5.0	1.8	-	口縁 3/4~底部	ロクロ成形・底 部回転糸切	-	-	赤色粒・白色粒・金色塵母・ 黒色塵母	肥前系	-	-	-
591	80	35	2	E	SK72	土器	カワラケ	無高台平形	(7.1)	(5.4)	1.4	-	口縁 1/4~底部 1/2	ロクロ成形・底 部回転糸切	-	-	赤色粒・白色粒・金色塵母	肥前系	-	-	-
592	80	35	2	E	SK72	土器	カワラケ	無高台平形	5.4	4.1	1.3	-	先形	ロクロ成形・底 部回転糸切	-	-	白色粒・黒色粒・金色塵母・ 長石	肥前系	-	-	-

第3表 2区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図 番号	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法重 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考	
									A	B	C	D									
593	81	35	2	E	SK72	瓦	棧瓦	—	27.5	(8.6)	1.8	—	平部小	—	—	白色粒・雲母・長石	—	—	—		
602	81	35	2	E	SK78	土器	カワラケ	無高台平形	(9.6)	(6.4)	2.7	—	口縁1/3～底部1/2	—	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・黒色雲母	—	—	—		
604	81	35	2	E	SK81	磁器	中碗	丸碗	(11.0)	—	(3.7)	—	口縁1/6～体部	透明釉	—	黒色粒	肥前系	18C前葉～中葉か (1700～1740年代)	—		
605	81	35	2	E	SK81	磁器	中碗	丸碗	(10.0)	—	(4.8)	—	口縁～体部	透明釉	—	黒色粒	肥前系	18C	—		
606	81	35	2	E	SK81	磁器	小碗	丸碗	(8.0)	—	(3.6)	—	口縁1/3～体部	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—		
607	81	35	2	E	SK81	磁器	碗	小丸碗	—	(4.2)	(2.0)	—	底部1/2	透明釉	—	黒色粒	肥前系	18C中葉～19C初頭 (1740～1810年代)	—		
608	81	35	2	E	SK81	磁器	鉢	楕形	—	(4.0)	(1.6)	—	底部1/2	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	そば猪口か		
609	81	35	2	E	SK81	陶器	中碗	丸碗	(11.0)	—	(5.0)	—	口縁1/2～体部	鉄釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—		
610	81	35	2	E	SK81	陶器	碗	丸碗	(10.6)	—	(2.7)	—	口縁1/6	鉄釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	尾呂茶碗		
611	81	35	2	E	SK81	陶器	小皿	梅花形	(12.4)	6.0	2.8	—	口縁1/2～底部1/2	鉄釉	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—		
612	81	35	2	E	SK81	陶器	灯明皿	平底	(10.8)	—	(1.9)	—	口縁1/6～体部	鉄釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—		
613	81	35	2	E	SK81	陶器	瓶	—	—	(6.0)	(3.7)	—	底部3/4～体部小	鉄釉	—	白色粒・黒色粒・金色雲母・長石	—	—	口縁に鉄付着		
614	81	35	2	E	SK81	土器	カワラケ	無高台平形	(11.2)	(7.0)	3.0	—	口縁1/6～底部1/4	—	—	—	—	—	—	—	
615	81	35	2	E	SK81	土器	焙烙	有耳	(29.6)	(28.0)	7.2	—	口縁1/8～底部小	継積みロクロ成形	—	赤色粒・白色粒・黒色雲母	—	—	—		
616	81	35	2	E	SK81	土器	焙烙	有耳	(27.2)	—	(5.7)	—	口縁1/8～体部	継積みロクロ成形	—	赤色粒・白色粒・金色雲母	—	—	—		
617	82	35	2	E	SK82	土器	火鉢か	—	—	(4.6)	—	—	底部小～肩部	ロクロ成形	—	赤色粒・白色粒	—	—	—	—	
618	82	35	2	E	SK84	陶器	碗	兵器手碗	—	(5.3)	(3.3)	—	体部小～底部1/2	灰釉	—	黒色粒	肥前系	17C中葉～18C後葉 (1650～1780年代)	—		
620	82	35	2	E	SK86	磁器	小坏か	—	—	3.2	(1.8)	—	底部3/4	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—		
621	82	35	2	E	SK86	陶器	中碗	腰筒碗	(11.0)	—	(4.7)	—	口縁1/8～体部	鉄釉・灰釉	—	—	瀬戸・美濃系	—	—		
622	82	35	2	E	SK86	陶器	碗	兵器手碗	—	(4.8)	(2.4)	—	高台部1/2	灰釉	—	—	—	—	—		
623	82	35	2	E	SK86	陶器	皿か	—	—	(9.0)	(2.5)	—	体部～底部1/6	灰釉	—	—	—	—	—		
624	82	36	2	E	SK87	磁器	小碗	丸碗	(10.0)	—	(3.8)	—	口縁1/6	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—		
625	82	36	2	E	SK87	磁器	中皿	丸形	(13.8)	(8.0)	4.4	—	口縁小～底部1/4	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—		
626	82	36	2	E	SK87	磁器	瓶	楕圓形	—	—	(6.1)	—	体部小	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—		
627	82	36	2	E	SK87	陶器	中碗	半球碗	(9.8)	—	(4.5)	—	口縁1/8～体部小	灰釉	—	黒色粒	京・信濃系か	—	—		
628	82	36	2	E	SK87	陶器	小碗	筒形碗	(6.2)	—	(5.0)	—	口縁小～体部小	灰釉	—	黒色粒	肥前系	—	—		
629	82	36	2	E	SK87	陶器	灯明受皿	平底	(8.1)	4.3	1.7	(6.3)	口縁1/2～底部3/4	鉄釉	—	—	—	—	—	—	
630	82	36	2	E	SK87	陶器	鉢	玉縁形	(13.4)	—	(3.4)	—	口縁小～体部小	灰釉	—	白色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	
631	82	36	2	E	SK87	陶器	搦鉢	口縁折縁形	(31.3)	—	(5.6)	—	口縁小～体部小	鉄釉	—	白色粒	瀬戸・美濃系	18C4/4	—	—	
632	82	36	2	E	SK87	陶器	搦鉢	—	—	(12.0)	(6.3)	—	体部～底部1/2	鉄釉	—	赤色粒・白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	
633	82	36	2	E	SK87	陶器	鉢か	口縁外折	—	(7.2)	(5.9)	—	体部～底部1/4	灰釉・鉄釉	—	黒色粒	—	—	—	2次焼熱により釉が溶けている	
634	82	36	2	E	SK87	陶器	瓶	—	(4.4)	—	(3.5)	—	口縁1/2～肩部	灰釉	—	白色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	
635	82	36	2	E	SK87	土器	焙烙	—	(28.0)	—	(4.0)	—	口縁小～体部	継積みロクロ成形	—	赤色粒・白色粒・金色雲母・長石・石英	—	—	—	口縁がわずかに外反する	
638	83	36	2	E	SK91	陶器	中碗	丸碗	(12.0)	—	(3.7)	—	口縁1/8～体部	灰釉	—	黒色粒	—	—	—	—	
639	83	36	2	E	SK91	陶器	碗	腰反碗か	(10.0)	—	(3.6)	—	口縁1/8	鉄釉	—	黒色粒	—	—	—	—	
640	83	36	2	E	SK91	陶器	皿か	—	—	(7.2)	(2.2)	—	体部小～底部1/4	灰釉	—	白色粒・黒色粒	—	—	—	—	
641	83	36	2	E	SK91	陶器	鉢か	—	(31.6)	—	(3.8)	—	口縁小	透明釉	—	赤色粒・白色粒・黒色粒	肥前系	17C末～18C中葉 (1690～1750年代)	—	内野山北窯跡出土資料と同型か	
642	83	36	2	E	SK91	陶器	香炉	有三足半筒形	—	7.5	(6.1)	—	体部～底部	灰釉	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	
643	83	36	2	E	SK91	陶器	壺か	—	—	7.3	(8.5)	—	体部小～底部	灰釉	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	
644	83	36	2	E	SK91	土器	焙烙	有耳	28.6	(24.0)	7.4	—	口縁1/4～底部1/4	継積みロクロ成形	—	赤色粒・白色粒	—	—	—	—	
647	83	36	2	E	SK93	磁器	大碗	平底	(15.8)	(5.6)	6.1	—	口縁1/5～底部3/4	透明釉	—	黒色粒	肥前系	19C前葉～中葉 (1820～1860年代)	—	—	うかい茶碗

第3表 2区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図 図版	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
									A	B	C	D								
648	83	36	2	E	SK93	磁器	小坏	端反形	(6.4)	(2.8)	3.2	—	口縁1/8～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	黒色粒	瀬戸・美濃系か	19C		
649	83	36	2	E	SK93	磁器	小皿	丸形	(11.8)	(2.6)	—	—	口縁～底部	ロクロ成形	透明釉	黒色粒	肥前系	17C中葉～18C後葉 (1650～1780年代)		
650	83	36	2	E	SK93	陶器	碗	呉器手腕	—	(4.8)	(2.3)	—	底部1/2	ロクロ成形	灰釉	—	肥前系	—		
651	83	36	2	E	SK93	陶器	小碗	丸碗	(6.0)	(3.3)	—	—	口縁1/5	ロクロ成形	灰釉	—	—	—		
652	83	36	2	E	SK93	土器	カワラケ	無高台平形	(10.7)	(8.0)	1.6	—	口縁1/4～底部1/4	ロクロ成形	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・金 色雲母	—	—		
653	83	36	2	E	SK93	土器	埴炉	—	(32.8)	—	(12.9)	—	口縁1/6～底部	継ぎみロクロ成形	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・雲 母	—	—		
654	84	36	2	E	SK93	土器	焙烙	有耳	(28.6)	(25.4)	6.9	—	口縁小～底部小	継ぎみロクロ成形	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・金 色雲母	—	—		
657	84	36	2	E	SK95	磁器	中碗	丸碗	(11.0)	—	(3.6)	—	口縁1/5～底部	ロクロ成形	透明釉	黒色粒	肥前系	—		
658	84	36	2	E	SK95	磁器	小皿	丸形	(13.2)	(7.4)	3.7	—	口縁1/4～底部1/4	ロクロ成形	透明釉	黒色粒	肥前系	—		
659	84	36	2	E	SK95	陶器	碗か	—	—	3.4	(1.3)	—	底部	ロクロ成形	灰釉	—	—	高台に砂付着		
660	84	36	2	E	SK95	陶器	盥	半脩形	(15.8)	—	(9.6)	—	口縁1/6～底部	ロクロ成形	灰釉	黒色粒	瀬戸・美濃系	—		
661	84	36	2	E	SK95	陶器	土鍋	—	(17.2)	(7.2)	7.8	—	口縁1/8～底部1/2	ロクロ成形	鉄釉	白色粒・黒色粒	—	—		
667	84	36	2	E	S527	磁器	小碗	筒形碗	(7.4)	—	(5.1)	—	口縁1/4～底部	ロクロ成形	透明釉	黒色粒	肥前系	18C中葉～19C初頭 (1740～1810年代)		
668	84	36	2	E	S527	陶器	碗	腰筒碗	(10.0)	—	(3.7)	—	口縁1/4～底部小	ロクロ成形	鉄釉・灰釉	—	瀬戸・美濃系	—		
669	84	36	2	E	S527	土器	焙烙	—	(30.0)	(27.8)	6.1	—	口縁1/8～底部小	継ぎみロクロ成形	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・金 色雲母・長石・石英	—	—		
670	84	36	2	E	S83	磁器	半碗	半碗	—	(3.4)	(3.2)	—	底部小～底部1/4	ロクロ成形	透明釉	黒色粒	肥前系	18C前葉～中葉 (1710～1750年代)		
671	84	36	2	E	S83	磁器	小皿	端反形	(9.0)	—	(1.8)	—	口縁1/4～底部	ロクロ成形	透明釉	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C		
672	84	36	2	E	S83	陶器	小坏	丸形	(6.8)	—	(3.3)	—	口縁1/4～底部	ロクロ成形	灰釉	—	—	—		
673	84	36	2	E	S83	陶器	埋鉢	—	(26.4)	—	(4.3)	—	口縁小	ロクロ成形	灰釉	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—		
674	84	37	2	E	S66	磁器	中碗	丸碗	(12.0)	—	(5.0)	—	口縁1/6～底部	ロクロ成形	埋瑠釉	黒色粒	肥前系	—		
675	84	37	2	E	SD6	磁器	碗	丸碗	—	3.6	2.7	—	底部	ロクロ成形	透明釉	黒色粒	肥前系	18C前葉～中葉 (1700～1750年代)		
676	84	37	2	E	SD6	磁器	小碗	小丸碗	(8.8)	—	(4.5)	—	口縁1/6～底部小	ロクロ成形	青磁釉	黒色粒	肥前系	18C中葉～19C初頭 (1750～1810年代)		
677	84	37	2	E	SD6	磁器	碗	小丸碗	—	(3.4)	(2.6)	—	底部小～底部1/3	ロクロ成形	透明釉	黒色粒	肥前系	18C中葉～19C初頭 (1740～1810年代)		
678	84	37	2	E	SD6	磁器	小碗	丸碗	(7.4)	(3.0)	4.2	—	口縁1/2～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	黒色粒	肥前系	—		
679	85	37	2	E	SD6	磁器	皿	丸皿	(14.8)	8.5	4.2	—	口縁1/4～底部3/4	ロクロ成形	透明釉	黒色粒	肥前系	18C後葉～19C中葉 (1780～1860年代)		
680	85	37	2	E	SD6	磁器	鉢	楕形	—	(6.4)	(3.1)	—	底部～底部1/4	ロクロ成形	透明釉	黒色粒	肥前系	—		
681	85	37	2	E	SD6	磁器	瓶	楕圓形	—	(5.0)	(9.5)	—	底部～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	黒色粒	肥前系	—		
682	85	37	2	E	SD6	陶器	碗か	—	(6.0)	(1.7)	—	底部小～底部	ロクロ成形	灰釉	—	—	—			
683	85	37	2	E	SD6	陶器	碗	腰筒碗か	—	3.5	(1.7)	—	底部	ロクロ成形	鉄釉・ウノフ釉	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—		
684	85	37	2	E	SD6	陶器	灯明受皿	平底	(11.0)	(8.4)	(2.5)	—	口縁1/4～底部	ロクロ成形	鉄釉	黒色粒	瀬戸・美濃系	—		
685	85	37	2	E	SD6	陶器	備鉢	口縁外帯三段	(28.6)	—	(6.2)	—	口縁小～底部小	継ぎみロクロ成形	鉄釉	白色粒・黒色粒・長石	—	—		
686	85	37	2	E	SD6	陶器	備鉢	口縁外帯三段	(26.8)	—	(6.0)	—	口縁小	継ぎみロクロ成形	鉄釉	白色粒・長石	明・明石系	—		
687	85	37	2	E	SD6	陶器	香炉	浅筒形	(9.8)	—	(3.2)	—	口縁1/6～底部小	ロクロ成形	灰釉	黒色粒	—	—		
688	85	37	2	E	SD6	陶器	燗炉	—	—	(12.6)	—	底部～底部1/4	型打ち継ぎみ成形	鉄釉・灰釉	黒色粒・長石	—	—			
689	85	37	2	E	SD6	土器	カワラケ	無高台平形	—	(7.8)	(1.9)	—	底部小～底部小	ロクロ成形	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・金 色雲母	—	—		
691	86	37	2	E	SD7	磁器	蓋	碗蓋	(10.0)	(3.6)	2.7	—	底部小～底部1/8	ロクロ成形	透明釉	黒色粒	肥前系	—		
692	86	37	2	E	SD7	陶器	碗	—	—	(5.0)	(2.5)	—	底部小～底部1/3	ロクロ成形	鉄釉・ウノフ釉	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—		
693	86	37	2	E	SD7	陶器	灯明受皿	平底	(10.7)	(6.0)	2.0	(7.4)	口縁1/6～底部1/5	ロクロ成形	鉄釉	白色粒	瀬戸・美濃系	—		
694	86	37	2	E	SD7	土器	焙烙	有耳	—	—	(5.3)	—	口縁小～内耳	継ぎみロクロ成形	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・雲 母	—	—		
697	86	37	2	E	SD8	磁器	小坏	端反形	(8.0)	—	(3.3)	—	口縁小～底部小	ロクロ成形	透明釉	黒色粒	肥前系か	—		

第3表 2区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	軸葉	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
									A	B	C	D								
698	86	37	2	E	SD8	磁器	皿	丸皿	—	(8.0)	(2.7)	—	底部1/6	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	底の目取軸割ぎ・2次密着により釉が 溶けている
699	86	37	2	E	SD8	陶器	碗	—	—	(4.8)	(2.0)	—	底部～底部1/3	ロクロ成形	灰釉	—	黒色粒	—	—	—
700	86	37	2	E	SD8	陶器	香炉	半筒形	(10.0)	—	(4.1)	—	口縁1/6～底部小	ロクロ成形	灰釉	—	黒色粒	—	—	—
701	86	37	2	E	SD8	陶器	鉢	—	(3.9)	—	(2.8)	—	口縁～底部	ロクロ成形	灰釉	—	黒色粒	—	—	—
704	87	37	2	E	SD9	磁器	碗	筒形碗	(8.0)	—	(5.0)	—	口縁1/2～底部1/3	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C中葉～19C初頭 (1740～1810年代)	—
705	87	37	2	E	SD9	磁器	碗	筒形碗	—	4.0	(1.7)	—	底部	ロクロ成形	透明釉	染付・見込み手描き五弁花	黒色粒	肥前系	18C中葉～19C初頭 (1740～1810年代)	—
706	87	37	2	E	SD9	陶器	碗	丸碗	—	5.2	(3.6)	—	底部小～底部1/2	ロクロ成形	灰釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—
707	87	37	2	E	SD9	陶器	灯明受皿	—	(10.4)	—	(1.6)	(7.8)	口縁1/5～底部	ロクロ成形	鉄釉	—	白色粒	瀬戸・美濃系	—	—
708	87	37	2	E	SD9	陶器	蓋	半筒形	—	—	(4.3)	—	口縁小	ロクロ成形	鉄釉	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—
709	87	37	2	E	SD10	磁器	碗	丸碗	—	3.2	(2.6)	—	底部小～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系分	—	—
710	87	37	2	E	SD10	磁器	碗	小丸碗	—	(3.0)	(3.7)	—	底部小～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C中葉～19C初頭 (1740～1810年代)	—
711	87	37	2	E	SD10	磁器	碗	小丸碗	—	(3.0)	2.7	—	底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C中葉～19C初頭 (1740～1810年代)	—
712	87	37	2	E	SD10	磁器	中碗	筒形碗	(8.4)	—	(5.5)	—	口縁1/3～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C中葉～19C初頭 (1740～1810年代)	—
713	87	37	2	E	SD10	磁器	中碗	筒形碗	(7.4)	(4.0)	6.6	—	口縁1/2～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C中葉～19C初頭 (1740～1810年代)	高台に砂付着
714	87	37	2	E	SD10	磁器	瓶	—	—	7.0	(6.1)	—	底部～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—
715	87	37	2	E	SD10	磁器	蓋	蓋物蓋	(8.8)	(7.6)	(1.6)	—	底部～底部1/4	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—
716	87	37	2	E	SD10	陶器	中碗	小形碗	—	(4.0)	(4.7)	—	底部～底部1/3	ロクロ成形	灰釉	—	黒色粒	—	—	—
717	87	37	2	E	SD10	陶器	皿	変形 (木製形)	—	—	(2.6)	—	底部小～底部	型打ち成形	灰釉	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	細深井・向付
718	87	37	2	E	SD10	陶器	埴鉢分	—	—	(12.8)	(2.6)	—	底部1/4	ロクロ成形	灰釉	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—
719	87	37	2	E	SD10	陶器	瓶	—	2.8	—	(5.8)	—	口縁～頸部	ロクロ成形	鉄釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	新徳利
720	87	37	2	E	SD10	土器	カワラケ	無高台平形	(10.6)	(8.0)	2.0	—	口縁1/8～底部1/4	ロクロ成形・底 部回転糸切	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・金 色雲母・長石	—	—	—	内面に砂付着
721	87	37	2	E	SD10	土器	カワラケ	無高台平形	(10.2)	(8.0)	2.2	—	口縁1/4～底部1/4	ロクロ成形・底 部回転糸切	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・金 色雲母	—	—	—	—
723	87	38	2	E	SD11	磁器	中碗	小丸碗	(10.0)	—	(5.1)	—	口縁1/6～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C中葉～19C初頭 (1740～1810年代)	—
724	87	38	2	E	SD11	磁器	碗	小丸碗	—	(3.8)	(2.1)	—	底部小～底部2/3	ロクロ成形	青磁釉(外) 透明釉(内)	染付	黒色粒	肥前系	18C中葉～19C初頭 (1740～1810年代)	—
725	87	38	2	E	SD11	磁器	碗分	—	—	3.8	(1.5)	—	底部3/4	ロクロ成形	透明釉	染付・見込み手描き五弁花・高台内「二 重角椀内溝槽」	—	—	—	—
726	87	38	2	E	SD11	磁器	碗分	—	—	(4.2)	(2.0)	—	底部	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—
727	87	38	2	E	SD11	磁器	碗分	—	—	2.8	2.3	—	底部	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—
728	87	38	2	E	SD11	磁器	碗	筒形碗	—	—	(4.2)	—	底部	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C中葉～19C初頭 (1740～1810年代)	—
729	87	38	2	E	SD11	磁器	仏磁器	—	(7.0)	—	(2.8)	—	口縁1/3～底部	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—
730	87	38	2	E	SD11	磁器	小皿	丸形	13.4	7.6	3.8	—	口縁2/3～底部3/4	ロクロ成形	透明釉	染付・見込み手描き五弁花・高台内「椀 内」	黒色粒	肥前系	18C後葉～19C初頭	—
731	87	38	2	E	SD11	磁器	鉢	桶形	—	(4.6)	(3.3)	—	底部1/2	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—
732	87	38	2	E	SD11	磁器	瓶	棟形	—	(4.6)	(4.1)	—	底部小～底部1/4	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—
733	87	38	2	E	SD11	陶器	瓶	棟形	—	(6.0)	(6.7)	—	底部～底部1/4	ロクロ成形	灰釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—
734	87	38	2	E	SD11	陶器	碗	—	—	(5.6)	(2.5)	—	底部1/2	ロクロ成形	灰釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—
735	87	38	2	E	SD11	陶器	中碗	天目茶碗	(12.0)	—	(6.7)	—	口縁1/6～底部	ロクロ成形	鉄釉	—	赤色粒・白色粒・長石	瀬戸・美濃系	—	—
736	88	38	2	E	SD11	陶器	片口	丸形	(20.0)	—	(8.8)	(23.5)	口縁5/6～底部	ロクロ成形	灰釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—
737	88	38	2	E	SD11	陶器	片口	丸形	(8.8)	—	(4.1)	—	口縁1/6～底部小	ロクロ成形	灰釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—
738	88	38	2	E	SD11	陶器	罌鉢	—	—	(16.0)	(5.4)	—	底部小～底部1/6	細溝みロクロ成形鉄釉	—	赤色粒・白色粒・細石粒	明石・堺系	—	—	—

第3表 2区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図 番号	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
									A	B	C	D								
779	90	39	2	E	遺構外	磁器	仏飯器	白底輪高台	—	5.4	(5.9)	—	—	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	
780	90	39	2	E	遺構外	磁器	皿	丸形	(13.8)	(8.0)	3.2	—	口縁1/4~底部2/3	透明釉	染付・見込みコンニャク印判五弁花	黒色粒	肥前系	18C	蛇の目状輪割ぎ	
781	91	39	2	E	遺構外	磁器	中皿	丸形	(13.8)	(7.0)	3.8	—	口縁1/3~底部1/4	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	
782	91	39	2	E	遺構外	磁器	中皿	丸形	(13.8)	(7.0)	3.4	—	口縁1/6~底部1/4	透明釉	染付・縁鏝	黒色粒	肥前系	—	口縁を輪花に作る	
783	91	39	2	E	遺構外	磁器	小皿	丸形	(13.2)	(8.0)	3.6	—	口縁1/2~底部1/2	透明釉	染付・見込みコンニャク印判五弁花	黒色粒	肥前系	18C	—	
784	91	39	2	E	遺構外	磁器	小皿	丸形	(10.4)	(6.6)	2.1	—	口縁1/2~底部1/2	透明釉	染付	—	—	19C	—	
785	91	39	2	E	遺構外	磁器	小皿	稜血形	(9.4)	(5.4)	2.3	—	口縁1/4~底部1/2	透明釉	染付・陰刻	—	—	—	—	
786	91	39	2	E	遺構外	磁器	小皿	筒形	(9.2)	(5.1)	2.5	—	口縁1/3~底部3/4	透明釉	染付	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	口縁を輪花に作る・焼継・焼継印あり	
787	91	39	2	E	遺構外	磁器	蓋物	腰張形	(9.8)	—	(4.5)	—	口縁1/5~底部	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	
788	91	39	2	E	遺構外	磁器	段重	腰部括れあり	(11.8)	(6.5)	4.0	—	口縁1/4~底部1/4	透明釉	染付・縁鏝	黒色粒	肥前系	—	—	
789	91	39	2	E	遺構外	磁器	瓶	端反棘直形	2.8	—	(9.6)	—	口縁小~底部小	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	
790	91	39	2	E	遺構外	磁器	瓶	棘直形	1.2	3.8	11.3	—	口縁3/4~底部	透明釉	染付	—	—	—	—	—
791	91	39	2	E	遺構外	磁器	瓶	端反棘直形	(1.2)	2.4	5.7	—	口縁1/4~底部	透明釉	染付	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	
792	91	39	2	E	遺構外	磁器	瓶	端反棘直形	1.6	—	(5.1)	—	口縁3/4~底部	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	
793	91	39	2	E	遺構外	磁器	蓋	碗蓋	9.3	(4.8)	2.9	—	口縁1/2~底部1/3	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	
794	91	39	2	E	遺構外	磁器	蓋	碗蓋	(9.0)	3.4	2.5	—	胴部~受部1/3	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	19C 初頭~中葉 (1810~1860年代)	—	
795	91	39	2	E	遺構外	磁器	蓋	碗蓋	(8.0)	(3.0)	2.5	—	胴部3/4~受部1/4	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	19C 前葉~中葉 (1810~1860年代)	—	
796	91	39	2	E	遺構外	磁器	蓋	碗蓋	9.2	3.4	2.5	—	ほぼ完形	透明釉	染付	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	—	
797	91	39	2	E	遺構外	磁器	蓋	碗蓋	(9.5)	(4.0)	2.9	—	胴部1/5~受部1/4	青磁釉(外) 透明釉(内)	染付	黒色粒	肥前系	18C 中葉~19C 初頭 (1750~1810年代)	—	
798	92	39	2	E	遺構外	磁器	水滴	豆腐形	6.2	8.4	2.4	—	1/2穴貫	透明釉	染付・陰刻	黒色粒	肥前系	—	底面に布目痕あり	
799	92	39	2	E	遺構外	磁器	水滴	豆腐形	6.1	(2.5)	2.6	—	小片	透明釉	染付・陰刻	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	
800	92	39	2	E	遺構外	磁器	水滴	豆腐形	(5.1)	(3.7)	(1.6)	—	小片	透明釉	染付・陰刻	—	瀬戸・美濃系	—	—	
801	92	39	2	E	遺構外	磁器	水滴	豆腐形	5.0	6.8	2.3	—	天面1/2	透明釉	染付・陰刻	黒色粒	肥前系	—	底面に布目痕あり	
802	92	39	2	E	遺構外	磁器	水滴	豆腐形	4.0	(5.5)	1.7	—	1/2穴貫	透明釉	陰刻	黒色粒	肥前系	—	底面に布目痕あり・2次被熱により釉 が溶けている	
803	92	39	2	E	遺構外	磁器	集緒器	—	1.9	1.9	0.5	—	完形	透明釉	—	—	—	近代	—	
804	92	40	2	E	遺構外	陶器	中碗	—	—	5.1	(4.7)	—	胴部~底部	鉄釉	—	—	瀬戸・美濃系	—	—	
805	92	40	2	E	遺構外	陶器	碗	—	—	3.6	(2.9)	—	胴部~底部3/4	灰釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	
806	92	40	2	E	遺構外	陶器	碗	丸碗	(9.8)	—	(4.3)	—	口縁1/5~底部	透明釉	白化粧後に呉須絵を施す	白色粒	瀬戸・美濃系	18C4/4~19C1/4	陶胎染付	
807	92	40	2	E	遺構外	陶器	碗	丸碗	(10.9)	(9.0)	(3.6)	—	口縁1/8~底部	鉄釉	—	—	瀬戸・美濃系	—	—	
808	92	40	2	E	遺構外	陶器	中碗	腰張形碗	(9.2)	(4.6)	6.8	—	口縁1/4~底部1/2	透明釉	呉須絵	—	瀬戸・美濃系	—	陶胎染付	
809	92	40	2	E	遺構外	陶器	中碗	半球碗	—	3.3	(3.0)	—	胴部小~底部	灰釉	—	白色粒・黒色粒	—	—		
810	92	40	2	E	遺構外	陶器	中碗	半球碗	—	3.0	(3.2)	—	胴部小~底部	灰釉	—	—	—	—	—	
811	92	40	2	E	遺構外	陶器	中碗	呉器手碗	(11.6)	(4.9)	7.4	—	口縁1/2~底部	灰釉	—	—	肥前系	—	—	
812	92	40	2	E	遺構外	陶器	碗	呉器手碗	—	5.0	(4.0)	—	胴部小~底部	灰釉	—	—	肥前系	—	—	
813	92	40	2	E	遺構外	陶器	碗	呉器手碗	—	4.6	(3.0)	—	胴部小~底部	灰釉	—	—	肥前系	—	—	
814	92	40	2	E	遺構外	陶器	碗	呉器手碗	—	4.6	(3.0)	—	胴部小~底部	灰釉	—	—	肥前系	—	—	
815	92	40	2	E	遺構外	陶器	中碗	腰張碗	(10.6)	—	(5.2)	—	口縁1/8~底部	灰釉	—	—	瀬戸・美濃系	18C4/4	—	
816	92	40	2	E	遺構外	陶器	中碗	腰張碗	(9.8)	—	(5.1)	—	口縁1/6~底部	灰釉	—	—	瀬戸・美濃系	18C4/4	—	
817	92	40	2	E	遺構外	陶器	碗	刷毛目碗	—	(4.0)	(3.8)	—	胴部~底部1/4	透明釉	外面白泥塗とし・内面刷毛目	—	肥前系	—	—	
818	92	40	2	E	遺構外	陶器	碗	廿九七	(9.0)	—	(3.9)	—	口縁1/8~底部	灰釉	—	—	瀬戸・美濃系	—	—	
819	92	40	2	E	遺構外	陶器	小坏	丸形	(6.2)	3.1	4.0	—	口縁小~底部	灰釉	—	—	瀬戸・美濃系	—	—	
820	92	40	2	E	遺構外	陶器	小坏	丸形	(6.4)	3.2	4.0	—	口縁3/4~底部	灰釉	—	—	瀬戸・美濃系	—	2次被熱により釉が溶けている	
821	92	40	2	E	遺構外	陶器	仏飯器	白底輪高台	—	3.7	(3.9)	—	胴部小~底部	透明釉	染付	黒色粒	—	—	焼成不良の磁器か	

第3表 2区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考								
								A	B	C	D																
822	92	40	2	E	遺構外	陶器	台座取り込み	—	4.0	(2.7)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—							
823	92	40	2	E	遺構外	陶器	無高台平形	(11.2)	(4.8)	1.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	見込みは磨状痕(自跡)あり						
824	92	40	2	E	遺構外	陶器	無高台平形	(10.5)	(5.4)	2.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	見込みは磨状痕(自跡)あり						
825	92	40	2	E	遺構外	陶器	無高台平形	(10.4)	(6.6)	1.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	見込みは磨状痕(自跡)あり・口縁から体部に煤付着						
826	92	40	2	E	遺構外	陶器	無高台平形	(8.5)	(3.6)	2.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	見込みは磨状痕(自跡)あり						
827	92	40	2	E	遺構外	陶器	無高台平形	(7.8)	3.7	1.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	見込みは磨状痕(自跡)あり						
828	92	40	2	E	遺構外	陶器	クリ底平形	(9.7)	4.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	見込みは磨状痕(自跡)あり						
829	92	40	2	E	遺構外	陶器	平底	(9.7)	(4.4)	2.4	7.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	高台に煤付着						
830	92	40	2	E	遺構外	陶器	容器付き	(7.4)	(5.5)	5.6	3.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	口縁下平に磨状痕(自跡)あり						
831	93	40	2	E	遺構外	陶器	腰張形	(15.4)	—	(5.3)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	開口部ノ字形						
832	93	40	2	E	遺構外	陶器	鉢	—	(8.4)	(3.9)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	口縁が外区する						
833	93	40	2	E	遺構外	陶器	鉢	—	(8.2)	(3.9)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						
834	93	40	2	E	遺構外	陶器	鉢	折湾形	(2.5)	3.2	4.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	白化粧後に呉須絵を施す					
835	93	40	2	E	遺構外	陶器	半筒形	—	—	(2.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	口縁に黒色粒					
836	93	40	2	E	遺構外	陶器	合子か	—	—	(2.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—					
837	93	40	2	E	遺構外	陶器	丸形	(15.0)	—	(9.7)	(17.8)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
838	93	40	2	E	遺構外	陶器	丸形	(9.4)	4.8	5.2	(9.5)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	黒色粒			
839	93	40	2	E	遺構外	陶器	片口か	(10.2)	(4.7)	4.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	黒色粒			
840	93	40	2	E	遺構外	陶器	片口か	—	(5.4)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	黒色粒			
841	93	40	2	E	遺構外	陶器	丸形	(28.4)	(11.2)	8.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	黒色粒			
842	93	40	2	E	遺構外	陶器	口縁折線形	(30.0)	—	(7.0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	黒色粒			
843	93	40	2	E	遺構外	陶器	口縁折線形	(27.2)	—	(8.7)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	黒色粒			
844	94	40	2	E	遺構外	陶器	口縁折線形	—	(17.4)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	黒色粒			
845	94	40	2	E	遺構外	陶器	香炉か	—	—	(4.4)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	黒色粒			
846	94	40	2	E	遺構外	陶器	榎木鉢	—	—	(5.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	黒色粒			
847	94	40	2	E	遺構外	陶器	火鉢	円筒形	(21.0)	—	(8.5)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	黒色粒		
848	94	40	2	E	遺構外	陶器	火鉢	瓶掛	(16.5)	—	(11.5)	(18.4)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	白色粒・黒色粒		
849	94	40	2	E	遺構外	陶器	鉢か	—	—	(4.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	白色粒・黒色粒		
850	94	40	2	E	遺構外	陶器	瓶	—	—	(3.7)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	白色粒・黒色粒		
851	94	40	2	E	遺構外	陶器	燗德利	—	—	(16.7)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	黒色粒		
852	94	41	2	E	遺構外	陶器	土鍋	—	(14.6)	—	(5.4)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	黒色粒		
853	94	41	2	E	遺構外	陶器	乗燗	台付たんころ形	—	3.6	(4.2)	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	黒色粒	
854	94	41	2	E	遺構外	陶器	蓋	土瓶蓋	9.0	2.9	2.1	1.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	黒色粒	
855	94	41	2	E	遺構外	土器	カワラケ	無高台平形	(10.0)	(6.0)	2.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	白色粒・金色雲母・霰母	
856	94	41	2	E	遺構外	土器	カワラケ	無高台平形	(5.1)	(3.1)	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	赤色粒・白色粒・金色雲母・黒色雲母・長石・石英	
857	94	41	2	E	遺構外	土器	カワラケ	無高台平形	6.1	4.4	1.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	赤色粒・白色粒・金色雲母	
858	94	41	2	E	遺構外	土器	火鉢か	—	—	(2.8)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	赤色粒・白色粒・金色雲母	
859	94	41	2	E	遺構外	土器	火鉢か	—	—	(7.3)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	赤色粒・白色粒・金色雲母	
860	94	41	2	E	遺構外	土器	焙烙	有耳	—	—	(6.0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	赤色粒・白色粒・黒色雲母	
861	95	41	2	E	遺構外	土器	焙烙	有耳	—	—	(7.7)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	赤色粒・白色粒・黒色雲母	
862	95	41	2	E	遺構外	土器	焙烙	有耳	—	—	(6.7)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	赤色粒・白色粒・黒色雲母	
863	95	41	2	E	遺構外	土器	鍋か	—	(34.4)	(29.8)	7.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	白色粒

第3表 2区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	押図 番号	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
									A	B	C	D								
864	95	41	2	E	遺構外	土器	壺	火消し壺蓋	(20.0)	(14.4)	3.1	—	口縁1/8～受部1/6	—	—	赤色粒・白色粒	—	—	—	
865	95	41	2	E	遺構外	土製品	人形	動物(馬)	(1.8)	2.5	1.7	—	頭部欠損	—	—	—	—	—	表面に黒母をかける	
866	95	41	2	E	遺構外	土製品	人形	人物(大黒天)	3.2	2.3	1.0	—	完形	—	—	—	—	—	—	
867	95	41	2	E	遺構外	土製品	土器	—	1.9	2.0	0.6	—	完形	—	—	—	—	—	—	
868	95	41	2	E	遺構外	土製品	土器	—	2.9	2.7	(2.1)	—	手づくね成形	—	—	—	—	—	—	
869	95	41	2	E	遺構外	土製品	土器	—	(2.5)	(2.6)	(1.6)	—	手づくね成形	—	—	—	—	—	—	
897	96	41	2	E	遺構外	ガラス 製品	瓶	—	1.2	3.8	9.0	—	完形	—	—	—	近代	—	気泡あり	
898	96	41	2	E	遺構外	ガラス 製品	瓶	—	0.8	1.6	4.1	—	ほぼ完形	—	—	—	近代	—	気泡あり	
899	96	41	2	E	遺構外	ガラス 製品	ミニチュ ア容器	—	(2.5)	2.0	1.6	—	口縁1/2～底部	—	—	—	近代	—	気泡あり	
900	96	41	2	E	遺構外	ガラス 製品	おはじき (石製)	—	1.4	1.7	0.5	—	完形	—	—	—	近代	—	気泡あり・表面に成形時の線状痕あり	
901	96	41	2	E	遺構外	ガラス 製品	おはじき (石製)	—	1.7	1.6	0.7	—	完形	—	—	—	近代	—	気泡あり・表面に成形時の線状痕あり	
902	96	41	2	E	遺構外	ガラス 製品	おはじき (石製)	—	2.2	2.3	0.6	—	完形	—	—	—	近代	—	気泡あり・表面に成形時の線状痕あり	
903	96	41	2	E	遺構外	骨角製品	筒状製品	—	2.6	2.7	2.6	—	1/3欠損	—	—	—	近代	—	—	

第4表 2区遺物観察表(木製品)

報告書 番号	押図 番号	写真 図版	工区	地点	遺構	種類	備考	法量 (cm)			備考
								A	B	C	
241	61	26	2	A	SK46	下駄	連樹下駄・構孔後歯前方	(8.9)	(11.8)	(1.4)	—
242	61	26	2	A	SK46	部材か	連樹下駄・構孔後歯前方	26.5	2.1	2.1	—
405	69	30	2	A	遺構外	箸	手摺の底板か	25.2	0.5	0.5	—
406	69	30	2	A	遺構外	敷居か	—	(6.1)	9.6	4.1	—
407	69	30	2	A	遺構外	部材	—	3.8	1.7	1.7	—
637	82	36	2	E	SK87	漆器椀	—	10.4	5.0	3.6	—
645	83	36	2	E	SK91	下駄	—	22.3	8.8	5.3	—
646	83	36	2	E	SK91	下駄	—	(19.9)	9.9	6.3	—
655	84	36	2	E	SK93	樽蓋板	—	11.7	(5.5)	1.1	—
656	84	36	2	E	SK93	箸	—	(13.4)	0.6	0.4	—
904	96	41	2	E	遺構外	下駄	—	22.7	9.4	5.4	—
905	96	41	2	E	遺構外	下駄	—	21.7	(9.1)	4.5	—
906	96	41	2	E	遺構外	下駄	—	21.2	9.1	6.2	—
907	96	41	2	E	遺構外	箸	—	32.9	0.6	0.6	—
908	96	41	2	E	遺構外	箸	—	31.9	0.7	0.7	—

第5表 2区遺物観察表(石製品)

報告書 番号	押図	写真 図版	工区	地点	遺構	種類	法量(cm)				備考
							()復元値・〈 〉残存値	A	B	C	
28	47	21	2	A	SK3	硯	(5.0)	(3.5)	(1.0)		
54	49	22	2	A	SK11	硯	(6.1)	5.0	1.7		
72	50	22	2	A	SK15	石臼	(24.7)	(11.0)	8.4	上白・2分面4, 溝確認・柄穴残存	
79	50	22	2	A	SK17	硯	(8.6)	5.0	0.8	柄背に刻書あり	
179	56	25	2	A	SK20	石臼	(17.1)	(17.7)	11.3	上白・分面判別困難、6溝確認・供給口残存・芯溝受残存か	
250	61	27	2	A	SS2	石臼	(13.7)	(13.0)	(6.1)	上白・2分面6溝確認	
251	62	27	2	A	SS3	石臼	(20.4)	(30.6)	9.7	下白・2分面7溝確認 (全体は6分面か)・芯溝孔残存・底部に溝あり、 縁水を通して固定したか	
265	63	27	2	A	SD1	石臼	(13.9)	(18.4)	(10.9)	下白・3分面3溝確認 (全体は8分面か)・芯溝孔残存・底部に溝あり、 縁水を通して固定したか	
277	64	27	2	A	SU1	小石	2.4	1.9	1.1	276の内容物	
278	64	27	2	A	SU1	粘土塊	1.3	1.1	0.9	276の内容物	
280	64	27	2	A	SU1	火打石	3.3	4.8	1.3	279の内容物	
281	64	27	2	A	SU1	火打石	4.2	3.4	1.0	279の内容物	
283	64	27	2	A	SU1	水晶片	3.3	1.4	1.0	282の内容物	
284	64	27	2	A	SU1	水晶片	2.3	1.5	0.6	282の内容物	
285	64	27	2	A	SU1	水晶片	3.3	1.3	0.5	282の内容物	
286	64	27	2	A	SU1	水晶片	3.1	2.5	0.5	282の内容物	
287	64	27	2	A	SU1	水晶片	2.1	1.5	1.2	282の内容物	
288	64	27	2	A	SU1	水晶片	2.7	2.7	1.0	282の内容物	
289	64	27	2	A	SU1	水晶片	2.3	1.5	1.1	282の内容物	
291	64	27	2	A	SU1	水晶片	4.1	2.7	1.0	290の内容物	
293	64	27	2	A	SU1	水晶片	3.8	1.5	1.4	292の内容物	
294	64	27	2	A	SU1	水晶片	4.0	2.6	1.4	292の内容物	
295	64	27	2	A	SU1	水晶片	2.8	2.4	1.7	292の内容物	
296	64	27	2	A	SU1	水晶片	2.9	2.0	0.4		
297	64	27	2	A	SU1	水晶片	2.5	2.6	0.7		
298	64	27	2	A	SU1	水晶片	2.1	2.1	0.8		
299	64	27	2	A	SU1	水晶片	2.1	1.5	0.5		
400	69	30	2	A	遺構外	石臼	(25.7)	(18.9)	10.7	上白・3分面4溝確認 (全体は8分面4溝か)・供給口残存・ものく ばり残存・芯溝受残存	
401	69	30	2	A	遺構外	礮石形石製品	2.1	2.1	0.5		
402	69	30	2	A	遺構外	礮石形石製品	2.1	2.1	0.9		
403	69	30	2	A	遺構外	礮石形石製品	2.1	2.1	0.6		
404	69	30	2	A	遺構外	礮石形石製品	2.2	1.7	0.7		
502	75	33	2	B2	遺構外	礮石形石製品	2.2	2.2	0.4		
576	79	34	2	D	遺構外	礮石形石製品	2.0	1.9	0.6		
690	86	37	2	E	SD6	石臼	(16.8)	(30.2)	(10.5)	下白・3分面4溝確認 (全体は6分面か)・芯溝孔残存	
696	86	37	2	E	SD7	砥石	12.8	4.6	1.9		
702	86	37	2	E	SD8	石臼	(17.4)	(13.2)	9.0	上白・2分面5溝確認・供給口残存か・付着物あり	
703	86	37	2	E	SD8	硯	(12.2)	(14.5)	(1.5)		
755	89	38	2	E	SD11	石臼	(19.7)	(18.4)	11.1	上白・2分面7溝確認 (全体は8分面8溝か)・供給口残存	
756	89	38	2	E	SD11	砥石	(6.3)	4.0	3.0		
895	96	41	2	E	遺構外	硯	(4.2)	(2.6)	(0.3)	刻書あり	
896	96	41	2	E	遺構外	礮石形石製品	2.1	(1.8)	(0.4)		

第6表 2区遺物観察表(銭貨・金属製品)

報告書 番号	押図	写真 図版	工区	地点	遺構	種類	法量(cm)				備考
							()復元値・〈 〉残存値	A	B	C	
27	47	21	2	A	SK3	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初辨・穿孔あり
55	49	22	2	A	SK12	寛永通宝	2.4	0.5	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初辨
85	51	22	2	A	SK18	一銭か	2.8	—	0.1	—	銅貨・表面摩耗激しく不鮮明
86	51	22	2	A	SK18	煙管	<40>	—	1.0	—	銅皿・羅字残存・真鍮製・敲打痕あり
87	51	22	2	A	SK18	飾り金具	3.3	3.3	0.1	—	銅製
90	51	23	2	A	SK19	寛永通宝	2.8	0.7	0.1	—	背十一波・真鍮製・明和6年(1769)初辨
91	51	23	2	A	SK19	硬貨	2.3	—	0.1	—	銅貨・表面摩耗激しく不鮮明
92	51	23	2	A	SK19	一銭	2.3	—	0.1	—	銅貨・大正9年(1920)発行
162	56	24	2	A	SK20	至和通宝	2.4	0.7	0.1	—	一部欠損・銅銭・北条・至和元年(1054)初辨
163	56	24	2	A	SK20	寛永通宝	2.2	0.6	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初辨
164	56	24	2	A	SK20	寛永通宝	2.5	0.6	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初辨
165	56	24	2	A	SK20	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
166	56	24	2	A	SK20	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨・穿孔あり
167	56	24	2	A	SK20	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
168	56	24	2	A	SK20	寛永通宝	2.3	0.7	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
169	56	24	2	A	SK20	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
170	56	25	2	A	SK20	寛永通宝	2.4	0.7	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
171	56	25	2	A	SK20	寛永通宝	2.3	0.7	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
172	56	25	2	A	SK20	寛永通宝	2.2	0.7	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
173	56	25	2	A	SK20	寛永通宝	2.8	0.7	0.1	—	背十一波・真鍮製・明和6年(1769)初辨
174	56	25	2	A	SK20	寛永通宝	2.8	0.7	0.1	—	背十一波・真鍮製・明和6年(1769)初辨
175	56	25	2	A	SK20	松葉簪	11.7	1.7	0.2	—	真鍮製
176	56	25	2	A	SK20	耳環簪	17.3	1.2	0.3	—	真鍮製
177	56	25	2	A	SK20	頭巻釘	6.1	1.2	0.5	—	鉄製
178	56	25	2	A	SK20	頭巻釘	3.2	0.9	0.3	—	鉄製
209	58	25	2	A	SK26	鉄湯か	(9.0)	(6.7)	(2.3)	—	—
221	59	26	2	A	SK41	寛永通宝	2.4	0.7	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
225	59	26	2	A	SK45	煙管	3.8	0.8	0.4	—	吸口・真鍮製
243	61	26	2	A	SP21	寛永通宝	2.5	0.6	0.1	—	背上「文」・文銭・銅銭・寛文8年(1668)初辨
244	61	26	2	A	SP37	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
263	63	27	2	A	SS12	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初辨
264	63	27	2	A	SS12	寛永通宝	2.8	0.7	0.1	—	背十一波・真鍮製・明和6年(1769)初辨
274	63	27	2	A	SD3	煙管	5.1	(1.8)	0.6	—	吸口・真鍮製
275	63	27	2	A	SD3	平打簪	<11.5>	1.6	0.4	—	真鍮製
357	68	29	2	A	遺構外	元永通宝	2.4	0.6	0.1	—	銅銭・寛書体・北宋・元祐元年(1086)初辨
358	68	29	2	A	遺構外	寛永通宝	2.5	0.6	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初辨
359	68	29	2	A	遺構外	寛永通宝	2.2	0.7	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初辨
360	68	29	2	A	遺構外	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初辨
361	68	29	2	A	遺構外	寛永通宝	2.5	0.6	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初辨
362	68	29	2	A	遺構外	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初辨
363	68	29	2	A	遺構外	寛永通宝	2.5	0.7	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初辨
364	68	29	2	A	遺構外	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初辨
365	68	29	2	A	遺構外	寛永通宝	2.5	0.6	0.1	—	背上「文」・文銭・銅銭・寛文8年(1668)初辨
366	68	30	2	A	遺構外	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	—	背上「元」・新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
367	68	30	2	A	遺構外	寛永通宝	2.5	0.5	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
368	68	30	2	A	遺構外	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
369	68	30	2	A	遺構外	寛永通宝	2.2	0.7	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
370	68	30	2	A	遺構外	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
371	68	30	2	A	遺構外	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
372	68	30	2	A	遺構外	寛永通宝	2.3	0.7	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
373	68	30	2	A	遺構外	寛永通宝	2.2	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
374	68	30	2	A	遺構外	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
375	68	30	2	A	遺構外	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨

第6表 2区遺物觀察表(錢貨・金屬製品)

報告書 番号	押印	写真 図版	工区	地点	遺構	種類	法量 (cm)				備考
							A	B	C	D	
376	68	30	2	A	遺構外	寛永通宝	2.5	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
377	68	30	2	A	遺構外	寛永通宝	2.3	0.7	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
378	68	30	2	A	遺構外	寛永通宝	2.3	0.7	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
379	68	30	2	A	遺構外	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	—	銅銭
380	69	30	2	A	遺構外	寛永通宝	2.2	0.7	0.1	—	銅銭
381	69	30	2	A	遺構外	天保通宝	4.9	0.5	0.3	—	銅銭・天保6年(1835)初辨
382	69	30	2	A	遺構外	文久永宝	2.7	0.7	0.1	—	背十一波・砲臺・銅銭・文久3年(1863)初辨
383	69	30	2	A	遺構外	半銭	2.2	—	0.1	—	銅貨・明治20年(1887)発行
384	69	30	2	A	遺構外	半銭	2.2	—	0.1	—	銅貨・明治20年(1887)発行
385	69	30	2	A	遺構外	一銭	2.3	—	0.1	—	銅貨・大正8年(1919)発行
386	69	30	2	A	遺構外	雁首銭	2.2	0.6	0.3	—	銅製
387	69	30	2	A	遺構外	雁首銭	2.2	0.6	0.1	—	銅製
388	69	30	2	A	遺構外	煙管	1.8	—	<0.8>	—	雁首・銅製
389	69	30	2	A	遺構外	煙管	—	<5.3>	<1.2>	0.7	雁首・銅製
390	69	30	2	A	遺構外	煙管	1.6	—	<1.0>	—	雁首・銅製
391	69	30	2	A	遺構外	煙管	<3.8>	<1.4>	<0.3>	—	吸口・銅製
392	69	30	2	A	遺構外	煙管	<4.3>	1.0	0.4	—	吸口・銅製
393	69	30	2	A	遺構外	煙管	<2.5>	—	0.3	—	吸口・銅製
394	69	30	2	A	遺構外	煙管	<4.1>	1.0	0.6	—	吸口・銅製
395	69	30	2	A	遺構外	煙管	5.5	1.0	0.4	—	吸口・銅製・羅字残存
396	69	30	2	A	遺構外	煙管	3.6	1.0	0.5	—	吸口・銅製
397	69	30	2	A	遺構外	耳掻簪	<8.5>	0.3	0.3	—	真鍮製
398	69	30	2	A	遺構外	耳掻簪	<8.2>	0.3	0.2	—	真鍮製
399	69	30	2	A	遺構外	頭巻釘	<6.2>	0.8	0.5	—	鉄製
456	73	32	2	B1	SK51	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初辨
457	73	32	2	B1	SK51	寛永通宝	2.5	0.6	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初辨
458	73	32	2	B1	SK51	寛永通宝	2.4	0.7	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
473	73	32	2	B1	遺構外	聖徳元宝	2.4	0.7	0.1	—	銅銭・穿孔あり・北条・建中輔国元年(1101)初辨
474	73	32	2	B1	遺構外	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
475	73	32	2	B1	遺構外	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	—	新寛永・銅・元禄10年(1697)初辨
476	73	32	2	B1	遺構外	寛永通宝	2.3	0.7	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
477	73	32	2	B1	遺構外	寛永通宝	2.3	0.7	0.1	—	背下「一」か・新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
478	73	32	2	B1	遺構外	一銭	2.8	—	0.1	—	銅貨・明治19年(1886)発行
499	75	33	2	B2	遺構外	寛永通宝	2.5	0.6	0.1	—	背上「文」・文銭・銅銭・寛文8年(1668)初辨
500	75	33	2	B2	遺構外	寛永通宝	2.5	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
501	75	33	2	B2	遺構外	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
520	76	33	2	C1	遺構外	半銭	2.2	—	0.1	—	銅貨・明治17年(1884)発行
533	76	33	2	C2	遺構外	寛永通宝	2.5	0.6	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初辨
534	76	33	2	C2	遺構外	半銭	2.2	—	0.1	—	銅貨・明治19年(1886)発行
572	79	34	2	D	遺構外	寛永通宝	2.5	0.6	0.1	—	背上「文」・文銭・銅銭・寛文8年(1668)初辨
573	79	34	2	D	遺構外	寛永通宝	2.3	0.7	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
574	79	34	2	D	遺構外	小皿	10.9	4.5	2.1	—	銅製・内外面に炭化層付着・地銀具
575	79	34	2	D	遺構外	小皿	10.7	4.3	2.1	—	銅製・内外面に炭化層付着・地銀具
577	80	35	2	E	SK65	寛永通宝	2.5	0.6	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初辨
578	80	35	2	E	SK65	寛永通宝	—	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
594	81	35	2	E	SK72	煙管	0.9	5.8	1.8	0.8	雁首・真鍮製・敲打痕あり
595	81	35	2	E	SK72	煙管	6.8	1.0	0.3	—	吸口・銅製
596	81	35	2	E	SK72	煙管	6.1	0.9	0.4	—	吸口・銅製
597	81	35	2	E	SK72	頭巻釘	<5.4>	1.1	0.4	—	鉄製
598	81	35	2	E	SK74	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
599	81	35	2	E	SK75	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初辨
600	81	35	2	E	SK75	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初辨
601	81	35	2	E	SK75	雁首銭	1.9	0.7	0.1	—	銅製

第4章 中央5丁目3区の調査

第1節 調査の方法（第1・2図）

中央5丁目地内は民家の集中する市街地であり、いずれの調査地点も複数の民家や駐車場の前にまたがっている。これらを横断して一つの調査区として調査を行うことは困難な状況であったため、反転調査や調査区の分割によって、進入路やヤードを確保しながらの調査となった。

3区の発掘調査では、調査区を現状の市街の区画の一筆ごとにA～Lの地点名を付して12地点に分割した。1～2地点ごとに調査を行っては埋め戻して原状復旧し、次の地点の調査に移るという形で進め、地点によってはさらに反転調査を行い、住民や車の進入路を確保した。また、水道管など現状で使用されている地下埋設物の敷設が多く、その範囲は甲府市教育委員会と協議の上、掘削調査の対象外とした。現況のアスファルト舗装やコンクリート舗装は山梨県中北建設事務所があらかじめ撤去を行った。表土掘削は、0.2m³相当のバックホウを用いた。調査で生じた掘削土は、調査区外で借地したヤードへ搬出することとし、表土掘削時は2tダンプ、人力掘削時は軽ダンプを用いて掘削土を運搬した。ヤードに仮置いた掘削土はブルーシートで覆って養生し、近隣への土砂の飛散防止を図った。埋め戻しは掘削土を用いて行き、上面には碎石を敷き均す形で復旧した。重機が稼働する際は交通誘導員を配置し、歩行者や車両の交通の安全確保に努めた。各調査地点はネットフェンスで仮囲いした上で、視認性の高い安全コーンや点滅灯を設置し、夜間の交通にも配慮した。

発掘調査では、各地点の現地盤直下で甲府空襲時の焼土や瓦礫が出土する層（戦災焼土層）が検出されたが、この戦災焼土層と明らかに現代と判断できる土層までをバックホウによる表土掘削の対象とした。それより下位については各地点の壁面で土層確認しながら人力で掘り下げを行った。土層では上下に複数の整地層が確認できる箇所があり、層位ごとの遺構確認に努めた。整地層の面的な広がりの確認できない場合や遺構検出が困難な場合は、地山上面まで掘り下げて遺構確認を行った。遺構掘削は全て人力で行ったが、E地点で検出した井戸（SE41・42）は、掘方確認のための断割掘削の一部をバックホウを用いて行った。

各地点の遺構検出状況は写真や概略図などで記録した。遺構番号は地点ごとにあらかじめ番号を振り分けることとした。地点の並び順に調査を行うことができなかったため、A地点：1～10、B地点：11～20、C地点：21～30など各地点に10ずつ遺構番号を振り分け、その上で種別ごとに連番で番号を付した。このため、各地点でそもそも番号を使用していない欠番が生じており、遺構番号と遺構数は一致しない。なお、遺構番号は遺構検出時点で使用したものを報告書まで用いることとし、調査および整理の過程で新たに遺構の性格が判明した場合は本文中に記述した。遺構測量は、土層断面は手描き実測にて行い、平面図はトータルステーションによる測量と写真測量を併用した。写真測量は主にポール撮影で行った。測量図化システムとしてCUBIC社「遺構くん」、写真測量にはAgisoft社「PhotoScan Professional」を用いた。各地点の完掘時には完掘状況の全体写真撮影と合わせてポール写真撮影を行い、「PhotoScan Professional」を用いて地点ごとのオルソモザイク写真を作成した。遺物は原則的にトータルステーションを使用して位置を記録して取り上げた。小片については、遺構出土のものは遺構一括とし、遺構外出土遺物については地点ごと一括して取り上げた。遺構写真撮影にはデジタル一眼レフカメラ（NikonD7000）を使用した。各地点の調査終了時には甲府市教育委員会の確認を受けた。

整理作業は遺物の水洗、注記、接合、復元と進めつつ、実測遺物・分析試料・保存処理遺物を選定した。選定にあたっては甲府市教育委員会の確認を受けた。土壌試料等の自然科学分析は株式会社パレオ・ラボに、木製品・金属製品の保存処理については公益財団法人山梨文化財研究所にそれぞれ委託した。写真撮影はデジタル一眼レフカメラ（NikonD7500）を用いた。遺物実測は手描きで行い、染付などの図化については手描き実測図のトレースデータに補正した写真データを合成した。また、遺物実測の一部はキーエンス社製3

D スキャナ型三次元測定機「VL300 シリーズ」を用いた。デジタルトレース、写真データの補正、挿図・写真図版作成、報告書編集作業には adobe 社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」、「InDesignCC」をそれぞれ使用した。

陶磁器類の分類や遺物観察表の記載については『内藤町遺跡』（新宿区内藤町遺跡調査会他 1992）、『甲府城下町遺跡（甲府駅周辺土地区画整理事業地内 43 街区）』（山梨県埋蔵文化財センター 2004）を参考とし、隣接する『甲府城下町遺跡 X X』（甲府市教育委員会 2020）の報告に準拠することとした。

第 2 節 基本層序

最終的な遺構検出面とした地山上面の標高は、全調査地点を通じて 258.0 ～ 258.8m を測る。東から西へ向かってゆるやかに低くなる地形である。

基本層序は各調査地点の壁面で観察した。攪乱などを除き、一定の範囲で連続する土層を画期ととらえて基本層序を記録した。現表土と近現代とみられる土層はⅠ層、近世から近代とみられる土層をⅡ層、地山はⅢ層とし、必要に応じて小文字のアルファベットや枝番を付与して細分した。

Ⅰ層では甲府空襲（昭和 20 年 7 月 6 日から 7 日未明）で生じた焼土・瓦礫を含む層（戦災焼土層）があり、多くの調査地点で、現地盤の直下に堆積する。発掘調査ではこの戦災焼土層と明らかに現代と考えられる土層を重機による表土掘削の対象とした。戦災焼土層下では複数の整地層を検出している。整地層は暗灰黄色シルトなどを基調とした客土とみられる土層である。層厚 5 ～ 10cm 程度で硬く締まり、ほぼ水平堆積する。場所によっては上下に複数の整地層が観察できた。中央 5 丁目 1 区の報告では、これらの整地層の多くは、明治以降に城下町が市街化される過程で進められた造成によるものと推定した。

Ⅱ層は、地山直上付近に堆積する土層である。黒褐色砂質シルト・黒褐色粘土質シルトなどを基調とし、焼土や炭化物の粒を含むことが多い。主に近世の堆積を想定したが、出土遺物からも厳密に分けることは困難であり、実際には近代に至る時期の堆積も含まれる。近代と推定される整地層の多くについても下位の堆積はⅡ層として記録した地点もある。

Ⅲ層は自然堆積層で地山である。多くの調査地点では黒色粘土や黒褐色粘土を基調とした土層である。東端部の調査地点では、黄褐色粘土質シルトやにぶい黄色シルトなどを基調とした、明るい土色のやや土粒の大きい土層となり様相が異なっている。最終的な遺構検出はⅢ層の地山上面で行った。

以下、調査地点ごとに層序の概要を記述する。

A 地点（第 103 図）

地山上面の標高は 258.0m を測る。調査時点の現表土は碎石層（Ⅰ a 層）で、その下に戦災焼土層（Ⅰ b 層）が層厚 10 ～ 30cm ほど堆積する。戦災焼土層の下には暗灰黄色シルトのよく締まった厚さ 10cm ほどの層が水平堆積しており、これを整地層（Ⅰ c 層）と推定した。また整地層下には砂礫層（Ⅰ d 層）や細砂層（Ⅰ e 層）が堆積しており、整地に先立って地盤改良の地業を行った可能性がある。Ⅰ e 層直下では漆喰の平坦面や石列・集石遺構などを検出し、これらは上層遺構として記録した。上層遺構検出面の下には、黒色粘土を基調とする遺物包含層（Ⅱ a 層）、黒色砂質シルトを基調とする遺物包含層（Ⅱ b 層）がそれぞれ層厚 10 ～ 15cm で水平堆積する。これらを掘り下げると黒色粘土の地山（Ⅲ層）が露出し、地山上面で、埋桶の他、性格不明の大形土坑などの下層遺構を検出した。

B 地点（第 104 図）

地山上面の標高は 258.1m を測る。現表土は碎石層（Ⅰ a 層）である。その下に戦災焼土層（Ⅰ b 層）が層厚 10 ～ 40cm 堆積する。戦災焼土層の底面には厚さ 1 ～ 2 cm の炭化物層が堆積していた。戦災焼土層の下には暗オリーブ褐色砂質シルトや黄灰色粘土を基調とする層が堆積する。これらは層厚 6 ～ 8 cm で水平堆積

しており、整地層と推定できる（Ⅰc層・Ⅰe層）。Ⅰe層下ではオリーブ黒色砂質シルトを基調とする層厚10～20cmの遺物包含層が堆積する（Ⅱa層・Ⅱc層）。Ⅱa層・Ⅱc層の間には、当初、Ⅱb層として記録した礫層が堆積するが、地盤改良の地業と考えられ平面的な範囲も検出できたため、SS12の埋土として記録した。これらを掘り下げると黒色粘土の地山（Ⅲ層）となり、最終的な遺構検出は地山上面で行った。

C・D地点（第109～111図）

地山上面の標高は258.3～258.4mを測る。現表土は碎石層（Ⅰa層）である。その下は戦災焼土層（Ⅰb層）で層厚20～30cmである。Ⅰb層下では暗灰黄色砂質シルトを基調とする硬く締まる整地層（Ⅱa-1層・Ⅱc層）があり、これらを掘り下げると黒色粘土の地山（Ⅲa層）となる。最終的な遺構検出は地山上面で行った。また、SX21やSX22などの大形土坑の壁面で、灰色シルトや暗緑灰色砂を基調とするⅢa層より下位の自然堆積層を確認した。

E地点（第114図）

地山上面の標高は258.6～258.7mを測る。現表土（Ⅰ層）は層厚10～20cmと薄く、戦災焼土層も攪乱されている。近代以前とみられる遺物包含層はない。表土直下で黄褐色粘土を基調とする地山（Ⅲa層）となり、黒色粘土や黒褐色粘土を基調とする西側の調査地点とは最上層の地山の様相が異なっている。遺構検出は地山上面で行った。またSE41などの壁面で、黒褐色粘土（Ⅲb層）、にぶい黄色砂質シルト（Ⅲc層）、褐灰色砂（Ⅲd層）などを基調とするⅢa層より下位の自然堆積層を確認した。

F地点（第116図）

地山上面の標高は258.7～258.8mを測る。現表土は碎石層（Ⅰa層）と戦災瓦礫が混入する層（Ⅰb層）で、大部分でⅠb層が露出する。Ⅰb層の層厚は20～50cmである。その下に暗オリーブ褐色砂質シルトを基調とする層厚10cmの層（Ⅰc層）が調査地点の北側に堆積する。これらを掘り下げると黄褐色粘土質シルトを基調とした地山（Ⅲ層）となる。遺構検出は地山上面で行った。

G・H・I地点（第118図）

地山上面の標高は258.7～258.8mを測る。現表土は碎石層（Ⅰa層）である。G・H地点ではその下に層厚10cmほどの戦災焼土層（Ⅰb層）が部分的ではあるが遺存していた。近代以前とみられる遺物包含層はなく、これらを掘り下げると黒色粘土を基調とした地山（Ⅲa層）となる。遺構検出は地山上面で行った。なお、I地点では現地盤から1m以上の深さまで攪乱されており、地山は確認していない。

J地点（第119図）

地山上面の標高は258.4mを測る。現表土は碎石層（Ⅰa層）である。調査地点の東端部では戦災焼土層（Ⅰb層）やオリーブ褐色粘土質シルトを基調とする層厚10cmほどの堆積層（Ⅰc層）を確認した。調査地点の大部分は表土直下が黒色粘土を基調とした地山（Ⅲa層）となる。遺構検出は地山上面で行った。また、Ⅲa層下では黄灰色シルトを基調とする自然堆積層（Ⅲb層）を確認した。

K地点（第120図）

地山上面の標高は258.6mを測る。現表土は碎石層（Ⅰa層）である。碎石層直下では黄褐色砂質シルトの硬く締まる層（Ⅰb層）が厚さ20cmで堆積する。黒褐色粘土質シルトを基調とする層厚14cmの遺物包含層（Ⅱ層）も遺存したが部分的である。これらを掘り下げると黄灰色シルトを基調とする地山（Ⅲ層）となる。遺構検出は地山上面で行った。

L地点（第121図）

地山上面の標高は258.3mを測る。現表土（Ⅰa層）の下に、オリーブ褐色砂質シルトを基調とする厚さ10cmほどの層（Ⅰb層）が堆積するが、近代以前とみられる遺物包含層はなく、直下が地山となる。遺構検出は地山上面で行った。また、遺構検出面上でのL地点の地山の土質は、場所によって異なる状況であった。サブトレンチを設定して確認したところ、にぶい黄色シルト（Ⅲa層）や灰オリーブ色細砂（Ⅲb層）、灰色砂（Ⅲc層）など泥岩を多く含む自然堆積層が斜め方向へ折り重なっており、L地点付近の旧地形は、傾斜地であった可能性が高い。

第3節 調査の成果

第1項 A地点

A地点は、現在の連雀町通りの南側で、今回の調査範囲の西端部に位置する。現況は民家の駐車スペースの前となっており、車の進入路を確保するため、調査は反転掘削で行った。西半部ではI層（現地盤下60cm）を剥いだところで漆喰面を検出した。その面的な広がりを記録するため掘り広げたところ、ほぼ同じ面で石列や集石遺構を検出した。漆喰面とこれらの遺構は上層遺構として記録した。上層遺構検出面の下にはII a層・II b層とした遺物包含層がそれぞれ層厚10～15cm堆積しており、これを剥がした地山（III層）上面で、埋桶の他、性格不明の大形土坑などの下層遺構を検出している。A地点全体では土坑6基、埋桶1基、石列2条、集石遺構12基、不明遺構2基を検出した。

S K 1（第100図、図版43）

〔位置・重複〕 調査地点の北西側に位置する。重複する遺構はない。

〔形状・規模〕 平面形は不整形で、長さ82m、幅70m、深さ16cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

〔検出状況・埋土〕 II b層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

〔出土遺物・時期〕 出土遺物はない。検出状況からは近世の可能性はある。

S K 2（埋桶）（第103図、図版43）

〔位置・重複〕 調査地点中央南側に位置し、掘方の南側は調査区外へ延びる。切り合いでは、S X 1より新しく、S S 1に先行する。

〔形状・規模〕 上層遺構に切られており、平面形の全容は不明であるが、円形と推測する。検出部分では長さ56cm、幅50cm、検出面からの深さは34cmを測る。掘方は、底面は平坦で、桶に沿って筒状に立ち上がり、上面付近は大きく広がっている。

〔検出状況・埋土〕 調査地点南半部では、上層遺構とII層を剥ぐと地山面が南へ向かって低くなっており、南端部でS X 1とした落ち込みを検出した。その埋土中に桶を検出しS K 2として記録した。桶は側板の下位と底板が遺存しており径は55cmを測る。埋土はオリーブ黒色粘土を基調とする。

〔出土遺物・時期〕 桶の他に出土遺物はない。検出状況からは近世の可能性はある。

S K 3（第103図、図版43）

〔位置・重複〕 調査地点の南端部に位置する。切り合いではS X 1に先行する。

〔形状・規模〕 調査区外に延びるため、平面形の全容は不明だが円形を呈するとみられる。検出部分では長さ45cm、幅35cm、深さは20cmを測る。掘方の断面形は方形に近い。

〔検出状況・埋土〕 調査地点南端部のS X 1の底面で検出した。埋土はオリーブ黒色粘土を基調とする。

〔出土遺物・時期〕 出土遺物はない。検出状況からは近世の可能性はある。

S K 4（第100図、図版43）

〔位置・重複〕 調査地点東半部北側に位置する。重複する遺構はない。

〔形状・規模〕 平面形は不整形で長さ56cm、幅40cm、深さ4cmを測る。掘方の断面形は扁平な皿状である。

〔検出状況〕 地山上面で検出した。長さ30cmの扁平な石が据えられており掘方はほとんど検出できなかった。礎石とみられS K 6・S S 3 Aなどと方形区画の建物を構成していた可能性がある。

〔出土遺物・時期〕 出土遺物はないが、S K 6・S S 3 Aなどと一連の遺構であった可能性があり、時期は近世としておきたい。

S K 5（第101・123図、図版43・50）

〔位置・重複〕 調査地点東端部に位置する。切り合いではS S 7に先行する。

〔形状・規模〕 調査地点外に延びるため平面形の全容は不明だが、楕円形と推測する。掘方の底面は平坦である。検出部分では長さ45cm、幅40cm、深さは8cmを測る。

[検出状況・埋土] 上面には上層遺構の S S 7 の埋土が覆い被さっていたが、これを剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とする。

[出土遺物] 陶器が 2 点出土しており、それぞれ図示した。1 は肥前陶器の呉器手碗、2 は瀬戸・美濃系陶器の播鉢である。

[時期] 検出状況や出土遺物から近世と推定する。

S K 6 (第 100・123 図、図版 43・50)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 40cm、幅 35cm、深さ 16cm を測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とする。北側 2m に位置する S K 4、西側 1.8m に位置する S S 3 A などと方形区画の建物の基礎を構成していた可能性があるが、S K 6 では礎石は確認できなかった。埋土上面で完形の土器皿が出土している。

[出土遺物] 磁器の小片が 2 点と土器のカワラケ (3) が 1 点出土している。

[時期] 検出状況や出土遺物から、近世と推定する。

S K 7 (第 103・123 図、図版 43・50)

[位置・重複] 調査地点南東隅部に位置する。切り合いでは S S 10 に先行する。

[形状・規模] 調査地点外に延びるため平面形の全容は不明だが、方形と推測する。掘方の断面形は底面は平坦で壁がまっすぐ立ち上がる。検出部分では長さ 92cm、幅 60cm、深さ 70cm を測る。

[検出状況・埋土] II 層下の地山上面で検出した。埋土は上層にオリブ黒色粘土質シルトが堆積し、下層には炭化物や腐食した木質遺物を含む黒色砂が堆積する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器の小片が出土したが、図示できない。4 は箸である。

[時期] 検出状況や出土遺物から、近世と推定する。

S S 1 A (石列) (第 100・123 図、図版 43・50)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いでは、S S 1 A の石列が S S 1 B の石列を切る。

[形状・規模] 幅 50～60cm の石列が北方向へ 4.5m 走って直角に屈曲し、西方向へ 2.5m 走る。調査地点外へ延びているが、方形に巡っていたと推定できる。遺構検出面での深さは 50cm であるが、調査地点壁面の土層観察では、遺構上面から底面まで 80cm を測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況・埋土] 溝状の掘方の中に径 20～30cm の礫が充填された石列を検出した。埋土は黒色粘土を基調とする。石列が方形に巡ると推定でき、建物の布掘り基礎とみられる。礫の下からは 2 本並べられた丸太の算盤 (胴木) を検出しており、さらにその下に、一定間隔で垂直に打ち込まれた二本一組の捨杭 (木杭) を検出した。算盤地業といわれる基礎工法であり、布掘りと併用してより堅固な基礎としていることから、土蔵など重い建物を支えていたと推定する。石列の内側では、石列に沿った形状で厚さ 3cm ほどの漆喰面を検出しており、これも土蔵に伴う遺構と推定する。

[出土遺物] 少量の磁器・陶器と寛永通宝が 3 点出土した。5 は端反碗で、瀬戸・美濃系磁器か。6～8 は寛永通宝で、6・7 は新寛永、8 は古寛永である。

[時期] 調査地点西壁の土層観察から、近代の遺構である。なお、昭和 16 年発行の『商都甲府市家屋図』でも当地点に 2 棟の土蔵が建ち並んでいることが確認できる。

S S 1 B (石列) (第 100 図、図版 43)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いでは S S 1 A の石列に切られて終わる。

[形状・規模] 幅 50～60cm の石列が南北方向に 1.8 m 走る。北端部は調査地点外へ延び、南端部は S S 1 A に切られて終わるため、平面形の全容は不明である。掘方は浅く、礫の直下が底面となる。

[検出状況] 溝状の掘方の中に径 10～30cm の礫が充填された石列を検出した。検出時点では S S 1 A と一連の遺構としてとらえたが、構造や底面の深さが異なっており、別遺構として遺構番号を付与した。底

面では算盤（胴木）は検出されなかったが、S S 2 Aとした三本一組の捨杭を検出した。布掘りに捨杭を敷設し、礫を充填した建物の基礎と推定する。

〔出土遺物・時期〕 出土遺物はない。図示していないが、調査地点北壁の土層観察から、時期は近代である。

S S 2 A・B・C（第100・101図、図版43）

〔位置・重複〕 調査地点西半部に位置する。S S 2 AはS S 1 Bの石列の下で検出した。S S 2 BとS S 2 Cは上層遺構の漆喰面の下で検出している。切り合いではS S 1 AやS S 4に先行する。

〔検出状況〕 S S 2 AはS S 1 Bの石列の下で検出した三本一組の捨杭である。その後、南側の同一軸線上に、1.8m間隔で三本一組の捨杭を二組検出したため、S S 2 B・S S 2 Cの遺構番号を付与した。S S 2 B・S S 2 Cの上面付近では石列は遺存していなかったが、S S 1 Aを基礎とする建物の構築により攪乱されたか除去されたとみられ、S S 1 Bの石列と一連の遺構であった可能性が高い。

〔出土遺物・時期〕 出土遺物はない。S S 1 Bと一連の遺構である可能性が高く、時期は近代である。

S S 3 A（集石遺構）（第97図、図版43）

〔位置・重複〕 調査地点中央に位置しS S 1 Aに隣接する。重複する遺構はない。

〔検出状況〕 地山上面でS S 1 Aに隣接する集石を検出しS S 3としたが、北端部分の長さ約50cmの扁平な石は据えられた可能性が高く、これをS S 3 Aとした。図示していないが、扁平な石の直下は地山で掘方はほとんどない。S S 3 Aの東側1.8mにS K 6、その北側2mにS K 4が位置しており、これらと方形区画を構成する建物の礎石であった可能性がある。

〔出土遺物・時期〕 出土遺物はないが、S K 4・6と一連の遺構であった可能性があり、近世としておきたい。

S S 3 B（廃棄土坑）（第97・123図、図版43・50）

〔位置・重複〕 調査地点中央のS S 3 Aの南側に位置する。重複する遺構はない。

〔形状・規模〕 径10～20cmの礫のまばらな集石を検出し、その範囲をS S 3 Bとした。範囲の規模は長さ125cm、幅70cmである。

〔検出状況〕 地山上面で検出した。検出時点では、隣接するS S 1 Aの石列が攪乱されたものと捉えて、検出状況のみ記録して集石を除去したが、集石の中に割れた陶器片や土器片が混入した状態で出土しており、廃棄土坑の可能性はある。掘方は確認できなかった。

〔出土遺物・時期〕 陶器の碗・播鉢や土器の鉢類が出土しており、陶器2点を図示した。9は瀬戸・美濃系陶器の播鉢である。10は壺か。出土遺物から遺構の時期は近世と推定する。

S S 4（集石遺構）（第101図、図版42～44）

〔位置・重複〕 調査地点西半部に位置する。上層遺構の漆喰面上で検出しており、切り合いではS S 1 A・S S 2 Cより新しい。

〔形状・規模〕 平面形はやや不整形な方形を呈す。長さ95cm、幅90cm、深さは1mを測り、掘方の断面形は方形である。

〔検出状況〕 漆喰面を壊して構築したとみられ、S S 4の部分だけ、漆喰面が破られたような状況であった。漆喰面上からの観察では径10～20cmほどの礫が土坑の縁辺部を巡っており、中央部は礫がなかった。漆喰面を除去し、断ち割って確認したところ、底面中央に一辺約40cm、厚さ20cmに成形された正方形の礎石（根石）が据えられ、その周りを径10～20cmの礫で根固めしている状況であった。礎石の下には三本一組の捨杭が打ち込まれていた。建物の基礎とみられ、東側3.6m地点にはS S 5が位置する。また、調査時には確認できなかったが、礎石の上に蠟燭石を据えた蠟燭地業であった可能性が高い。

〔出土遺物・時期〕 陶器・土器・瓦などが少量あるが、図示できない。時期は切り合いから、現代である。

S S 5（集石遺構）（第101・123図、図版44・50）

〔位置・重複〕 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

〔形状・規模〕 平面形はやや不整形な正方形で、一辺1.35m、検出面からの深さは50cmを測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況] 表土掘削時に S S 5 の上面で蠟燭石を確認した。蠟燭石は角柱状に粗く成形された高さ約 1 m、幅約 30cm の切石で、裾部が基壇状になったものである。近現代の堆積層の I 層からの出土で、重量もあるため、調査では蠟燭石は重機で除去しその下部構造から記録することとした。蠟燭石の下には一辺約 60cm、厚さ 26cm の正方形に成形された礎石が据えられ、その周りを径 10 ～ 30cm の礫で根固めしていた。礎石の下には五本一組の捨杭が打ち込まれており、蠟燭地業を用いた建物の基礎である。西側 3.6m 地点には S S 4 とした蠟燭地業の基礎が位置しており、軸線も区画と一致する。捨杭の数が異なるなど構造に差異があるが、礎石や捨杭上面の高さは一致しており、同じ建物の基礎の可能性が高い。

[出土遺物] 磁器・陶器・瓦・金属製品などが出土しており 3 点を図示した。11 は瀬戸・美濃系磁器で端反形の小坏である。12 は棧瓦である。13 は銅製の留具か。

[時期] 検出状況や埋土にビニール片が混入していたことなどから、現代である。

S S 6 ～ 10 (集石遺構) (第 101 図、図版 42・44)

[位置・重複] 調査地点の東壁に沿って検出した。切り合いでは、S S 7 は S S 6 に先行し、S K 5 より新しい。S S 10 は S K 7 より新しい。

[形状・規模] それぞれの遺構の半分以上が調査地点外であり全容は不明である。想定される平面形は方形で、一辺の長さは 1 m 前後と推定する。

[検出状況・埋土] 調査地点東壁の壁面で複数の蠟燭石を検出した。蠟燭石は一辺が約 30cm の角柱状を呈し、推定される高さは約 1 m である。それぞれの蠟燭石の下部は径 10 ～ 20cm の礫で根固めされていた。S S 10 では蠟燭石は確認できなかったが、調査地点外に遺存している可能性が高い。検出状況から近代以降の遺構であることが明らかであったことや安全の観点から、調査は壁面の土層観察に留め、下部構造の確認は行わなかった。埋土は蠟燭石の上半部は造成土とみられる土で覆われており、下半部はオリーブ黒色粘土に灰オリーブ色粘土が混入する土を基調とする。蠟燭石の芯々距離は、S S 6・7 間では 1.0m であるが、S S 7・8 間は 1.8m、S S 8・9 間は 1.9m、S S 9・10 間も 1.8m 前後と推定でき、同一の建物の蠟燭地業の基礎とみられる。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。土層観察では蠟燭石上面に戦災焼土層が堆積していることから、遺構の時期は近代である。

S X 1 (不明遺構) (第 103・124・125 図、図版 50)

[位置・重複] 調査地点南側に位置する。切り合いでは、S S 1 A・S K 2 に先行し、S K 3 より新しい。

[形状・規模] 調査地点外へ延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 5.0m、幅 1.1m、深さ 40cm を測る。掘方の断面形は、方形に近い形状である。

[検出状況・埋土] 調査地点南端部の II b 層・II c 層を剥いだ地山上面で検出した。当初、南へ向かって低くなる地形の落ち際を検出したと考えたが、埋土はオリーブ黒色粘土にオリーブ灰色粘土をブロック状に含んでおり、人為的に埋めたとみることができる。溝状遺構や大形土坑の肩部を検出したと考えておきたい。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・瓦・金属製品が出土しており 17 点を図示した。14 ～ 19 は磁器で、いずれも肥前系とみられる。14 ～ 16 は碗で、14 は丸碗、15・16 は端反碗である。17・18 は皿である。19 は蓋物の蓋である。20 ～ 25 は陶器で、20 は瀬戸・美濃系陶器の小坏、21 は瀬戸・美濃系陶器の灯明皿、22 は明石・堺系陶器の播鉢、23 は瀬戸・美濃系陶器の香炉、24 は土瓶、25 は土瓶の蓋である。26 は土器のカワラケで口縁に煤が付着する。27 は瓦である。28・29 は寛永通宝で、30 は煙管の吸口である。他にシジミ・サルボウガイなど食用とみられる貝の殻が出土している。

[時期] 切り合いや出土遺物から、江戸時代後期と推測する。

S X 2 (不明遺構) (第 103・125 図、図版 44・50)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いでは S S 1 A・S S 2 B・S S 4 に先行する。

[形状・規模] 調査地点外へ延びるため平面形の全容は不明であるが、検出部分では、やや不整形な隅丸

方形で、長さ 2.85m、幅 2.25m、深さ 1.0mを測る比較的大形の土坑である。掘方の断面形は底面近くの壁面がやや膨らんだ形状である。

[検出状況・埋土] S S 1 Aに囲まれた漆喰面を除去し、さらにⅡ a層・Ⅱ b層とした遺物包含層を掘り下げた地山上面で検出した。埋土は、上層は黒色粘土にオリブ灰色粘土質シルト、下層は黒色粘土にオリブ灰色砂質シルトをそれぞれブロック状に含む。地山を掘り返してそのまま埋めたかのような埋土で、初見では地山との識別がつかない。遺物の出土量も少なく、壁面や底面の検出は困難であった。後から調査を行った S X 21・22 は同様な遺構である可能性が高いが、その掘方と比較すると、S X 2の底面と壁面は完掘できていない可能性がある。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器の小片が十数点と銭などが出土しているが、遺構規模に比するとその出土量は極めて少ない。7点を図示した。31は肥前系磁器の丸碗である。32～34は瀬戸・美濃系陶器である。32・33は天目茶碗、34は皿である。35は土器のカワラケである。36は北宋銭で、紹聖元宝である。37は煙管の吸口である。これらの出土遺物の推定生産年代は18世紀中葉までにおさまる。

[時期] 出土遺物や切り合いから、江戸時代中期～後期の可能性がある。

遺構外出土遺物（第125・126図、図版50・51）

38～40は磁器である。38・39は碗で、38は肥前系磁器で、見込みに五弁花を施し、焼継痕や焼継印がある。39は瀬戸・美濃系磁器の端反碗である。40は肥前系磁器の小坏である。41～43は陶器である。41は瀬戸・美濃系陶器の皿、42は瀬戸・美濃系陶器の灯明皿で、43は土鍋で、外面に煤が付着する。44・45は寛永通宝である。46は煙管の雁首である。47・48は和釘、49は砥石である。

第2項 B地点

B地点は、連雀町通りの南側でA地点の東側に位置する。現況は民家の駐車スペースの前となっており、車の出入りを確保するため、調査は反転掘削で行った。A地点との間の約3.5mの範囲には現状で使用中の埋設構造物があり、甲府市教育委員会と協議の上、調査対象外とした。また、調査地点内の北端部2mほどの範囲も現地盤下70cmを掘り下げたところで埋設構造物が露出したため同様に協議し、以下の掘削調査は行わなかった。調査地点の東半部の大部分はⅠ層直下が地山となるが、西半部では遺物包含層（Ⅱ a層・Ⅱ c層）が遺存しており、これを剥いだ地山上面で遺構検出を行った。B地点全体で土坑4基、埋桶1基、小穴8基、集石遺構2基を検出した。

S K 11（埋桶・廃棄土坑）（第106・126図、図版44・51）

[位置・重複] 調査地点南側に位置する。切り合いではS S 11に先行する。

[形状・規模] 平面形の形状は楕円形で、長径1m、短径85cm、深さ46cmを測る。掘方は底面は平坦で、壁がまっすぐ立ち上がり、南側にテラス状の段をもつ形状である。

[検出状況・埋土] Ⅱ a層とした遺物包含層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土ブロックを含む。下層は黒色砂質シルトを基調とし、炭化物を多く含む。底面には曲物の底板が出土した。側板は遺存しないが、土坑底面と底板の形状が一致しており、曲物は据えられたものと考えられる。埋土下層で採取した土壌試料の分析では寄生虫卵は検出されなかったが、リン・カルシウムを多く検出しており、尿尿用の便槽であった可能性がある。また、埋土に焼土ブロックや炭化物が含まれており、被熱で器面の釉薬が熔けた磁器片が数点出土していること、土壌試料の分析でイネの炭化粉やオオムギ炭化種子なども検出されていることなどから、最終的には、火災で生じたゴミを処分した廃棄土坑として使用されたものと推定する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・瓦の小片が合わせて十数点出土している。2点を図示した。50・51は陶器で、50は片口、51は播鉢である。

[時期] 切り合いや出土遺物から、江戸時代後期の可能性がある。

S K 12 (戦災瓦礫土坑) (第 106・126 図、図版 44・51)

[位置・重複] 調査地点東側に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 調査地点外へ延びるため全容は不明だが、隅丸方形に近い形状と推測する。検出部分では長さ 2.3m、幅 1.5 m、深さは 1.1mを測る。掘方は、平坦な底面から播鉢状に立ち上がり、北側と南側に小段がある。

[検出状況・埋土] I a 層とした碎石の造成土の直下で検出した。埋土の上層は焼土層で覆われており、瓦礫を多く含む。下層もブロック土を多く含む締まりのゆるい土で、コンクリート片なども混入する。瓦礫の中には被熱した陶磁器類や熔着したガラスなどもあり、甲府空襲で生じた瓦礫を廃棄した土坑とみられる。中央 5 丁目 1 区など、近隣の既往の調査でも同様な遺構はたびたび検出している。攪乱として平面的な位置の記録に止めることも多いが、戦災関連遺構の一例として調査記録を行った。

[出土遺物] 比較的多くの遺物が出土したが、一部のみを採取し、5 点を図示した。52～55 は磁器で、52・53 は碗、54 は鉢か。55 は罎子である。いずれも器面に被熱の痕跡が残る。56 は和釘である。

[時期] 甲府空襲後の瓦礫の処理を行った土坑とみられ、現代である。

S K 13 (廃棄土坑) (第 107・126～128 図、図版 44・51・52)

[位置・重複] 調査地点西側に位置する。切り合いでは、S K 15 より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形に近い形状である。長径 58cm、短径 43cm、深さは 14cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土粒を少量含む。また、土坑内いっばいに磁器・陶器・瓦の破片が出土している。遺物整理を行ったところ、個体数は多いものの接合資料は少なく、被熱の痕跡を残す資料が複数あることが分かった。火災で使用不能となった陶磁器類を一括して廃棄した土坑と推定する。

[出土遺物] 遺構の規模に比すると出土遺物は非常に多く、器種も多様である。31 点を図示した。57～76 は肥前系磁器である。57～63 は碗である。57 は丸碗、58 は小丸碗、59・60 は筒形碗、61 は望料碗か。62・63 は広東碗で、同一個体の可能性がある。64・65 は小坏である。66 は仏飯器で、67～69 は皿である。67・69 は口縁部を輪花形とし、67 は蛇の目凹形高台である。68 は見込みにコンニャク印判の五弁花を施す。70 は香炉、71・72 は瓶である。73 は神酒徳利、74 は水滴、75 は碗蓋で、76 は蓋物蓋である。77～87 は陶器である。77 は瀬戸・美濃系陶器の皿で、呉須絵を施す。78 は瀬戸・美濃系陶器の灯明受皿で外面に環状の目跡を残す。79・80 は瀬戸・美濃系陶器の片口で、同一個体か。81 は明石・堺系陶器の播鉢、82～84 は瀬戸・美濃系陶器の植木鉢で、82・83 は同一個体の可能性がある。85・86 は土瓶で、87 は土瓶の蓋である。これらのうち、57・59・61・65・66・75・77 などは器面の釉が熔けており、二次被熱の痕跡が顕著に残る。また、磁器は肥前系のみが出土しており、出土遺物の推定生産年代は 18 世紀後半から 19 世紀前半におさまる。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期と推測する。

S K 14 (第 104 図、図版 45)

[位置・重複] 調査地点南端部に位置する。S S 12 に先行する。

[形状・規模] 調査地点外へ延びるため全容は不明だが、円形と推測する。検出部分では、長さ 46cm、幅 18cm、深さ 36cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] S S 12 の集石と II b 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層にオリーブ黒色砂質シルト、下層にオリーブ黒色粘土質シルトが堆積する。

[出土遺物] 土器の小片が 1 点と、図示していないが杓が 1 点出土している。

[時期] 検出状況や埋土から近世の可能性はある。

S K 15 (第 107・128 図、図版 45・52)

[位置・重複] 調査地点西側に位置する。切り合いでは S K 13 に先行する。

[形状・規模] 重複や攪乱のため、全容は不明である。検出部分では長さ 70cm、幅 35cm、深さ 42cmを測る。掘方の底面は平坦である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。検出時点では S K 13 と同一遺構と考えたが、S K 13 とは掘方が分かれており別遺構とした。埋土は上層は締りのゆるい黒色砂で、下層はオリーブ黒色砂質シルトである。遺物は上層の埋土上面で少量出土したが、被熱痕がみられることから、重複する S K 13 に帰属する可能性が高い。

[出土遺物] 磁器・陶器が 4 点と銭が出土している。2 点を図示した。88 は肥前系磁器の皿である。器面に被熱痕がある。89 は銭で、背十一波の寛永通宝である。

[時期] 検出状況や切り合いから江戸時代後期と推定する。

S P 11 (第 107 図、図版 45)

[位置・重複] 調査地点中央部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形はやや不整形な方形に近い形状である。長さ 38cm、幅 30cm、深さ 6 cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II c 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土粒と径 3 cmの礫を含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況や埋土から近世の可能性はある。

S P 12 (第 107 図、図版 45)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 全体を検出できなかったが、平面形は楕円形を呈すとみられ、検出部分では長さ 30cm、幅 24cm、深さ 6 cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II b 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況や埋土から近世の可能性はある。

S P 13 (第 107 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 18cm、深さ 28cmを測る。掘方の断面形は方形に近い。

[検出状況・埋土] II c 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色砂で、焼土粒を含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況や埋土から、近世の可能性はある。

S P 14 (第 107 図、図版 45)

[位置・重複] 調査地点南側に位置する。切り合いでは S S 12 に先行する。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 22cm、短径 16cm、深さ 16cmを測る。掘方は、最深部が突出し、稜を持って挿鉢状に立ち上がる。

[検出状況・埋土] S S 12 の集石を剥いだ地山上面で検出した。埋土は暗灰黄色砂質シルトに黒色粘土を含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況や埋土から近世の可能性はある。

S P 15 (第 107 図、図版 45)

[位置・重複] 調査地点南側に位置する。切り合いでは S S 12 に先行する。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 32cm、短径 24cm、深さ 18cmを測る。掘方の断面形は挿鉢状で、南側に段を持つ。

[検出状況・埋土] S S 12 の集石を剥いだ地山上面で検出した。埋土は暗灰黄色砂質シルトに焼土と炭化物の粒を含む。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の小片がそれぞれ 1 点出土したが、図示できない。検出状況や埋土から近世の可能性はある。

S P 16 (第 107 図、図版 45)

[位置・重複] 調査地点南西部に位置する。切り合いでは S S 12 に先行する。

[形状・規模] 調査区外へ延びるため全容は不明だが、楕円形を呈すと推定する。検出部分では長さ 24cm、幅 16cm、深さ 25cmを測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況・埋土] S S 12 の集石と II c 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土はオリーブ黒色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況や埋土から近世の可能性はある。

S P 17 (第 107 図、図版 45)

[位置・重複] 調査地点南側に位置する。切り合いでは S S 12 に先行する。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 20cm、深さ 14cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] S S 12 の集石を剥いだ地山上面で検出した。埋土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況や埋土から近世の可能性はある。

S P 18 (第 107 図、図版 45)

[位置・重複] 調査地点南側に位置する。切り合いでは S S 12 に先行する。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 30cm、幅 24cm、深さ 6cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] S S 12 の集石を剥いだ地山上面で検出した。埋土は暗灰黄色砂質シルトを基調とし、黒色粘土を含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況や埋土から近世の可能性はある。

S S 11 (集石遺構) (第 106 図、図版 44)

[位置・重複] 調査地点南側に位置する。切り合いでは S K 11 より新しい。

[形状・規模] 全体を検出できなかったため、平面形の全容は不明である。検出部分で長さ 48cm、幅 40cmを測り、調査地点壁面で確認した埋土上面からの深さは 42cmである。掘方の断面形は逆台形を呈する。

[検出状況・埋土] 地山上面まで掘り下げて検出したが、調査地点壁面では戦災焼土層の I b 層直下に埋土の上面が確認でき、II 層を切っていた。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物粒や焼土ブロックを含む。埋土の中位から底面にかけて径 20～30cmの礫が充填されていた。礫の下に捨杭はない。構造物の基礎の可能性はあるが、調査地点内に同様な遺構は検出できなかった。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。切り合いや土層観察から、近代の遺構と推定する。

S S 12 (集石遺構) (第 104 図、図版 45)

[位置・重複] 調査地点南西部に位置する。切り合いでは S K 14、S P 14～18 より新しい。

[形状・規模] 東西 2.7m、南北 2.0mの範囲に径 5～10cmの礫敷を検出した。範囲の北側では径 20～30cmのやや大きな礫が溝状に並んでみえたが、やや不規則に崩れており、全容は不明である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いで検出した。埋土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする。当初は調査地点の壁面で、調査地点全体に広がる水平堆積層ととらえ II b 層として記録した。その後、平面的な範囲を検出できたため S S 12 として遺構番号を付与し、II b 層も遺構埋土ととらえることとした。径 3～5cmの礫を多く含んでおり、何らかの土地の造成に伴って地盤改良の地業を行った痕跡と考えたい。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。切り合いや土層観察では、近世の可能性もある。

遺構外出土遺物 (第 129 図、図版 52)

90～95 は磁器である。90 は肥前系磁器の碗、91 は小坏、92 は皿、93 は肥前系磁器の皿、94 は瀬戸・美濃系磁器の鉢で焼継痕がある。95 は肥前系磁器の蓋物である。96 は陶器の土鍋である。97 は棧瓦で屋号の「仁」の刻印が残る。98～100 は銭である。98 は洪武通宝、99 は寛永通宝、100 は十銭の銀貨である。101 は煙管の雁首を加工した雁首銭である。102 は刀の切羽、103 は木製の箸である。

第3項 C地点

C地点は、連雀町通りの南側でB地点の東側に位置する。現況は、歯科医院の駐車場への進入路となっており、車の出入りを確保するため、調査は反転掘削で行った。B地点との間の約3mの範囲は現状で使用中の埋設構造物があり、協議の上、調査対象外とした。調査地点の西半部ではⅡa層やⅡc層など暗灰黄色砂質シルトを基調とする整地層が遺存しており、これらを剥ぎつつ、最終的に地山上面まで掘り下げて遺構検出を行った。東半部では戦災焼土層のⅠb層直下が地山となる部分が多かった。C地点全体で土坑4基、埋桶1基、埋甕1基、小穴3基、集石遺構1基、溝状遺構（土管）1条、不明遺構2基を検出した。

S K 21（廃棄土坑）（第108・130図、図版45・52）

〔位置・重複〕 調査地点西側に位置する。切り合いではS X 21より新しい。

〔形状・規模〕 平面形は不整形で、長さ2.48m、幅1.46m、深さ36cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

〔検出状況・埋土〕 Ⅱb層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とする。出土遺物は多くないが焼土や炭化物を多量に含んでおり、火災で生じたそれらを廃棄した土坑と推定する。

〔出土遺物〕 磁器・陶器・土器・瓦などが出土しており、7点を図示した。104・105は肥前系磁器、106は瀬戸・美濃系磁器である。104は皿、105・106は瓶か。107～109は瀬戸・美濃系陶器で、107・108は碗、109は鉢である。110は土器の焙烙である。

〔時期〕 出土遺物から、江戸後期の可能性がある。

S K 22（第108・130図、図版45・52）

〔位置・重複〕 調査地点南西部に位置する。切り合いではS S 21に先行する。また、調査地点壁面の観察ではS K 25より新しい。

〔形状・規模〕 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ92cm、幅68cm、深さ18cmである。掘方の底面は平坦である。

〔検出状況・埋土〕 検出時点ではS S 21と同一遺構と考えたが、掘方が分かれており、別遺構として遺構番号を付与した。調査地点壁面の観察ではⅡc層下の遺構である。埋土は、上層はオリブ黒色砂質シルトを基調とし、焼土粒を含む。下層は黒色砂質シルトを基調とし、暗オリブ褐色細砂や暗オリブ褐色シルトを含む。

〔出土遺物〕 出土遺物は1点である。111は肥前系磁器の筒形碗である。

〔時期〕 出土遺物や検出状況から、近世である。

S K 24（第109図、図版45）

〔位置・重複〕 調査地点南西部に位置する。S K 25と重複するが、切り合いは確認できない。

〔形状・規模〕 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ45cm、幅14cm、深さ24cmを測る。掘方の底面は平坦である。

〔検出状況・埋土〕 Ⅱc層を剥いだ地山上面で検出した。検出時点ではS K 25と同一遺構と考えたが、掘方の形状に連続性がなく、底面の高低差も約20cmあることから別遺構とした。埋土は上層は黒色粘土に黄灰色粘土質シルトを含み、下層は黒色粘土を基調とする。調査地点の壁面で精査したが、S K 25との切り合いは確認できず、同時期に埋没したと考えたい。

〔出土遺物・時期〕 出土遺物はない。切り合いや検出状況から近世と推定する。

S K 25（第109図、図版45）

〔位置・重複〕 調査地点南西部に位置する。S K 24と重複するが、切り合いは不明である。また、平面的な切り合いはないが、調査地点壁面の土層観察ではS K 22に先行する。

〔形状・規模〕 平面形の全容は不明である。検出部分では長さ78cm、幅22cm、深さ46cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

〔検出状況・埋土〕 Ⅱc層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は上層は黒色粘土に黄灰色粘土質シルトを含み、下層は黒色粘土を基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。切り合いや検出状況から近世と推定する。

S K 26 (埋甕) (第 109・130 図、図版 46・52)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S X 22 より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形を呈し、長径 70cm、短径 58cm、深さ 24cmを測る。

[検出状況] 表土直下の S X 22 の埋土上面で、瓦質土器の甕の下半部を検出した。上半部は遺存しなかったが、正位に据えられており、埋甕とみられる。掘方の断面形は確認できなかった。

[出土遺物] 埋甕を図示した。112 は土器の甕である。焼成や色調は瓦質に近い。

[時期] 遺構の時期は不明である。

S K 27 (埋桶) (第 109・130 図、図版 46・52)

[位置・重複] 調査地点南東部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形を呈し、長径 52cm、短径 42cm、深さ 20cmを測る。掘方は西側の底面がプラスチック状に突出しており、そこに曲物の桶が据えられている。曲物は径 40cmを測る。

[検出状況・埋土] 表土直下の地山上面で検出した。埋土は上層に暗灰黄色砂質シルト、下層に黒褐色粘土質シルトが堆積し、底面に曲物の桶が設置されている。また採取した種子の同定結果では、モモ・ウメ・カボチャを検出しており、便槽であった可能性がある。

[出土遺物] 曲物の他に磁器・陶器・土器・土製品などが出土しており、そのうち 3 点を図示した。113 は肥前系磁器の紅皿で、上絵付を施す。114 は土鈴で、115 は箸である。

[時期] 出土遺物から江戸時代後期と推定する。

S P 21 (第 109 図)

[位置・重複] 調査地点南西隅部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 26cm、短径 22cm、深さ 14cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II c 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。時期は不明である。

S P 22 (第 109 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置し、S P 23 と隣接する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 32cm、短径 28cm、深さ 8cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] 表土直下の地山上面で検出した。埋土は暗灰黄色砂質シルトである。

[出土遺物・時期] 土器が 1 点出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S P 23 (第 109・130 図、図版 52)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置し、S P 22 と隣接する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 36cm、深さ 12cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] 表土直下の地山上面で検出した。埋土は暗灰黄色砂質シルトで、径 5～10cmの礫を含む。

[出土遺物] 陶器・土器がそれぞれ 1 点出土しており、陶器を図示した。116 は肥前系陶器の呉器手碗である。

[時期] 出土遺物から近世の可能性はある。

S S 21 (集石遺構) (第 108 図、図版 46)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いでは S K 22 より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 68cm、短径 53cm、深さ 26cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況] 地山上面まで掘り下げて検出した。径 10～20cmの礫が充填された集石遺構である。石を二段に積んで構築しているが、底面に捨杭はなかった。構造物の基礎の可能性はあるが、調査地点内では同様な遺構はない。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器など少量出土したが、図示できる遺物はない。切り合いや検出状況から近代の可能性が高い。

S D 21 (土管) (第 108・131 図、図版 52)

[位置・重複] 調査地点東側に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 調査地点東壁に沿って南北方向に走る。溝状の掘方を持ち、底面に素焼きの土管を検出した。土管が露出した範囲は南北 6 m である。

[検出状況] 現状の宅地の区画境界を調査地点の境界としているが、その境界の現地盤下 30cm で土管を検出した。土管の一端部は継手となっており、それぞれの土管を継手に挿入して連結している。調査は平面的な記録と土管の採取に止めた。

[出土遺物] 出土遺物は土管の掘方に混入していたもので、磁器・土器・ガラス製品などがある。4 点を図示した。117・118 は土器である。117 は火鉢、118 は焙烙である。119 は素焼きの土管で、一端部が継手となる形状である。長さ 67.5cm、外径 16.5cm を測る。継手部分の外径は 22.5cm である。120 はガラス瓶で、体部と底部に陽刻があり、体部は「みや子染」と読める。染料の容器である。

[時期] 図示していないが戦災焼土層の I b 層下で検出しており、土管が敷設された時期は少なくとも昭和 20 年以前である。当初は下水道管と考えたが、山梨県県土整備部の冊子『山梨県の下水道』によれば甲府市が下水道事業に着手したのは戦後の昭和 29 年である。暗渠排水など何らかの導水管として敷設したものと考えておきたい。

S X 21 (不明遺構) (第 110・131 図、図版 46・52)

[位置・重複] 調査地点北西隅部に位置する。切り合いでは S K 21 に先行する。

[形状・規模] 調査地点外へ延びており全容は不明である。想定される平面形は方形で、検出部分では長さ 2.45m、幅 1.82m、深さ 1.2m を測る。掘方の断面形は長軸方向では方形を呈すとみられ、短軸方向ではフラスコ状である。短軸方向の、特に西壁ではフラスコ状の突出が顕著であった。

[検出状況・埋土] II a-2 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は 3 層に分かれる。上層・中層は黒褐色粘土、下層は灰色シルトを基調とし、それぞれにブロック土が含まれる。地山 (III b 層・III c 層) を掘り返してそのまま埋めたかのような埋土で、ブロック土も地山由来とみられた。遺物などの混入物も少なく、人為的に短期間で埋め戻しが行われたと推測する。埋土に混入物が少なく締まりも強いため、調査時は地山との識別が困難であった。掘り進める内に、水分の含有率の違いからか掘り返した埋土からは水分が染み出るような状態を把握できたため、そうしたことも指標としながら、掘方の検出を進めた。また、遺構規模から何らかの構築材の出土を想定したが、土坑の南壁の底面付近で棒状の部材が 1 点出土した他は、小さな木片がわずかに混入するだけで、構築材とみられる遺物はなかった。出土遺物も土坑の規模に比すると非常に少なく、陶器と土器の小片がそれぞれ 1 点である。

[出土遺物] 出土遺物は 2 点で、1 点を図示した。121 は土器のカワラケで口縁部内面に煤が付着する。

[時期] 切り合いや出土遺物から、江戸時代後期に遡る可能性がある。

S X 22 (不明遺構) (第 111・131 図、図版 46・52)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S K 26 (埋甕) に先行する。

[形状・規模] 調査地点外へ延びており全容は不明である。想定される平面形は方形に近く、北側がやや広がる。検出部分では長さ 2.42m、幅 1.62m、深さ 1.0m を測る。掘方の断面形は長軸方向は方形とみられ、短軸方向ではフラスコ状である。また、底面で土坑状遺構を 2 基検出している。北側の遺構は、長さ 58cm、幅 54cm、深さ 34cm である。南側の遺構は長さ 62cm、幅 50cm、深さ 20cm である。平面形はいずれも方形で、掘方の断面形も方形である。

[検出状況・埋土] I b 層 (戦災焼土層) を剥いだ地山上面で検出した。埋土は 4 層に分かれるがいずれも黒色粘土を基調とする。最上層は径 5～10cm の礫を含む。下位の 3 層は地山の III b 層に由来するとみられる暗緑灰色砂のブロック土を含む。いずれの土層も混入物が少なく、地山を掘り返して、そのまま埋め戻したような埋土で、短期間で人為的な埋め戻しが行われたと推測する。底面で検出した 2 基の土坑状

遺構も同様な埋土であったが、締まりはゆるい。北側の土坑状遺構の近辺で板状の部材、南側の土坑状遺構の底面でも板状と棒状の部材が出土した。いずれの部材も原位置からは動いていると推測するが、礎板または構築材の一部であった可能性を考えたい。

[出土遺物] 木製品の他に出土遺物はない。122は礎板、123は部材か。

[時期] 出土遺物や切り合いからは時期を推定しづらいが、類似遺構のS X 2・21・51などがいずれも近世であり、S X 22も近世の可能性が高い。

遺構外出土遺物 (第132・133図、図版53)

124～135は磁器である。124は瀬戸・美濃系磁器の丸碗で漆継の痕跡が残る。125・126は肥前系磁器の筒形碗で、127は瀬戸・美濃系磁器で、口縁の反りが弱いが端反碗である。128・129は肥前系磁器の皿で、128の高台内にはハリ支えの目跡が5ヶ所みられる。130・131は肥前系磁器の鉢で、いわゆるそば猪口である。132は肥前系磁器の段重である。133・134は碗蓋で、133は肥前系磁器である。135は肥前系磁器で蓋物の蓋である。136～139は陶器である。136は瀬戸・美濃系陶器の碗、137は瀬戸・美濃系陶器の灯明受皿、138は瀬戸・美濃系陶器の播鉢で、139は餌猪口である。140は土器のカワラケである。141は土製品で十能か。142～146は銭で、142・143は背十一波の寛永通宝である。144は明治16年銘の半銭で、145・146は昭和16年銘、昭和15年銘の十銭である。147は煙管の吸口で、羅字の一部が残存する。148は飾り金具である。149は石製の硯である。

第4項 D地点

D地点は、連雀町通りの南側でC地点の東側に位置する。現況は、民家の駐車スペースの前となっており、車の出入りを確保するため、調査は反転掘削で行った。図示していないが、調査地点の北半部は現地盤下20～30cmまで碎石の造成土であり、その直下が地山となる。南半部では、碎石の造成土の下は広く攪乱され、鉄筋コンクリートの瓦礫などが埋まっていた。現地盤下1mまで掘り下げても地山は露出せず、攪乱下に遺構面および遺構は遺存しないと判断できた。D地点全体で検出した遺構は集石遺構1基である。

S S 31 (集石遺構・廃棄土坑) (第109図、図版47)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は方形を呈する。長さ54cm、幅46cm、深さ16cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況] 碎石の現表土直下の地山上面で検出した。径10～30cmの礫が5個投入されている。底面で焼土粒を検出しており、戦災時の瓦礫廃棄に伴う遺構の可能性がある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はないが、検出状況から現代の可能性はある。

遺構外出土遺物 (第133図、図版53)

150は肥前系磁器の碗で、破断面に焼継の痕跡がある。

第5項 E地点

E地点は、連雀町通りの南側でD地点の東側に位置する。現況は民家の駐車スペースの前となっていたが、住民のご協力により調査は全面掘削で行うことができた。D地点との間の約3mの範囲は、宅地への進入路の確保と現状で使用中の埋設構造物があったため、協議の上、調査対象外とした。調査地点の大部分は現表土のI層直下が地山となる。E地点全体で土坑3基、小穴1基、集石遺構1基、井戸2基、溝状遺構(土管)1条を検出した。

S K 41 (廃棄土坑) (第113・134図、図版47・53)

[位置・重複] 調査地点東側に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径50cm、短径42cm、深さ18cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I層直下の地山上面で検出した。埋土は褐灰色粘土質シルトを基調とし、上層は焼土ブロックを含む。下層は径10～20cmの礫と陶器・磁器・土器の破片が混入しており、廃棄土坑と推定する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器など7点が出土しており、そのうち2点を図示した。151は磁器の鉢で、焼継痕と焼継印が残る。152は陶器の土瓶である。

[時期] 埋土や出土遺物から近世と推定する。

S K 42 (廃棄土坑) (第113図、図版47)

[位置・重複] 調査地点南側に位置し、S S 41に隣接する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径52cm、短径42cm、深さ26cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] I層直下の地山上面で検出した。埋土は褐灰色砂質シルトを基調とする。焼土や炭化物のブロックを含んでおり廃棄土坑と推定する。

[出土遺物・時期] 出土遺物はないが、埋土から近世の可能性はある。

S K 43 (竪穴状遺構・廃棄土坑) (第113・134図、図版47・53)

[位置・重複] 調査地点西側に位置する。S D 41(土管)と一体となって検出した。

[形状・規模] 調査地点外へ延びるため全容は不明であるが、方形を呈し、南端部に半円状の張り出し部がある。検出部分では長さ4.38m、幅1.50m、深さ52cmを測る竪穴状の遺構である。底面部分はより成形された方形となっており、長さ2.74m、幅1.2mである。掘方の断面形は、長軸方向では方形で、北端部と南端部にテラス状の平坦面がある。短軸方向もほぼ方形であるが、東壁の中央部はややオーバーハングした形状となっている。

[検出状況・埋土] I層直下の地山上面で検出した。埋土は上層は暗オリーブ褐色粘土、中層に厚い焼土層が堆積する。下層はオリーブ褐色粘土を基調とした炭化物を多く含む層が堆積し、底面と壁面では板状の炭化材を検出した。また、遺構の北側では土管(S D 41)を検出した。土管の南端部はS K 43の北側のテラス状の部分にあり、そこから連結して調査地点の北側へと延びている。これらの検出状況から、S K 43には底面と壁面を板材で覆った槽状の構築物が敷設され、S D 41の土管が接続していたと推定する。また、槽状の構築物は火災によって焼失し、最終的に焼土や瓦礫の廃棄土坑として埋まった可能性が高い。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・瓦・ガラス製品の他、セメントのトタン板なども出土している。1点を図示した。153は磁器の平碗で、瀬戸・美濃系磁器か。

[時期] 出土遺物から現代である。

S P 41 (第113図)

[位置・重複] 調査地点南東隅に位置する。切り合いではS E 42より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径28cm、短径25cm、深さ14cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] I層直下の地山上面で検出した。埋土は褐灰色砂質シルトを基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S S 41 (集石遺構) (第113図、図版47)

[位置・重複] 調査地点南側に位置し、S K 42に隣接する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径64cm、短径56cm、深さ22cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況] I層直下の地山上面で検出した。径20～30cmの礫が3個据えられている。構築物の礎石の可能性はあるが、調査地点内では同様な遺構は検出できなかった。

[出土遺物・時期] 陶器の小片が1点出土したが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S E 41 (井戸) (第114・134図、図版47・53)

[位置・重複] 調査地点南西隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形の全容は不明であるが、円形と推測する。検出部分では長さ1.6m、幅1.0mを測る。掘方の断面形は上面付近は楕円状に開き、その下は円筒形である。現地盤下2mまで掘削したが、調査地点が狭小で、それ以上の断割掘削ができず、底面までの深さ・形状は確認できなかった。

[検出状況・埋土] I層直下の地山上面で検出した。埋土は上層では灰黄褐色粘土質シルトや黒色粘土、黒褐色砂など様々な土質の土が積み重なり、その下に黒色粘土ブロックを含む黄灰色粘土を基調とする土が堆積する。坑内に井戸側などの構築材は確認できない。素掘り井戸とみられる。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器などの小片が5点出土し、そのうち1点を図示した。154は肥前系陶器の刷毛目碗である。

[時期] 近代以降に廃絶したとみられるが、開削時期は近世に遡る可能性が高い。

S E 42 (井戸) (第114・134図、図版47・53)

[位置・重複] 調査地点南東隅に位置する。切り合いではS P 41に先行する。

[形状・規模] 平面形は円形で、径1.48mを測る。掘方の断面形は上面部分は播鉢状に開き、その下は円筒形となる。現地盤下2mまで掘削したが、調査地点が狭小で、それ以上の断割掘削ができず、底面までの深さ・形状は確認できなかった。

[検出状況・埋土] I層直下の地山上面で検出した。埋土は最上層は黄灰色粘土を基調とし、第2層に締りのゆるい暗灰黄色粘土、第3層に褐色粘土質シルトが堆積する。坑内に井戸側などの構築材は確認できない。素掘り井戸とみられる。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器など8点出土し、そのうち1点を図示した。155は小坏で、肥前系磁器か。焼継痕を残す。また第2層の下位でヒトの頭蓋骨が出土した。

[時期] 近代以降に廃絶したとみられるが、開削時期は近世に遡る可能性が高い。

S D 41 (土管) (第114図、図版47)

[位置・重複] 調査地点北側に位置する。S K 43と一体で検出した。

[形状・規模] 南端部はS K 43と接続し、北端部は調査地点外まで延びる。検出部分では長さ2m、幅40cm、深さ40cmを測る。掘方の断面形は逆台形である。

[検出状況] I層直下の地山上面で検出した。底面では素焼きの土管を検出した。土管の一端部は継手となっており、それぞれの土管を継手に挿入して連結している。S K 43と接続しており、一連の遺構と推定する。

[出土遺物・時期] 土管の他に出土遺物はない。遺構の時期は現代である。

遺構外出土遺物 (第134図、図版53)

156は肥前系磁器の半球碗で、焼継・焼継印が残る。157は銭で、大正11年銘の一銭銅貨である。

第6項 F地点

F地点は連雀町通りの南側で、今回の調査範囲の東端部に位置する。現況は民家の駐車スペースの前となっていたが、住民のご協力により調査を全面掘削で行うことができた。E地点との間の約3mの範囲は使用中の埋設構造物があったため、協議の上、調査対象外とした。調査地点の大部分は現表土の碎石層や戦災焼土層のI層直下が地山となる。F地点全体で、集石遺構4基、不明土坑1基を検出した。

S S 51 (集石遺構) (第116図、図版48)

[位置・重複] 調査地点西側に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形を呈する。長さ52cm、幅40cm、深さ12cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況] I層直下の地山上面で検出した。径10～30cmの礫が5個据えられた集石遺構である。構造物の基礎であった可能性があり、S S 52・53と同じ軸線上に並ぶ。S S 52との芯々距離は90cmである。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S S 52 (集石遺構) (第116図、図版48)

[位置・重複] 調査地点西側に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形に近い。径46cm、深さ20cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況] I層直下の地山上面で検出した。径20～30cmの礫が3個据えられた集石遺構である。構造物の基礎であった可能性があり、SS51・53と同じ軸線上に並ぶ。SS51・53との芯々距離は、それぞれ90cmである。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

SS53 (集石遺構) (第116図、図版48)

[位置・重複] 調査地点西側に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ46cm、幅38cm、深さ14cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況] I層直下の地山上面で検出した。径10～30cmの礫が5個据えられた集石遺構である。構造物の基礎であった可能性があり、SS51・52と同じ軸線上に並ぶ。SS52との芯々距離は90cmである。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

SS54 (集石遺構) (第116図、図版48)

[位置・重複] 調査地点東側に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長さ50cm、幅26cm、深さ42cmを測る。掘方の断面形は擂鉢状である。

[検出状況] I層直下の地山上面で検出した。径10～30cmの礫が3個据えられた集石遺構である。構造物の基礎であった可能性があるが、調査地点内でSS54と同じ軸線上に並ぶ遺構は確認できなかった。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

SX51 (不明遺構) (第116・117・134・135図、図版48・54)

[位置・重複] 調査地点北東隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形の全容は不明であるが方形に近い形状と推測する。検出部分では長さ2.8m、幅2.0m、深さ1.6mを測る。掘方の断面形は長軸方向は逆台形である。短軸方向は壁面上部は幅の狭い小階段状で、下部は垂直となり、底面は平坦である。壁面上部が小階段状となっているのは、掘削時の足掛かりとした可能性がある。また、遺構図のEセクションでも検出面から50cmほどの深度に、幅と奥行がそれぞれ20cmほどの平坦面を検出した。当初はSX51の西壁にその断面を検出したため、柱穴状の別遺構の可能性も想定しながら調査したが、切り合いはなく、SX51の構築時に足掛かりとして地山を掘り込んで造り出したものと推定する。調査時にも坑内への昇降に大変好都合であった。またSX51の底面では溝状遺構と土坑状遺構を検出し、それぞれSD51・52、SK51・52として記録した。検出部分ではSD51は長さ60cm、幅57cmで土層断面で確認した深さは82cmである。SD52は長さ52cm、幅52cmで土層断面で確認した深さは80cmである。SK51は長さ1.0m、幅58cmで土層断面で確認した深さは62cmである。SK52は長さ1.0m、幅66cmで土層断面で確認した深さは52cmである。

[検出状況・埋土] I層直下の地山上面で検出した。遺構の北壁は、上部は調査地点外となり検出できなかったものの下部と底面は確認できた。東壁も調査地点外となり検出できなかったが、北東コーナーの一部を確認した。埋土は調査地点の東壁で観察したが、掘削深度が深くなったため現地盤から1.5mで段切りし、下位については段切りによって生じた断面を用いて観察した。遺構断面図は、現場で上下二面の断面を観察しつつ合成して作成したものである。第1層から第4層まではオリーブ褐色砂質シルトを基調とし、泥岩粒や黄灰色粘土のブロック土を含む。第5層は褐色砂質シルトの客土とみられる土層で、硬く締まった硬化面となっている。第6～9層は黄灰色砂質シルトや黄灰色粘土質シルトを基調とする締りのゆるい埋土である。

また、断面観察で確認した遺構をSD51・52およびSK51・52として記録した。SD51・52は、SX51の底面を東西方向に走る溝状遺構である。遺構の上面はそれぞれ第5層の硬化面を切っている。北側のSD51の底面では径20cmの礫、南側のSD52の底面では長さ20cm、厚さ10cmほどの長方形の板材を検出している。SD51では西端部がフラスコ状に突出する。さらにSD51・52の下からそれぞれ土坑状遺構を検出した。SD51の下で検出したのがSK51で、その底面では長さ30cmの扁平な礫を

検出した。S D 52の下ではS K 52を検出し、その底面では一辺30cm、厚さ10cmほどの正方形の木材を検出している。S D 51・52の底面の礫と木材の上面の高さは同程度であり、S K 51・52の底面の礫と板材についても同様である。材質の違いはあるものの、その位置関係から、構造物の柱の礎石・礎板であった可能性が高く、礎石・礎板ともに2段重なって検出したことになる。S K 51・52が先行する基礎構造で、S D 51・52はその造り替えとみることできる。便宜上、別の遺構番号を付与したが、S X 51、S D 51・52、S K 51・52は一連の遺構と推定でき、火の見櫓など高さのある構築物の基礎構造の可能性を考えたい。

[出土遺物] 土坑の規模と比べて遺物の出土量は少ない。S X 51の底面で検出したS K 51からは158の木製部材と159の碗形の鉄滓が出土した。また、S K 52で160の礎板、S D 52で161の礎板が出土している。S X 51の埋土では、上層で磁器・陶器などが出土し、そのうち3点を図示した。162は上絵付を施した磁器の平碗である。164・165は陶器で、164は土瓶の蓋である。165は鉢形の容器で、その法量や形状から防衛食容器という戦時中の統制品の可能性はある。これらはS X 51埋没後の再堆積土とみられる最上層の第1層に混入した遺物である。S X 51下層の第4層からは163の瀬戸・美濃系陶器の播鉢、166の土器のカワラケ、167の碗形の鉄滓が出土した。他にも小片で図示できなかったが志野とみられる陶器片が出土している。163の播鉢の推定生産年代は17世紀後葉から18世紀前葉に比定できる。[時期] S X 51の底面で検出したS K 52の底面で出土の礎板(160)を試料としたウイグルマッチング法による放射性炭素年代測定の結果は、1563-1601calAD(61.59%)および1614-1638calAD(33.86%)で、甲府城下町が形成された16世紀後半から17世紀前半の時期に重なる。また、第4層で出土した播鉢の推定生産年代が17世紀後葉から18世紀前葉に比定できる。このことから、少なくとも18世紀中頃までは機能していた可能性が高い。S X 51は甲府城下町の形成期に構築され、造り替えを経て、18世紀中頃までに礎石や礎板以外の構築材を撤去した上で埋め戻された可能性がある。

遺構外出土遺物(第135図、図版54)

168～170は磁器である。168は丸碗、169は木盃形の小坏、170は銅板転写の皿である。171～173は陶器で、171は箱形の植木鉢、172は行平鍋、173は行平鍋の蓋である。174は一厘銅貨で、明治17年銘がある。175はバッチ(記念章)か。表面に「上棟式」の文字と鳥・植物のレリーフ、背面に「平和記念東京博覧会」のレリーフとピンの痕跡がある。平和記念東京博覧会は大正11年に上野公園で開催された博覧会である。176はガラス瓶で底面に「平尾店」の刻印があり、化粧品の瓶とみられる。

第7項 G・H地点

G・H地点は連雀町通りの北側の西端部に位置する。現況は、保育園の駐車スペースおよび保育園への進入路であった。G・H地点間の約4mの範囲には使用中の埋設構造物が集中しており、協議の上、調査対象外とした。現地盤下では部分的にI b層(戦災焼土層)やI c層(整地層)が遺存していたものの、大部分は碎石層(約30cm)の直下が地山となる。G地点の南半部は攪乱され鉄筋やコンクリートの瓦礫で埋まっており、瓦礫を除去して確認したが、遺構は遺存しなかった。同様にH地点の北東部も戦災時とみられる瓦礫で攪乱されており、攪乱下に遺構は遺存しない。G・H地点合わせて、小穴2基、集石遺構1基を検出した。

S P 61(第118図、図版48)

[位置・重複] G地点北東隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径36cm、深さ10cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] I c層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物・焼土の粒を含む。

[出土遺物・時期] 土器の小片が2点出土したが図示できない。遺構の時期は不明である。

S P 62 (第 118・136 図、図版 48・54)

[位置・重複] G地点東側に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 42cm、深さ 21cmを測る。掘方の断面形は播鉢状に近いが、中央の最深部が突出する。

[検出状況・埋土] I b層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は上層は黒褐色粘土を基調とし、炭化物や灰のブロック土を含む。下層は黒色粘土を基調とし、焼土粒と戦災の瓦礫が混入する。

[出土遺物] 177 は棧瓦である。側面に屋号の一部とみられる「政」の字が刻印されている。

[時期] 戦災瓦礫が出土しており、現代である。

S K 71 (集石遺構) (第 118 図、図版 48)

[位置・重複] H地点北半部に位置する。東端部は戦災時とみられる瓦礫で覆われていた。

[形状・規模] 平面形の全容は不明だが楕円形と推測する。検出部分では長さ 52cm、幅 46cm、深さ 30cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況] I b層を剥いだ地山上面で検出した。径 10～30cmの礫が6個投入されており、構造物の基礎であった可能性がある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はないが、戦災の瓦礫に覆われていたことから、近代の可能性が高い。

遺構外出土遺物 (第 136 図、図版 54)

178～182 は G地点の出土遺物である。178～180 は肥前系磁器、181 は瀬戸・美濃系磁器である。

178 は丸碗、179 は小坏、180 は蛇の目凹形高台の皿である。181 は鉢で、いわゆるそば猪口である。

182 は土器の火鉢か。体部に印花の文様が施され、口縁に煤が付着する。

183～185 は H地点の出土遺物で、183 は磁器の平碗、184 は肥前系磁器の瓶、185 は軒棧瓦である。

第8項 I・J地点

I・J地点は連雀町通りの北側で、今回の調査範囲の中央部に位置する。I・J地点間の約3mの範囲には埋設構造物や電柱があり、協議の上、調査対象外とした。

I地点の現況は民家の駐車スペースへの進入路であった。住民のご協力により調査は全面掘削で行ったが重機で現地盤下約1mまで掘り下げても瓦礫や鉄筋などが混入する攪乱層であった。遺構・遺物は遺存しないと判断し、調査地点の位置の記録と写真撮影を行い、当日中に埋め戻して調査を終了した。

J地点の現況は歯科医院駐車場への進入路となっていた。進入路確保のため調査は反転掘削で行った。調査地点東端部で部分的にI b層(戦災焼土層)やI c層が遺存していたが、大部分はI a層とした碎石層の直下が地山となる。現地盤から地山までの深度は、調査地点西半部で30～60cm、東半部で20～40cmである。地山面を精査したが、遺構は検出できなかった。

遺構外出土遺物 (第 136 図、図版 54)

I地点の出土遺物はない。

186・187 は J地点の出土遺物である。186 は肥前系磁器の筒形碗、187 は鉢で、肥前系磁器か。

第9項 K地点

K地点は連雀町通りの北側で、J地点の東側に位置する。現況は民家の駐車スペースへの進入路であった。進入路確保のため、調査は反転掘削で行った。東半部はI b層(整地層)の下にII層(黒褐色粘土質シルト)が部分的に遺存していたが、西半部ではI b層直下が地山となる。現地盤から地山までの深度は約30cmと浅い。遺構検出は地山上面で行った。K地点では土坑2基、集石遺構2基、溝状遺構4条を検出した。

S K 101 (第 120・137 図、図版 55)

[位置・重複] 調査地点南側に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形に近い。長径 1.0m、短径 85cm、深さ 40cmを測る。掘方の断面形は、底面とその立ち上がりは播鉢状で、そこから両側に小段をもって再び立ち上がる形状である。

[検出状況・埋土] II層を剥いだ地山上面で検出したが、調査地点壁面の観察ではII層を切っている。埋土は、上層は暗オリーブ褐色粗砂、下層は黒褐色砂を基調とし、それぞれに径 1～3cmの小礫が混じる。

[出土遺物] 磁器・陶器・瓦・ガラス製のおはじきなど 4 点出土しており、そのうち 1 点を図示した。188 は肥前系磁器の皿である。器面に被熱痕を残す。

[時期] 検出状況や出土遺物から近代以降である。

S K 102 (第 120・137 図、図版 55)

[位置・重複] 調査地点北側に位置する。切り合いでは S S 101 に先行する。

[形状・規模] 調査地点外へ延びるため全容は不明だが、円形と推測する。検出部分では長さ 50cm、幅 30cm、深さ 34cmを測る。掘方の断面形は逆台形に近い。

[検出状況・埋土] I b層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は暗灰黄色砂質シルト、下層は黒褐色砂質シルトや暗灰黄色粘土質シルトを基調とし、いずれも焼土・炭化物粒、煤が付着した礫を含む。

[出土遺物・時期] 189 は寛永通宝である。埋土が戦災焼土層と類似しており現代と推定する。

S S 101 (廃棄土坑・集石遺構) (第 120・137 図、図版 55)

[位置・重複] 調査地点北側に位置する。切り合いでは S S 102 に先行し、S K 102 より新しい。

[形状・規模] 調査地点外へ延びるため全容は不明だが、楕円形に近いと推測する。検出部分では長さ 50cm、幅 34cm、深さ 22cmを測る。掘方の断面形は播鉢状に近い。

[検出状況・埋土] I b層下で検出した。埋土は上層は黄灰色シルトのブロック土で、下層は黒褐色砂質シルトを基調とし、粒状・ブロック状に焼土を含む。煤が付着した径 10～20cmの礫が複数混入しており、戦災時に焼土や礫を投棄した廃棄土坑と推定する。

[出土遺物] 磁器・陶器・瓦など 4 点出土しており、そのうち 2 点を図示した。190 は磁器の爛徳利、191 は陶器の甕で、高台内に「晴雲山」の刻印と墨書の「仁三」の文字がある。

[時期] 埋土や切り合いから現代と推定する。

S S 102 (廃棄土坑・集石遺構) (第 120・137 図、図版 55)

[位置・重複] 調査地点北側に位置する。切り合いでは S S 101 より新しい。調査地点壁面の観察ではII層を切っている。

[形状・規模] 調査地点外へ延びるため全容は不明だが、楕円形に近いと推測する。検出部分では長さ 55cm、幅 15cm、深さ 38cmを測る。掘方の断面形は逆三角形に近い。

[検出状況・埋土] I b層下で検出した。埋土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする。陶磁器片や瓦、煤が付着した径 10～20cmの礫の他、水晶片なども混入していた。戦災時にそれらを投棄した廃棄土坑と推定する。

[出土遺物] 1 点を図示した。192 は磁器で型紙摺りの平碗である。

[時期] 埋土や切り合いから現代と推定する。

S D 101 (第 120 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S S 101 に先行する。

[形状・規模] 南北方向に走る溝状遺構で、S D 102～104 と並走する。検出部分では長さ 3.2m、幅 52cm、深さ 4cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。S D 102～104 と並走しており埋土も類似することから、同時期の遺構と推定する。切り合いから近代の可能性はある。

S D 102 (第 120 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。切り合いでは S S 102 に先行する。

[形状・規模] 南北方向に走る溝状遺構で、S D 101・103・104 と並走する。検出部分では長さ 3.2m、幅 20cm、深さ 8cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器の小片が 2 点出土したが図示できない。切り合いから近代の可能性はある。

S D 103 (第 120 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 南北方向に走る溝状遺構で、S D 101・102 と並走する。また、位置関係や埋土から、S D 104 は同一の遺構であった可能性が高い。検出部分では長さ 50cm、幅 15cm、深さ 4cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は近代の可能性はある。

S D 104 (第 120 図)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 南北に走る溝状遺構で、S D 101・102 と並走する。位置関係や埋土から、S D 103 とは同一の遺構であった可能性が高い。検出部分では長さ 80cm、幅 17cm、深さ 4cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。S D 101・102・103 と同時期の遺構とみられ、遺構の時期は近代の可能性はある。

第 10 項 L 地点

L 地点は連雀町通りの北側で、今回の調査範囲の東端部に位置する。現況は調査地点およびその周辺の構造物が撤去され空地となっていたため、調査は全面掘削で行った。I a 層（現表土）の下に I b 層とした焼土・炭化物を含む層が堆積するが、戦災焼土層ではなく、その後、攪乱された層である。I b 層直下が地山で、現地盤から地山までの深度は約 20cmと浅い。遺構検出は地山上面で行った。L 地点では土坑 4 基、小穴 2 基を検出した。

S K 111 (第 122 図)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 82cm、短径 57cm、深さ 8cmを測る。掘方の断面形は皿状に近い。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトに焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器・土器・ガラス製品の破片がそれぞれ 1 点出土したが、図示できない。出土遺物から現代と推定する。

S K 112 (第 122 図)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 44cm、深さ 16cmを測る。掘方の断面形は楕鉢状に近いが、西側の立ち上がりの途中には段がつく。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、上層は焼土・炭化物の粒を含み、下層は泥岩ブロックを含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S K 113 (廃棄土坑) (第 122・137 図、図版 49・55)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いでは S K 114 より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 65cm、短径 47cm、深さ 13cmを測る。掘方の断面形は挿鉢状に近いが、北側の立ち上がりの途中には段がつく。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黄灰色砂質シルトを基調とし、上層には径 1～3 cmの小礫に混じって陶磁器の破片が投棄されていた。廃棄土坑と推定する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土製品が少量出土した。そのうち 3 点を図示した。193 は肥前系磁器の小坏、194 は陶器の土瓶である。195 は土製品で、亀形である。

[時期] 出土遺物から近世と推定する。

S K 114 (廃棄土坑) (第 122・137 図、図版 49・55)

[位置・重複] 調査地点北西隅に位置する。切り合いでは S K 113 に先行する。

[形状・規模] 調査地点外へ延びるため平面形の全容は不明だが、検出部分では不整形で、長さ 3.20m、幅 1.28m、深さ 12cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂質シルトを基調とし焼土・炭化物を粒状に含む。下層は層厚 2～4 cmの薄い炭化物層となっており、少量の炭化材も検出した。火災で生じた焼土・炭化材などを投棄した廃棄土坑と推定する。

[出土遺物] 磁器・陶器が少量出土し、5 点を図示した。196 は磁器で、端反形の小平である。肥前系磁器であり、推定生産年代は 17 世紀後葉～18 世紀中葉 (1680～1740 年代) である。197～200 は陶器である。197・198 は碗で、197 は瀬戸・美濃系陶器の天目茶碗である。高台内が直線的に削り込まれた内反り高台であり、大窯Ⅱ～Ⅳ期 (1530～1585 年頃) と推定される。199 は瀬戸・美濃系陶器の鉢か。200 は瀬戸・美濃系陶器の挿鉢である。

[時期] 出土遺物から江戸時代前期～中期と推定する。

S P 111 (第 122 図)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形はやや不整形な楕円形で、長径 34cm、短径 26cm、深さ 2 cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した焼土範囲である。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、粒状の焼土を多く含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。調査所見では埋土が戦災焼土に類似しており、現代の可能性が高い。

S P 112 (第 122 図、図版 55)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形はやや不整形な楕円形で、長径 38cm、短径 32cm、深さ 6 cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

遺構外出土遺物 (第 137 図、図版 55)

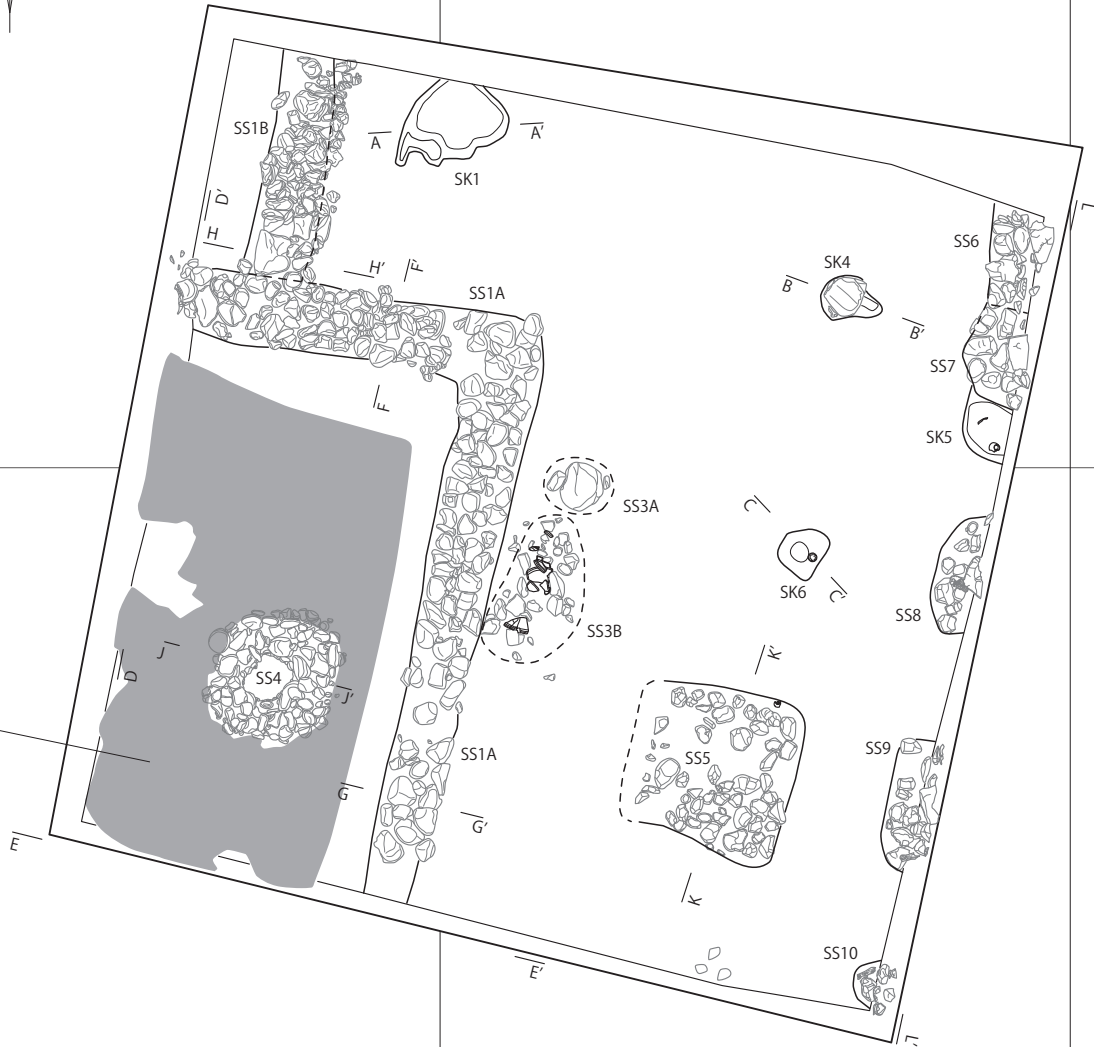
201 は土器の火鉢か。202 は泥面子である。203 は土製品で、七輪の「さな」である。204 は寛永通宝か。205・206 は煙管の吸口である。

X-37,970



X-37,975

漆喰遺存範囲



A地点上層遺構全体図(1)

X-37,980

Y6,905

Y6,910

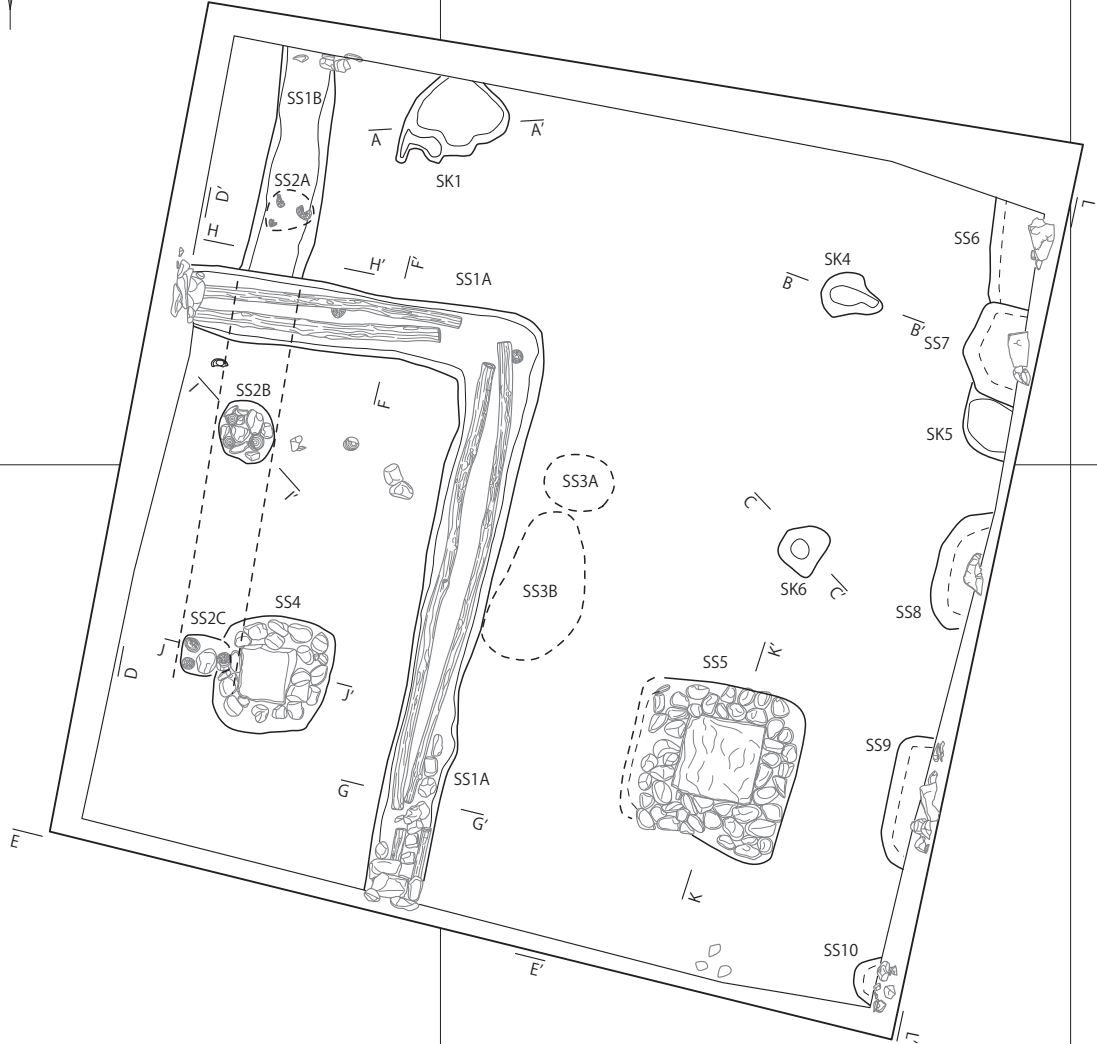


第97図 A地点(1)

X-37,970



X-37,975



X-37,980

A地点上層遺構全体図(2)

Y6,905

Y6,910

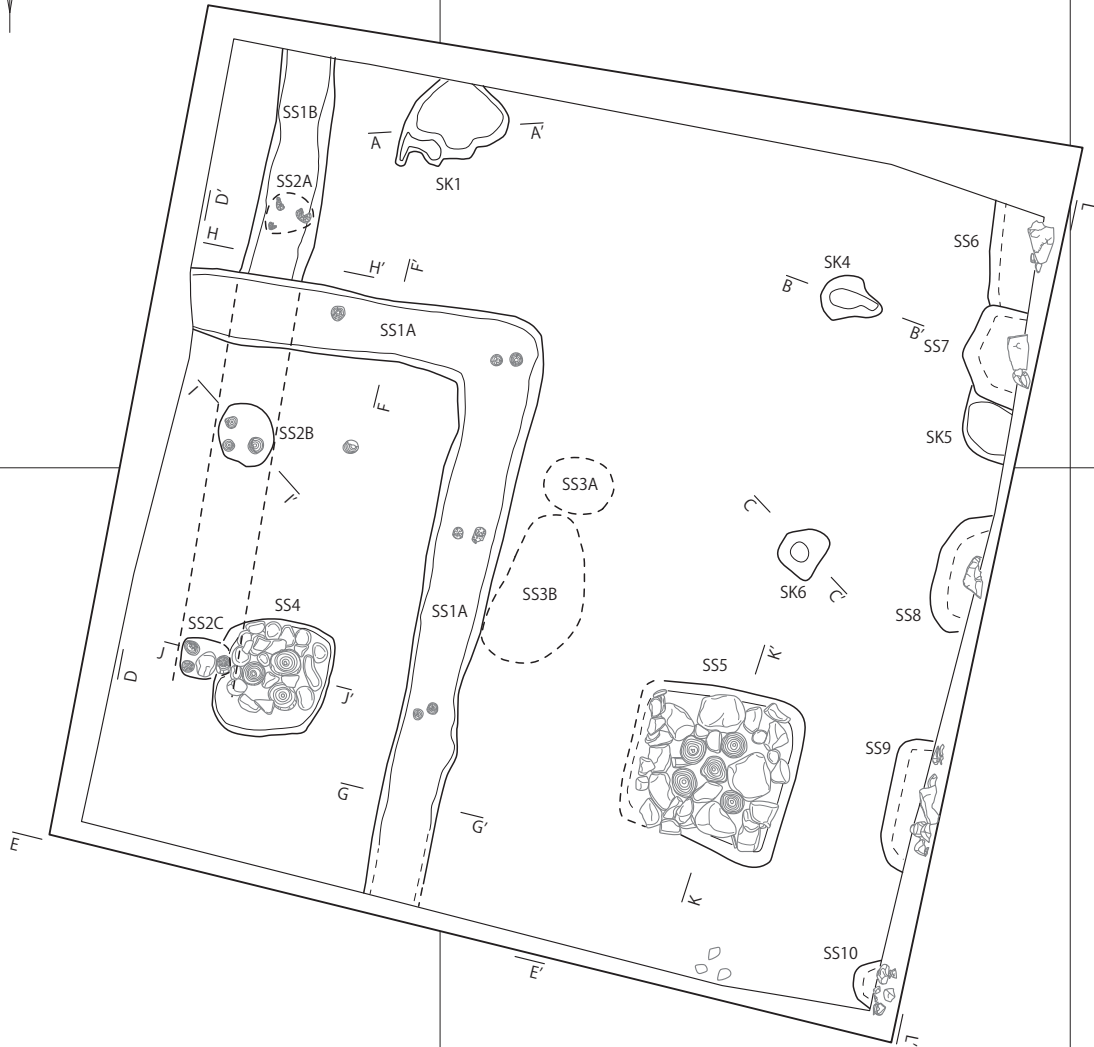


第98図 A地点(2)

X-37,970



X-37,975



A地点上層遺構全体図(3)

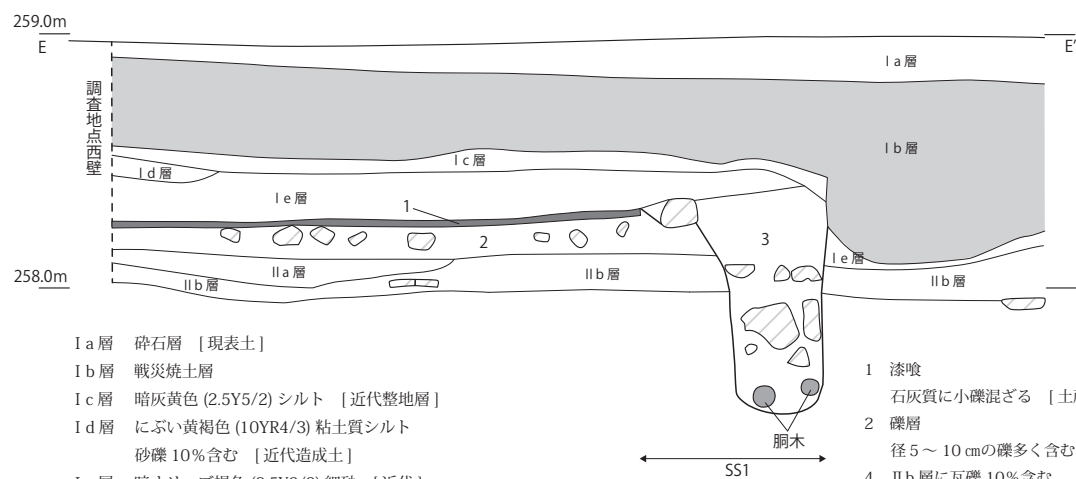
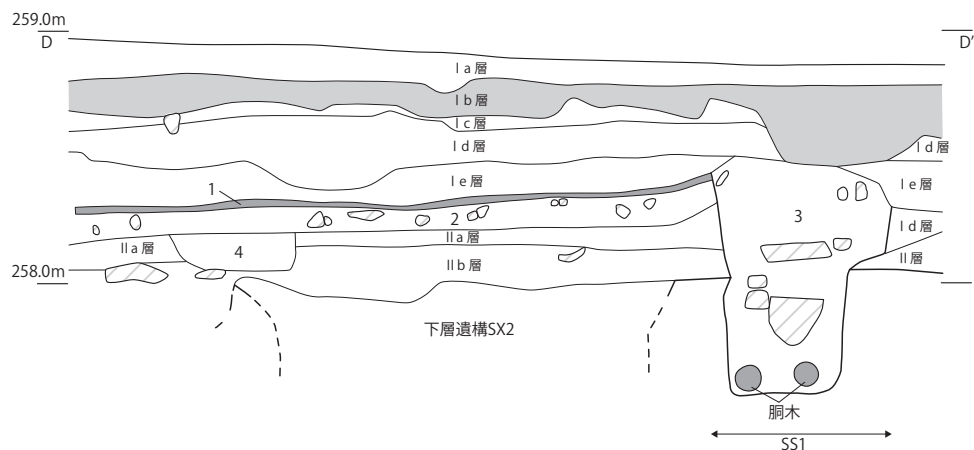
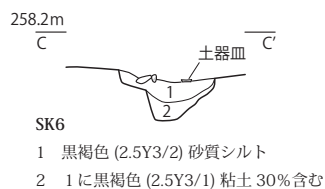
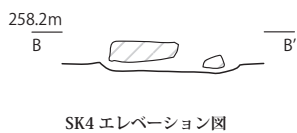
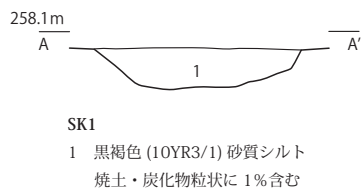
X-37,980

Y6,905

Y6,910

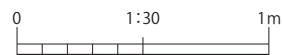
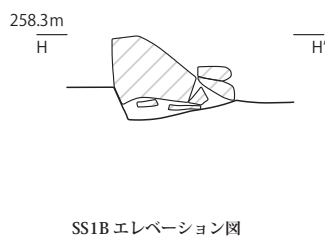
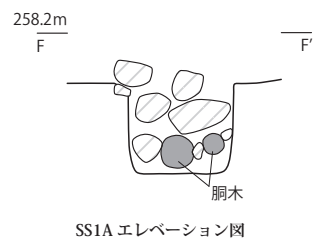


第99図 A地点(3)

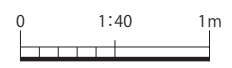
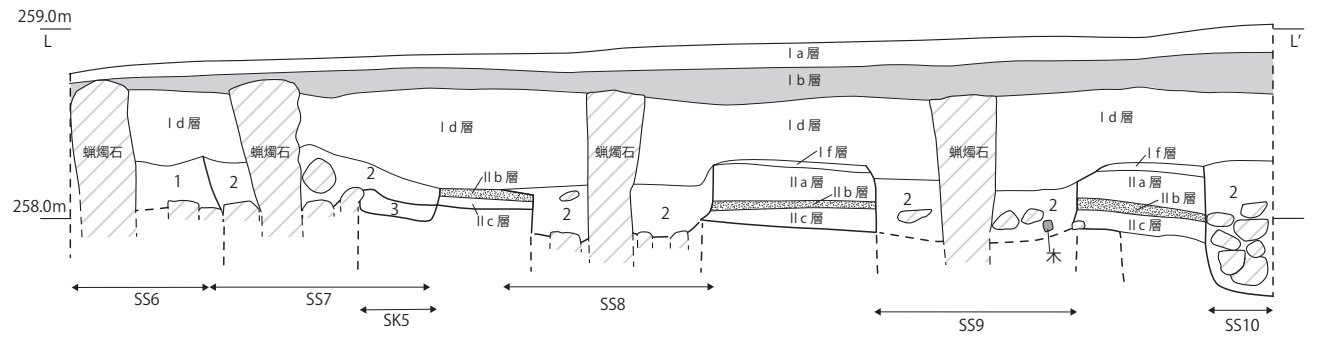
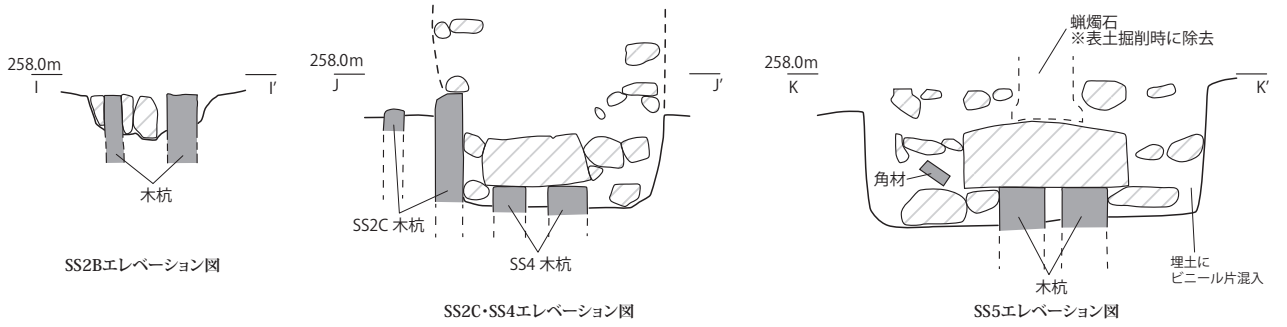


- I a 層 碎石層 [現表土]
- I b 層 戦災焼土層
- I c 層 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト [近代整地層]
- I d 層 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘土質シルト
砂礫10%含む [近代造成土]
- I e 層 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂 [近代]
- II a 層 黒色 (2.5Y2/1) 粘土
暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘土ブロック状に3%含む
- II b 層 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト
炭化物を薄層状に7%含む

- 1 漆喰
石灰質に小礫混ざる [土蔵床面か]
- 2 礫層
径5~10cmの礫多く含む [漆喰の基盤層]
- 4 II b 層に瓦礫10%含む
- SS1
3 黒色 (2.5Y2/1) 粘土
径10~30cmの礫多く含む
底面に径10cmの胴木を敷設 [土蔵の布張り基礎]



第100図 A地点(4)



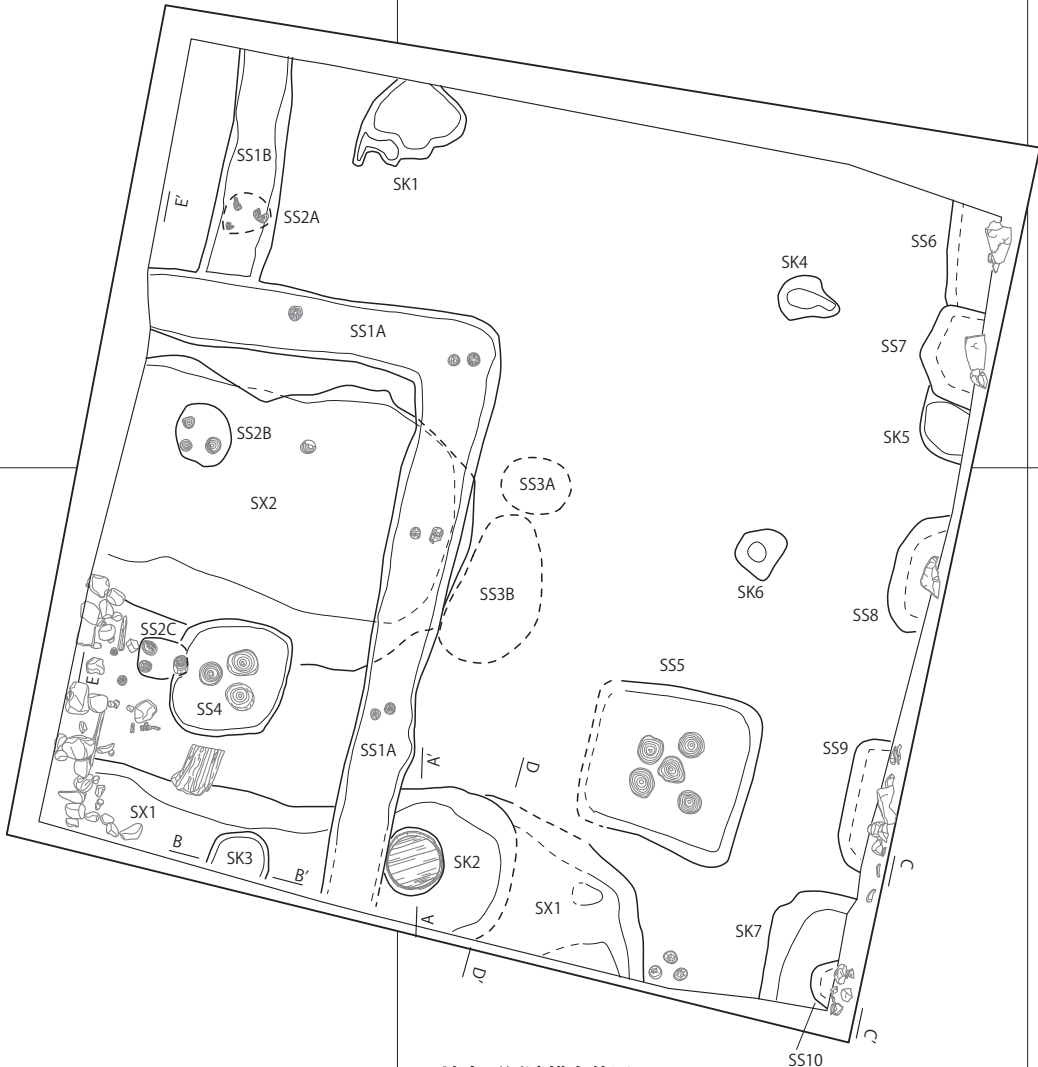
- I a 層 碎石層 [現表土]
 - I b 層 戦災焼土層 瓦礫・焼土粒含む
 - I d 層 暗褐色 (10YR3/3) 粘土質シルト
径 10 ~ 20 cm の礫 30% 含む [造成土]
 - I f 層 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
石灰質を薄く層状に 10% 含む
硬く締まる [整地層]
 - II a 層 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質シルト
 - II b 層 炭化物層 締まりゆるい
 - II c 層 黒褐色 (5Y3/1) 粘土質シルト
硬く締まる [整地層]
 - III a 層 黒色 (2.5Y2/1) 粘土
泥岩粒状に 10% 含む [地山]
- SS6・SS7・SS8・SS9・SS10 [近代建物の基礎]
 - 1 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土
灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘土マーブル状に 10% 含む
 - 2 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土
灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘土マーブル状に 30% 含む
 - SK5
 - 3 黒褐色 (10YR3/1) 砂 ※SS7>SK5

第101図 A地点(5)

X-37,970



X-37,975



A地点下層遺構全体図

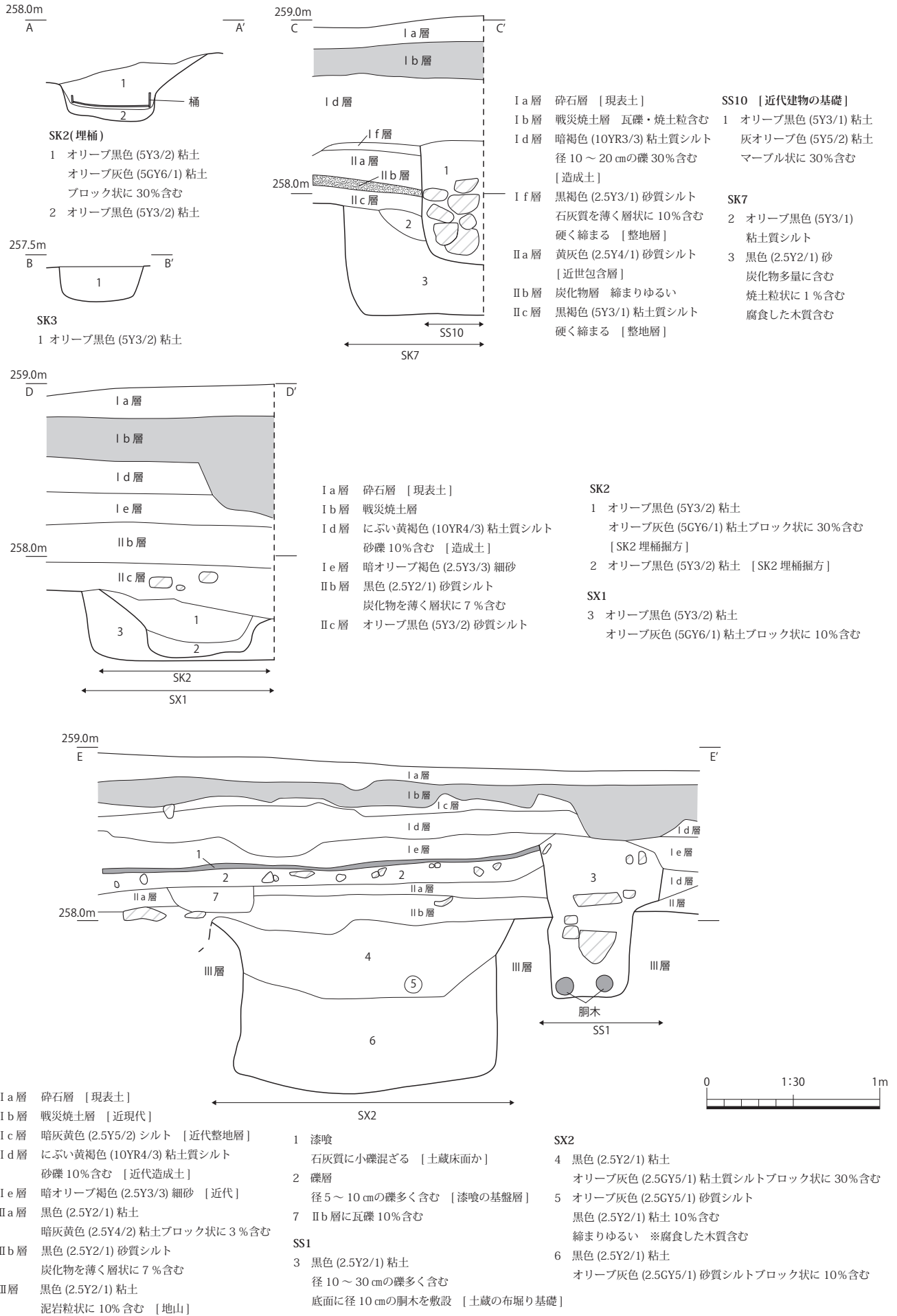
X-37,980

Y6,905

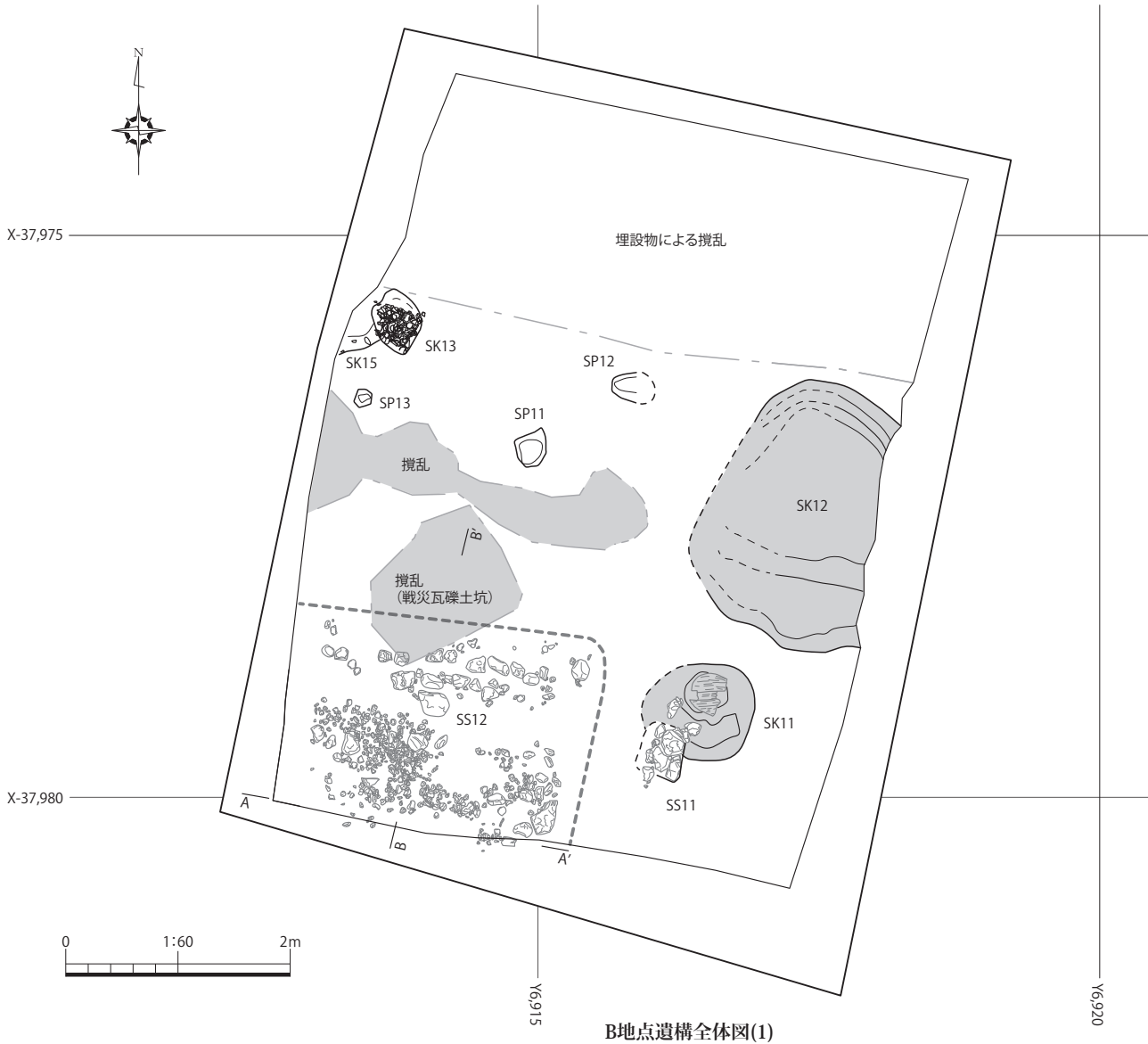
Y6,910



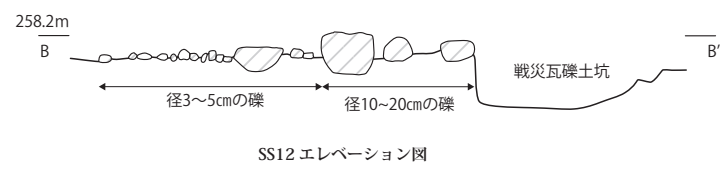
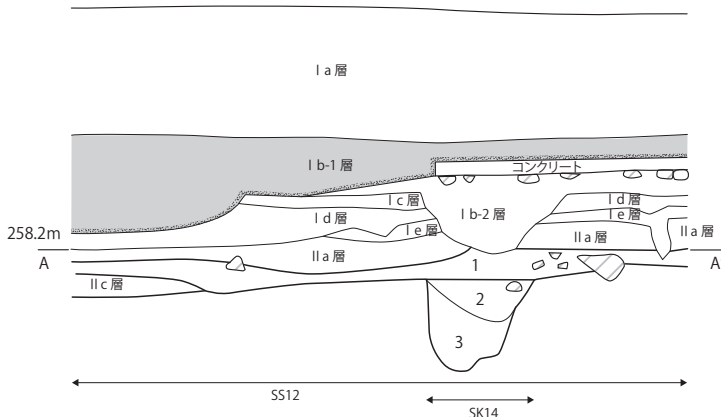
第102図 A地点(6)



第103図 A地点(7)



B地点遺構全体図(1)

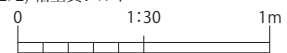


SS12 エレベーション図

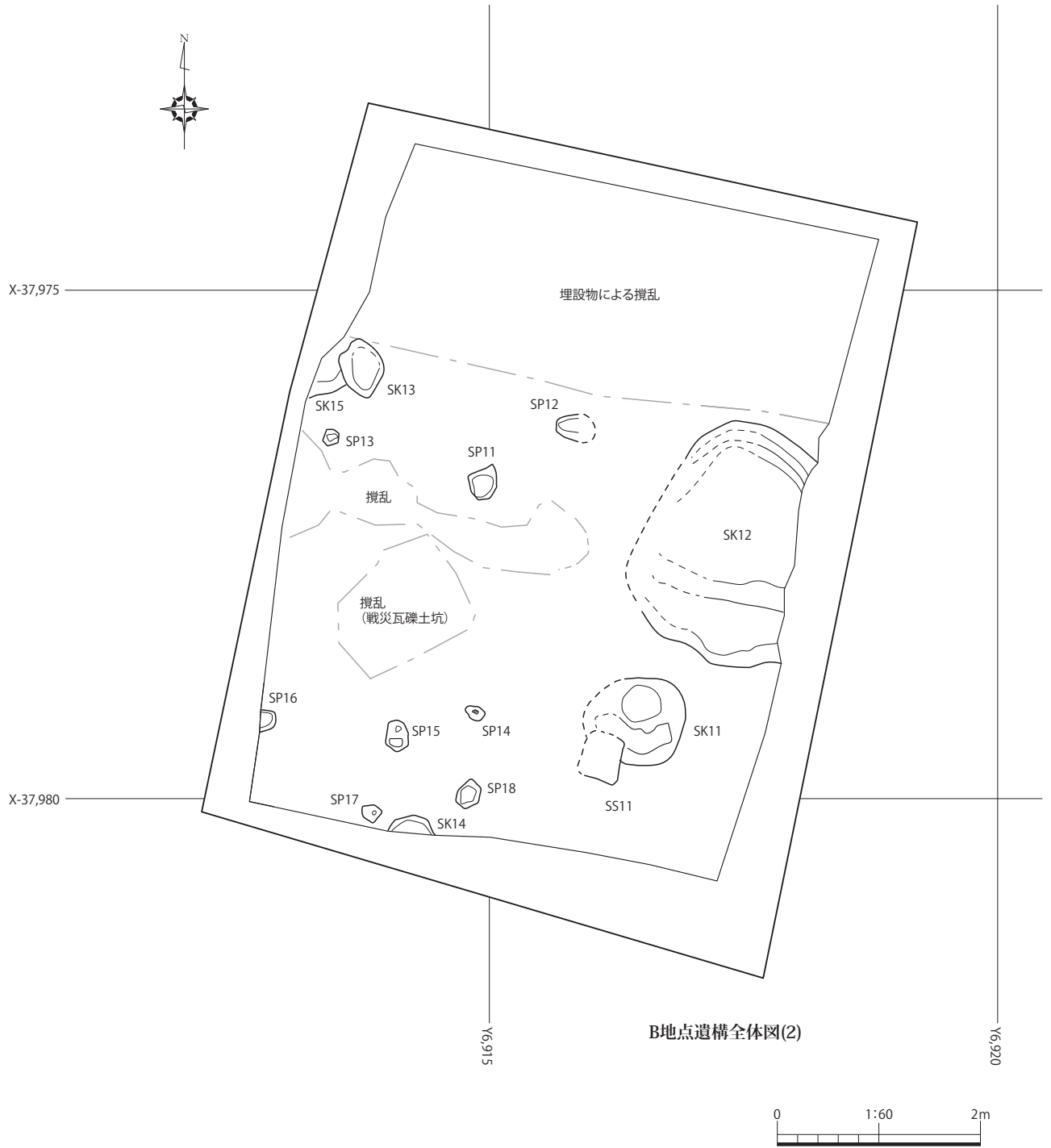
- I a 層 碎石層 [現表土]
- I b-1 層 戦災焼土層
底面は炭化物が層厚 1~2cm 堆積
- I b-2 層 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質シルト
炭化物 10% 含む 粗砂 10% 含む
※戦前のコンクリートとその基盤の礫の直下に堆積
- I c 層 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト [整地層]
- I d 層 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質シルト
炭化物・灰 10% 含む
径 3~5cm の礫 3% 含む
- I e 層 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土
黄灰色 (2.5Y5/1) シルトブロック状に 10% 含む [整地層]
- II a 層 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト
炭化物・石灰質を粒状に 1% 含む
- II c 層 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト
焼土粒状に 1% 含む

- SS12
1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質シルト
径 3~5cm の礫 5% 含む 焼土粒状に 1% 含む

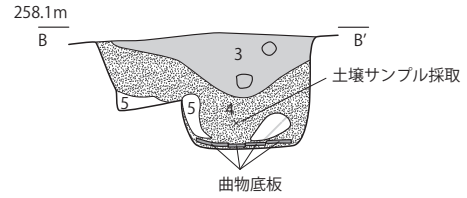
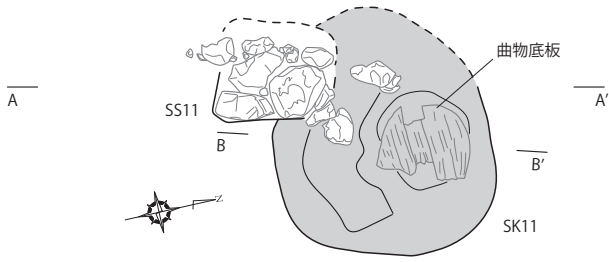
- SK14
2 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト
3 オリーブ黒色 (5Y2/2) 粘土質シルト



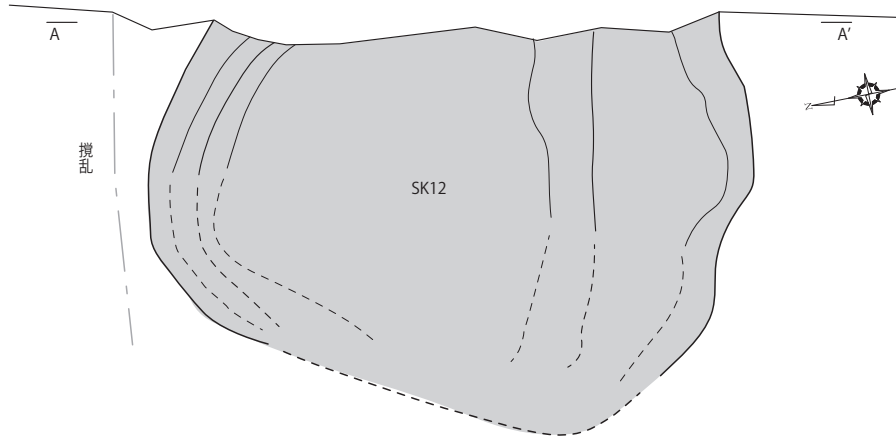
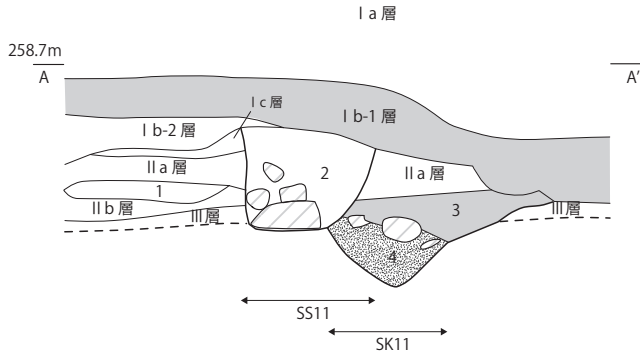
第104図 B地点(1)



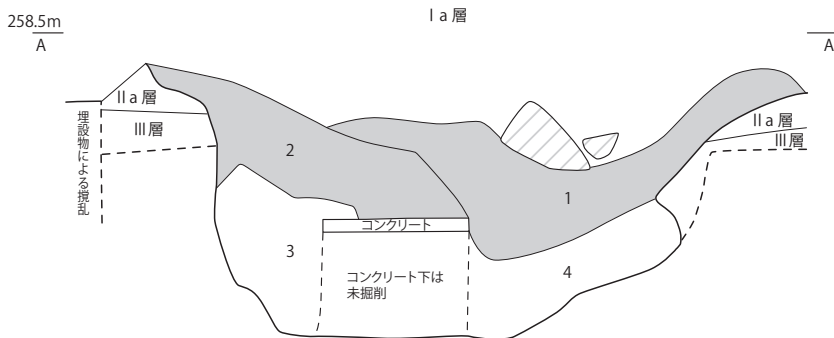
第105図 B地点(2)



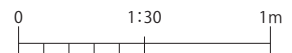
- I a 層 碎石層 [現表土]
- I b-1 層 戦災焼土層 瓦礫含む
- I b-2 層 灰色 (7.5Y4/1) 砂
上面に石灰質 (漆喰) の硬い面
下面に碎石を多量に含む [戦前の建造物の床面か]
- I c 層 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質シルト
硬く締まる [近代整地層]
- II a 層 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
炭化物・焼土粒状に 1% 含む
- II b 層 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土質シルト
炭化物・焼土粒状に 1% 含む
- III 層 黒色 (2.5Y2/1) 粘土
- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
炭化物・焼土粒状に 1% 含む 径 5 ~ 10 cm の礫 30% 含む
- SS11
- 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
炭化物粒状に 1% 含む 焼土ブロック状に 5% 含む
[近代の建造物の基礎か]
- SK11
- 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
炭化物粒状に 1% 含む 焼土ブロック状に 7% 含む [焼土層]
- 4 黒色 (5Y2/1) 砂質シルト
炭化物ブロック状・粒状に 30% 含む 縮まりゆるい [炭化物層]
- 5 オリーブ黒色 (5Y2/1) 粘土



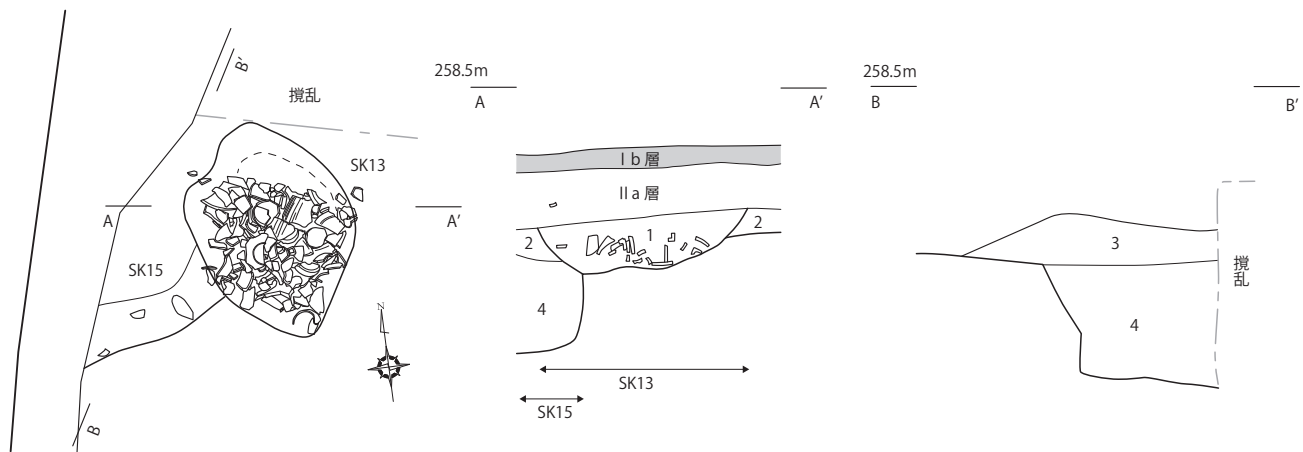
- I a 層 碎石層 [現表土]
- II a 層 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
炭化物・焼土粒状に 1% 含む
- III 層 黒色 (2.5Y2/1) 粘土



- SK12
- 1 灰色 (7.5Y4/1) 粗砂 焼土ブロック状に 10% 含む
瓦礫多く含む 縮まりゆるい [焼土層]
- 2 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 砂
焼土・炭化物ブロック状に 30% 含む
瓦礫多く含む [焼土層]
- 3 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粘土 灰色 (7.5Y5/1) 粘土
ブロック状に 30% 含む
- 4 灰色 (7.5Y4/1) 粗砂 焼土ブロック状に 5% 含む
縮まりゆるい



第106図 B地点(3)



I b 層 戦災焼土層

II a 層 オリブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト
炭化物・石灰質を粒状に1%含む

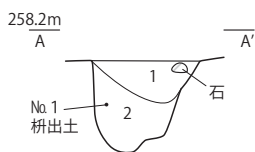
2 黒色 (2.5Y2/1) 砂
炭化物・焼土3%含む 縮まりゆるい

SK13 [廃棄土坑]

1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
焼土粒状に1%含む 遺物多量に含む

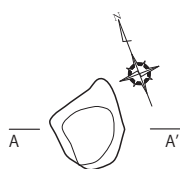
SK15

3 黒色 (2.5Y2/1) 砂
炭化物・焼土3%含む 縮まりゆるい
4 オリブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト



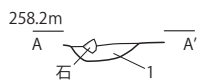
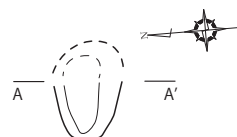
SK14

1 オリブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト
2 オリブ黒色 (5Y2/2) 粘土質シルト



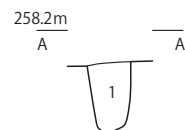
SP11

1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
焼土粒状に1%含む
径3cmの礫含む



SP12

1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質シルト



SP13

1 黒色 (5Y2/1) 砂
焼土粒状に3%含む 縮まりゆるい



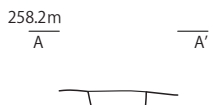
SP14

1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質シルト
黒色 (2.5Y2/1) 粘土30%含む



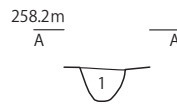
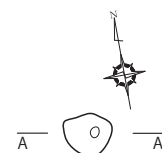
SP15

1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に1%含む



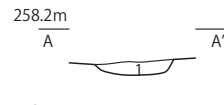
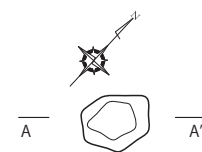
SP16

1 オリブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト



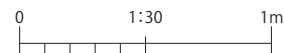
SP17

1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質シルト

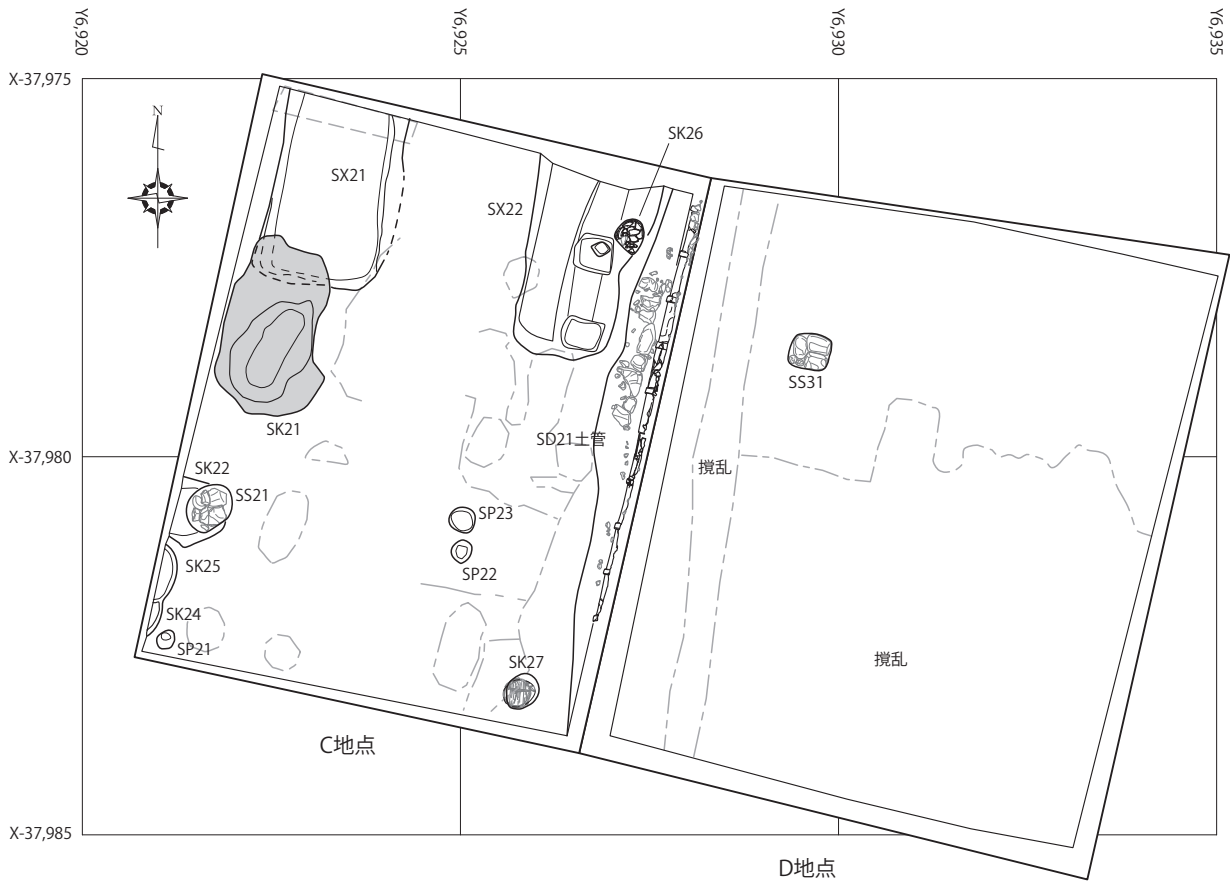


SP18

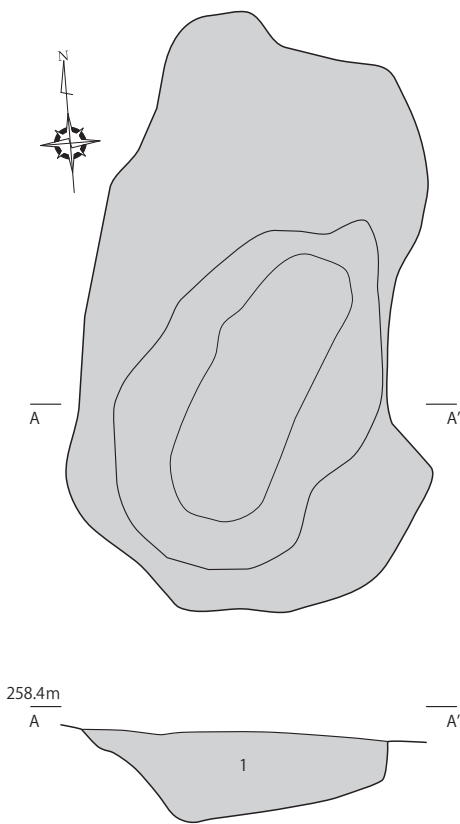
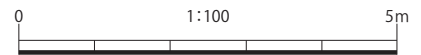
1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質シルト
黒色 (2.5Y2/1) 粘土30%含む



第107図 B地点(4)

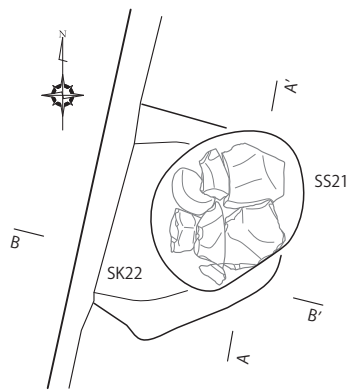


C・D地点遺構全体図

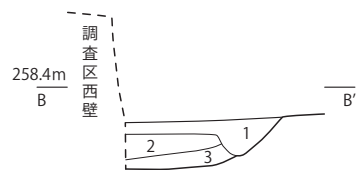


SK21

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂
焼土・炭化物粒状に 30% 含む

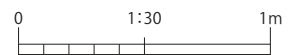


SS21 集石エレベーション図

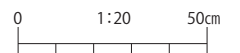
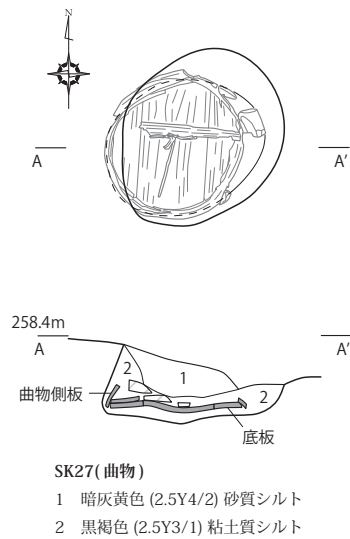
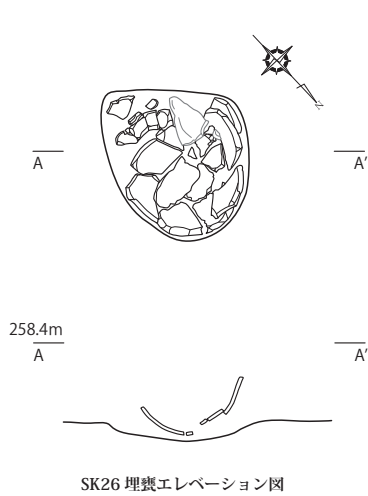
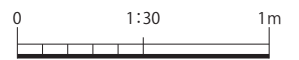
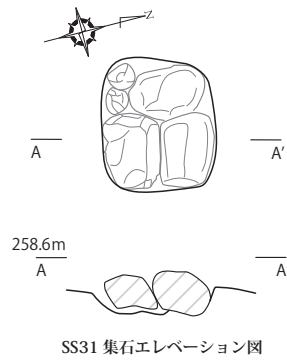
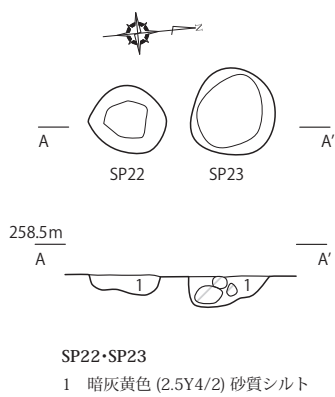
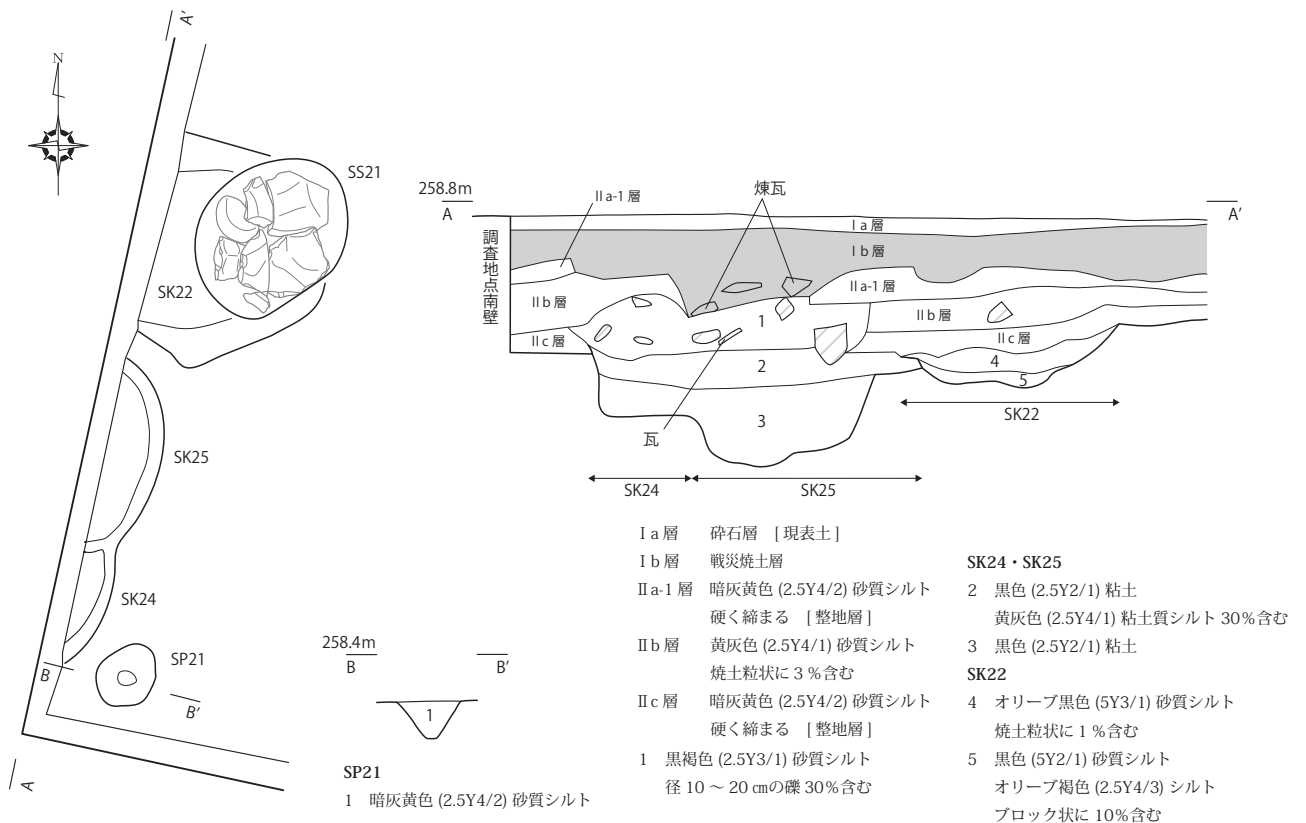


SK22

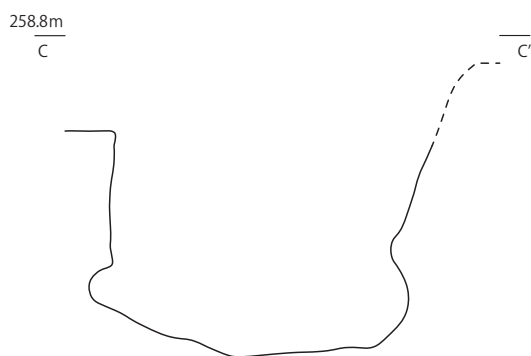
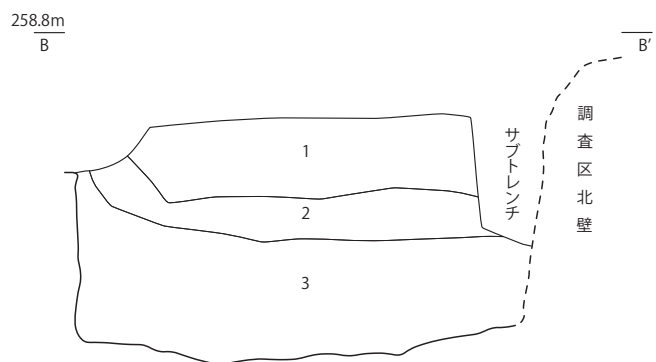
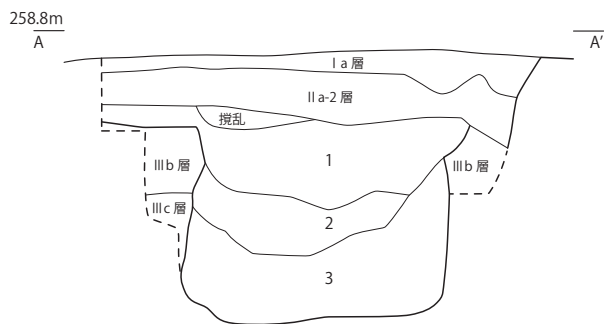
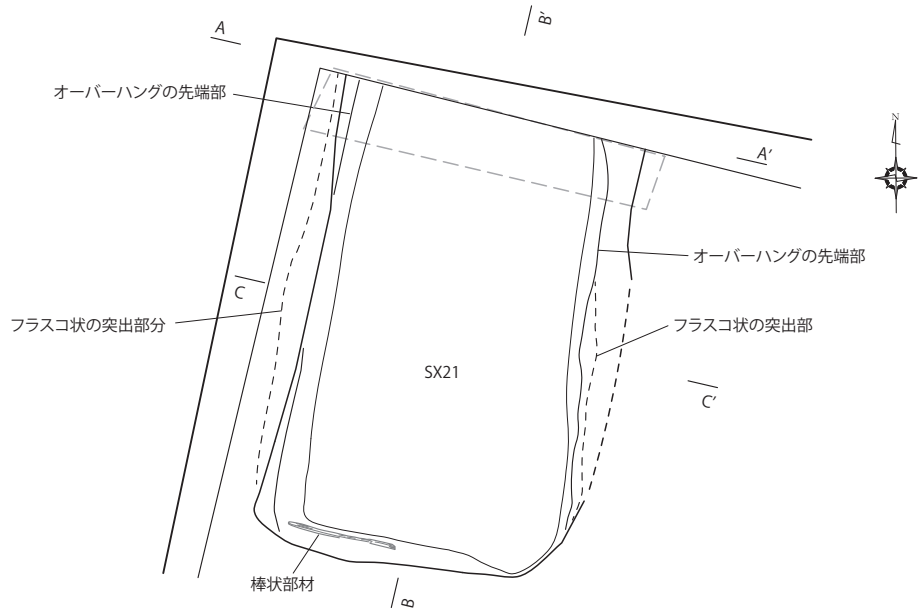
- 1 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土質シルト
焼土粒状に 1% 含む
2 黒色 (5Y2/1) 砂質シルト
3 黒色 (5Y2/1) 砂質シルト
暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細砂
ブロック状に 30% 含む



第108図 C・D地点(1)



第109図 C・D地点(2)

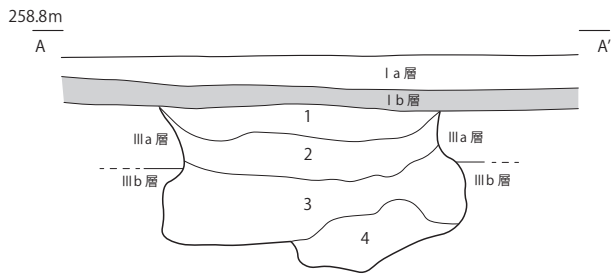
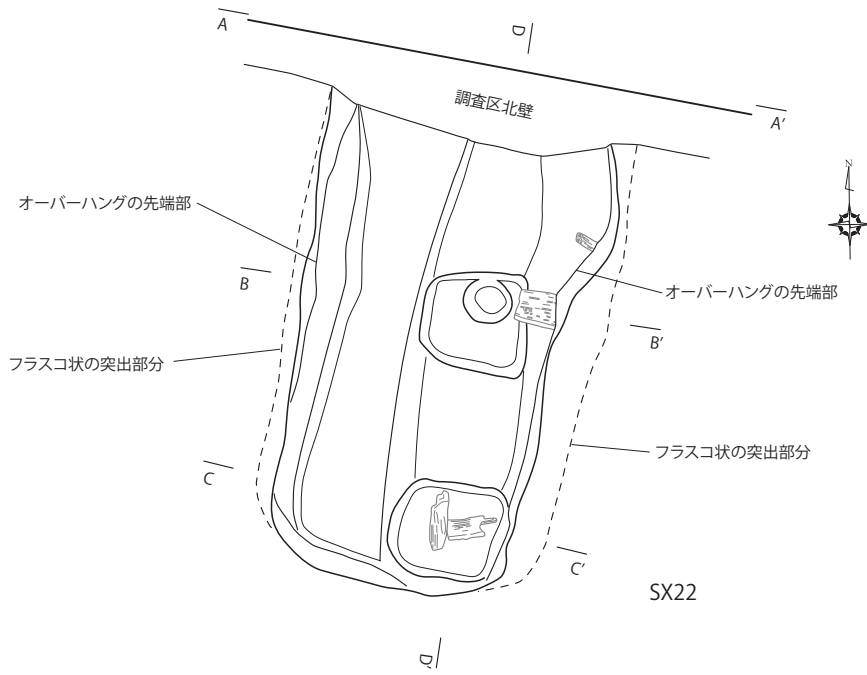


- I a層 碎石層 [現表土]
- II a-2層 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘土質シルト
- III b層 黒色 (2.5Y2/1) 粘土
褐色 (10YR4/6) 砂質シルト粒状に 10% 含む [地山]
- III c層 灰色 (10Y4/1) シルト
黒色 (2.5Y2/1) 粘土 10% 含む [地山]

- SX21**
- 1 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土
灰黄色 (2.5Y6/2) 粘土ブロック状に 30% 含む
 - 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土
灰黄色 (2.5Y6/2) 粘土ブロック状に 30% 含む
 - 3 灰色 (10Y4/1) シルト
黒色 (2.5Y2/1) 粘土ブロック状に 30% 含む



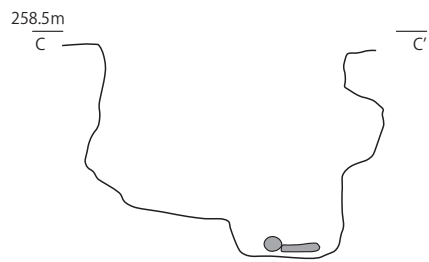
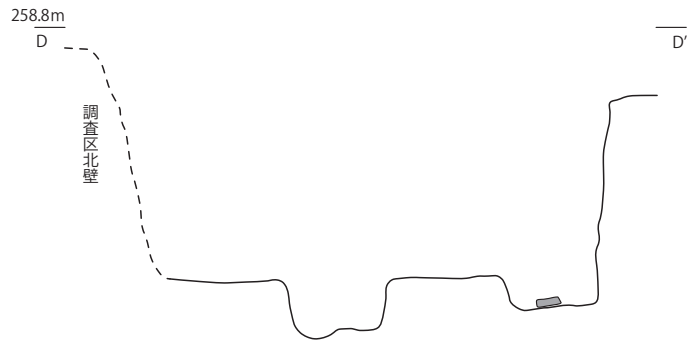
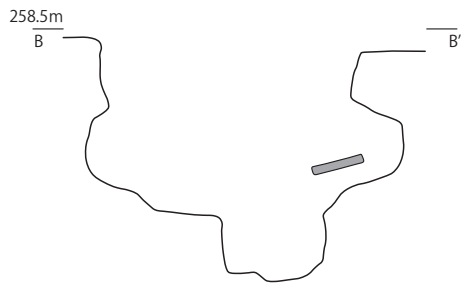
第110図 C・D地点(3)



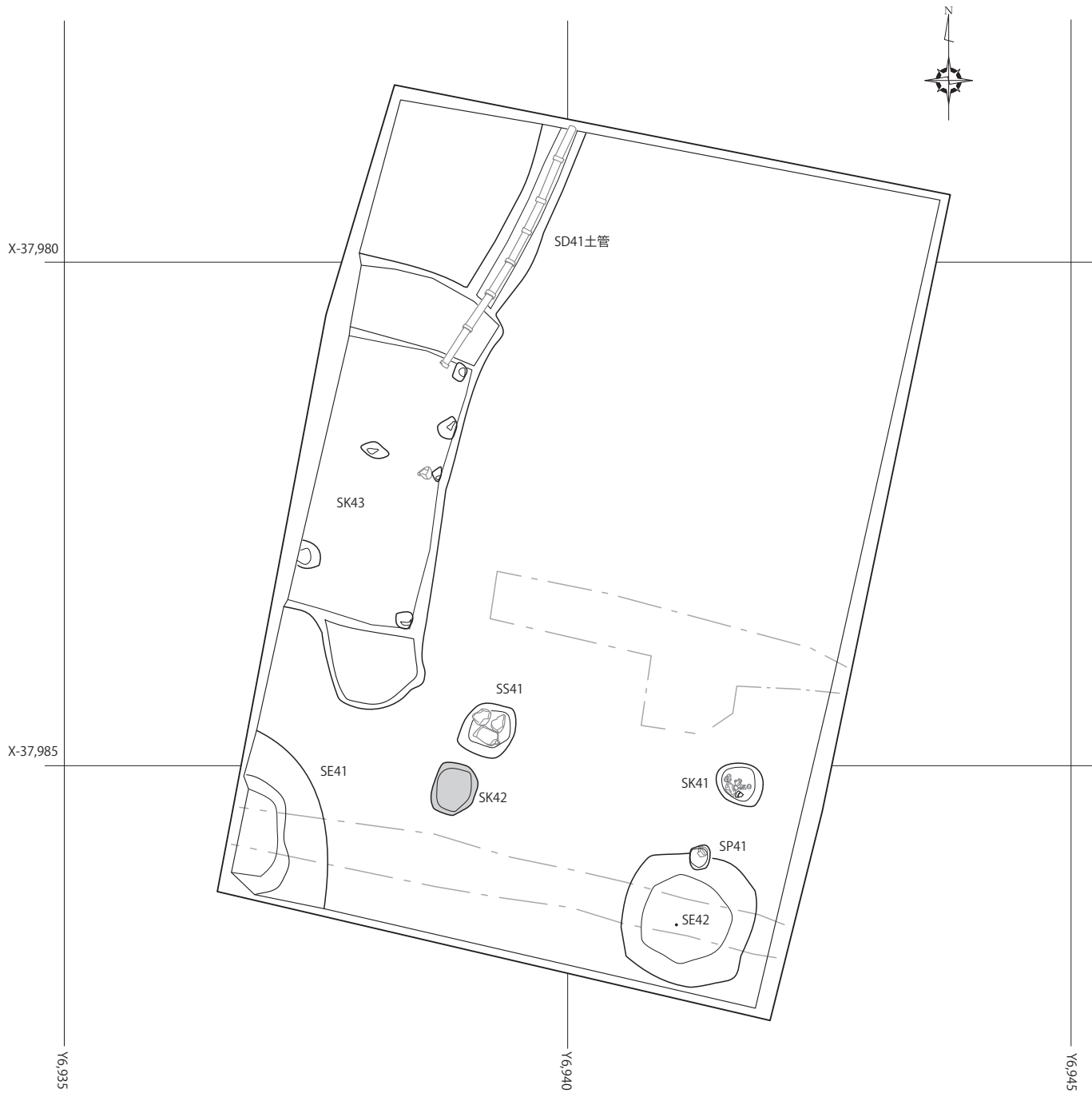
- I a層 碎石層 [現表土]
- I b層 戦災焼土層
- III a層 黒色 (2.5Y2/1) 粘土 泥岩粒状に 7% 含む [地山]
- III b層 暗緑灰色 (7.5GY4/1) 砂 硬く締まる [地山]

SX22

- 1 黒色 (2.5Y2/1) 粘土 径 5 ~ 10 cm の礫 10% 含む
- 2 黒色 (2.5Y2/1) 粘土 暗緑灰色 (7.5GY4/1) 砂ブロック状に 10% 含む
- 3 黒色 (2.5Y2/1) 粘土 暗緑灰色 (7.5GY4/1) 砂ブロック状に 30% 含む
- 4 黒色 (2.5Y2/1) 粘土 暗緑灰色 (7.5GY4/1) 砂ブロック状に 10% 含む



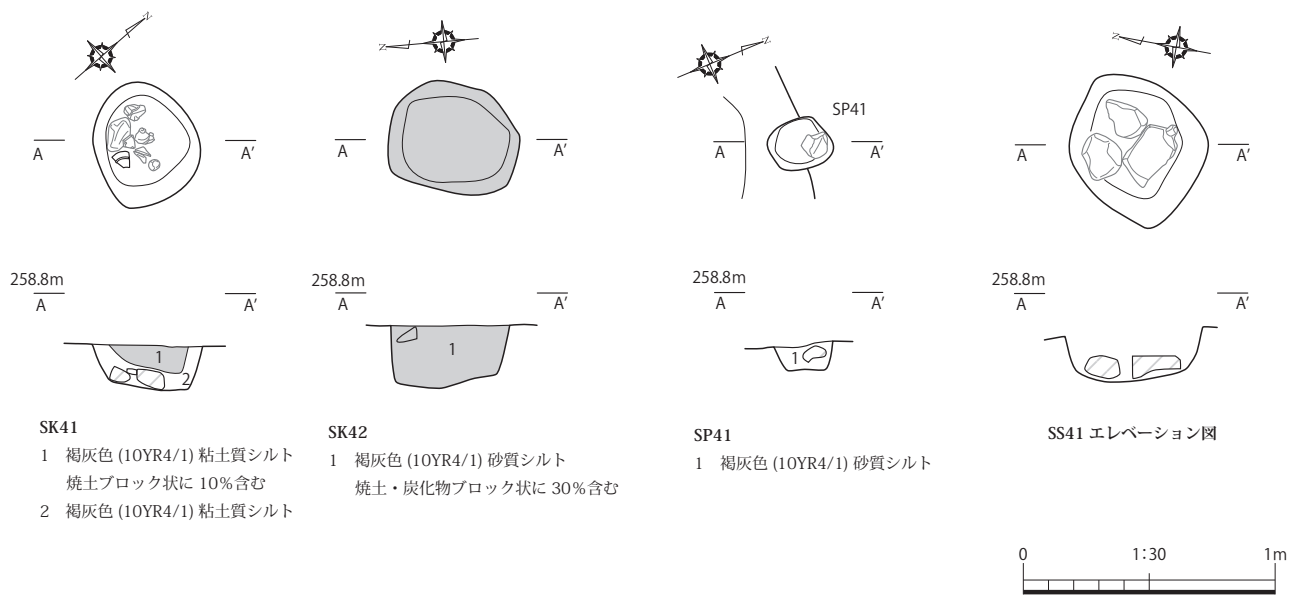
第111図 C・D地点(4)



E地点遺構全体図



第112図 E地点(1)



SK41

- 1 褐灰色 (10YR4/1) 粘土質シルト
焼土ブロック状に 10% 含む
- 2 褐灰色 (10YR4/1) 粘土質シルト

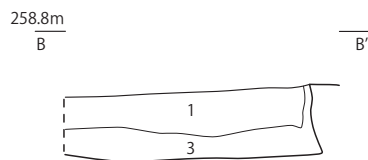
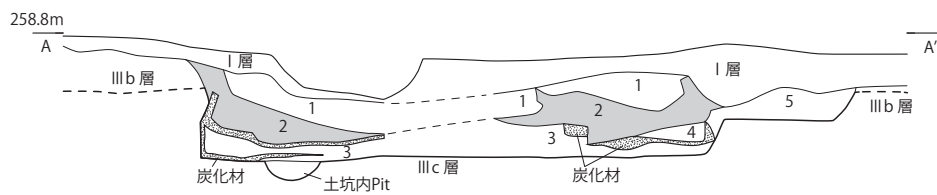
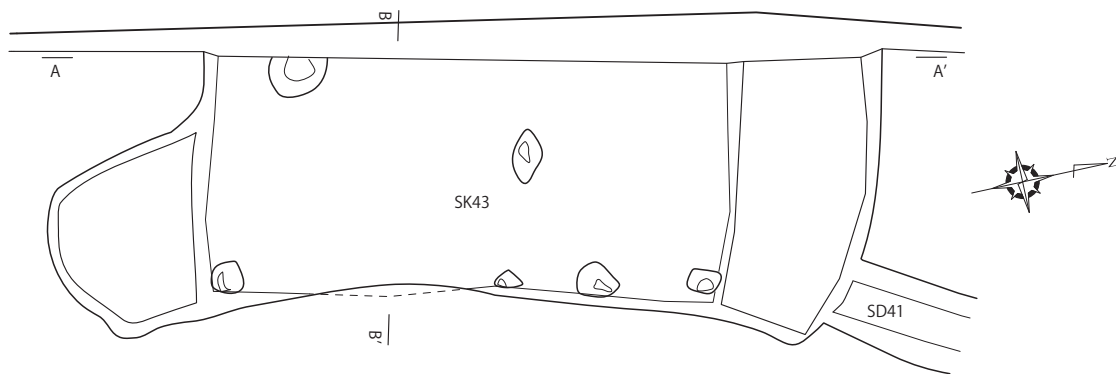
SK42

- 1 褐灰色 (10YR4/1) 砂質シルト
焼土・炭化物ブロック状に 30% 含む

SP41

- 1 褐灰色 (10YR4/1) 砂質シルト

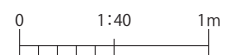
SS41 エレベーション図



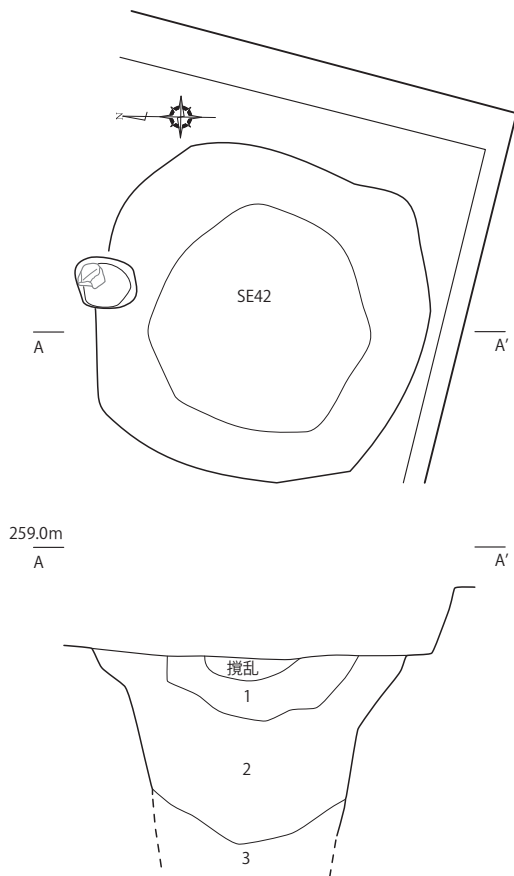
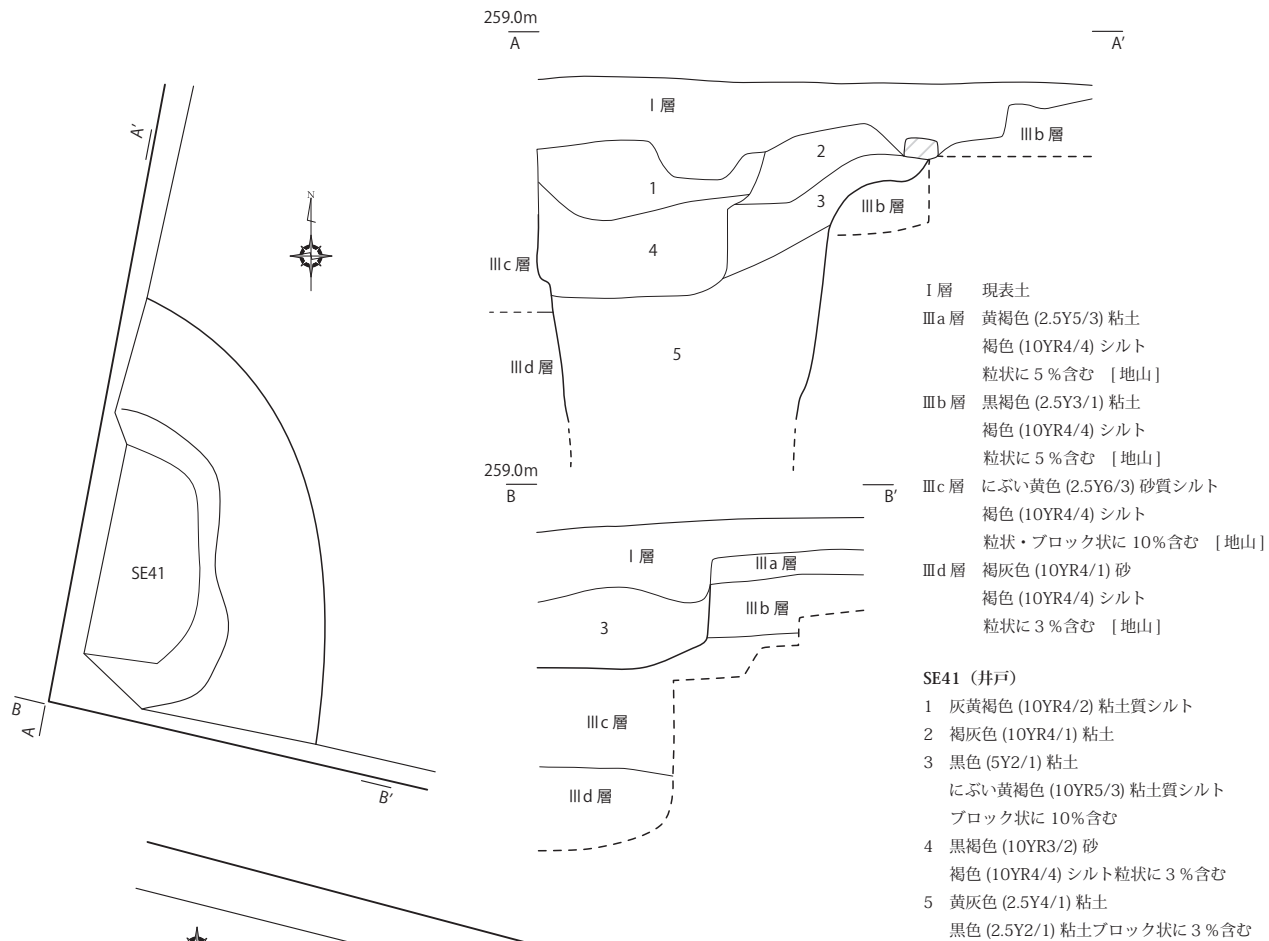
- I 層 現表土
- III b 層 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土
褐色 (10YR4/4) シルト粒状に 5% 含む [地山]
- III c 層 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質シルト
褐色 (10YR4/4) シルト粒状・ブロック状に 10% 含む [地山]

SK43

- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粘土
黄褐色 (2.5Y5/3) 粘土マーブル状に 10% 含む
- 2 赤褐色 (5YR4/6) 粗砂 [焼土層]
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘土 炭化物 30% 含む
- 4 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂
- 5 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粘土
黄褐色 (2.5Y5/3) 粘土マーブル状に 7% 含む ※SK43 テラス状の部分

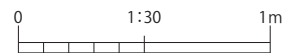
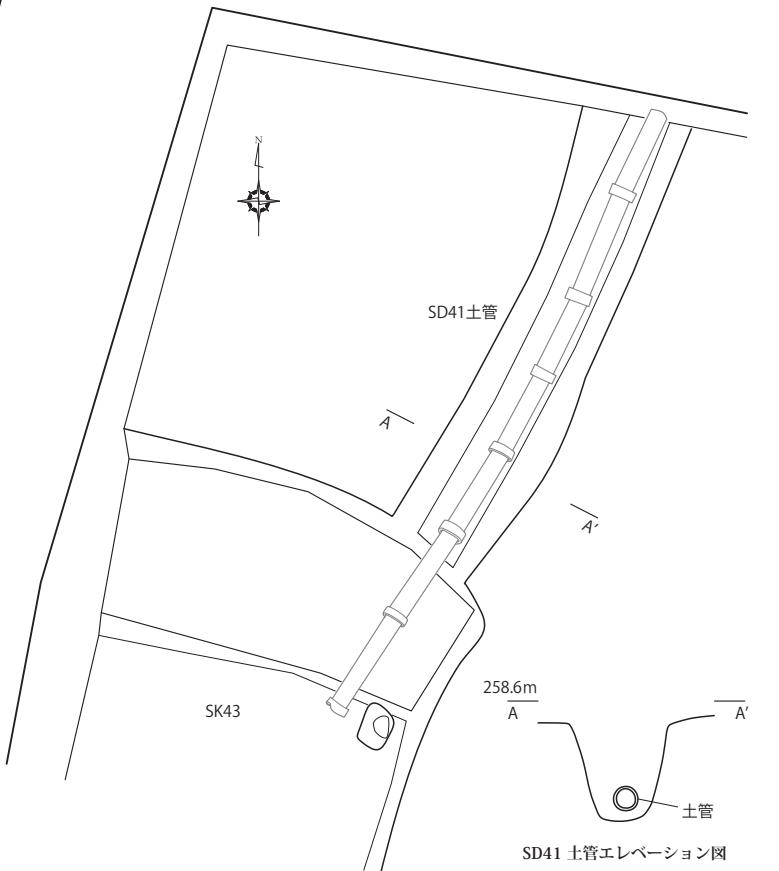


第113図 E地点(2)

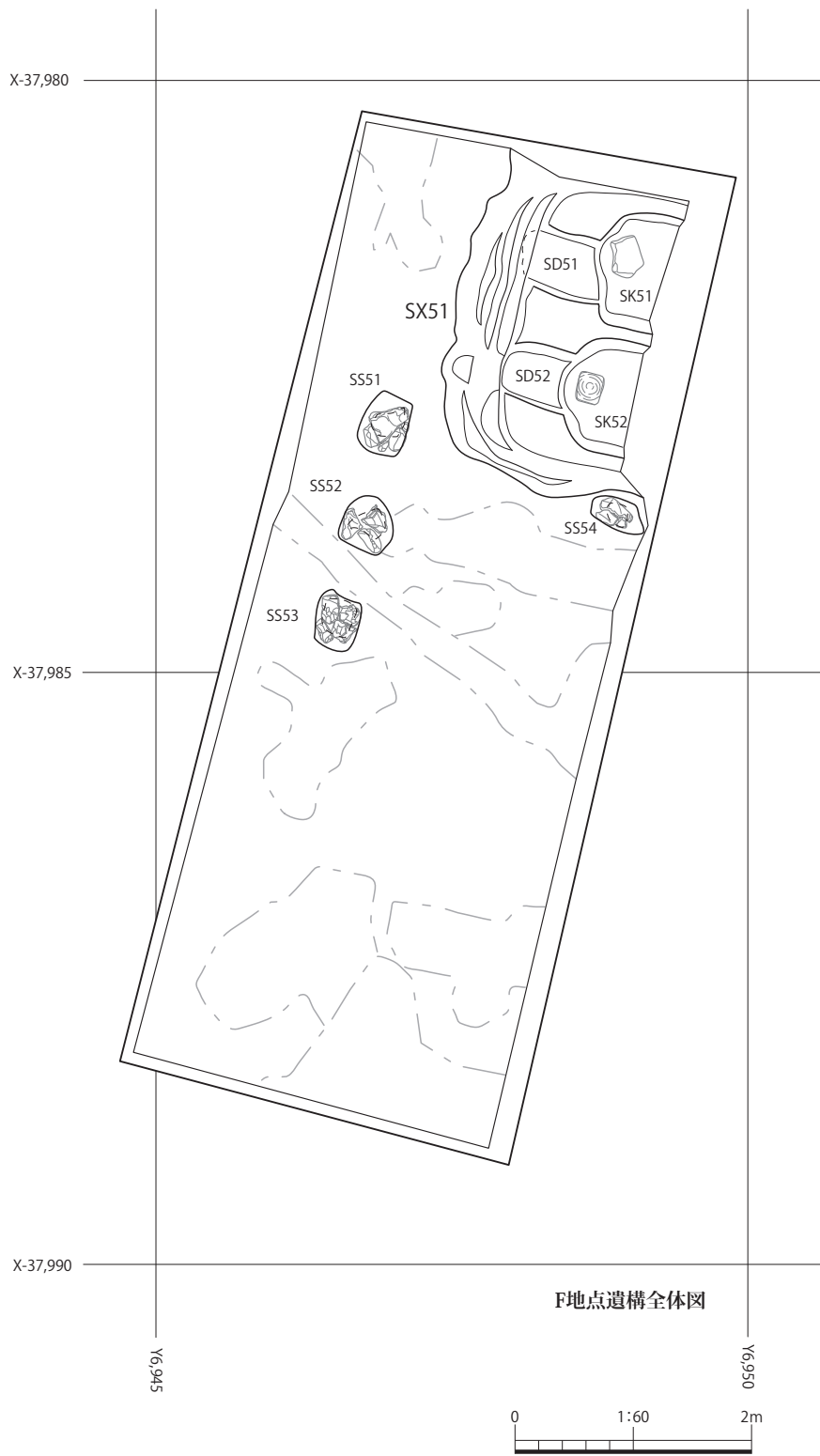


SE42 (井戸)

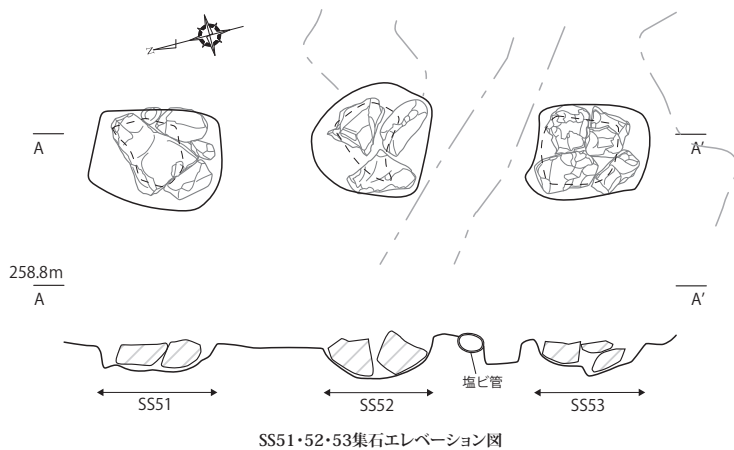
- 1 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘土
黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土マーブル状に 30% 含む
- 2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘土
縮まりゆるい
- 3 褐色 (10YR4/6) 粘土質シルト



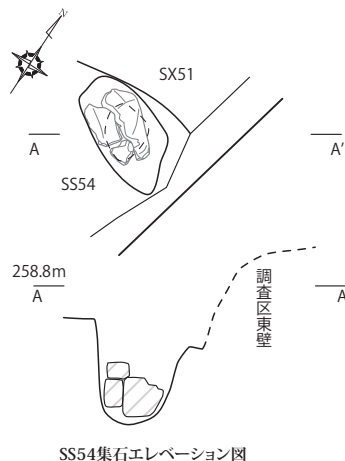
第114図 E地点(3)



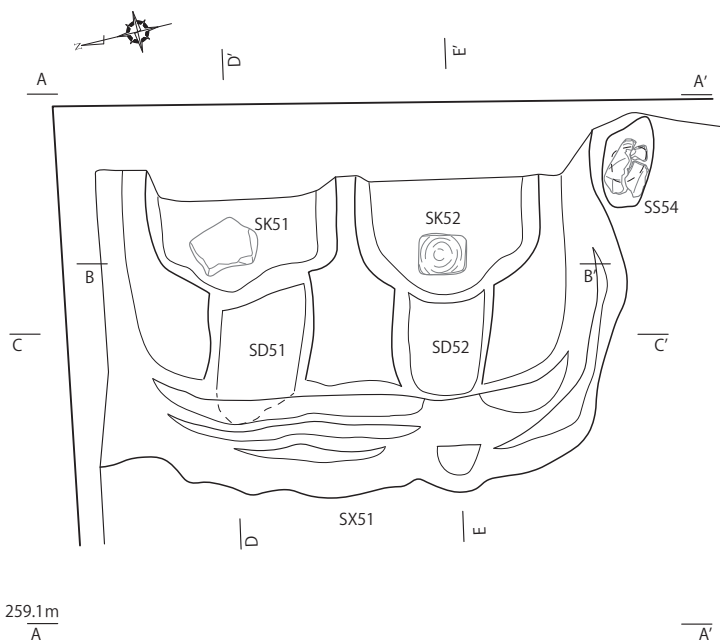
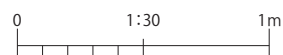
第115図 F地点(1)



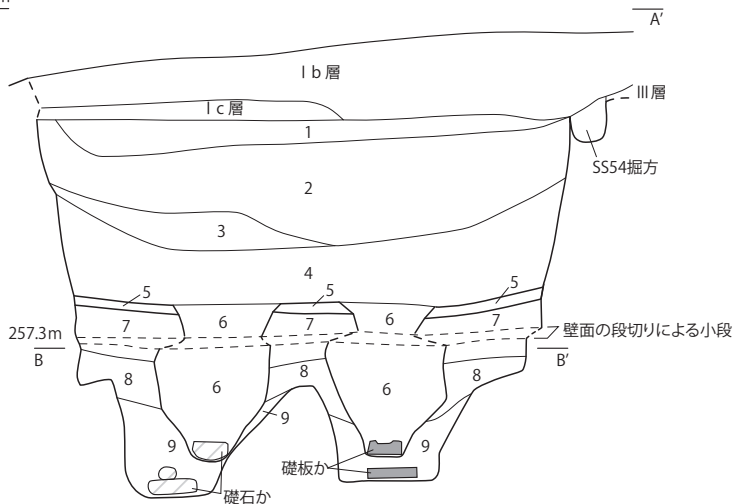
SS51・52・53集石エレベーション図



SS54集石エレベーション図



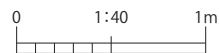
259.1m
A



- I b層 現表土 (戦災瓦礫混入)
- I c層 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト
炭化物粒状に3%含む 径5cmの礫少量含む 締まりゆるい
- III層 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘土質シルト
黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土30%含む [地山]

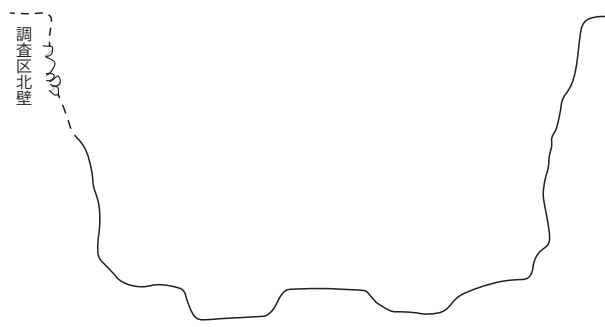
SX51

- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質シルト
黄褐色 (2.5Y5/6) シルトの泥岩粒状に7%含む
黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土ブロック5%含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質シルト
黄褐色 (2.5Y5/6) シルトの泥岩粒状に5%含む
黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土ブロック10%含む
径3~5cmの礫1%含む
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質シルト
黄褐色 (2.5Y5/6) シルトの泥岩粒状に5%含む
黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土ブロック30%含む
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質シルト
黄褐色 (2.5Y5/6) シルトの泥岩粒状に7%含む
黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土ブロック5%含む
- 5 褐色 (10YR4/6) 砂質シルト
硬く締まる [硬化面]
- 6 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質シルト
黄褐色 (2.5Y5/6) シルトの泥岩粒5%含む
オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質シルト30%含む
締まり非常にゆるい [SD51・SD52の埋土]
- 7 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質シルト
締まりゆるい
- 8 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘土質シルト
黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土質シルト10%含む
灰黄色 (2.5Y6/2) シルトの泥岩粒状に3%含む
締まりゆるい [SK51・SK52の埋土]
- 9 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土質シルト
灰黄色 (2.5Y6/2) シルトの泥岩粒状に3%含む
黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土ブロック状に7%含む
締まりゆるい [SK51・SK52の埋土]



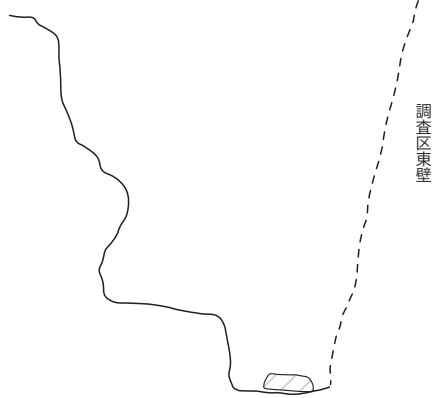
第116図 F地点(2)

259.0m
C



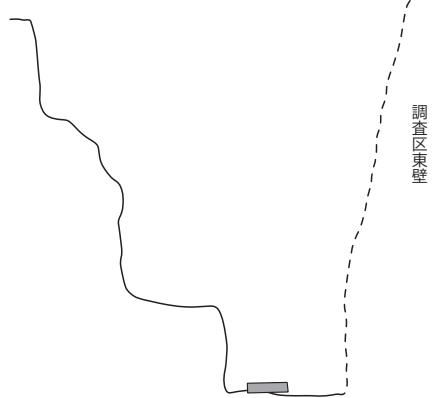
SX51 エレベーション図

259.0m
D



SX51 エレベーション図

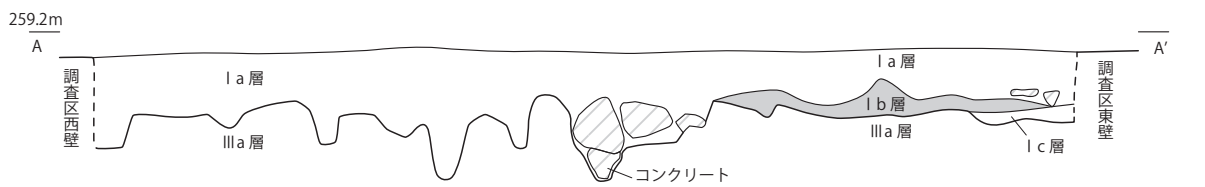
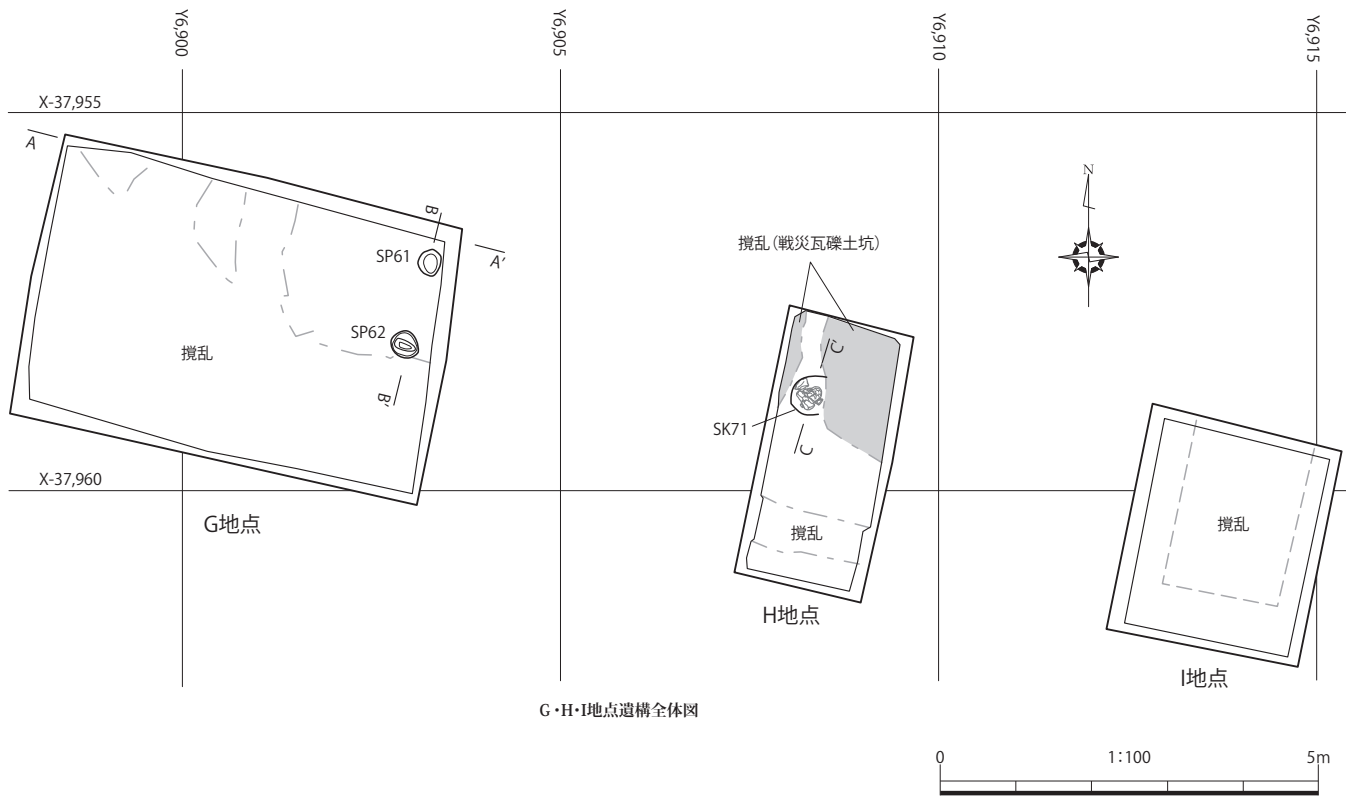
259.0m
E



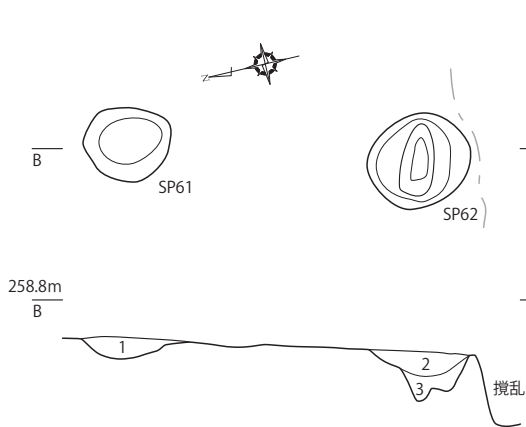
SX51 エレベーション図



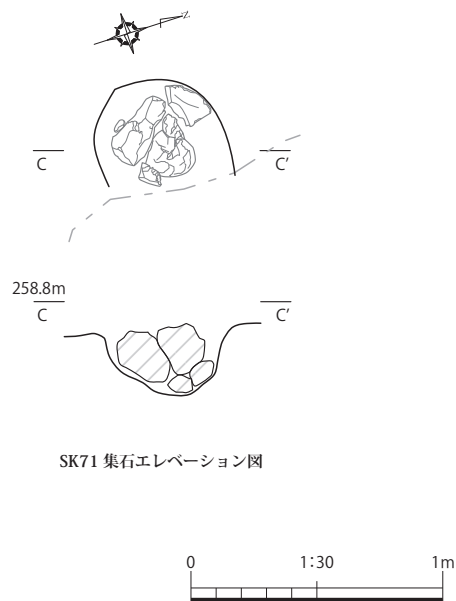
第117図 F地点(3)



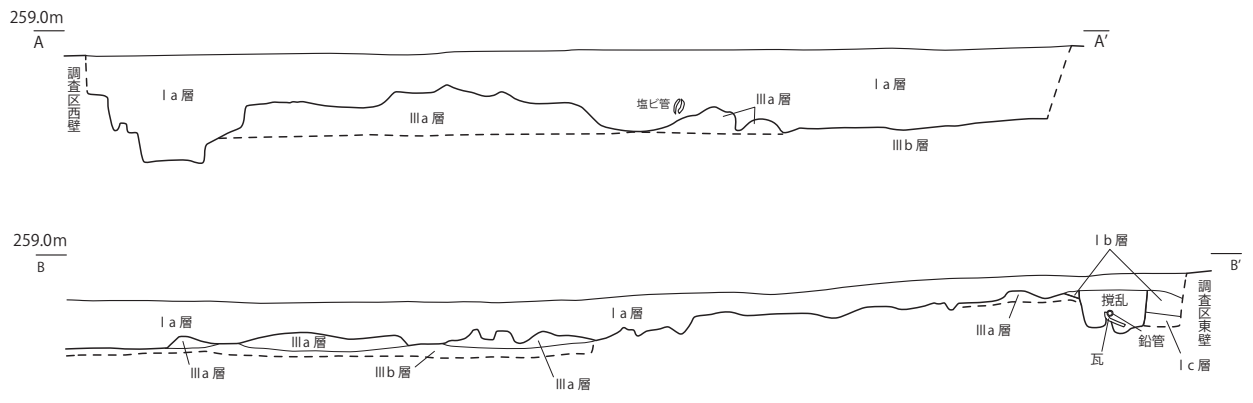
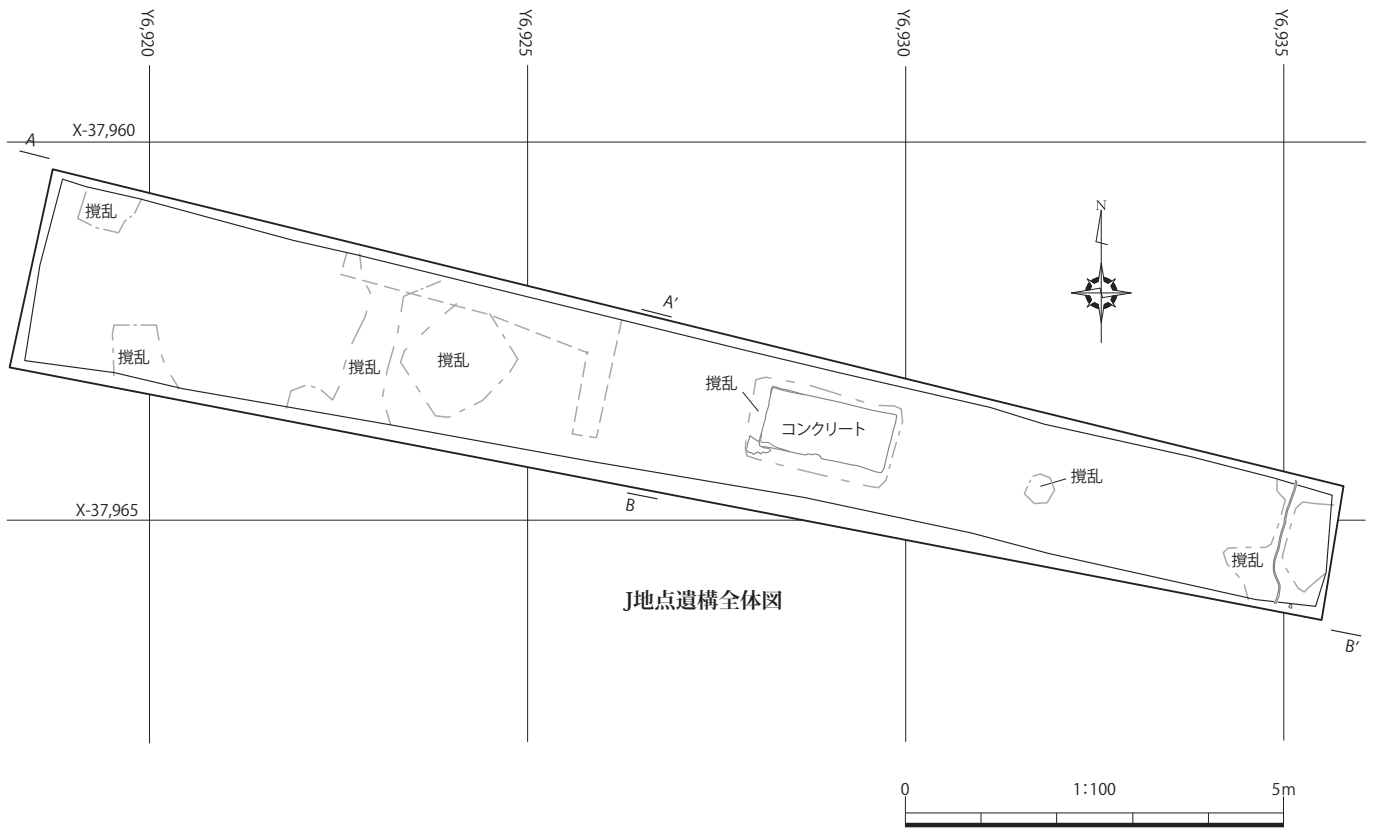
- I a 層 碎石層 [現表土]
- I b 層 戦災焼土層 ※上位に焼土層 下位に炭化物層
- I c 層 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト
炭化物粒状に3%含む 硬く締まる [整地層]
- III a 層 黒色 (5Y2/1) 粘土
黄褐色 (10YR5/6) シルトの泥岩粒状・ブロック状に7%含む [地山]



- SP61
 - 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
炭化物・焼土粒状に3%含む
- SP62
 - 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土
炭化物・灰ブロック状に30%含む 瓦礫含む
 - 3 黒色 (2.5Y2/1) 粘土
焼土粒状に10%含む
※戦災瓦礫混入



第118図 G・H・I地点

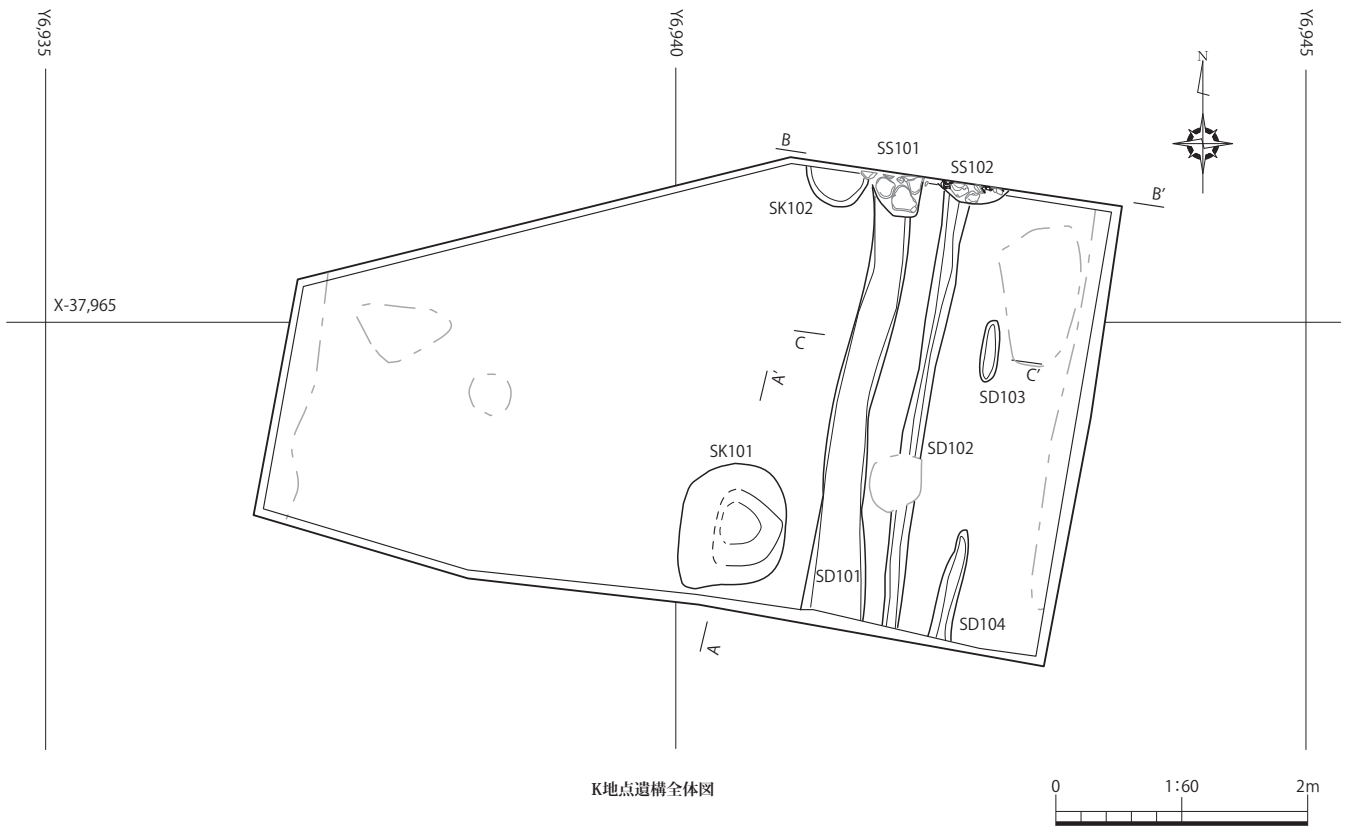


J地点壁面土層図

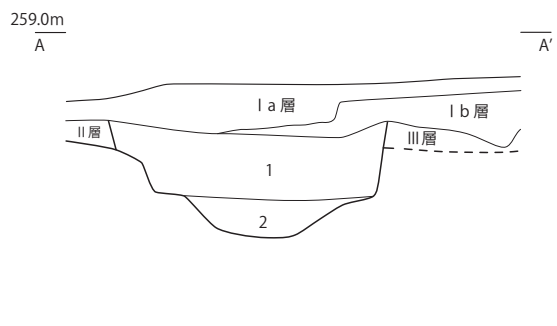
- I a 層 碎石層 [現表土]
- I b 層 戦災焼土層
- I c 層 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘土質シルト
- III a 層 黒色 (2.5Y2/1) 粘土
風化した泥岩 10% 含む [地山]
- III b 層 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト 酸化鉄分 3% 含む
黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト 10% 含む [地山]



第119図 J地点

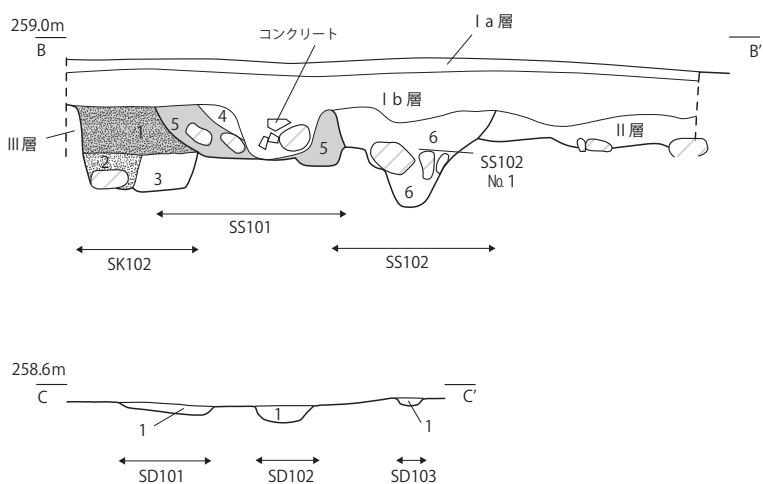


K地点遺構全体図



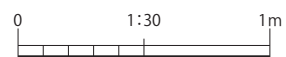
- I a層 碎石層 [現表土]
- I b層 黄褐色(2.5Y5/4)砂質シルト
硬く締まる [整地層]
- II層 黒褐色(2.5Y3/2)粘土質シルト
焼土粒状に1%含む
- III層 黄灰色(2.5Y5/1)シルト
黒色(2.5Y2/1)シルト10%含む
酸化鉄分粒状に7%含む [地山]

- SK101**
- 1 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粗砂
径1~3cmの石3%含む
 - 2 黒褐色(2.5Y3/1)砂
径1~3cmの石10%含む

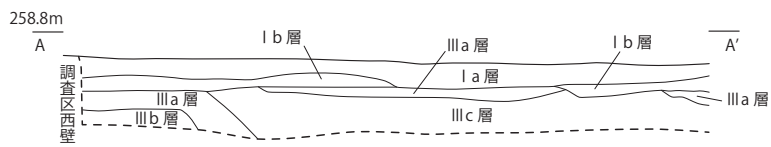
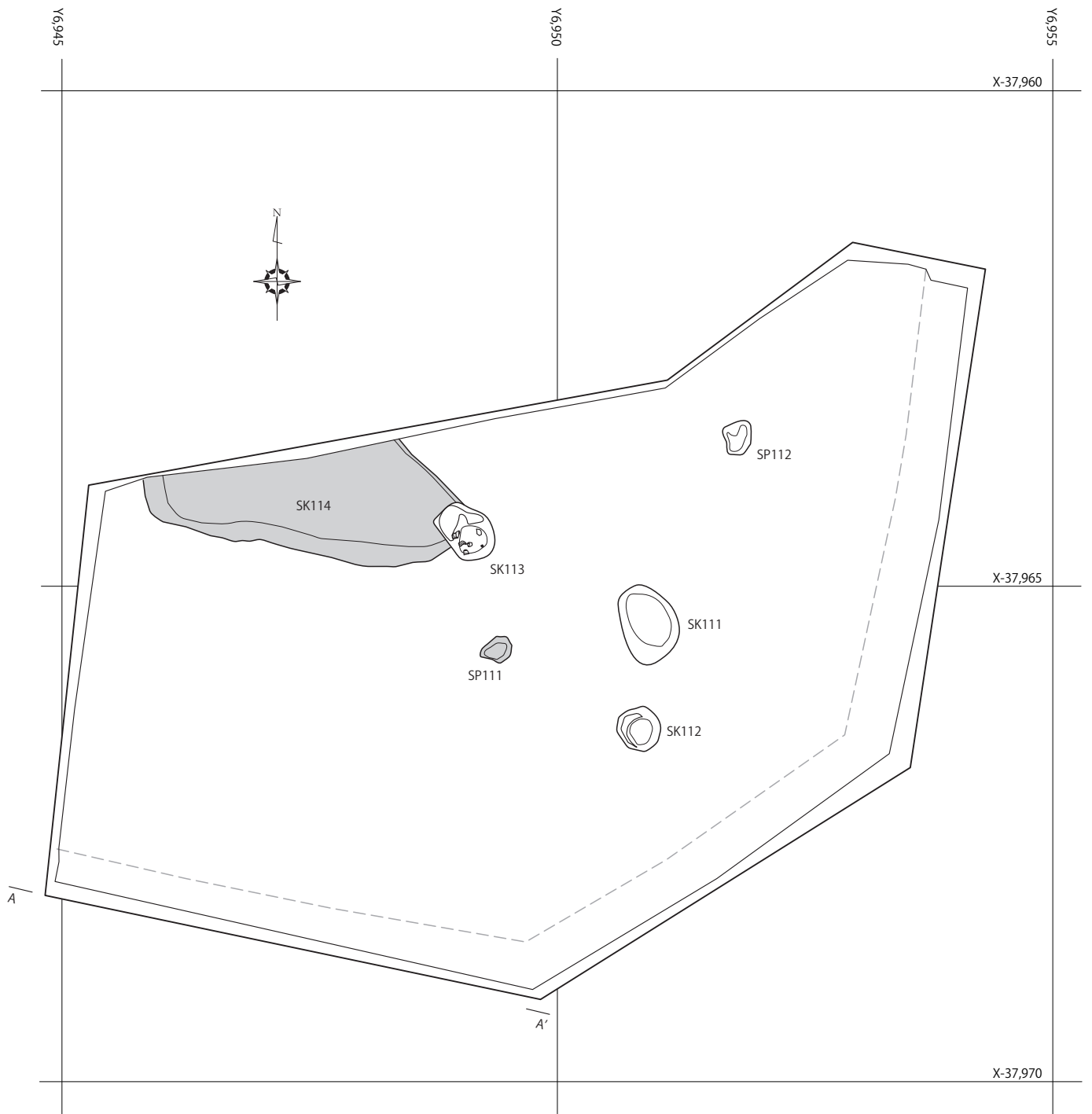


- SK102**
- 1 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に10%含む [焼土層・炭化物層]
 - 2 黒褐色(2.5Y3/2)砂質シルト
炭化物30%・焼土5%含む [炭化物層]
 - 3 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土質シルト
焼土ブロック状に3%・炭化物粒状に1%含む
- SS101**
- 4 黄灰色(2.5Y5/1)シルトのブロック土
 - 5 黒褐色(2.5Y3/2)砂質シルト
焼土粒状・ブロック状に30%含む
径10cmの礫含む [焼土層]
- SS102**
- 6 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質シルト
径10~20cmの石・瓦・陶磁器・水晶など瓦礫多量含む

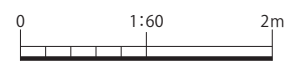
- SD101・SD102・SD103**
- 1 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト
焼土粒状に1%含む



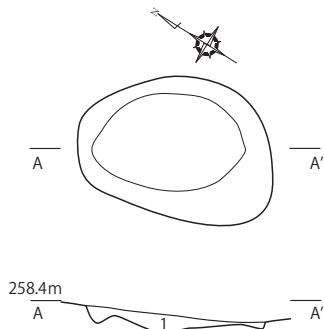
第120図 K地点



- | | | | |
|-------|---|---------|--|
| I a 層 | 現表土 | III a 層 | にぶい黄色 (2.5Y6/3) シルト
酸化鉄分管状に 7% 含む [地山] |
| I b 層 | オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質シルト
炭化物・焼土粒状に 1% 含む | III b 層 | 灰オリーブ色 (5Y5/2) 細砂 [地山] |
| | | III c 層 | 灰色 (5Y4/1) 砂
黄褐色 (10YR5/6) シルトの
泥岩ブロック状に 30% 含む [地山] |

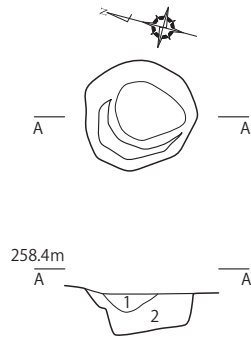


第121図 L地点(1)



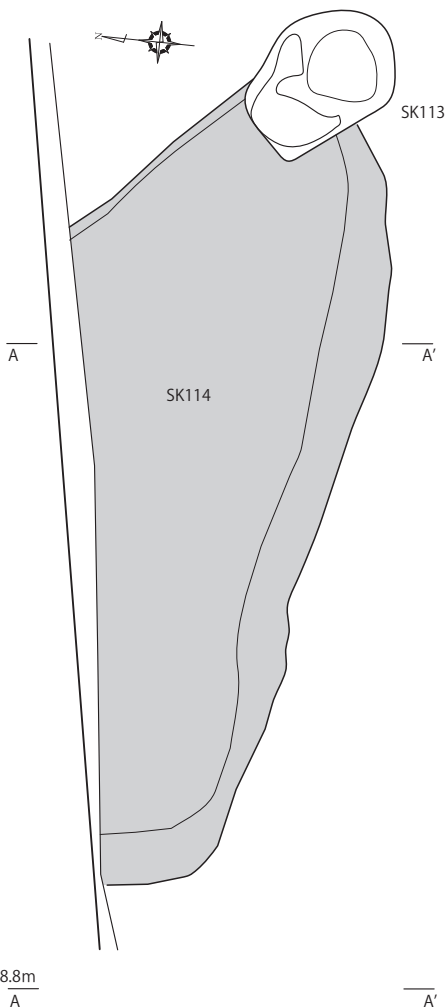
SK111

- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に1%含む



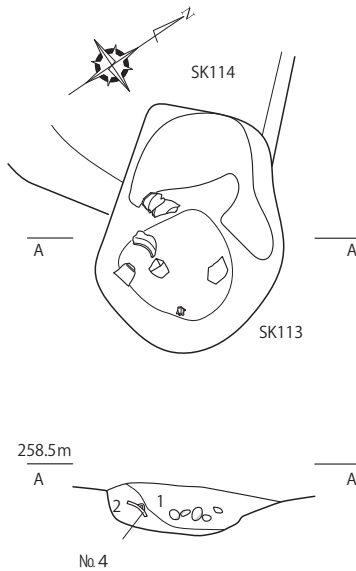
SK112

- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
焼土・炭化物粒状に1%含む
- 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
黄褐色 (10YR5/6) シルトの
泥岩 10%含む



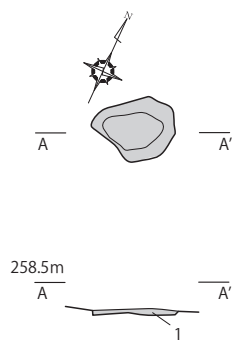
SK114

- 1 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質シルト
- 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
炭化物・焼土粒状に10%含む [焼土層]
- 3 炭化物層



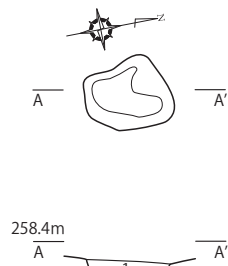
SK113

- 1 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質シルト
径1~3cmの礫30%含む
遺物含む
- 2 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質シルト



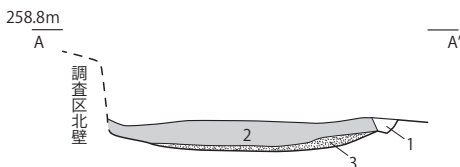
SP111

- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
焼土粒状に30%含む [戦災焼土か]



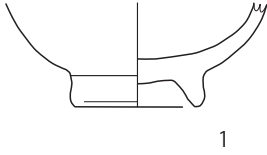
SP112

- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
焼土1%含む

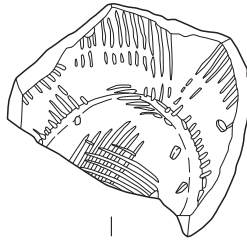


第122図 L地点(2)

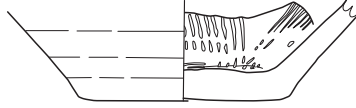
SK5



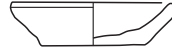
1



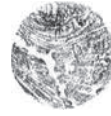
2



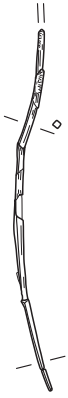
SK6



3

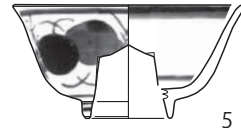


SK7



4

SS1A



5



6



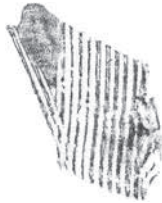
7



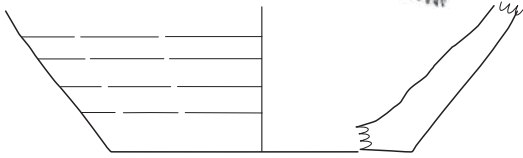
8



SS3



9

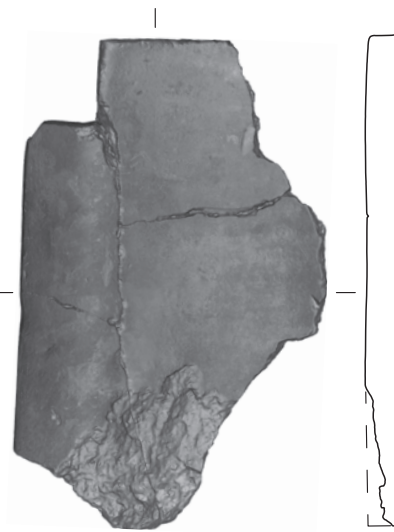


10

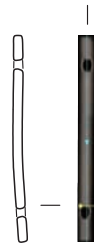
SS5



11



12

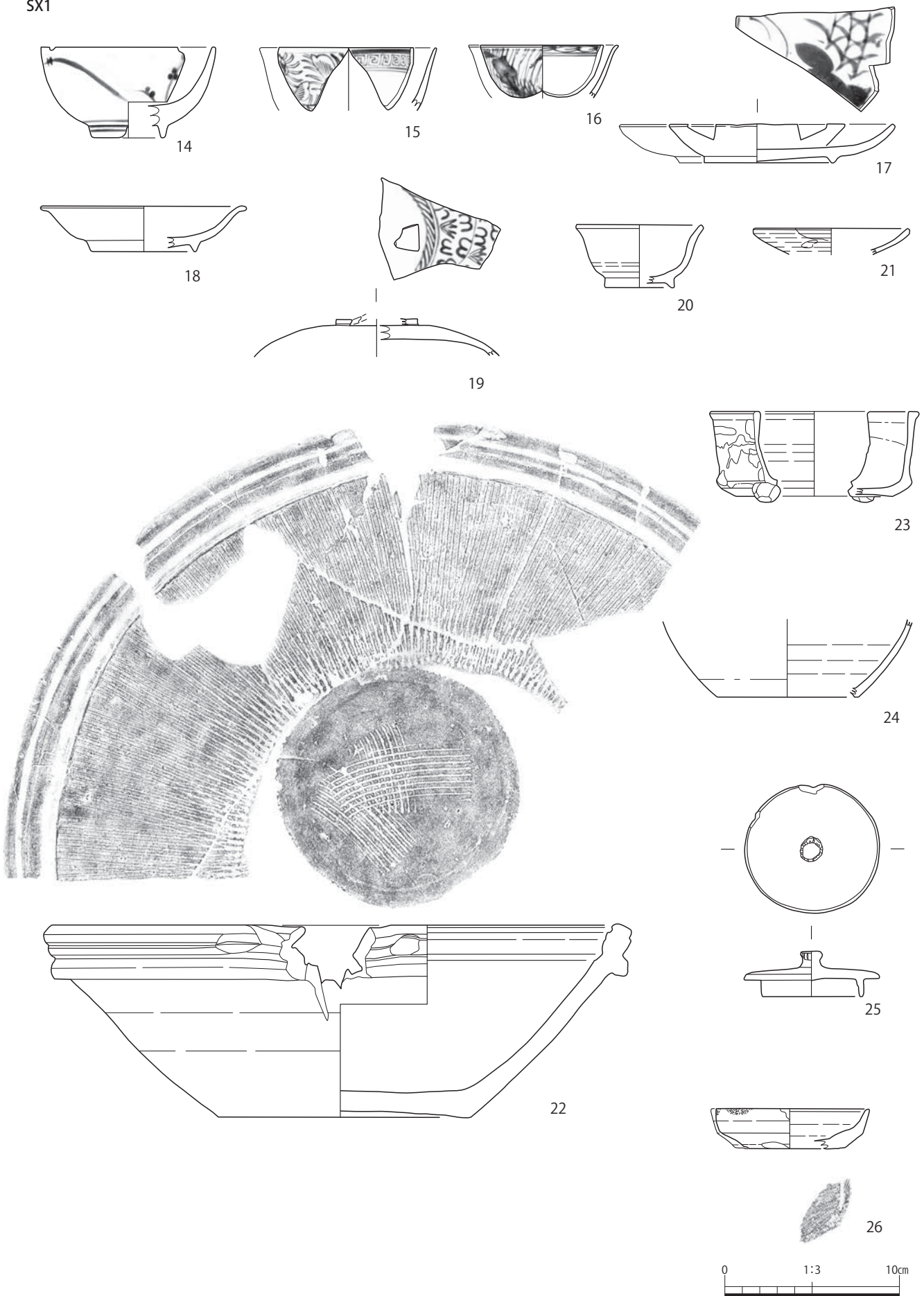


13



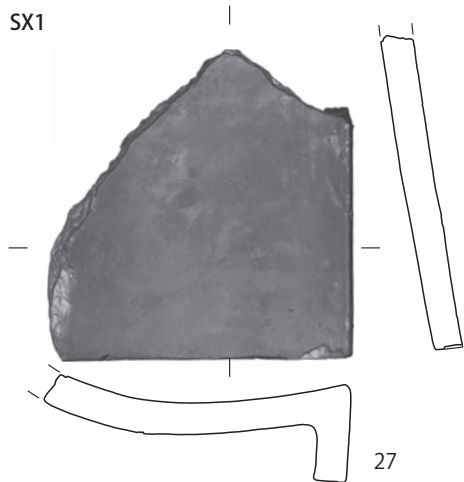
第 123 图 A 地点出土遺物 (1)

SX1



第 124 图 A 地点出土遺物 (2)

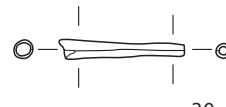
SX1



28



29

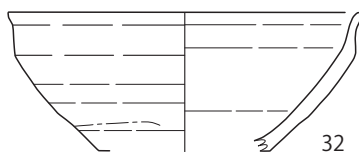


30

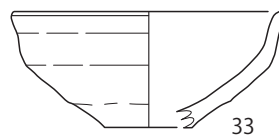
SX2



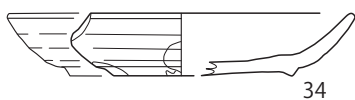
31



32



33



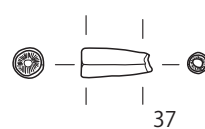
34



35

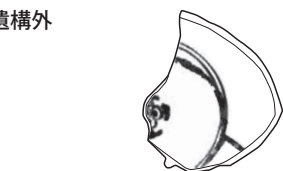


36

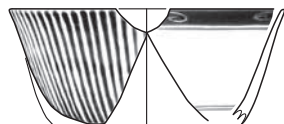
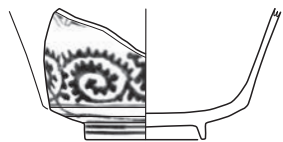


37

遺構外



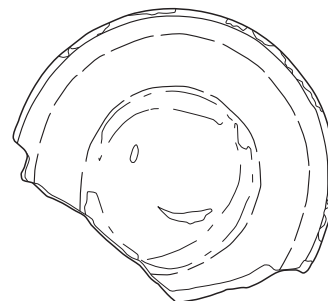
38



39



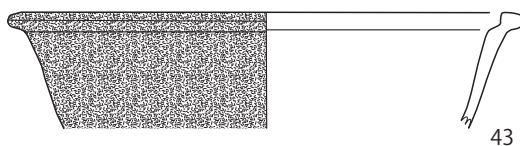
40



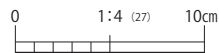
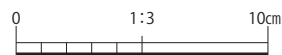
41



42



43



第 125 图 A地点出土遺物 (3)

A- 遺構外



44



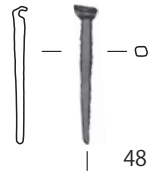
45



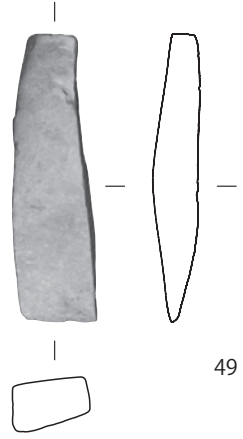
46



47

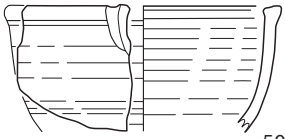


48

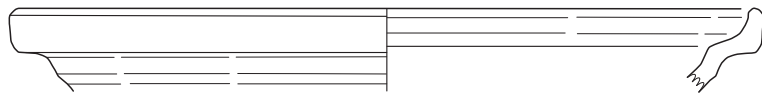


49

B-SK11



50

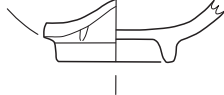


51

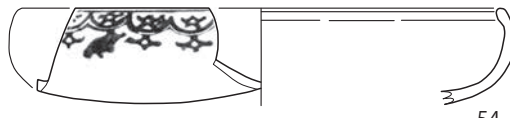
B-SK12



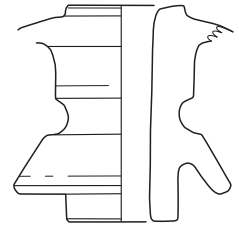
52



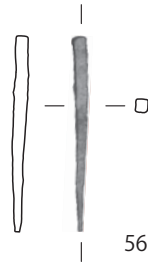
53



54

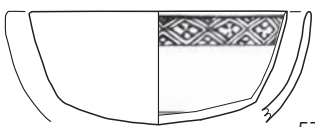


55

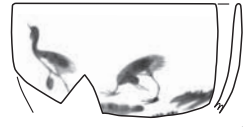


56

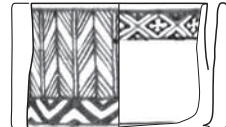
B-SK13



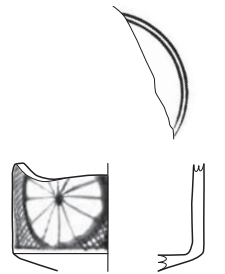
57



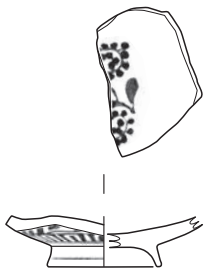
58



59



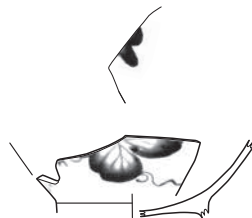
60



61



62



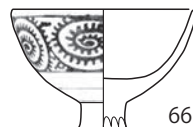
63



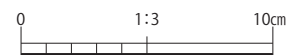
65



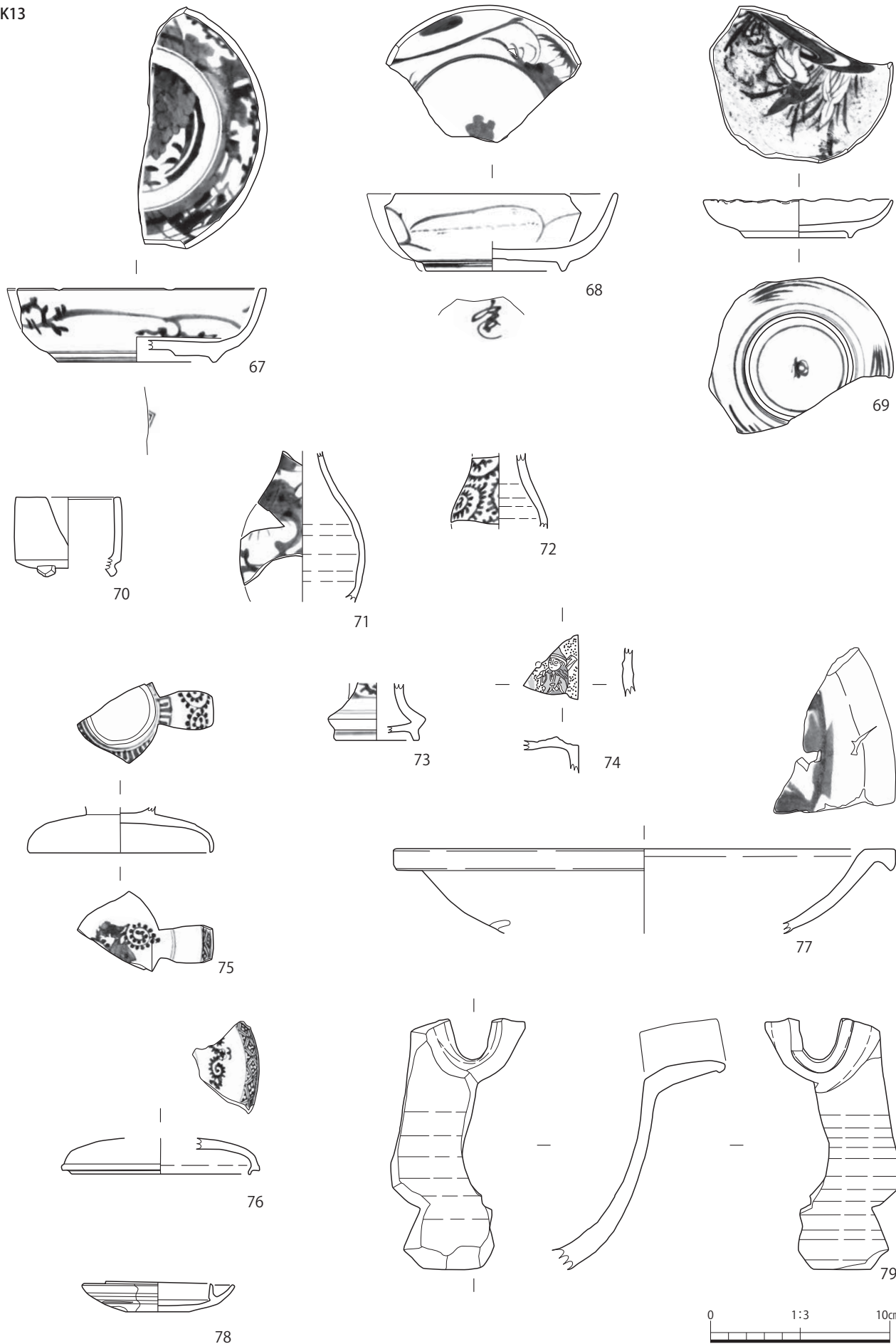
64



66

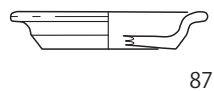
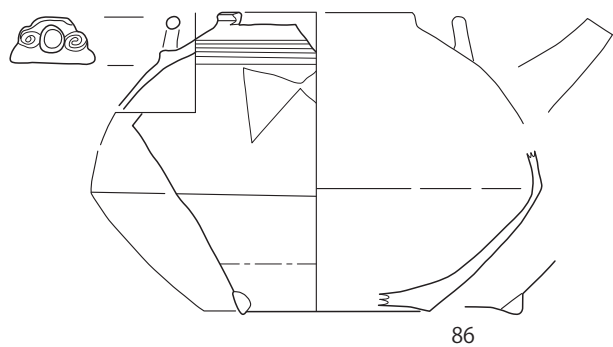
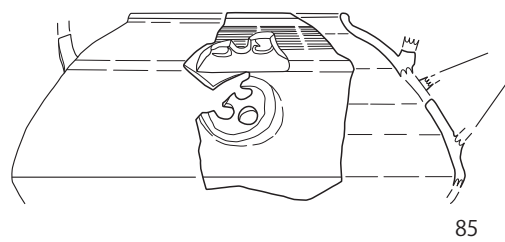
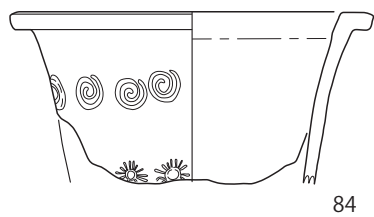
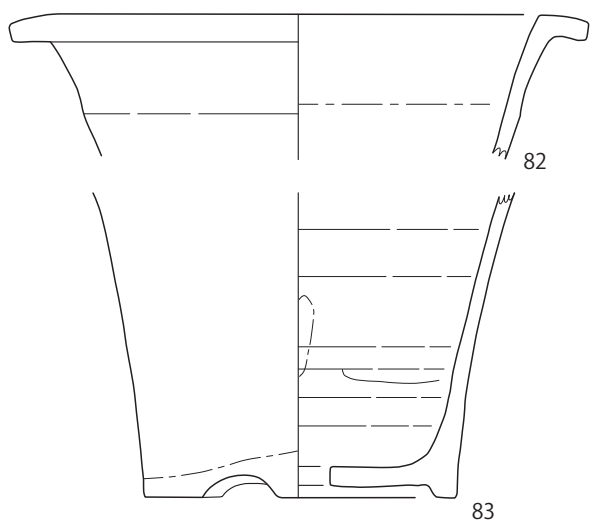
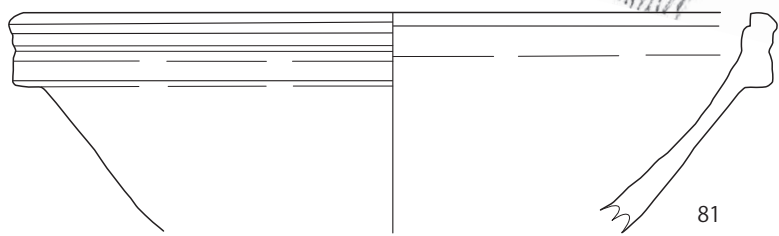
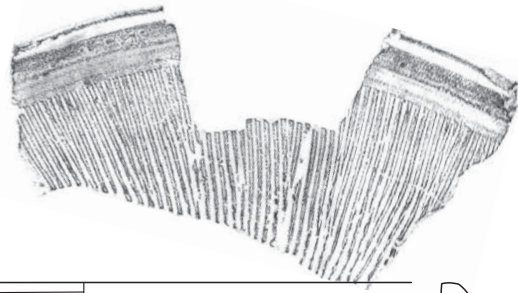
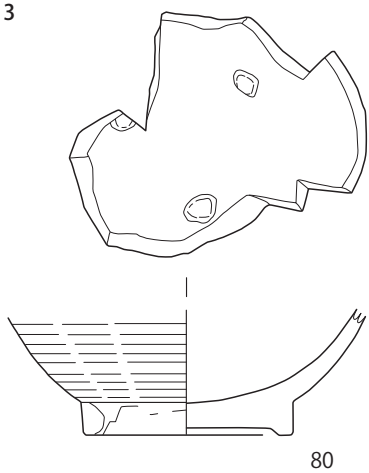


第 126 图 A·B 地点出土遺物

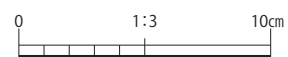
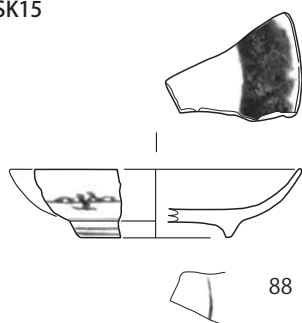


第 127 图 B地点出土遗物 (1)

SK13

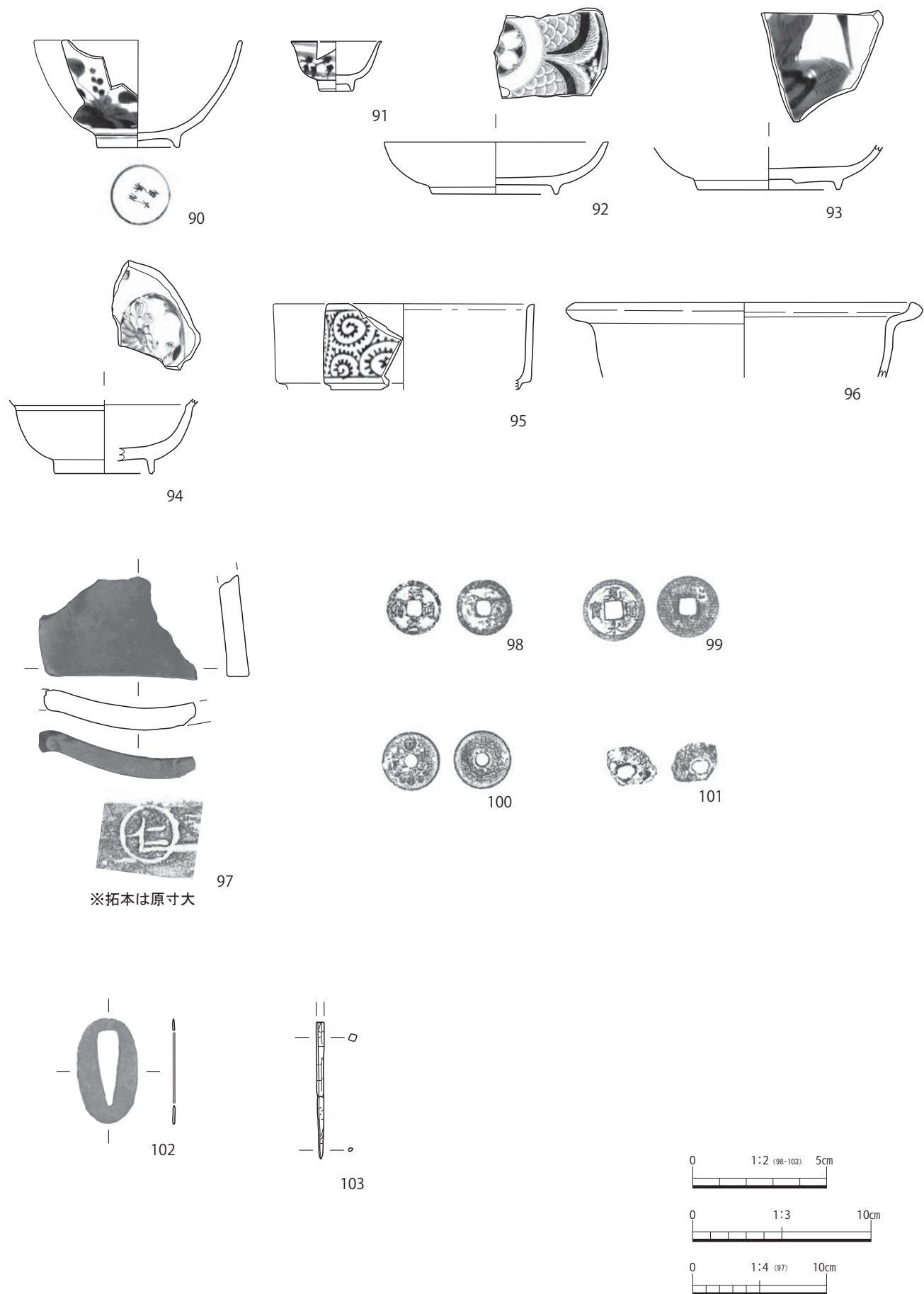


SK15



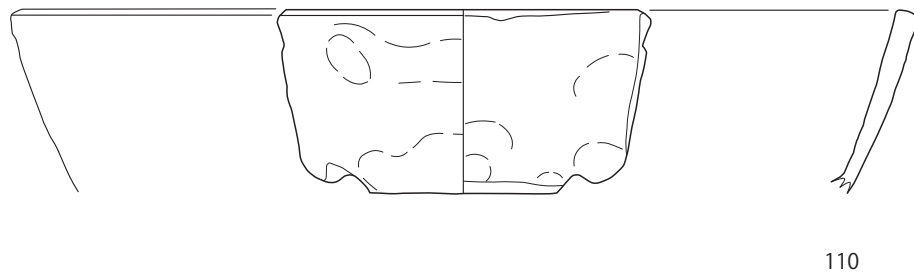
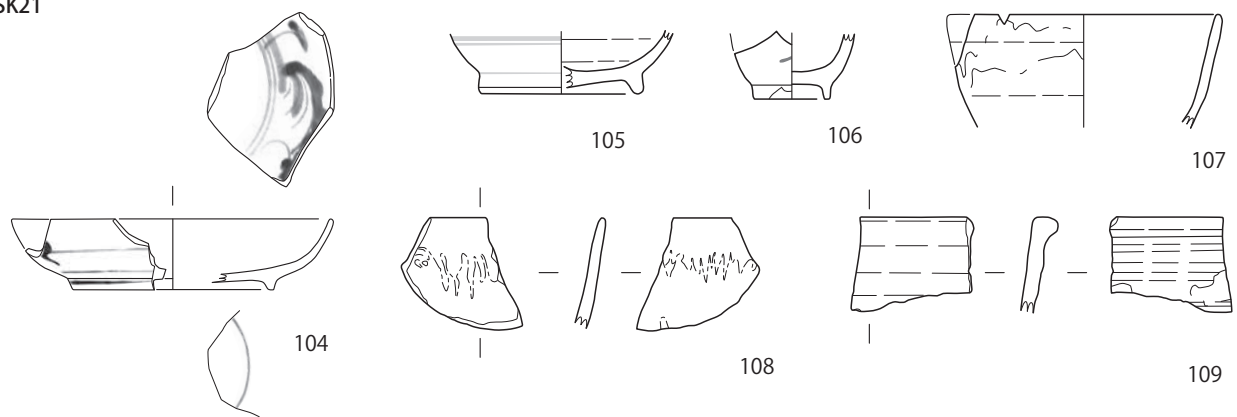
第128图 B地点出土遺物(2)

遺構外

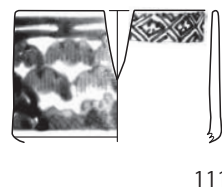


第 129 図 B地点出土遺物 (3)

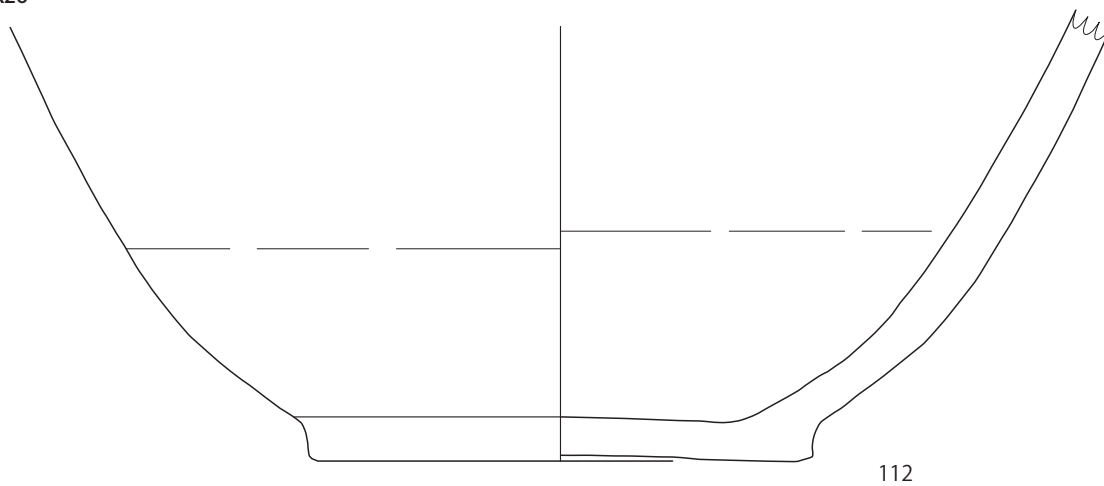
SK21



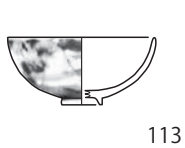
SK22



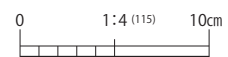
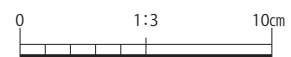
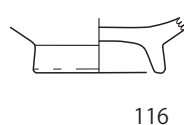
SK26



SK27

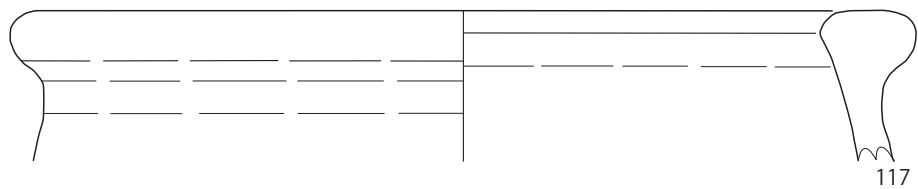


SP23

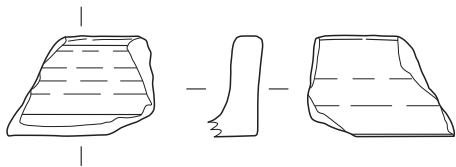


第130图 C地点出土遗物(1)

SD21



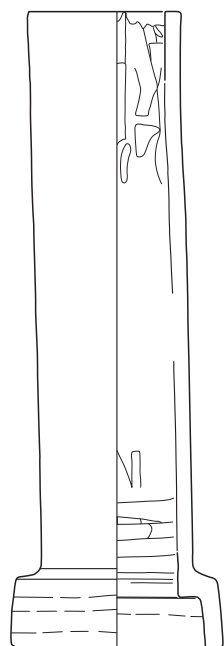
117



118



120



119

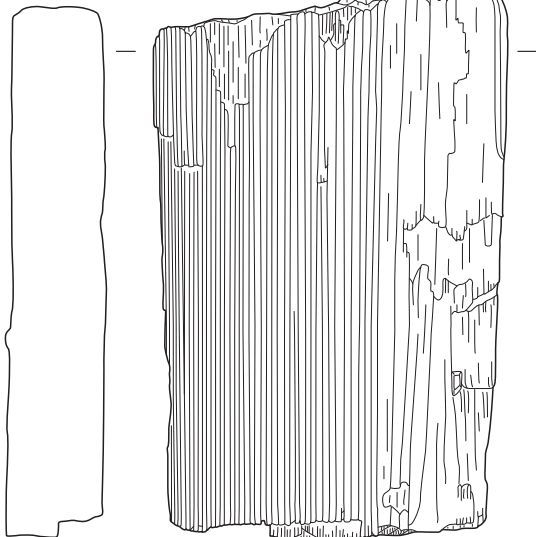
SX21



121



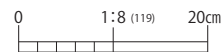
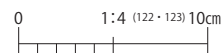
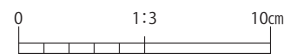
SX22



122

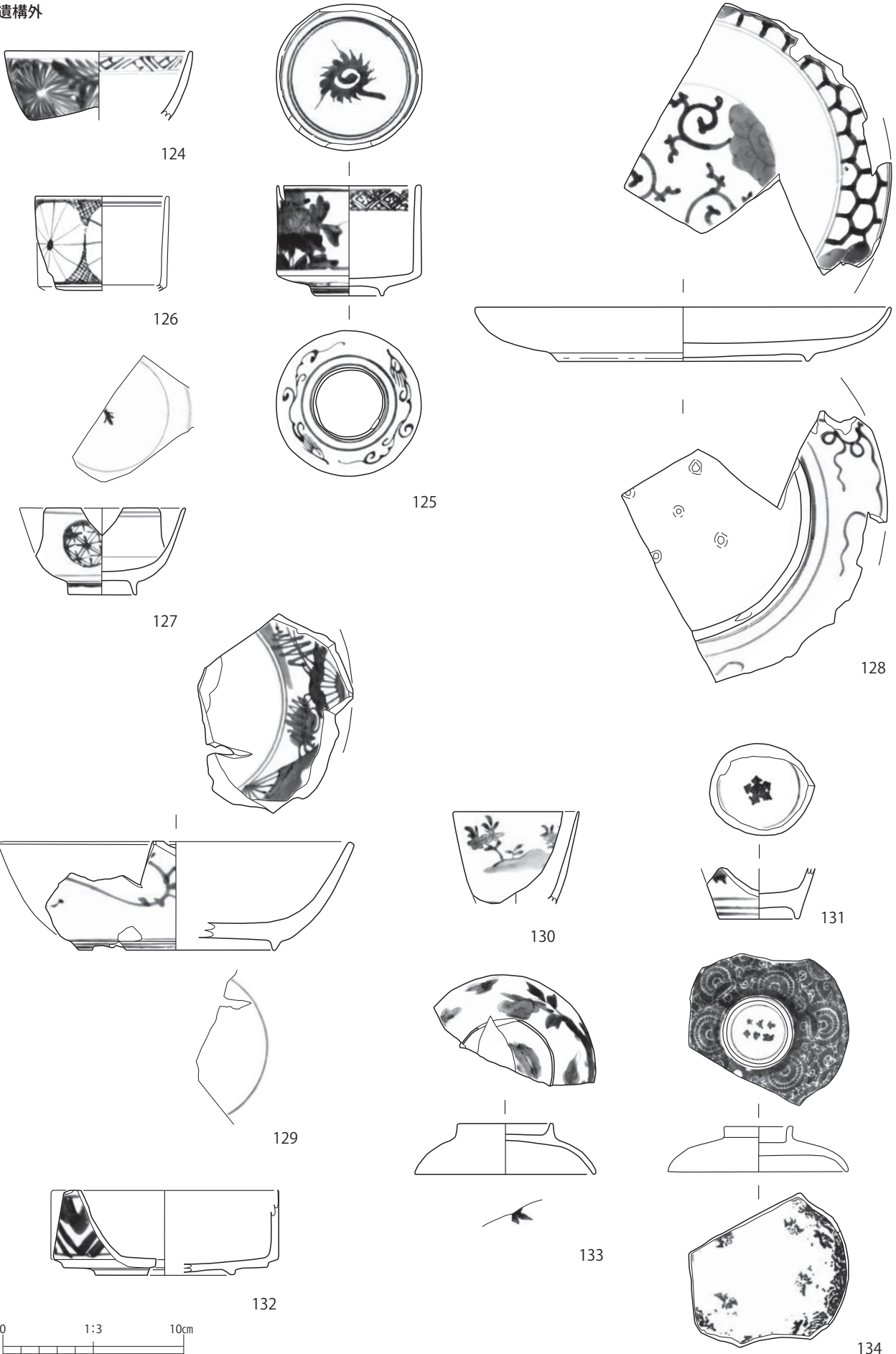


123



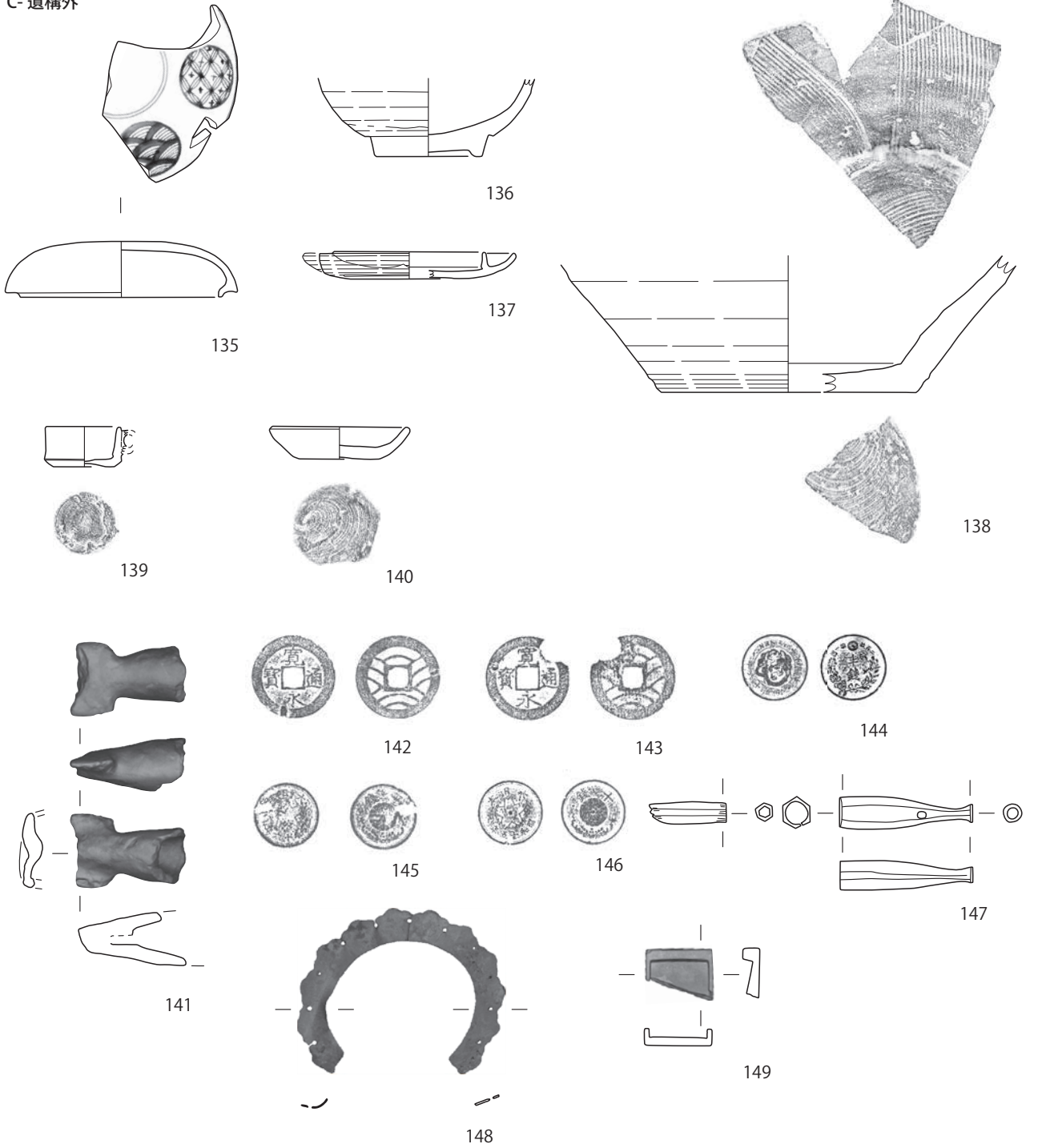
第 131 图 C 地点出土遺物 (2)

遺構外

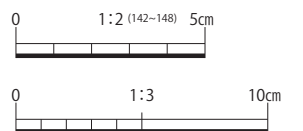
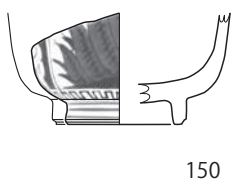


第 132 图 C 地点出土遺物 (3)

C- 遺構外

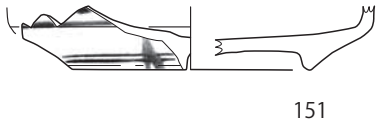


D- 遺構外

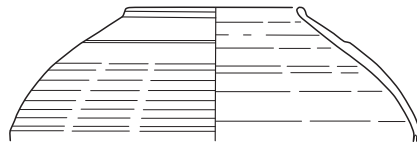


第 133 图 C・D 地点出土遺物

E-SK41

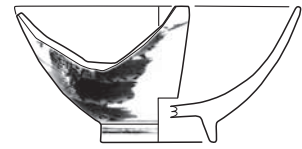


151



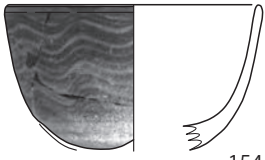
152

E-SK43



153

E-SE41



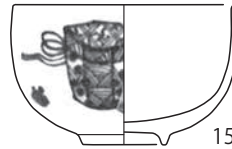
154

E-SE42



155

E-遺構外

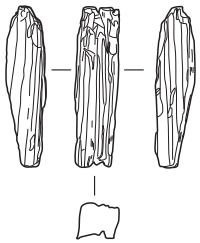


156

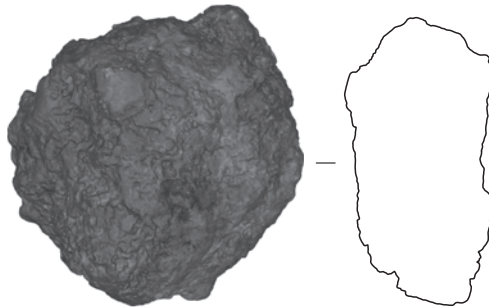


157

F-SK51



158



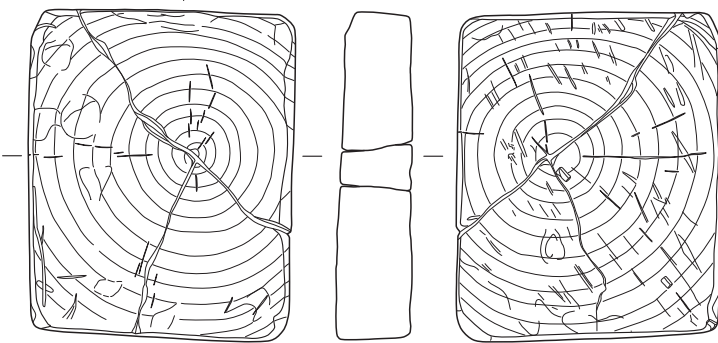
159

F-SD52

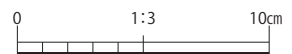


161

F-SK52

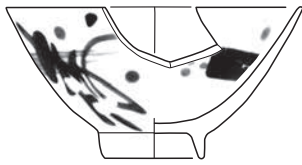


160



第 134 图 E·F 地点出土遺物

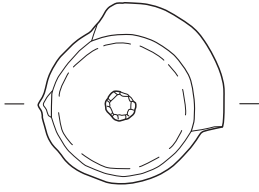
SX51



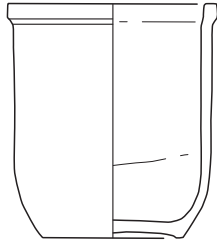
162



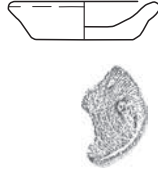
163



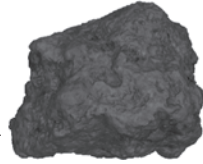
164



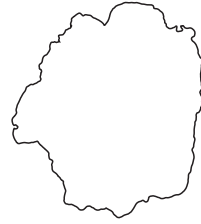
165



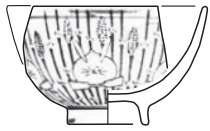
166



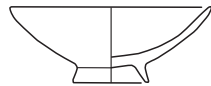
167



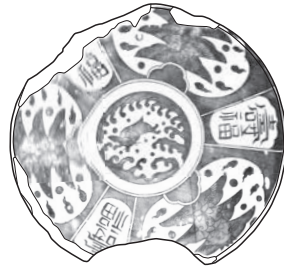
遺構外



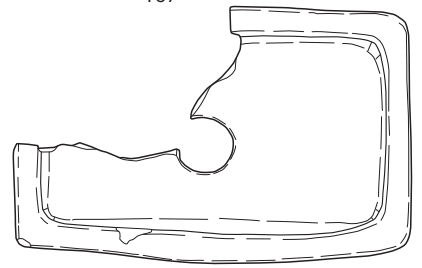
168



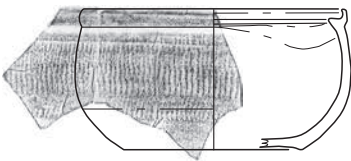
169



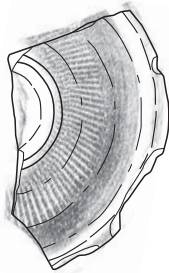
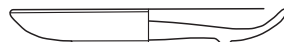
170



171



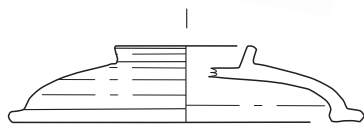
172



174



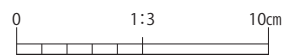
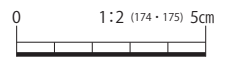
175



173

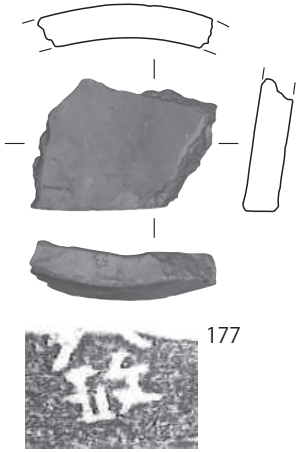


176



第 135 図 F 地点出土遺物

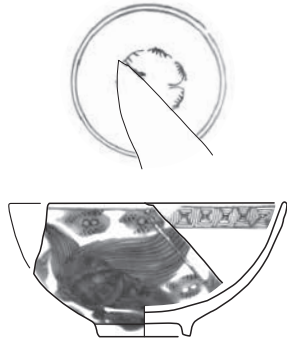
G-SP62



177

※拓本は原寸大

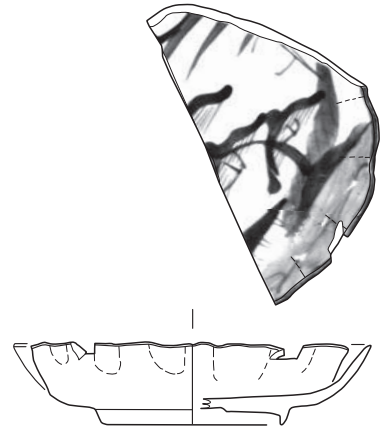
G-遺構外



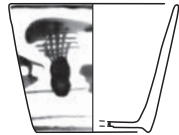
178



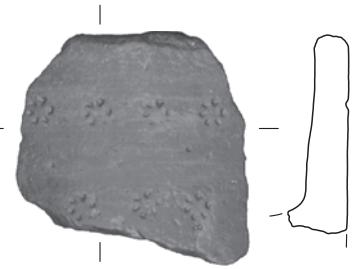
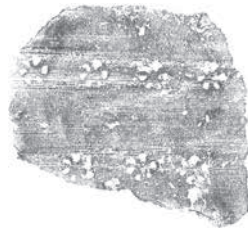
179



180

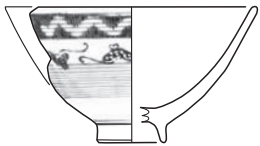


181

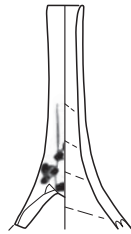


182

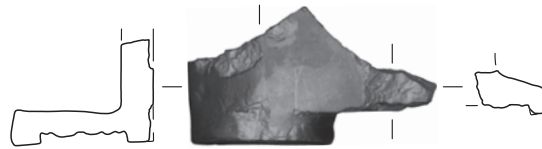
H-遺構外



183



184

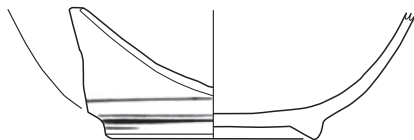


185

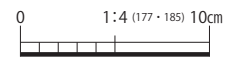
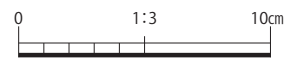
J-遺構外



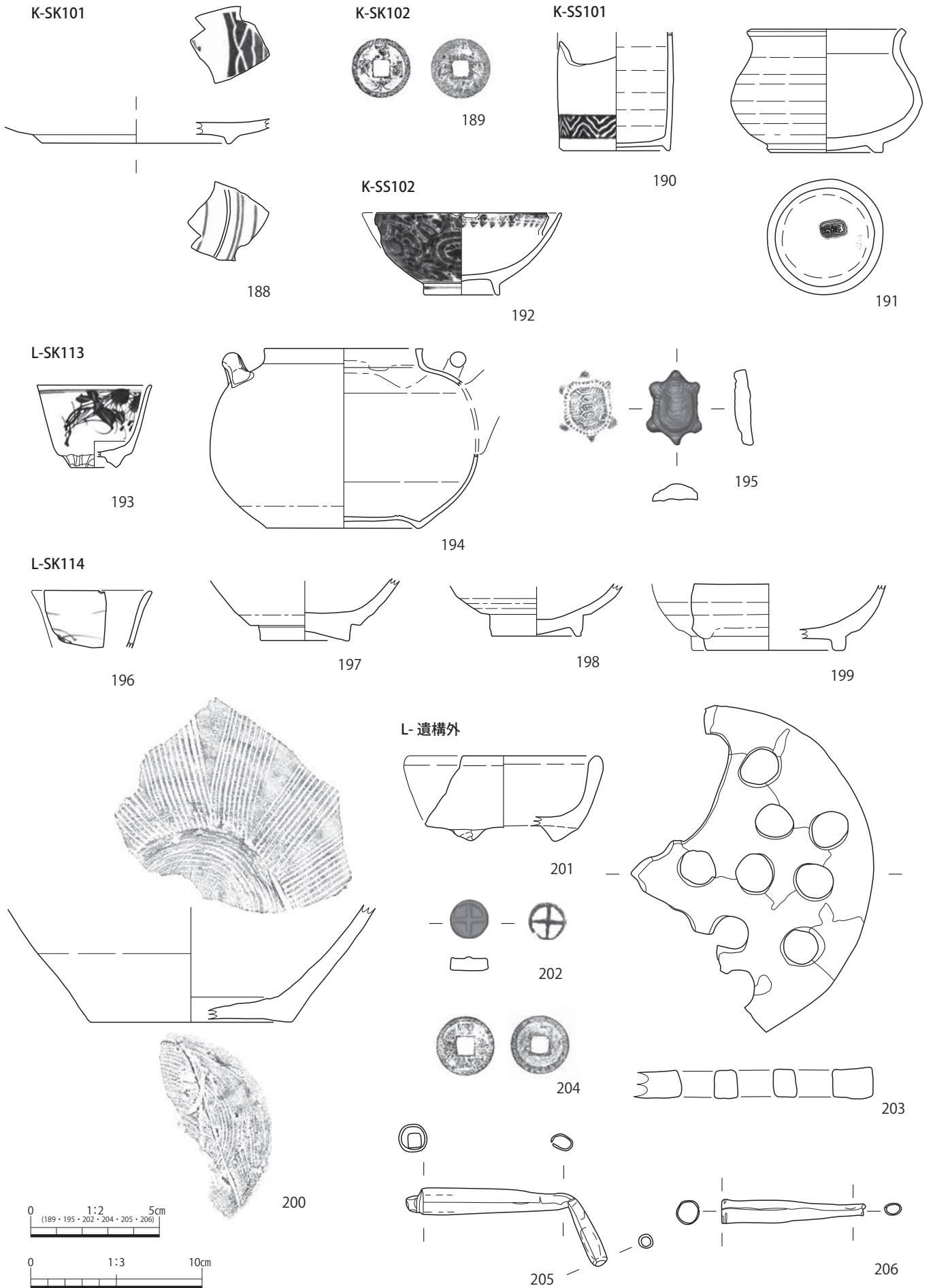
186



187



第 136 図 G・H・J 地点出土遺物



第137图 K·L地点出土遺物

第7表 3区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考		
								A	B	C	D										
1	123	50	3	A	SK5	陶器	中碗	兵器手碗	—	(5.0)	(4.1)	—	—	—	—	—	17C中葉～18C中葉か	買入あり			
2	123	50	3	A	SK5	陶器	楕鉢	—	—	(8.4)	(4.0)	—	—	—	—	—	—	—	—		
3	123	50	3	A	SK6	土器	カワラケ	無高台平形	(6.4)	4.2	1.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
5	123	50	3	A	SS1	磁器	小碗	端反碗	(9.2)	(3.4)	4.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19C
9	123	50	3	A	SS3	陶器	楕鉢	—	—	(12.0)	(5.8)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10	123	50	3	A	SS3	陶器	蓋か	—	—	(7.2)	(2.5)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
11	123	50	3	A	SS5	磁器	小坏	端反形	(6.6)	(3.0)	4.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
12	123	50	3	A	SS5	瓦	棧瓦	—	—	(16.4)	(26.1)	1.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14	124	50	3	A	SK1	磁器	中碗	丸碗	(9.8)	(4.2)	5.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15	124	50	3	A	SK1	磁器	中碗	端反碗	(10.0)	—	(3.6)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16	124	50	3	A	SK1	磁器	小碗	端反碗	(8.6)	—	(3.0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17	124	50	3	A	SK1	磁器	中皿	—	(15.6)	(8.8)	2.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18	124	50	3	A	SK1	磁器	小皿	端反碗	(11.8)	(6.0)	2.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19	124	50	3	A	SK1	磁器	蓋	蓋物蓋	—	(2.2)	(4.7)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20	124	50	3	A	SK1	陶器	小坏	端反形	(7.2)	(4.0)	3.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21	124	50	3	A	SK1	陶器	灯明皿	無高台平形	(8.8)	—	(1.5)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22	124	50	3	B	SS3	陶器	楕鉢	口縁外折三段	33.7	14.5	11.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
23	124	50	3	A	SK1	陶器	香炉	有三足湯筋形	(11.8)	(9.0)	(5.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24	124	50	3	A	SK1	陶器	土瓶	—	—	(8.0)	(4.5)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25	124	50	3	A	SK1	陶器	蓋	土瓶蓋	7.7	5.7	2.6	1.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
26	124	50	3	A	SK1	土器	カワラケ	無高台平形	(8.8)	(6.4)	2.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
27	125	50	3	A	SK1	瓦	神瓦	—	(16.7)	(16.2)	1.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
31	125	50	3	A	SK2	磁器	中碗	丸碗	(11.0)	—	(3.4)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
32	125	50	3	A	SK2	陶器	中碗	天目茶碗か	(14.0)	—	(5.5)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
33	125	50	3	A	SK2	陶器	中碗	天目茶碗	(10.6)	(3.5)	(4.6)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
34	125	50	3	A	SK2	陶器	中皿	丸形	(13.6)	(8.8)	2.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
35	125	50	3	A	SK2	土器	カワラケ	無高台平形	(5.6)	(3.4)	1.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
38	125	50	3	A	遺構外	磁器	中碗	朝顔形碗か	—	(4.8)	(5.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
39	125	50	3	A	遺構外	磁器	中碗	端反碗	(10.8)	—	(4.6)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
40	125	50	3	A	遺構外	磁器	小坏	端反形	(6.8)	—	(2.5)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
41	125	50	3	A	遺構外	陶器	小皿	折縁形	(12.8)	6.4	3.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
42	125	50	3	A	遺構外	陶器	灯明皿	無高台平形	(10.6)	—	(1.6)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
43	125	50	3	A	遺構外	陶器	土鍋か	—	(19.6)	—	(4.6)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
50	126	51	3	B	SK11	陶器	片口	丸形	(10.8)	—	(5.0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
51	126	51	3	B	SK11	陶器	楕鉢	口縁折縁形	29.2	—	(3.3)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
52	126	51	3	B	SK12	磁器	丸碗	丸碗	(8.0)	3.0	5.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
53	126	51	3	B	SK12	磁器	碗か	—	—	(4.6)	(2.5)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
54	126	51	3	B	SK12	磁器	鉢か	—	(19.0)	—	(3.8)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
55	126	51	3	B	SK12	磁器	罌子	—	(8.6)	(8.6)	8.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
57	126	51	3	B	SK13	磁器	中碗	丸碗	(12.0)	—	(4.6)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
58	126	51	3	B	SK13	磁器	小丸碗	—	(9.0)	—	(4.3)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第7表 3区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	押図	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
									A	B	C	D								
59	126	51	3	B	SK13	磁器	中碗	筒形碗	(8.4)	—	(5.4)	—	口縁1/4~底部	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C 中葉~19C 初頭 (1740~1810年)	2次焼熱により釉が溶けている	
60	126	51	3	B	SK13	磁器	中碗	筒形碗	—	—	(4.3)	—	体部小	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C 中葉~19C 初頭 (1740~1810年)	—	
61	126	51	3	B	SK13	磁器	中碗	望料碗	—	(4.6)	(2.0)	—	底部1/2	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C 後葉~19C 初頭 (1770~1802年)	2次焼熱により釉が溶けている	
62	126	51	3	B	SK13	磁器	中碗	広車碗	(11.9)	—	(4.4)	—	口縁1/2~体部	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C 後葉~19C 中葉 (1770~1840年)	62と同一個体か	
63	126	51	3	B	SK13	磁器	中碗	広車碗	—	(6.0)	(3.1)	—	体部小~底部1/3	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C 後葉~19C 中葉 (1770~1840年)	61と同一個体か	
64	126	51	3	B	SK13	磁器	小坏	丸形	(8.0)	—	(2.3)	—	口縁1/2~体部	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	2次焼熱により釉が溶けている	
65	126	51	3	B	SK13	磁器	小坏	丸形	(7.0)	(2.4)	3.6	—	口縁1/3~底部1/2	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	2次焼熱により釉が溶けている	
66	126	51	3	B	SK13	磁器	仏磁器	—	(7.2)	—	(4.7)	—	口縁1/2~脚部小	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	蛇の目凹形高台・口縁部を輪花に作る	
67	127	51	3	B	SK13	磁器	中皿	丸形	(14.4)	(8.8)	4.1	—	口縁1/2~底部1/2	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C	2次焼熱により釉が溶けている	
68	127	51	3	B	SK13	磁器	中皿	丸形	(13.8)	(7.8)	4.3	—	口縁1/4~底部1/4	透明釉	染付・野込みにコンニャク印判五弁 花・高台内縁「杵なし湯福」	白色粒・黒色粒	肥前系	18C 中葉頃か	—	
69	127	51	3	B	SK13	磁器	小皿	丸形	(10.5)	6.0	2.2	—	口縁1/4~底部3/4	透明釉	染付・高台内縁「杵なし湯福」	黒色粒	肥前系	18C 後葉頃か	口縁を輪花につくる	
70	127	51	3	B	SK13	磁器	香炉	有足半筒形	(5.8)	(5.8)	4.4	—	口縁1/4~底部小	青磁釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	
71	127	51	3	B	SK13	磁器	瓶	棟形	—	—	(8.4)	—	体部小	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	
72	127	51	3	B	SK13	磁器	瓶	棟形	—	—	(4.2)	—	体部小	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	
73	127	51	3	B	SK13	磁器	神酒樽	瓶子形	—	(4.6)	(3.2)	—	体部小~底部小	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	輪高台・高台部分付着	
74	127	51	3	B	SK13	磁器	水筒	—	(3.5)	(3.0)	(2.0)	—	体部小	透明釉	染付・色絵(茶)	黒色粒	肥前系	—	—	
75	127	51	3	B	SK13	磁器	蓋	碗蓋	(10.1)	—	(2.6)	—	底部1/2~受部1/4	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	2次焼熱により釉が溶けている	
76	127	51	3	B	SK13	磁器	蓋	蓋物蓋	(11.0)	(10.0)	(2.0)	—	体部小~受部1/4	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	
77	127	51	3	B	SK13	陶器	大皿	筒形	(28.0)	—	(4.7)	—	口縁小~体部小	透明釉	呉須絵	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	石灰・2次焼熱により釉が溶けている	
78	127	51	3	B	SK13	陶器	灯明受皿	平底	8.3	3.6	1.7	5.8	口縁1/2~底部1/2	灰釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	外面に隆状痕(目跡)あり	
79	127	51	3	B	SK13	陶器	片口	丸形	—	—	(14.0)	—	口縁小~体部小	灰釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	80と同一個体か	
80	128	51	3	B	SK13	陶器	片口	丸形	—	8.2	(5.0)	—	体部小~底部	灰釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	79と同一個体か・見込みに目跡3ヶ所あり	
81	128	51	3	B	SK13	陶器	甗鉢	口縁外唇三段	(29.4)	—	(8.7)	—	口縁小~体部小	細粒口口口口口口	—	赤色粒・白色粒・長石	堺・明石系	—	—	
82	128	51	3	B	SK13	陶器	榑木鉢	筒形	23.0	—	(5.8)	—	口縁1/3~体部小	灰釉	—	—	瀬戸・美濃系	18C4/4以降	83と同一個体か	
83	128	51	3	B	SK13	陶器	榑木鉢	筒形	—	11.3	(12.1)	—	体部~底部	灰釉	—	—	瀬戸・美濃系	18C4/4以降	82と同一個体か	
84	128	52	3	B	SK13	陶器	榑木鉢	筒形	14.4	—	(6.8)	—	口縁2/3~体部小	筒釉(外)	筒刻(印花)	黒色粒	瀬戸・美濃系	18C4/4以降	—	
85	128	52	3	B	SK13	陶器	土瓶	筒形	(8.6)	—	(6.9)	—	口縁小~体部小	筒釉(内)	—	—	—	—	—	
86	128	52	3	B	SK13	陶器	土瓶	筒形	(7.8)	(9.0)	12.0	—	口縁小~底部1/3	筒釉	—	—	—	—	—	
87	128	52	3	B	SK13	陶器	蓋	土瓶蓋	(7.5)	(5.3)	1.5	—	口縁1/3~底部1/3	筒釉	—	—	—	—	—	
88	128	52	3	B	SK15	磁器	小皿	丸形	(11.6)	(6.0)	2.7	—	口縁1/8~底部1/8	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	2次焼熱により釉が溶けている	
90	129	52	3	B	遺構外	磁器	中碗	丸形	(11.5)	4.6	6.0	—	口縁小~底部	透明釉	染付・高台内縁「大明年製」	黒色粒	肥前系	17C 後葉~18C 初頭 (1670~1707年)	—	
91	129	52	3	B	遺構外	磁器	小坏	端反形	5.0	2.0	2.8	—	口縁3/4~底部1/2	透明釉	染付	黒色粒	—	近代	—	—
92	129	52	3	B	遺構外	磁器	小皿	丸形	(12.6)	(7.0)	(2.9)	—	口縁小~底部1/5	透明釉	脚板記号・縁筋	黒色粒	—	近代	—	—
93	129	52	3	B	遺構外	磁器	鉢	丸形	—	(8.0)	(2.4)	—	底部1/4	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C 中葉	蛇の目凹形高台	
94	129	52	3	B	遺構外	磁器	鉢	丸形	(5.4)	(4.1)	—	—	体部小~底部1/4	透明釉	色絵(赤・青・黄・黒)	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	焼練あり	
95	129	52	3	B	遺構外	磁器	蓋物	段重	(14.6)	—	(4.8)	—	口縁~体部	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	胴部括弧あり	
96	129	52	3	B	遺構外	陶器	土鍋	—	(18.8)	—	(4.2)	—	口縁1/6~体部小	筒釉	—	白色粒・黒色粒	—	—	—	
97	129	52	3	B	遺構外	瓦	棧瓦	—	(7.8)	(11.8)	1.6	—	小片	—	刻印あり「〇に仁」の厨号	—	—	—	—	
104	130	52	3	C	SK21	磁器	小皿	丸形	(12.6)	(8.0)	2.8	—	口縁1/8~底部1/4	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	—
105	130	52	3	C	SK21	磁器	瓶	—	—	(6.4)	(2.5)	—	体部~底部1/2	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	—

第7表 3区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図 図版	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
									A	B	C	D								
106	130	52	3	C	SK21	磁器	瓶か	—	—	(3.0)	(2.6)	—	底面1/3	透明釉	染付	—	瀬戸・美濃系	19C	高台砂付着	
107	130	52	3	C	SK21	陶器	中碗	丸碗	(10.7)	(4.5)	—	口縁1/4～体部小	灰釉・緑釉	—	—	白色粒	瀬戸・美濃系	—	—	
108	130	52	3	C	SK21	陶器	鉢	丸碗	—	(4.4)	—	口縁小～体部小	灰釉	—	—	白色粒	瀬戸・美濃系	—	—	
109	130	52	3	C	SK21	陶器	鉢	丸碗	—	(3.8)	—	口縁小～体部小	灰釉・ウノノ釉	—	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	
110	130	52	3	C	SK21	土器	焙烙	—	(35.0)	—	—	口縁小～体部小	—	—	赤色粒・白色粒・金色雲母	—	18C中葉～19C初頭 (1740～1810年代)	外面に指頭痕あり		
111	130	52	3	C	SK22	磁器	中碗	筒形碗	(8.0)	(5.2)	—	口縁1/4～体部	透明釉	染付	—	黒色粒	肥前系	—	—	
112	130	52	3	C	SK26	土器	罎	—	—	(20.0)	(17.2)	—	細積みロクロ成形	—	—	白色粒・黒色粒	—	—	瓦質	
113	130	52	3	C	SK27	磁器	瓶	丸形	(5.8)	(1.6)	2.7	—	口縁1/2～底面1/3	透明釉	色絵(赤)	—	肥前系	—	—	
114	130	52	3	C	SK27	土製品	土鈴	—	2.4	2.6	2.2	—	斧形	—	—	黒色粒・長石	—	—	—	
116	130	52	3	C	SE23	陶器	中碗	罎器手碗	—	5.2	(2.2)	—	口縁～底面2/3	灰釉	—	—	肥前系	—	—	
117	131	52	3	C	SD21	土器	火鉢か	—	(34.0)	—	(6.0)	—	口縁小～体部小	—	—	赤色粒・白色粒・金色雲母・ 黒色雲母	—	—	—	
118	131	52	3	C	SD21	土器	焙烙	—	4.0	5.8	—	—	口縁小～底面小	—	—	赤色粒・白色粒・金色雲母・ 黒色雲母	—	—	—	
119	131	52	3	C	SD21	土製品	土管	—	22.4	16.0	67.3	—	斧形	—	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・金色 雲母・黒色雲母・長石・石英	—	近代	—	
120	131	52	3	C	SD21	ガラス 製品	瓶	—	2.6	2.8	4.4	—	斧形	—	—	—	—	近代	ネジ蓋・染料瓶	
121	131	52	3	C	SK21	土器	カワラケ	無高台平形	7.6	(4.2)	2.2	—	口縁1/6～底面1/4	型吹き成形	—	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・雲母	—	—	内面に線付着
124	132	53	3	C	遺構外	磁器	中碗	丸碗	(10.4)	—	(3.8)	—	口縁1/2	透明釉	染付	—	瀬戸・美濃系	19C	破断面に漆継の痕跡あり	
125	132	53	3	C	遺構外	磁器	中碗	筒形碗	(8.0)	3.8	6.1	—	口縁3/4～底面	透明釉	染付	—	肥前系	18C中葉～19C初頭 (1740～1810年代)	—	
126	132	53	3	C	遺構外	磁器	中碗	筒形碗	(7.4)	—	(5.2)	—	口縁1/3～体部	透明釉	染付	—	肥前系	18C中葉～19C初頭 (1740～1810年代)	—	
127	132	53	3	C	遺構外	磁器	中碗	端反碗	(9.0)	(3.8)	4.8	—	口縁小～底面1/2	透明釉	染付	—	瀬戸・美濃系	19C	口縁の外反が非常に強い	
128	132	53	3	C	遺構外	磁器	中皿	丸形	(22.8)	(13.8)	3.0	—	口縁小～底面1/4	透明釉	染付	—	肥前系	—	高台内目跡5ヶ所残存(ハリ支え)	
129	132	53	3	C	遺構外	磁器	中皿	丸形	(19.2)	(10.8)	6.0	—	口縁小～底面1/4	透明釉	染付	—	肥前系	—	—	
130	132	53	3	C	遺構外	磁器	鉢	桶形	(6.9)	—	(5.1)	—	口縁1/3～体部小	透明釉	染付	—	肥前系	—	—	
131	132	53	3	C	遺構外	磁器	鉢	桶形	—	4.4	(2.8)	—	底面	透明釉	染付	—	肥前系	—	そば猪口・高台砂付着	
132	132	53	3	C	遺構外	磁器	蓋物	段重	(12.4)	(7.6)	4.7	—	口縁小～底面1/4	透明釉	染付	—	肥前系	—	—	
133	132	53	3	C	遺構外	磁器	蓋	碗蓋	(10.0)	(5.2)	2.8	—	口縁1/3～受部1/2	透明釉	染付	—	肥前系	—	—	
134	132	53	3	C	遺構外	磁器	蓋	碗蓋	(10.0)	3.8	2.5	—	口縁1/3～受部1/4	透明釉	染付	—	肥前系	—	—	
135	133	53	3	C	遺構外	磁器	蓋	蓋物蓋	(11.6)	(10.0)	2.8	—	体部～口縁1/3	透明釉	染付	—	肥前系	—	—	
136	133	53	3	C	遺構外	陶器	中碗	丸碗	—	5.2	(3.9)	—	体部～底面	灰釉	—	—	瀬戸・美濃系	—	—	
137	133	53	3	C	遺構外	陶器	灯明受皿	平底	(10.4)	(6.0)	1.4	—	口縁小～底面1/4	鉄釉	—	—	瀬戸・美濃系	—	—	
138	133	53	3	C	遺構外	陶器	措鉢	—	—	(12.7)	(6.8)	—	体部小～底面1/5	鉄釉	—	—	瀬戸・美濃系	—	—	
139	133	53	3	C	遺構外	陶器	猪口	—	3.7	3.0	2.0	—	口縁～底面	灰釉	—	—	—	—	—	
140	133	53	3	C	遺構外	土器	カワラケ	無高台平形	(6.6)	4.0	1.6	—	口縁1/6～底面	—	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・金 色雲母	—	—	破断面に漆継の痕跡あり	
141	133	53	3	C	遺構外	土製品	土能	—	(3.7)	(5.7)	(0.7)	—	桶部	—	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・雲母	—	—	—	
150	133	53	3	D	遺構外	磁器	鉢	—	—	(5.0)	(4.4)	—	口縁1/6～底面	透明釉	染付	—	肥前系	—	—	
151	134	53	3	E	SK41	磁器	鉢	—	—	(9.4)	—	底面	透明釉	染付	—	肥前系	—	—	焼継・焼継印あり	
152	134	53	3	E	SK41	陶器	土瓶	—	(7.0)	—	(5.3)	—	口縁1/4～体部	鉄釉	—	—	—	—	—	
153	134	53	3	E	SK43	磁器	中碗	平碗	(11.2)	(4.6)	5.4	—	口縁小～底面	透明釉	染付・繕繕	—	瀬戸・美濃系か	19C	—	
154	134	53	3	E	SE41	陶器	中碗	筒形碗	(10.0)	—	(5.8)	—	口縁1/4～体部	透明釉	染付	—	肥前系	17C末～18C後葉頃 (1850～1860年代)	—	
155	134	53	3	E	SE42	磁器	小坏	端反形	(7.8)	(3.2)	3.6	—	口縁1/4～底面1/2	透明釉	染付	—	肥前系	18C中葉～19C初頭 (1740～1810年代)	—	
156	134	53	3	E	遺構外	磁器	中碗	半球碗	(8.6)	(3.4)	5.6	—	口縁1/4～底面1/4	透明釉	染付	—	肥前系	—	—	
162	135	54	3	F	SK51	磁器	中碗	平碗	(11.8)	(4.0)	6.0	—	口縁1/3～底面1/2	透明釉	染付	—	—	近代	—	SK51上層

第7表 3区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図 番号	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考	
									A	B	C	D									
163	135	54	3	F	SX51	陶器	擂鉢	口縁外平形	(34.0)	—	(4.3)	—	口縁小	鉄釉	—	白色粒・黒色粒・長石	瀬戸・美濃系	18C2/4か	SX51下層		
164	135	54	3	F	SX51	陶器	土瓶蓋	口縁外平形	(8.4)	4.5	1.5	—	胴部～底部	鉄釉	—	黒色粒	—	—	SX51上層		
165	135	54	3	F	SX51	陶器	防衝食器	—	(8.4)	5.6	9.3	—	口縁1/4～底部	透明釉	—	赤色粒・白色粒・金色塵母・黒石	—	近代	SX51下層		
166	135	54	3	F	SX51	土器	カワラケ	無高台平形	(5.6)	(4.0)	1.5	—	口縁1/4～底部1/2	口縁1/4成形成 部回転糸切	—	黒色粒	—	近代	高台砂付着		
168	135	54	3	F	遺構外	磁器	小碗	丸形	(7.8)	3.2	4.7	—	口縁1/4～底部	透明釉	銅板転写	—	—	近代	—		
169	135	54	3	F	遺構外	磁器	小杯	木蓋形	(8.0)	3.0	3.0	—	口縁1/3～底部	透明釉	—	—	—	近代	—		
170	135	54	3	F	遺構外	磁器	小皿	丸形	10.8	6.0	1.6	—	口縁2/3～底部	透明釉	銅板転写	—	—	近代	—		
171	135	54	3	F	遺構外	陶器	榎木鉢	丸形	15.8	14.2	5.6	—	胴部1/4～底部3/4	鉄釉・長石釉	—	黒色粒	—	—	—	—	
172	135	54	3	F	遺構外	陶器	行平鍋	丸形	(10.4)	(7.1)	5.6	—	口縁1/5～底部1/8	鉄釉・長石釉	トビガンナ	—	黒色粒	—	—	—	
173	135	54	3	F	遺構外	陶器	蓋	行平鍋蓋	(13.8)	(5.4)	3.0	—	胴部1/3～底部1/6	鉄釉	トビガンナ	—	白色粒・黒色粒	—	—	—	
176	135	54	3	F	遺構外	ガラス 製品	瓶	—	3.6	4.1	6.5	—	完形	型吹き成形	底面刻印「平尾 店」	—	—	—	—	化粧クリーム瓶・ネン蓋・断面十角形	
177	136	54	3	G	SP62	瓦	棧瓦	—	(7.0)	(9.9)	(1.7)	—	小片	転作リ・型当て 成形	刻印あり「へに故」の屋号	白色粒	—	—	—		
178	136	54	3	G	遺構外	磁器	中碗	丸形	(11.0)	(3.6)	5.3	—	口縁1/3～底部1/3	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	19C2/4～3/4 (1820～1860年代)	—		
179	136	54	3	G	遺構外	磁器	小杯	端反形	(6.8)	3.4	4.6	—	口縁1/4～底部	透明釉	色絵(青)	黒色粒	肥前系	—	—	口縁の外反が強い	
180	136	54	3	G	遺構外	磁器	中皿	丸形	(14.2)	(7.0)	3.2	—	口縁1/4～底部1/2	透明釉	染付・縁繪	黒色粒	肥前系	18C中葉以降か (1740年代以降)	—	蛇の目凹形高台・口縁部を輪花に作る	
181	136	54	3	G	遺構外	磁器	鉢	楕形	(6.7)	(4.6)	5.1	—	口縁1/2～底部1/3	透明釉	染付・縁繪	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	そば窪口・蛇の目凹形高台	
182	136	54	3	G	遺構外	土器	火鉢か	—	(5.0)	(9.2)	(7.8)	—	口縁～底部小	—	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・金 色塵母・長石	—	—	—	口縁に縁付着	
183	136	54	3	H	遺構外	磁器	中碗	平碗	(10.0)	(2.6)	5.4	—	口縁1/4～底部小	透明釉	染付(スクリーン転写か)	黒色粒	—	近代	—	—	
184	136	54	3	H	遺構外	磁器	鉢	楕形	1.4	—	(8.9)	—	口縁～底部	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	—	
185	136	54	3	H	遺構外	瓦	軒棧瓦	小丸瓦当	(7.6)	(13.4)	1.7	—	瓦当部小	転作リ・型当て・ 型押し成形	—	白色粒・雲母	—	—	—	椀鉢乳み・目跡2(椀部瓦当表・裏)	
186	136	54	3	J	遺構外	磁器	小碗	筒形碗	(8.0)	—	(4.4)	—	口縁1/4～底部小	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C中葉～19C初頭 (1740～1810年代)	—	—	
187	136	54	3	J	遺構外	磁器	鉢	—	—	(8.0)	(5.1)	—	胴部小～底部1/4	透明釉	染付	—	—	—	—	—	
188	137	55	3	K	SK101	磁器	皿	—	(11.0)	1.4	—	—	底部1/8	透明釉	染付	—	—	—	—	—	
190	137	55	3	K	SS101	磁器	燗德利	—	—	6.2	(6.9)	—	胴部1/2～底部	透明釉	銅板転写	—	—	—	—	—	—
191	137	55	3	K	SS101	陶器	蓋	クリ底	(8.6)	6.5	7.4	—	口縁1/4～底部	灰釉・長石釉	高台内刻印「晴雲山」高台内墨書「仁 三」	—	—	—	—	—	—
192	137	55	3	K	SS102	磁器	中碗	平碗	(11.4)	(4.4)	4.8	—	口縁1/6～底部1/3	透明釉	型紙留	—	—	—	—	—	—
193	137	55	3	L	SK113	磁器	小杯	端反形	(6.6)	(2.6)	4.8	—	口縁1/2～底部1/3	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	—	口縁部わずかに外反する・高台部外 面に縦方向の沈線が巡る・蛇の目凹形 高台
194	137	55	3	L	SK113	陶器	土瓶	丸形	(9.2)	(9.0)	(10.5)	—	口縁1/3～底部1/3	透明釉	白化粧・染付	黒色粒	—	—	—	—	—
195	137	55	3	L	SK113	土製品	人形	動物(亀)	2.9	2.1	0.6	—	完形	型押し成形	—	黒色粒・雲母	—	—	—	—	
196	137	55	3	L	SK114	磁器	小杯	端反形	(7.0)	—	(3.3)	—	口縁～底部	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	17C後葉～18C中葉 (1680～1740年代)	—	—	
197	137	55	3	L	SK114	陶器	碗	天目茶碗か	—	5.2	(3.5)	—	胴部小～底部	鉄釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	大窯II～IV期か (1530～1585年頃)	—	—	内反り高台
198	137	55	3	L	SK114	陶器	碗	—	—	5.2	(2.9)	—	胴部小～底部	鉄釉	—	白色粒・黒色粒	—	—	—	—	
199	137	55	3	L	SK114	陶器	鉢か	—	—	(8.8)	(3.9)	—	胴部小～底部1/6	灰釉・鉄釉	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	
200	137	55	3	L	SK114	陶器	擂鉢	—	—	(11.8)	(6.7)	—	胴部小～底部	鉄釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	
201	137	55	3	L	遺構外	土器	火鉢か	有足 小形	(11.0)	(8.8)	5.0	—	口縁小～底部小	—	—	赤色粒・白色粒・金色塵母	—	—	—	—	
202	137	55	3	L	遺構外	土製品	泥面子	面打	1.5	1.5	0.4	—	ほぼ完形	—	—	黒色粒・雲母	—	—	—	—	
203	137	55	3	L	遺構外	土製品	さな	円盤形	(19.0)	(14.0)	1.7	—	1/2欠損	転作リ成形	—	赤色粒・白色粒・金色塵母・ 長石・石英	—	—	—	—	—

第8表 3区遺物観察表(木製品)

報告書 番号	挿図 番号	写真 図版	工区	地点	遺構	種類	法量(cm)			備考
							() 復元値・〈 〉 残存値			
							A	B	C	
4	123	50	3	A	SK7	箸	<19.0>	0.5	0.5	先端の一部が欠化
103	129	52	3	B	遺構外	箸	<10.2>	0.6	0.5	
115	130	52	3	C	SK27	箸	<14.2>	0.5	0.4	
122	131	52	3	C	SK22	礎板	29.2	18.7	5.9	
123	131	52	3	C	SK22	部材	<36.3>	11.0	6.7	
158	134	54	3	F	SK51	礎板	<12.7>	3.2	2.8	
160	134	54	3	F	SK52	礎板	26.1	21.0	6.1	
161	134	54	3	F	SD52	礎板	<50.6>	15.7	9.3	

第9表 3区遺物観察表(石製品)

報告書 番号	挿図 番号	写真 図版	工区	地点	遺構	種類	法量(cm)			備考
							() 復元値・〈 〉 残存値			
							A	B	C	
49	126	51	3	A	遺構外	砥石	11.4	3.4	1.8	
149	133	53	3	C	遺構外	硯	<2.9>	3.6	0.6	

第10表 3区遺物観察表(銭貨・金属製品)

報告書 番号	挿図 図版	写真 図版	工区	地点	遺構	種類	法量(cm)				備考
							() 復元値・〈 〉 残存値				
							A	B	C	D	
6	123	50	3	A	SS1	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初鑄
7	123	50	3	A	SS1	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初鑄
8	123	50	3	A	SS1	寛永通宝	2.4	0.6	0.10	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初鑄
13	123	50	3	A	SS5	留具	5.4	0.5	0.2	—	銅製
28	125	50	3	A	SK1	寛永通宝	2.5	0.6	0.1	—	青上「文」・文銭・銅銭・寛文8年(1668)初鑄
29	125	50	3	A	SK1	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	—	新寛永不日手・銅銭・元禄10年(1697)初鑄
30	125	50	3	A	SK1	煙管	<3.3>	0.5	0.4	—	吸口・赤銅製
36	125	50	3	A	SK2	絶聖元宝	2.3	0.7	0.1	—	一部欠損・銅銭・篆書体・北宋・紹聖元年(1094)初鑄
37	125	50	3	A	SK2	煙管	<1.8>	0.8	0.5	—	吸口・羅字残存・銅製
44	126	51	3	A	遺構外	寛永通宝	2.4	0.7	0.1	—	新寛永不日手・銅銭・元禄10年(1697)初鑄
45	126	51	3	A	遺構外	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初鑄
46	126	51	3	A	遺構外	煙管	1.4	<2.6>	—	—	雁首・赤銅製
47	126	51	3	A	遺構外	和釘	12.4	2.0	0.6	—	折釘・鉄製
48	126	51	3	A	遺構外	和釘	<3.7>	0.6	0.3	—	頭券釘・鉄製
56	126	51	3	B	SK12	和釘	5.2	0.4	0.3	—	鉄製
89	128	52	3	B	SK15	寛永通宝	2.8	0.7	0.1	—	青十一波・銅銭・明和6年(1769)初鑄
98	129	52	3	B	遺構外	洗志通宝	2.1	0.5	0.2	—	銅銭・明・崇徳元年(1368)初鑄
99	129	52	3	B	遺構外	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初鑄
100	129	52	3	B	遺構外	十銭	2.2	0.5	0.1	—	銀貨・大正12年(1923)発行
101	129	52	3	B	遺構外	雁首銭	—	0.6	0.10	—	銅製
102	129	52	3	B	遺構外	切羽	3.9	2.2	0.1	—	銅製
142	133	53	3	C	遺構外	寛永通宝	2.8	0.7	0.1	—	青十一波・銅銭・明和6年(1769)初鑄
143	133	53	3	C	遺構外	寛永通宝	2.8	0.7	0.1	—	青十一波・銅銭・明和6年(1769)初鑄
144	133	53	3	C	遺構外	半銭	2.2	—	0.1	—	銅貨・明治16年(1883)発行
145	133	53	3	C	遺構外	十銭	2.2	—	0.1	—	ニッケル硬貨・昭和16年(1941)発行
146	133	53	3	C	遺構外	十銭	2.2	—	0.1	—	ニッケル硬貨・昭和15年(1940)発行
147	133	53	3	C	遺構外	煙管	4.4	1.0	0.6	—	吸口・羅字残存・真鍮製
148	133	53	3	C	遺構外	飾り金具	<5.4>	6.8	0.1	—	銅製
157	134	53	3	E	遺構外	一銭	2.3	—	0.1	—	銅貨・大正11年(1922)発行
159	134	54	3	F	SK51	鉄滓	11.9	11.7	5.8	—	—
167	135	54	3	F	SK51	鉄滓	6.3	7.8	7.3	—	SK51下層
174	135	54	3	F	遺構外	一厘	1.6	—	0.1	—	銅貨・明治17年(1884)発行
175	135	54	3	F	遺構外	ハッチ	3.1	3.1	0.4	—	真鍮製・刻印表「上棟式」・刻印裏「平和記念東京博覧会」(大正11年(1922)開催)
189	137	55	3	K	SK102	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初鑄
204	137	55	3	L	遺構外	寛永通宝か	2.3	0.6	0.1	—	銅銭
205	137	55	3	L	遺構外	煙管	9.4	1.1	1.1	—	吸口・真鍮製・管内に釘が刺さる。
206	137	55	3	L	遺構外	煙管	5.6	0.9	0.4	—	吸口・銅製

第5章 中央5丁目4区の調査

第1節 調査の方法（第1・2図）

中央5丁目地内は民家の集中する市街地であり、いずれの調査地点も複数の民家や駐車場の前にまたがっている。これらを横断して一つの調査区として調査を行うことは困難な状況であったため、反転調査や調査区の分割によって、進入路やヤードを確保しながらの調査となった。

4区の調査では、現状の市街の区画を基準として①～⑦の地点名を付して7地点に分割した。但し④・⑤地点は1地点として調査を行った。1～2地点ごとに調査を行っては埋め戻して原状復旧し、次の地点の調査に移るといった形で進めた。また、水道管など現状で使用されている地下埋設物の敷設が多く、その範囲は甲府市教育委員会と協議の上、掘削調査の対象外とした。現況のアスファルト舗装やコンクリート舗装は山梨県中北建設事務所があらかじめ撤去を行った。表土掘削は、0.2m³相当のバックホウを用いた。調査で生じた掘削土は、調査が終了した2区へ搬出することとし、表土掘削時は2tダンプ、人力掘削時は軽ダンプを用いて掘削土を運搬した。2区に仮置いた掘削土はブルーシートで覆って養生し、近隣への土砂の飛散防止を図った。埋め戻しは掘削土を用いて行き、上面には碎石を敷き均す形で復旧した。重機が稼働する際は交通誘導員を配置し、歩行者や車両の交通の安全確保に努めた。各調査地点はネットフェンスで仮囲いした上で、視認性の高い安全コーンや点滅灯を設置し、夜間の交通にも配慮した。

発掘調査では、甲府空襲時の焼土や瓦礫が出土する戦災焼土層と明らかに現代と判断できる土層までをバックホウによる表土掘削の対象とした。それより下位については各地点の壁面で土層確認しながら人力で掘り下げを行った。土層では上下に複数の整地層が確認できる箇所があり、層位ごとの遺構確認に努めた。整地層の面的な広がりがない場合や遺構検出が困難な場合は、地山上面まで掘り下げて遺構確認を行った。遺構掘削は全て人力で行った。

各地点の遺構検出状況は写真や概略図などで記録した。遺構番号は各地点を通して、調査を行った順に付した。このため、各調査地点間をまたいで番号が付されている。なお、遺構番号は遺構検出時点で使用したものを報告書まで用いることとし、調査および整理の過程で新たに遺構の性格が判明した場合は本文中に記述した。遺構測量は、土層断面は手描き実測にて行い、平面図はトータルステーションによる測量と写真測量を併用した。写真測量は主にポール撮影で行った。測量図化システムとしてCUBIC社「遺構くん」、写真測量にはAgisoft社「PhotoScan Professional」を用いた。各地点の完掘時には完掘状況の全体写真撮影と合わせてポール写真撮影を行い、「PhotoScan Professional」を用いて地点ごとのオルソモザイク写真を作成した。遺物は原則的にトータルステーションを使用して位置を記録して取り上げた。小片については、遺構出土のものは遺構一括とし、遺構外出土物については地点ごと一括して取り上げた。遺構写真撮影にはデジタル一眼レフカメラ（NikonD7000）を使用した。各地点の調査終了時には甲府市教育委員会の確認を受けた。

整理作業は遺物の水洗、注記、接合、復元と進めつつ、実測遺物・分析試料・保存処理遺物を選定した。選定にあたっては甲府市教育委員会の確認を受けた。土壌試料等の自然科学分析は株式会社パレオ・ラボに、木製品・金属製品の保存処理については公益財団法人山梨文化財研究所にそれぞれ委託した。写真撮影はデジタル一眼レフカメラ（NikonD7500）を用いた。遺物実測は手描きで行い、染付などの図化については手描き実測図のトレースデータに補正した写真データを合成した。また、遺物実測の一部はキーエンス社製3Dスキャナ型三次元測定機「VL300シリーズ」を用いた。デジタルトレース、写真データの補正、挿図・写真図版作成、報告書編集作業にはadobe社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」、「InDesignCC」をそれぞれ使用した。

陶磁器類の分類や遺物観察表の記載については『内藤町遺跡』（新宿区内藤町遺跡調査会他1992）、『甲府城下町遺跡（甲府駅周辺土地区画整理事業地内43街区）』（山梨県埋蔵文化財センター2004）を参考とし、隣接する『甲府城下町遺跡XX』（甲府市教育委員会2020）の報告に準拠することとした。

第2節 基本層序

最終的な遺構検出面とした地山上面の標高は、全調査地点を通じて 259.0～259.2m を測る。北から南へ向かってゆるやかに低くなる地形である。

基本層序は各調査地点の壁面で観察した。攪乱などを除き、一定の範囲で連続する土層を画期ととらえて基本層序を記録した。現表土と近現代とみられる土層はⅠ層、近世から近代とみられる土層をⅡ層、地山はⅢ層とし、必要に応じて小文字のアルファベットや枝番を付与して細分した。

Ⅰ層では甲府空襲（昭和20年7月6日から7日未明）で生じた焼土・瓦礫を含む層（戦災焼土層）があり、多くの調査地点で、現地盤の直下に堆積する。発掘調査ではこの戦災焼土層と明らかに現代と考えられる土層を重機による表土掘削の対象とした。戦災焼土層下では複数の整地層を検出している。整地層は黄褐色砂、暗灰黄色砂、黒色粘土、灰白色砂などを基調とした客土とみられる土層である。層厚5～10cm程度で硬く締まり、ほぼ水平堆積する。場所によっては上下に複数の整地層が観察できた。これらの整地層の多くは、中央5丁目1区の報告で推定されているように、明治以降に城下町が市街化される過程で進められた造成によるものであろう。

Ⅱ層は、地山直上付近に堆積する土層である。黒褐色砂・黒褐色砂質シルトなどを基調とし、焼土や炭化物の粒を含むことが多い。主に近世の堆積を想定したが、出土遺物からも厳密に分けることは困難であり、実際には近代に至る時期の堆積も含まれる。

Ⅲ層は自然堆積層で地山である。黒色粘土を基調とした土層である。東端部の調査地点では、標高258.6mまで掘り下げると灰白色粘土がまじり、標高258.4mまで掘り下げると灰白色粘土層となる。さらに下層には暗灰色粘土層、暗オリーブ灰色粘土層、灰色砂層と続き、標高257.8mでオリーブ黒色粘土層となる。最終的な遺構検出はⅢ層の地山上面で行った。

以下、調査地点ごとに層序の概要を記述する。

①・②地点（第139・140・142・143図）

地山上面の標高は259.1mを測る。調査時点の現表土は碎石層（Ⅰa1層）である。その下に黒褐色砂を基調とするⅡa層が層厚5～30cm堆積し、これは近世の遺物包含層である。②地点ではⅡa層上面で集石遺構を検出し、これらの遺構は上層遺構として記録した。Ⅱa層の下には、部分的に焼土ブロックの堆積層（Ⅱb1層）や褐色細粒砂を基調とし、被熱を受けた整地層（Ⅱc層）が確認され、これらは近世段階で火災による被害を受けた層位であると判断した。Ⅱb1、Ⅱc層の直下には、黒色砂質シルトを基調とするⅡd層が堆積する。これらを掘り下げると黒色粘土の地山（Ⅲa層）となり、最終的な遺構検出は地山上面で行った。

③地点（第146図）

地山上面の標高は259.0mを測る。調査時点の現表土は碎石層（Ⅰa1層）である。南半部は大規模な攪乱を受け、その直下は地山（Ⅲa層）となる。北半部は表土直下に戦災焼土層（Ⅰb層）が層厚10～20cm堆積し、その下に黒褐色砂や黒色粘土を基調とする近代の整地層（Ⅰc層・Ⅰd層）が堆積する。これらの下層から、近世の遺物包含層であるⅡa層・Ⅱb層・Ⅱd層が堆積する。Ⅱa・Ⅱd層上面では集石遺構3基が検出され、これらの遺構を上層遺構として記録した。これらを掘り下げると、黒色粘土の地山（Ⅲa層）となり、最終的な遺構検出は地山上面で行った。

④・⑤地点（第148・149図）

地山上面の標高は259.0～259.1mを測る。調査時点の現表土は碎石層（Ⅰa1層）である。この下に戦災焼土層（Ⅰb層）が層厚10～20cm堆積する。調査地点は広く攪乱を受けており、北西部の一部で近世の遺物包含層（Ⅱb層）が確認できるものの、面的な広がりには検出できず、大半の部分が表土（Ⅰa1層）ないし、戦災焼土層（Ⅰb層）による攪乱を受ける。これらを掘り下げると黒色粘土の地山（Ⅲa層）となる。遺構検出は地山上面で行った。

⑥地点（第 155 図）

地山上面の標高は 259.0～259.2m を測る。調査時点の現表土は褐色細粒砂（Ⅰ a2 層）である。表土直下に戦災焼土層（Ⅰ b 層）が層厚 5～50cm 堆積し、その下には戦前に構築されたとみられる擁壁や土管の埋設が確認された。これらにより、調査地点の大部分は地山面まで攪乱を受けていたが、西壁に沿って、黒褐色砂を基調とするⅡ a 層が堆積する。Ⅱ a 層の直下は地山となる。遺構検出は地山上面で行った。

⑦地点（第 157 図）

地山上面の標高は 259.2m を測る。調査地点の南半部は碎石層により（Ⅰ a1 層）地山まで攪乱を受ける。北半部は舗装の直下に戦災焼土層が層厚 10～30cm 堆積し、その下には黄褐色砂や暗褐色砂を基調とする近代の整地層（Ⅰ c 層）が堆積する。Ⅰ c 層下には、黒褐色砂を基調とするⅡ a 層が薄く堆積している。Ⅱ a 層の直下は地山となる。遺構検出は地山上面で行った。

第 3 節 調査の成果

第 1 項 ①・②地点

①・②地点は現在の連雀町通りの北側で、今回の調査範囲の西端部に位置する。現況は民家の駐車スペースの前となっており、車の進入路を確保するため、調査は隣接する①・②地点を反転掘削で行った。①地点ではⅠ a 層（現地盤下 50cm）の下で、Ⅱ a 層とした遺物包含層が層厚 5～20cm 堆積しており、その直下には部分的にⅡ b1 層とした焼土ブロックの堆積層やⅡ c 層とした被熱を受けた整地層が確認され、これらの層を近世に火災を受けた層位であると判断した。Ⅱ b1、Ⅱ c 層はその直下で検出されたⅡ d 層とともに、上層からの攪乱を受け、面的な広がりを確認することが困難であった。そのため、Ⅱ d 層まで剥がした地山（Ⅲ a1 層）上面で遺構検出を行った。一方、②地点ではⅡ a 層が層厚 10～30cm 堆積しており、Ⅱ a 層上面で集石遺構を検出した。これらの遺構は上層遺構として記録した。Ⅱ a 層下には部分的なⅡ d 層の堆積が認められるものの、面的な広がり確認できなかったため、①地点と同様に地山（Ⅲ a1 層）上面で遺構検出を行った。①・②地点合わせて、土坑 13 基、小穴 11 基、集石遺構 6 基、井戸 1 基、溝状遺構 1 条を検出した。

S K 1（S K 10）（第 139 図、図版 57）

〔位置・重複〕 ①地点の東壁に沿って検出した。切り合いでは SK2 より新しい。②地点 S K 10 と同一の遺構である可能性が高い。

〔形状・規模〕 想定される平面形は不整形で、長さ 1.0m、幅 98cm、深さ 20cm を測る。掘方の断面形は方形に近い形状である。

〔検出状況・埋土〕 Ⅱ a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒褐色粘土に灰白色粘土を含む、締めりのゆるい土である。

〔出土遺物・時期〕 磁器の細片が出土したが、図示できない。検出状況からは近世の可能性はある。

S K 2（第 140 図、図版 57）

〔位置・重複〕 ①地点の北東側に位置する。切り合いでは SK1 に先行する。

〔形状・規模〕 上層遺構に切られており、平面形の全容は不明であるが、楕円形と推測する。検出部分で長さ 50cm、幅 48cm、深さ 9cm を測る。掘方の断面形は皿状である。

〔検出状況・埋土〕 Ⅱ a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、径 3～4 cm の礫と焼土・炭化物を粒状に含む。

〔出土遺物・時期〕 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S K 3（第 140・158 図、図版 57・65）

〔位置・重複〕 ①地点中央に位置する。重複する遺構はない。

〔形状・規模〕 平面形は不整形で、長さ 2.24m、幅 92cm、深さ 36cm を測る。掘方の断面形は皿状で、南側にテラス状の段をもつ形状である。

[検出状況・埋土] II a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む、締まりのゆるい土である。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器が多数出土し、そのうち14点を図示した。1・2・5～9・11は肥前系磁器、3・4・10は瀬戸・美濃系磁器である。1は筒形碗、2・3は端反碗である。4は薄手酒坏である。5は紅皿か。6～8は皿である。9は段重である。10は急須か。11は碗蓋である。12・13は陶器である。12は仏飯器である。13は土瓶である。14は土器の壺蓋である。

[時期] 出土遺物から、江戸時代後期から幕末期の遺構である。

S K 4 (第140図、図版57)

[位置・重複] ①地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 想定される平面形は楕円形で、検出部分で長さ1.5m、幅50cm、深さ34cmを測る。掘方の断面形は皿状で、北側が一段低い形状である。

[検出状況・埋土] II d層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂質シルトを基調とし、径5～10cmの礫が堆積し、固く締まった土である。下層は黒色粘土ににぶい黄褐色砂を含む、締まりのゆるい土である。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S K 6 (第141・159図、図版57・65)

[位置・重複] ②地点中央に位置する。切り合いではS K 7に先行し、S P 11より新しい。

[形状・規模] 平面形は円形を呈す。径1.12m、深さ19cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒色粘土に黒褐色砂と焼土・炭化物を粒状に含む締まりのゆるい土である。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・石製品が合わせて8点出土し、3点を図示した。15は瀬戸・美濃系磁器の端反碗である。16は瀬戸・美濃系陶器の播鉢である。17は石製品の硯である。

[時期] 検出状況や切り合い、出土遺物から江戸時代後期～幕末期と推定する。

S K 7 (第141・159図、図版57・65)

[位置・重複] ②地点南半部に位置する。切り合いではS S 5・S S 9に先行し、S K 6・S K 14 (S S 14)・S K 17より新しい。

[形状・規模] 平面形は円形を呈す。径1.16m、深さ30cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。中層は黒褐色砂質シルトに焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒色粘土を基調として焼土・炭化物を含む。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器が出土しており、そのうち7点を図示した。18・19は陶器である。18は捏鉢か。19は縹糸鍋である。20～24は土器である。20はカワラケである。21・22は植木鉢である。23は七輪五徳である。24は焜炉か。

[時期] 切り合いや出土遺物から明治期と推定する。

S K 8 (第141・160図、図版57・65)

[位置・重複] ②地点北半部に位置する。切り合いではS K 18・S D 1より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形を呈す。長径1.08m、短径80cm、深さ28cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む、径10～20cmの礫・瓦片が堆積する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・瓦片が出土し、7点を図示した。25は瀬戸・美濃系磁器、26・27は肥前系磁器である。25は小坏である。26は皿である。27は瓶である。28～30は陶器である。28は碗で、瀬戸・美濃系陶器か。29は瀬戸・美濃系陶器の播鉢である。30は土瓶である。31は土器のカワラケである。

[時期] 切り合いや出土遺物から幕末期～明治期と推定する。

S K 9 (第 141・160 図、図版 57・65)

[位置・重複] ②地点南半部に位置する。切り合いでは S K 17 より新しい。

[形状・規模] 平面形は円形を呈す。径 47cm、深さ 24cmを測る。掘方の断面形は擂鉢状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色粘土を基調とし、上層は黒褐色砂と焼土・炭化物を粒状に含む。下層は径 10cmの礫と瓦片が堆積する。

[出土遺物] 磁器・土器・瓦片が出土し、2 点を図示した。32・33 は土器である。32 は火鉢か。33 は焔炉である。

[時期] 検出状況と切り合い、出土遺物から幕末期～明治期と推定する。

S K 11 (第 142 図、図版 57)

[位置・重複] ②地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形を呈す。長径 49cm、短径 18cm、深さ 8cmを測る。掘方の断面形は皿状で北側にテラス状の段をもつ形状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色粘土を基調とし、灰色粘土と炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S K 12 (第 143 図、図版 57)

[位置・重複] ②地点の東壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 調査区外へ延びるため全容は不明だが、円形と推測する。検出部分では、長さ 64cm、幅 20cm、深さ 14cmを測る。掘方の断面形は擂鉢状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況からは近世の可能性はある。

S K 13 (第 141 図、図版 57)

[位置・重複] ②地点北半部で検出した。切り合いでは S K 10 (S K 1)・S K 18 に先行する。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 90cm、幅 88cm、深さ 24cmを測る。掘方の断面形は擂鉢状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の細片が出土したが、図示できない。検出状況と切り合いから近世の可能性はある。

S K 14 (S S 1・上水井戸か) (第 142・160 図、図版 57・58・65)

[位置・重複] ①・②地点の南壁に沿って検出した。切り合いでは S K 7・S S 9 に先行し、S K 17 より新しい。

[形状・規模] 調査区外へ延びるため、平面形の全容は不明である。想定される平面形は楕円形で、検出部分では長さ 1.9m、幅 1.7m、深さ 95cmを測る。掘方の断面形は方形に近い形状で段が付く。底面には長さ 57cm、幅 20cm程度の板材を箱状に組んで据え置かれている。この箱の上に径 10～20cmの礫が井戸枠状に積み上げられている。検出部分では導水のための樋は確認できないが、底面が板敷となっていることから、上水井戸と推測する。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土の上層は焼土層で覆われており、下層の箱内は黒色シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。火災で生じた焼土を投棄したものと推測する。

[出土遺物] 磁器・陶器が合わせて 3 点出土し、2 点を図示した。34 は肥前系陶器の刷毛目碗である。35 は陶器の片口か。2 次被熱により表面の釉薬が溶けている。

[時期] 検出状況や切り合い、出土遺物から江戸時代後期と推定する。

S K 17 (大型土坑) (第 143・160・161 図、図版 58・66)

[位置・重複] ②地点の南壁に沿って検出した。切り合いでは S K 6・S K 7・S K 9・S K 14・S P 9・S P 10・S P 11・S S 9・S S 12 に先行する。

[形状・規模] 調査区外へ延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 2.18m、幅 1.7m、深さ 1.22m を測る。掘方の断面形は方形に近いが、立ち上がりはやや袋状となる。また底面には溝状の掘り込みが東西方向に走る。

[検出状況・埋土] II d 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色粘土を基調として、灰白色粘土をブロック状に含む。地山を掘り返してそのまま埋めたかのような埋土で、遺物の出土量も少なく、壁面や底面の検出は困難であった。北側に隣接する S K 18 と同様な遺構である可能性が高い。

[出土遺物] 陶器・土器・瓦片・木材片が出土しており、10 点を図示した。36・37 は陶器である。36 は鉄釉をかけた碗の体部か。37 は瓶の口縁である。38 は土器の鉢か。39～43 は木材片である。何らかの部材の一部であると想定されるが用途は不明である。44・45 は瓦片である。

[時期] 検出状況と切り合い、出土遺物から江戸時代中期～後期の可能性がある。

S K 18 (大型土坑) (第 143・161 図、図版 58・66)

[位置・重複] ②地点の北壁に沿って検出した。切り合いでは S K 8・S K 10 (S K 1)・S K 13・S D 1・S P 3・S P 4 に先行する。

[形状・規模] 調査区外へ延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 2.15m、幅 1.82m、深さ 1.85m を測る。掘方の断面形は播鉢状であるが、上方でややすぼまる形状をする。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色粘土を基調として、灰白色粘土をブロック状に含む。S K 17 と同様に、地山を掘り返してそのまま埋めたかのような埋土で、遺物の出土量も少なく、壁面や底面の検出は困難であった。

[出土遺物] 陶器の小片と木材片が出土している。いずれも小片であるが極力図示した。46～49 は陶器である。46 は鉄釉をかけた碗の口縁である。47 は鉄釉をかけた碗の体部である。48・49 の器種は不明である。50～55 は木材片である。何らかの部材の一部であると想定されるが用途は不明である。

[時期] 検出状況と切り合い、出土遺物から江戸時代中期～後期の可能性がある。

S P 1 (第 140 図)

[位置・重複] ①地点の西壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形と推測する。検出部分では長径 30cm、短径 20cm、深さ 6cm を測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II d 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況や埋土から近世の可能性がある。

S P 2 (第 140 図、図版 58)

[位置・重複] ①地点の南壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形と推測する。検出部分では長径 50cm、短径 22cm、深さ 42cm を測る。掘方の断面形は方形に近い。

[検出状況・埋土] II d 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色粘土を基調とし、締まりのゆるい土である。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況や埋土から近世の可能性がある。

S P 3 (第 144 図)

[位置・重複] ②地点中央部に位置する。切り合いは S K 18 より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 30cm、短径 20cm、深さ 6cm を測る。掘方の断面形は播鉢状であるが、中央の最深部が突出する。

[検出状況・埋土] II a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、灰色粘土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況や埋土から近世の可能性はある。

S P 4 (第 144 図)

[位置・重複] ②地点中央部に位置する。切り合いは S K 18 より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 29cm、短径 16cm、深さ 5cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、灰色粘土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況や埋土から近世の可能性はある。

S P 5 (第 144 図)

[位置・重複] ②地点中央部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 26cm、幅 25cm、深さ 11cmを測る。掘方の断面形は 2ヶ所の落ち込みを持ち、皿状に立ち上がる。

[検出状況・埋土] II a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、灰色粘土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 土器の小片が 1点出土したが、図示できない。検出状況や埋土から近世の可能性はある。

S P 6 (第 144 図、図版 58)

[位置・重複] ②地点中央部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 16cm、深さ 3cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、灰色粘土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況や埋土から近世の可能性はある。

S P 7 (第 144・162 図、図版 66)

[位置・重複] ②地点中央部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 16cm、短径 14cm、深さ 9cmを測る。掘方の断面形は播鉢状で西側に段を持つ。

[検出状況・埋土] II a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、灰色粘土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物] 銭貨が 1点出土している。56 は元佑通宝である。

[時期] 検出状況や埋土から近世の可能性はある。

S P 8 (第 144 図)

[位置・重複] ②地点中央部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 25cm、短径 20cm、深さ 16cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、灰色粘土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況や埋土から近世の可能性はある。

S P 9 (第 144 図、図版 58)

[位置・重複] ②地点南半部に位置する。切り合いは S K 17 より新しい。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 18cm、深さ 14cmを測る。掘方の断面形は播鉢状であるが、中央の最深部が突出する。

[検出状況・埋土] II a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況や切り合いから近世の可能性はある。

S P 10 (第 143 図)

[位置・重複] ②地点の東壁に沿って検出した。切り合いは S K 17 より新しい。

[形状・規模] 平面形は楕円形と推測する。検出部分では長径 24cm、短径 12cm、深さ 10cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況や切り合いから近世の可能性はある。

S P 11 (第 141 図)

[位置・重複] ②地点南半部に位置する。切り合いは SK6 に先行し、SK17 より新しい。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 12cm、深さ 8cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況や切り合いから近世の可能性はある。

S S 2 (集石遺構) (第 138 図、図版 58)

[位置・重複] ②地点北半部に位置し、上層遺構面で検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 長さ 1.25m、幅 55cmの範囲に径 20cm前後の礫が敷き並べられており、この範囲を S S 2 とした。

[検出状況] 表土直下の II a 層上面に敷き並べられており、掘方は検出されなかった。礫は一段のみであり、礫の下に捨杭等はない。何らかの構造物の基礎の可能性はある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近代である。

S S 3 (集石遺構) (第 138 図、図版 58)

[位置・重複] ②地点の東壁に沿って検出した。上層遺構面で検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 調査区外へと延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 65cm、幅 55cmの範囲に径 20cm前後の礫が敷き並べられており、この範囲を S S 3 とした。

[検出状況] 表土直下の II a 層上面に敷き並べられており、掘方は検出されなかった。礫は一段のみであり、礫の下に捨杭等はない。何らかの構造物の基礎の可能性はある。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近代である。

S S 4 (集石遺構) (第 138 図、図版 58)

[位置・重複] ②地点中央部に位置する。上層遺構面で検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形を呈する。長さ 50cm、幅 40cmの範囲に径 10cm前後の礫が積み重ねられており、この範囲を S S 4 とした。

[検出状況] 表土直下の II a 層上面に敷き並べられており、掘方は検出されなかった。径 10cm前後の礫が積み重ねられた集石遺構である。構造物の基礎であった可能性があり、S S 5 と同じ軸線上に並ぶ。S S 5 との芯々距離は約 1.8mである。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近代である。

S S 5 (集石遺構) (第 138 図、図版 58)

[位置・重複] ②地点南半部に位置する。上層遺構面で検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形を呈する。長さ 35cm、幅 35cmの範囲に径 10～20cmの礫が積み重ねられており、この範囲を S S 5 とした。

[検出状況] 表土直下の II a 層上面に敷き並べられており、掘方は検出されなかった。径 10cm前後の礫が積み重ねられた集石遺構である。構造物の基礎であった可能性があり、S S 4 と同じ軸線上に並ぶ。S S 4 との芯々距離は約 1.8mである。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近代である。

S S 9 (集石遺構) (第 141・162 図、図版 58・66)

[位置・重複] ②地点南半部に位置する。切り合いは S K 7・S K 14 (S S 1)・S K 17 より新しい。

[形状・規模] 平面形は不整形を呈する。長さ 54cm、幅 40cmの範囲に石臼片とともに径 20cmの礫が敷き並べられており、この範囲を S S 9 とした。

[検出状況] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。掘方は検出されなかった。石臼を転用した構造物の基礎であった可能性があり、S S 12 と同じ軸線上に並ぶ。S S 12 との芯々距離は約 1.1m である。

[出土遺物] 石臼が 2 点転用されている。57 は下臼、58 は上臼である。

[時期] 検出状況と切り合いから近世の可能性はある。

S S 12 (集石遺構) (第 140 図、図版 59)

[位置・重複] ②地点南半部に位置する。切り合いは S K 17 より新しい。

[形状・規模] 平面形は不整形を呈する。長さ 58cm、幅 55cm、深さ 24cm を測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。径 10～18cm の礫が充填された集石遺構である。底面に捨杭はなかった。構造物の基礎であった可能性があり、S S 9 と同じ軸線上に並ぶ。S S 9 との芯々距離は約 1.1m である。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器が少量出土したが、図示できる遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S D 1 (S K 5) (第 141・162 図、図版 59・66)

[位置・重複] ①・②地点北側に位置する。両調査地点を横断し、調査区外へ伸びる。切り合いは S K 18 より新しい。

[形状・規模] ①・②地点北壁に沿って東西方向に走る。検出部分では長さ 4.65m、幅 1.25m、深さ 54cm を測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。②地点では胴木の痕跡が見られる。埋土は黒色砂質シルトを基調として、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物] 磁器・陶器・土製品・石製品・銭貨が出土し、そのうち 12 点を図示した。59～64 は肥前系磁器である。59・60 は丸碗である。61 は小丸碗である。62 は広東碗である。63 は朝顔形の小坏である。64 は皿である。65～67 は瀬戸・美濃系陶器である。65 は丸形の小坏である。66 は灯明受皿である。67 は半胴形の甕の口縁である。68 は土製品で猫の人形である。69 は銭貨で寛永通宝である。70 は石製品でヒデ鉢か。

[時期] 検出状況と出土遺物から江戸時代後期と推定する。

遺構外出土遺物 (第 163・164 図、図版 67)

71～82 は磁器である。71 は肥前系磁器の広東碗である。72・73 は瀬戸・美濃系磁器の端反碗である。74 は肥前系磁器の小丸碗である。75・76 は瀬戸・美濃系磁器の小杯である。77・78 は肥前系磁器で桶形の小坏である。79・80 は肥前系磁器の紅皿で、79 は菊花形、80 は蛸唐草形である。81 は肥前系磁器の香炉である。82 は瀬戸・美濃系磁器の碗蓋である。83～88 は陶器である。83 は瀬戸・美濃系陶器の天目茶碗の高台部か。84 は皿の底部である。85・86 は肥前系陶器で蛇の目釉剥ぎの皿である。87・88 は瀬戸・美濃系陶器で、87 は練鉢の口縁、88 は胴丸形の甕である。89～94 は土器である。89 はカワラケか。90 は桶形の植木鉢である。91～94 は火鉢である。95 は軒平もしくは軒棧瓦である。96～104 は土製品である。96・97 は人物の人形である。98 は芥子面、99 は面打である。100・101 は碁石形土製品である。102 は土鈴である。103・104 は鞆の羽口である。105・106 は銭貨である。105 は寛永通宝、106 は一銭銅貨である。

第2項 ③地点

③地点は現在の連雀町通りの北側で、②地点の東側に位置する。現況は民家の駐車スペースの前となっている。③・④地点間の4mの範囲には使用中の埋設構造物が集中しており、協議の上、調査対象外とすることで車の進入路を確保した。③地点では、南半部は大規模な攪乱を受け、I a層が層厚40～60cm堆積し、その直下は地山(Ⅲ a1層)であった。北半部はI a層が層厚6～12cm堆積し、その直下には焼土や瓦片が堆積する戦災焼土層(I b1層)が堆積し、その下に近代の整地層としたI c・I d層をはさみ、近世の遺物包含層であるII a・II b1・II d層を検出した。II a・II d層上面では集石遺構3基が検出され、これらの遺構を上層遺構として記録した。これを剥がした地山(Ⅲ a1層)上面で、土坑2基、小穴7基、集石遺構5基、不明遺構1基を検出した。

S K 15 (第147・165図、図版59・67)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。切り合いではS K 16より新しい。

[形状・規模] 平面形は長方形を呈す。長さ76cm、幅58cm、高さ12cmを測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況・埋土] 表土直下の地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。底面直上には灰白色細粒砂が薄く堆積している。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・木製品が出土し、7点を図示した。107は肥前系磁器で蛸唐草形の紅皿である。108・109・111は瀬戸・美濃系陶器、110は京・信楽系陶器である。108は丸形の小坏である。109は仏飯器の碗部である。110は灯明受皿で開口部を半月形につくる。111は片口の口縁である。112は土器でカワラケである。113は木製品で曲物の蓋である。

[時期] 切り合いや出土遺物から江戸時代後期～幕末期と推定する。

S K 16 (第147図、図版59)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。切り合いではS K 15に先行する。

[形状・規模] 平面形は不整形を呈す。長さ64cm、幅62cm、高さ18cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] 表土直下の地山上面で検出した。埋土は、上層は暗褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒色粘土を基調とし、暗褐色砂を含む。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の細片が出土しているが、図示できる遺物はない。検出状況と切り合いから江戸時代後期の可能性がある。

S P 12 (第147図)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径25cm、短径16cm、高さ8cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] 表土直下の地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。時期は不明である。

S P 13 (第147図)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径32cm、短径28cm、高さ6cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] 表土直下の地山上面で検出した。埋土は黒色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。時期は不明である。

S P 14 (第147・165図、図版68)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径22cm、高さ16cmを測る。掘方の断面形は筒状で南側に段が付く。

[検出状況・埋土] 表土直下の地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色粘土を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒色粘土を基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 銭貨が1点出土している。114は治平元宝である。時期は不明である。

S P 15 (第147図、図版59)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ22cm、幅20cm、深さ18cmを測る。掘方の断面形は筒状である。

[検出状況・埋土] II b1層直下の地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、ブロック状の焼土と粒状の炭化物を含む。

[出土遺物・時期] 磁器が1点出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 16 (第147図、図版59)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ40cm、幅38cm、深さ4cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] 表土直下の地山上面で検出した。埋土は暗褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。時期は不明である。

S P 17 (第147・165図、図版60・68)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長さ36cm、幅32cm、深さ16cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] 表土直下の地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物] 磁器・陶器・瓦片が出土しており、そのうち1点を図示した。115は陶器の土瓶の底部か。

[時期] 時期は不明である。

S P 18 (第147図)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。切り合いはS S 11より新しい。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ42cm、幅36cm、深さ12cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] 表土直下の地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。時期は不明である。

S S 6 (集石遺構) (第145図、図版60)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。上層遺構面で検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形を呈す。長さ56cm、幅45cmの範囲に石臼片とともに径5～10cmの礫が積み重ねられており、この範囲をS S 6とした。

[検出状況] II d層上面に敷き並べられており、掘方は検出されなかった。径5～10cmの礫が積み重ねられた集石遺構である。構造物の基礎であった可能性があり、S S 7・S S 8と同じ軸線上に並ぶ。S S 7との芯々距離は1.8mである。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の細片が出土しているが、図示できるものはない。検出状況から近代の可能性はある。

S S 7 (集石遺構) (第145・165図、図版60・68)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。上層遺構面で検出した。切り合いはSX1に先行する。

[形状・規模] 平面形は不整形を呈す。長さ55cm、幅50cmの範囲に径10～15cmの礫が積み重ねられており、この範囲をS S 7とした。

[検出状況] II d層上面に敷き並べられており、掘方は検出されなかった。径10～15cmの礫が積み重ねられた集石遺構である。石臼を転用した構造物の基礎であった可能性があり、S S 6・S S 8と同じ軸線上に並ぶ。S S 6・S S 8との芯々距離はともに1.8mである。

[出土遺物] 磁器・土器の細片と石臼が出土している。石臼2点を図示した。116・117はともに上臼である。

[時期] 検出状況から近代である。

S S 8 (集石遺構) (第 145・165 図、図版 60・68)

[位置・重複] 調査地点北端部に位置する。上層遺構面で検出した。切り合いは S X 1 に先行する。

[形状・規模] 平面形は不整形を呈す。長さ 50cm、幅 45cm の範囲に径 10cm の礫が積み重ねられており、中心には 30cm×25cm×25cm の直方体の礎石が据えられており、この範囲を S S 8 とした。

[検出状況] II d 層上面に敷き並べられており、掘方は検出されなかった。構造物の礎石とそれを抑える根石であると推測する。根石には石臼片が含まれており、石臼を根石として転用したものと考えられる。S S 6・S S 7 と同じ軸線上に並ぶ。S S 7 との芯々距離は約 1.8m である。

[出土遺物] 陶器の細片と石臼が出土している。石臼 2 点を図示した。118・119 はともに上臼である。

[時期] 検出状況から近代である。

S S 10 (集石遺構) (第 147 図)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ 36cm、幅 32cm、深さ 12cm を測る。掘方の断面形は皿状で、西側に段が付く。

[検出状況] 表土直下の地山上面で検出した。径 5～10cm の礫が充填された集石遺構である。構造物の基礎であった可能性があり、S S 11 と同じ軸線上に並ぶ。S S 11 との芯々距離は約 1.8m である。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S S 11 (集石遺構) (第 147 図、図版 60)

[位置・重複] 調査地点南半部に位置する。切り合いは S P 18 に先行する。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ 28cm、幅 26cm、深さ 6cm を測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況] 表土直下の地山上面で検出した。径 5～10cm の礫が 4 個据えられた集石遺構である。構造物の基礎であった可能性があり、S S 10 と同じ軸線上に並ぶ。S S 10 との芯々距離は約 1.8m である。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S X 1 (不明遺構・廃棄土坑) (第 146・166・167 図、図版 60・68)

[位置・重複] 調査地点北東隅に位置する。切り合いでは S S 7・S S 8 に先行する。

[形状・規模] 調査地点外へ延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分では長さ 4.0m、幅 2.75m、深さ 56cm を測る。掘方の断面形は、所々に小穴があり、北東隅に向かってだんだんと深くなっている。窪地状の様相を呈す。

[検出状況・埋土] II d 層を剥いだ地山上面で検出した。南東隅にはブロック状の焼土や粒状の炭化物の堆積がみられる。出土遺物には 2 次被熱を受けたものもみられることから、火災で発生した焼土や被熱した陶磁器などを投棄したものと推測する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・石臼片など、多数の遺物が出土している。そのうち 18 点を図示した 120・122～124 は肥前系磁器、121 は瀬戸・美濃系磁器である。120 は丸碗、121 は薄手酒杯、122 は仏飯器の碗部、123 は鉢の高台部、124 は瓶の高台部である。125～131 は陶器である。125 は筒形碗である。126～129 は瀬戸・美濃系陶器で、126 は仏飯器の碗部か。127 は皿の高台部、128 は灯明皿、129 は灯明受皿である。130 は瓶か。131 は三彩土瓶である。132～136 は土器である。132～135 は火鉢か。136 は焙烙である。137 は石製品で石臼の破片か。

[時期] 検出状況や出土遺物から、幕末期と推測する。

遺構外出土遺物 (第 168 図、図版 68)

138・139・141～143 は肥前系磁器、140 は瀬戸・美濃系磁器である。138 は端反碗、139 は丸形の小杯、140 は木型打込の小皿、141・142 は平形の紅皿、143 は鉢である。144～149 は陶器である。144 は刷毛目碗である。145 は灯明皿である。146 は瀬戸・美濃系陶器の灯明皿である。147・148 は明石・堺系陶器の播鉢である。149 は香炉で、瀬戸・美濃系陶器か。150 は基石形土製品である。151 は銭貨で十銭銀貨である。152 は小刀である。153 は箸である。154 は煉瓦である。

第3項 ④・⑤地点

④・⑤地点は現在の連雀町通りの北側で、③地点の東側に位置する。現況は民家の前となっている。協議の上、民家への迂回路を設置することで、④・⑤地点を同時に掘削調査することとなった。調査地点は広く攪乱を受けており、北西部の一部で近世の遺物包含層（Ⅱ b 層）が確認できるものの、面的な広がりには検出できず、大半の部分が表土（Ⅰ a 層）ないし、戦災焼土層（Ⅰ b 層）による攪乱を受けていた。そのため、これらを剥いだ地山（Ⅲ a1 層）上面で遺構検出を行った。④・⑤地点全体で土坑 11 基、小穴 8 基、集石遺構 12 基、溝状遺構 1 条を検出した。

S K 19（第 152 図、図版 60）

〔位置・重複〕 調査地点北東隅に位置する。重複する遺構はない。

〔形状・規模〕 平面形は楕円形を呈す。長径 1.22m、短径 73cm、深さ 70cm を測る。掘方の断面形は播鉢状で、中央がやや窪む。

〔検出状況〕 Ⅰ a 層を剥いだ地山上面で検出した。

〔出土遺物・時期〕 磁器・陶器が出土したが、図化できない。いずれも近代以降の遺物である。出土遺物から近代である。

S K 20（廃棄土坑）（第 149・169 図、図版 60・69）

〔位置・重複〕 調査地点の西壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

〔形状・規模〕 調査区外へ延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分で長さ 1.6m、幅 34cm、深さ 43cm を測る。掘方の断面形は播鉢状である。

〔検出状況・埋土〕 Ⅰ b 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色シルトを基調とし、ブロック状の焼土や粒状の炭化物を含む。火災で生じた焼土などを投棄したものと推測する。

〔出土遺物・時期〕 瀬戸・美濃系陶器の灯明受皿（155）が 1 点出土している。出土遺物より近世と推測する。

S K 21（第 148・169 図、図版 60・69）

〔位置・重複〕 調査地点の北壁に沿って検出した。切り合いは S P 22 より先行する。

〔形状・規模〕 調査区外へ延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分で長さ 1.22m、幅 40cm、深さ 20cm を測る。掘方の断面形は皿状である。

〔検出状況・埋土〕 Ⅱ b 層の直下で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

〔出土遺物〕 磁器・陶器・土器の細片の他、陶製人形（156）が 1 点出土している。

〔時期〕 検出状況と出土遺物から近世と推測する。

S K 22（第 152・169・170 図、図版 60・69）

〔位置・重複〕 調査地点中央に位置する。切り合いは S S 15 より先行し、S K 27・S K 30 より新しい。

〔形状・規模〕 平面形は不整形で、長さ 1.83m、幅 95cm、深さ 70cm を測る。掘方の断面形は、南側に階段状のテラスを持ち、北側は播鉢状に立ち上がる。

〔検出状況・埋土〕 Ⅰ a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

〔出土遺物・時期〕 磁器・陶器・土器・石臼が出土している。そのうち 14 点を図示した。157～161 は肥前系磁器である。157・158 は鉢である。159 は青磁の香炉である。160・161 は瓶である。162～166 は陶器である。162・163 は京・信楽系陶器で、162 は半球碗、163 は小杉碗である。164～166 は瀬戸・美濃系陶器で、164 は灯明皿、165 は灯明受皿、166 は播鉢である。167～170 は石臼で、168 は上臼、それ以外は下臼である。

〔時期〕 切り合いと出土遺物から江戸時代後期と推定する。

S K 23（大型土坑）（第 149 図、図版 60）

〔位置・重複〕 調査地点の東壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

〔形状・規模〕 調査区外へ延びるため、平面形の全容は不明である。検出部分で長さ 1.62m、幅 75cm、

深さ 95cmを測る。掘方の断面形は中央が一段下がり、立ち上がりは上部が張り出したあと、直立する。
[検出状況・埋土] I a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は地山に酷似し、壁面や底面の検出は困難であった。地山に比べて締めりがゆるい土である。
[出土遺物・時期] 出土遺物はない。時期は不明である。

S K 24 (第 152 図、図版 60)

[位置・重複] 調査地点の南壁に沿って検出した。切り合いは S S 24 より先行する。
[形状・規模] 調査区外へ延びるため、平面形の全容は不明であるが、円形と推測する。検出部分で長さ 30cm、幅 13cm、深さ 53cmを測る。掘方の断面形は方形に近い。
[検出状況・埋土] II b層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂質シルトを基調とし、下層は黒色砂質シルトを基調とする。いずれも焼土・炭化物を粒状に含む。
[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況と切り合いから、近世の可能性はある。

S K 25 (第 153・170 図、図版 60・69)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いでは S S 17 に先行し、S K 28 より新しい。
[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 1.42m、幅 1.1m、深さ 43cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。北側が一段低く、径 10cmの礫が 4 個まばらに据えられている。
[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は、上層は暗褐色砂を基調とし、ブロック状の黒色粘土と粒状の焼土・炭化物を含む。下層は黒色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。
[出土遺物] 磁器・陶器が 3 点出土しているが、1 点を図示した。171 は肥前系磁器の丸碗である。
[時期] 切り合い関係と出土遺物から、近世の可能性はある。

S K 27 (大型土坑) (第 154・170 図、図版 60・61・69)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いでは S K 22・S D 2 に先行する。
[形状・規模] 平面形は隅丸方形である。長さ 2.14m、幅 1.52m、深さ 86cmを測る。掘方の断面形は方形に近い形状だが、立ち上がりで上部が張り出している。土坑内には、長さ 7～140cm、太さ 5～10cmの角材や丸木材を井桁に組んだ構造物が検出された。東西方向に架けられた中央の部材の両端部には、高さを調整するかのように、一辺 10cm程度の板材が敷かれている。地下室の床板を敷くための根太であると推定する。
[検出状況・埋土] I a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色粘土を基調とし、ブロック状の黒褐色粘土を含む。地山由来の土により、短期間で埋め戻しが行われたと推測する。上層は地山と酷似し、締めりも強いため、調査時は地山との識別が困難であった。陶磁器の細片が出土したことから掘り進め、下層になると、水分を含み締めりがゆるくなった。これを手掛かりとして掘方の検出を進めた。
[出土遺物] 磁器・陶器の細片が出土し、陶器 1 点を図示した。172 は長石釉を施した志野皿とみられる。
[時期] 切り合いと出土遺物から江戸時代中期～後期の可能性はある。

S K 28 (第 153 図、図版 61)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いでは S K 25・S K 29・S S 17・S D 2 に先行する。
[形状・規模] 切り合いにより平面形の全容は不明である。検出部分で長さ 82cm、幅 55cm、深さ 27cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。
[検出状況・埋土] II b層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。
[出土遺物・時期] 磁器・陶器・土器の細片が出土したが、図示できない。切り合いから近世の可能性はある。

S K 29 (集石遺構) (第 153 図、図版 61)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いでは S K 28 より新しい。
[形状・規模] 平面形は楕円形である。長径 76cm、短径 54cm、深さ 47cmを測る。掘方の断面形は方形に近い。

[検出状況・埋土] II b層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。中層は黒色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒褐色砂質シルトを基調とし、その上に一辺2～4cm、厚さ6cmの板石を敷く。板石の周囲には径10～20cmの礫が据えられた集石遺構である。構造物の基礎であった可能性がある。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器が出土したが、図示できない。検出状況から近世の可能性がある。

S K 30 (大型土坑) (第154図、図版62)

[位置・重複] 調査区中央に位置する。切り合いではS K 22・S S 15・S D 2に先行する。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形である。長さ1.22m、幅1.08m、深さ80cmを測る。掘方の断面形は方形に近い形状である。

[検出状況・埋土] I a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は地山に酷似し、壁面や底面の検出は困難であった。黒色粘土を基調とし、ブロック状の黒褐色粘土を含み、3層に分層できる。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器の細片が出土したが、図示できない。切り合いから近世の可能性がある。

S K 37 (戦災瓦礫土坑) (第150・170図、図版62・69)

[位置・重複] 調査地点の西半部に位置する。切り合いではS S 19・S S 22より新しい。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ1.75m、幅1.7m、深さ1.05cmを測る。掘方の断面形は方形に近い形状で、中央部が一段低い。

[検出状況・埋土] I b層を剥いだ地山上面で検出した。甲府空襲で生じた瓦礫を廃棄した土坑とみられ、焼土や瓦片、溶融したガラスや金属製品などが堆積していた。攪乱として平面的な位置の記録に止めることも多いが、戦災関連遺構の一例として調査記録を行った。

[出土遺物] 大量の遺物が出土したが、一部のみを採取し、6点を図示した。173は基石形土製品である。174は銭貨で判読不明であるが、ニッケル硬貨である。175は煙管の雁首である。176は和鋏である。177は金尺である。178は石臼である。

[時期] 甲府空襲後のどの時点で瓦礫の処理を行ったか不明であるが、現代である。

S P 19 (第153図、図版62)

[位置・重複] 調査地点北東隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ34cm、幅30cm、深さ7cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] I a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は暗褐色砂を基調とし、径5cmの礫が堆積する。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。時期は不明である。

S P 20 (第153図)

[位置・重複] 調査地点南東隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径24cm、深さ16cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] I a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。時期は不明である。

S P 21 (第153図、図版62)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径35cm、深さ40cmを測る。掘方の断面形は方形に近い。

[検出状況・埋土] II b層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。また径10～15cmの礫が詰められており、柱の根固めの石と推測する。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。時期は不明である。

S P 22 (第153図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いはS K 21より新しい。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ24cm、幅23cm、深さ23cmを測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] II b層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。時期は不明である。

S P 23 (第 153 図、図版 62)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 21cm、短径 15cm、深さ 14cmを測る。掘方の断面形は楕鉢状である。

[検出状況・埋土] I a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。底面に径 20cmの礫が据えられており、礎石の役割を果たしていたと推測する。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。時期は不明である。

S P 24 (第 153 図)

[位置・重複] 調査地点北東隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 17cm、短径 15cm、深さ 5cmを測る。掘方の断面形は楕鉢状である。

[検出状況・埋土] I a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は暗褐色砂を基調とし、ブロック状の焼土と粒状の炭化物を含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。時期は不明である。

S P 25 (第 153 図)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 25cm、短径 23cm、深さ 18cmを測る。掘方の断面形は楕鉢状であるが、中央部が一段下がる。

[検出状況・埋土] I a層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。時期は不明である。

S P 26 (第 153 図)

[位置・重複] 調査地点北西隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 16cm、深さ 6cmを測る。掘方の断面形は楕鉢状である。

[検出状況・埋土] II b層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。時期は不明である。

S S 13 (集石遺構) (第 151 図、図版 62)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 60cm、短径 50cm、深さ 17cmを測る。掘方の断面形は楕鉢状である。

[検出状況] I a層を剥いだ地山上面で検出した。底面中央に一辺 25～30cm、厚さ 17cmの楕円形の礎石が据えられ、その周りを径 10～15cmの礫で根固めしている。構造物の基礎であった可能性があり、S S 14・S S 15と同じ軸線上に並ぶ。S S 14との芯々距離は約 93cmであり、S S 14との芯々距離は約 1.7mである。

[出土遺物・時期] 磁器・土器の細片が出土しているが、図示できない。遺構の時期は不明である。

S S 14 (集石遺構) (第 151 図、図版 62)

[位置・重複] 調査地点東半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 54cm、短径 48cm、深さ 15cmを測る。掘方の断面形は楕鉢状である。

[検出状況] I a層を剥いだ地山上面で検出した。底面中央に一辺 20～30cm、厚さ 15cmの方形の礎石が据えられ、その周りを径 10～15cmの礫で根固めしている。構造物の基礎であった可能性があり、S S 13と同じ軸線上に並ぶ。S S 13との芯々距離は約 93cmである。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S S 15 (集石遺構) (第 151 図、図版 62)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いは S K 22・S K 30 より新しい。

[形状・規模] 長さ 50cm、幅 40cm の範囲に径 10～20cm の礫が敷き並べられており、この範囲を S S 15 とした。掘方の断面形は方形である。

[検出状況] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。径 10～20cm の礫が 2 段積み重ねられていた。礫の下に捨杭等はない。構造物の基礎であった可能性があり、S S 14 と同じ軸線上に並ぶ。S S 14 との芯々距離は約 1.7m である。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S S 16 (集石遺構) (第 151 図、図版 62)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いは S D 2 より新しい。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ 70cm、幅 65cm、深さ 52cm を測る。掘方の断面形は方形に近い。

[検出状況] 戦災焼土層である I b 層中から、蠟燭石の頭頂部を検出した。甲府空襲以前の蠟燭地業の基礎とみられる。蠟燭石は一辺 28cm、高さ 68cm の角柱状を呈す。蠟燭石の周囲は径 10～15cm の礫で根固めされており、さらに蠟燭石の下には径 12～16cm の捨杭が 3 本打ち込まれている。同調査地点には、同じ軸線上に S S 17・S S 19 が位置している他、S S 18・S S 24 も同じ建物基礎の可能性が高い。S S 17 及び S S 19 との芯々距離はともに約 1.8m である。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から甲府空襲以前の昭和期と推測する。

S S 17 (集石遺構) (第 151 図、図版 62)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いは S D 2 より新しい。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ 65cm、幅 60cm、深さ 58cm を測る。掘方の断面形は方形に近い。

[検出状況] S S 16 と同様に、戦災焼土層である I b 層中から、蠟燭石の頭頂部を検出した。S S 16 と同様の構造をしており、蠟燭石は一辺 30cm、高さ 68cm の角柱状を呈す。蠟燭石の周囲は径 10～15cm の礫で根固めされ、蠟燭石の下には径 12cm の捨杭が 3 本打ち込まれている。同じ軸線上に S S 16・S S 18 が位置している。S S 17 及び S S 18 との芯々距離はともに約 1.8m である。

[出土遺物・時期] 陶器・土器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から甲府空襲以前の昭和期と推測する。

S S 18 (集石遺構) (第 150 図、図版 62)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ 82cm、幅 78cm、深さ 55cm を測る。掘方の断面形は方形に近い。

[検出状況] S S 16・S S 17 と同様に、戦災焼土層である I b 層中から、蠟燭石の頭頂部を検出した。S S 16・S S 17 と同様の構造をしており、蠟燭石は一辺 25cm、高さ 68cm の角柱状を呈す。蠟燭石の周囲は径 10～15cm の礫で根固めされ、蠟燭石の下には径 12cm の捨杭が 3 本打ち込まれている。同じ軸線上に S S 17・S S 19・S S 24 が位置している。S S 17 との芯々距離は約 1.8m、S S 19 との芯々距離は約 1.9m である。

[出土遺物・時期] 磁器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から甲府空襲以前の昭和期と推測する。

S S 19 (集石遺構) (第 150 図、図版 63)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。切り合いは S K 37 に先行する。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ 74cm、幅 66cm、深さ 50cm を測る。掘方の断面形は方形に近い。

[検出状況] 戦災焼土層である I b 層直下で検出した。中央の蠟燭石が失われているが、S S 16～S S 18 と同様に、甲府空襲以前の建物の蠟燭地業の基礎とみられる。根固めの石である径 10～20cm の礫と径 12cm の捨杭 3 本が残存している。同じ軸線上に S S 16・S S 18・S S 24 が位置し、S S 16 との芯々

距離は約 1.8m、S S 18 との芯々距離は約 1.9mである。

[出土遺物・時期] 出土遺物はないが、検出状況から甲府空襲以前の昭和期と推測する。

S S 20 (集石遺構) (第 150 図、図版 63)

[位置・重複] 調査地点南西隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 73cm、幅 44cm、深さ 21cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況] II b 層を剥いだ地山上面で検出した。径 10～20cmの礫が充填された集石遺構である。構造物の基礎であった可能性があり、S S 21 と同じ軸線上に並ぶ。S S 21 との芯々距離は約 1.7mである。

[出土遺物・時期] 磁器の小片が 2 点出土しているが、図示できない。検出状況より近世の可能性はある。

S S 21 (集石遺構) (第 150 図、図版 63)

[位置・重複] 調査地点西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 73cm、短径 65cm、深さ 2cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況] II b 層を剥いだ地山上面で検出した。径 5～10cmの礫が充填された集石遺構である。構造物の基礎であった可能性があり、S S 20 と同じ軸線上に並ぶ。S S 20 との芯々距離は約 1.7mである。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況より近世の可能性はある。

S S 22 (集石遺構) (第 150 図、図版 63)

[位置・重複] 調査地点北西隅に位置する。切り合いは S K 37 に先行する。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ 76cm、幅 73cm、深さ 38cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況] II b 層を剥いだ地山上面で検出した。径 10～20cmの礫が充填された集石遺構である。構造物の基礎であった可能性はあるが、S S 20・S S 21 とはやや軸線がズレている。東側には同様の集石遺構である S S 23 が位置し、芯々距離は約 2.8mを測る。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況より近世の可能性はある。

S S 23 (集石遺構) (第 150 図、図版 63)

[位置・重複] 調査地点北半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形で、長さ 52cm、幅 48cm、深さ 20cmを測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況] II b 層を剥いだ地山上面で検出した。径 10～20cmの礫が充填された集石遺構である。構造物の基礎であった可能性はある。西側には同様の集石遺構である S S 22 が位置し、芯々距離は約 2.8mを測る。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況より近世の可能性はある。

S S 24 (集石遺構) (第 152 図、図版 63)

[位置・重複] 調査地点南壁に沿って検出した。切り合いは S K 24 より新しい。

[形状・規模] 調査区外へ伸びるため、平面形の全容は不明だが想定される平面形は隅丸方形である。検出部分では長さ 62cm、幅 26cm、深さ 40cmを測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況] I a 層直下の II b 層上面で検出した。中央の蠟燭石は検出できなかったが、S S 16～S S 19 と同様に、甲府空襲以前の蠟燭地業の基礎とみられる。根固めの石である径 10～20cmの礫と径 16cmの捨杭の痕跡が検出されている。同じ軸線上に S S 18・S S 19 が位置している。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器の細片が出土しているが、図示できない。S S 16～S S 19 と同様に甲府空襲以前の昭和期と推測する。

S D 2 (第 151・170 図、図版 63・70)

[位置・重複] 調査地点中央に位置する。切り合いは S S 16・S S 17 に先行し、S K 27・S K 30 より新しい。

[形状・規模] 調査地点を南北方向に横断し、調査区外へ伸びる。検出部分では長さ 4.67m、幅 1.55m、深さ 37cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況] I a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は大規模な攪乱を受けていたが、その下

から黒褐色細粒砂や黒色シルトが堆積している。S D 2 は少なくとも一度作り直しが行われた痕跡がみられる。はじめに、II b1 層直下のII b2 層を掘り込みS D 2 が構築され、水路として利用された後、II b1 層堆積前になんらかの理由で廃絶され、その後、II b1 層を掘り込み再度構築された様子がうかがえる。

[出土遺物] 磁器・陶器・ガラス製品が出土している。10 点を図示した。179～185 は磁器である。179・180 は肥前系磁器の碗で、179 は筒形碗、180 は端反碗である。181 は平碗である。182 は細筒形碗である。183 は肥前系磁器で丸形の皿である。184 は肥前系磁器の碗蓋である。185 は肥前系磁器で狐の人形の頭部である。186 は陶器の香炉である。187・188 はガラス製品のおはじき（石蹴）である。

[時期] 1 度目の構築は近世段階に行われ、2 度目の構築時期は不明だが、近代以降に埋没したと推測する。

遺構外出土遺物（第 171 図、図版 70）

189～194 は磁器である。189 は統制陶器の平碗である。190・191 は丸形の皿である。192 は統制陶器の合子である。193 は肥前系磁器で辣蕪形の瓶である。194 は戸車である。195～196 は陶器である。195・196 は瀬戸・美濃系陶器で、195 は灯明皿、196 は平形の片口か。197 は土製品の目皿（さな）である。198～203 は銭貨である。198～201 は寛永通宝である。202・203 は一銭銅貨である。204 は煙管の吸口である。205 は基石形石製品である。206～211 はガラス製品である。206・207 は瓶である。208～211 はおはじき（石蹴）である。

第 4 項 ⑥・⑦地点

⑥・⑦地点は現在の連雀町通りの北側で、今回の調査範囲の東端部に位置する。現況は駐車場の前となっており、車の進入路を確保するため、調査は隣接する⑥・⑦地点を反転掘削で行った。⑥地点では舗装撤去後の表土直下で、焼土や瓦片が堆積する戦災焼土層（I b1 層）が堆積し、その下には戦前に構築されたとみられる擁壁や土管の埋設が確認された。これらにより⑥地点の大部分は地山面まで攪乱を受けていたが、西壁に沿って、II a 層とした近世の遺物包含層が堆積している。II a 層の直下は地山となる。一方、⑦地点では舗装の直下より戦災焼土層が検出された。⑦地点の南半部は地山まで攪乱を受けていたが、北半部では戦災焼土層下に、黄褐色砂や暗褐色砂を基調とする整地層（I c 層）があり、その下から近世の遺物包含層（II a 層）が薄く堆積している。いずれの地点も II a 層を面的に掘り下げていき、最終的に地山上面まで掘り下げて遺構検出を行った。⑥・⑦地点合わせて、土坑 5 基、埋嚢 1 基、小穴 9 基、溝状遺構 2 条を検出した。

S K 26（第 157 図）

[位置・重複] ⑦地点の北西隅に位置する。切り合いでは S D 3 に先行する。

[形状・規模] 調査区外へ伸びるため、平面形の全容は不明である。検出部分で長さ 80cm、幅 70cm、深さ 20cm を測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色シルトを基調とし、ブロック状の黒色粘土と粒状の焼土・炭化物を含む。

[出土遺物・時期] 磁器・陶器の細片が出土したが、図示できない。検出状況より近世の可能性はある。

S K 31（廃棄土坑）（第 155・172 図、図版 63、70）

[位置・重複] ⑥地点の北西隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 想定される平面形は隅丸方形で、検出部分で長さ 1.2m、幅 95cm、深さ 30cm を測る。掘方の断面形は楕円状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色砂を基調とし、ブロック状の黒色粘土・焼土と粒状の炭化物を含む。火災で生じた焼土などを投棄したものと推測する。

[出土遺物] 磁器・陶器が 5 点出土しており、そのうち 2 点を図示した。212 は肥前系磁器の丸碗である。213 は肥前系陶器で半磁半陶の丸碗である。

[時期] 検出状況と出土遺物より、江戸時代後期の可能性はある。

S K 32 (廃棄土坑) (第 156・172 図、図版 63・70)

[位置・重複] ⑥地点の西半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形に近いが、やや不整形である。検出部分で長さ 1.7m、幅 1.6m、深さ 35cmを測る。掘方の断面形は方形に近い形状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色シルトを基調とし、ブロック状の焼土と粒状の炭化物を含む。2 次被熱を受けたとみられる磁器や土壁材が出土しており、火災で生じたそれらを投棄したものと推測する。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器が出土しており、そのうち 14 点を図示した。214～217 は肥前系磁器である。214 は丸碗である。215 は丸形の小坏であり紅皿か。216・217 は端反形の鉢である。218～222 は陶器である。218 は半球碗で、京・信楽系陶器か。219 は肥前系陶器の刷毛目碗である。220～222 は瀬戸・美濃系陶器で、220 は長石釉を施した皿であり、志野皿か。221 は丸形の片口、222 は播鉢である。223 は銅製の環状金具である。224～227 は土壁材の破片である。

[時期] 検出状況と出土遺物より、江戸時代後期と推測する。

S K 33 (埋甕) (第 156 図、図版 63)

[位置・重複] ⑥地点中央に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 52cm、幅 45cm、深さ 18cmを測る。掘方の断面形は方形に近い形状である。

[検出状況・埋土] I e 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は暗褐色砂を基調とし、焼土を粒状に含む。中央には甕が据えられている。

[出土遺物・時期] 土坑の中央に据えられていた甕の内面には、白色の結晶物質が付着しており、尿石の可能性もある。便槽として使用された甕が埋設されたと推測する。遺構の時期は不明である。

S K 34 (第 156 図、図版 63)

[位置・重複] ⑥地点北東隅に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は隅丸方形に近いがやや不整形である。長さ 62cm、幅 60cm、深さ 22cmを測る。掘方の断面形は方形である。

[検出状況・埋土] I 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は暗褐色砂を基調として、径 4～6 cmの礫が堆積し、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S K 36 (第 156 図、図版 63)

[位置・重複] ⑥地点の南壁に沿って検出した。重複する遺構はない。

[形状・規模] 想定される平面形は隅丸方形で、検出部分で長さ 72cm、幅 20cm、深さ 20cmを測る。掘方の断面形は播鉢状である。

[検出状況・埋土] I b1 層の直下で検出した。埋土は暗褐色砂質シルトを基調とし、径 5～15cmの礫を充填する。焼土・炭化物を粒状に含む

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況より近代の可能性はある。

S P 27 (第 157 図、図版 64)

[位置・重複] ⑦地点北端部に位置する。切り合いは S D 3 に先行する。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長さ 38cm、幅 36cm、深さ 18cmを測る。掘方の断面形は播鉢状で、中央が一段下がる。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は灰黄褐色粘土を基調とし、焼土と炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 土器の細片が出土しているが、図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 28 (第 157 図)

[位置・重複] ⑦地点中央部に位置する。切り合いは S D 4 に先行する。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 36cm、深さ 10cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒褐色シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 陶器の細片が出土しているが図示できない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 29 (第 156 図)

[位置・重複] ⑥地点西端部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 30cm、短径 25cm、深さ 6cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒色粘土を基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 30 (第 156 図)

[位置・重複] ⑥地点北半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形に近いがやや不整形である。径 32cm、深さ 15cmを測る。掘方の断面形は楕鉢状で、中央が一段下がる。

[検出状況・埋土] I e 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は暗褐色砂を基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 31 (第 156 図)

[位置・重複] ⑥地点中央部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 30cm、深さ 12cmを測る。掘方の断面形は楕鉢状である。

[検出状況・埋土] I e 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は暗褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 32 (第 156 図)

[位置・重複] ⑥地点南半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 34cm、短径 26cm、深さ 5cmを測る。掘方の断面形は皿状である。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S P 33 (第 156 図)

[位置・重複] ⑥地点南半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 26cm、短径 23cm、深さ 25cmを測る。掘方の断面形は方形に近い形状である。

[検出状況・埋土] I e 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒褐色粘土を基調とし、炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 34 (第 156 図、図版 63)

[位置・重複] ⑥地点北端部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は円形で、径 28cm、深さ 32cmを測る。掘方の断面形は楕鉢状に近いが、南側の最深部が突出する。

[検出状況・埋土] I e 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は黒色砂質シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。遺構の時期は不明である。

S P 35 (第 156 図)

[位置・重複] ⑥地点南半部に位置する。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、長径 22cm、短径 16cm、深さ 6cmを測る。掘方の断面形は皿状に近い。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。埋土は、上層は黒褐色砂を基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。下層は黒色粘土を基調とする。

[出土遺物・時期] 出土遺物はない。検出状況から近世の可能性はある。

S D 3 (第 157・173・174 図、図版 64・71)

[位置・重複] ⑦地点北半部に位置する。⑦地点を横断し、調査区外へ伸びる。切り合いは S P 27 より新しい。

[形状・規模] ⑦地点を東西方向に走る。検出部分では長さ 1.7m、幅 90cm、深さ 22cmを測る。掘方の断面形は播鉢状に近い。

[検出状況・埋土] II a 層を剥いだ地山上面で検出した。遺存状態は悪いが、溝の両端に径 5～10cmの石を積み黒色粘土で固め、側壁とした痕跡がみられる。溝内の埋土は黒褐色シルトを基調とし、焼土・炭化物を粒状に含む。

[出土遺物] 磁器・陶器が出土し、そのうち 5 点を図示した。239 は肥前系磁器の筒形碗である。240～243 は陶器である。240～242 は瀬戸・美濃系陶器で、240 は平形の片口か。241 は播鉢、242 は胴丸形の甕である。243 は土瓶のつる掛部である。

[時期] 検出状況と出土遺物から江戸時代後期と推定する。

S D 4 (第 157・174 図、図版 64・71)

[位置・重複] ⑦地点南半部に位置する。⑦地点を横断し、調査区外へ伸びる。切り合いは S P 28 より新しい。

[形状・規模] ⑦地点を東西方向に走る。検出部分では長さ 2.1m、幅 42cmを測る。地割れの痕跡とみられる亀裂であり、地表下約 1.6mまで断割り、断面を確認したところ、地山に 5～10cmの断層状のズレが認められる。

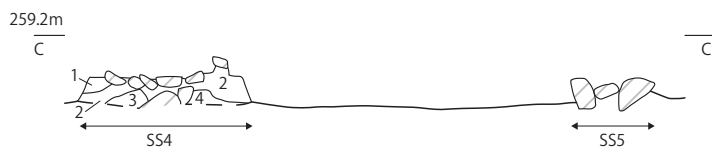
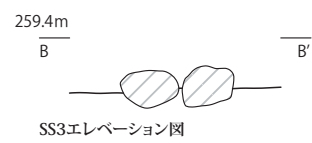
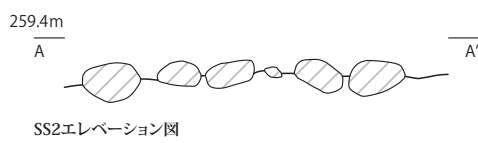
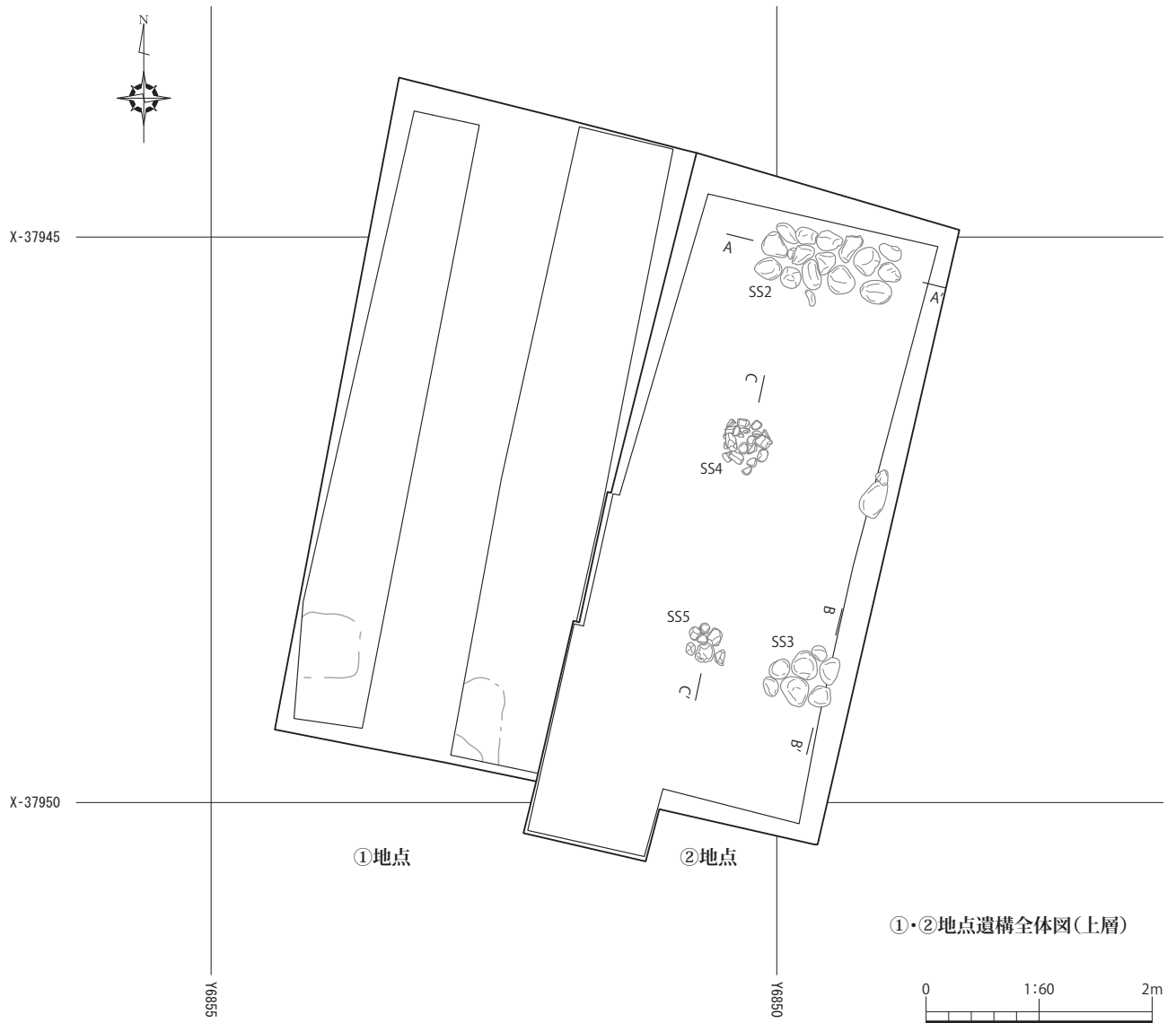
[検出状況・埋土] 戦災焼土層 (I b1 層) を剥いだ地山上面で検出された。4 層に分層でき、上の 3 層は黒褐色砂質シルトを基調とし、径 5cmの礫や粒状の炭化物を含み、遺物の出土がみられる。最下層は黒褐色シルトを基調とし、炭化物を粒状に含む締めりのゆるい土が続き、遺物の出土はみられない。

[出土遺物] 磁器・陶器・土器・瓦・銭貨などが出土し、そのうち 14 点を図示した。244～247 は磁器である。244～246 瀬戸・美濃系磁器で、244 は端反形の小坏、245 は丸形の皿、246 は方形の皿である。247 は碗蓋である。248～251 は土器である。248・249 は大甕である。250 は七輪五徳である。251 は七輪である。252 は軒棧瓦である。253 は土製模造貨で、文政一朱判の模造貨である。254 は土管である。255～257 は銭貨である。255・256 は寛永通宝である。257 は文久永宝である。

[時期] 幕末期～明治期の遺物が出土していることから、それ以降の地震による地割れの痕跡と推測する。幕末期から近代にかけて発生した大地震で、甲府と近かったものとしては、嘉永 7 年 (1854) の安政東海大地震、明治 24 年 (1891) の濃尾地震、大正 12 年 (1923) の関東大震災などがある。この地割れが、いずれかの地震により引き起こされたものであるかは不明である。

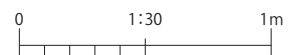
遺構外出土遺物 (第 172 図、図版 71)

228～232 は磁器である。228・229 は丸碗である。230 は鉢である。231・232 は肥前系磁器で、231 は碗蓋、232 は蓋物蓋である。233～236 は陶器である。233 は灯明皿である。234・235 は明石・堺系陶器の播鉢である。236 は壺蓋である。237 は十銭銀貨である。238 はガラス製品の薬瓶である。

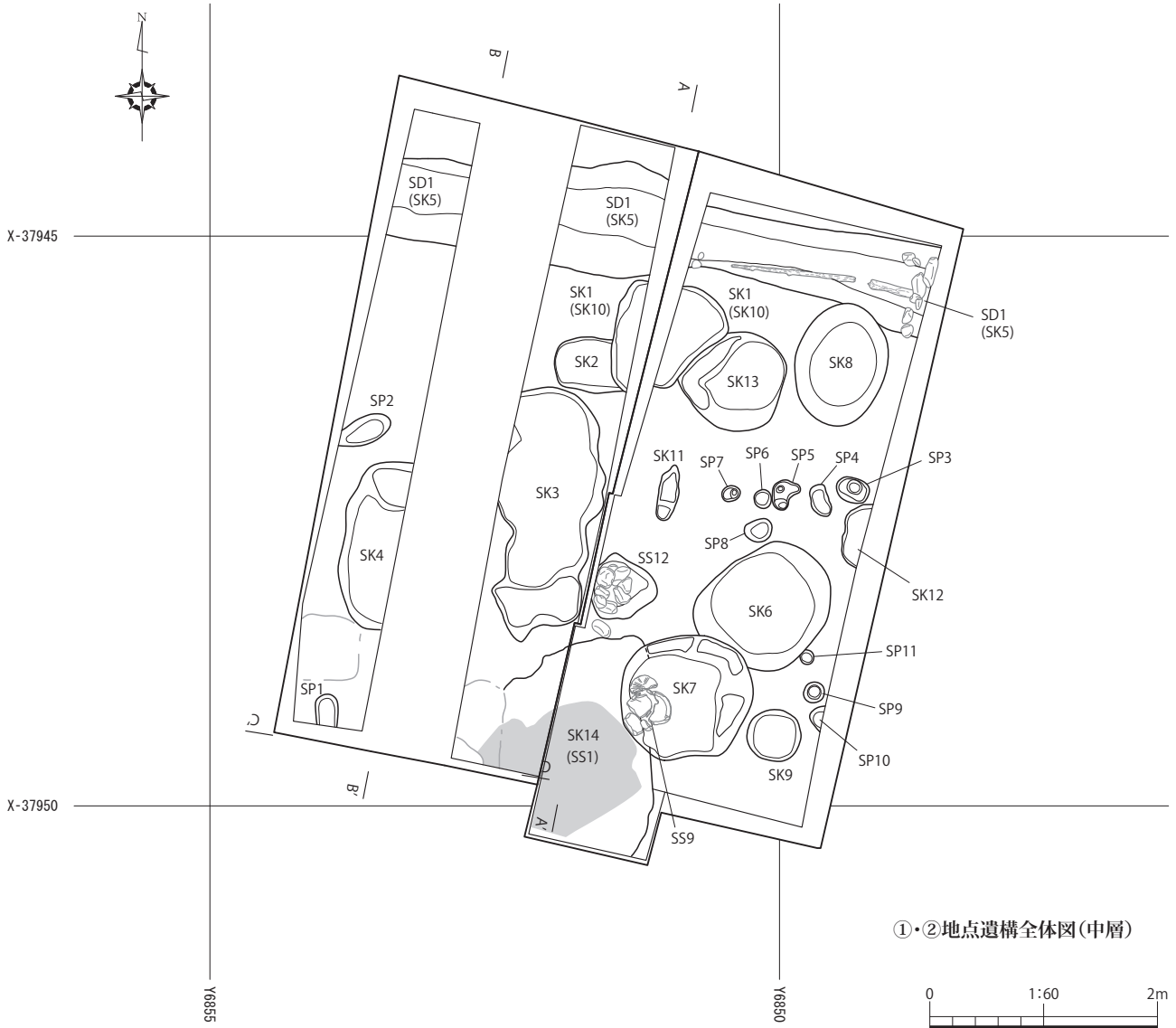


SS4・SS5

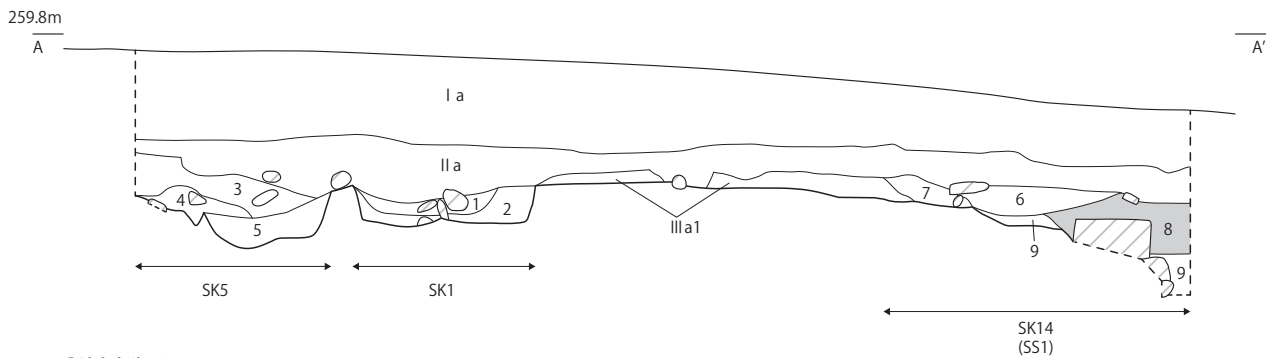
- 1 黒褐色(10YR2/1)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む 縮まりゆるい
- 2 黒褐色(10YR3/1)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む 固く縮まる
- 3 黒色(10YR2/1)シルト 縮まりゆるい
- 4 黒褐色(10YR3/1)粘土 焼土・炭化物粒状に2%含む 縮まりあり



第138図 ①・②地点(1)



①・②地点遺構全体図(中層)



①地点東壁セクション

- I a 表土 [近代の遺物包含層]
- II a 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む
固く締まる [近世の遺物包含層]
- III a1 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に15%含む 固く締まる [地山]

SK1

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む
- 2 黒褐色(10YR2/1)粘土 灰白色(5G8/1)粘土5%・泥岩粒状に10%含む
締まりゆるい

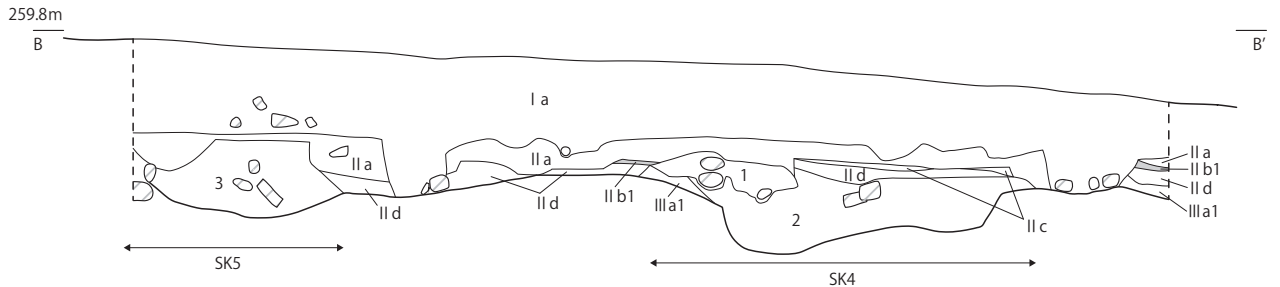
SK5

- 3 黒色(10YR2/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に5%含む 締まりゆるい
- 4 黒色(10YR2/1)砂質シルト 締まりゆるい
- 5 黒色(10YR2/1)粘土 灰白色(5G8/1)粘土5%・泥岩粒状に10%含む

SK14(SS1)

- 6 黒褐色(10YR2/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい
- 7 黒色(10YR2/1)粘土 黒褐色(10YR3/2)砂5%・焼土・炭化物粒状に3%含む
- 8 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土粒状に20%・炭化物粒状に5%含む 固く締まる
- 9 黒色(10YR2/1)シルト 炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい 粘性強い

第139図 ①・②地点(2)



①地点ベルト・南壁セクション

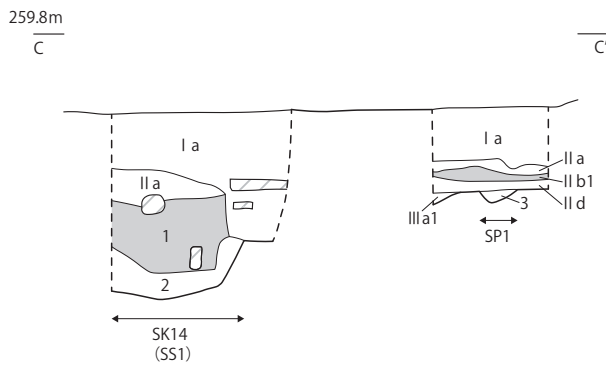
- I a 表土 [近～現代の遺物包含層]
- II a 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる [近世の遺物包含層]
- II b1 黒褐色(10YR3/1)砂 焼土ブロック状に15%・炭化物粒状に5%含む 固く締まる [焼土層]
- II c 褐色(10YR4/4)細粒砂 上層がやや被熱を受ける [整地層]
- II d 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる
- III a1 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に15%含む 固く締まる [地山]

SK4

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 径5～10cmの礫が堆積する 固く締まる
- 2 黒色(10YR2/1)粘土 にぶい・黄褐色(10YR4/2)砂5%・泥岩粒状に10%含む 締まりゆるい

SK5

- 3 黒色(10YR2/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい

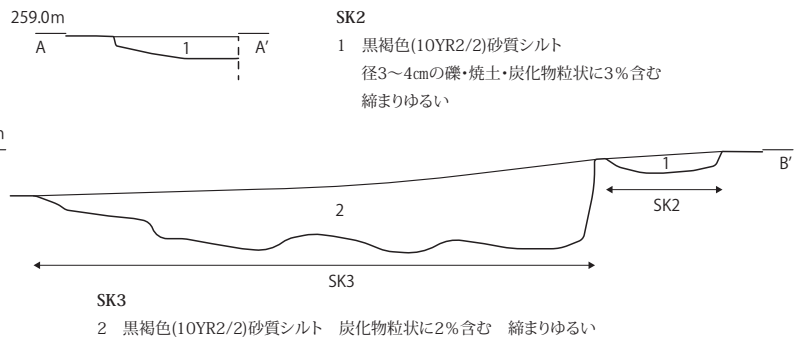
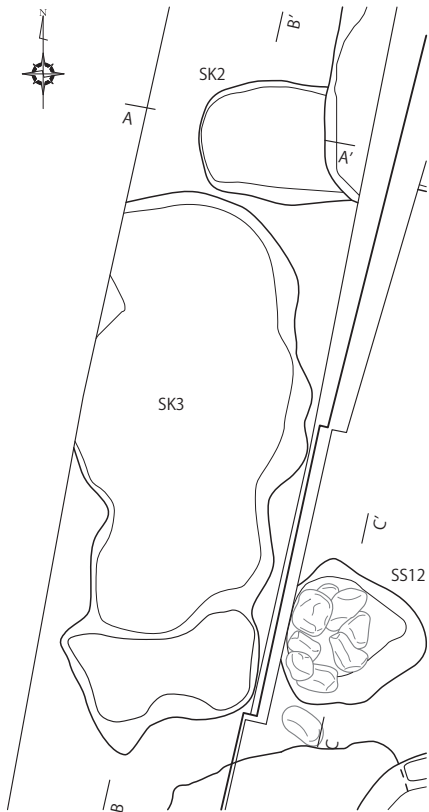


SK14(SS1)

- 1 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土粒状に20%・炭化物粒状に5%含む 固く締まる
- 2 黒色(10YR2/1)シルト 炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい、粘性強い

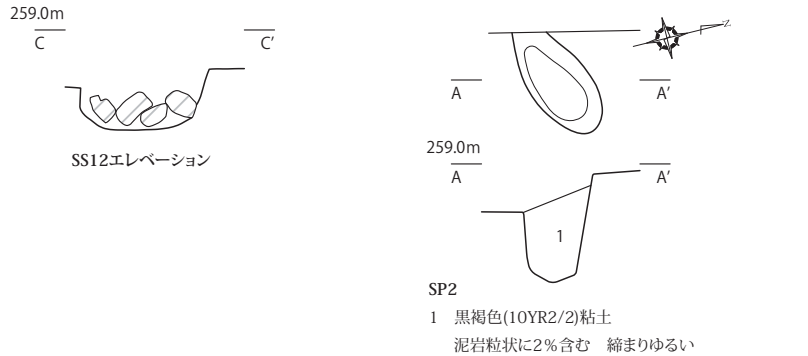
SP1

- 3 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい



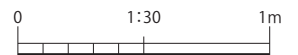
SK2

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 径3～4cmの礫・焼土・炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい

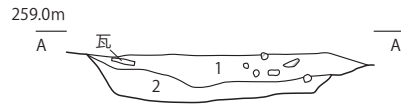
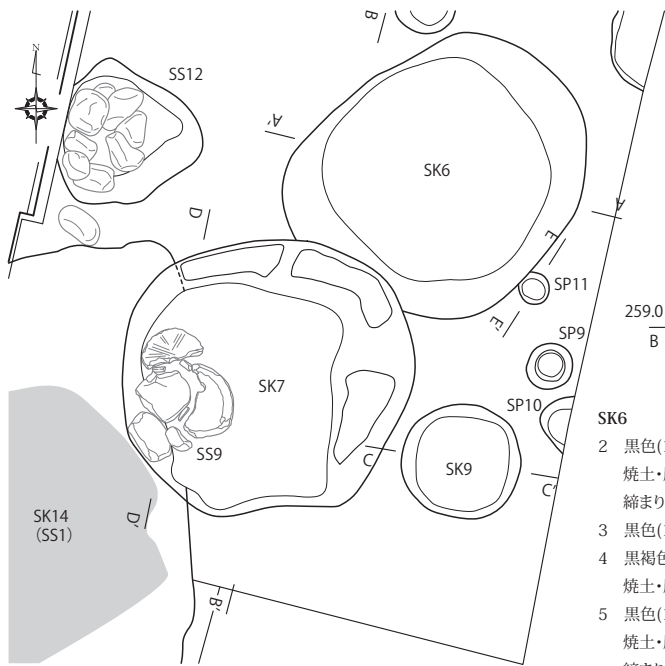


SP2

- 1 黒褐色(10YR2/2)粘土 泥岩粒状に2%含む 締まりゆるい

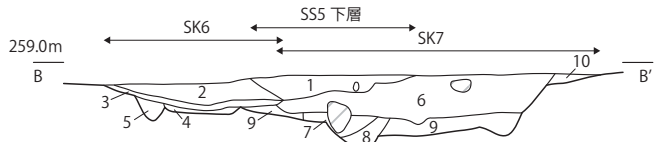


第140図 ①・②地点(3)



SK6

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に5%含む 縮まりゆるい
- 2 黒色(10YR2/1)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に2%含む 縮まりゆるい

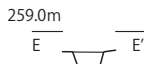


SK6

- 2 黒色(10YR2/1)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に2%含む
縮まりゆるい
- 3 黒色(10YR2/2)粘土 縮まりゆるい
- 4 黒褐色(10YR2/2)砂
焼土・炭化物粒状に3%含む
- 5 黒色(10YR2/1)粘土
焼土・炭化物粒状に2%含む
縮まりゆるい

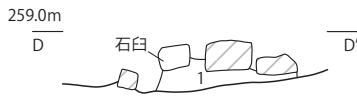
SS5 下層

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる
- 6 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土・炭化物粒状に5%含む
- 7 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に3%含む 縮まりゆるい
- 8 黒褐色(10YR2/2)粘土 焼土・炭化物粒状に3%含む
縮りゆるい
- 9 黒色(10YR2/1)粘土 黒褐色(10YR2/2)粘土10%含む
焼土・炭化物粒状に3%含む 縮まりゆるい
- 10 黒色(10YR2/1)粘土 焼土・炭化物粒状に5%含む
固く締まる



SP11

- 1 黒褐色(10YR2/1)砂
焼土粒状に5%含む
縮まりゆるい



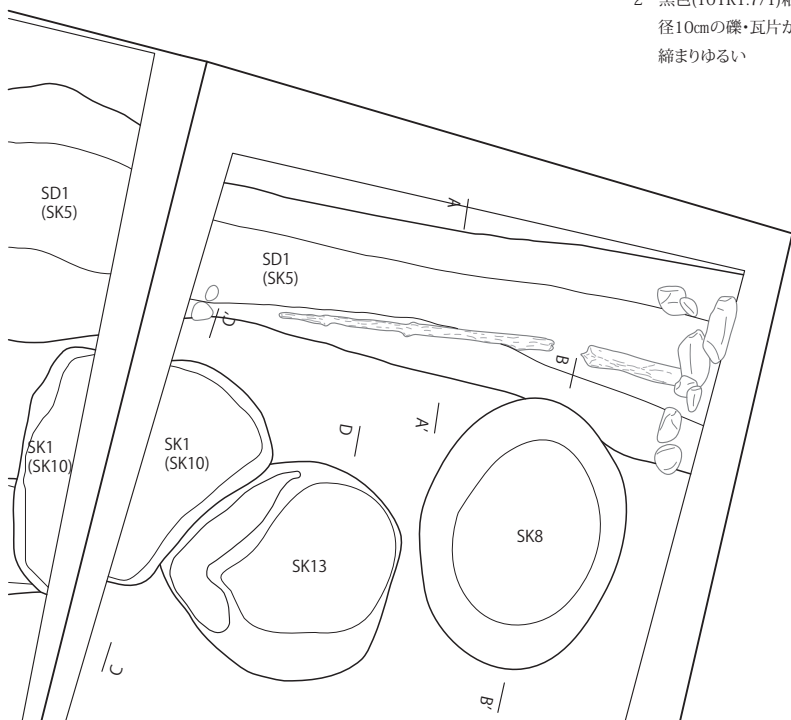
SS9

- 1 黒褐色(10YR2/2)粘土 砂15%含む
焼土・炭化物粒状に5%含む 縮まりゆるい



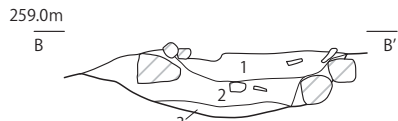
SK9

- 1 黒色(10YR1.7/1)粘土
黒褐色(10YR2/2)砂15%含む
焼土・炭化物粒状に3%含む
縮まりゆるい
- 2 黒色(10YR1.7/1)粘土
径10cmの礫・瓦片が堆積する
縮まりゆるい



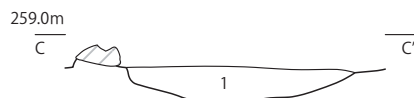
SD1

- 1 黒色(10YR2/1)砂
焼土・炭化物粒状に2%含む
縮まりゆるい
- 2 黒色(10YR2/1)粘土



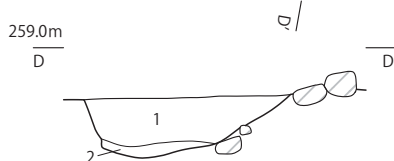
SK8

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂 焼土粒状に2%・炭化物粒状に5%含む
径10~20cmの礫・瓦片が堆積する 縮まりゆるい
- 2 黒色(10YR2/1)砂 縮まりゆるい
- 3 黒色(10YR2/1)粘土
明緑灰(7.5GY7/1)粘土ブロック状に10%含む 固く締まる



SK10

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物粒状に2%含む 縮まりゆるい

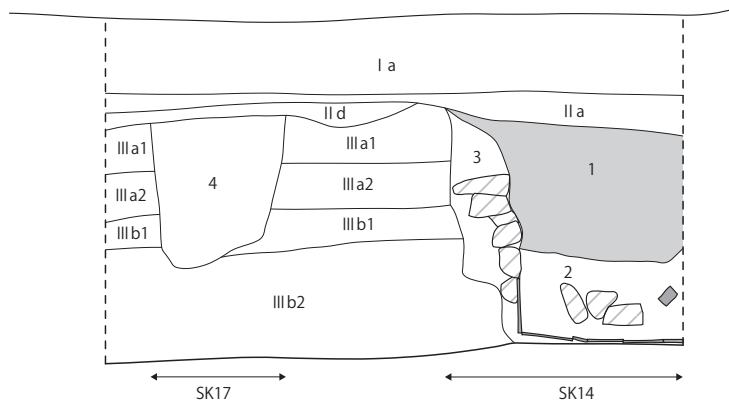
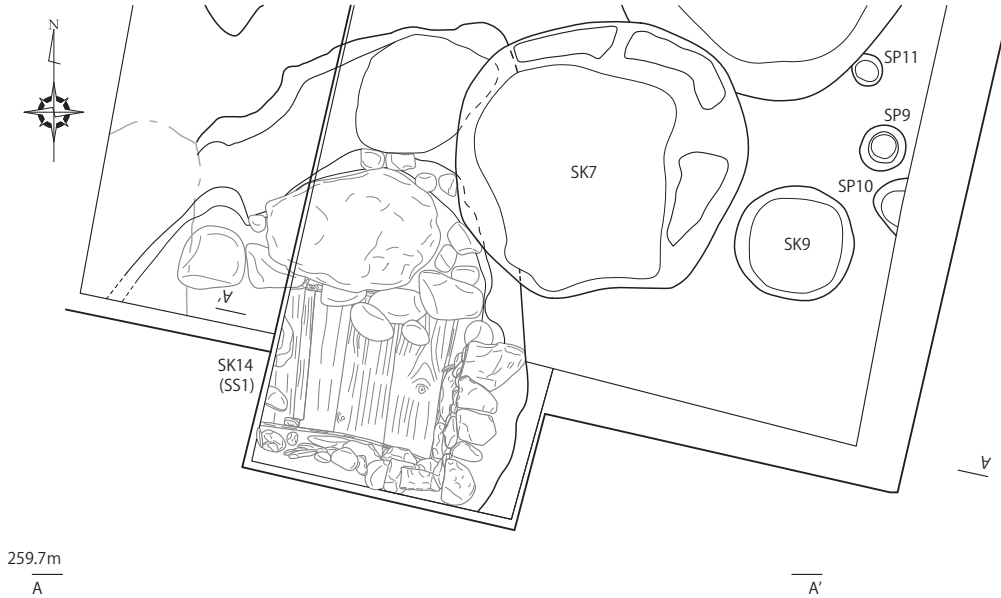


SK13

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土粒状に3%含む 縮まりゆるい
- 2 黒色(10YR1.7/1)粘土 砂10%含む 縮まりゆるい



第141図 ①・②地点(4)



②地点南壁セクション

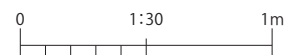
- I a 表土 [近～現代の遺物包含層]
- II a 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む
固く締まる [近世の遺物包含層]
- II d 黒色(10YR2/1)粘土 黒褐色(10YR3/2)砂10%含む
焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる
- III a1 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に15%含む 固く締まる [地山]
- III a2 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に20%含む 固く締まる [地山]
- III b1 黒色(10YR1.7/1)粘土 泥岩粒状に15%含む [地山]
- III b2 黒色(10YR1.7/1)粘土 締めりゆるい [地山]

SK14(SS1)

- 1 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土粒状に20%・炭化物粒状に5%含む 固く締まる
- 2 黒色(10YR2/1)シルト 炭化物粒状に2%含む 締めりゆるい 粘性強い
- 3 黒色(10YR2/8)粘土 泥岩粒状に10%・黒褐色(10YR3/1)砂5%含む
径10～20cmの礫を積み、粘土で固めている 締めりゆるい

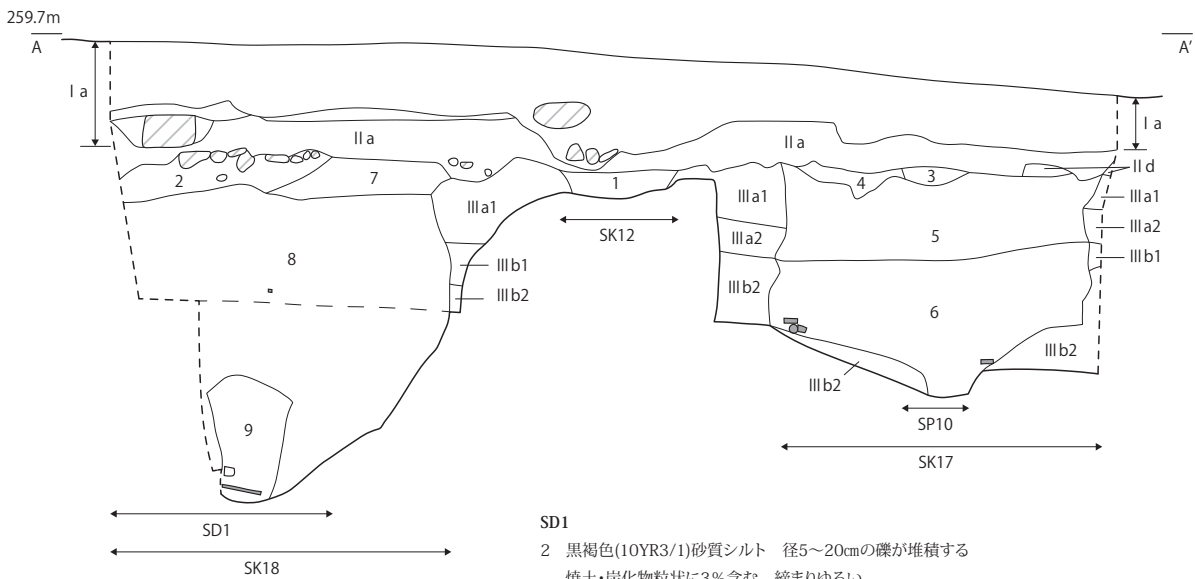
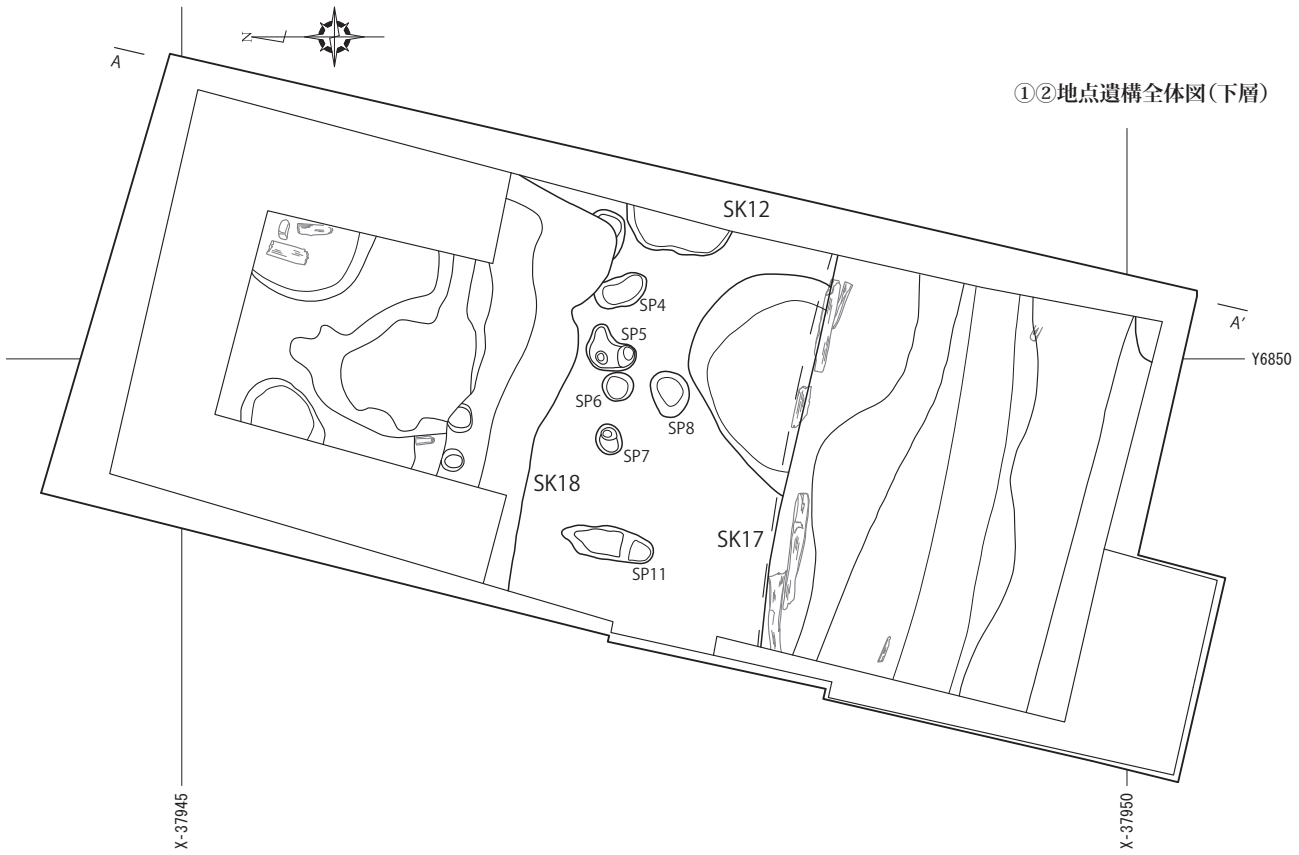
SK17

- 4 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に10%・灰白色(10YR8/2)粘土ブロック状に5%含む
固く締まる



第142図 ①・②地点(5)

①②地点遺構全体図(下層)



②地点南壁セクション

- I a 表土 [近代の遺物包含層]
- II a 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む
固く締まる [近世の遺物包含層]
- II d 黒色(10YR2/1)粘土 黒褐色(10YR3/2)砂10%含む
焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる
- III a1 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に15%含む 固く締まる [地山]
- III a2 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に20%含む 固く締まる [地山]
- III b1 黒色(10YR1.7/1)粘土 泥岩粒状に15%含む [地山]
- III b2 黒色(10YR1.7/1)粘土 締めりゆるい [地山]

SK12

- 1 黒褐色(10YR3/1)シルト 泥岩粒状に10%含む
炭化物粒状に3%含む 締めりゆるい

SD1

- 2 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 径5~20cmの礫が堆積する
焼土・炭化物粒状に3%含む 締めりゆるい

SP10

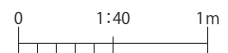
- 3 黒褐色(10YR2/1)砂 焼土・炭化物粒状に5%含む 固く締まる

SK17

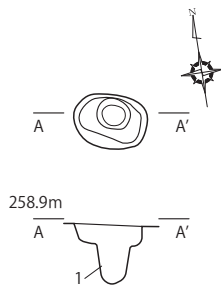
- 4 黒褐色(10YR2/1)砂 黒褐色(10YR3/1)粘土10%・焼土ブロック状に10%含む 被熱し固く締まる
- 5 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に10%・灰白色(10YR8/2)粘土ブロック状に5%含む 固く締まる
- 6 黒色(10YR1.7/1)粘土 泥岩粒状に5%・灰白色(5GY8/1)粘土ブロック状に5%含む 締めりゆるい

SK18

- 7 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に10%・黒褐色(10YR3/1)砂5%含む
灰白色(10YR8/2)粘土ブロック状に3%含む 焼土・炭化物粒状に2%含む
- 8 黒色(10YR1.7/1)粘土 灰白色(5GY8/1)粘土ブロック状に10%含む
- 9 8層より締めりゆるく、粘性強い 柱痕か

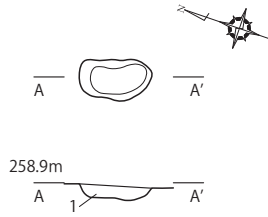


第143図 ①・②地点(6)



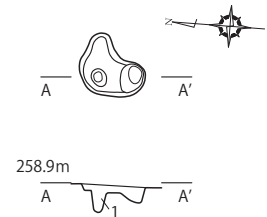
SP3

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
灰色(10YR8/2)粘土5%・
炭化物粒状に3%含む
縮まりゆるい



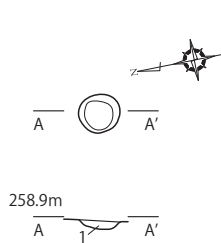
SP4

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
灰色(10YR8/2)粘土5%・
炭化物粒状に3%含む
縮まりゆるい



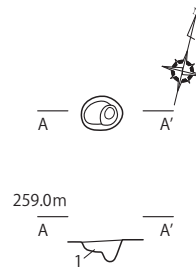
SP5

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
灰色(10YR8/2)粘土5%・
炭化物粒状に3%含む
縮まりゆるい



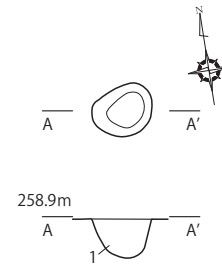
SP6

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
灰色(10YR8/2)粘土5%・
炭化物粒状に3%含む
縮まりゆるい



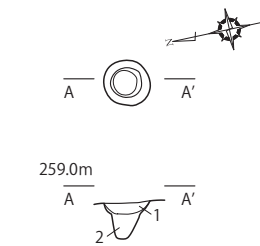
SP7

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
灰色(10YR8/2)粘土5%・
炭化物粒状に3%含む
縮まりゆるい



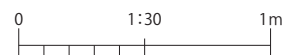
SP8

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
灰色(10YR8/2)粘土5%・
炭化物粒状に3%含む
縮まりゆるい



SP9

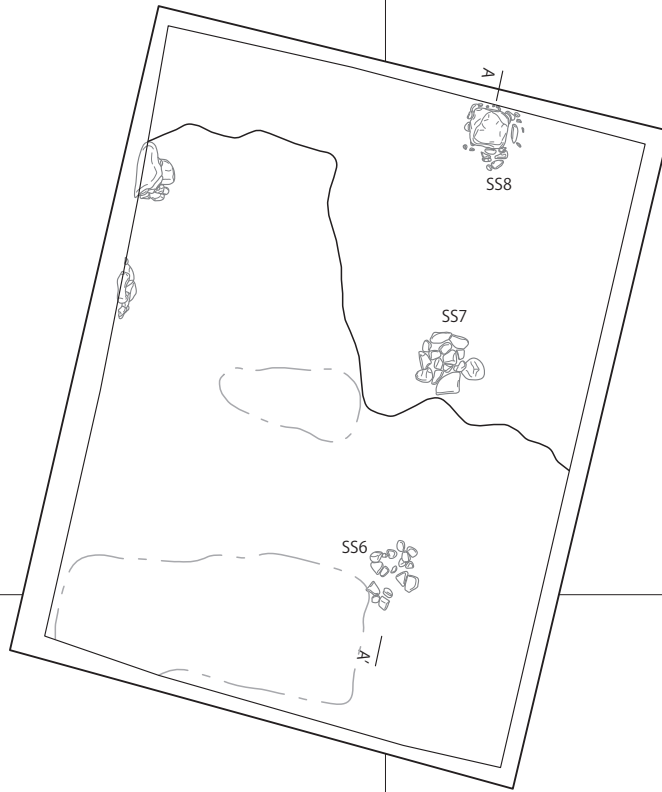
- 1 黒褐色(10YR2/3)砂
焼土・炭化物が極微量に混じる
- 2 黒褐色(10YR3/1)砂
焼土・炭化物が極微量に混じる 縮まりゆるい



第144図 ①・②地点(7)

X-37945

X-37950

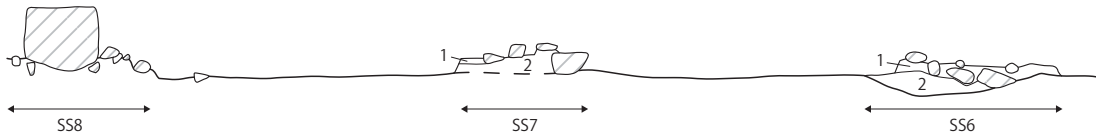


Y6855

③地点遺構全体図(上層)



259.4m
A



SS7

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂
焼土・炭化物粒状に2%含む
- 2 焼土・炭化物がブロック状に堆積する
固く締まる [SX1 覆土]

SS6

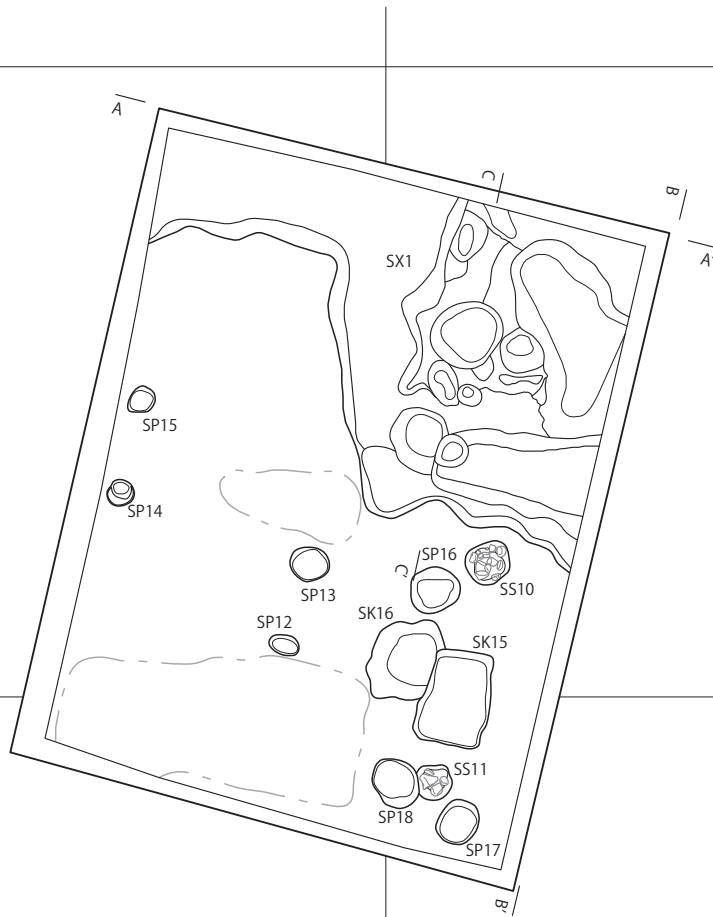
- 1 黒褐色(10YR2/2)砂
焼土・炭化物粒状に2%含む
- 2 黒褐色(10YR3/2)シルト
焼土・炭化物粒状に2%含む



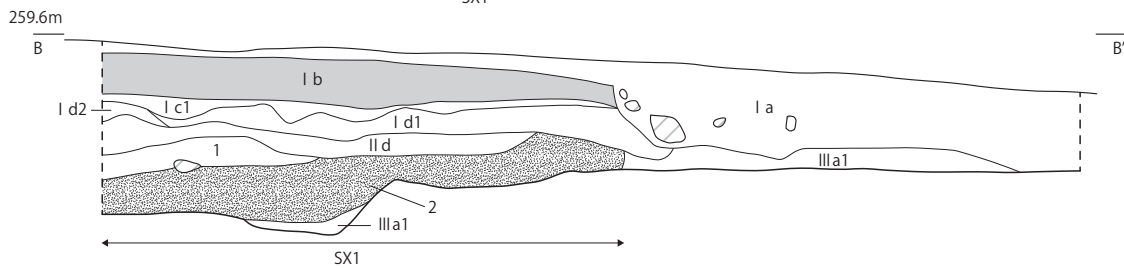
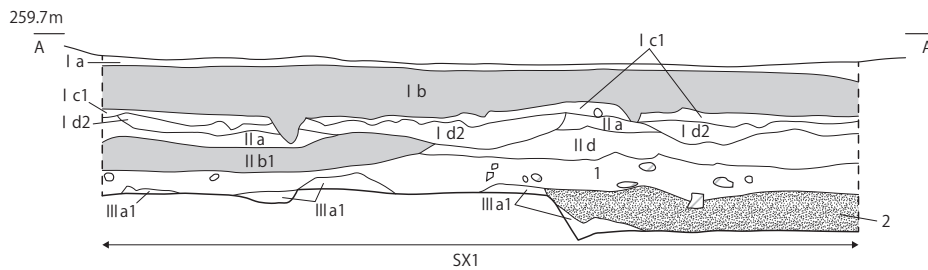
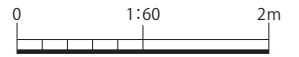
第145図 ③地点(1)

X-37945

X-37950



③地点遺構全体図(下層)

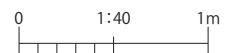


③地点北壁・東壁セクション

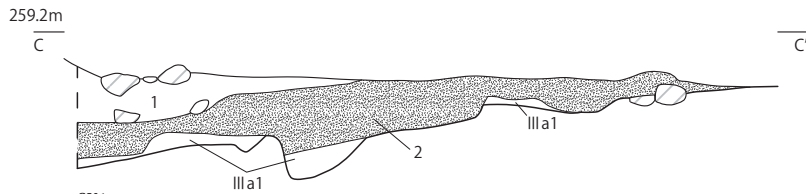
- I a 碎石層 攪乱 [現代の整地層]
- I b 焼土・瓦片が堆積する 下層に炭化物が帯状に堆積する [戦災焼土層]
- I c1 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む
- I d1 黒色(10YR2/1)粘土 黒褐色(10YR3/2)砂ブロック状に15%含む
焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる [近代の整地層]
- I d2 黒色(10YR2/1)粘土 焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる [近代の整地層]
- II a 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる [近世の遺物包含層]
- II b1 黒褐色(10YR3/1)砂 焼土ブロック状に15%・炭化物粒状に5%含む 固く締まる [近世の遺物包含層]
- II d 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる
- III a1 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に15%含む 固く締まる [地山]

SX1

- 1 黒褐色(10YR3/1)シルト 径10cmの礫5%含む
焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる
- 2 黒褐色(10YR3/1)シルト 焼土ブロック状に10%・炭化物粒状に20%含む
締めりゆるい

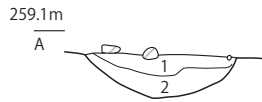
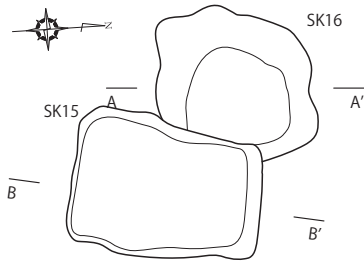


第146図 ③地点(2)



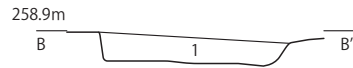
SX1

- 1 黒褐色(10YR3/1)シルト 径10cmの礫5%含む 焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる
- 2 黒褐色(10YR3/1)シルト 焼土ブロック状に10%・炭化物粒状に20%含む 締まりゆるい
- IIIa1 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に15%含む 固く締まる [地山]



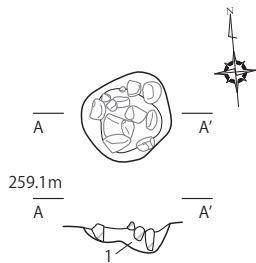
SK16

- 1 暗褐色(10YR2/3)砂 焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる
- 2 黒色(10YR2/1)粘土 暗褐色(10YR2/3)砂10%・泥岩粒状に10%含む 固く締まる



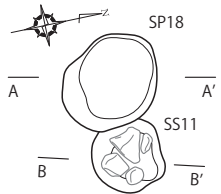
SK15

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に5%含む 下層に灰白色(10YR8/2)細粒砂が薄く堆積する 締まりゆるい



SS10

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物粒状に2%含む



SP18

- 1 暗褐色(10YR2/3)砂 焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる
- 2 黒色(10YR2/1)粘土 暗褐色(10YR2/3)砂10%・泥岩粒状に10%含む 固く締まる



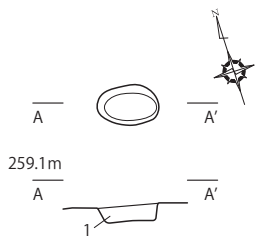
SP18

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に5%含む



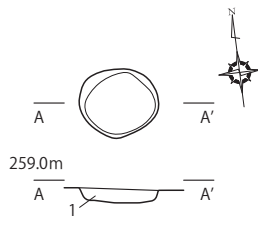
SS11

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物粒状に2%含む



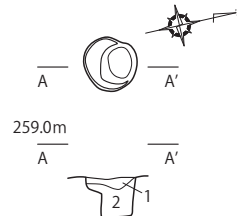
SP12

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に2%含む



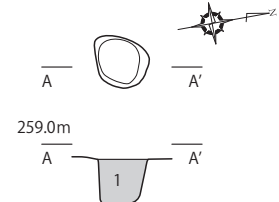
SP13

- 1 黒色(10YR2/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる



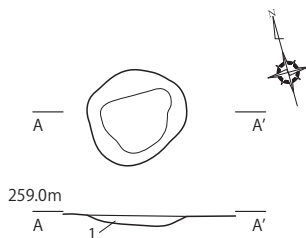
SP14

- 1 黒褐色(10YR2/2)粘土 焼土・炭化物粒状に5%含む 締まりゆるい
- 2 黒色(10YR2/1)粘土 炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい



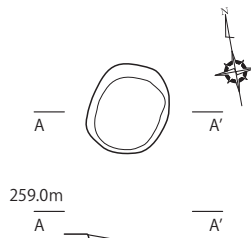
SP15

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂 焼土ブロック状に15%・炭化物粒状に5%含む



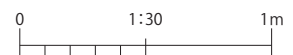
SP16

- 1 暗褐色(10YR3/3)砂 焼土・炭化物粒状に2%含む

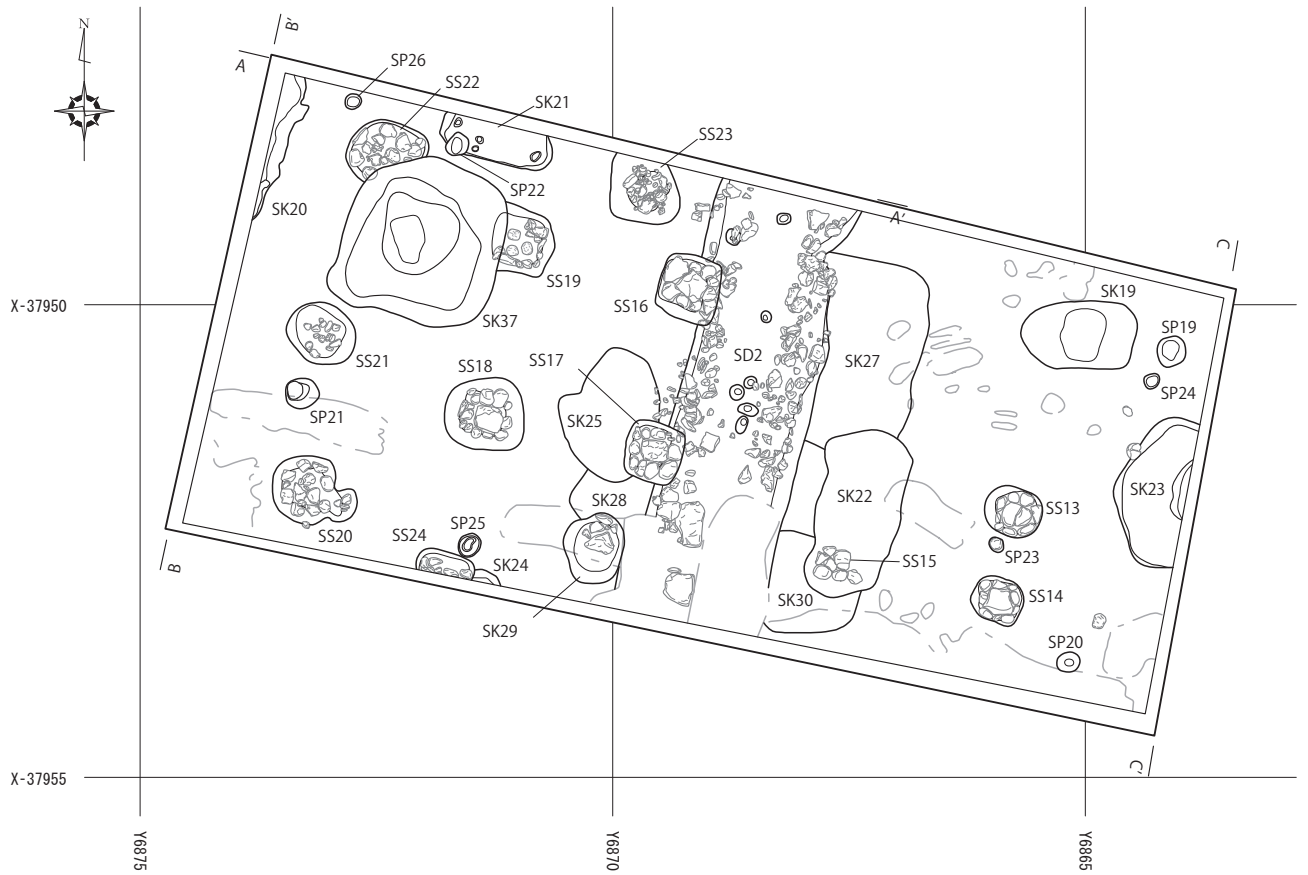


SP17

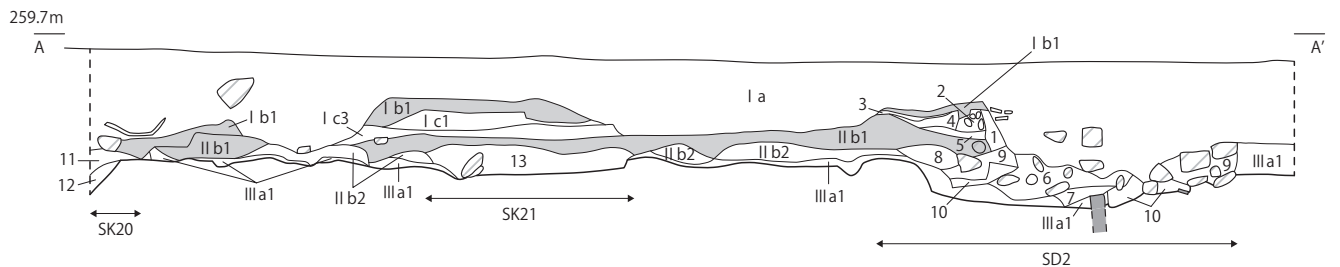
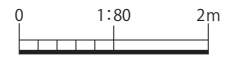
- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 炭化物粒状に2%含む



第147図 ③地点(3)



④⑤地点遺構全体図(上層)



④⑤地点北壁セクション

I a 表土 [碎石・近～現代の遺物包含層]

I b1 焼土・瓦片が堆積する [戦災焼土層]

I c1 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む

I c3 黄褐色(2.5Y5/3)砂 締まりゆるい [近代の整地層]

II b1 黒褐色(10YR3/1)砂 焼土ブロック状に15%・炭化物粒状に5%含む
固く締まる [近世の遺物包含層]

II b2 黒褐色(10YR3/1)砂 焼土・炭化物粒状に5%含む
固く締まる [近世の遺物包含層]

III a1 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に15%含む 固く締まる [地山]

SK20

11 黒褐色(10YR3/1)シルト 焼土・炭化物粒状に5%含む 締まりゆるい

12 黒褐色(10YR3/1)シルト 焼土ブロック状に15%・炭化物粒状に7%含む 固く締まる

SK21

13 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む

SD2

1 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土・炭化物粒状に2%含む

2 暗褐色(10YR3/3)砂 径5～7cmの礫が堆積する [SD2裏込め]

3 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂 固く締まる

4 暗褐色(10YR3/3)砂 焼土ブロック状に10%・炭化物粒状に3%含む 固く締まる

5 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂 固く締まる

6 黒褐色(10YR3/1)砂 径5～10cmの礫10%含む
焼土・炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい [SD2溝内覆土]

7 黒色(10YR2/1)細粒砂 焼土・炭化物粒状に2%含む

締まりゆるい [SD2溝内覆土]

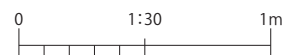
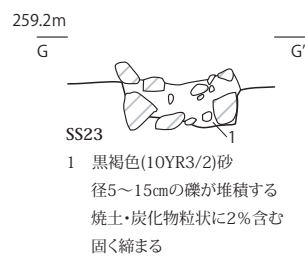
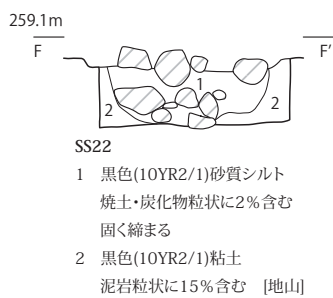
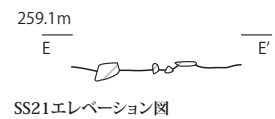
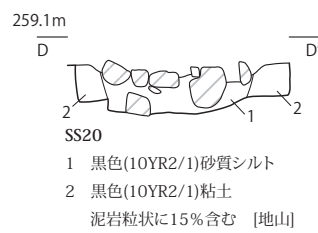
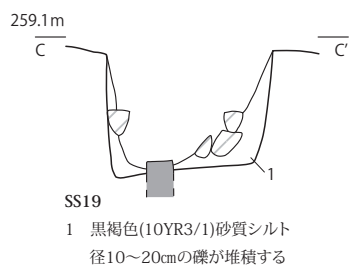
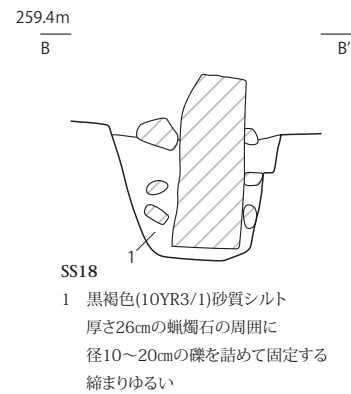
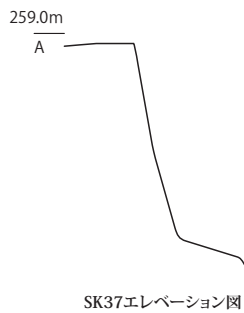
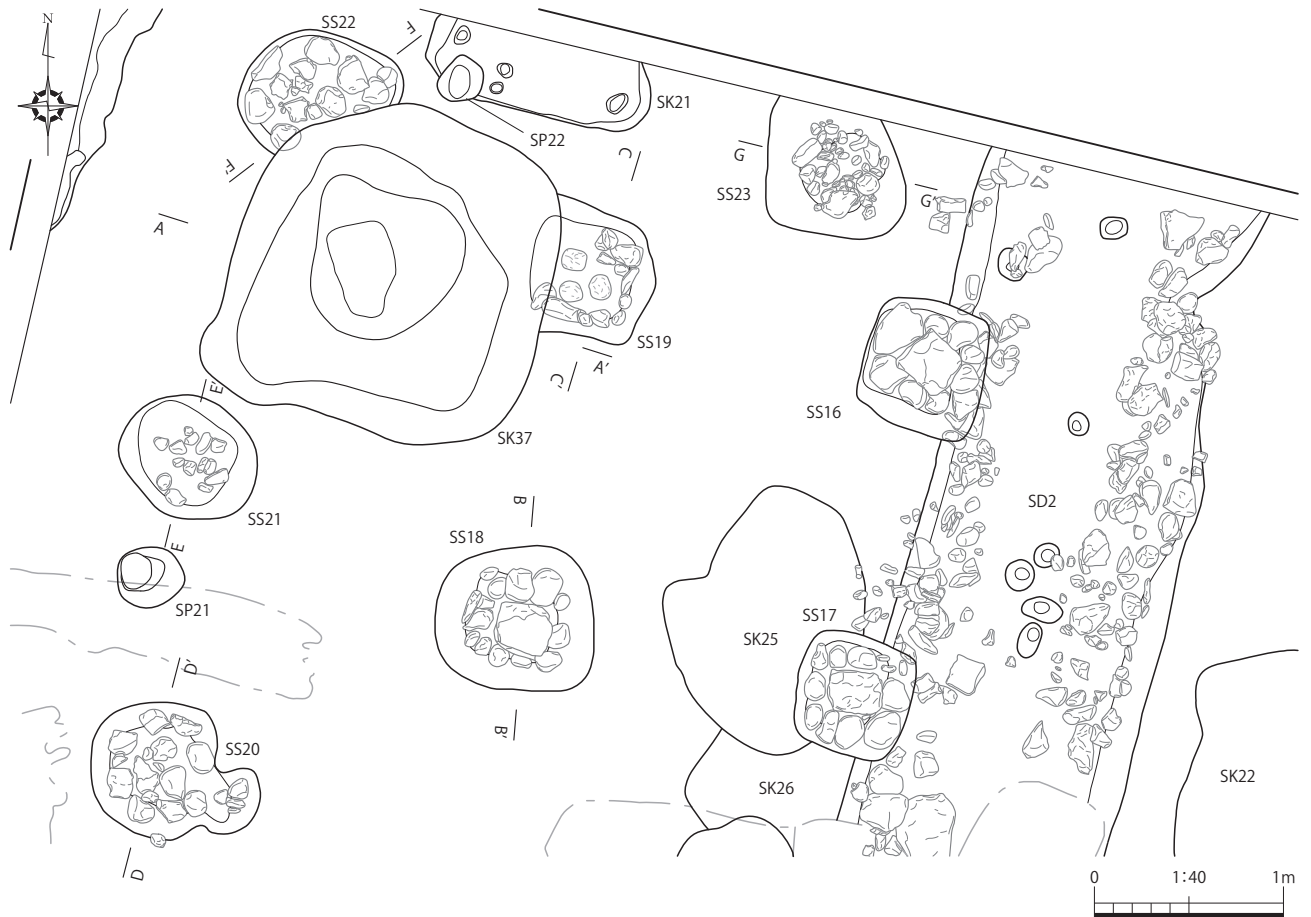
8 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む

9 黒色(10YR1.7/1)シルト 径10～20cmの礫が堆積する 黄色(2.5Y8/6)砂5%含む
焼土・炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい [SD2裏込め]

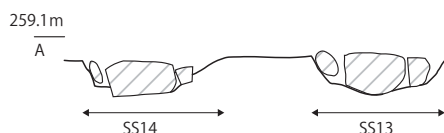
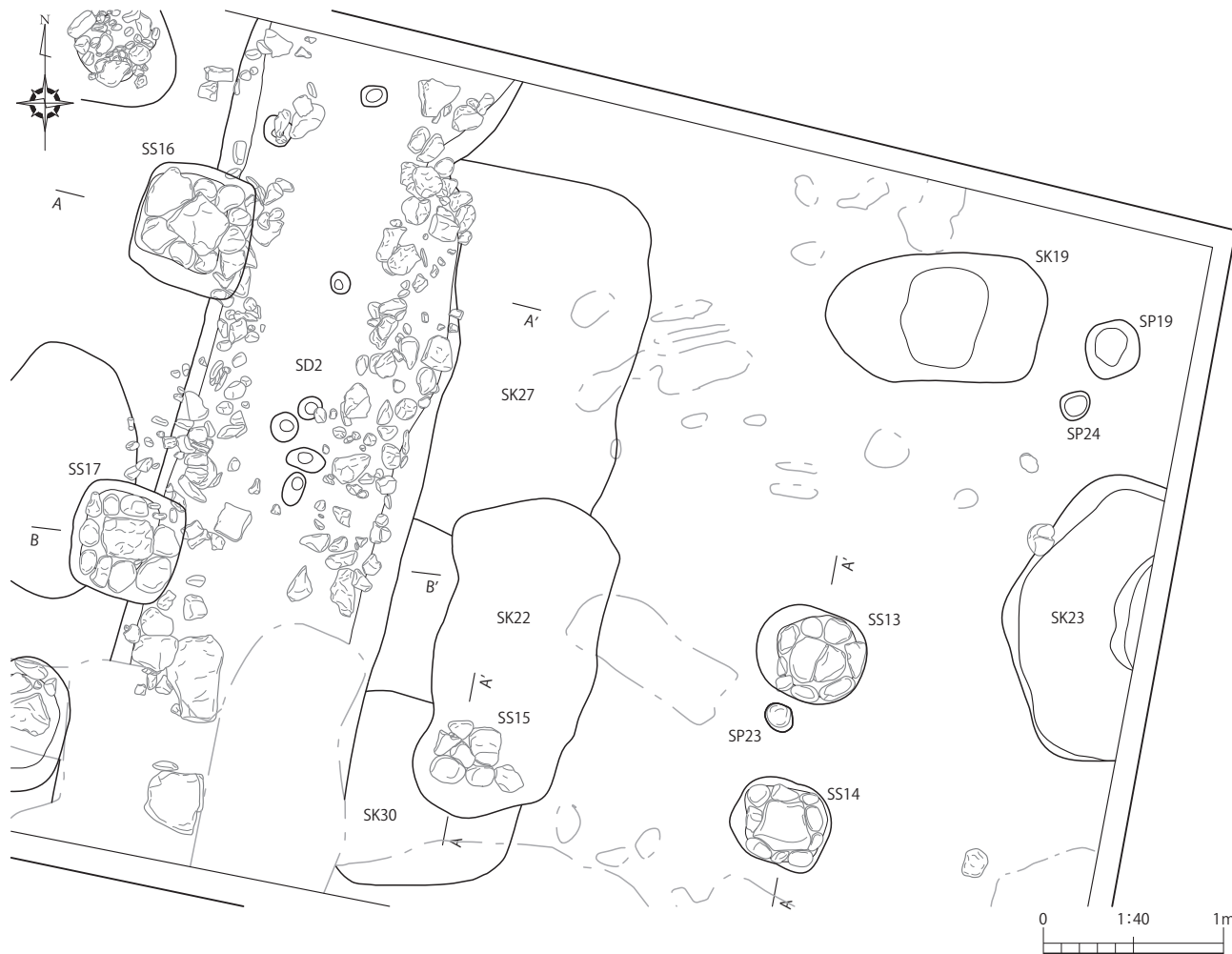
10 黒褐色(10YR3/1)シルト 締まりゆるい



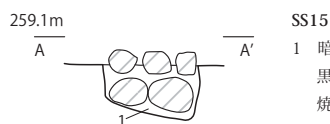
第148図 ④・⑤地点(1)



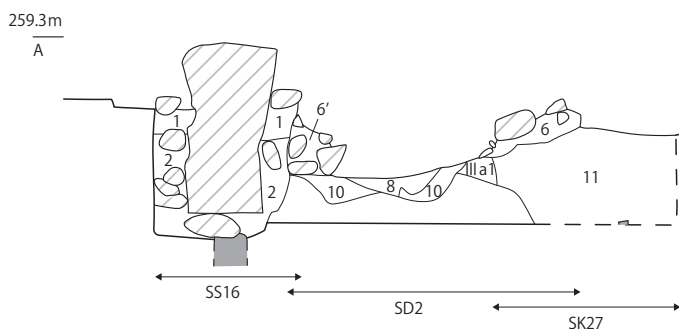
第150図 ④・⑤地点(3)



SS14・SS13エレベーション図



SS15
 1 暗褐色(10YR3/3)砂
 黒色(10YR2/1)粘土10%含む
 焼土・炭化物粒状に10%含む

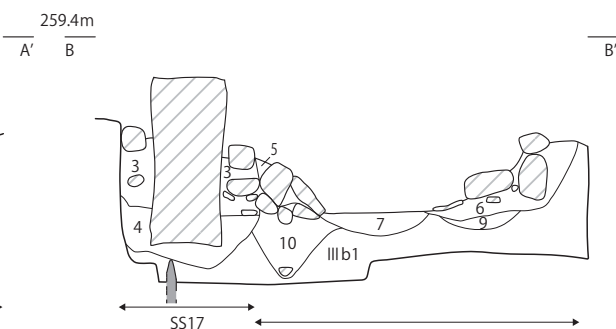


SS16
 1 黒褐色(10YR3/1)シルト オリーブ黒色(5Y3/2)砂15%・炭化物粒状に2%含む 径10~15cmの礫を詰める 固く締まる
 2 黒色(10YR2/1)粘土 暗褐色(10YR3/4)砂15%含む 径10cmの小礫を詰める 締まりゆるい

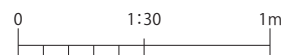
SS17
 3 黒色(10YR2/1)粘土 暗褐色(10YR3/3)砂15%含む 径15cmの礫を詰める 固く締まる
 4 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に10%・砂・炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい

SK27
 11 黒色(10YR2/1)粘土 黒褐色(10YR3/1)粘土ブロック状に10%・泥岩粒状に15%含む

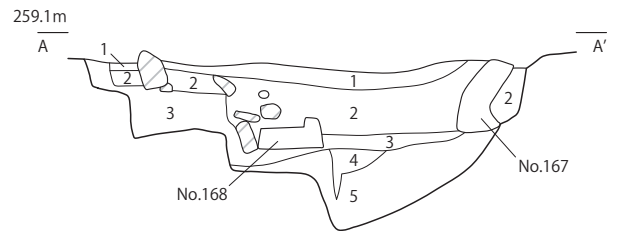
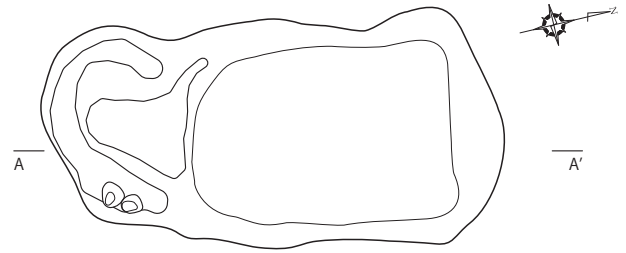
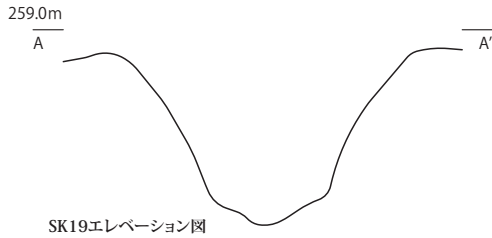
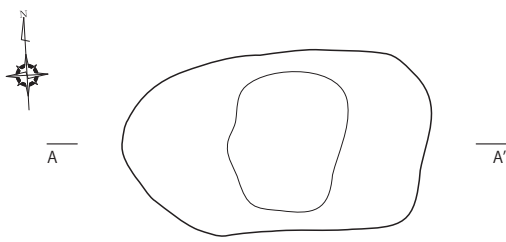
IIIa1 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に15%含む 固く締まる [地山]
 IIIb1 黒色(10YR1.7/1)粘土 泥岩粒状に15%含む [地山]



SD2
 5 褐色(10YR3/3)砂 径10~15cmの礫が堆積する 焼土粒状に5%・炭化物粒状に2%含む 土中に溶融したガラス片が混じる [SD2裏込め・戦災由来の攪乱を受ける]
 6 黒色(10YR1.7/1)シルト 径10~20cmの礫が堆積する 黄色(2.5Y8/6)砂5%含む 焼土・炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい [SD2裏込め]
 6' 黒色(10YR1.7/1)粘土 径10~15cmの礫が堆積する 締まりゆるい [SD2裏込め]
 7 黒色(10YR2/1)細粒砂 焼土・炭化物粒状に2%含む 締まりゆるい [SD2溝内覆土]
 8 黒色(10YR2/1)シルト 黒褐色(10YR3/2)砂15%含む 締まりゆるい [SD2溝内覆土]
 9 黒色(10YR2/1)粘土 砂5%・焼土粒状に2%含む 締まりゆるい
 10 黒色(10YR2/1)粘土 黒褐色(10YR3/1)粘土10%含む 締まりゆるい

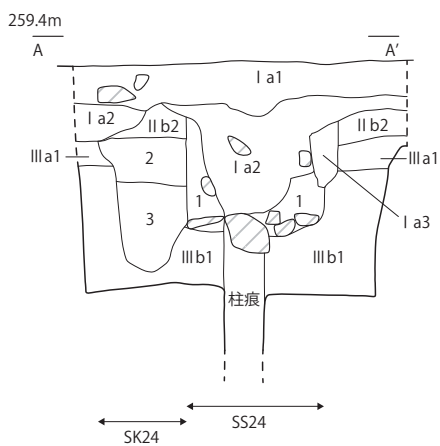
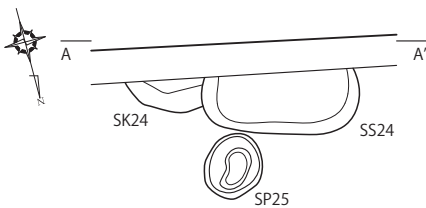


第151図 ④・⑤地点(4)



SK22

- 1 黒褐色(10YR3/2)砂 黒色(10YR2/1)粘土ブロック状に15%含む
焼土ブロック状に15%・炭化物ブロック状に10%含む 固く締まる
- 2 黒色(10YR2/1)粘土 黒褐色(10YR3/2)砂15%含む
焼土・炭化物粒状に5%含む 締まりゆるい
- 3 黒色(10YR3/1)シルト 焼土・炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい
- 4 黒褐色(10YR3/1)シルト 木片10%含む 締まりゆるい
- 5 黒褐色(10YR3/1)粘土 泥岩粒状に15%含む 締まりゆるい



SS24

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
下層に径10cmの礫を敷き詰める 締まりゆるい

SK24

- 2 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる
- 3 黒色(10YR2/1)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる

I a1 表土 [碎石・近～現代の遺物包含層]

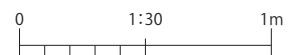
I a2 暗褐色(10YR3/3)砂 黄褐色(2.5Y5/3)砂・黒色(10YR2/1)粘土ブロック状に5%含む
固く締まる [近代～現代の攪乱]

I a3 黒褐色(10YR3/1)砂 黒色(10YR2/1)粘土ブロック状に5%・焼土・炭化物粒状に3%含む

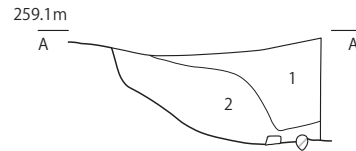
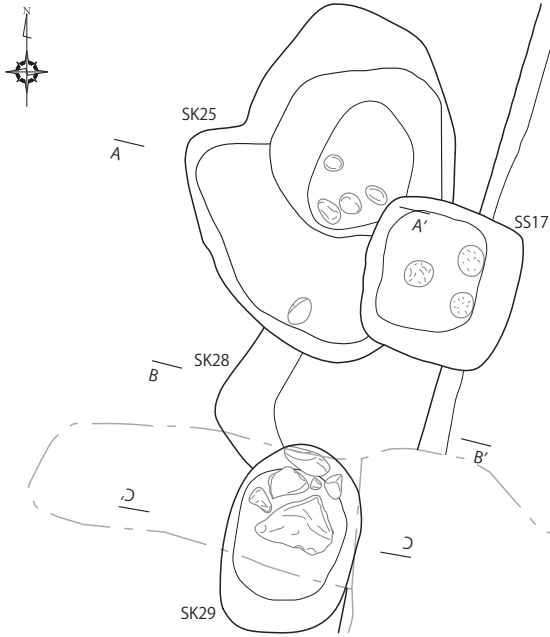
II b2 黒褐色(10YR3/1)砂 焼土・炭化物粒状に5%含む 固く締まる [近世の遺物包含層]

III a1 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に15%含む 固く締まる [地山]

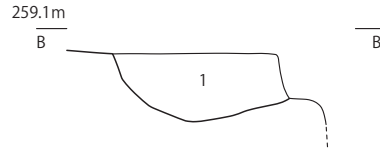
III b1 黒色(10YR1.7/1)粘土 泥岩粒状に15%含む [地山]



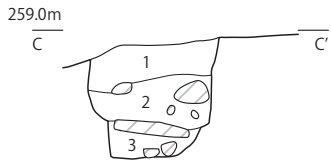
第152図 ④・⑤地点(5)



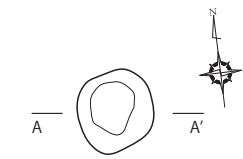
- SK25**
- 1 暗褐色(10YR3/3)砂 黒色(10YR1.7/1)粘土ブロック状に10%含む
焼土粒状に7%・炭化物粒状に3%含む 固く締まる
 - 2 黒色(10YR1.7/1)砂質シルト
焼土粒状に5%・炭化物粒状に3%含む 固く締まる



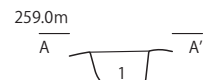
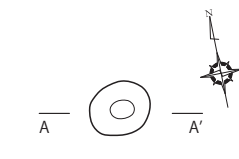
- SK28**
- 1 黒色(10YR1.7/1)砂質シルト
炭化物粒状に2%含む 固く締まる



- SK29**
- 1 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土・炭化物粒状に5%含む
 - 2 黒色(10YR1.7/1)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に3%含む
 - 3 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 締まりゆるい



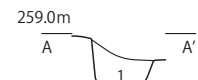
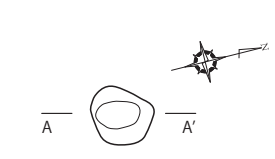
- SP19**
- 1 暗褐色(10YR3/3)砂
径5cmの礫が堆積する
締まりゆるい



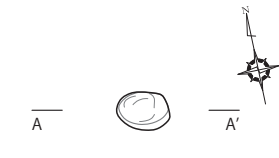
- SP20**
- 1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト
炭化物粒状に3%含む
締まりゆるい



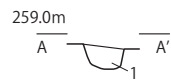
- SP21**
- 1 黒褐色(10YR3/1)シルト
焼土・炭化物粒状に3%含む
締まりゆるい



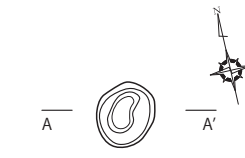
- SP22**
- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
炭化物粒状に2%含む
締まりゆるい



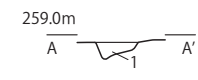
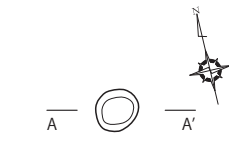
- SP23**
- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に5%含む
固く締まる



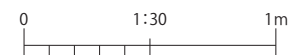
- SP24**
- 1 暗褐色(10YR3/3)砂
焼土ブロック状に10%・
炭化物粒状に5%含む
固く締まる



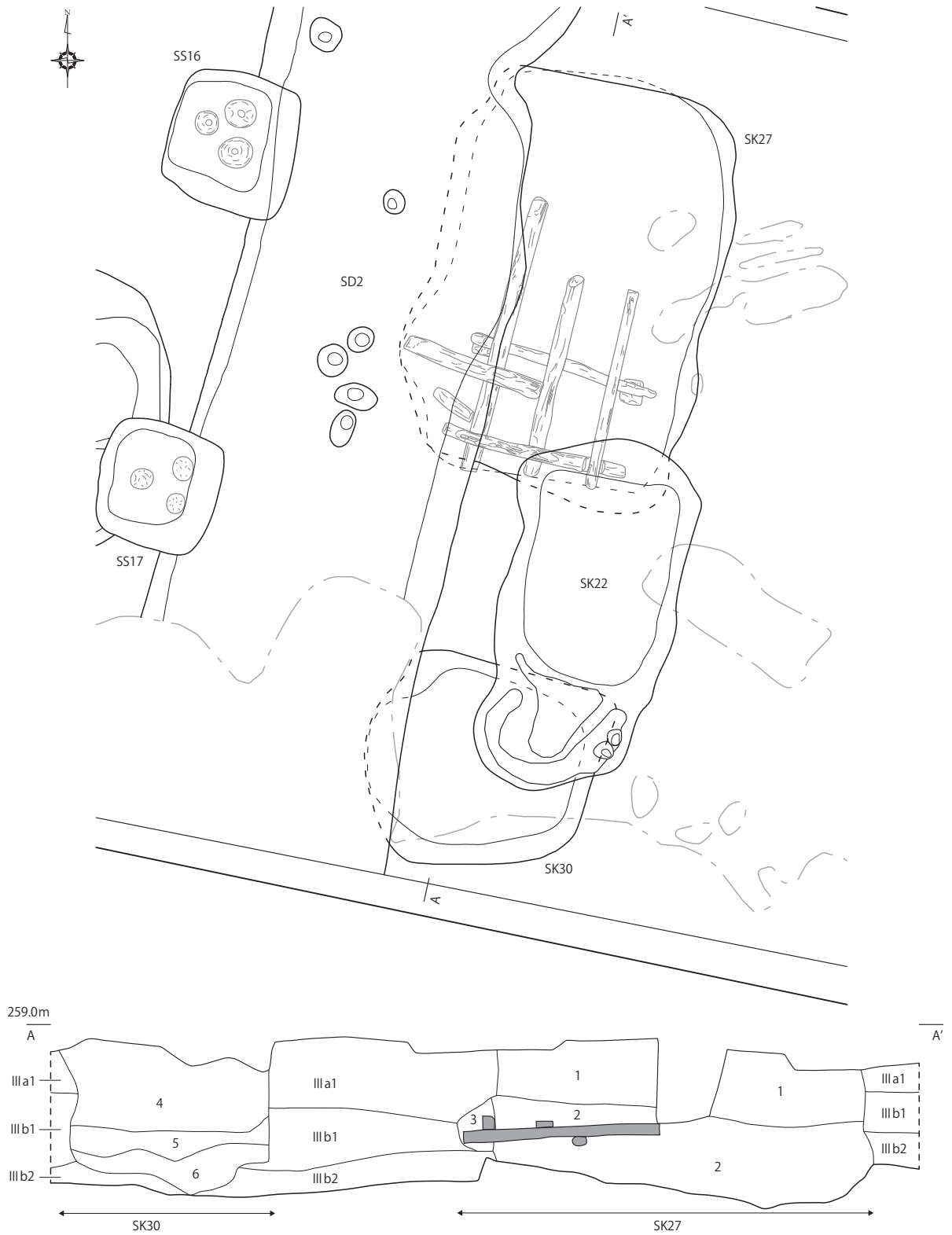
- SP25**
- 1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に3%含む



- SP26**
- 1 黒色(10YR2/1)砂質シルト
焼土・炭化物粒状に5%含む
固く締まる



第153図 ④・⑤地点(6)

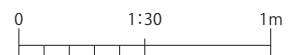


SK27

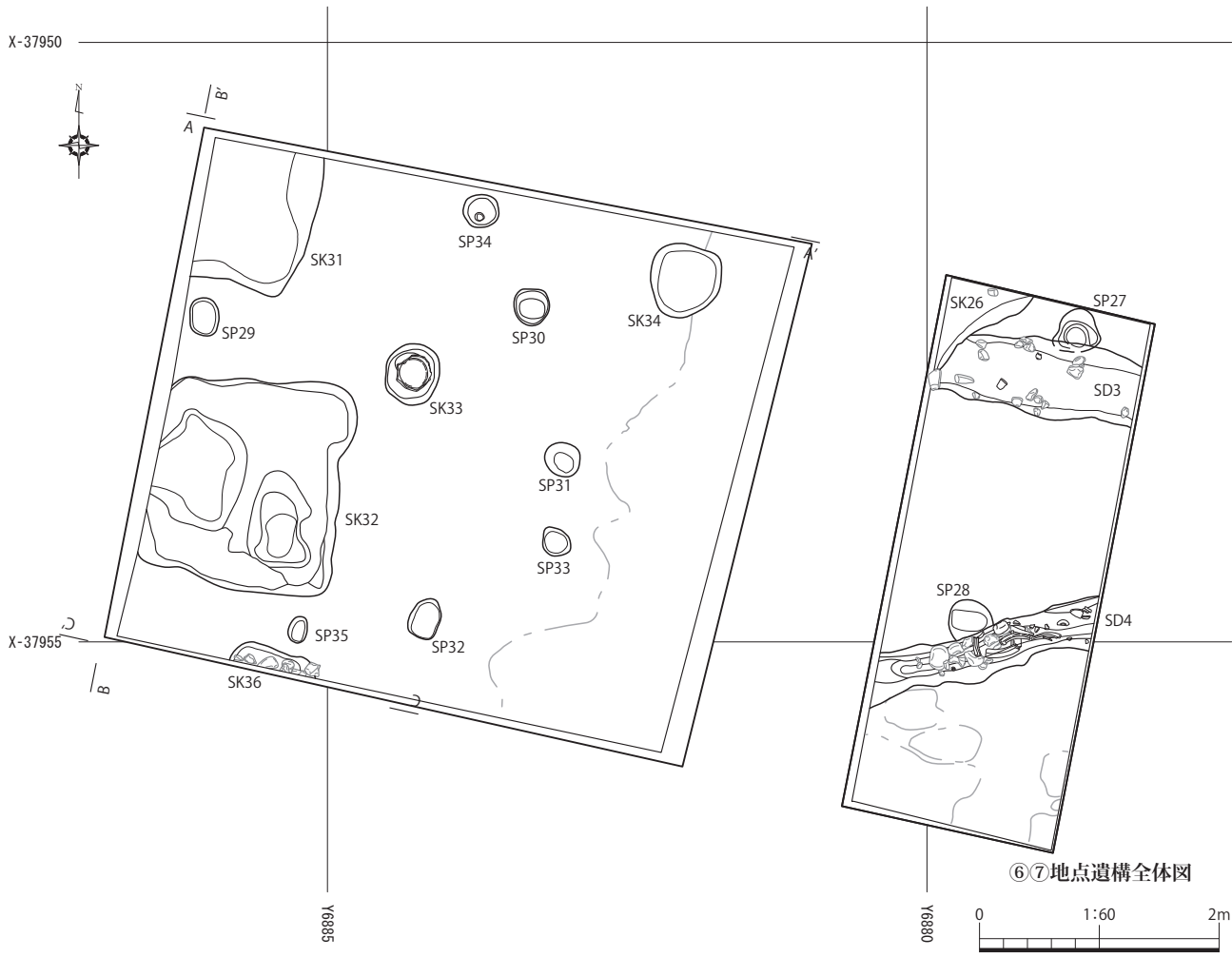
- 1 黒色(10YR1.7/1)粘土 黒褐色(10YR3/1)粘土ブロック状に15%・泥岩粒状に5%含む 固く締まる
- 2 黒色(10YR1.7/1)粘土 黒褐色(10YR3/1)粘土ブロック状に7%含む 締まりゆるい
- 3 黒色(10YR1.7/1)粘土 締まりゆるい

SK30

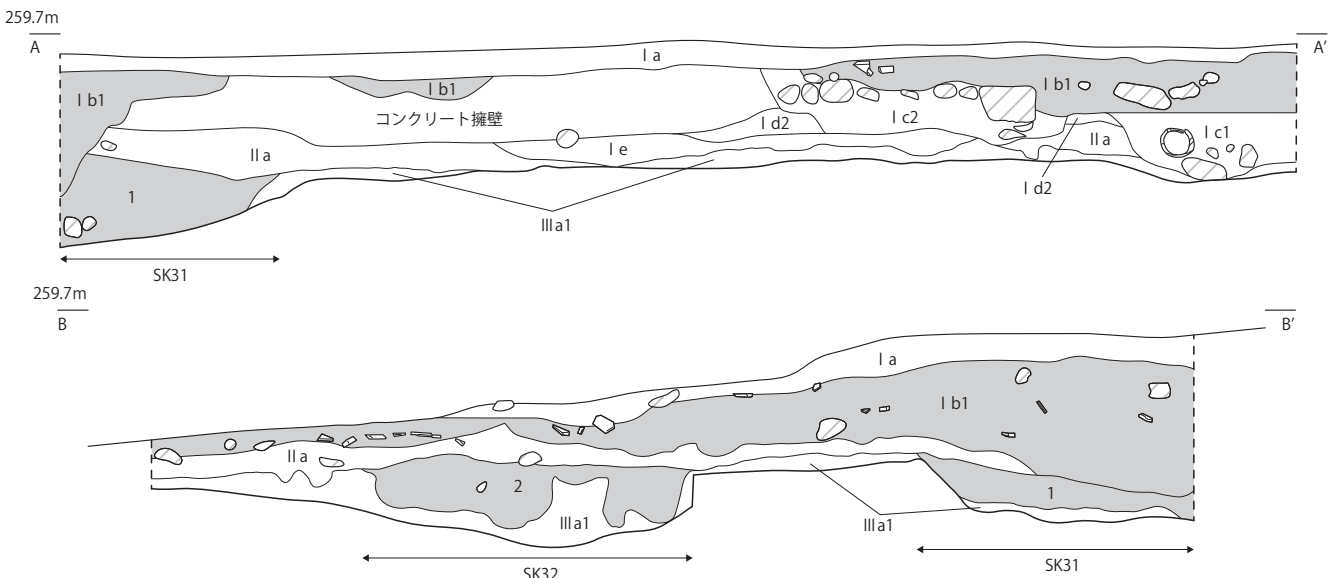
- 4 黒色(10YR1.7/1)粘土 黒褐色(10YR3/1)粘土ブロック状に15%・泥岩粒状に5%含む 固く締まる
- 5 黒色(10YR1.7/1)粘土 黒褐色(10YR3/1)粘土ブロック状に10%・泥岩粒状に5%含む 締まりゆるい
- 6 黒色(10YR1.7/1)粘土 黒褐色(10YR3/1)粘土ブロック状に10%含む 締まりゆるい
- IIIa1 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に15%含む 固く締まる [地山]
- IIIb1 黒色(10YR1.7/1)粘土 泥岩粒状に15%含む [地山]
- IIIb2 黒色(10YR1.7/1)粘土 締まりゆるい [地山]



第154図 ④・⑤地点(7)

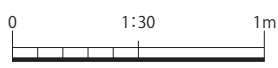


⑥⑦地点遺構全体図

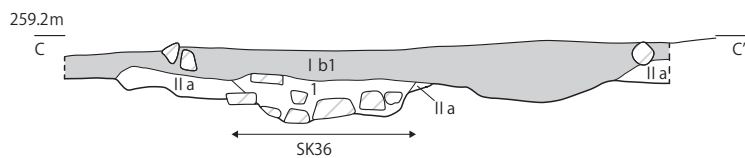


⑥地点北壁・西壁セクション

- I a 表土・褐色(10YR6/1)細粒砂
 - I b1 焼土・瓦片が堆積する [戦災焼土層]
 - I c1 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む
 - I c2 灰白色(10YR8/1)砂 小礫5%含む 固く締まる
 - I d2 黒色(10YR2/1)粘土 焼土・炭化物粒状に2%含む 固く締まる [近代の整地層]
 - I e 灰白色(10YR8/1)砂 礫3%含む 固く締まる [近代の整地層]
 - II a 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む 固く締まる [近世の遺物包含層]
 - III a1 黒色(10YR2/1)粘土 泥岩粒状に15%含む 固く締まる [地山]
- SK31 1 黒褐色(10YR2/2)砂 黒色(10YR2/1)粘土ブロック状に3%含む 焼土ブロック状に15%・炭化物粒状に5%含む
 - SK32 2 黒褐色(10YR2/2)シルト 焼土ブロック状に15%・炭化物粒状に5%含む



第155図 ⑥地点(1)

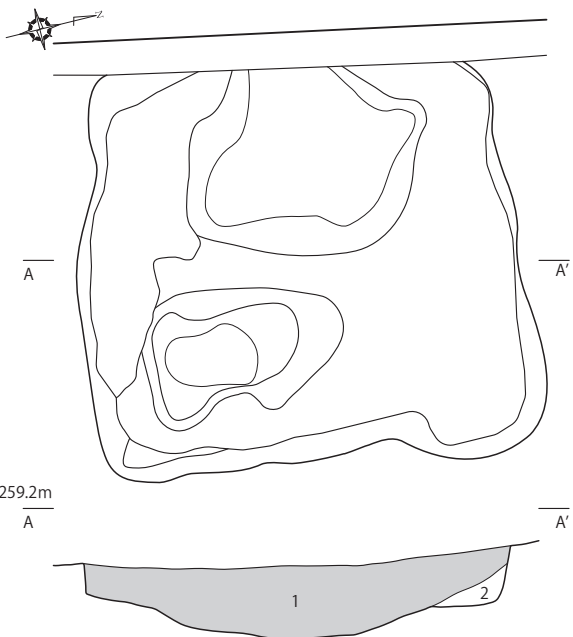


⑥地点南壁セクション

- I b1 焼土・瓦片が堆積する [戦災焼土層]
- II a 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む
固く締まる [近世の遺物包含層]

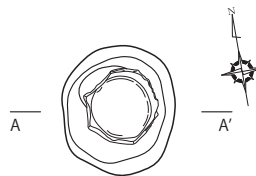
SK36

- 1 暗褐色(10YR2/3)砂質シルト 径5~15cmの礫が充填される。
焼土・炭化物粒状に3%含む



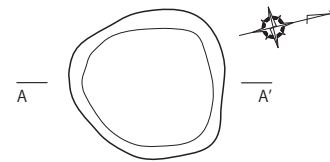
SK32

- 1 黒褐色(10YR2/2)シルト 焼土ブロック状に15%・炭化物粒状に5%含む
- 2 黒褐色(10YR2/1)粘土 焼土・炭化物粒状に3%含む 締まりゆるい



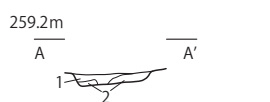
SK33

- 1 暗褐色(10YR2/3)砂 焼土粒状に3%含む
締まりゆるい



SK34

- 1 暗褐色(10YR2/3)砂 径4~6cmの礫が堆積する
焼土・炭化物粒状に3%含む
固く締まる
- 2 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に3%含む
締まりゆるい



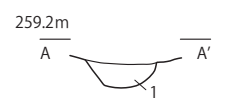
SP29

- 1 暗褐色(10YR3/3)砂 焼土・炭化物粒状に3%含む
固く締まる
- 2 黒色(10YR2/1)粘土 締まりゆるい



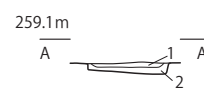
SP30

- 1 暗褐色(10YR3/3)砂 炭化物粒状に2%含む
締まりあり



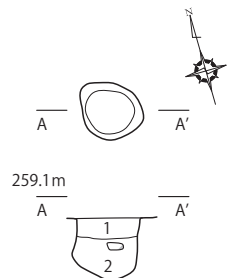
SP31

- 1 暗褐色(10YR3/3)砂 焼土・炭化物粒状に2%含む
締まりゆるい



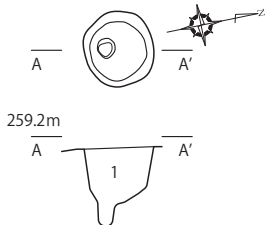
SP32

- 1 黒色(10YR2/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に2%含む
締まりゆるい
- 2 黒褐色(10YR3/1)粘土 締まりゆるい



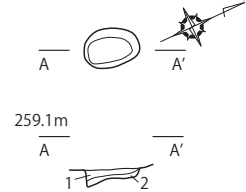
SP33

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 焼土・炭化物粒状に2%含む
締まりゆるい
- 2 黒褐色(10YR3/1)粘土 炭化物粒状に2%含む
締まりゆるい



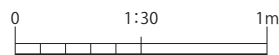
SP34

- 1 黒色(10YR2/1)砂質シルト 焼土粒状に5%・炭化物粒状に3%含む
締まりゆるい

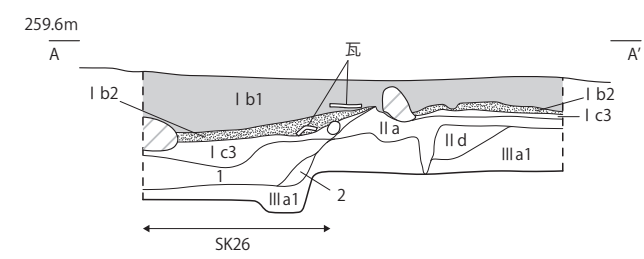
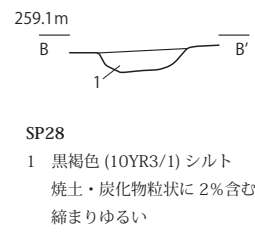
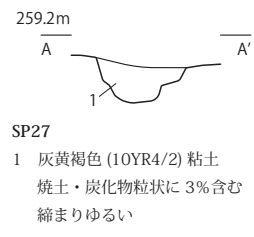
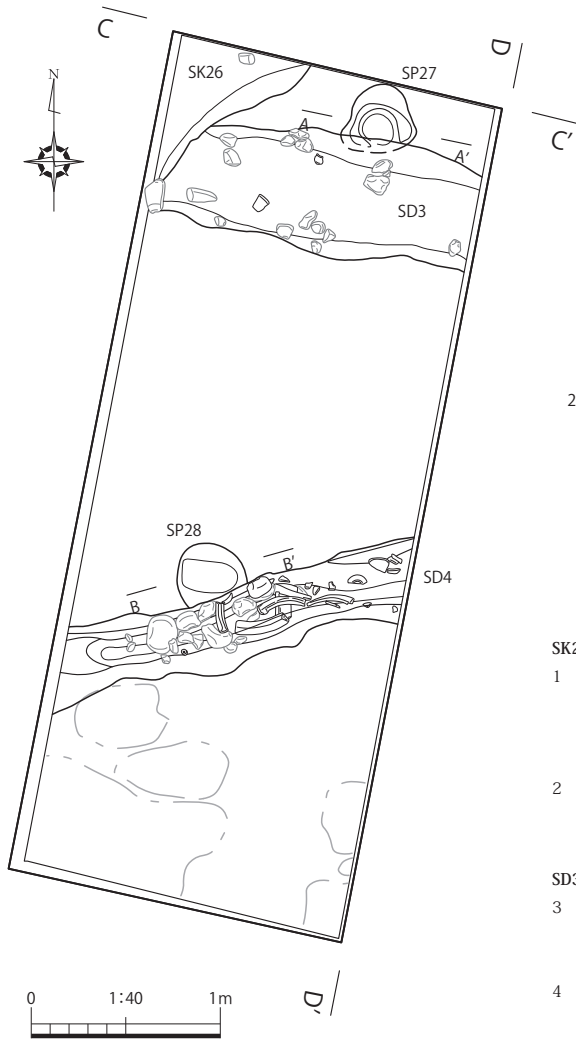


SP35

- 1 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土粒状に3%・炭化物粒状に2%含む
- 2 黒色(10YR2/1)粘土 締まりゆるい

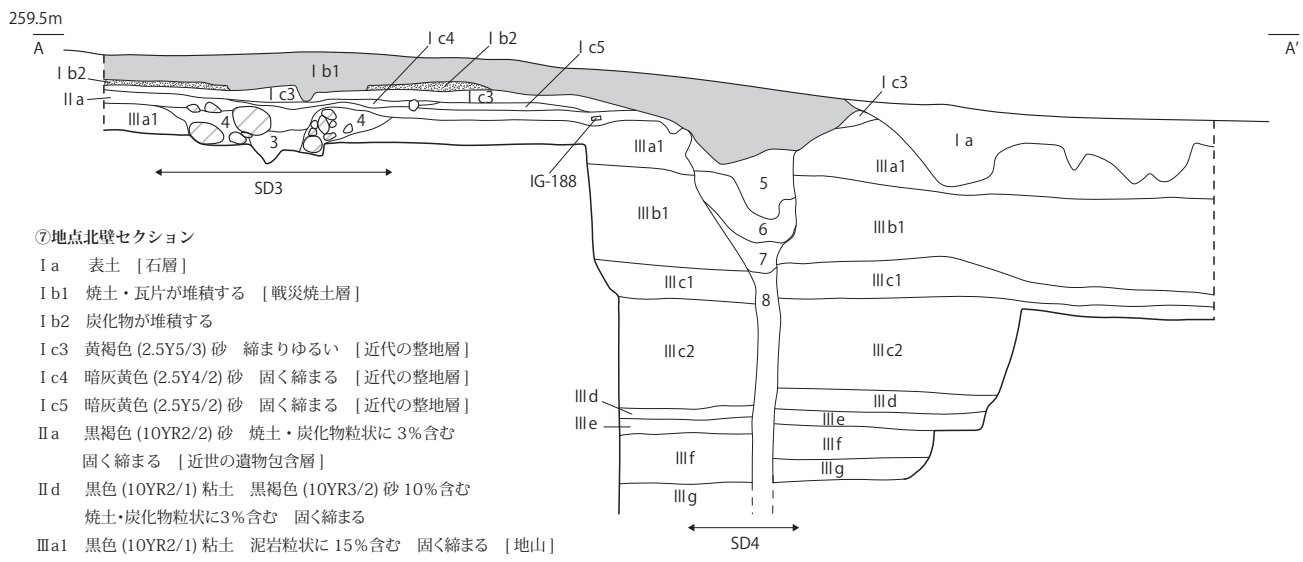


第156図 ⑥地点(2)

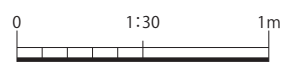


- SK26**
- 1 黒褐色 (10YR3/2) シルト
黒色 (10YR2/1) 粘土ブロック状に 10% 含む
焼土・炭化物粒状に 3% 含む
縮まりゆるい
 - 2 黒色 (10YR2/1) 粘土
焼土・炭化物粒状に 3% 含む
縮まりゆるい
- SD3**
- 3 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト
焼土・炭化物粒状に 2% 含む
縮まりゆるい
 - 4 黒色 (10YR2/1) 粘土 砂 5% 含む
径 5 ~ 10 cm の礫を積み粘土で固める

- SD4**
- 5 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
炭化物粒状に 3% 含む
縮まりゆるい
 - 6 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
径 5 cm の礫が堆積する
 - 7 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
炭化物粒状に 2% 含む
縮まりゆるい
 - 8 黒褐色 (10YR3/1) シルト
炭化物粒状に 2% 含む
縮まりゆるい

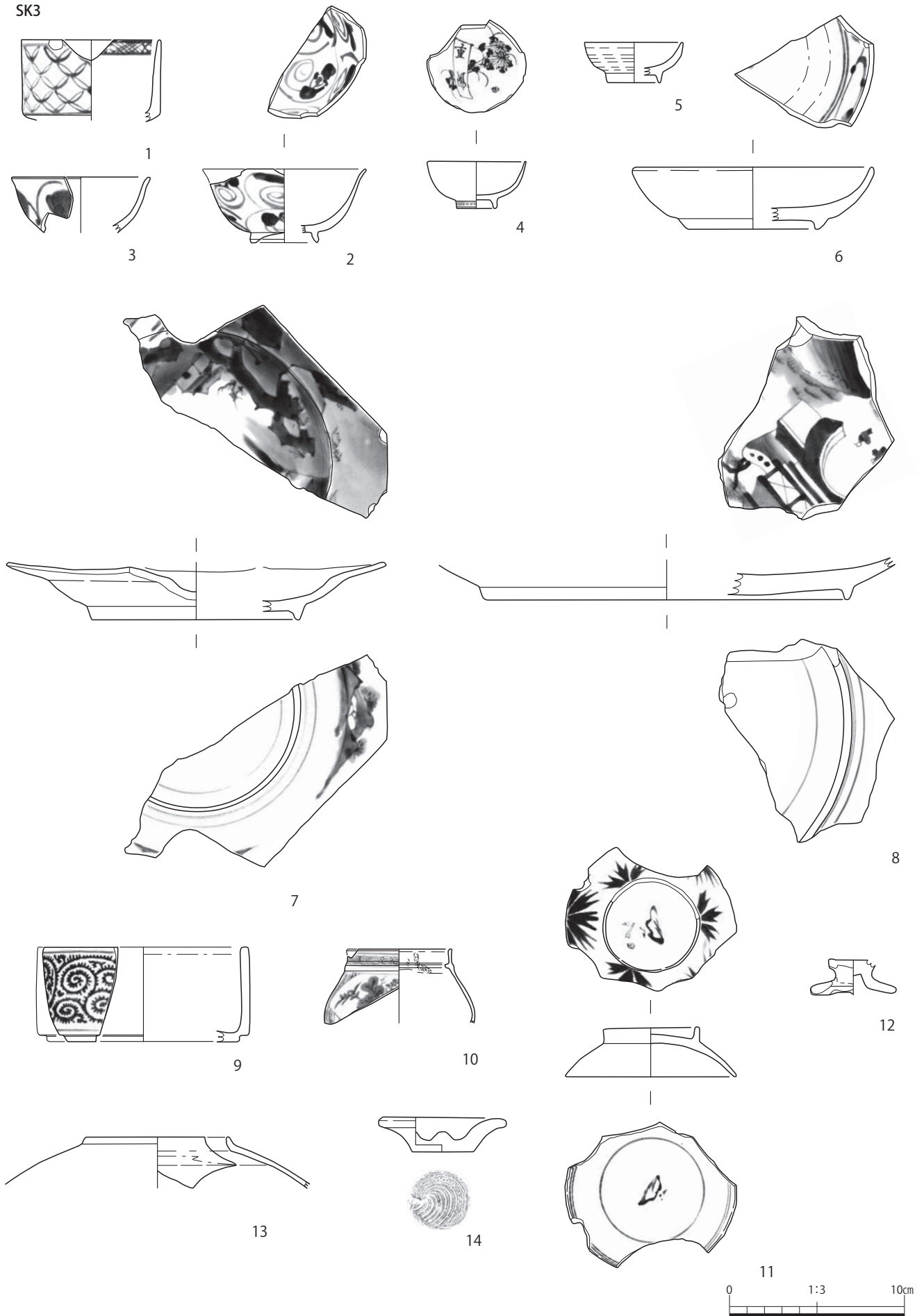


- ⑦地点北壁セクション
- I a 表土 [石層]
 - I b1 焼土・瓦片が堆積する [戦災焼土層]
 - I b2 炭化物が堆積する
 - I c3 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂 縮まりゆるい [近代の整地層]
 - I c4 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂 固く締まる [近代の整地層]
 - I c5 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂 固く締まる [近代の整地層]
 - II a 黒褐色 (10YR2/2) 砂 焼土・炭化物粒状に 3% 含む
固く締まる [近世の遺物包含層]
 - II d 黒色 (10YR2/1) 粘土 黒褐色 (10YR3/2) 砂 10% 含む
焼土・炭化物粒状に 3% 含む 固く締まる
 - III a1 黒色 (10YR2/1) 粘土 泥岩粒状に 15% 含む 固く締まる [地山]
 - III b1 黒色 (10YR1.7/1) 粘土 泥岩粒状に 15% 含む [地山]
 - III c1 黒色 (10YR1.7/1) 粘土 灰白色 (2.5GY8/1) 粘土が斑に混じる
縮まりあり [地山]
 - III c2 灰白色 (2.5GY8/1) 粘土 固く締まる [地山]
 - III d 暗灰色 (N3/0) 粘土 固く締まる [地山]
 - III e 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) 粘土 固く締まる [地山]
 - III f 灰色 (7.5Y4/1) 砂 固く締まる [地山]
 - III g オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土 固く締まる [地山]



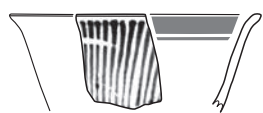
第157図 ⑦地点

SK3



第 158 图 ①·②地点出土遺物 (1)

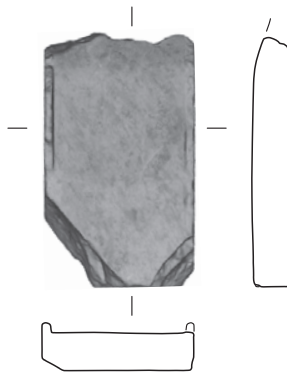
SK6



15

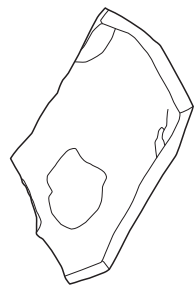


16

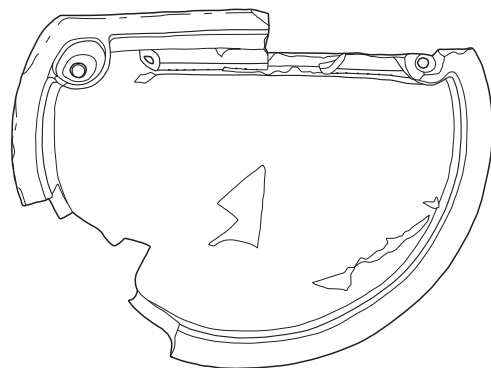


17

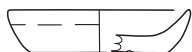
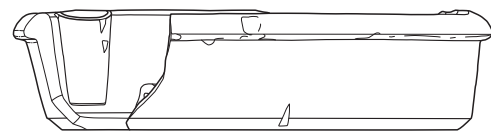
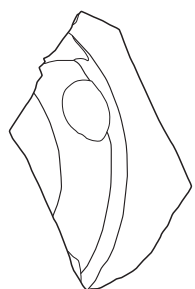
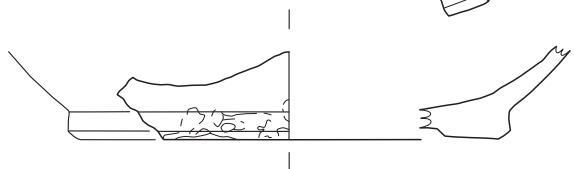
SK7



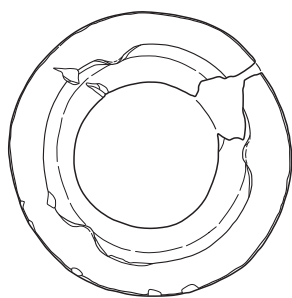
18



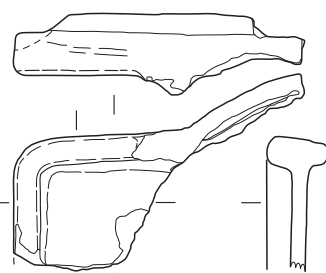
19



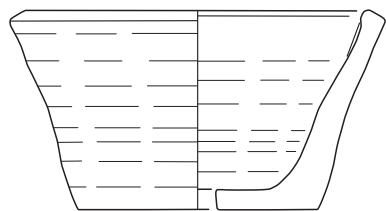
20



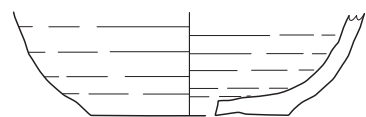
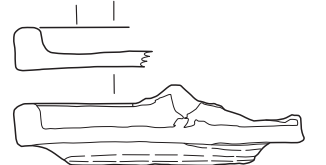
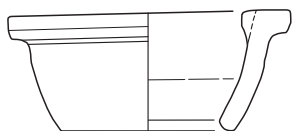
23



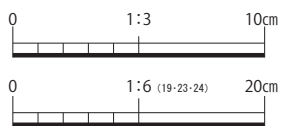
24



21

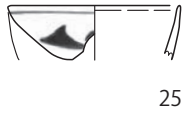


22

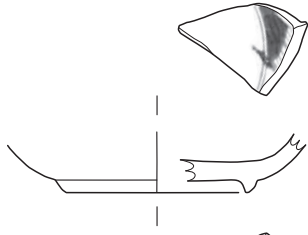


第 159 图 ①·②地点出土遺物 (2)

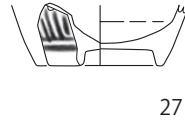
SK8



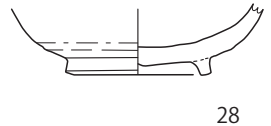
25



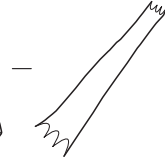
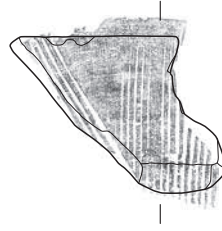
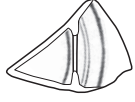
26



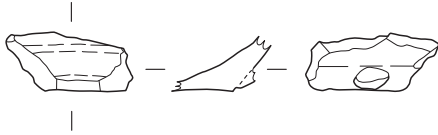
27



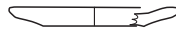
28



29

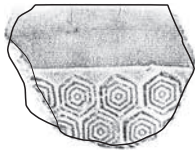
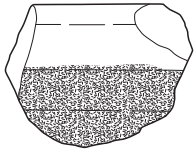


30

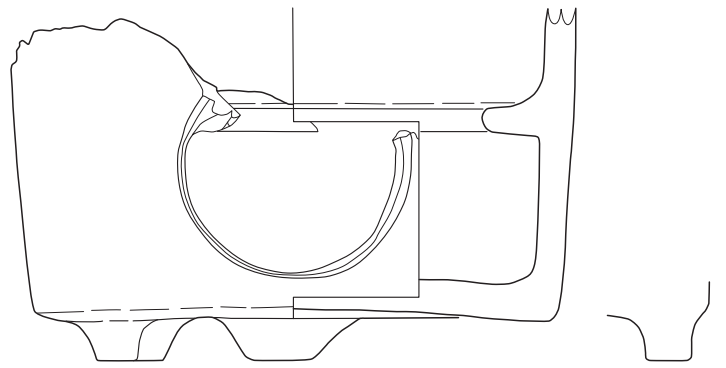


31

SK9

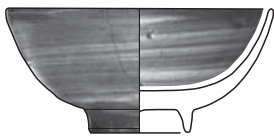


32

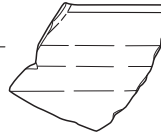
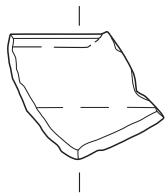


33

SK14

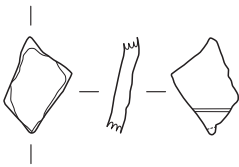


34

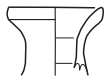


35

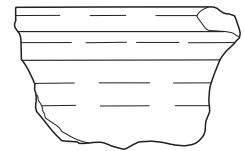
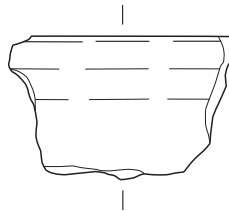
SK17



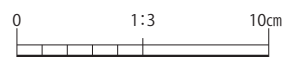
36



37

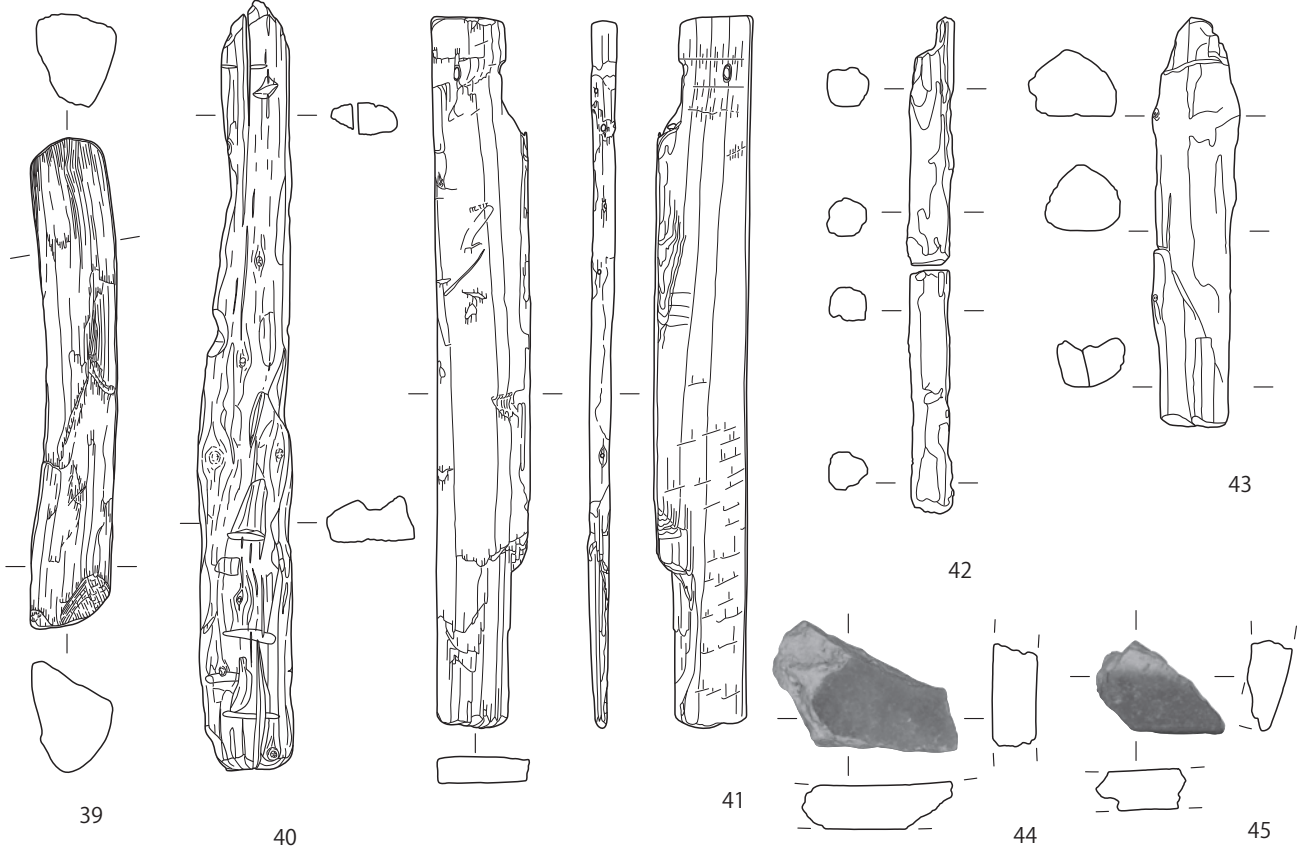


38

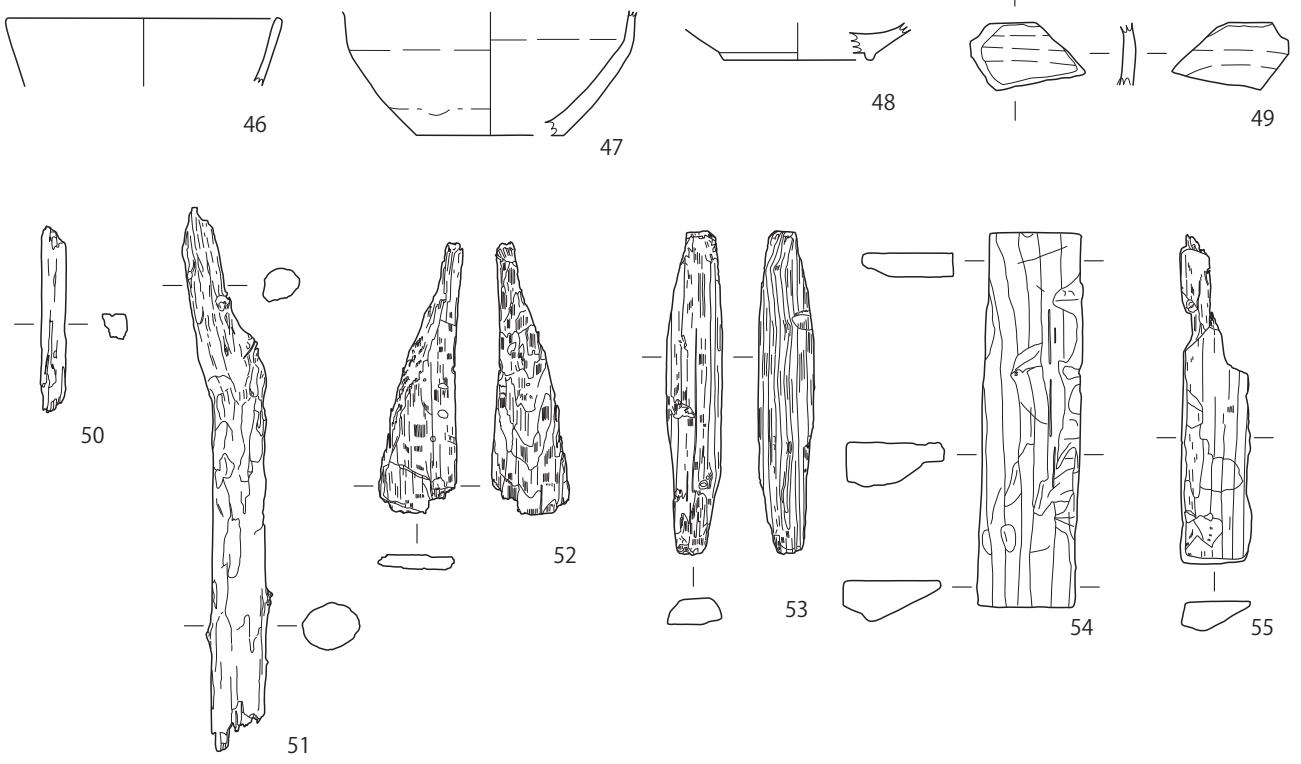


第 160 图 ①·②地点出土遺物 (3)

SK17



SK18



0 1:3 10cm

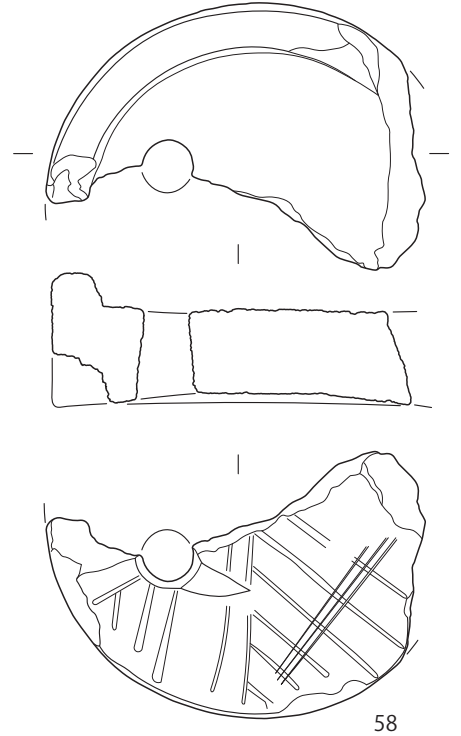
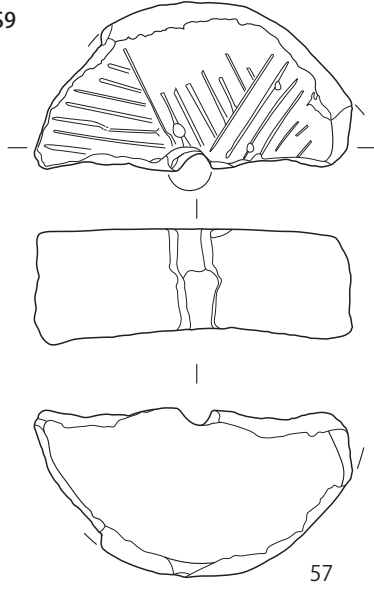
0 1:6 (39-43·50-55) 20cm

第 161 图 ①·②地点出土遗物 (4)

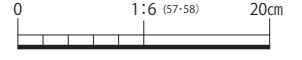
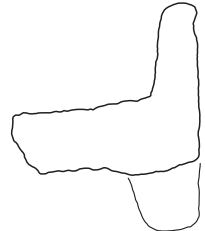
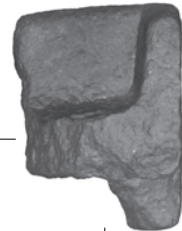
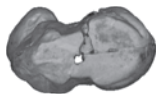
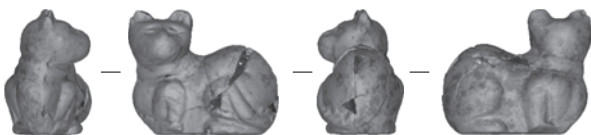
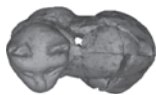
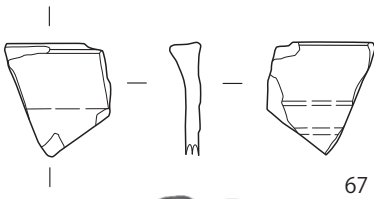
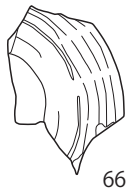
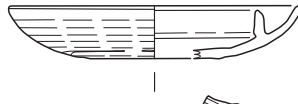
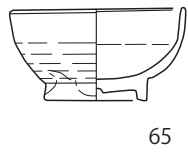
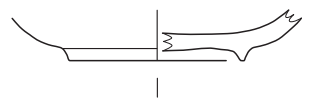
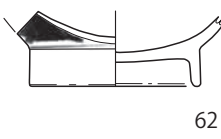
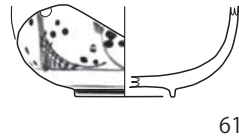
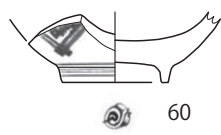
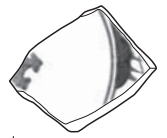
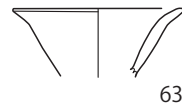
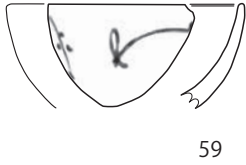
SP7



SS9

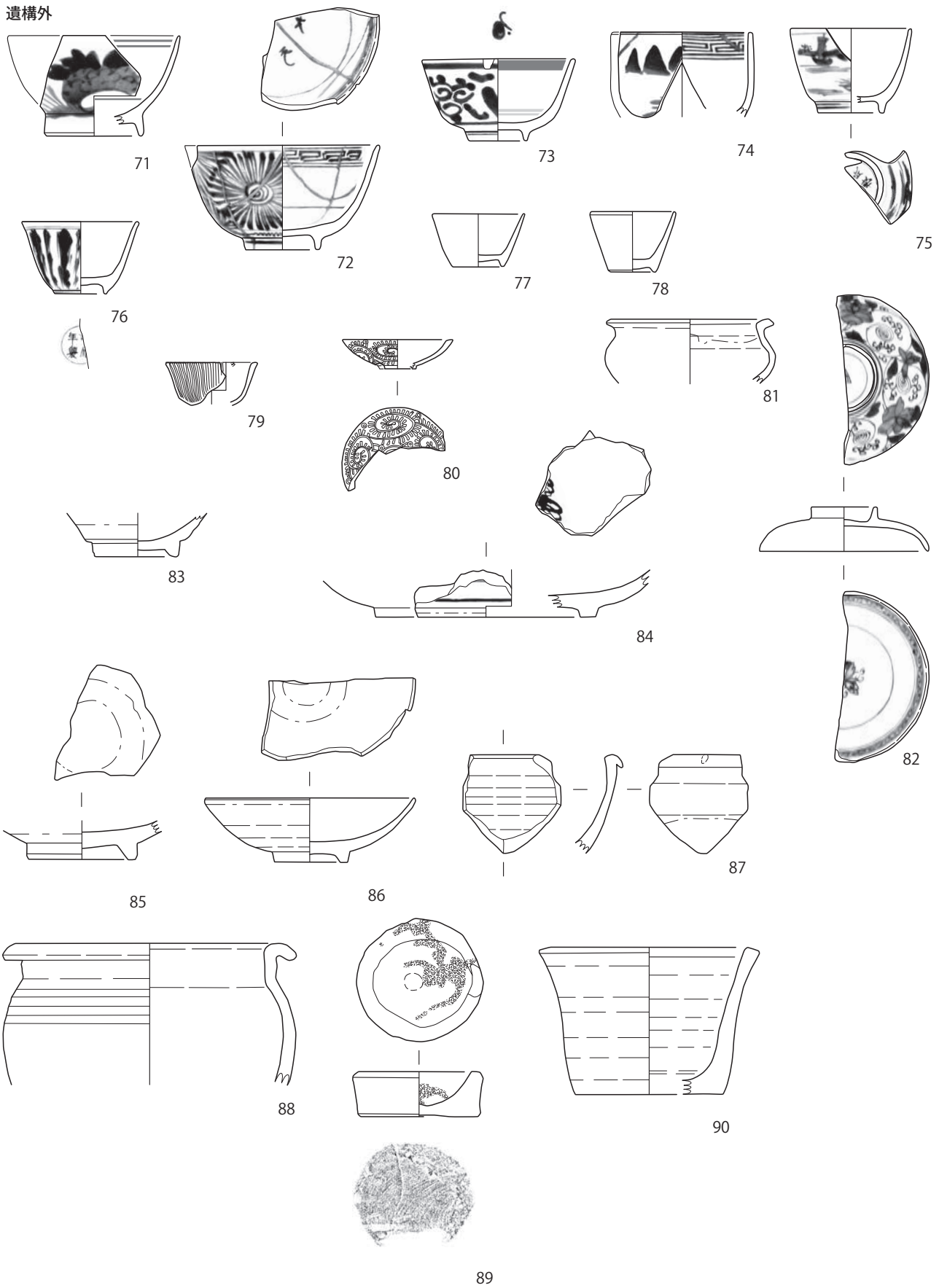


SD1(SK5)



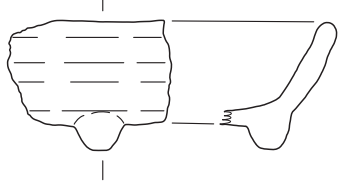
第 162 图 ①·②地点出土遺物 (5)

遺構外

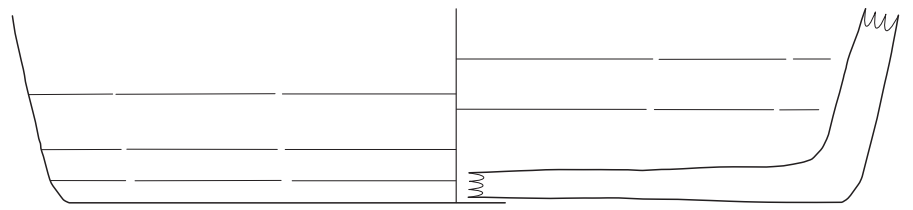


第 163 图 ①·②地点出土遺物 (6)

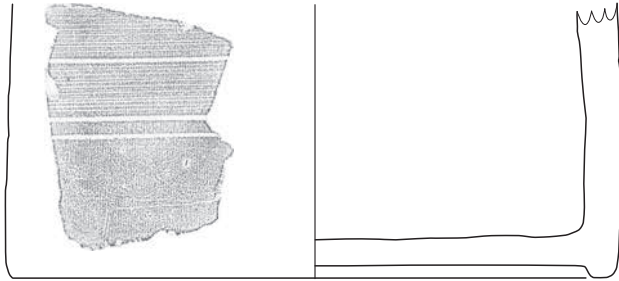
遺構外



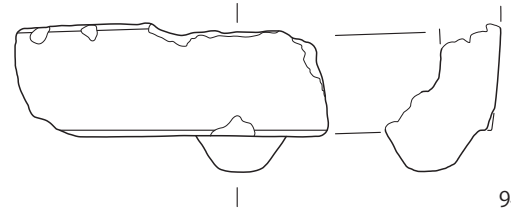
91



92



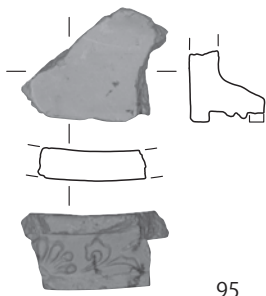
93



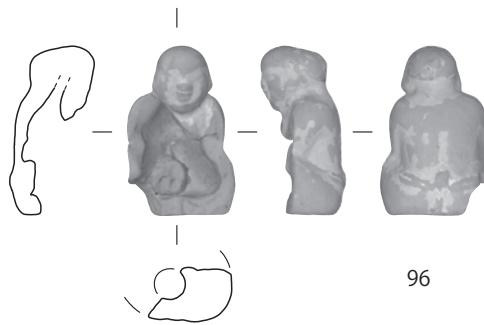
94



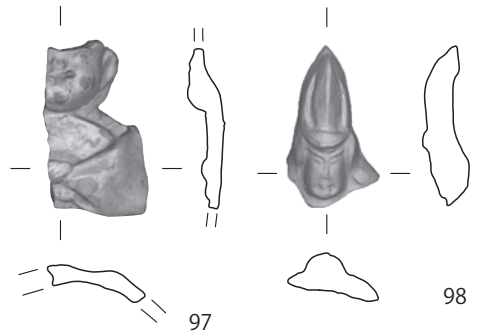
※拓本は原寸大



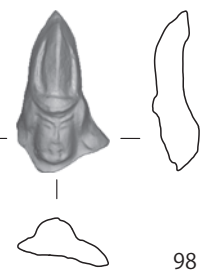
95



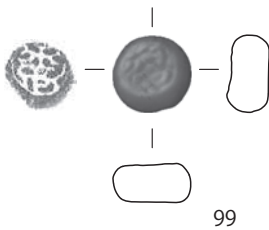
96



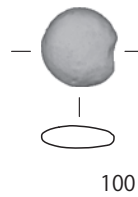
97



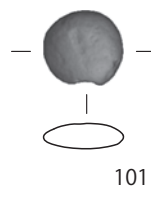
98



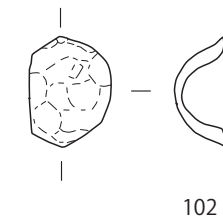
99



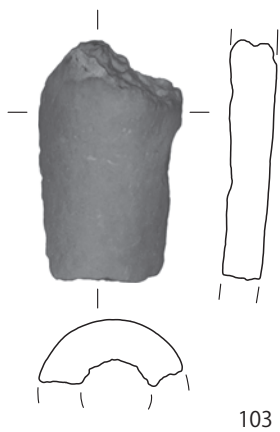
100



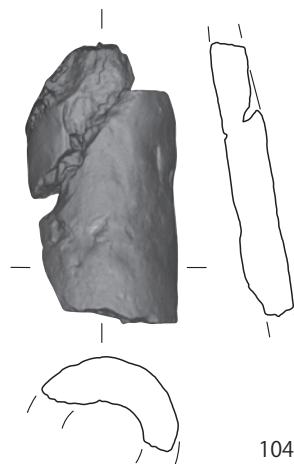
101



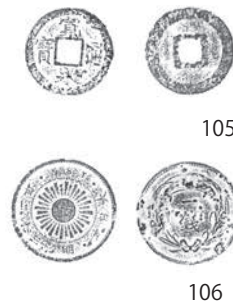
102



103

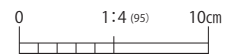
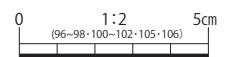
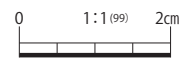


104



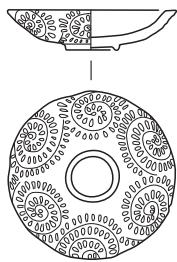
105

106



第164図 ①・②地点出土遺物(7)

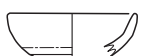
SK15



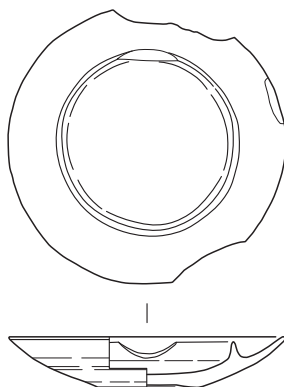
107



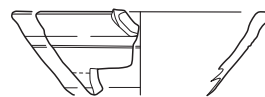
108



109



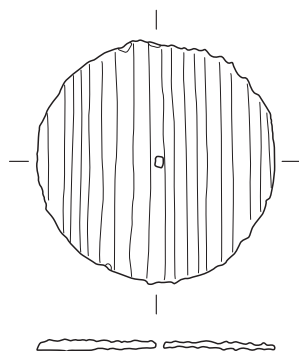
110



111



112



113

SP14



114

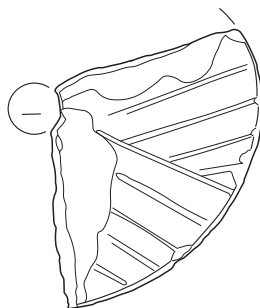
SP17



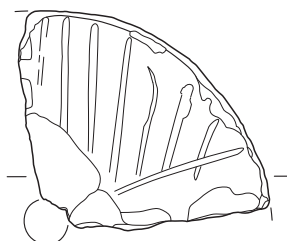
115

※拓本は原寸大

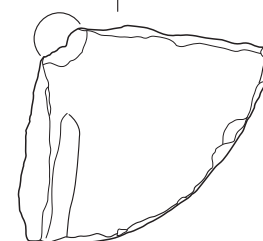
SS7



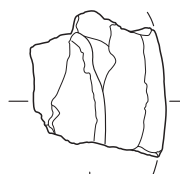
116



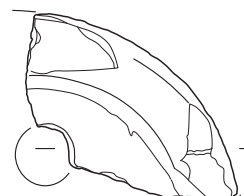
117



SS8



118

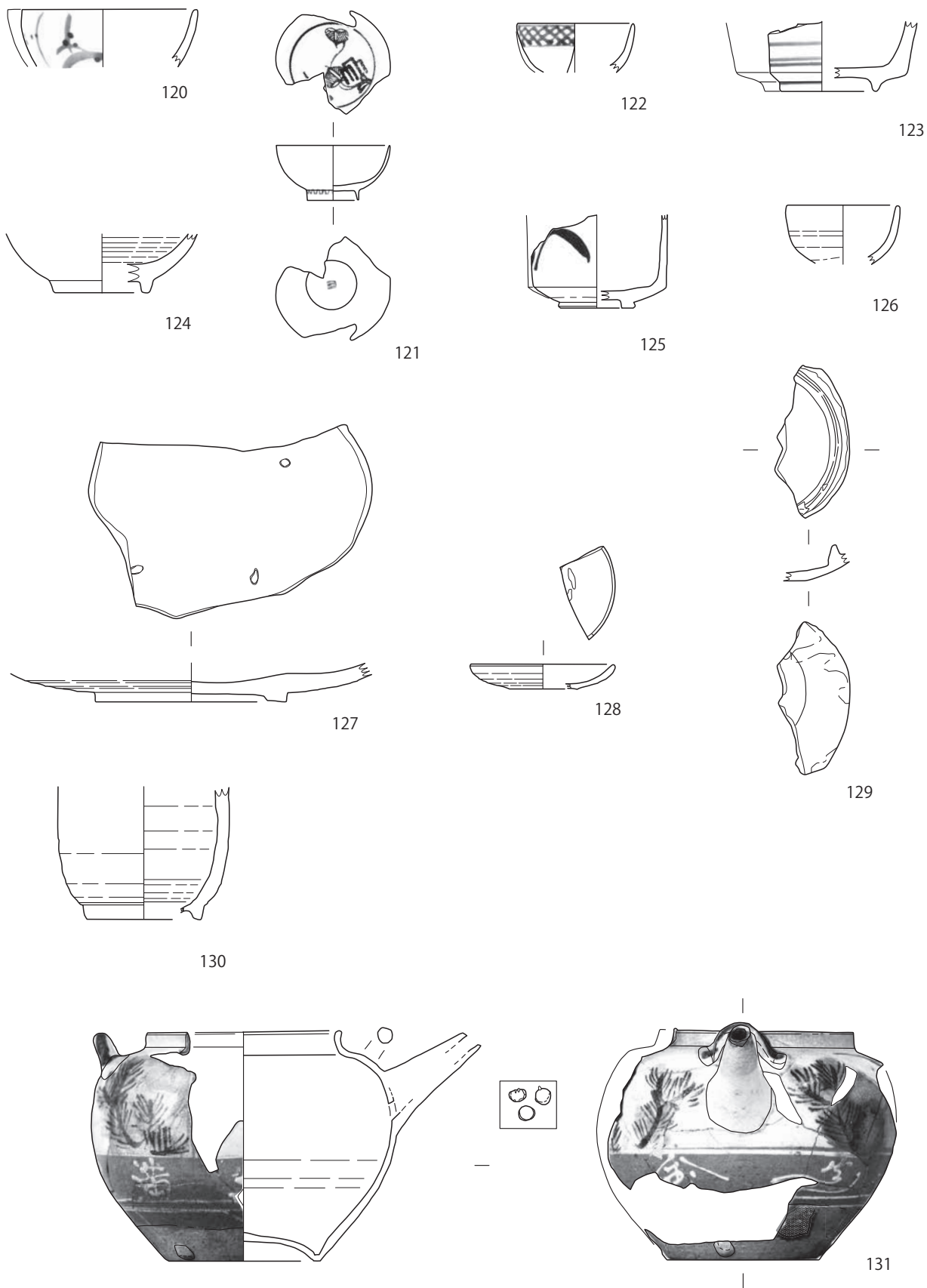


119



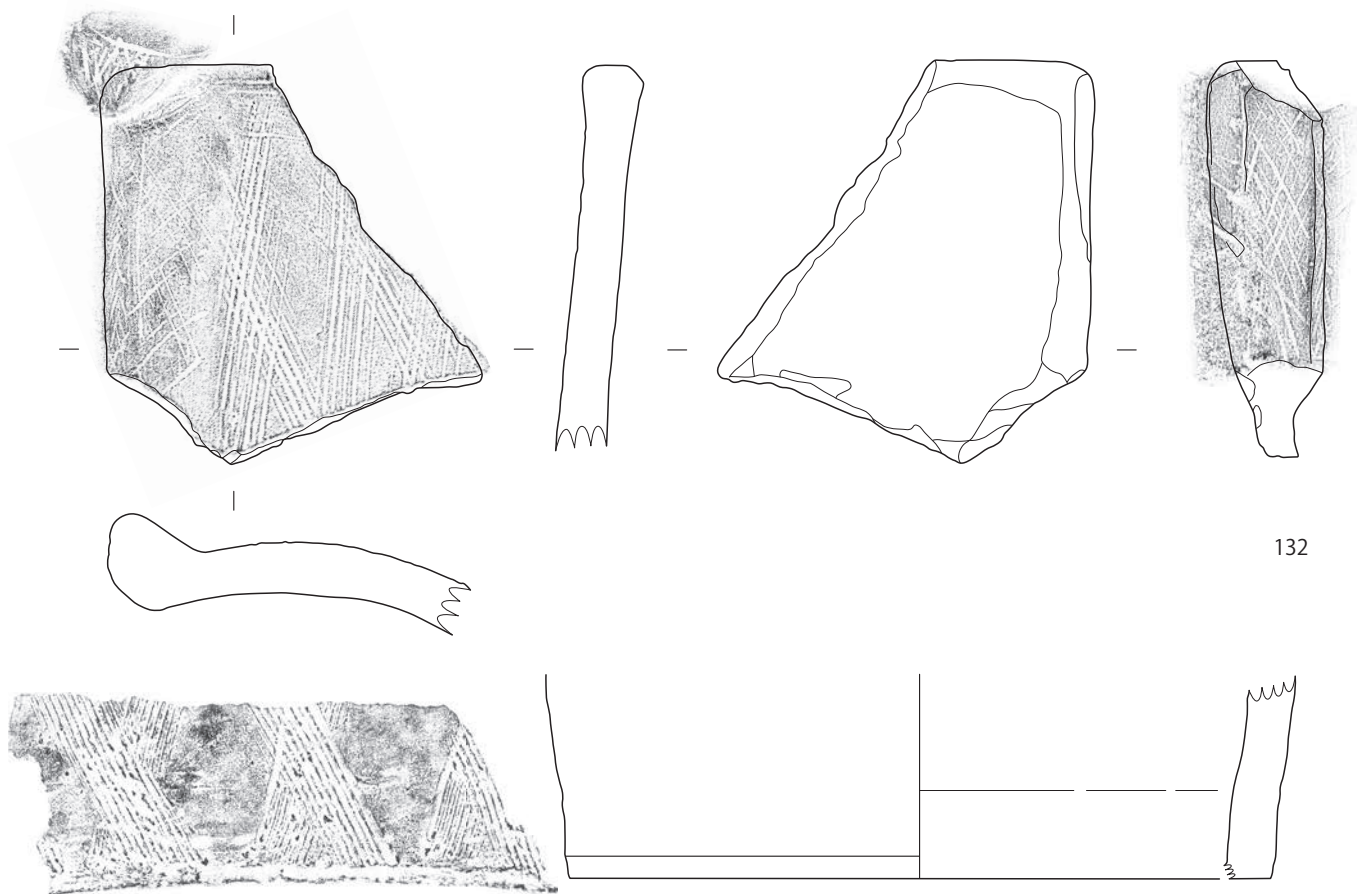
第 165 図 ③地点出土遺物 (1)

SX1



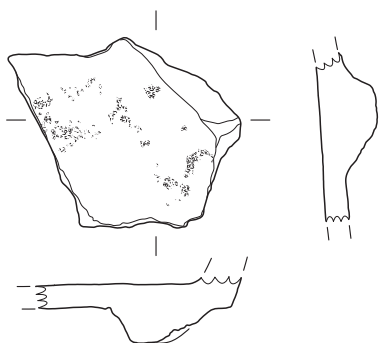
第 166 图 ③地点出土遺物 (2)

SX1

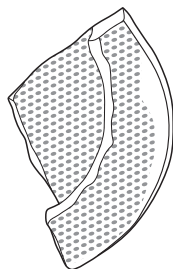


132

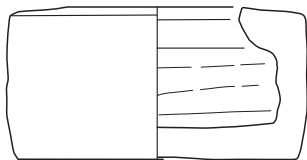
133



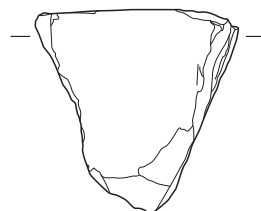
134



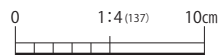
135



136

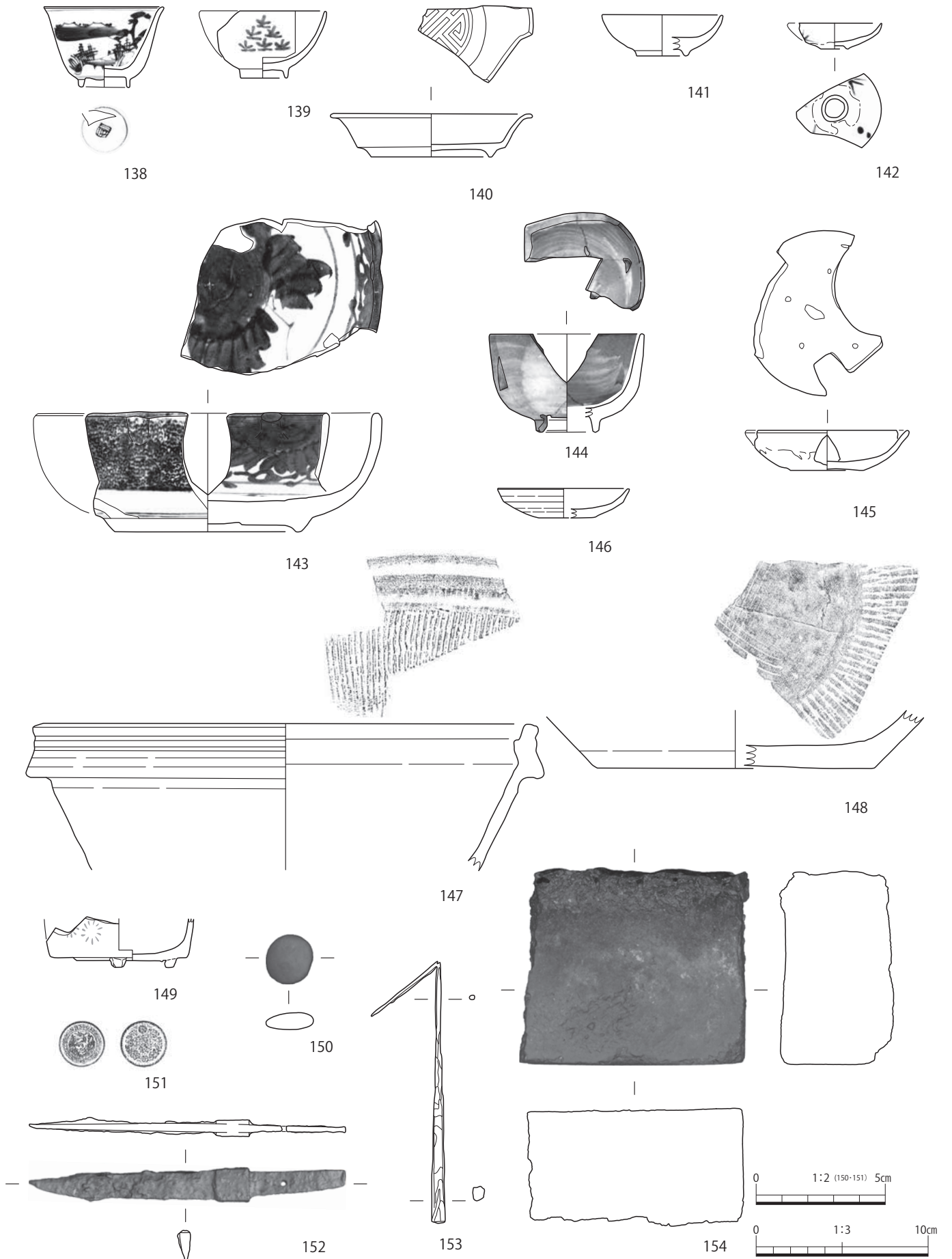


137

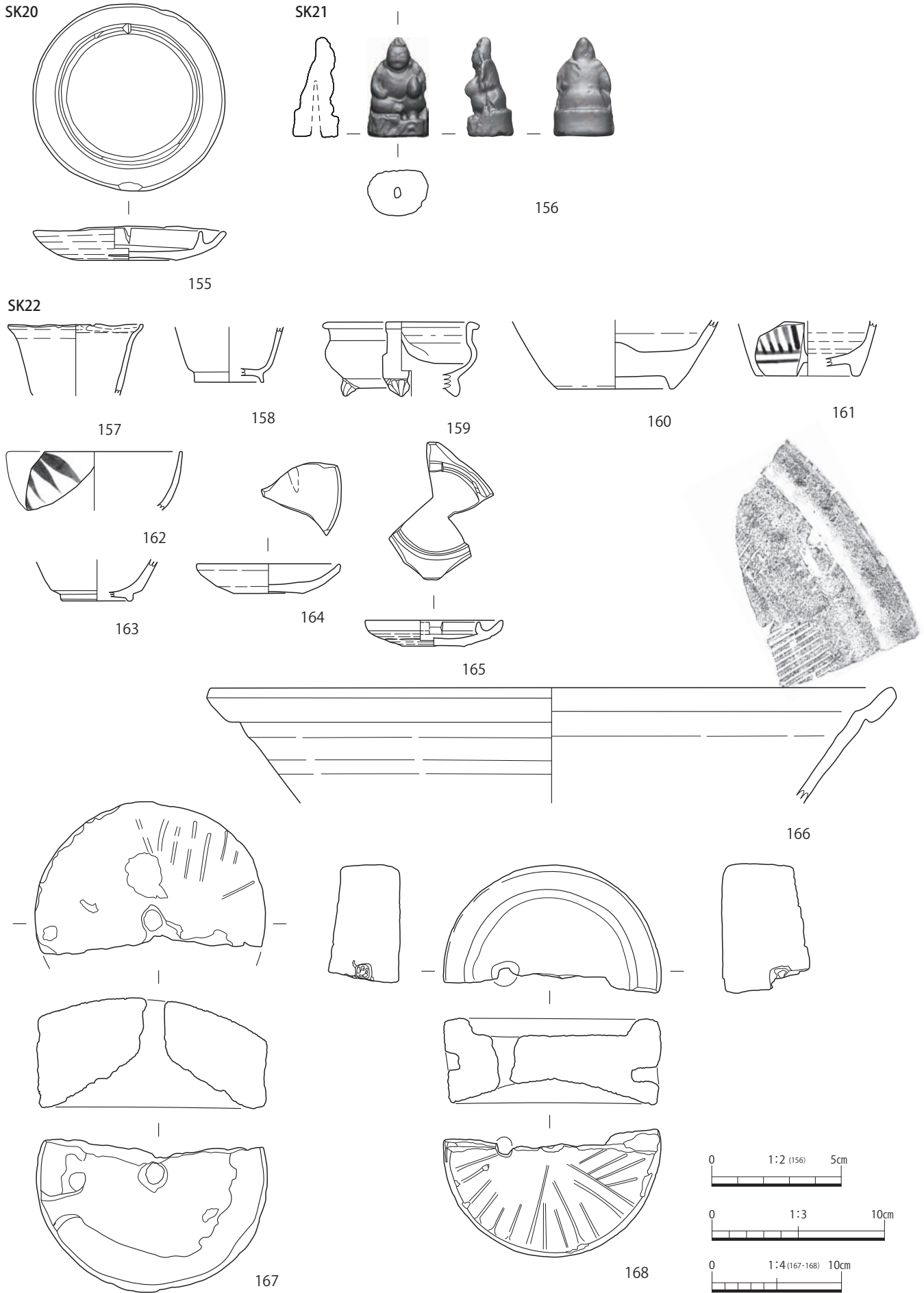


第 167 图 ③地点出土遺物 (3)

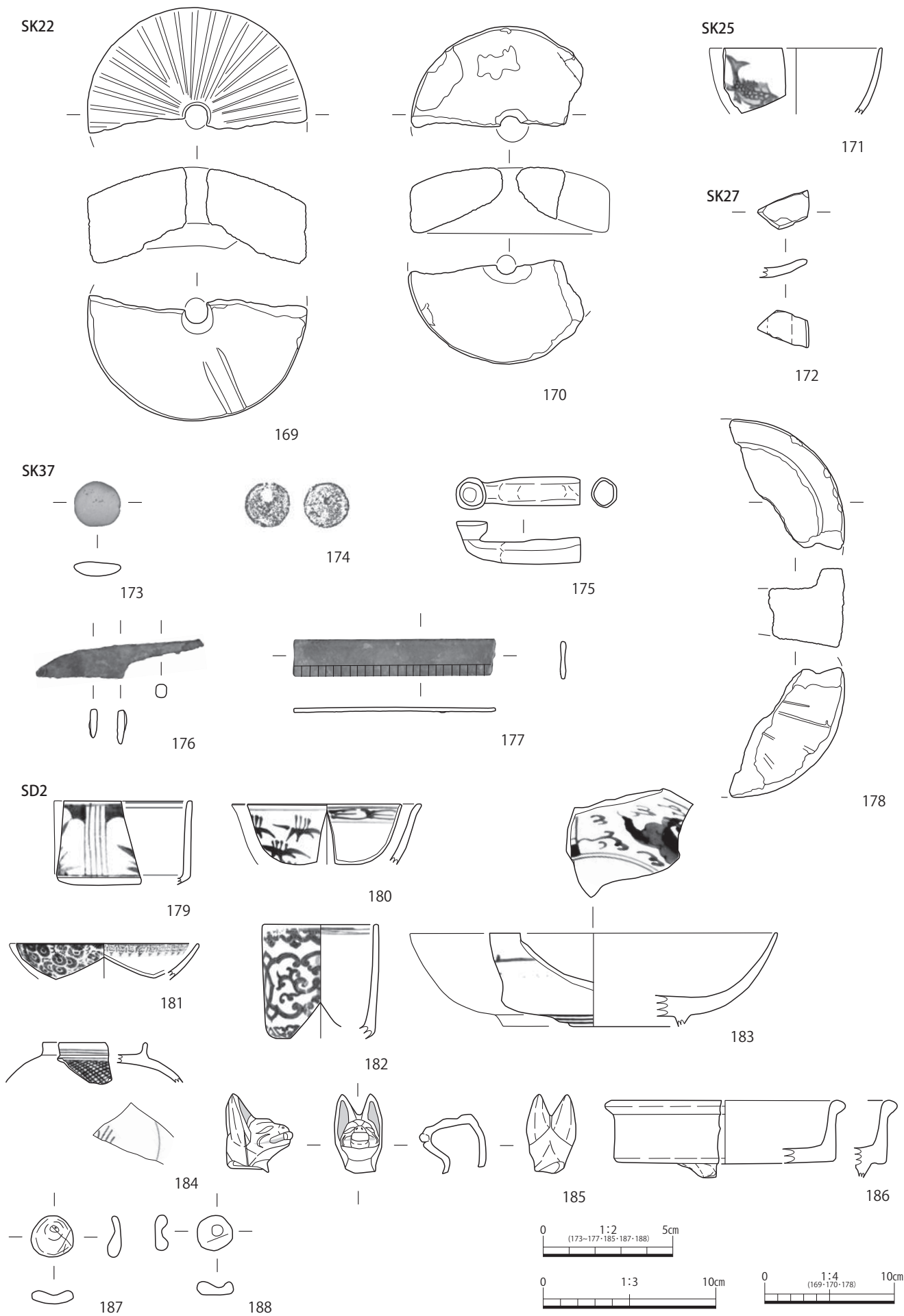
遺構外



第168图 ③地点出土遺物(4)

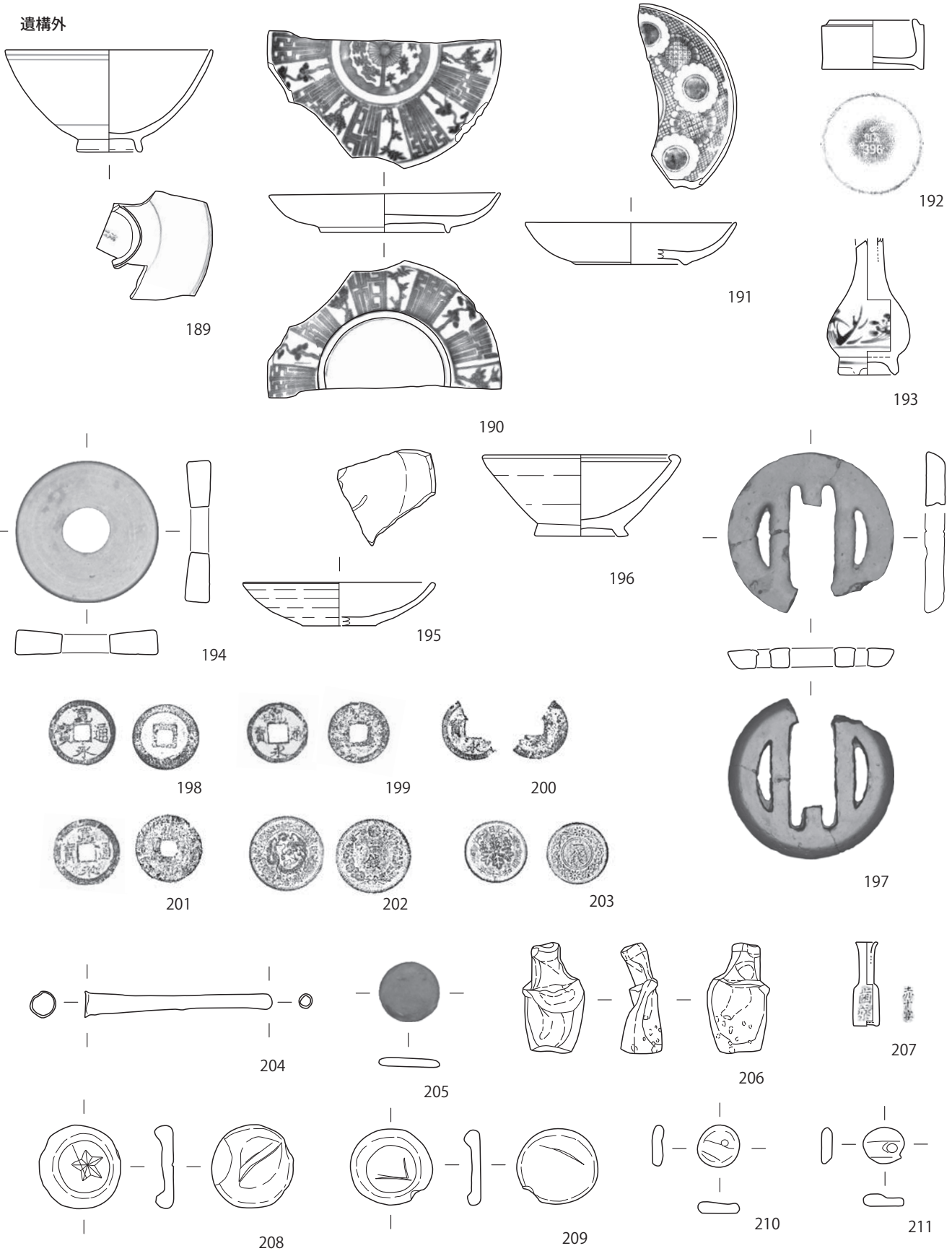


第 169 图 ④·⑤地点出土遺物 (1)



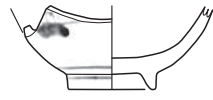
第170图 ④·⑤地点出土遺物(2)

遺構外



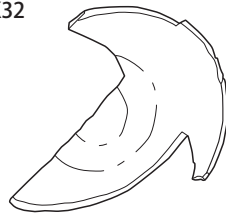
第 171 图 ④・⑤地点出土遺物 (3)

SK31

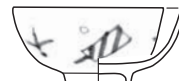


212

SK32



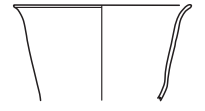
214



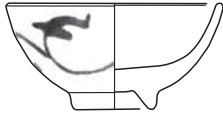
215



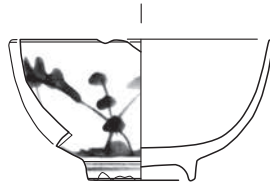
216



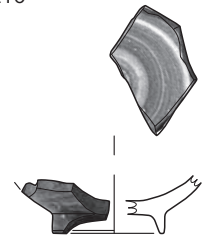
217



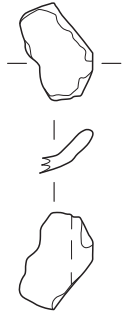
213



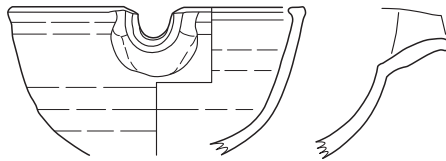
218



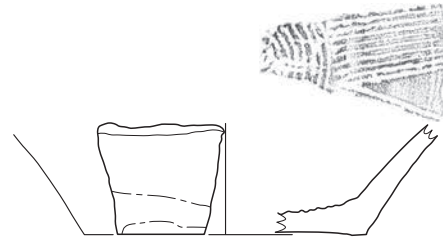
219



220



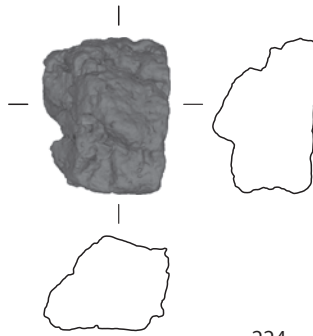
221



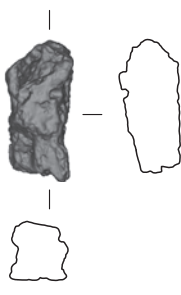
222



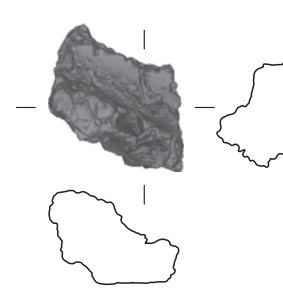
223



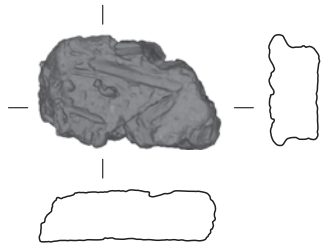
224



225

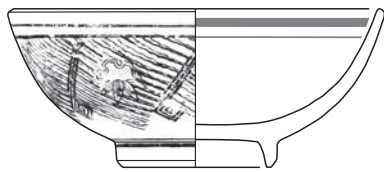


226

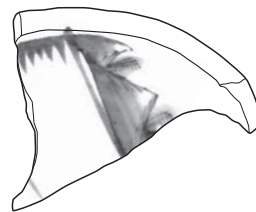


227

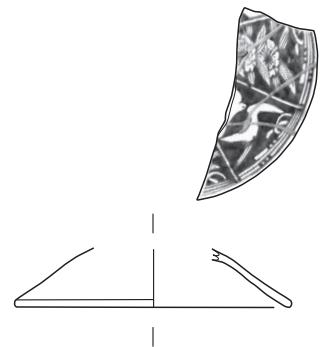
遺構外



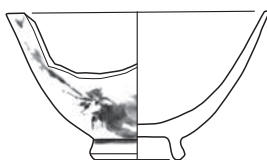
228



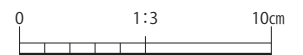
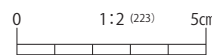
230



231

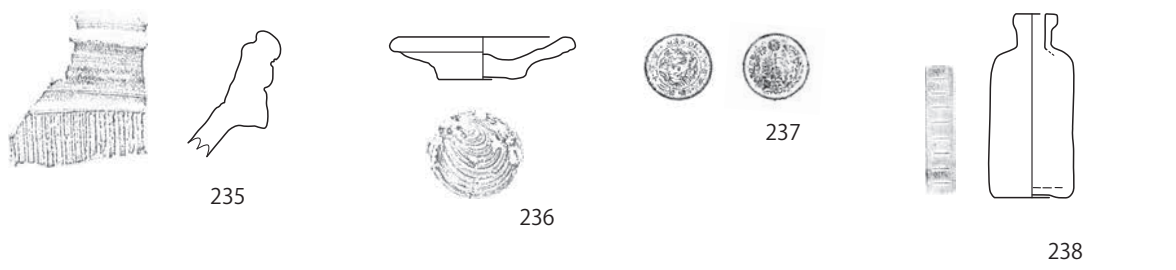
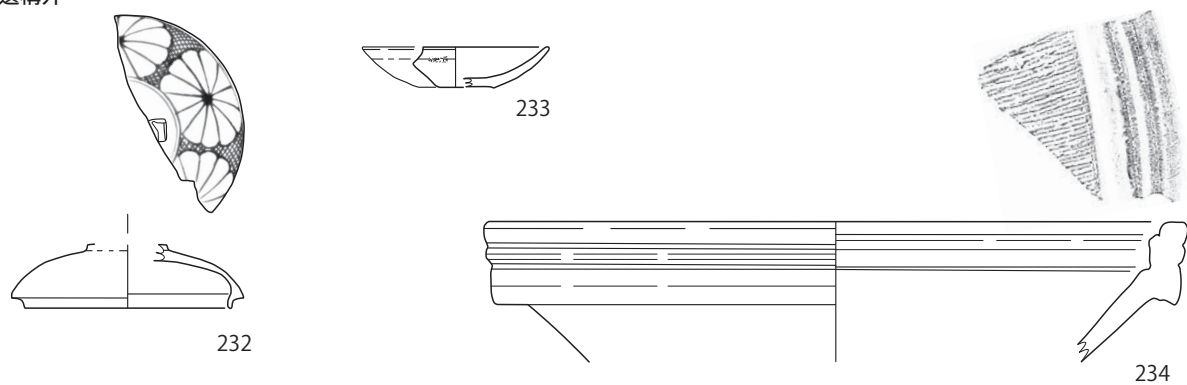


229

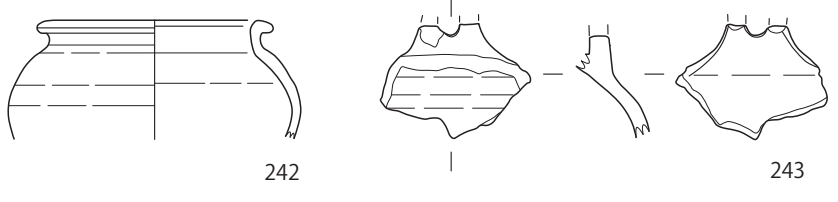
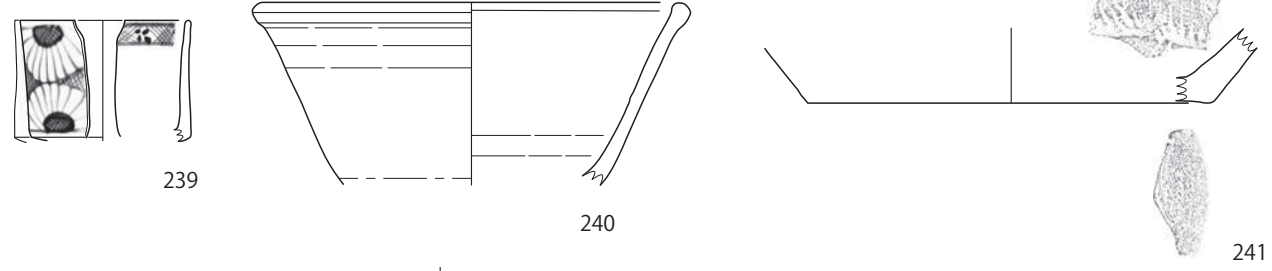


第 172 图 ⑥地点出土遺物

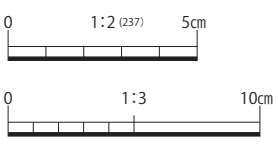
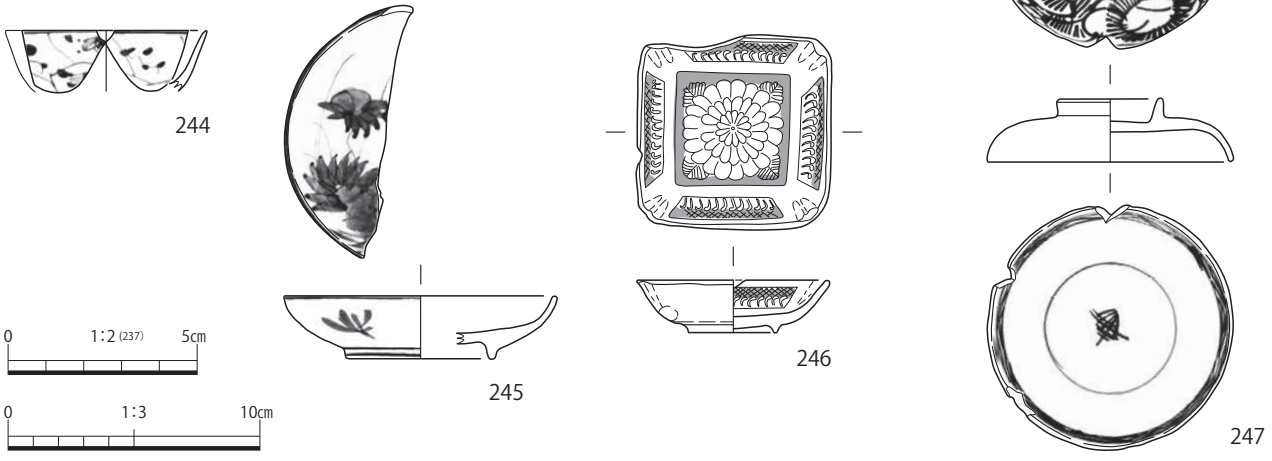
⑥遺構外



⑦SD3

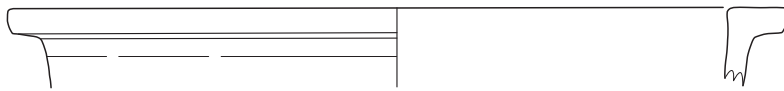


⑦SD4

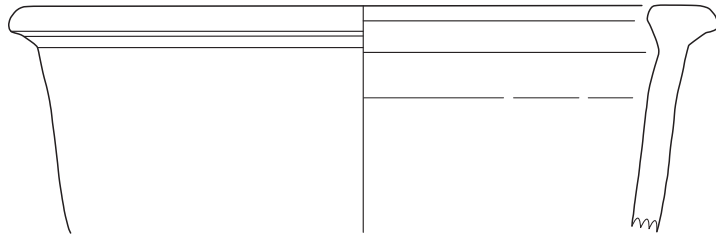


第 173 图 ⑥・⑦地点出土遺物

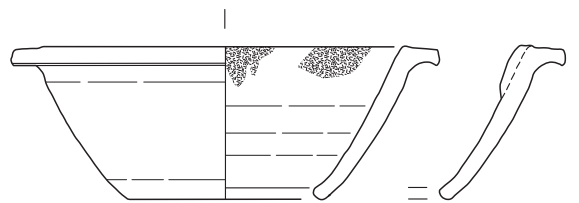
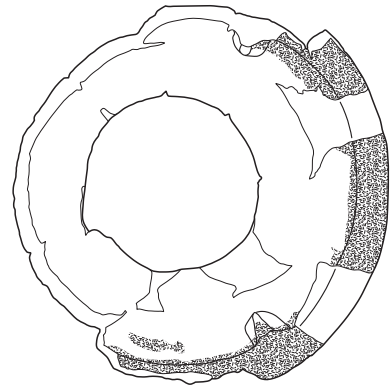
SD3



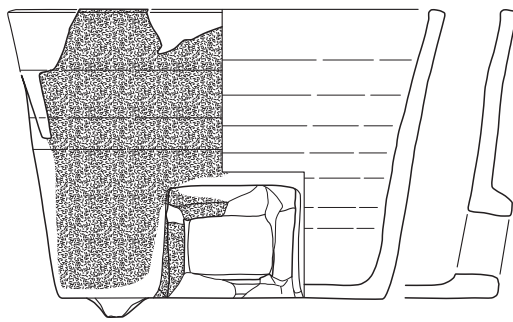
248



249

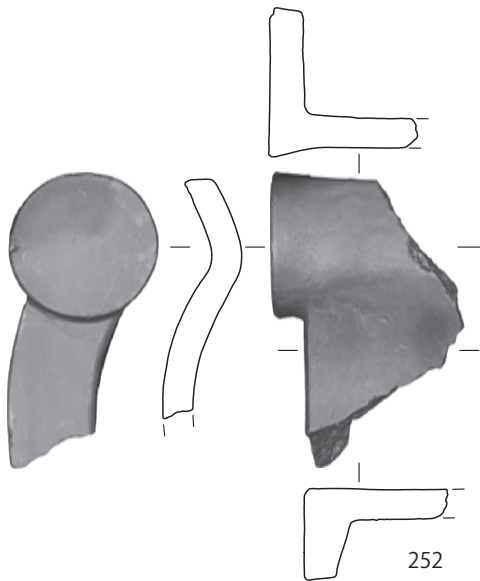


250

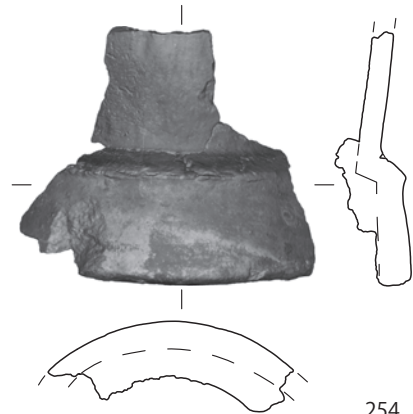


251

SD4



252



254



253



255



256



257



第 174 图 ⑦地点出土遺物 (1)

第 11 表 4 区遺物観察表 (陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考	
									A	B	C	D									
1	158	65	4	①② SK3	磁器	磁器	小碗	筒形碗	(7.8)	(3.8)	(4.6)	—	口縁 1/4 ~ 底部小	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C 中葉 ~ 19C 初頭 (1740 ~ 1810 年代)	—	
2	158	65	4	①② SK3	磁器	磁器	小碗	端反碗	(9.2)	(3.8)	4.2	—	口縁小 ~ 底部小	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	19C	—	
3	158	65	4	①② SK3	磁器	磁器	小碗	端反碗	(8.0)	(3.1)	—	—	口縁 1/5 ~ 底部小	ロクロ成形	透明釉	染付・口繪	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	—	
4	158	65	4	①② SK3	磁器	磁器	彈手酒杯	丸形	(5.6)	2.2	2.7	—	底部 3/4 ~ 底部	ロクロ成形	透明釉	染付・色絵 (青)	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	—	
5	158	65	4	①② SK3	磁器	磁器	浅皿	浅丸形	(5.6)	(3.0)	2.3	—	口縁 1/4 ~ 底部 1/4	ロクロ成形	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	
6	158	65	4	①② SK3	磁器	磁器	皿	丸形	(13.6)	(7.4)	3.6	—	口縁 1/8 ~ 底部 1/4	ロクロ成形	透明釉	染付・見込みにコシヤク印押五弁花	黒色粒	肥前系	17C 末 ~ 19C 初頭	見込みに蛇の目状の釉刺ぎ	
7	158	65	4	①② SK3	磁器	磁器	皿	八角形	(21.4)	(12.0)	(3.3)	—	口縁小 ~ 底部 1/3	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	
8	158	65	4	①② SK3	磁器	磁器	皿	一角形	(20.8)	(2.4)	—	—	底部小 ~ 底部 1/6	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	
9	158	65	4	①② SK3	磁器	磁器	皿	段重	(12.0)	(10.6)	5.4	—	口縁 1/8 ~ 底部小	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	
10	158	65	4	①② SK3	磁器	磁器	急須	—	(6.0)	(4.2)	—	—	口縁 1/6 ~ 底部	ロクロ成形	透明釉	染付	—	瀬戸・美濃系	19C 中葉以降	破面に漆継の痕跡あり・口縁内面に 煤付着	
11	158	65	4	①② SK3	磁器	磁器	蓋	碗蓋	(9.8)	(5.5)	2.8	—	腹部 1/2 ~ 受部 1/4	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	
12	158	65	4	①② SK3	陶器	陶器	土瓶	台底鉢り込み	(8.0)	(4.9)	(2.0)	—	腹部 3/4	ロクロ成形	灰釉	—	白色粒・黒色粒	—	—	—	
13	158	65	4	①② SK3	陶器	陶器	土瓶	—	(8.0)	(3.0)	—	—	口縁 1/8 ~ 底部小	ロクロ成形	灰釉	—	黒色粒	—	—	—	
14	158	65	4	①② SK3	土器	土器	蓋	蓋	7.3	3.5	2.0	—	ほぼ完形	ロクロ成形・底 部回転糸切	—	—	黒色粒	—	—	—	
15	159	65	4	①② SK6	磁器	磁器	碗	端反碗	(10.0)	(3.8)	—	—	口縁小 ~ 底部小	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	—	
16	159	65	4	①② SK6	陶器	陶器	備鉢	—	(9.0)	(2.5)	—	—	口縁小 ~ 底部 1/4	ロクロ成形・底 部回転糸切	鉄釉	—	白色粒・黒色粒・細石粒	—	—	—	
18	159	65	4	①② SK7	陶器	陶器	埋鉢	—	(16.6)	(3.7)	—	—	底部 1/5	ロクロ成形	灰釉	—	白色粒・黒色粒	—	—	見込みに高台内に目跡あり	
19	159	65	4	①② SK7	陶器	陶器	線系鍋	半月形	38.1	31.4	9.5	—	口縁 2/3 ~ 底部	板作り粗積み灰石釉	—	—	白色粒	—	—	—	
20	159	65	4	①② SK7	土器	土器	カワラケ	無高台平形	(7.2)	(5.4)	1.7	—	口縁小 ~ 底部 1/4	ロクロ成形・底 部回転糸切	—	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・金 色裏母	—	—	—	
21	159	65	4	①② SK7	土器	土器	柳太鉢	楕形	(13.8)	(9.6)	7.9	—	口縁小 ~ 底部 1/2	ロクロ成形	—	—	赤色粒・白色粒	—	—	—	
22	159	65	4	①② SK7	土器	土器	柳太鉢	—	(7.8)	(4.1)	—	—	底部 1/5	ロクロ成形	—	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・金 色裏母	—	—	—	
23	159	65	4	①② SK7	土器	土器	七輪五徳	髑髏	22.5	13.7	9.6	—	ほぼ完形	細積みロクロ成形	—	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・金 色裏母	—	—	内面に煤付着	
24	159	65	4	①② SK7	土器	土器	焔炉	—	(23.1)	(10.7)	(4.9)	—	出窓部分	板作り成形	—	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・金 色裏母・石英	—	—	—	
25	160	65	4	①② SK8	磁器	磁器	小坏	丸形	(6.8)	(2.1)	—	—	口縁 1/4 ~ 底部小	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	19C	—	
26	160	65	4	①② SK8	磁器	磁器	皿	—	(7.4)	(2.4)	—	—	底部小	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	
27	160	65	4	①② SK8	磁器	磁器	瓶	—	(5.0)	(2.4)	—	—	底部小	ロクロ成形	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	—	—	
28	160	65	4	①② SK8	陶器	陶器	碗	—	(5.4)	(2.6)	—	—	底部小 ~ 底部 1/6	ロクロ成形	透明釉	染付	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	
29	160	65	4	①② SK8	陶器	陶器	備鉢	—	(6.2)	(6.2)	—	—	底部小 ~ 底部 1/2	ロクロ成形	灰釉・線釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	
30	160	65	4	①② SK8	陶器	陶器	土瓶	—	(1.8)	(1.8)	—	—	底部小	ロクロ成形	灰釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	
31	160	65	4	①② SK8	土器	土器	カワラケ	無高台平形	(6.4)	(4.0)	0.7	—	口縁小 ~ 底部 1/4	ロクロ成形・底 部静止糸切	—	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・黒 色裏母	—	—	—	
32	160	65	4	①② SK9	土器	土器	火鉢	—	(5.7)	(5.7)	—	—	口縁小 ~ 底部小	ロクロ成形	—	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・金 色裏母	—	—	—	
33	160	65	4	①② SK9	土器	土器	焔炉	筒形	(20.4)	(14.0)	—	—	底部小 ~ 底部	細積みロクロ成形	—	—	赤色粒・白色粒・黒色粒	—	—	—	
34	160	65	4	①② SK14	陶器	陶器	中碗	明毛目碗	(10.4)	4.0	4.9	—	口縁 1/2 ~ 底部 1/2	ロクロ成形	透明釉	刷毛目	—	肥前系	18C 前葉頃	—	
35	160	65	4	①② SK14	陶器	陶器	片口	片口	(5.1)	(5.1)	—	—	口縁小 ~ 底部小	ロクロ成形	灰釉	—	黒色粒	—	—	—	
36	160	66	4	①② SK17	陶器	陶器	碗	—	(3.8)	(3.8)	—	—	底部小	ロクロ成形	鉄釉	—	—	—	—		
37	160	66	4	①② SK17	陶器	陶器	碗	—	(3.8)	(2.7)	—	—	口縁 1/3 ~ 底部	ロクロ成形	—	—	白色	—	—	—	
38	160	66	4	①② SK17	土器	土器	鉢	—	(5.7)	(5.7)	—	—	口縁小 ~ 底部小	ロクロ成形	—	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・金 色裏母	—	—	—	
44	161	66	4	①② SK17	瓦	瓦	—	—	(4.0)	(7.3)	1.7	—	小片	板作り・型当て 成形	—	—	—	—	—	—	
45	161	66	4	①② SK17	瓦	瓦	—	—	(3.5)	(5.1)	1.5	—	小片	板作り・型当て 成形	—	—	—	—	—	—	
46	161	66	4	①② SK18	陶器	陶器	碗	—	(11.0)	(2.7)	—	—	口縁小	ロクロ成形	灰釉	—	—	—	—	—	
47	161	66	4	①② SK18	陶器	陶器	天目茶碗	—	(5.8)	(4.9)	—	—	底部小	ロクロ成形	鉄釉	—	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—
48	161	66	4	①② SK18	陶器	陶器	—	—	(6.0)	(14.5)	—	—	小片	ロクロ成形	灰釉	—	—	—	—	—	
49	161	66	4	①② SK18	陶器	陶器	—	—	(2.5)	(2.5)	—	—	小片	ロクロ成形	鉄釉	—	—	白色粒・石英	—	—	—

第11表 4区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図 番号	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法重 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考
									A	B	C	D								
59	162	66	4	①②	SD1 (SK5)	磁器	中碗	丸碗	(9.2)	—	(4.1)	—	口縁1/4	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C前半 (1700~1740年代)	—	
60	162	66	4	①②	SD1 (SK5)	磁器	中碗	丸碗	—	(4.2)	(2.8)	—	体部小~底部1/2	透明釉	染付・体部コンニャク印判・高台内縁「捺なし渦福」	黒色粒	肥前系	18C前半 (1700~1740年代)	高台砂付着	
61	162	66	4	①②	SD1 (SK5)	磁器	中碗	小丸碗	—	(4.0)	(3.6)	—	体部小~底部1/2	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C中葉~19C初頭 (1740~1810年代)	—	
62	162	66	4	①②	SD1 (SK5)	磁器	中碗	広東碗	—	(6.8)	(2.8)	—	底部1/2	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C後葉~19C中葉 (1780~1840年代)	—	
63	162	66	4	①②	SD1 (SK5)	磁器	小杯	朝顔形	(6.8)	—	(2.7)	—	口縁1/4~体部小	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	
64	162	66	4	①②	SD1 (SK5)	磁器	皿	—	—	(7.0)	(2.0)	—	底部1/4	透明釉	染付・見込みコンニャク印判五分花	黒色粒	肥前系	17C末~19C初頭	—	
65	162	66	4	①②	SD1 (SK5)	陶器	小杯	丸形	6.7	4.0	3.7	—	兜形	灰釉	—	黒色粒・黒石	瀬戸・美濃系	—	—	
66	162	66	4	①②	SD1 (SK5)	陶器	灯明受皿	平底	(11.5)	(5.4)	2.1	—	口縁小~底部小	鉄釉	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	底部に糠状痕(目跡)あり・体部に指紋残る	
67	162	66	4	①②	SD1 (SK5)	陶器	罎	半胴形	—	—	(4.5)	—	口縁小	鉄釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	半胴罎	
68	162	66	4	①②	SD1 (SK5)	土製品	人形	動物(猫)	4.9	5.9	3.4	—	ほぼ完形	型押し成形(型合わせ)	—	—	—	—	中空・内部に粘土玉あり・表面に髹母を振りかけている	
71	163	67	4	①②	遺構外	磁器	中碗	広東碗	(9.4)	5.2	5.5	—	口縁小~底部1/3	透明釉	染付	黒色粒	肥前系	18C後葉~19C中葉 (1780~1840年代)	—	
72	163	67	4	①②	遺構外	磁器	中碗	端反碗	(10.6)	(4.0)	5.7	—	口縁1/5~底部1/3	透明釉	染付	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	胎縁あり・口縁部の外反が非常に強い	
73	163	67	4	①②	遺構外	磁器	小碗	端反碗	(8.4)	(3.2)	4.5	—	口縁~底部3/4	透明釉	染付	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	口縁部の外反が非常に強い	
74	163	67	4	①②	遺構外	磁器	碗	小丸碗	(7.4)	—	4.6	—	口縁1/4~体部	透明釉	染付・縁鏤	黒色粒	肥前系	18C中葉~19C初頭 (1740~1810年代)	胎縁あり	
75	163	67	4	①②	遺構外	磁器	小杯	杉形	(6.6)	(3.6)	4.6	—	口縁1/8~底部1/4	透明釉	染付	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	—	
76	163	67	4	①②	遺構外	磁器	小杯	端反形	(6.4)	(2.8)	3.9	—	口縁1/2~底部1/2	透明釉	染付	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	—	
77	163	67	4	①②	遺構外	磁器	小杯	桶形	(5.0)	2.8	2.9	—	口縁1/8~底部	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	
78	163	67	4	①②	遺構外	磁器	小杯	桶形	(4.4)	(2.4)	3.3	—	口縁小~底部1/2	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	
79	163	67	4	①②	遺構外	磁器	紅皿	菊花形	(4.8)	—	(2.3)	—	口縁1/6~体部	型打ち成形	—	黒色粒	肥前系	—	—	
80	163	67	4	①②	遺構外	磁器	紅皿	蛸唐草形	(6.0)	(2.0)	1.6	—	口縁1/2~底部小	型打ち成形	—	黒色粒	肥前系	19C中葉以降 (1850年代以降)	—	
81	163	67	4	①②	遺構外	磁器	香炉	有三足團形	(8.6)	—	(3.5)	—	口縁1/5~体部小	青磁釉	—	白色粒・黒色粒	肥前系	—	—	
82	163	67	4	①②	遺構外	磁器	蓋	碗蓋	(9.2)	(3.6)	2.4	—	腹部1/2~腹部1/2	透明釉	染付	黒色粒	瀬戸・美濃系	19C	—	
83	163	67	4	①②	遺構外	陶器	碗	天目茶碗小	—	4.5	(2.4)	—	体部小~底部	鉄釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	
84	163	67	4	①②	遺構外	陶器	皿	—	—	12.0	(2.6)	—	体部小~底部1/6	透明釉	鉄絵	—	—	—	—	
85	163	67	4	①②	遺構外	陶器	皿	—	—	(5.8)	(2.1)	—	体部小~底部1/4	緑釉	—	—	肥前系	17C中葉~18C後葉 (1650~1780年代)	見込み蛇の目状釉跡	
86	163	67	4	①②	遺構外	陶器	小皿	丸形	(11.4)	4.0	3.5	—	口縁小~底部1/2	灰釉	—	—	肥前系	17C中葉~18C後葉 (1650~1780年代)	見込み蛇の目状釉跡	
87	163	67	4	①②	遺構外	陶器	鉢鉢	—	—	(5.4)	—	口縁小~体部小	灰釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	
88	163	67	4	①②	遺構外	陶器	罎	胴丸形	(14.6)	—	(7.7)	—	口縁1/6~体部小	鉄釉	—	白色粒	瀬戸・美濃系	—	—	
89	163	67	4	①②	遺構外	土器	カワラケカ	—	—	6.3	2.5	—	体部小~底部	—	—	赤色粒・白色粒・金色雲母	—	—	内面に窯付着	
90	163	67	4	①②	遺構外	土器	榎木鉢	桶形	(12.0)	(8.0)	8.0	—	口縁1/6~底部1/6	—	—	白色粒	—	—	—	
91	164	67	4	①②	遺構外	土器	火鉢	—	(5.1)	(5.0)	(5.0)	—	口縁小~底部小	細縞みロクロ成形	—	白色粒・金色雲母	—	—	—	
92	164	67	4	①②	遺構外	土器	火鉢	—	(11.0)	(7.7)	—	—	体部小~底部1/2	細縞みロクロ成形	—	赤色粒・白色粒・黒石	—	—	—	
93	164	67	4	①②	遺構外	土器	火鉢	—	—	24.0	(10.9)	—	体部小~底部1/2	細縞みロクロ成形	—	赤色粒・白色粒	—	—	—	
94	164	67	4	①②	遺構外	土器	火鉢	—	(6.0)	(10.3)	(6.3)	—	底部小	細縞みロクロ成形	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・長石・雲母	—	—	—	高台部に刻印あり(白井清次郎)

第11表 4区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図 図版	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考		
									A	B	C	D										
95	164	67	4	①②	遺構外	瓦	軒平もしくは軒葺瓦	—	(6.0)	(7.7)	1.5	—	平部瓦当小	板作り・型当て・型押し成形	—	白色粒・黒色粒	—	—	—	—		
96	164	67	4	①②	遺構外	土製品	人物	人物	4.4	(2.8)	0.3	—	体部全面穴損	型押し成形(型合わせ)	—	黒色粒・雲母	—	—	—	—	—	
97	164	67	4	①②	遺構外	土製品	人物	人物	(4.5)	(2.8)	(0.4)	—	体部小	型押し成形(型合わせ)	—	白色粒・雲母	—	—	—	—	—	
98	164	67	4	①②	遺構外	土製品	芥子面	芥子面	4.2	2.4	1.0	—	ほぼ完形	型押し成形	—	雲母	—	—	—	—	—	
99	164	67	4	①②	遺構外	土製品	面打	面打	1.0	1.0	0.5	—	完形	手づくね成形	—	—	—	—	—	—	—	
100	164	67	4	①②	遺構外	土製品	靴形土製品	靴形土製品	2.1	2.0	0.6	—	ほぼ完形	手づくね成形	—	—	—	—	—	—	—	
101	164	67	4	①②	遺構外	土製品	靴形土製品	靴形土製品	(1.9)	2.1	0.6	—	ほぼ完形	手づくね成形	—	—	—	—	—	—	—	
102	164	67	4	①②	遺構外	土製品	土鈴	土鈴	2.9	(2.2)	(1.3)	—	1/2残存	手づくね成形	—	白色粒	—	—	—	—	—	
103	164	67	4	①②	遺構外	土製品	明口	明口	(9.6)	(5.7)	(1.7)	—	体部小	板作り成形	—	白色粒・白色粒・長石・金色雲母	—	—	—	—	—	—
104	164	67	4	①②	遺構外	土製品	明口	明口	(11.2)	(6.1)	(1.7)	—	体部小	板作り成形	—	白色粒・金色雲母・細石粒	—	—	—	—	—	—
107	165	67	4	③	SK15	磁器	氣血	氣血	6.7	2.0	1.6	—	完形	型打ち成形	透明釉	—	肥前系	—	—	—	—	—
108	165	67	4	③	SK15	陶器	小杯	小杯	(6.0)	3.2	3.5	—	口縁1/4～底部	ロクロ成形	灰釉	—	瀬戸・美濃系	—	—	—	—	—
109	165	67	4	③	SK15	陶器	仏飯器	仏飯器	(5.0)	—	(1.7)	—	口縁1/4～体部小	ロクロ成形	灰釉	—	黒色粒	—	—	—	—	—
110	165	67	4	③	SK15	陶器	灯明受皿	灯明受皿	11.0	4.0	2.0	—	ほぼ完形	ロクロ成形	灰釉	—	黒色粒	—	—	—	—	—
111	165	67	4	③	SK15	陶器	片口	片口	(10.0)	—	(3.3)	—	口縁1/4	ロクロ成形	灰釉	—	黒色粒・白色粒	—	—	—	—	—
112	165	67	4	③	SK15	土器	カワラケ	無高台平形	—	(4.4)	(1.7)	—	底部1/4	ロクロ成形・底部回転糸切	—	白色粒・金色雲母	—	—	—	—	—	—
115	165	68	4	③	SP17	陶器	土瓶か	土瓶か	—	(6.0)	(1.4)	—	底部小	ロクロ成形	鉄釉	—	—	—	—	—	—	
120	166	68	4	③	SX1	磁器	中碗	中碗	(10.0)	—	(3.0)	—	口縁1/4～体部小	ロクロ成形	透明釉	—	—	—	—	—	—	
121	166	68	4	③	SX1	磁器	彈手酒杯	丸形	(6.0)	2.7	2.9	—	口縁1/6～底部	ロクロ成形	透明釉	—	—	—	—	—	—	—
122	166	68	4	③	SX1	磁器	仏飯器	丸形	(6.0)	—	(2.6)	—	口縁1/6～体部小	ロクロ成形	透明釉	—	—	—	—	—	—	—
123	166	68	4	③	SX1	磁器	鉢(薬物か)	丸形	—	(6.0)	(3.7)	—	体部小～底部	ロクロ成形	透明釉	—	—	—	—	—	—	—
124	166	68	4	③	SX1	磁器	瓶	瓶	(5.0)	(3.1)	—	—	底部小	ロクロ成形	青磁釉	—	—	—	—	—	—	—
125	166	68	4	③	SX1	陶器	小碗	小碗	—	(3.8)	(4.9)	—	体部小～底部1/4	ロクロ成形	灰釉	—	—	—	—	—	—	—
126	166	68	4	③	SX1	陶器	仏飯器か	丸形	(6.0)	—	(3.1)	—	口縁1/4～体部小	ロクロ成形	灰釉	—	白色粒・黒色粒	—	—	—	—	—
127	166	68	4	③	SX1	陶器	皿	皿	—	(10.0)	(2.1)	—	体部小～底部1/2	ロクロ成形	鉄釉	—	白色粒・黒色粒	—	—	—	—	—
128	166	68	4	③	SX1	陶器	灯明皿	無高台平形	7.4	(3.6)	1.3	—	口縁1/4～体部1/6	ロクロ成形	鉄釉	—	—	—	—	—	—	—
129	166	68	4	③	SX1	陶器	灯明受皿	平皿	—	(6.0)	1.9	(8.8)	内堤1/3～底部1/3	ロクロ成形	鉄釉(外)	—	—	—	—	—	—	—
130	166	68	4	③	SX1	陶器	瓶か	瓶か	—	(6.0)	(7.0)	—	体部～底部1/2	ロクロ成形	鉄釉(内)	—	—	—	—	—	—	—
131	166	68	4	③	SX1	陶器	土瓶	丸形	10.4	7.9	12.1	—	口縁1/2～底部	透明釉	—	—	—	—	—	—	—	—
132	167	68	4	③	SX1	土器	火鉢か	火鉢か	(15.9)	(14.8)	2.0	—	口縁小	細積みロクロ成形	—	—	—	—	—	—	—	—
133	167	68	4	③	SX1	土器	火鉢か	火鉢か	—	(28.0)	(8.0)	—	体部小～底部小	細積みロクロ成形	—	—	—	—	—	—	—	—
134	167	68	4	③	SX1	土器	火鉢か	火鉢か	—	(7.6)	(2.8)	—	底部小	細積みロクロ成形	—	—	—	—	—	—	—	—
135	167	68	4	③	SX1	土器	火鉢か	火鉢か	(7.0)	(11.0)	6.1	—	口縁1/4～底部1/4	細積みロクロ成形	—	—	—	—	—	—	—	—
136	167	68	4	③	SX1	土器	焙烙	有耳	(26.8)	(25.0)	4.4	—	口縁1/2～底部小	ロクロ成形	—	—	—	—	—	—	—	—
138	168	68	4	③	遺構外	磁器	小碗	小碗	6.9	3.0	4.7	—	ほぼ完形	透明釉	—	—	—	—	—	—	—	—
139	168	68	4	③	遺構外	磁器	小杯	小杯	(7.3)	(7.7)	3.9	—	口縁1/6～底部	透明釉	—	—	—	—	—	—	—	—
140	168	68	4	③	遺構外	磁器	小皿	小皿	(10.8)	(7.0)	2.5	—	口縁小～底部	型打ち成形	透明釉	—	—	—	—	—	—	—
141	168	68	4	③	遺構外	磁器	紅血	紅血	(7.0)	(3.0)	2.4	—	口縁1/4～底部1/2	ロクロ成形	透明釉	—	—	—	—	—	—	—
142	168	68	4	③	遺構外	磁器	紅血	紅血	(5.4)	1.6	1.5	—	口縁1/4～底部	型打ち成形	透明釉	—	—	—	—	—	—	—
143	168	68	4	③	遺構外	磁器	鉢	鉢	(19.6)	(10.8)	6.9	—	口縁小～底部1/4	ロクロ成形	透明釉	—	—	—	—	—	—	—
144	168	68	4	③	遺構外	陶器	中碗	脚毛目碗	(9.0)	(3.2)	5.7	—	口縁1/4～底部小	ロクロ成形	透明釉	—	—	—	—	—	—	—

第11表 4区遺物観表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品)

報告書 番号	挿図 番号	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	軸薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考	
									A	B	C	D									
145	168	68	4	③	遺構外	陶器	灯明皿	無高台平形	(9.4)	4.2	2.3	—	口縁1/3～底部3/4	吹釉	—	白色粒	—	—	見込み目録4が所あり		
146	168	68	4	③	遺構外	陶器	灯明皿	無高台平形	(7.6)	(3.0)	1.7	—	口縁1/2～底部1/3	染釉	—	白色粒・黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—		
147	168	68	4	③	遺構外	陶器	楕鉢	口縁外唇三段	(28.0)	—	(8.5)	—	口縁小～体部小	細線みろくろ成形	—	白色粒・黒色粒	明石・美濃系	—	—		
148	168	68	4	③	遺構外	陶器	楕鉢	有三分半筒形	—	(16.0)	(3.4)	—	体部小～底部1/4	細線みろくろ成形	—	白色粒・黒色粒	明石・美濃系	—	—		
149	168	68	4	③	遺構外	陶器	香炉	—	(6.2)	(2.9)	—	体部小～底部1/4	透明釉	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—		
150	168	68	4	③	遺構外	土製品	摩訶土製品	—	1.9	1.8	0.6	—	手づくね成形	—	赤色粒・黒色粒・雲母	—	—	—	—		
154	168	68	4	③	遺構外	陶器	灯明受皿	平底	11.5	13.3	6.3	—	1/2残存	—	—	—	—	—	—	—	
155	169	69	4	④⑤	SK20	陶器	灯明受皿	平底	11.0	5.4	2.0	8.0	平底	—	—	—	—	—	—	—	—
156	169	69	4	④⑤	SK21	陶器	人形	人物	3.8	2.3	1.7	—	ほぼ完形	—	—	—	—	—	—	—	—
157	169	69	4	④⑤	SK22	磁器	鉢	朝顔形	(7.8)	—	(4.1)	—	口縁1/2～体部小	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	—
158	169	69	4	④⑤	SK22	磁器	鉢	—	—	(4.0)	(3.2)	—	口縁小～体部小	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	—
159	169	69	4	④⑤	SK22	磁器	香炉	有三分筒形	(8.0)	(5.0)	4.3	—	口縁1/4～底部小	青磁釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	—
160	169	69	4	④⑤	SK22	磁器	瓶	—	(6.8)	(4.0)	—	体部～底部1/2	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	—	
161	169	69	4	④⑤	SK22	磁器	瓶	—	(6.0)	(3.2)	—	底部1/8	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	—	
162	169	69	4	④⑤	SK22	陶器	半球碗	—	(10.0)	—	(3.4)	—	口縁小	染付	赤・赤・緑	京・信楽系	—	—	—	—	
163	169	69	4	④⑤	SK22	陶器	小形碗	—	(4.0)	(2.4)	—	口縁小	吹釉	—	黒色粒	京・信楽系	—	—	—	—	
164	169	69	4	④⑤	SK22	陶器	灯明皿	無高台平形	(8.4)	(4.0)	1.8	—	口縁1/6～底部1/6	吹釉	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	—
165	169	69	4	④⑤	SK22	陶器	灯明受皿	平底	(8.0)	3.6	1.5	5.2	口縁小～底部1/2	吹釉	—	黒色粒・白色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	—
166	169	69	4	④⑤	SK22	陶器	楕鉢	口縁折縁形	(8.6)	—	(6.8)	—	口縁1/8～体部小	吹釉	—	黒色粒・長石	瀬戸・美濃系	—	—	—	—
171	170	70	4	④⑤	SK25	磁器	碗	—	(10.0)	—	(3.8)	—	口縁1/8	染付	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	
172	170	70	4	④⑤	SK27	陶器	皿	—	—	(1.1)	—	口縁小～底部小	吹釉	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	—	
173	170	70	4	④⑤	SK37	土製品	摩訶土製品	—	1.7	1.8	0.5	—	手づくね成形	—	白色粒・雲母	—	—	—	—	—	
179	170	70	4	④⑤	SD2	磁器	碗	筒形碗	(8.0)	—	(4.8)	—	口縁1/4～体部1/4	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	
180	170	70	4	④⑤	SD2	磁器	碗	端反碗	(11.0)	—	(3.5)	—	口縁～体部小	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	
181	170	70	4	④⑤	SD2	磁器	碗	平碗	(11.0)	—	(2.1)	—	口縁1/6～底部	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	
182	170	70	4	④⑤	SD2	磁器	碗	細筒形碗	(6.6)	—	(6.6)	—	口縁1/3～底部1/3	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	
183	170	70	4	④⑤	SD2	磁器	中皿	丸形	(21.2)	(10.4)	(5.4)	—	口縁小～底部小	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	
184	170	70	4	④⑤	SD2	磁器	蓋	碗蓋	(6.0)	—	(2.3)	—	楕部1/4	染付	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	
185	170	70	4	④⑤	SD2	磁器	人形	動物(狐)	(3.1)	1.8	2.6	—	頭部	透明釉	—	—	—	—	—	—	
186	170	70	4	④⑤	SD2	陶器	香炉	—	(13.0)	(12.6)	(4.5)	—	口縁1/4～底部小	吹釉	—	赤色粒・白色粒	—	—	—	—	
187	170	70	4	④⑤	SD2	ガラス	おほしき	—	1.6	1.6	0.5	—	平底	—	—	—	—	—	—	—	
188	170	70	4	④⑤	SD2	ガラス	おほしき	—	1.3	1.4	0.5	—	平底	—	—	—	—	—	—	—	
189	171	70	4	④⑤	遺構外	磁器	中碗	平碗	(11.4)	(3.4)	5.6	—	口縁1/5～底部1/2	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	—
190	171	70	4	④⑤	遺構外	磁器	小皿	丸形	12.7	7.1	2.2	—	口縁1/3～底部1/2	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	—
191	171	70	4	④⑤	遺構外	磁器	小皿	丸形	(11.6)	(6.0)	2.3	—	口縁1/2～底部1/2	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	—
192	171	70	4	④⑤	遺構外	磁器	合子	口縁蓋受け	4.8	5.6	2.7	—	平底	—	—	—	—	—	—	—	—
193	171	70	4	④⑤	遺構外	磁器	瓶	楕形	—	3.2	(7.5)	—	頭部小～底部	透明釉	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	—
194	171	70	4	④⑤	遺構外	磁器	戸車	—	7.8	7.8	1.3	—	平底	—	黒色粒	肥前系	—	—	—	—	—
195	171	70	4	④⑤	遺構外	陶器	灯明皿	無高台平形	(10.2)	(4.0)	2.4	—	口縁小～底部1/4	透明釉	—	黒色粒・白色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	—
196	171	70	4	④⑤	遺構外	陶器	片口か	平形	10.5	5.2	4.5	—	口縁2/3～底部	吹釉	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	—
197	171	70	4	④⑤	遺構外	土製品	目皿	—	(11.8)	12.1	1.4	—	小丸一部欠損	振作り成形	—	金色雲母・長石・微石粒	—	—	—	—	—
206	171	70	4	④⑤	遺構外	ガラス	瓶	—	6.1	3.4	2.3	—	ほぼ完形	形吹き成形	—	—	—	—	—	—	—
207	171	70	4	④⑤	遺構外	ガラス	瓶	—	1.2	1.4	4.6	—	完形	形吹き成形	—	—	—	—	—	—	—
208	171	70	4	④⑤	遺構外	ガラス	おほしき	—	3.1	3.0	0.7	—	ほぼ完形	型押し成形	—	—	—	—	—	—	—
209	171	70	4	④⑤	遺構外	ガラス	おほしき	—	2.8	3.0	0.6	—	ほぼ完形	型押し成形	—	—	—	—	—	—	—
210	171	70	4	④⑤	遺構外	ガラス	おほしき	—	1.5	1.6	0.4	—	完形	型押し成形	—	—	—	—	—	—	—

第11表 4区遺物観察表(陶磁器・土器・瓦・土製品・ガラス製品・ガラス製品)

報告書 番号	押図	写真 図版	工区	地点	遺構	種別	器種	形状	法量 (cm)				部位	成形技法	釉薬	絵付・装飾技法	胎土含有物	推定産地	推定生産年代	備考			
									A	B	C	D											
211	171	70	4	④⑤	遺構外	ガラス 製品	おはじき (石版)	—	—	1.3	1.5	0.4	—	—	—	—	—	近代	—	表裏に成形時の線状痕あり・気泡あり			
212	172	70	4	⑥	SK31	磁器	丸碗	丸碗	丸碗	—	(3.4)	(3.3)	—	染付	染付	黒色粒	肥前系	—	—	—			
213	172	70	4	⑥	SK31	陶器	丸碗	丸碗	丸碗	(8.4)	(3.0)	4.2	—	真鍮絵	透明油	白色粒・黒色粒	肥前系	—	—	半磁半陶			
214	172	70	4	⑥	SK32	磁器	丸碗	丸碗	丸碗	(10.2)	(4.0)	5.6	—	染付	透明油	黒色粒	肥前系	18C 前葉~中葉 (1700~1740年代)	—	見込みは蛇の目状雜割ざり			
215	172	70	4	⑥	SK32	磁器	小坏 (紅血か)	丸形	丸形	(6.8)	(2.6)	3.0	—	染付	透明油	黒色粒	肥前系	—	—	—			
216	172	70	4	⑥	SK32	磁器	鉢	端反形	端反形	(7.0)	(3.2)	5.0	—	染付	透明油	黒色粒	肥前系	—	—	—			
217	172	70	4	⑥	SK32	磁器	鉢	端反形	端反形	7.0	—	(3.8)	—	染付	透明油	黒色粒	肥前系	—	—	—			
218	172	70	4	⑥	SK32	陶器	中碗	半球碗	半球碗	(10.0)	—	5.1	—	色絵(赤・緑・金)	透明油	黒色粒	肥前系	—	—	—			
219	172	70	4	⑥	SK32	陶器	碗	半毛目碗	半毛目碗	(3.8)	(2.3)	—	—	刷毛目	透明油	—	京・信濃系か	—	—	—			
220	172	70	4	⑥	SK32	陶器	皿	—	—	—	(1.8)	—	—	—	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	志野皿か			
221	172	70	4	⑥	SK32	陶器	片口	丸形	丸形	11.8	—	5.9	—	—	灰釉	白色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—			
222	172	70	4	⑥	SK32	陶器	甗鉢	—	—	(11.2)	(4.4)	—	—	—	灰釉	白色粒・長石	瀬戸・美濃系か	—	—	—			
224	172	70	4	⑥	SK32	土質材	—	—	—	6.2	5.1	3.9	—	—	—	雲母・黒色雲母・長石・石英	—	—	—	—			
225	172	70	4	⑥	SK32	土質材	—	—	—	5.6	2.7	2.3	—	—	—	長石・石英	—	—	—	—			
226	172	70	4	⑥	SK32	土質材	—	—	—	5.8	5.3	2.7	—	—	—	雲母・長石・石英	—	—	—	—			
227	172	70	4	⑥	SK32	土質材	—	—	—	4.5	7.2	1.9	—	—	—	金色雲母・長石・石英	—	—	—	—			
228	172	71	4	⑥	遺構外	磁器	大碗	丸碗	丸碗	14.5	5.4	6.3	—	—	透明油	—	—	近代	—	—	—		
229	172	71	4	⑥	遺構外	磁器	中碗	丸碗	丸碗	(10.4)	3.4	5.9	—	—	透明油	—	—	近代	—	—	—		
230	172	71	4	⑥	遺構外	磁器	鉢	口縁肥厚形	鉢	19.8	(12.4)	5.6	—	—	透明油	—	—	近代か	—	—	—		
231	172	71	4	⑥	遺構外	磁器	鉢	口縁肥厚形	鉢	(11.1)	—	2.3	—	—	染付	黒色粒	肥前系	—	—	—	—		
232	173	71	4	⑥	遺構外	磁器	蓋	蓋物蓋	蓋	(9.2)	(8.2)	(2.5)	—	—	染付	黒色粒	肥前系	—	—	—	—		
233	173	71	4	⑥	遺構外	陶器	灯明皿	無高台平形	無高台平形	(7.3)	(3.0)	1.6	—	—	灰釉	黒色粒	肥前系	—	—	—	—		
234	173	71	4	⑥	遺構外	陶器	甗鉢	口縁外唇三段	甗鉢	(27.6)	—	(5.6)	—	—	—	赤色粒・白色粒・微石粒	明石・伊系	—	—	—	—		
235	173	71	4	⑥	遺構外	陶器	甗鉢	口縁外唇三段	甗鉢	—	—	(5.0)	—	—	—	白色粒・黒色粒	明石・伊系	—	—	—	—		
236	173	71	4	⑥	遺構外	陶器	蓋	蓋	蓋	(7.4)	3.5	1.7	—	—	—	白色粒・黒色粒	—	—	—	—	—		
238	173	71	4	⑥	遺構外	ガラス 製品	薬瓶	—	—	1.8	3.4	7.3	—	—	—	—	—	近代	—	—	—		
239	173	71	4	⑦	SD3	磁器	小碗	筒形碗	筒形碗	(7.0)	—	(4.8)	—	—	—	—	—	近代	—	—	—		
240	173	71	4	⑦	SD3	陶器	片口か	平形	平形	16.6	—	7.2	—	—	透明油	黒色粒	肥前系	18C 中葉~19C 初頭 (1740~1810年代)	—	—	—		
241	173	71	4	⑦	SD3	陶器	甗鉢	—	—	(16.0)	(2.9)	—	—	—	吹釉	黒色粒	瀬戸・美濃系	—	—	—	—		
242	173	71	4	⑦	SD3	陶器	甗	筒丸形	筒丸形	(9.4)	—	(4.7)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
243	173	71	4	⑦	SD3	陶器	土瓶	—	—	(6.0)	(4.5)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
244	173	71	4	⑦	SD4	磁器	小坏	端反形	端反形	(8.0)	—	(2.4)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
245	173	71	4	⑦	SD4	磁器	小皿	丸形	丸形	(10.8)	(6.0)	2.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
246	173	71	4	⑦	SD4	磁器	小皿	方形	方形	7.6	3.6	2.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
247	173	71	4	⑦	SD4	磁器	蓋	碗蓋	碗蓋	9.6	4.0	2.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
248	174	71	4	⑦	SD4	土器	大甗	口縁断面T字形	口縁断面T字形	(62.0)	—	(6.3)	—	—	—	—	赤色粒・白色粒・黒色粒・金 色雲母・長石・石英	—	—	—	—	—	
249	174	71	4	⑦	SD4	土器	大甗	口縁断面T字形	口縁断面T字形	56.2	—	(18.0)	—	—	—	—	赤色粒・白色粒	—	—	—	—	—	—
250	174	71	4	⑦	SD4	土器	七輪五徳	朝鮮形	朝鮮形	33.6	15.6	12.1	—	—	—	—	赤色粒・白色粒・金色雲母・ 黒色雲母	—	—	—	—	—	—
251	174	71	4	⑦	SD4	土器	七輪	胴部突朝鮮形	胴部突朝鮮形	(34.7)	25.6	24.4	—	—	—	—	白色粒・黒色粒・金色雲母・ 長石・石英	—	—	—	—	—	—
252	174	71	4	⑦	SD4	瓦	軒枝瓦 なし	小丸高台・文様 なし	小丸高台・文様 なし	(10.2)	(15.6)	1.7	—	—	—	—	白色粒	—	—	—	—	—	—
253	174	71	4	⑦	SD4	土製品	土製模造瓦	—	—	1.2	1.0	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
254	174	71	4	⑦	SD4	土製品	土管	—	—	(13.7)	(15.6)	1.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第12表 4区遺物観察表(木製品)

報告書 番号	押図 押図	写真 図版	工区	地点	遺構	種類	法量(cm)			備考
							()復元値・〈 〉残存値	A	B	
39	161	66	4	①②	SK17	部材	(39.0)	(6.4)	(8.8)	
40	161	66	4	①②	SK17	部材	(6.15)	(7.5)	(3.5)	
41	161	66	4	①②	SK17	部材	(56.5)	(7.4)	(2.2)	
42	161	66	4	①②	SK17	部材	(39.0)	(3.3)	(3.0)	
43	161	66	4	①②	SK17	部材	(32.5)	(6.9)	(5.2)	
50	161	66	4	①②	SK18	部材	(14.8)	(2.0)	(2.0)	
51	161	66	4	①②	SK18	部材	(43.2)	(4.8)	(3.7)	
52	161	66	4	①②	SK18	部材	(21.6)	(6.0)	(1.2)	
53	161	66	4	①②	SK18	部材	(25.8)	(4.4)	(2.1)	
54	161	66	4	①②	SK18	部材	(29.7)	(7.8)	(3.5)	
55	161	66	4	①②	SK18	部材	(26.1)	(5.4)	(2.3)	
113	165	67	4	③	SK15	曲物蓋	12.6	—	0.6	中心に痛みを取り付けける孔あり
153	168	68	4	③	遺構外	箸	(15.2)	0.8	0.8	表面が酸化している。

第13表 4区遺物観察表(石製品)

報告書 番号	押図 押図	写真 図版	工区	地点	遺構	種類	法量(cm)			備考
							()復元値・〈 〉残存値	A	B	
17	159	65	4	①②	SK6	硯	(10.2)	6.1	1.8	
57	162	66	4	①②	SS9	石臼	(13.4)	(25.2)	9.0	上白・3分画・5溝確認(全体は6分画8溝か)・芯棒孔残存 上白・3分画・5溝確認(全体は8分画か)・溝の上に3本の細い溝あり・ 供給口残存・ものくぼりと思われる溝あり・柄穴残存
58	162	66	4	①②	SS9	石臼	(21.3)	(30.0)	7.5	柄部分
70	162	66	4	①②	SD1 (SK5)	ヒラ鉢か	(9.0)	(6.7)	2.9	
116	165	68	4	③	SS7	石臼	(22.2)	(16.3)	7.1	上白・2分画・4溝確認(全体は8分画か)・底部に溝あり・榫木を通 して固定したか
117	165	68	4	③	SS7	石臼	(16.6)	(20.0)	8.3	上白・2分画・7溝確認(全体は8分画か)・芯棒孔残存・底部に溝あり、 榫木を通して固定したか
118	165	68	4	③	SS8	石臼	(11.5)	(10.7)	(10.1)	榫木を通して固定したか
119	165	68	4	③	SS8	石臼	(14.6)	(16.7)	11.3	上白・2分画確認、2溝か(全体は6分画8溝か)・供給口残存
137	167	68	4	③	SK1	石臼か	(21.5)	(21.4)	(13.7)	上白・8溝確認(全体は6分画8溝か)・供給口残存
167	169	69	4	④⑤	SK22	石臼	(21.4)	35.7	14.4	下白・摩耗により分画不明、6溝か・芯棒孔あり・底部に溝あり、榫 木を通して固定したか
168	169	69	4	④⑤	SK22	石臼	(19.7)	(33.5)	12.9	上白・4分画・5溝確認(全体は8分画か)・供給口残存・芯棒受け残存・ 柄穴2ヶ所残存
169	170	69	4	④⑤	SK22	石臼	(19.3)	33.8	10.5	下白・摩耗により分画不明、19溝確認(荒研ぎに用いられる放射型 の臼か)・芯棒孔残存・底部に溝あり、榫木を通して固定したか
170	170	69	4	④⑤	SK22	石臼	(15.9)	(27.0)	7.5	下白・溝の判別不能(目無し臼か)
178	170	69	4	④⑤	SK37	石臼	(20.7)	(18.4)	11.9	上白・分画不明、4溝確認
205	171	70	4	④⑤	遺構外	礫石形石製品	2.2	2.2	0.3	

第14表 4区遺物観察表(銭貨・金属製品)

報告書 番号	押図 押図	写真 図版	工区	地点	遺構	種類	法量(cm)				備考
							()復元値・〈 〉残存値	A	B	C	
56	162	66	4	①②	SP7	元祐通宝	2.4	0.7	0.1	—	銅銭・行書体・北宋・元祐元年(1086)初鑄
69	162	66	4	①②	SD1 (SK5)	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初鑄
105	164	67	4	①②	遺構外	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初鑄
106	164	67	4	①②	遺構外	一銭	2.8	—	0.2	—	銅貨・明治32年(1899)発行
114	165	68	4	③	SP14	治平元宝	2.4	0.6	0.1	—	銅銭・篆書体・北宋・治平元年(1064)初鑄
151	168	68	4	③	遺構外	一銭	1.8	—	0.1	—	銅貨・明治20年(1887)発行
152	168	68	4	③	遺構外	小刀	18.4	2.3	0.7	—	鉄製・櫛に木綴が残存・柄か
174	170	69	4	④⑤	SK37	銭貨	1.8	—	0.2	—	ニッケル硬貨・判読不明
175	170	69	4	④⑤	SK37	煙管	1.2	4.8	1.6	1.0	雁首・真鍮製・敲打痕あり
176	170	69	4	④⑤	SK37	和鉄	(6.5)	(1.3)	0.4	—	鉄製
177	170	69	4	④⑤	SK37	金尺	(7.8)	1.4	0.2	—	銅製・目盛り1分間隔(約3mm)
199	171	70	4	④⑤	遺構外	寛永通宝	2.5	0.5	0.1	—	古寛永・銅銭・寛永13年(1636)初鑄
200	171	70	4	④⑤	遺構外	寛永通宝	(1.9)	(0.6)	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初鑄
201	171	70	4	④⑤	遺構外	寛永通宝	2.5	0.6	0.1	—	新寛永・銅銭・元禄10年(1697)初鑄
202	171	70	4	④⑤	遺構外	一銭	2.8	—	0.2	—	銅貨・明治18年(1885)発行
203	171	70	4	④⑤	遺構外	一銭	2.3	—	0.1	—	銅貨・昭和7年(1932)発行
204	171	70	4	④⑤	遺構外	煙管	(6.8)	1.0	0.5	—	吸口・銅製
223	172	70	4	⑥	SK32	環状金具	(2.2)	2.5	0.3	—	銅製
237	173	71	4	⑥	遺構外	一銭	1.8	—	0.1	—	銅貨・明治25年(1892)発行
255	174	71	4	⑦	SD4	寛永通宝	2.2	0.7	0.1	—	新寛永不旧手・銅銭・元禄10年(1697)
256	174	71	4	⑦	SD4	寛永通宝	2.8	0.7	0.1	—	背十一波・真鍮製・明和6年(1769)
257	174	71	4	⑦	SD4	文久永宝	2.7	0.7	0.1	—	背十一波・銅製・楷書体・文久3年(1863)

第6章 自然科学分析

第1節 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtadze・小林克也

1. はじめに

山梨県甲府市の甲府城下町遺跡から出土した試料について、ウィグルマッチング法を用いた、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、同一試料を用いて樹種同定も行われている（樹種同定の項参照）。

2. 試料と方法

試料は、3区F地点SK52の最下層で出土した礎板（木308）である。試料は、ウィグルマッチング法を用いて測定を行った。測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。

SK52の木308は、樹種はケヤキで、年輪数は110年、最終形成年輪は残っていなかったが、辺材部が残っていた。測定試料の採取位置は、外側から1～5年輪目（PLD-44058）、56～60年輪目（PLD-44059）、106～110年輪目（PLD-44060）の3か所である。試料は、発掘調査所見によれば、江戸時代前期～中期の礎板と考えられている。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

表1 ウィグルマッチング測定試料および処理

測定番号	遺跡・試料データ	採取データ	前処理
PLD-44058	試料No. 木308 工区：3区	採取位置：外側から1～5年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-44059	調査地点：F地点 遺構：SK52 遺物No. 1 種類：生材（ケヤキ） 試料の性状：辺材部 器種：礎板	採取位置：外側から56～60年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-44060	年輪数：110年 状態：dry	採取位置：外側から106～110年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)

3. 結果

表2に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、ウィグルマッチング結果を、図版1にウィグルマッチング結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代（yrBP）の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.27%であることを示す。

なお、暦年較正、ウィグルマッチング法の詳細は以下のとおりである。

[暦年較正]

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.4 (較正曲線データ: IntCal20) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.27% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.45% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

[ウィグルマッチング法]

ウィグルマッチング法とは、複数の試料を測定し、それぞれの試料間の年代差の情報を用いて試料の年代パターンと較正曲線のパターンが最も一致する年代値を算出することによって、高精度で年代値を求める方法である。測定では、得られた年輪数が確認できる木材について、1 年毎或いは数年分をまとめた年輪を数点用意し、それぞれ年代測定を行う。個々の測定値から暦年較正を行い、得られた確率分布を最外試料と当該試料の中心値の差だけずらしてすべてを掛け合わせるにより最外試料の確率分布を算出し、年代範囲を求める。なお、得られた最外試料の年代は、まとめた 5 年輪の中心の年代を表している。したがって、試料となった木材の最外年輪年代を得るためには、最外試料の中心よりも外側にある年輪数 2 年 (2.5 年を小数以下切り捨て) を考慮する必要がある。

表2 放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD-44058 試料No. 木308 外側から1~5年輪目	-26.76 \pm 0.20	304 \pm 17	305 \pm 15	1524-1560 cal AD (48.35%) 1564-1572 cal AD (7.20%) 1631-1641 cal AD (12.72%)	1513-1591 cal AD (73.81%) 1620-1645 cal AD (21.64%)
PLD-44059 試料No. 木308 外側から56~60年輪目	-26.65 \pm 0.21	338 \pm 18	340 \pm 20	1499-1525 cal AD (21.43%) 1558-1600 cal AD (33.84%) 1616-1632 cal AD (12.99%)	1481-1529 cal AD (30.92%) 1539-1635 cal AD (64.53%)
PLD-44060 試料No. 木308 外側から106~110年輪目	-26.61 \pm 0.22	360 \pm 18	360 \pm 20	1476-1517 cal AD (38.59%) 1590-1620 cal AD (29.68%)	1459-1524 cal AD (49.71%) 1559-1565 cal AD (1.47%) 1571-1631 cal AD (44.26%)
最外試料年代				1564-1582 cal AD (46.18%) 1621-1629 cal AD (22.09%)	1561-1599 cal AD (61.59%) 1612-1636 cal AD (33.86%)
最外年輪年代				1566-1584 cal AD (46.18%) 1623-1631 cal AD (22.09%)	1563-1601 cal AD (61.59%) 1614-1638 cal AD (33.86%)

4. 考察

測定の結果、SK52 の木 308 の最外年輪年代は、 2σ 暦年代範囲で 1563-1601 cal AD (61.59%) および 1614-1638 cal AD (33.86%) で、16 世紀後半~17 世紀前半の暦年代を示した。これは、室町時代~江戸時代前期に相当する。

なお、木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる (古木効果)。今回の試料は、最終形成年輪は残っていなかったが、辺材部が残っており、古木効果の影響をわずかに受けていると考えられ、実際に枯死もしくは伐採された年代は、測定結果よりもわずかに新しい年代であると考えられる。

発掘調査および遺物整理作業の所見によれば、SK52 の試料は江戸時代前期~中期にかけて存在した何らかの建造物の礎板と考えられている。試料は辺材部を有しており、古木効果の影響はわずかであると考えられる。そのため、測定結果と発掘調査所見は、整合的である。

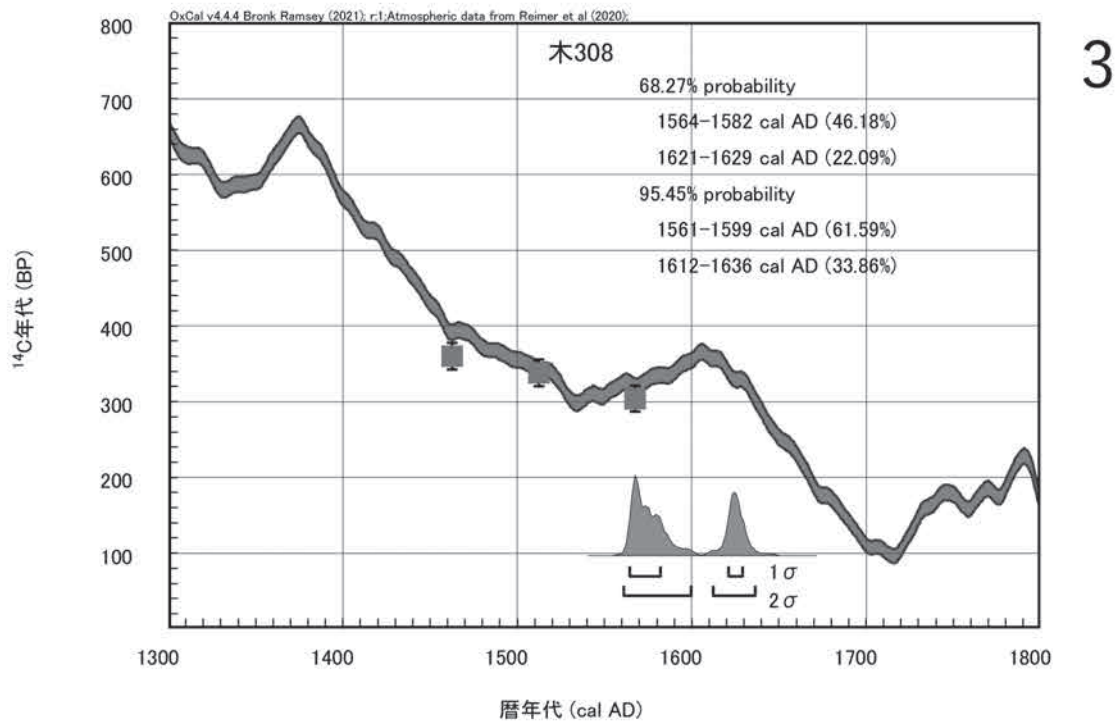
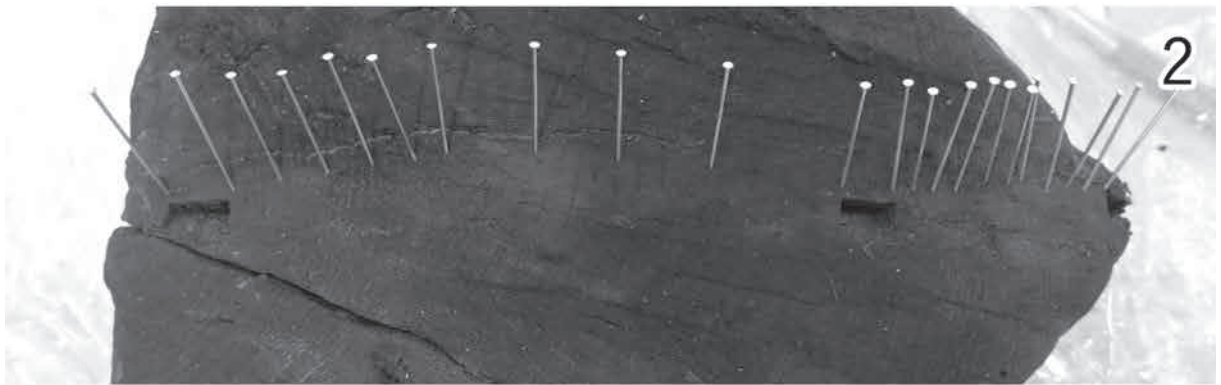
参考文献

Bronk Ramsey, C., van der Plicht, J., and Weninger, B. (2001) 'Wiggle matching' radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 43(2A), 381-389.

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編「日本先史時代の¹⁴C年代」: 3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)



図版1 ウィグルマッチングを行なった試料 (ピンの間隔は5 年輪)

1. 木308 年輪計測結果 (PLD-44058 ~ 44060)
2. 木308 測定試料の採取位置 (PLD-44058 ~ 44060)
3. 木308 ウィグルマッチング結果

第2節 甲府城下町遺跡出土木材の樹種同定

小林克也 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

山梨県甲府市の甲府城下町遺跡から出土した木材の樹種同定を行った。なお、一部の試料については放射性炭素年代測定も行われている(放射性炭素年代測定の項参照)。

2. 試料と方法

試料は、2区、3区、4区から出土した生の木製品各2点で、計6点である。いずれも江戸時代後期～近代の木製品・木材と考えられている。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行なった。

樹種同定は、材の横断面(木口)、接線断面(板目)、放射断面(柁目)について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラルで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

3. 結果

同定の結果、針葉樹ではモミ属とマツ属複雑管束亜属、アスナロの3分類群、広葉樹ではケヤキとクリの2分類群の、計5分類群がみられた。クリが2点で、その他の樹種はいずれも1点ずつであった。同定結果を表1に、一覧を付表1に示す。

表1 甲府城下町遺跡出土木材の樹種同定結果

樹種/器種	敷居播材	礎板	板	部材	自然木	合計
モミ属			1			1
マツ属複雑管束亜属	1					1
アスナロ				1		1
ケヤキ		1				1
クリ				1	1	2
合計	1	1	1	2	1	6

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡写真を示す。

(1) モミ属 *Abies* マツ科 図版1 1a-1c(木327)

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ1～8列となる。分野壁孔は小型のスギ型で、1分野に2～4個みられる。また、放射組織の末端壁は数珠状に肥厚する。

モミ属には高標高域に分布するシラビソ、オオシラビソ、ウラジロモミと、低標高域に分布するモミなどがあり、いずれも常緑高木である。材はやや軽軟で、切削その他の加工は容易、割裂性も大きい。

(2) マツ属複雑管束亜属 *Pinus subgen. Diploxylon* マツ科 図版1 2a-2c(木24)

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射柔細胞および放射仮道管で構成される針葉樹である。放射組織は放射柔細胞と放射仮道管によって構成される。放射仮道管の内壁の肥厚は鋸歯状であり、分野壁孔は窓状となる。

マツ属複雑管束亜属には、アカマツとクロマツがある。どちらも温帯から暖帯にかけて分布し、クロマツは海の近くに、アカマツは内陸地に生育しやすい。材質は類似し、重硬で切削等の加工は容易である。

(3) アスナロ *Thujopsis dolabrata* (L.f.) Siebold et Zucc. ヒノキ科 図版1 3a-3c(木185)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行はやや急である。放射組織は単列で、高さ2～13列となる。分野壁孔は小型のヒノキ～スギ型で、1分野に2～4個みられる。

アスナロは温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。針葉樹の中では比較的軽軟で、切削等の加工は比較的容易である。また、精油分が多く、耐朽性に優れている。

(4) ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 図版1 4a-4c(木308)

年輪のはじめに大型の道管が1～2列並び、晩材部では急に径を減じた道管が多数複合し、接線～斜線方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん

肥厚がみられる。放射組織は上下端 1 列が方形となる異性で、高さ 1～5 列となる。放射組織の上下端には、結晶が認められる。

ケヤキは温帯から暖帯にかけての肥沃な谷間などに好んで生育する落葉高木の広葉樹である。材はやや重くて硬いが、切削などの加工はそれほど困難ではない。

(5) クリ *Castanea crenata* Siebold. et Zucc. ブナ科 図版 1 5a-5c(木 332)、6a(木 310)

年輪のはじめに大型の道管が 1～3 列並び、晩材部では徐々に径を減じる道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列である。

クリは、北海道の石狩、日高地方以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

4. 考察

木製品では、敷居播材はマツ属複維管束亜属、基礎はケヤキ、板はモミ属、部材はアスナロとクリであった。モミ属とマツ属複維管束亜属、アスナロは木理通直で真っすぐに生育し、加工性が良く、いずれも水湿に強い樹種である。またアスナロとクリは堅硬な部類に属する樹種である（伊東ほか，2011）。山梨県内の江戸時代後期の木製品では、今回産出したモミ属、マツ属複維管束亜属、アスナロ、ケヤキ、クリのいずれもが確認されており（伊東・山田編，2012）、傾向は一致する。例えばケヤキは、鰍沢河岸跡で門柱の基部材として利用されていた例がある。

また、今回の自然木はクリであった。クリは遺跡周辺で生育可能な樹種である（伊東ほか，2011）。

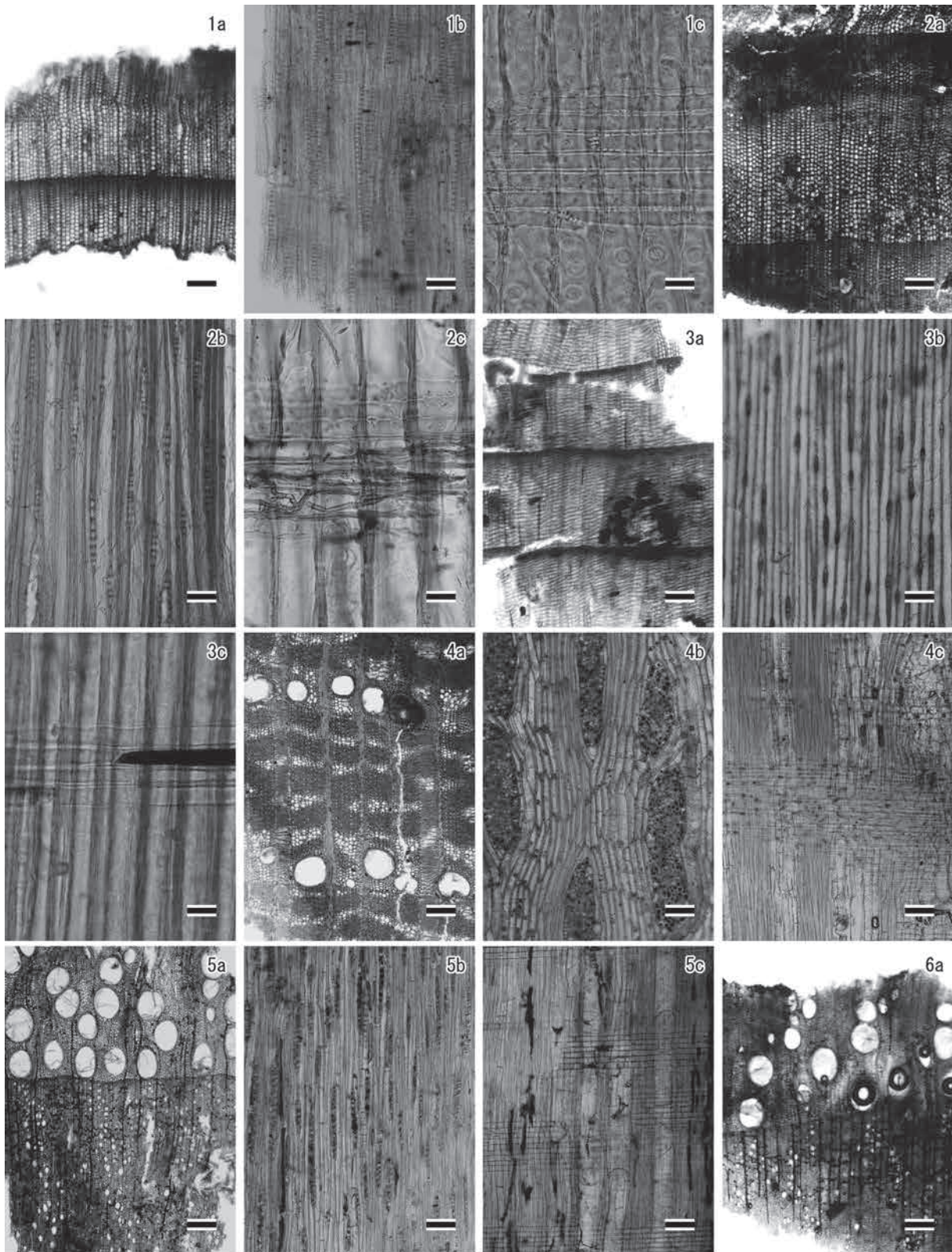
引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌. 238p, 海青社.

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学—出土木製品用材データベース—. 449p, 海青社.

付表1 甲府城下町遺跡出土木材の樹種同定結果一覧

試料No.	工区	調査地点	出土地点	取上No.	器種	樹種	木取り	備考	時期	年代測定番号
木24	2区	A-1地点	IG115		(攪乱内) 敷居播材	マツ属複維管束亜属	板目		江戸時代後期～近代	
木185	2区	A-2地点	SK46		部材	アスナロ	角材	ホゾ穴 2 か所	幕末～明治期	
木308	3区	F地点	SK52	1	礎板	ケヤキ	角材		江戸時代前期～中期	PLD-44058～44060
木310	3区	F地点	SD52	1	部材	クリ	板目		江戸時代前期～中期	
木327	4区	②地点	SK14		板	モミ属	板目		江戸時代後期か	
木332	4区	③地点	SK27		自然木	クリ	ミカン割		江戸時代中期～後期	



図版1 甲府城下町遺跡出土木材の光学顕微鏡写真

1a-1c. モミ属(木327)、2a-2c. マツ属複維管束亜属(木24)、3a-3c. アスナロ(木185)、4a-4c. ケヤキ(木308)、
5a-5c. クリ(木332)、6a. クリ(木310)

a:横断面(スケール=250 μm)、b:接線断面(スケール=100 μm)、c:放射断面(スケール=1-3:25 μm ・4、5:100 μm)

第3節 甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）出土の動物遺体

三谷智広（パレオ・ラボ）

1. はじめに

甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）の発掘調査において、遺構から動物遺体が出土した。ここでは、動物遺体の同定結果を報告する。

2. 試料と方法

動物遺体が出土した遺構の時期は、江戸時代後期～近代である。同定では、肉眼で試料を観察し、標本との比較により部位と分類群を同定した。

3. 結果

貝類では、斧足綱でハマグリ (*Meretrix lusoria*)、サルボウガイ (*Scapharca kagoshimensis*)、シジミ属 (*Corbicula* sp.)、フネガイ科 (*Arcidae* sp.)、腹足綱でサザエ (*Turbo sazae*)、マルタニシ (*Cipangopaludina chinensis laeta*)、ミミガイ科 (*Halioidea* sp.)、魚類ではマグロ属 (*Thunnus* sp.)、哺乳類ではヒト (*Homo sapiens sapiens*) が確認された。表1に同定結果一覧を示す。以下、遺構ごとに、出土した動物遺体を示す。

・2区 SK9

桶内から、硬骨魚綱が2点出土した。種は不明であるが、大型魚類の背鰭棘と思われる試料が1点見られる。

・2区 SK19

ハマグリの中殻8点と右殻9点、シジミ属の中殻1点が出土した。

・2区 SK20

サザエの中殻1点、フネガイ科の貝殻破片1点、マグロ属の椎骨1点が出土した。

・2区 SK50

サザエの貝殻破片1点が出土した。

・2区 SK100

フネガイ科の貝殻破片6点が出土した。

・2区 SD3

斧足綱で、フネガイ科の鉸歯部破片1点と殻破片2点、シジミ属中殻3点と右殻1点および殻破片1点、腹足綱でマルタニシ2点、種不明の殻軸破片1点が出土した。

・2区 SS30

ミミガイ科の殻破片1点が出土した。

・3区 SX1

サルボウガイ中殻1点、シジミ属中殻1点と右殻2点が出土した。

・3区 SE42

ヒトの右頭頂骨が出土した。

4. 考察

今回同定した動物遺体は、多くが食料残滓と考えられる。貝類と魚類の出土が中心であり、貝類の出土量が多い。サザエやサルボウガイ、マグロ属の出土から、これらの魚介類が海岸部から城下町に食用として持ち込まれたと考えられる。また、マルタニシの出土からは、淡水域における採取活動もあったとみられる。

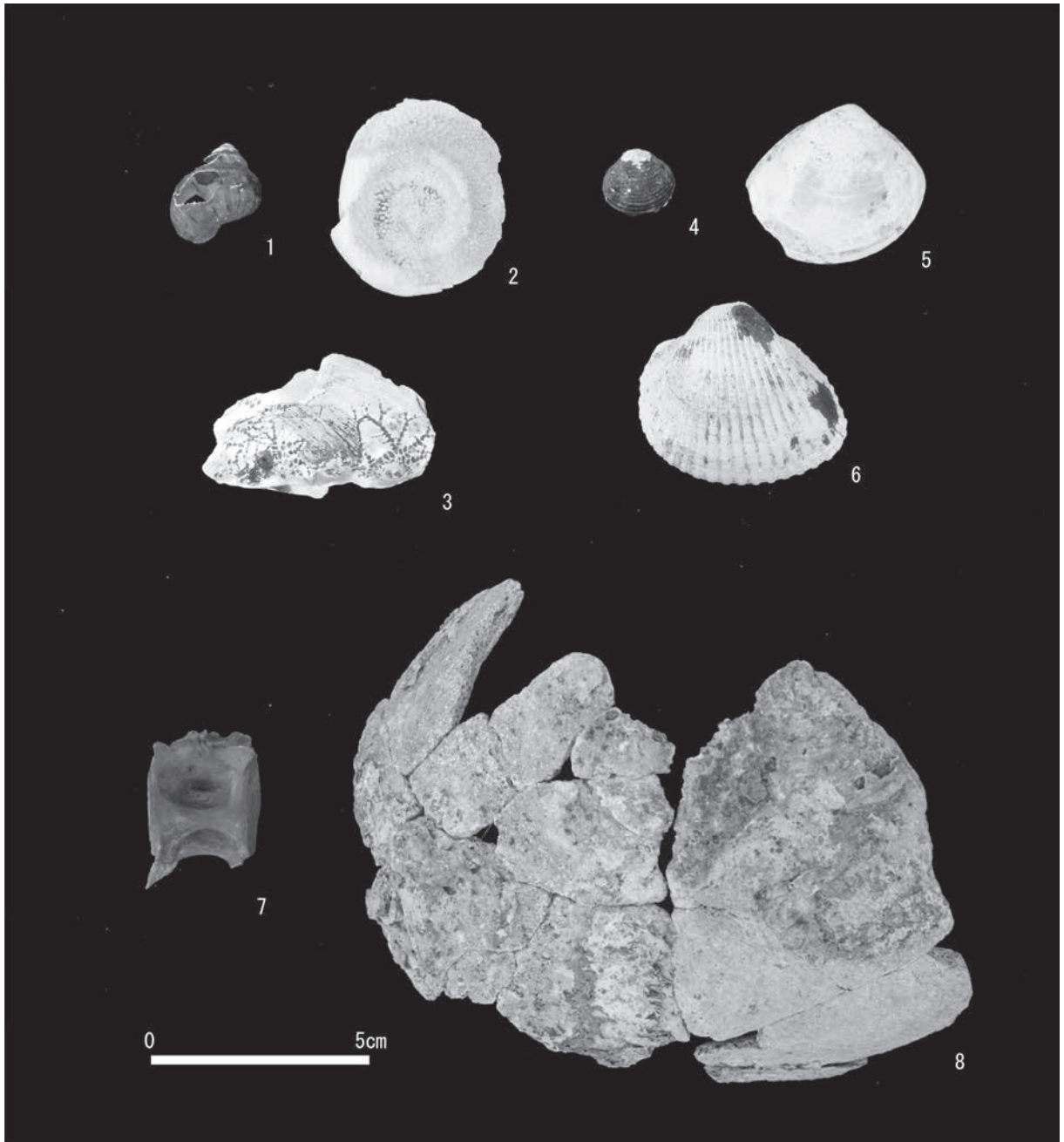
哺乳類ではヒトの右頭頂骨が出土したのみである。断片的にしか出土せず、全身の部位は見られなかった。後世の攪乱によって、人骨の一部が偶然掘り起こされ、遺構へ再堆積したと考えられる。

参考文献

奥谷喬司編（2000）日本近海産貝類図鑑。1173p，東海大学出版会。

表1 甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）出土動物遺体の同定結果

メモ 番号	工区	調査 地点	出土地 点	取上 No.	時期	分類群	部位	点数			部分・状態	備考	
								L	R	不明			
B11	2区	A-1	SK9	桶内	幕末～明治期 (幕末以降に埋没か)	硬骨魚綱	背鰭棘	1			ほぼ完存		
						硬骨魚綱	不明				1	破片	
B19	2区	A-2	SK19		近代 (大正期以降に埋没か)	ハマグリ	殻		8	9	ほぼ完存		
						シジミ属	殻			1		ほぼ完存	
B20	2区	A-2	SK20		江戸後期	フネガイ科	殻				1	破片	
						サザエ	蓋	1				ほぼ完存	
B21	2区	A-2	SD3		江戸後期	フネガイ科	殻				1	絞歯部破片	
						シジミ属	殻		1			1	破片
						腹足綱	殻	1					殻軸破片
B22	2区	A-2	SD3		江戸後期	マルタニシ	殻	2				体層の一部・殻口破損	
						フネガイ科	殻					2	破片
						シジミ属	殻		2	1			ほぼ完存
B31	2区	A-2	SK20		江戸後期	マグロ属	椎骨	1			椎体		
B32	2区	B-1	SK50		近代	サザエ?	殻	1			殻口破片		
B40	2区	D-1	SK100		江戸後期	フネガイ科	殻				6	破片	
B41	2区	D-1	SS30		近代	ミミガイ科	殻	1				破片	
B53	3区	A地点	SX1		江戸後期	サルボウガイ	殻		1			ほぼ完存	
						シジミ属	殻			1	2		ほぼ完存
B65	3区	E地点	SE42	NO.1	幕末～明治期か	ヒト	頭頂骨			1		破片	未接合破片14点



図版1 甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）出土の動物遺体

1. マルタニシ殻（2区, A-2, SD3） 2. サザエ蓋（2区, A-2, SK20） 3. ミミガイ科（2区, D-1, SS30）
 4. シジミ属右殻（2区, A-2, SK19） 5. ハマグリ右殻（2区, A-2, SK19） 6. サルボウガイ左殻（3区, A地点, SX1）
 7. マグロ属椎骨（2区, A-2, SK20） 8. ヒト右頭頂骨（3区, E地点, SE42）

第4節 甲府城下町遺跡から発見された昆虫化石と古環境

森 勇一（東海シニア自然大学）・株式会社パレオ・ラボ

1. はじめに

山梨県甲府市の甲府城下町遺跡は、武田信玄ゆかりの城下町である。戦国時代の武田家滅亡ののちは徳川家の領地となり、甲府城が建設されるとともに、江戸時代以降に甲府藩が設置されて徳川家直属の城主らがこの地をおさめ、明治新政府により廃城とされるまで連綿として継続し、城下町も大いに栄えてきた。

ここでは中央5丁目2区および3区、4区における遺構内の堆積物から得られた昆虫化石を同定し、当時の古環境について検討した。なお、同じ堆積物を用いて大型植物遺体分析と寄生虫卵分析、花粉分析も行われている（別項参照）。

2. 試料と方法

昆虫試料は、表1-1～表1-5に示した計15試料である。分析試料が採取されたのは、江戸時代中期～後期の2区SK51と4区SK18、江戸時代後期の2区のSK72、SK87、SD7、SD10、SD11、3区SK11、4区SK14、SD1、江戸時代後期～幕末の2区SK45、近代の2区SK22、SK90、4区SD2の14遺構で、江戸時代中期から後期を中心に、明治期以降の近代を含む。

堆積物試料の水洗はパレオ・ラボにて行なわれ、最小0.5mm目の篩を用いて100ccを水洗したものである。昆虫の抽出および同定は、実体顕微鏡下で行った。

昆虫化石の同定は、筆者採集の現生標本と実体顕微鏡下で1点ずつ比較のうえ実施した。昆虫化石は、いずれも節片に分離した状態で検出されており、本論に記した産出点数は、昆虫の個体数を示していない。

3. 分析結果

同定の結果、試料1（2区SK22）から計54点、試料2（2区SK45）から87点、試料3（4区SK51）から8点、試料4（2区SK72）から5点、試料5（2区SK87）から16点、試料6（2区SK90）から16点、試料7（2区SD7）から11点、試料8（2区SD10）から4点、試料9（2区SD11）から4点、試料10～12（3区SK11、4区のSK14、SK18）からそれぞれ5点、試料13（4区SD1）から8点、試料14と15（4区SD2）から計14点の、計242点の昆虫化石が確認された（表1、2）。産出した昆虫化石のうち、主なものについては、図版1～3に実体顕微鏡写真を掲げた。

分類群ごとにみると、目レベルまで同定したもの2目7点、科レベル13科106点、属レベルは9属26点、種まで同定できたものは19種65点であった。これ以外に、不明甲虫とした昆虫が38点存在する。検出部位別では、上翅（Elytron）が最も多く、続いて前胸背板（Pronotum）、腿脛節（Legs）、腹部（Abdomen）などであった。

生態別では、地表性歩行虫が計82点（33.9%）、うち食糞性ないし食屍性昆虫は計13点（5.4%）含有された。陸生の食植性昆虫は計49点（20.2%）確認され、水生昆虫は食植性および食肉性の両タイプを含めて計3点（1.2%）確認されたのみであった。ハエ目が計50点（20.7%）出現している。

特徴的な種についてみると、最も多く発見された昆虫は、オオクロバエ *Calliphora lata* のサナギ（計23点）であった。本種は、人糞を貯めたくみ取り便所で発生し（日本家屋害虫学会編，1995）、動物の死体や獣糞にも集まる。次に、同じハエ類に属するショウジョウバエ属 *Drosophila* sp. のサナギが計13点で、多産した。ショウジョウバエは、発酵果実や発酵食品に固有の小型のハエの仲間である。人家周辺に生息し、動物の死体や動物質の腐敗物にたかるキンバエ *Lucilia caesar* のサナギが試料2を中心に計9点確認されている。前気門にキチン環に収れんする3条の裂溝を有する特徴（鈴木・緒方，1968）により同定される。同一試料からは、これらのハエ類のサナギを捕食するエンマムシ科やオサムシ科、ハネカクシ科なども得られている。

これ以外には、コメをはじめ、貯蔵された穀類を加害するコクゾウムシ *Sitophilus zeamais* が計 8 点、同じく穀物に集まり、貯穀害虫として著名なコクヌストモドキ *Tribolium castaneum* が計 3 点確認されている。なお、こうした貯穀性昆虫の多産から穀物貯蔵施設が存在した可能性を指摘した遺跡として、戦国時代の愛知県清洲城下町遺跡がある（森，2000）。

必ずしも確認点数は多くないが、鯉節や乾魚・羽毛製品・皮革などを食する（日本家屋害虫学会編，1995）ヒメカツオブシムシ *Attagenus unicolor*（4 点）や、貯蔵食品害虫として多くの文献（松崎・武衛，1993；日本家屋害虫学会編，1995）に登場するシバンムシ科が試料 1～3 より計 3 点確認されている。このほか、ウスイロキシムシ *Cryptophagus dilutus* が 2 点確認された点は重要である。

ウスイロキシムシは、体長 2.2～2.4mm の黄褐色の小型甲虫である。新築や改築した家の湿った壁に生ずるカビ類の孢子や菌糸を食べることが知られ、また貯穀や乾燥食品の害虫としても知られる（森本，1982）。屋外では、ワラの中や干し草の間などで発見されることが多く、倉庫や納屋の中で採集できるという（森本，1982）。本種は、甲府城下町遺跡の中央 5 丁目 I 区の調査でも産出しており（森・山本，2020）、乾物や動物質食品に固有の家屋害虫である。

食糞性昆虫では、獣糞や人糞に集まるエンマコガネ属 *Onthophagus* sp.（計 4 点）やマグソコガネ *Aphodius rectus*（1 点）を含むマグソコガネ属（計 3 点）のほか、腐敗した植物質のみならず人畜の糞に集まるマグソガムシ *Pachysternum haemorrhoum*（1 点）が得られている。いずれも汚物集積の指標昆虫（森，1999）である。こうした、糞虫の中に、ホソケシマグソコガネ *Trichorhyssemus asperulus* という名の小型種が含まれていた。本種は、前胸背板上に不規則な大小の顆粒を配し、3 ないし 4 条の横隆起を伴うという特徴的な胸部を有する糞虫である。ホソケシマグソコガネは、河川敷の粒度の細かい砂地やシバ地に生息する（岡島・荒谷ほか，2012）。

このほかに、ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* の頭部と、ドウガネブイブイ *A. cuprea* の右中脛節が確認されている。どちらもヒトが植栽した果樹や畑作物の葉を加害する人里昆虫である。

水生昆虫では、水たまりや水田など富栄養の止水域を好む食植性のセマルガムシ *Coelostoma stultum*（1 点）や、同じく食植性のヒメガムシ *Sternolophus rufipes*（1 点）のほか、わずかに流れのある浅い水域に生息する（中島ほか，2020）食肉性のコクロマメゲンゴロウ *Platambus insolitus*（1 点）が確認されている。

4. 考察

今回の甲府城下町遺跡（中央 5 丁目 2・3・4 区）から得られた昆虫化石は、同遺跡中央 4 丁目 I 区の分析結果（森・山本，2020）とも相互に関連しており、両者はよく似た昆虫組成を示した。また、中央 5 丁目 1 区の分析結果（森・株式会社パレオ・ラボ，2021）にも似かよった結果である。

今回の分析試料の時期については、江戸時代中期から後期を中心に、一部幕末より近代にかけての試料が含まれている。しかし、時期ごとに分けて議論するには各試料における産出点数が十分でないため、本報告では試料 1～15 を一括して述べる。したがって以下では、江戸時代中期から近代にかけて、甲府城下町遺跡の古環境がどのようなであったか、ムシが語る人々の暮らしについて考察した。

まず第一に、くみ取り式の便池に特有のオオクロバエのサナギの多さが特筆される。これは、遺跡内に人糞が存在した状況を示す証拠として注目される。特に、埋桶である 2 区 SK45（試料 2）で多産しており、この埋桶がくみ取り式の便槽であった可能性も考えられる。しかし、試料 2 には、便槽には決して生息しないエンマムシ科やオサムシ科、ハネカクシ科などの地表性昆虫に加え、果樹や畑作物の葉を加害するドウガネブイブイを含むサクラコガネ属やコガネムシ科、コメツキムシ科といった食植性昆虫が多数含有されている。このような昆虫化石の産出状況から、2 区 SK45 は便池や便槽などといった施設ではなく、ゴミ捨て場のような場所であったと推定される。2 区 SK45 には、初期のころ人間の大便も存在したと考えられる。人糞に依存せず、動物質の腐敗物にたかるキンバエの出現も、この推定を裏づけている。なお、寄生虫卵分析

の結果においても 2 区 SK45 で寄生虫卵の検出数が多く、糞便の存在を示唆している。

乾魚や羽毛製品などを食する家屋害虫のヒメカツオブシムシは、2 区 SK45 のみならず、2 区 SK87 (試料 5) や 4 区 SK18 (試料 12) から確認されている。また、貯蔵された食品類を加害するウスイロキシムシが 2 区 SK45 のほか、2 区 SK90 (試料 6) でも確認されており、これらの遺構が江戸時代中期から近代にかけて、食品残渣などを含め生活ゴミを捨てる場所として機能していたと考えられる。

また、貯穀性昆虫として知られるコクゾウムシやコクヌストモドキが、埋桶のみならず、2 区 SD11 (試料 9) から検出されており、甲府城下町遺跡に穀類の貯蔵施設が存在した可能性を示唆する。

5. まとめ

今回の甲府城下町遺跡 (中央 5 丁目 2 区および 3 区、4 区) からは、人糞に由来するオオクロバエや生活ゴミに集まるキンバエなどのサナギが多数確認された。特に 2 区の SK22 (試料 1) および SK45 (試料 2) で顕著であり、ヒトが集中居住していた様子がわかる。この傾向は、ハエ類のサナギを捕食するエンマムシ科やオサムシ科、ハネカクシ科などの多産によっても裏づけられる。

穀類に依存するコクゾウムシやコクヌストモドキの検出は、遺跡内において穀物貯蔵庫が存在した可能性を示している。

また、一部の試料からは、人為度の高い植生に依存して生活するヒメコガネやドウガネブイブイなどの食葉性昆虫が確認され、遺跡周辺には果樹や畑作物などの有用植物が植栽されていたと考えられる。

引用文献

松崎沙和子・武衛和雄 (1993) 都市害虫百科. 236p, 朝倉書店.

森 勇一 (1999) 昆虫化石よりみた先史～歴史時代の古環境変遷史. 国立歴史民俗博物館研究報告, 81, 311-342.

森 勇一 (2000) 愛知県清洲城下町遺跡 (中世) から産出した貯穀性昆虫について. 家屋害虫 (日本家屋害虫学会誌), 22, 61-67.

森 勇一・山本 華 (2020) 甲府城下町遺跡 (中央 4 丁目 I 工区) から出土した昆虫化石. 昭和測量株式会社編「甲府城下町遺跡 XX」: 479-528, 甲府市教育委員会.

森 勇一・株式会社パレオ・ラボ (2021) 甲府城下町遺跡 (中央 5 丁目 1 区) から出土した昆虫組成について. 昭和測量株式会社編「甲府城下町遺跡 26 (中央 5 丁目 1 区)」: 170-182, 甲府市教育委員会.

森本 桂 (1982) 家屋の中で発見されるキシムシの 1 種について. 家屋害虫, 11・12, 60-61.

中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富広幸 (2020) 日本の水生昆虫. 351p, 文一総合出版.

日本家屋害虫学会編 (1995) 家屋害虫事典. 468p, 井上書院.

岡島秀治・荒谷邦雄・細谷忠嗣・酒井 香・越智輝雄・和田 薫・松本 武・栗原 隆・谷角素彦・平沢伴明・鈴木知之 (2012) 日本産コガネムシ上科標準図鑑. 444p, 学習研究社.

鈴木 猛・緒方一喜 (1968) 日本の衛生害虫 - その生態と防除 -. 245p, 新思想社.

表1-1 甲府城下町遺跡昆虫化石リスト (No.1)
試料1

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	調査年度/ サンプル	層位	遺構名	時期
1	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	3.8	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK22	近代
2	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	2.4	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK22	近代
3	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板	1.1	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
4	キマワリ	<i>Plesiophthalmus nigrocyaneus</i> Motschusky	上翅片	2.3	食植性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
5	ミズギワゴミムシ属	<i>Bembidion</i> sp.	右上翅	2.9	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
6	クロオオアリ	<i>Camponotus japonicus</i> Mavr	頭部	0.8	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
7	カズオブシムシ科	Dermostidae gen. et sp. indet.	右上翅	2.1	貯穀性	家屋害虫	2区, A-2	-	SK22	近代
8	シバンムシ科	Anobiidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	2.4	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
9	ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i> (Fabricius)	腹部腹板	3.1	食植性	水生	2区, A-2	-	SK22	近代
10	マグソコガネ属	<i>Aphodius</i> sp.	前胸背板片	1.2	食糞性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
11	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部背板	1.8	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
12	マルガタガミムシ属	<i>Amara</i> sp.	頭部片	1.4	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
13	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	2.2	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
14	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部背板	2.8	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
15	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> Motschulsky	頭部	2.4	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK22	近代
16	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.6	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
17	キマワリ	<i>Plesiophthalmus nigrocyaneus</i> Motschusky	前胸背板片	1.6	食植性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
18	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	大顎	1.6	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
19	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.6	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
20	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	3.1	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
21	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.5	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
22	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.2	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
23	シデムシ科	Silphidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.4	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
24	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	2.1	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
25	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	右上翅	1.6	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK22	近代
26	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	2.2	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
27	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.5	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
28	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	1.5	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
29	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	2.1	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
30	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	大顎	1.6	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
31	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	大顎	2.3	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
32	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	腹部	0.5	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
33	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.5	不明	不明	2区, A-2	-	SK22	近代
34	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	0.8	不明	不明	2区, A-2	-	SK22	近代
35	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.2	不明	不明	2区, A-2	-	SK22	近代
36	ハムシ科	Crysmelidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.3	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK22	近代
37	ハムシ科	Crysmelidae gen. et sp. indet.	腿節	1.1	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK22	近代
38	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.5	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
39	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	1.4	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
40	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.1	不明	不明	2区, A-2	-	SK22	近代
41	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.5	不明	不明	2区, A-2	-	SK22	近代
42	カミキリムシ科	Cerambycidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.8	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK22	近代
43	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	1.6	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK22	近代
44	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部背板片	1.5	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
45	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.4	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
46	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	2.3	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
47	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.4	不明	不明	2区, A-2	-	SK22	近代
48	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	大顎	1.5	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
49	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	2.1	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK22	近代
50	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.5	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK22	近代
51	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.1	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK22	近代
52	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.6	不明	不明	2区, A-2	-	SK22	近代
53	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	腹部背板片	1.2	不明	不明	2区, A-2	-	SK22	近代
54	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.5	不明	不明	2区, A-2	-	SK22	近代

表1-2 甲府城下町遺跡昆虫化石リスト(No.2)
試料2

	和名	学名	部位	長さ(μm)	食性	生態	調査年度/サンプル	層位	遺構名	時期
1	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	1.1	貯穀性	家庭害虫	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
2	ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> Hope	右中腿節	5.2	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
3	ウスイロキヌイムシ	<i>Cryptophagus dilutus</i> Reitter	右翅	1.8	食菌性	屋内性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
4	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉鎖片	4.0	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
5	トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i> (Emery)	頭部	0.6	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
6	シバンムシ科	Anobiidae gen. et sp. indet.	左翅	1.7	貯穀性	家庭害虫	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
7	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉鎖片	3.2	発酵物食	屋内性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
8	エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	左後腿脛節	腿節1.8	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
9	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	閉鎖片	2.0	雑食性	屋外性など	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
10	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉鎖片	2.1	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
11	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板	3.8	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
12	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉鎖片	2.7	発酵物食	屋内性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
13	ヒラタコマズキワゴミムシ属	<i>Tachyura</i> sp.	左翅	2.2	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
14	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	閉鎖片	2.6	雑食性	屋外性など	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
15	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉鎖片	2.2	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
16	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	頭部	1.6	貯穀性	家庭害虫	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
17	ヒメカツオブシムシ	<i>Attaenus unicolor japonicus</i> Reitter	左翅下半	1.4	貯穀性	家庭害虫	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
18	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉鎖片	3.2	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
19	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉鎖片	2.5	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
20	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	閉鎖片	3.3	雑食性	屋外性など	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
21	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	閉鎖片	2.8	雑食性	屋外性など	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
22	ヒメカツオブシムシ	<i>Attaenus unicolor japonicus</i> Reitter	左翅上半	1.3	貯穀性	家庭害虫	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
23	クロオオアリ	<i>Camponotus japonicus</i> Mavr	頭部	1.4	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
24	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉鎖片	2.4	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
25	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉鎖片	2.8	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
26	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉鎖片	1.9	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
27	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉鎖片	2.4	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
28	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉鎖片	2.2	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
29	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉鎖片	3.1	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
30	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉鎖片	2.5	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
31	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	閉鎖片	2.5	雑食性	屋外性など	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
32	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	閉鎖片	3.2	雑食性	屋外性など	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
33	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	閉鎖片(後方気門)	2.6	雑食性	屋外性など	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
34	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	閉鎖片	2.2	雑食性	屋外性など	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
35	カメムシ目	Hemiptera fam. gen. et sp. indet.	頭部	0.8	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
36	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.5	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
37	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	腹部	0.5	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
38	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.6	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
39	カメムシ目	Hemiptera fam. gen. et sp. indet.	胸部	1.5	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
40	カメムシ目	Hemiptera fam. gen. et sp. indet.	胸部	2.0	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
41	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.6	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
42	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	2.1	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
43	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	2.2	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
44	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.6	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
45	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉鎖片	2.1	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
46	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉鎖片	2.2	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
47	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉鎖片	3.2	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
48	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.6	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
49	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.6	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
50	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上翅片	2.6	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
51	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.5	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
52	エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	腿節	2.2	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
53	コメツクムシ科	Elateridae gen. et sp. indet.	上翅片	1.6	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
54	ゴミムシ目	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.5	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
55	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.6	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
56	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.6	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
57	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.6	不明	不明	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
58	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	3.1	不明	不明	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
59	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	胸部	2.8	不明	不明	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
60	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	胸部	2.2	不明	不明	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
61	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	胸部	2.5	不明	不明	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
62	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.4	不明	不明	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
63	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.8	不明	不明	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
64	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.6	不明	不明	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
65	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	2.1	不明	不明	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
66	コメツクムシ科	Elateridae gen. et sp. indet.	上翅片	2.1	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
67	コメツクムシ科	Elateridae gen. et sp. indet.	上翅片	1.8	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
68	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉鎖片	1.9	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
69	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉鎖片	3.1	汚物食	屋外性, 便池	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
70	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	腹部	0.5	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
71	マグソコガネ属	<i>Anhodius</i> sp.	上翅片	1.5	食糞性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
72	エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	上翅片	1.4	食屍性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
73	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.1	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
74	コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.6	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
75	コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.4	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
76	カメムシ目	Hemiptera fam. gen. et sp. indet.	胸部	1.6	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
77	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.3	不明	不明	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
78	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.3	不明	不明	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
79	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.6	不明	不明	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
80	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	前胸背板片	0.6	食植性	好植性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
81	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉鎖片	2.1	発酵物食	屋内性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
82	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉鎖片	2.2	発酵物食	屋内性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
83	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉鎖片	0.9	発酵物食	屋内性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
84	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.6	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
85	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.5	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
86	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.5	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末
87	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.6	雑食性	地表性	2区, A-2	-	SK45	江戸後期～幕末

表1-3 甲府城下町遺跡昆虫化石リスト (No. 3-7)
試料3

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	調査年度/ サンプル	層位	遺構名	時期
1	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左上翅	1.5	貯穀性	家屋害虫	2区, B-1	-	SK51	江戸中期～後期
2	シバンムシ科	Anobiidae gen. et sp. indet.	右上翅	1.9	貯穀性	家屋害虫	2区, B-1	-	SK51	江戸中期～後期
3	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	0.9	貯穀性	家屋害虫	2区, B-1	-	SK51	江戸中期～後期
4	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	2.3	食屍性	地表性	2区, B-1	-	SK51	江戸中期～後期
5	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	1.8	食屍性	地表性	2区, B-1	-	SK51	江戸中期～後期
6	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板	1.4	雑食性	地表性	2区, B-1	-	SK51	江戸中期～後期
7	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.8	不明	不明	2区, B-1	-	SK51	江戸中期～後期
8	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左上翅片	1.2	貯穀性	家屋害虫	2区, B-1	-	SK51	江戸中期～後期

試料4

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	調査年度/ サンプル	層位	遺構名	時期
1	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉蛹片	1.4	発酵物食	屋内性	2区, E-1	-	SK72	江戸後期
2	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	腹部	1.4	雑食性	地表性	2区, E-1	-	SK72	江戸後期
3	ハムシ科	Crysmelidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.6	食植性	好植性	2区, E-1	-	SK72	江戸後期
4	エンマコガネ属	<i>Onthopagus</i> sp.	前胸背板片	2.8	食屍性	地表性	2区, E-1	-	SK72	江戸後期
5	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.6	食屍性	地表性	2区, E-1	-	SK72	江戸後期

試料5

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	調査年度/ サンプル	層位	遺構名	時期
1	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	1.1	貯穀性	家屋害虫	2区, E-1	-	SK87	江戸後期
2	ヒメカツオブシムシ	<i>Attaenus unicolor japonicus</i> Reitter	前胸背板	1.6	貯穀性	家屋害虫	2区, E-1	-	SK87	江戸後期
3	マグソコガネ	<i>Aphodius reclusus</i> (Motschulsky)	前胸背板片	1.8	食糞性	地表性	2区, E-1	-	SK87	江戸後期
4	ホソケシマコガネ	<i>Trichorhynchus asperulus</i> (Waterhouse)	前胸背板	1.2	食糞性	地表性	2区, E-1	-	SK87	江戸後期
5	ゼマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	頭部	0.9	食植性	水生	2区, E-1	-	SK87	江戸後期
6	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸腹板	0.6	貯穀性	家屋害虫	2区, E-1	-	SK87	江戸後期
7	エンマコガネ属	<i>Onthopagus</i> sp.	上翅片	2.8	食糞性	地表性	2区, E-1	-	SK87	江戸後期
8	エンマコガネ属	<i>Onthopagus</i> sp.	腹部腹板	2.8	食糞性	地表性	2区, E-1	-	SK87	江戸後期
9	エンマコガネ属	<i>Onthopagus</i> sp.	腹部腹板	2.6	食糞性	地表性	2区, E-1	-	SK87	江戸後期
10	ケラ	<i>Grvliotapa africana</i> Palisot de Beauvois	前脛節	1.0	雑食性	地表性	2区, E-1	-	SK87	江戸後期
11	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	前胸片	2.4	汚物食	屋外性, 便池	2区, E-1	-	SK87	江戸後期
12	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	5.1	食屍性	地表性	2区, E-1	-	SK87	江戸後期
13	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.6	食屍性	地表性	2区, E-1	-	SK87	江戸後期
14	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.6	不明	不明	2区, E-1	-	SK87	江戸後期
15	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	2.3	不明	不明	2区, E-1	-	SK87	江戸後期
16	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	4.1	雑食性	地表性	2区, E-1	-	SK87	江戸後期

試料6

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	調査年度/ サンプル	層位	遺構名	時期
1	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	上翅片	2.0	食植性	好植性	2区, E-1	-	SK90	近代か
2	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部背板片	2.2	食屍性	地表性	2区, E-1	-	SK90	近代か
3	ショウジョウバエ属2	<i>Drosophila</i> sp. -2	閉蛹片	3.0	発酵物食	屋内性	2区, E-1	-	SK90	近代か
4	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉蛹片	2.1	発酵物食	屋内性	2区, E-1	-	SK90	近代か
5	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉蛹片	2.2	発酵物食	屋内性	2区, E-1	-	SK90	近代か
6	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉蛹片	2.1	発酵物食	屋内性	2区, E-1	-	SK90	近代か
7	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉蛹片	1.5	発酵物食	屋内性	2区, E-1	-	SK90	近代か
8	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉蛹片	1.6	発酵物食	屋内性	2区, E-1	-	SK90	近代か
9	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉蛹片	1.8	発酵物食	屋内性	2区, E-1	-	SK90	近代か
10	マグソコガネ	<i>Pachysternum haemorrhoum</i> Motschulsky	左上翅	2.1	食糞性	地表性	2区, E-1	-	SK90	近代か
11	ウスイロクスイムシ	<i>Cryptophagus dilutus</i> Reitter	左上翅下半	1.4	食植性	好植性	2区, E-1	-	SK90	近代か
12	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	閉蛹片	3.6	汚物食	屋外性, 便池	2区, E-1	-	SK90	近代か
13	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.1	食屍性	地表性	2区, E-1	-	SK90	近代か
14	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.5	食屍性	地表性	2区, E-1	-	SK90	近代か
15	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.6	雑食性	地表性	2区, E-1	-	SK90	近代か
16	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	2.5	雑食性	地表性	2区, E-1	-	SK90	近代か

試料7

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	調査年度/ サンプル	層位	遺構名	時期
1	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	1.3	貯穀性	家屋害虫	2区, E-1	-	SD7	江戸後期か
2	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	左上翅下半	2.2	雑食性	地表性	2区, E-1	-	SD7	江戸後期か
3	アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.	上翅片	2.3	汚物食	屋外性, 便池	2区, E-1	-	SD7	江戸後期か
4	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.4	食植性	好植性	2区, E-1	-	SD7	江戸後期か
5	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.5	雑食性	地表性	2区, E-1	-	SD7	江戸後期か
6	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.1	不明	不明	2区, E-1	-	SD7	江戸後期か
7	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.0	食屍性	地表性	2区, E-1	-	SD7	江戸後期か
8	コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.5	食植性	好植性	2区, E-1	-	SD7	江戸後期か
9	ハムシ科	Crysmelidae gen. et sp. indet.	脛節	1.0	食植性	好植性	2区, E-1	-	SD7	江戸後期か
10	コマツキムシ科	Elateridae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.0	雑食性	地表性	2区, E-1	-	SD7	江戸後期か
11	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	閉蛹片	1.3	食屍性	地表性	2区, E-1	-	SD7	江戸後期か

表1-4 甲府城下町遺跡昆虫化石リスト (No. 8-12)

試料8

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	調査年度/ サンプル	層位	遺構名	時期
1	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部	1.0	雑食性	地表性	2区, E-2	-	SD10	江戸後期
2	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.1	雑食性	地表性	2区, E-2	-	SD10	江戸後期
3	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.2	不明	不明	2区, E-2	-	SD10	江戸後期
4	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.1	雑食性	地表性	2区, E-2	-	SD10	江戸後期

試料9

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	調査年度/ サンプル	層位	遺構名	時期
1	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	左上翅片	2.0	貯穀性	家屋害虫	2区, E-2	-	SD11	江戸後期
2	キマワリ	<i>Plesiophthalmus nigrocyaneus</i> Motschusky	前胸背板片	1.6	雑食性	地表性	2区, E-2	-	SD11	江戸後期
3	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	前胸背板片	1.4	貯穀性	家屋害虫	2区, E-2	-	SD11	江戸後期
4	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.6	不明	不明	2区, E-2	-	SD11	江戸後期

試料10

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	調査年度/ サンプル	層位	遺構名	時期
1	カツオブシムシ科	Dermestidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	2.8	貯穀性	家屋害虫	3区, B地点東	4層	SK11	江戸後期か
2	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.8	雑食性	地表性	3区, B地点東	4層	SK11	江戸後期か
3	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.4	不明	不明	3区, B地点東	4層	SK11	江戸後期か
4	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	右上翅片	1.2	貯穀性	家屋害虫	3区, B地点東	4層	SK11	江戸後期か
5	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	腹部	1.4	雑食性	地表性	3区, B地点東	4層	SK11	江戸後期か

試料11

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	調査年度/ サンプル	層位	遺構名	時期
1	コクロマダゲンゴロウ	<i>Platambus insolitus</i> (Sharp)	前胸背板	2.6	食肉性	水生	4区, ②地点	箱内	SK14	江戸後期か
2	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	2.8	雑食性	地表性	4区, ②地点	箱内	SK14	江戸後期か
3	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	胸部	1.3	不明	不明	4区, ②地点	箱内	SK14	江戸後期か
4	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.6	不明	不明	4区, ②地点	箱内	SK14	江戸後期か
5	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	開蝋片	2.0	汚物食	屋外性, 便池	4区, ②地点	箱内	SK14	江戸後期か

試料12

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	調査年度/ サンプル	層位	遺構名	時期
1	ヒメカツオブシムシ	<i>Attagenus unicolor japonicus</i> Reitter	左上翅	1.5	貯穀性	家屋害虫	4区, ②地点	8層	SK18	江戸中期～後期か
2	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.6	不明	不明	4区, ②地点	8層	SK18	江戸中期～後期か
3	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	2.1	不明	不明	4区, ②地点	8層	SK18	江戸中期～後期か
4	イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	開蝋片	1.2	雑食性	屋内性など	4区, ②地点	8層	SK18	江戸中期～後期か
5	ゴミシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.3	食植性	地表性	4区, ②地点	8層	SK18	江戸中期～後期か

表1-5 甲府城下町遺跡昆虫化石リスト (No. 13-15)

試料13

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	調査年度/ サンプル	層位	遺構名	時期
1	ヒメゾウムシの一種	<i>Limnobaris</i> sp.	左上翅片	1.4	食植性	好植性	4区, ②地点	1層	SD1	江戸後期か
2	ハムシ科	Crysmelidae gen. et sp. indet.	左上翅片	1.3	食植性	好植性	4区, ②地点	1層	SD1	江戸後期か
3	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.4	雑食性	地表性	4区, ②地点	1層	SD1	江戸後期か
4	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.1	食屍性	地表性	4区, ②地点	1層	SD1	江戸後期か
5	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	3.1	不明	不明	4区, ②地点	1層	SD1	江戸後期か
6	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	大顎	2.2	雑食性	地表性	4区, ②地点	1層	SD1	江戸後期か
7	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.5	食屍性	地表性	4区, ②地点	1層	SD1	江戸後期か
8	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	開蝋片	1.6	食屍性	地表性	4区, ②地点	1層	SD1	江戸後期か

試料14

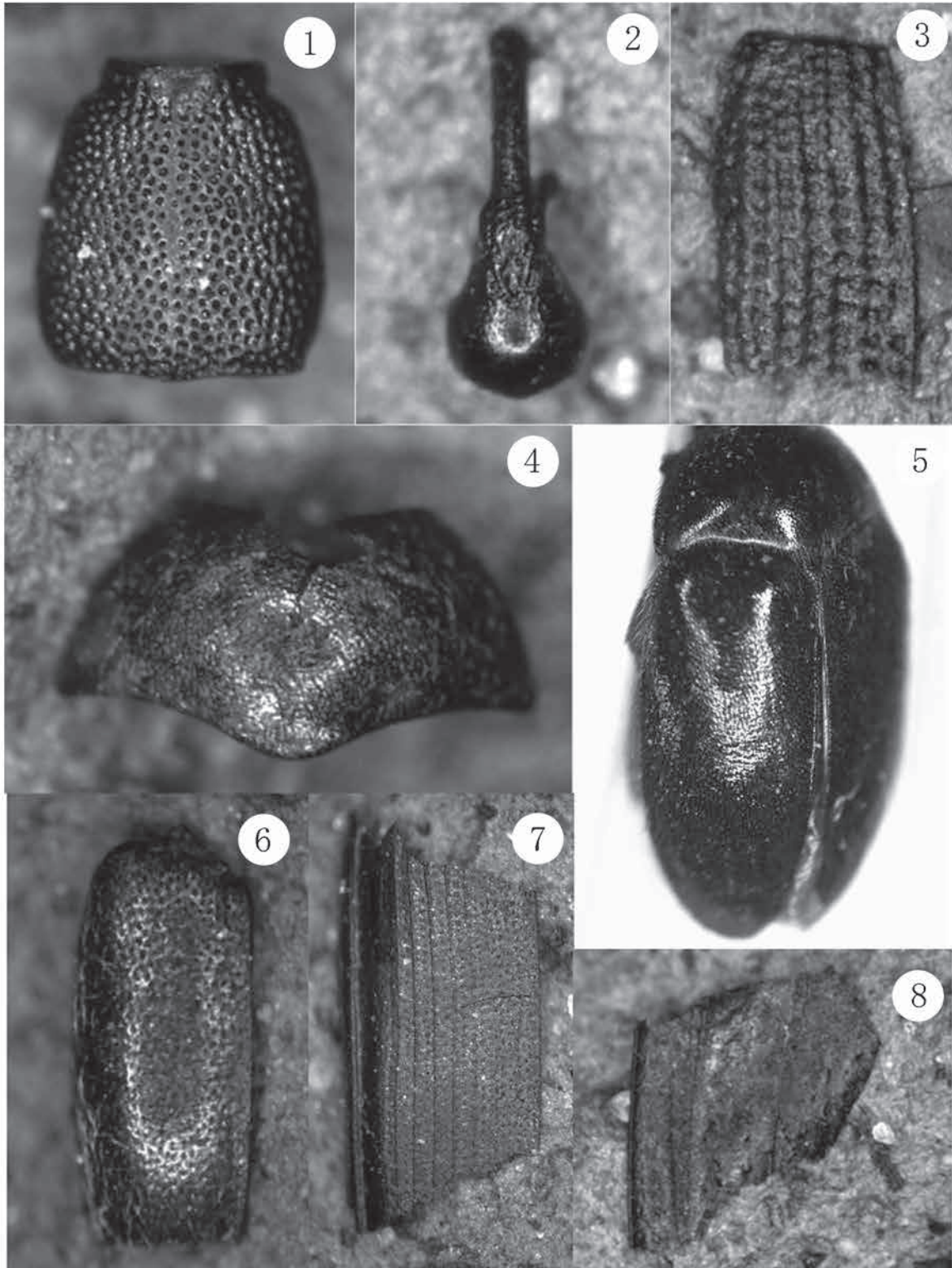
	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	調査年度/ サンプル	層位	遺構名	時期
1	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	腹部	1.4	雑食性	地表性	4区, ④・⑤地点	8層	SD2	近代
2	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	開蝋片	1.6	食屍性	地表性	4区, ④・⑤地点	8層	SD2	近代
3	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	開蝋片	1.8	発酵物食	屋内性	4区, ④・⑤地点	8層	SD2	近代
4	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上翅片	2.1	食屍性	地表性	4区, ④・⑤地点	8層	SD2	近代
5	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.6	雑食性	地表性	4区, ④・⑤地点	8層	SD2	近代
6	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	2.2	雑食性	地表性	4区, ④・⑤地点	8層	SD2	近代
7	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.4	不明	不明	4区, ④・⑤地点	8層	SD2	近代
8	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.8	不明	不明	4区, ④・⑤地点	8層	SD2	近代
9	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	2.1	不明	不明	4区, ④・⑤地点	8層	SD2	近代

試料15

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	調査年度/ サンプル	層位	遺構名	時期
1	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	胸部	3.2	不明	不明	4区, ④・⑤地点	7層	SD2	近代
2	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上翅片	2.1	食屍性	地表性	4区, ④・⑤地点	7層	SD2	近代
3	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	胸部	2.1	不明	不明	4区, ④・⑤地点	7層	SD2	近代
4	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	3.1	雑食性	地表性	4区, ④・⑤地点	7層	SD2	近代
5	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	開蝋片	2.0	汚物食	屋外性, 便池	4区, ④・⑤地点	7層	SD2	近代

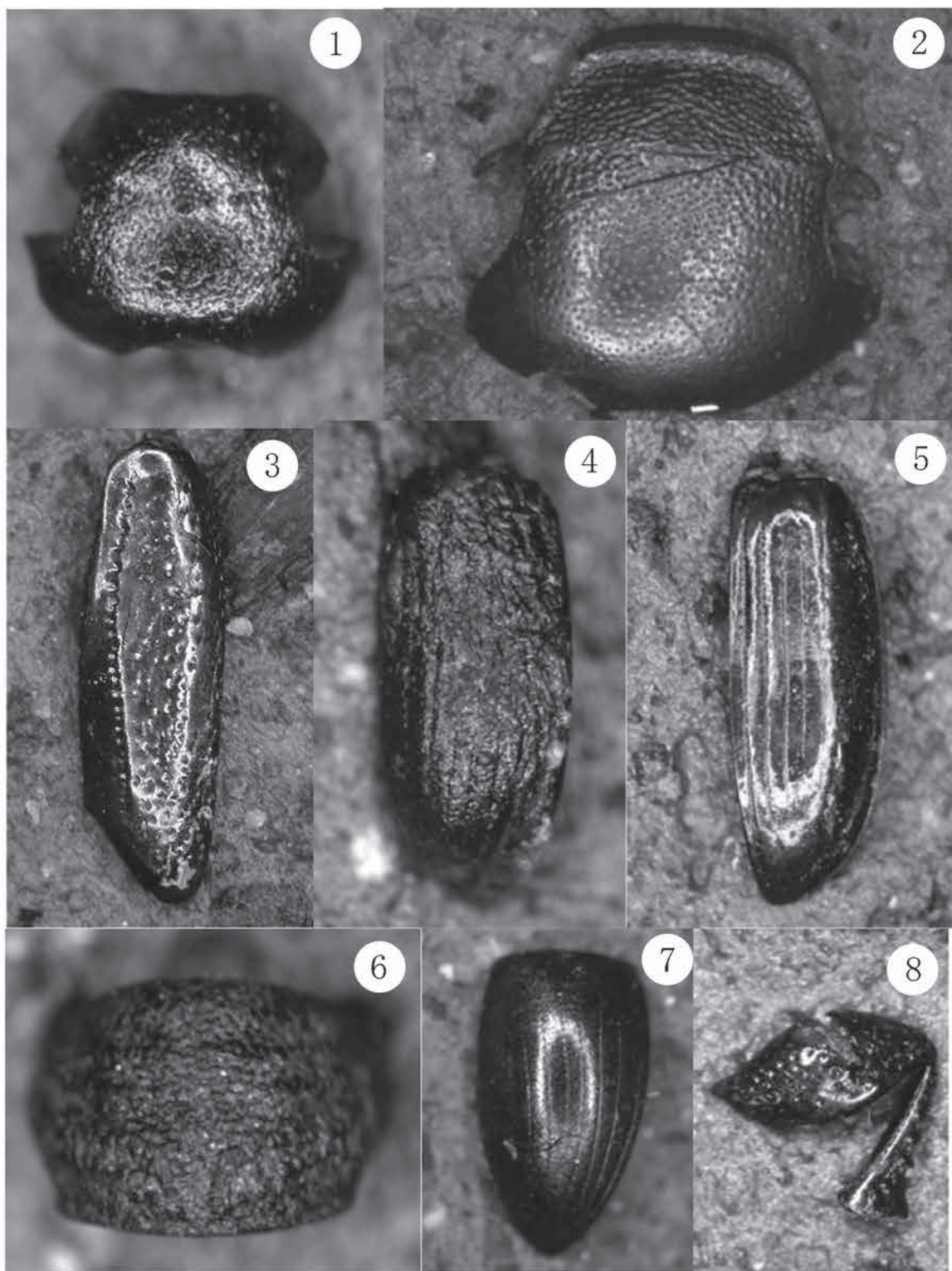
表2 甲府城下町遺跡における昆虫分析結果

		和名	学名 / 試料番号	試料	試料	試料	試料	試料	試料	試料	試料	試料	試料	試料	試料	試料	試料	試料	試料	合計				
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15						
水生	食肉性	コクロマゲンゴロウ	<i>Platambus insolitus</i> (Sharp)										1							1				
	食植性	ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i> (Fabricius)	1																	1			
	食植性	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)					1													1			
地表性	食糞性	エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.				1	3													4			
	食糞性	マクソコガネ属	<i>Aphodius</i> sp.	1	1																	2		
		マクソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)					1														1		
		ホソゲシマクソコガネ	<i>Trichorhyssemus asperulus</i> (Waterhouse)					1														1		
	マクソガムシ	<i>Pachysternum haemorrhoum</i> Motschulsky						1													1			
	食糞肉食・雑食性	エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.		3																	3		
		シデムシ科	Silphidae gen. et sp. indet.	1																		1		
		オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	13	7	1		1	2	2	3		1	1		2	2	1				36		
	陸生	食植性	マルガタガミムシ属	<i>Amara</i> sp.	1																	1		
			ミスギワゴミムシ属	<i>Bembidion</i> sp.	1																		1	
			ヒラタコムズギワゴミムシ属	<i>Tachyura</i> sp.		1																	1	
			アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.								1											1	
			ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	11	5	2	1	2	3	1						2	1	1				29	
			コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.		2						1												3
			サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.		1																		1
ヒメコガネ			<i>Anomala rufocuprea</i> Motschulsky		1																		1	
ドウガネフイブイ			<i>Anomala cuprea</i> Hope		1																		1	
ハムシ科			Crysomelidae gen. et sp. indet.	2			1			1													5	
ゾウムシ科			Curculionidae gen. et sp. indet.	4						1	1												6	
ヒメゾウムシの一種			<i>Baris</i> sp.																				1	
コクゾウムシ			<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky			2	3		2		1												8	
コクヌストモドキ			<i>Tribolium castaneum</i> Herbst											2	1								3	
カッツオブシムシ科			Dermestidae gen. et sp. indet.	1																			1	
ヒメカッツオブシムシ	<i>Attagenus unicolor japonicus</i> Reitter		2				1														4			
シバンムシ科	Anobiidae gen. et sp. indet.	1	1	1																	3			
ゴミムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.		1																		2			
コメツキムシ科	Elateridae gen. et sp. indet.		3						1												4			
キマワリ	<i>Plesiophthalmus nigrocyanus</i> Motschulsky	2										1									3			
カミキリムシ科	Cerambycidae gen. et sp. indet.	1																			1			
ウスイロキスイムシ	<i>Cryptophagus dilutus</i> Reitter			1					1												2			
その他		ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.							1												3		
		イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus																				1	
		オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	2	17			1						1	1							23		
		キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)		8				1														9	
		ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.		5		1		6														13	
		ショウジョウバエ属2	<i>Drosophila</i> sp.-2						1														1	
		アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	1	8		1																12	
		クロオオアリ	<i>Camponotus japonicus</i> Mavr	1	1																		2	
		トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i> (Emery)		1																		1	
		カメムシ目	Hemiptera fam. gen. et sp. indet.		4																		4	
		ケラ	<i>Grvllotalpa africana</i> Palisot de Beauvois						1														1	
		不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	9	12	1		2		1	1	1	1	2	2	1	3	2					38	
						54	87	8	5	16	16	11	4	4	5	5	5	8	9	5			242	



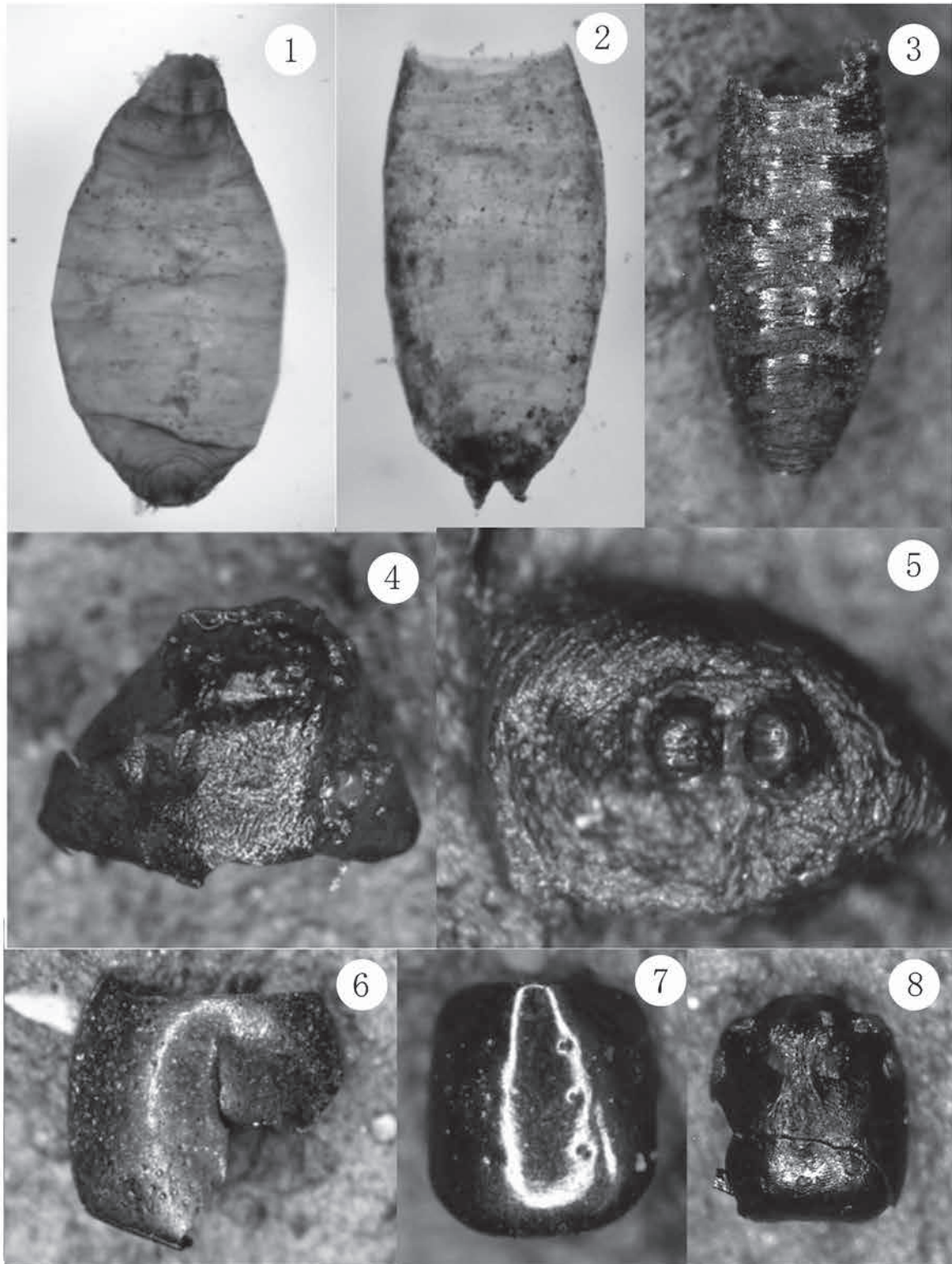
図版1 甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）から産出した昆虫化石（1）

1. コクゾウムシ *Sitophilus zeamais* Motschulsky 前胸背板 高さ1.3mm (SD7, 試料7, 標本1)
2. コクゾウムシ *Sitophilus zeamais* Motschulsky 頭部 長さ1.6mm (SK45, 試料2, 標本16)
3. コクゾウムシ *Sitophilus zeamais* Motschulsky 左上翅片 長さ1.2mm (SK51, 試料3, 標本8)
4. ヒメカツオブシムシ *Attagenus unicolor japonicus* Reitter 前胸背板 最大幅1.6mm (SK87, 試料5, 標本2)
5. ヒメカツオブシムシ *Attagenus unicolor japonicus* Reitter 現生標本 長さ3.8mm
(2015年8月4日三重県桑名市にて採集)
6. ヒメカツオブシムシ *Attagenus unicolor japonicus* Reitter 左上翅 長さ1.5mm (SK18, 試料12, 標本1)
7. コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* Herbst 左上翅片 長さ2.0mm (SD11, 試料9, 標本1)
8. エンマコガネ属 *Onthophagus* sp. 上翅片 長さ2.8mm (SK87, 試料5, 標本7)



図版2 甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）から産出した昆虫化石（2）

1. セマルガムシ *Coelostoma stultum* (Walker) 頭部 幅0.9mm (SK87, 試料5, 標本5)
2. ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* Motschulsky 頭部 幅2.4mm (SK22, 試料1, 標本15)
3. ドウガネブイブイ *Anomala cuprea* Hope 右中腿節 長さ5.2mm (SK45, 試料2, 標本2)
4. シバムシ科 Anobiidae gen. et sp. indet. 左上翅 長さ1.7mm (SK45, 試料2, 標本6)
5. ミズギワゴミムシ属 *Bembidion* sp. 右上翅 長さ2.9mm (SK22, 試料1, 標本5)
6. ホソケシマグソコガネ *Trichorhyssemus asperulus* (Waterhouse) 前胸背板 幅1.2mm (SK87, 試料5, 標本4)
7. マグソガムシ *Pachysternum haemorrhoum* Motschulsky 左上翅 長さ2.1mm (SK90, 試料6, 標本10)
8. エンマムシ科 Histeridae gen. et sp. indet. 左後腿脛節 腿節の長さ1.8mm (SK45, 試料2, 標本8)



図版3 甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）から産出した昆虫化石（3）

1. ショウジョウバエ属 *Drosophila* sp. 囲蛹 長さ2.7mm (SK45, 試料2, 標本12)
2. ショウジョウバエ属 *Drosophila* sp. 囲蛹片 長さ1.4mm (SK72, 試料4, 標本1)
3. ショウジョウバエ属2 *Drosophila* sp.-2 囲蛹 長さ3.0mm (SK90, 試料6, 標本3)
4. オオクロバエ *Calliphora lata* Coquillett 囲蛹片 長さ4.0mm (SK45, 試料2, 標本4)
5. キンバエ *Lucilia caesar* (Linnaeus) 囲蛹 (後方気門) 幅2.6mm (SK45, 試料2, 標本33)
6. マグソコガネ *Aphodius rectus* (Motschulsky) 前胸背板片 幅1.8mm (SK87, 試料5, 標本3)
7. ハネカクシ科 *Staphylinidae* gen. et sp. indet. 前胸背板 幅1.1mm (SK22, 試料1, 標本3)
8. クロオオアリ *Camponotus japonicus* Mayr 頭部 長さ0.8mm (SK22, 試料1, 標本6)

第5節 甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）の花粉分析

森 将志（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）では、古植生を検討するために、花粉分析用の試料が採取された。以下では、試料に対して行った花粉分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。なお、同一試料を用いて大型植物遺体分析と昆虫分析も行われている（大型植物遺体分析と昆虫分析の項参照）。

2. 試料と分析方法

分析試料は、江戸時代中期から近代以降と考えられている遺構から採取された堆積物14試料である（表1）。これらの試料について、以下の手順に従って分析を行った。

試料（湿重量約3g）を遠沈管にとり、10%の水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%のフッ化水素酸を加え1時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。その後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。なお、十分な量の花粉化石が含まれていない試料については、プレパラート1枚の検鏡に留めた。また、保存状態の良好な花粉を選んで単体標本（PLC.3368～3375）を作製し、写真を図版1に載せた。

表1 分析試料一覧

試料No.	メモNo.	工区	調査区	出土地点	取上No.	時期	岩質	備考
No. 32	土30	4区	④・⑤	SD2	8層	近代（近代以降に埋没か）	黒褐色（10YR2/2）砂混じり粘土	溝内覆土
No. 33	土31	4区	④・⑤	SD2	7層	近代（近代以降に埋没か）	黒褐色（10YR2/2）砂混じり粘土	溝内覆土
No. 29	土27	4区	②	SD1	1層	江戸後期	黒色（10YR2/1）砂礫混じり粘土	溝内覆土
No. 21	土15	2区	E-1	SD7		江戸後期か	黒色（10YR2/1）砂混じり粘土	溝内覆土・SD11と接続する可能性あり
No. 22	土19	2区	E-2	SD10		江戸後期	黒褐色（10YR2/2）砂混じり粘土	溝内覆土
No. 23	土20	2区	E-2	SD11		江戸後期	黒色（10YR2/1）砂混じり粘土	溝内覆土・SD7と接続する可能性あり
No. 25	土24	4区	②	SK14	箱内	江戸後期か	黒色（10YR2/1）礫、植物片混じり粘土	上水井戸？最下層覆土
No. 13	土7	2区	B-1	SK51		江戸中期～後期	黒色（7.5YR2/1）砂礫混じりシルト	大型土坑覆土 焼土廃棄土坑覆土
No. 16	土9	2区	E-1	SK80		江戸中期～後期か	オリーブ黒色（5Y3/1）粘土	床面直上 大型土坑（穴蔵か） SK72より古い
No. 26	土25	4区	②	SK17	6層	江戸中期～後期か	オリーブ黒色（5Y3/1）粘土	大型土坑（穴蔵か）
No. 27	土23	4区	②	SK18	8層	江戸中期～後期か	オリーブ黒色（5Y3/1）粘土	大型土坑覆土
No. 28	土26	4区	②	SK18	底面	江戸中期～後期か	灰オリーブ色（5Y5/2）粘土	大型土坑（穴蔵か）
No. 30	土28	4区	④・⑤	SK27	最下層	江戸中期～後期か	黒色（7.5Y2/1）粘土	大型土坑（穴蔵か） 地中梁あり
No. 31	土29	4区	④・⑤	SK30	最下層	江戸中期～後期か	オリーブ黒色（5Y2/2）粘土	大型土坑（穴蔵か）

3. 分析結果

14試料の検鏡を行った結果、検出された分類群は樹木花粉30、草本花粉21、シダ植物胞子3の計54である。産出花粉・シダ植物胞子の一覧を表2に、分布図を図1に示す。分布図の樹木花粉は樹木花粉総数を、草本花粉・シダ植物胞子は全花粉胞子総数を基数とした百分率で示した。また、図表においてハイフン（-）で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。

4区SD2の8層と7層、2区のSK51、SK80、4区のSK14、SK30の6試料では十分な量の花粉化石が得られなかったが、その他の試料からは十分な量の花粉化石が得られた。十分な量の花粉化石が得られたほとんどの試料において、樹木花粉ではモミ属やツガ属、スギ属といった温帯性針葉樹が、草本類ではイネ科の産出が目立つ。また、マツ属複維管束亜属については、4区SD1と2区SD11で産出が目立っている。

4. 考察

十分な量の花粉化石が得られた試料では、スギ属やモミ属、ツガ属といった温帯性針葉樹の産出率が目立つ。よって、江戸時代中期から幕末にかけては、遺跡周辺の丘陵地などにスギやモミ、ツガなどからなる針葉樹林が分布していたと考えられる。また、コナラ属コナラ亜属やコナラ属アカガシ亜属の産出も目立ち、遺跡周辺の丘陵地などにはコナラ属コナラ亜属からなる落葉広葉樹林が、低地部にはコナラ属アカガシ亜属などの照葉樹林が分布を広げていた可能性がある。

一方で、マツ属複維管束亜属については、江戸後期の溝とされる4区SD1や2区SD11で産出率が高い。甲府城下町遺跡の紅梅地区の花分析結果では、スギ属とコナラ属コナラ亜属優勢の花分析組成から、近世（19世紀）においてマツ属複維管束亜属が優勢する花分析組成に変化する層準が見出されている（鈴木，2009）。今回の4区SD1や2区SD11の花分析組成は、近世（19世紀）以降のマツ属複維管束亜属が優勢となる植生を反映している可能性がある。一方で、同じく江戸後期とされる2区SD7やSD10では、マツ属複維管束亜属の産出がそれほど目立たない。花分析組成のみで判断すると、2区SD7やSD10は19世紀ではなく、18世紀の遺構の可能性もある。

草本花粉では、イネ科の産出が目立つため、江戸時代中期から幕末にかけての試料採取地点周辺には、イネ科が分布を広げていた可能性がある。

また、江戸後期とされる4区SD1ではアカザ科・ヒユ科が、2区SD11ではアブラナ科が、江戸中期～後期とされる4区SK18の底面では単条溝胞子が突出している。これらの草本類やシダ類は、各時期の遺構周辺において、突発的に分布を広げていた可能性がある。

さらに、栽培植物のソバ属が2区のSD11とSD10、SD7、4区のSD2の7層、SD1で、同じく栽培植物のベニバナ属が4区SK18の8層と2区SD11で検出されている。ソバ属、ベニバナ属は江戸後期の遺構で検出されているため、それらの時期に収穫されたソバやベニバナが遺構周辺に持ち込まれていた可能性がある。

引用文献

鈴木 茂（2009）甲府城下町遺跡（紅梅地区再開発地点）の花分析化石．甲府市教育委員会編「甲府城下町遺跡V」：52-62，甲府市教育委員会．

表2 産出花粉粒一覧表

学名	和名	SD2 8層	SD2 7層	SD1	SD7	SD10	SD11	SK14	SK51	SK80	SK17	SK18 8層	SK18 表面	SK27	SK30
樹木															
<i>Podocarpus</i>	マキ属	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Abies</i>	モミ属	-	-	15	41	22	12	-	-	4	22	20	63	8	1
<i>Tsuga</i>	ツガ属	-	2	34	65	46	24	-	3	8	16	56	53	39	1
<i>Picea</i>	トウヒ属	-	-	4	4	3	4	-	-	-	1	1	18	4	-
<i>Larix</i>	カラマツ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxydon</i>	マツ属複雑管束亜属	-	3	49	23	7	90	2	1	5	4	17	6	20	-
<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxydon</i>	マツ属単純管束亜属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	3	3	-
<i>Sciadopitys</i>	コウヤマキ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	-	2	33	33	62	43	1	-	3	66	62	4	52	-
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌゲヤ科-ヒノキ科	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
<i>Pterocarya-Juglans</i>	サワグルミ属-クルミ属	-	-	4	3	2	5	1	-	-	4	5	-	4	-
<i>Carpinus-Ostrya</i>	クマシデ属-アサダ属	-	1	4	7	3	-	-	-	1	6	2	1	11	-
<i>Betula</i>	カバノキ属	-	-	7	5	5	5	-	-	-	7	1	11	2	-
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1	2	17	4	5	3	-	-	1	8	7	21	8	-
<i>Fagus</i>	ブナ属	-	-	-	2	3	-	-	-	-	4	3	2	2	-
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	-	-	10	2	13	7	-	-	1	35	17	11	25	-
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanops</i>	コナラ属アカガシ亜属	-	1	11	8	24	4	-	-	-	14	13	-	10	-
<i>Castanea</i>	クリ属	-	-	2	2	2	0	-	-	1	2	-	-	1	-
<i>Castanopsis-Pisania</i>	シノキ属-マテバシイ属	-	-	1	-	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Ulmus-Zelkova</i>	ニレ属-ケヤキ属	-	2	4	6	6	1	1	-	1	7	6	8	6	-
<i>Celtis-Aphananthe</i>	エノキ属-ムクノキ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Acer</i>	カエデ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Aesculus</i>	トチノキ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Parthenocissus</i>	ツタ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Tilia</i>	シナノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-
<i>Camellia</i>	ツバキ属	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Araliaceae	ウコギ科	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Diospyros</i>	カキノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Oleaceae	モクセイ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-
<i>Lonicera</i>	スイカズラ属	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
草本															
<i>Typha</i>	ガマ属	-	-	2	3	1	1	-	-	-	3	3	1	1	-
<i>Alisma</i>	サジメダカ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	3	-
Gramineae	イネ科	-	7	158	180	74	87	1	2	11	93	87	6	182	-
Cyperaceae	カヤツリグサ科	-	-	1	-	6	2	-	-	-	10	1	1	11	-
<i>Rumex</i>	ギシギシ属	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria-Echinocaulon</i>	サナエダ節-ウナギツカミ節	-	-	-	3	-	-	-	-	-	2	2	1	1	-
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属	-	1	5	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヘビ科	-	-	157	37	15	63	1	1	2	3	20	-	8	-
Caryophyllaceae	ナデシコ科	-	1	-	-	-	3	1	-	-	1	1	-	-	-
Brassicaceae	アブラナ科	-	1	-	2	-	370	-	-	-	-	-	-	-	-
Leguminosae	マメ科	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Rotala</i>	キカシグサ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Apiaceae	セリ科	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Menyanthes</i>	ミツガシワ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Solanum</i>	ナス属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Ambrosia-Xanthium</i>	ブタクサ属-オナモミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Carthamus</i>	ベニバナ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	-	-	3	3	4	-	-	-	-	4	10	1	5	-
Tubuliflorae	キク亜科	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-
Liguliflorae	タンポポ科	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	2	-	3	-
シダ植物															
<i>Salvinia</i>	サンショウモ属	-	-	2	2	-	3	-	-	-	4	-	-	-	-
monolete type spore	単条溝胞子	4	-	6	8	-	2	-	-	404	1	1	400	34	-
trilete type spore	三条溝胞子	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	2	-
Arboreal pollen	樹木花粉	1	13	200	211	205	204	5	4	26	201	213	203	201	2
Nonarboreal pollen	草本花粉	-	10	329	237	102	533	3	3	13	119	129	12	216	-
Spores	シダ植物胞子	4	-	8	10	-	5	-	-	405	6	2	400	36	-
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	5	23	537	458	307	742	8	7	444	326	344	615	453	2
Unknown pollen	不明花粉	-	-	3	8	-	2	-	-	-	9	4	7	7	-

草本花粉・胞子

樹木花粉

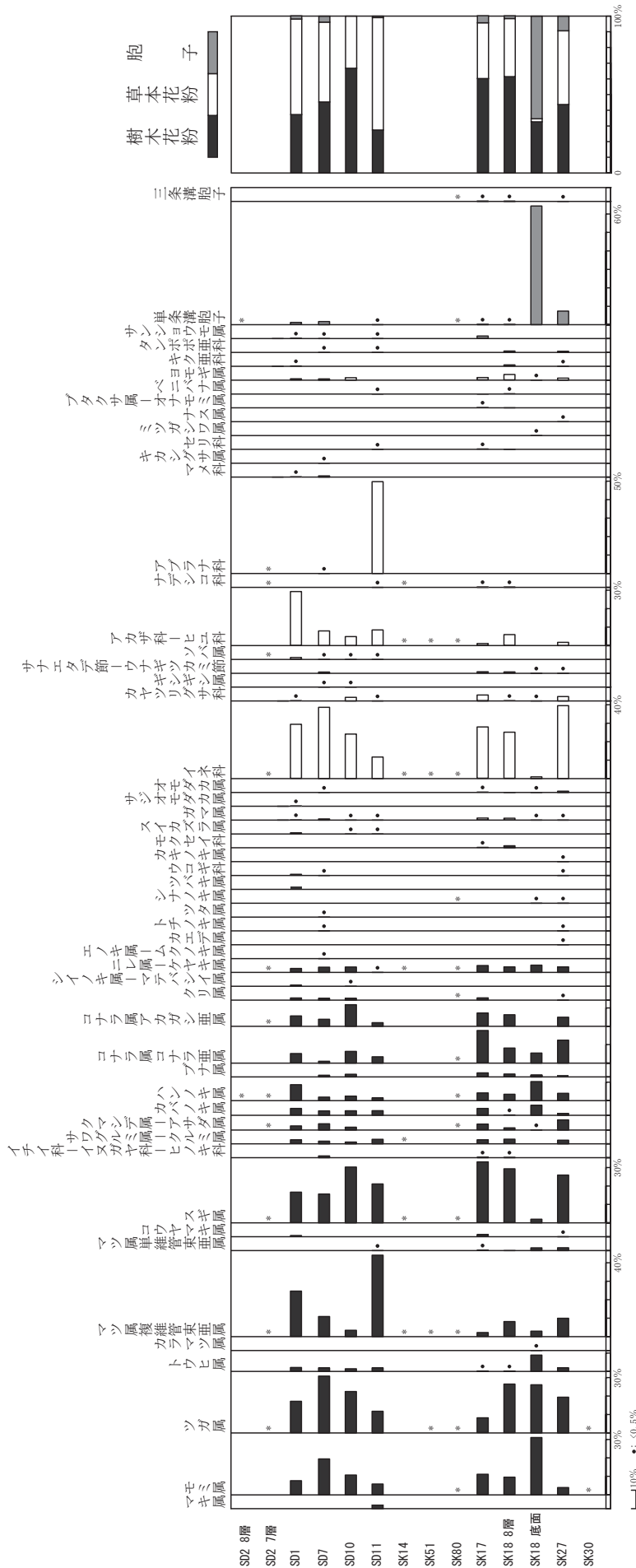
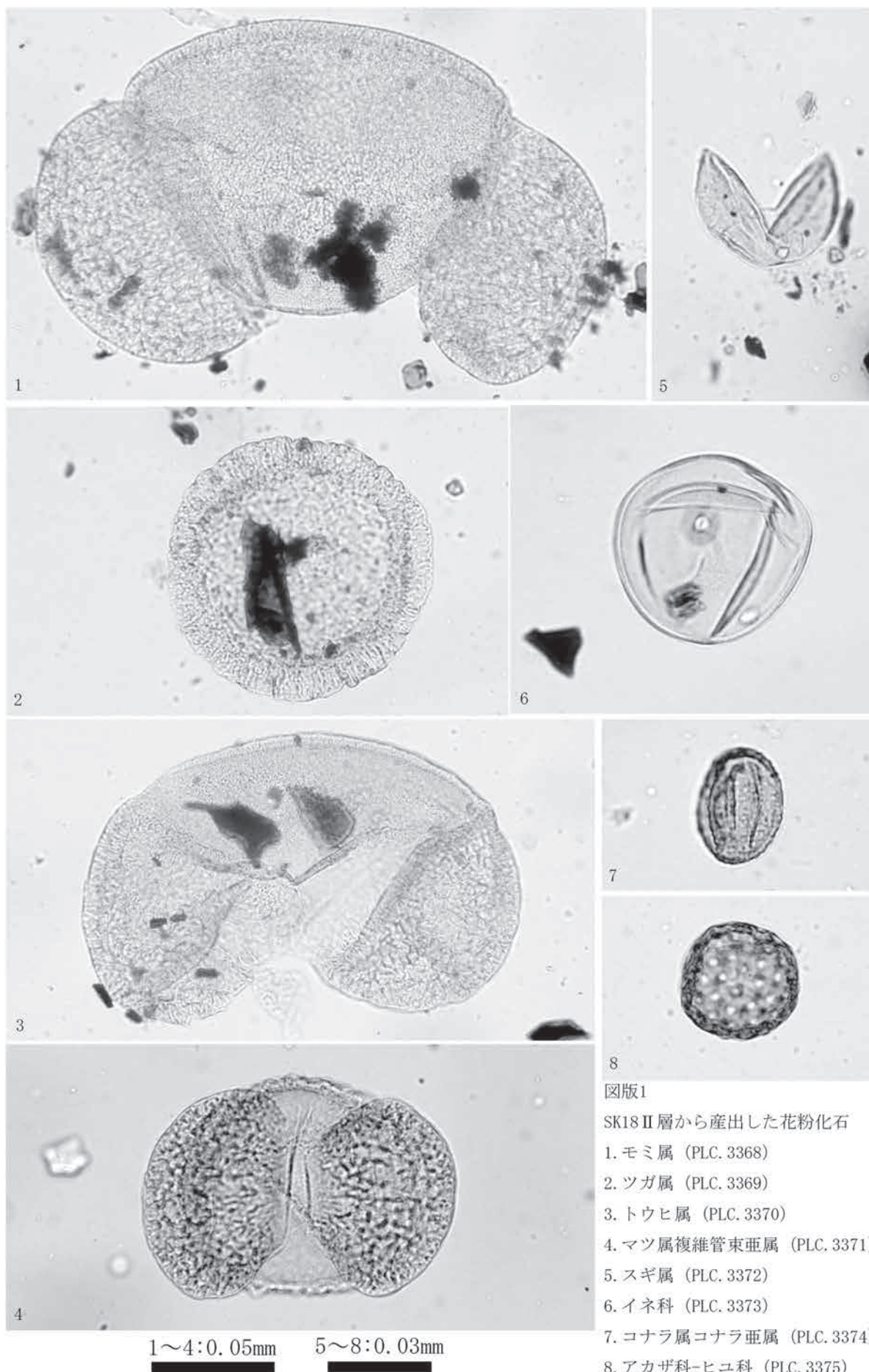


図1 甲府城下町遺跡(中央5丁目2・3・4区)における花粉分布図

樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は産出花粉胞子総数を基数として百分率で算出した。

*は樹木花粉200個未満の試料について、検出した分類群を示す。



第6節 甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）のプラント・オパール分析

森 将志（パレオ・ラボ）

1. はじめに

甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）では、性格不明の大型土坑が検出されている。これらの土坑の性格に関する手掛かりを得るために、堆積物が採取された。以下では、試料について行ったプラント・オパール分析の結果を示し、土坑へのイネ科植物の堆積状況について検討した。

2. 分析試料および方法

分析試料は、5つの土坑（2区SK80、4区のSK17、SK18、SK27、SK30）の6層準から採取された（表1）。時期は、いずれも江戸時代中期～後期と考えられている。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

表1 分析試料一覧

試料No.	メモNo.	工区	地点	遺構	時期	岩質	備考
16	土9	2区	E-1	SK80	江戸中期～後期か	オリーブ黒色（5Y3/1）粘土	床面直上 大型土坑（穴蔵か）
26	土25	4区	②	SK17		オリーブ黒色（5Y3/1）粘土	大型土坑（穴蔵か）
27	土23			SK18 8層		オリーブ黒色（5Y3/1）粘土	大型土坑覆土
28	土26			SK18 底面		灰オリーブ色（5Y5/2）粘土	大型土坑（穴蔵か）
30	土28			④・⑤		SK27	黒色（7.5Y2/1）粘土
31	土29	SK30	オリーブ黒色（5Y2/2）粘土			大型土坑（穴蔵か）	

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約1g（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ（直径約0.04mm）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波洗浄機による試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが300個に達するまで行った。また、植物珪酸体の写真を撮り、図版1に載せた。

3. 結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から、試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め（表2）、分布図に示した（図1）。6試料の検鏡の結果、イネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、ササ属型機動細胞珪酸体、ヨシ属機動細胞珪酸体、シバ属機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の7種類の機動細胞珪酸体の産出が確認できた。また、イネの籾殻に形成される珪酸体（イネ穎破片）の産出も4区SK17で確認できた。このうち、ヨシ属機動細胞珪酸体については、全ての試料で産出しており、産出量も多く、11,400～320,100個/gである。

表2 試料1g当りのプラント・オパール個数

工区	遺構	イネ (個/g)	イネ穎破片 (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	ササ属型 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	不明 (個/g)
2区	SK80	4,600	0	7,700	6,200	43,400	1,500	1,500	6,200	6,200
4区	SK17	25,600	6,800	0	1,700	58,100	0	18,800	15,400	6,800
	SK18 II	4,600	0	6,100	3,100	107,000	0	22,900	12,200	9,200
	SK18 底面	0	0	5,700	2,800	11,400	0	0	1,400	1,400
	SK27	8,300	0	15,000	0	320,100	0	28,300	45,000	28,300
	SK30	0	0	0	4,800	280,800	0	6,400	28,700	19,100

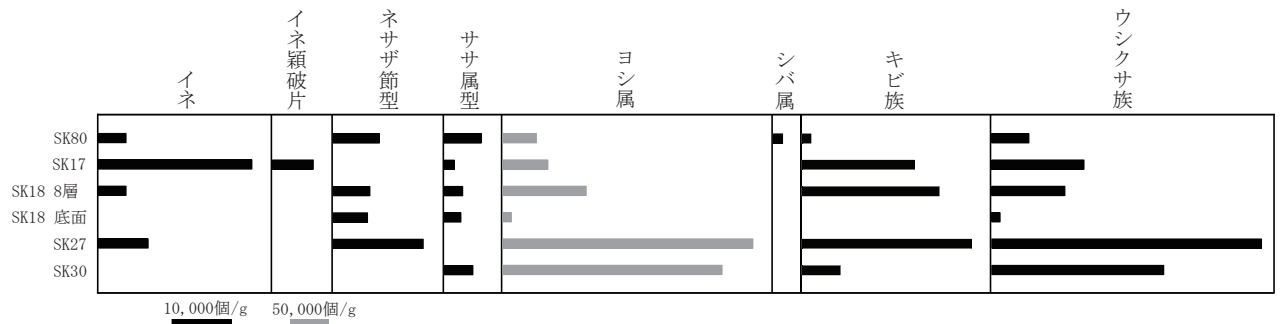


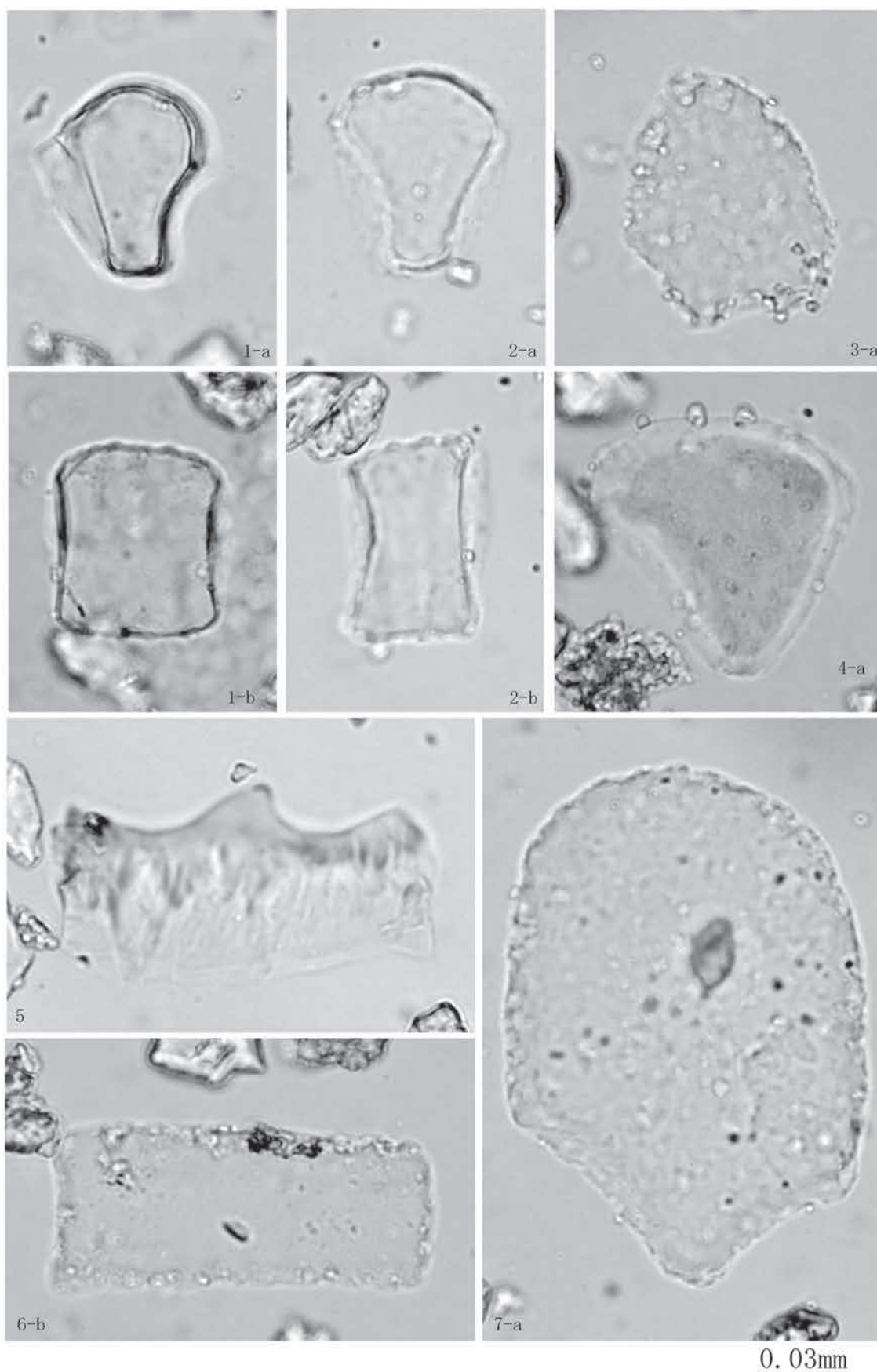
図1 植物珪酸体分布図

4. 考察

土坑から産出する機動細胞珪酸体の組成は、各土坑で異なっていた。しかしながら、いずれの土坑においてもヨシ属機動細胞珪酸体が最も多く検出されている点は共通している。よって、いずれの土坑も、ヨシ属の藁が堆積していたと考えられる。

また、いくつかの土坑ではイネ機動細胞珪酸体も産出している。特に4区SK17ではイネ機動細胞珪酸体が突出しているため、SK17には稲藁も多く堆積していたと考えられる。SK17ではイネの籾殻に形成される珪酸体（イネ穎破片）の産出も確認できるため、SK17にはイネの籾殻も堆積していたと考えられる。

さらに、全体的な機動細胞珪酸体の産出傾向としては、4区SK18の底面で機動細胞珪酸体の産出量が少なく、4区SK27で機動細胞珪酸体の産出量が多い傾向がある。SK18の底面にはイネ科植物の葉身が比較的少なく、SK27にはイネ科植物の葉身が比較的多く堆積していたと考えられる。



図版1 産出した植物珪酸体

1. イネ機動細胞珪酸体 (SK17)
3. ササ属型機動細胞珪酸体 (SK17)
5. イネ穎破片 (SK17)
7. ヨシ属機動細胞珪酸体 (SK27)

2. ネザサ節型機動細胞珪酸体 (SK27)
 4. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (SK27)
 6. キビ族機動細胞珪酸体 (SK27)
- a: 断面 b: 側面

第7節 甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）の寄生虫卵分析、

リン・カルシウム分析、X線回折

森 将志・竹原弘展（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡(中央5丁目2・3・4区)では、埋桶や埋甕などの遺構が検出された。これらの遺構には、結晶物などが付着したものもあり、遺構の性格を検討するために、寄生虫卵分析、リン・カルシウム分析、X線回折用の試料が採取された。以下では、各分析結果を示し、屎尿の存在について検討した。なお、同一試料を用いて大型植物遺体分析と昆虫分析も行われている（大型植物遺体分析と昆虫分析の項参照）。

2. 試料と分析方法

分析試料は、寄生虫卵分析用に6試料、リン・カルシウム分析用に2試料、X線回折用に16試料が採取された。試料一覧を表1に示す。これらの試料について、以下の手順に従って分析を行った。

表1 分析試料一覧表

試料No.	土名No.	工区	調査地点	出土地点	岩質	備考	時期	寄生虫卵	リンカル	X線回折			
No. 1	木58他多数	2区	A-2	SK9	-	埋桶・埋桶側板・底板に析出物多数付着	幕末～明治期（幕末以降に埋没か）			○			
No. 2	木56他多数			SK18	-	埋桶・埋桶側板・底板に析出物多数付着	近代（明治期以降に埋没か）				○		
No. 3	木109他多数			SK19	-	埋桶・埋桶側板・底板に析出物多数付着	近代（大正期以降に埋没か）				○		
No. 4	木132他多数			SK20	-	大型土坑内より出土・埋桶側板に析出物多数付着	近代	江戸後期			○		
No. 5	土9			SK22	オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂礫混じりシルト	-	埋桶（現代の汚品を受けろ）	近代（近代以降に埋没か）	○		○		
No. 6	木165			SK25	-	土坑内より出土・埋桶側板に析出物多数付着	埋桶か（底板一部残存）	江戸後期か			○		
No. 7	土4			SK44	オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂礫混じりシルト	-	埋桶か（底板一部残存）	江戸後期か	○	○	○		
No. 8	土6			SK45	黒褐色 (10YR3/1) 礫混じり粘土	-	埋桶	江戸後期～幕末か	○		○		
No. 9	甕1			1号埋甕	-	-	埋桶・埋甕内面に析出物多量に付着	近代			○		
No. 10	甕2			2号埋甕	-	-	埋桶・埋甕内面に析出物多量に付着	近代			○		
No. 11	甕3			3号埋甕	-	-	埋桶・埋甕内面に析出物多量に付着	近代			○		
No. 12	甕4			4号埋甕	-	-	埋桶・埋甕内面に析出物多量に付着	近代			○		
No. 15	木211 木216			E-1	SK72	-	大型土坑内より出土・埋桶側板に析出物付着	江戸後期			○		
No. 17	土17					SK87	オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂礫混じり粘土	-	埋桶 桶内	江戸後期	○		○
No. 18	土16					SK90	オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト混じり砂礫	-	埋桶	近代か	○		○
No. 19	木252	SK91	-			-	土坑内より出土・埋桶側板に析出物微量に付着	江戸中期～後期か			○		
No. 20	木259	SK93	-			-	土坑内より出土・埋桶側板に析出物微量に付着	江戸後期か			○		
No. 24	土22	SK11	黒色 (10YR1.7/1) 礫混じり粘土			-	曲物の底板（ヤマトさい）が埋まっていた。火灰ゴミの腐葉土坑か	江戸後期か	○	○	○		

2-1. 寄生虫卵分析

試料を乾燥後、遠沈管にとり、計量した。そこに10%の水酸化カリウム溶液を加え、10分間湯煎する。水洗後、46%のフッ化水素酸を加え、1時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。その後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸9：硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、得られた残渣に適量のグリセリンを加えて計量した。この残渣からプレパラートを作製し、プレパラート全面に渡り検鏡した。なお、試料1g中の寄生虫卵含有数は、次式で求めた。

$$X = BD/AC$$

X：試料1g中の寄生虫卵含有数、A：分析に用いた試料の重量(g)、B：濃縮試料+グリセリンの重量(g)、C：濃縮試料+グリセリンのうち、封入に用いた重量(g)、D：プレパラート中の寄生虫卵数

また、保存状態の良い寄生虫卵を選んで単体標本(PLC.3380,3381)を作製し、写真を図版1に載せた。

2-2. リン・カルシウム分析

分析は、藤根ほか(2008)の方法に従って行った。この方法は、元素マッピング分析によりリン、カルシウムを多く含む箇所を面的に検出し直接測定できるという利点がある。測定試料には、試料を乾燥後、極軽く粉碎して塩化ビニル製リングに充填し、油圧プレス機で20t・1分以上プレスしたものを作製、使用した。分析装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置である株式会社堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000Type IIを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、1.00mAのロジウム(Rh)ターゲット、X線ビーム径が100μmまたは10μm、検出器は高純度Si検出器で、検出可能元素はナトリウム(Na)～ウラン(U)である。また、試料ステージを走査させながら測定して元素の二次元的な分布画像を得る、元素マッピング

分析も可能である。

本分析では、まず元素マッピング分析を行い、元素の分布図を得た上で、リン (P) のマッピング図において輝度の高い箇所を選び、ポイント分析を行った。測定条件は、元素マッピング分析では 50kV、1.00mA、ビーム径 100 μ m、測定時間 6000s、パルス処理時間 P3 に、ポイント分析では 50kV、0.10 ~ 0.34mA (自動設定)、ビーム径 100 μ m、測定時間 500s、パルス処理時間 P4 に設定して行った。定量計算は、装置付属ソフトによる標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法で行っており、半定量値である。

2-3. X線回折分析

X線回折分析では、採取された試料からなるべく付着析出物のみを実体顕微鏡下で抽出し、乾燥後、メノウ製乳鉢でよく粉碎して粉末にした。粉末試料は、上述の蛍光 X 線分析装置 XGT-5000Type II で主成分化学組成を確認後、無反射試料板に充填して、不定方位試料とした。

分析装置は、株式会社リガク製 X 線回折装置 MiniFlex600 を使用した。装置は、X 線管が銅 (Cu) ターゲット、検出器が一次元半導体検出器 (D/teX Ultra) を使用している。測定条件は、40kV、15mA、走査速度 3deg/min、ステップ幅 0.02deg、走査範囲 3 ~ 65deg、蛍光 X 線軽減モードに設定し、回転試料台で試料を回転させつつ測定した。

3. 分析結果

3-1. 寄生虫卵分析

計量し、検鏡した結果を表 2 に示す。3 区 SK11 以外の 5 試料から回虫卵と鞭虫卵の 2 種類の寄生虫卵が確認できた。試料 1cm³ 当たりの密度は、2 区の SK22 が 35 個/cm³、SK44 が 632 個/cm³、SK45 が 895 個/cm³、SK87 が 96 個/cm³、SK90 が 152 個/cm³、3 区 SK11 が 0 個/cm³ である。

表2 試料の計量値と寄生虫卵数

分析	2区					3区
	SK22	SK44	SK45	SK87	SK90	SK11
分析に用いた試料 (g)	3.0243	3.6981	2.9701	3.1652	5.0317	3.0306
残渣+グリセリン (g)	1.5147	1.4595	1.5992	2.0022	1.6443	2.0048
封入に用いた量 (g)	0.0375	0.0461	0.0466	0.0357	0.0418	0.0417
試料の密度 (g/cm ³)	1.31	1.21	1.25	0.77	1.50	0.63
回虫卵	0	39	51	7	9	0
(試料1g当たりの個数)	0	334	589	124	70	0
鞭虫卵	2	22	11	0	4	0
(試料1g当たりの個数)	27	188	127	0	31	0
計	2	61	62	7	13	0
(試料1g当たりの個数)	27	522	716	124	102	0
(試料1cm ³ 当たりの個数)	35	632	895	96	152	0

で表した各元素の半定量値を表 3 に示す。

分析の結果、2 区 SK44 はリン (P2O5) が 19.26 ~ 40.96%、カルシウム (CaO) が 2.00 ~ 45.54%、3 区 SK11 はリン (P2O5) が 16.15 ~ 32.41%、カルシウム (CaO) が 4.27 ~ 44.10% の値を示した。

表3 リン・カルシウム分析の半定量分析結果 (mass%)

No.	区	遺構ポイント	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO ₂	Fe ₂ O ₃	Rb ₂ O	SrO	Y ₂ O ₃	ZrO ₂	
7	2	SK44	a	2.41	2.22	16.72	36.39	1.40	0.22	36.07	0.08	0.74	3.48	0.00	0.25	0.00	0.02
			b	0.08	2.76	7.58	35.54	2.70	0.16	45.54	0.08	2.28	3.08	0.00	0.18	0.00	0.00
			c	20.39	4.40	23.62	40.96	0.55	0.39	2.00	0.24	3.18	4.21	0.00	0.03	0.00	0.01
			d	1.62	4.16	8.18	32.38	2.91	0.17	41.41	0.15	1.82	6.99	0.01	0.18	0.01	0.01
			e	0.03	5.29	50.20	19.26	1.04	0.59	16.52	0.27	0.47	6.23	0.01	0.04	0.01	0.04
24	3	SK11	a	0.00	3.23	5.95	32.41	0.16	0.51	10.96	0.36	0.71	45.46	0.04	0.16	0.01	0.04
			b	1.16	7.46	19.32	31.53	0.18	1.09	8.93	0.55	0.57	28.96	0.05	0.15	0.02	0.01
			c	0.00	12.26	47.89	17.84	0.35	1.06	4.27	0.94	0.24	15.09	0.01	0.04	0.00	0.02
			d	0.00	6.98	18.04	26.73	0.32	0.74	7.44	0.52	0.40	38.70	0.00	0.11	0.01	0.01
			e	1.10	5.31	10.47	16.15	1.01	0.75	44.10	0.22	1.52	18.84	0.00	0.46	0.01	0.07

3-3. X線回折分析

表4に、事前に行った粉末試料の蛍光X線分析による半定量分析結果を示す。蛍光X線分析の結果、リン(P2O5)が0.69～35.69%、カルシウム(CaO)が1.26～69.80%の値を示した。また、リンやカルシウム以外にも、硫黄(SO3)が最大21.33%、鉄(Fe2O3)が最大61.86%と、非常に多く含まれる試料もみられた。

図1～3にX線回折分析により得られた回折パターンを、表5にX線回折分析により検出された鉱物を示す。X線回折分析の結果、燐灰石(Hydroxylapatite、Ca5(PO4)3(OH))、方解石(Calcite、CaCO3)、菱鉄鉱(Siderite、FeCO3)、石膏(Bassanite、CaSO4・0.5H2O)、鉄明礬石(Jarosite、KFe3(SO4)2(OH)6)、黄鉄鉱(Pyrite、FeS2)、石英(Quartz、SiO2)、斜長石(図は斜長石の一種である曹長石、Albite、(Na,Ca)Al(Si,Al)3O8、および灰長石、Anorthite、(Ca,Na)(Si,Al)4O8)が検出された。

表4 X線回折分析試料の半定量分析結果 (mass%)

No.	区	地点	遺構	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO ₂	Fe ₂ O ₃
1	2区	a-2	SK9	0.01	0.89	1.40	35.69	1.00	0.13	49.38	0.09	2.47	8.95
2			SK18	1.28	4.92	25.32	5.86	0.96	0.45	42.82	1.26	1.40	15.74
3			SK19	1.31	0.11	0.68	24.08	1.13	0.00	69.80	0.15	0.48	2.26
4			SK20	0.00	3.72	9.59	28.80	1.52	0.32	3.04	0.14	1.33	51.52
5			SK22	0.01	3.07	16.48	14.00	4.16	0.38	1.26	0.25	0.05	60.36
6			SK25	1.11	0.04	0.57	28.03	2.72	0.04	46.06	0.07	3.39	17.96
8			SK45	0.97	2.13	6.53	27.47	6.91	0.61	8.04	0.11	0.70	46.53
9			1号埋甕	0.77	0.04	0.12	35.25	1.23	0.00	60.96	0.05	0.75	0.82
10			2号埋甕	0.35	0.30	0.00	33.54	0.37	0.00	63.91	0.04	0.77	0.71
11			3号埋甕	1.73	0.06	0.13	31.72	0.83	0.00	64.10	0.06	0.99	0.37
12			4号埋甕	0.69	0.01	0.03	32.50	1.66	0.00	62.67	0.06	1.32	1.07
15			e-1	SK72	0.00	2.09	10.28	9.87	21.33	2.05	4.42	0.16	0.35
17	SK87	1.11		1.84	10.35	8.00	15.86	1.89	2.66	0.18	0.30	57.80	
18	SK90	0.41		0.32	0.92	29.98	1.03	0.00	60.37	0.12	1.73	5.10	
19	SK91	0.19		2.05	9.42	0.69	20.44	1.85	3.08	0.25	0.18	61.86	
20	SK93	0.12		1.53	7.07	15.83	5.25	0.20	34.92	0.15	3.99	30.93	

表5 X線回折分析による検出鉱物一覧

No.	区	地点	遺構	含水燐灰石	方解石	菱鉄鉱	石膏	鉄明礬石	黄鉄鉱	石英	斜長石		
1	2区	a-2	SK9	◎									
2			SK18		◎						○	○	
3			SK19	○	◎								
4			SK20								△	△	
5			SK22								○	○	
6			SK25	◎									
8			SK45	○				○		○	○	○	
9			1号埋甕	◎									
10			2号埋甕	◎									
11			3号埋甕	◎	◎								
12			4号埋甕	◎									
15			e-1	SK72	△				○	◎		○	
17	SK87						○	◎		◎	○		
18	SK90	○		◎									
19	SK91	△						◎		○	○		
20	SK93	○		◎	◎	◎	○				○		

◎：よく一致するピークを検出 ○：ほぼ一致するピークを検出 △：微弱なピークを検出

4. 考察

寄生虫卵分析の結果、2区のSK22とK44、SK45、SK87、SK90の試料で寄生虫卵が検出された。寄生虫卵数については、試料1cm³中に1,000個以上あれば糞便の可能性があると考えられている(金原, 1997)。この基準に照らし合わせると、5試料の寄生虫卵の密度は糞便堆積物の判断の目安を下回る。分析した堆積物は糞便自体ではないものの、ある程度の寄生虫卵の産出が認められたため、遺構には糞便が混じっていた可能性は高いと考えられる。検出された寄生虫卵は、いずれの試料においても回虫卵と鞭虫卵である。回虫と鞭虫は、糞便とともに排泄された寄生虫卵が付着した野菜や野草、寄生虫卵が含まれた飲み水などの摂取によって経口感染するため、当時の人々は処理が十分でない野菜や飲料水を摂取していたと考えられる。

以上は寄生虫卵からの糞便の存在の検討であったが、次に付着析出物の化学組成より尿尿の存在の検討を行う。リン・カルシウム分析を行った2区SK44と3区SK11では、リン、カルシウム共に明らかに多く含まれている箇所が多数検出された。これらが尿尿に由来する可能性があるが、3区SK11では寄生虫卵が検出されなかったため、糞便を含まない尿に由来する可能性が考えられる。X線回折分析を行った16試料のうち、2区のSK9とSK19、SK25、1～4号埋甕、SK93、寄生虫卵が検出されたSK45とSK90の10試料からは、含水燐灰石が明瞭に検出されており、これらは尿尿に由来する可能性が高い。また、2区のSK18とSK20、SK22、SK72、SK87の5試料についても、含水燐灰石等のリン酸塩の結晶はほとんど検出されなかったものの、蛍光X線分析におけるリンの含有量は多く、非晶質の状態ではリンが存在していると考えられるため、これら5試料も尿尿に由来する物質である可能性は十分考えられる。また、一部試料からは炭酸塩鉱物や硫酸塩鉱物、硫化物が検出されており、これらも尿尿中の成分が関係して析出した物質である可能性があるが、黄鉄鉱や鉄明礬石などがどのような過程を経て存在しているかは不明である。特に2区のSK72、SK87、SK91における鉄明礬石のピークは極めて明瞭であり、蛍光X線分析においても硫黄の含有量は極めて多いため、堆積物中に元々含まれていた物質とは考えにくい。なお、石英や斜長石は、析出物の抽出時に除去しきれなかった堆積物由来と考えられる。

2区SK91は、含水燐灰石のピークは微弱で、リンの含有量も少なかった。SK91はカルシウムの含有量も少なく、尿尿に由来する物質である可能性は低いと考えられる。

以上をまとめると、尿尿の存在が推測できる遺構が2区のSK22とSK45、SK87、SK90、SK44、SK9、SK18、SK19、SK20、SK25、1～4号甕、SK72、SK93、3区のSK11である。昆虫分析の結果も加味すると、SK22やSK45、SK87、SK90、SK18などはゴミ捨て場が想定されており、ゴミ捨て場などに尿尿が廃棄されていた遺構があると考えられる。

引用文献

藤根 久・佐々木由香・中村賢太郎(2008) 蛍光X線装置を用いた元素マッピングによるリン・カルシウム分析. 日本文化財科学会第25回大会研究発表要旨集, 108-109.

金原正明(1997) 自然科学的研究からみたトイレ文化. 大田区立郷土博物館編「トイレの考古学」: 197-216, 東京美術.

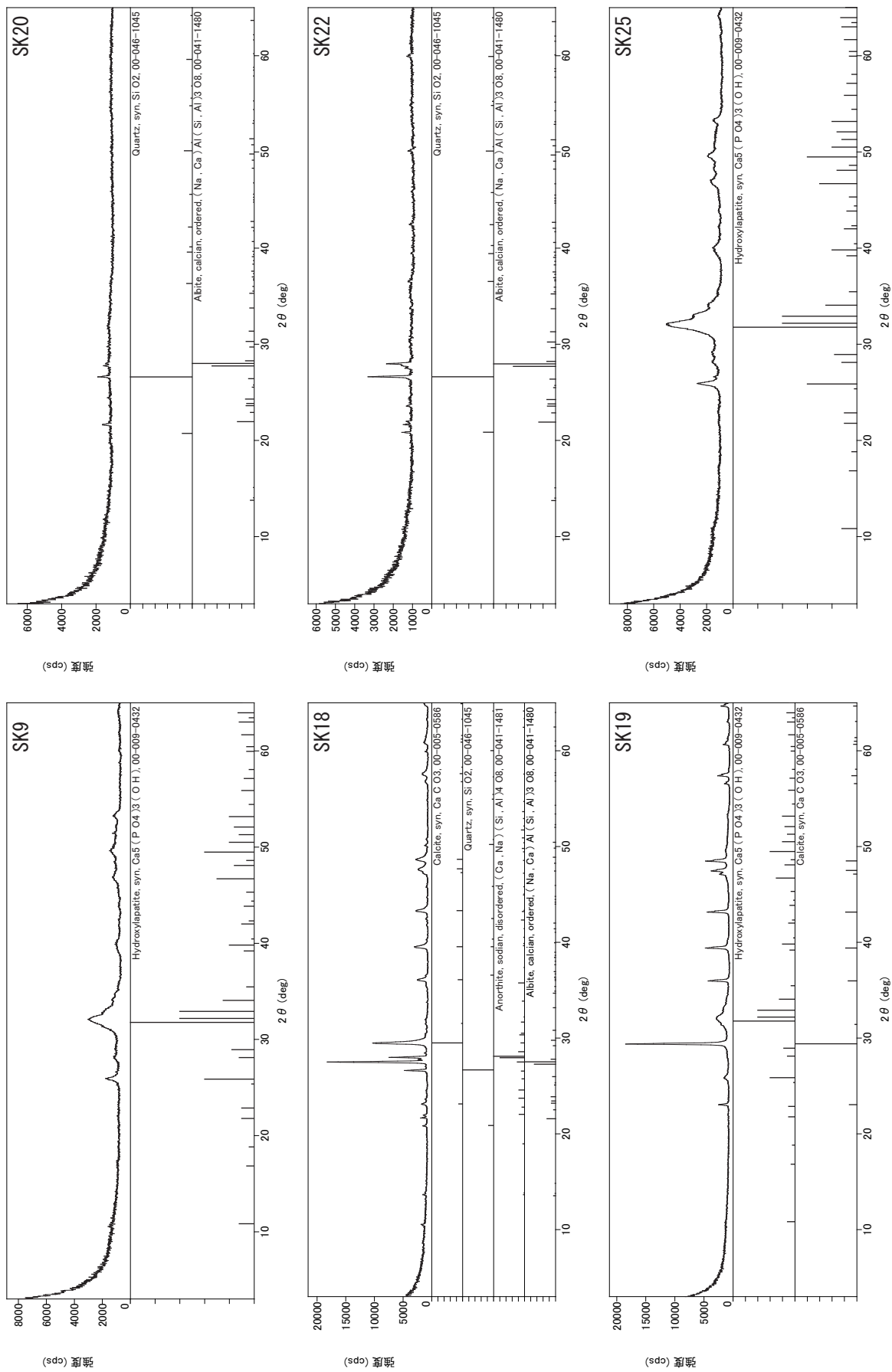


図1 X線回折分析結果 (1) (No. 1 ~ 6)

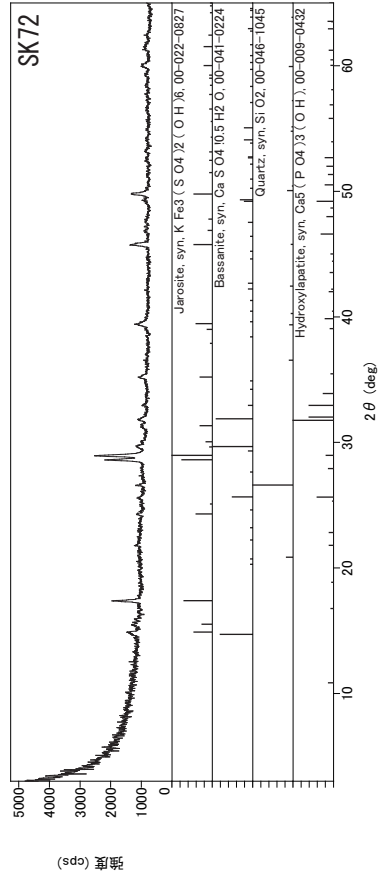
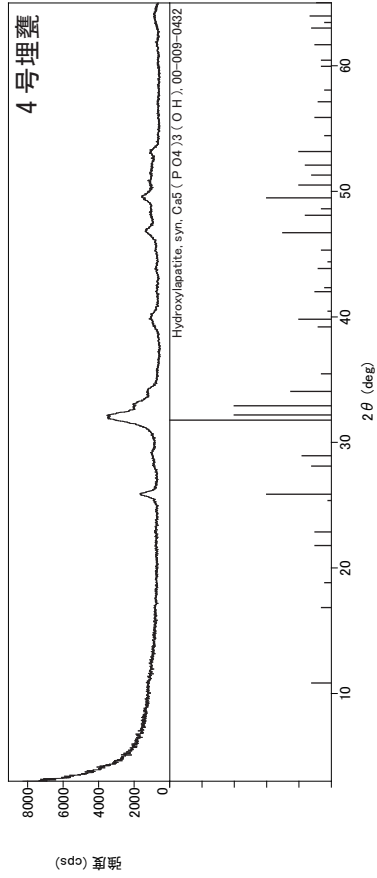
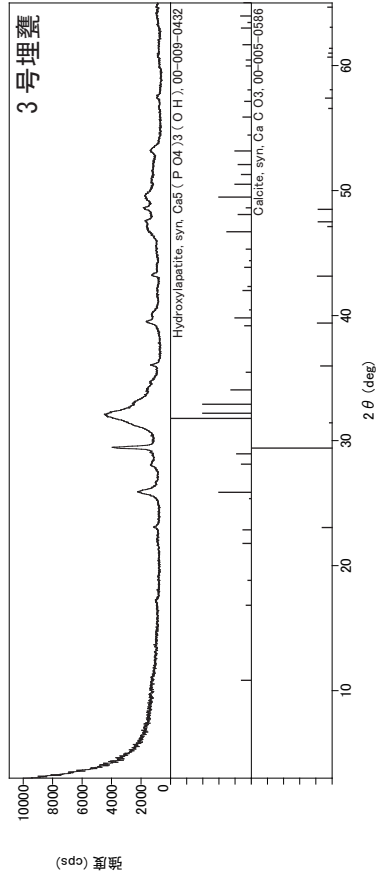
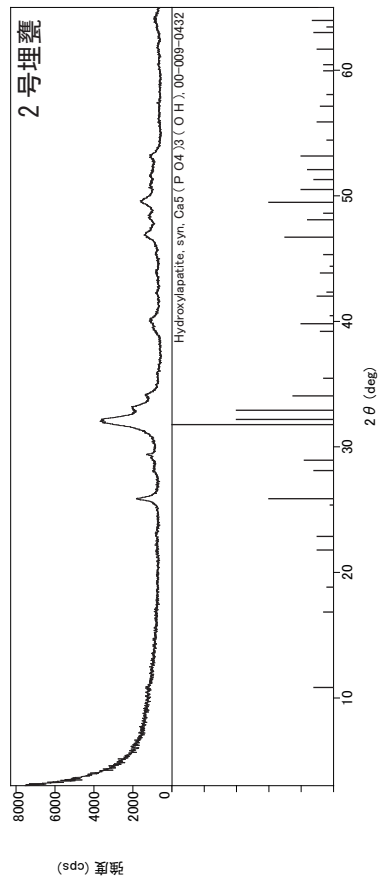
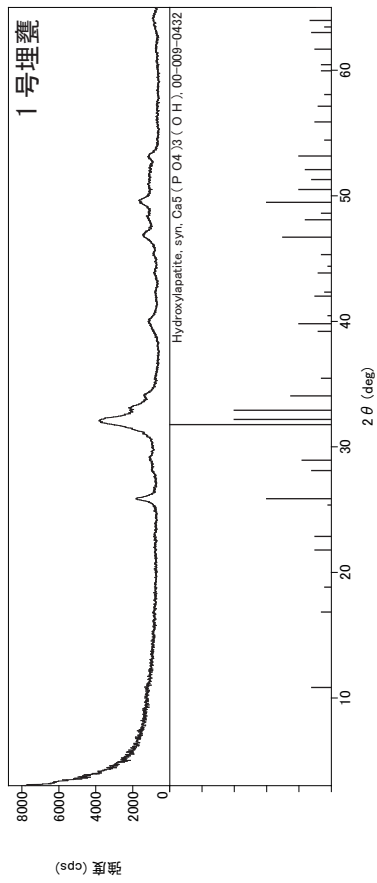
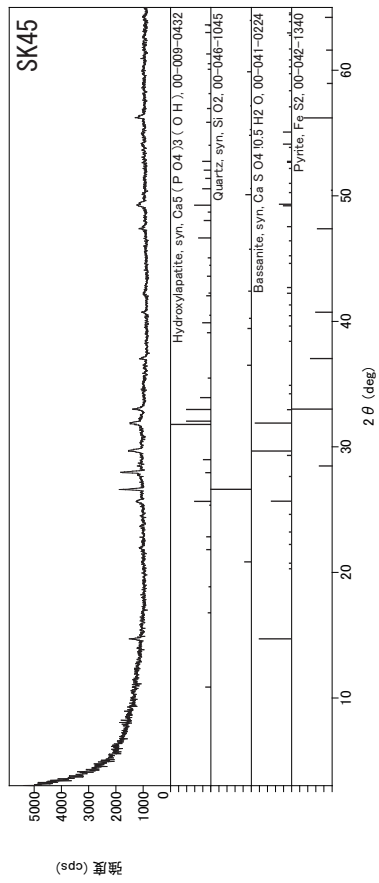


図2 X線回折分析結果(2) (No. 8 ~ 12、15)

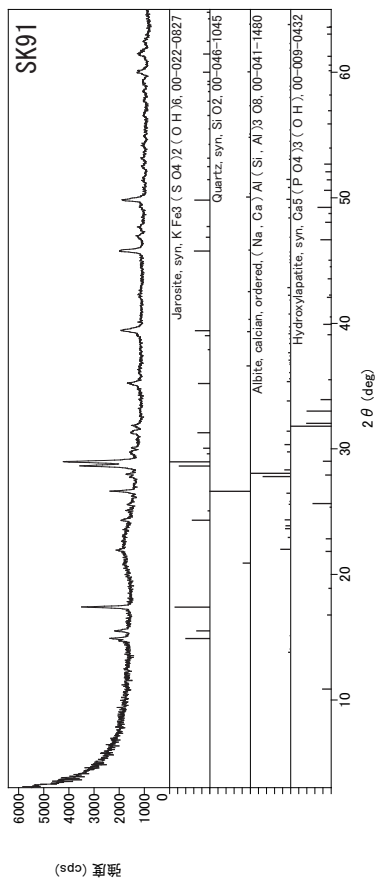
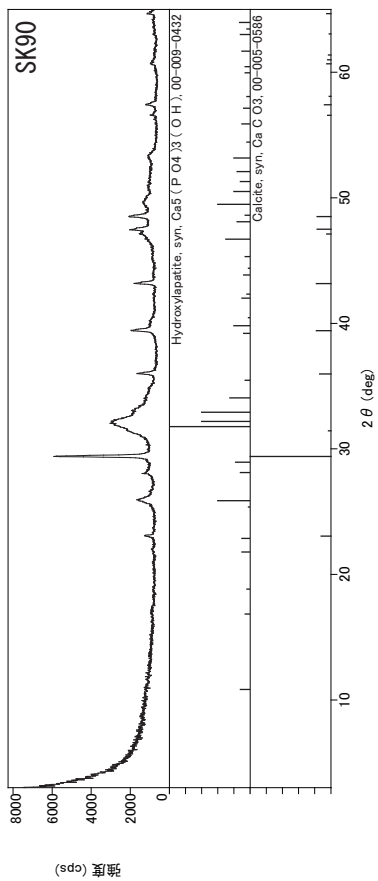
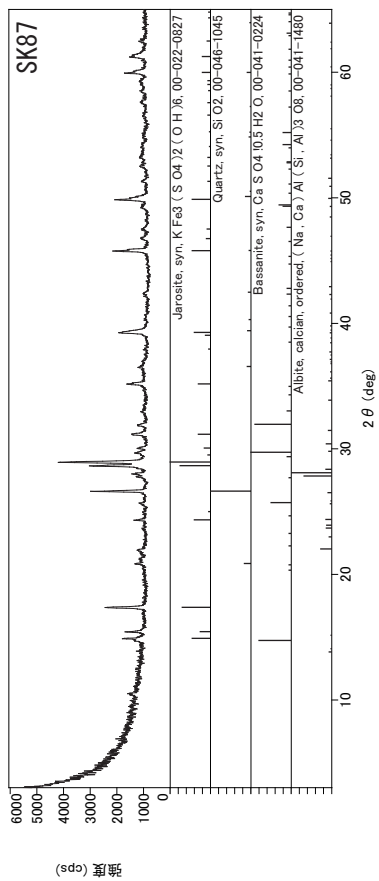
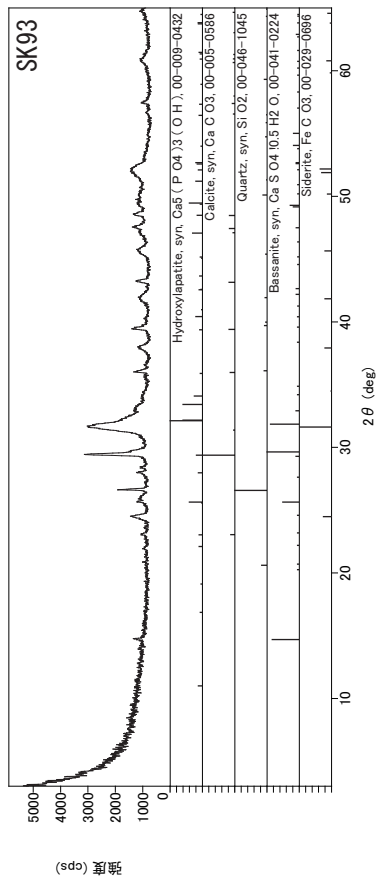
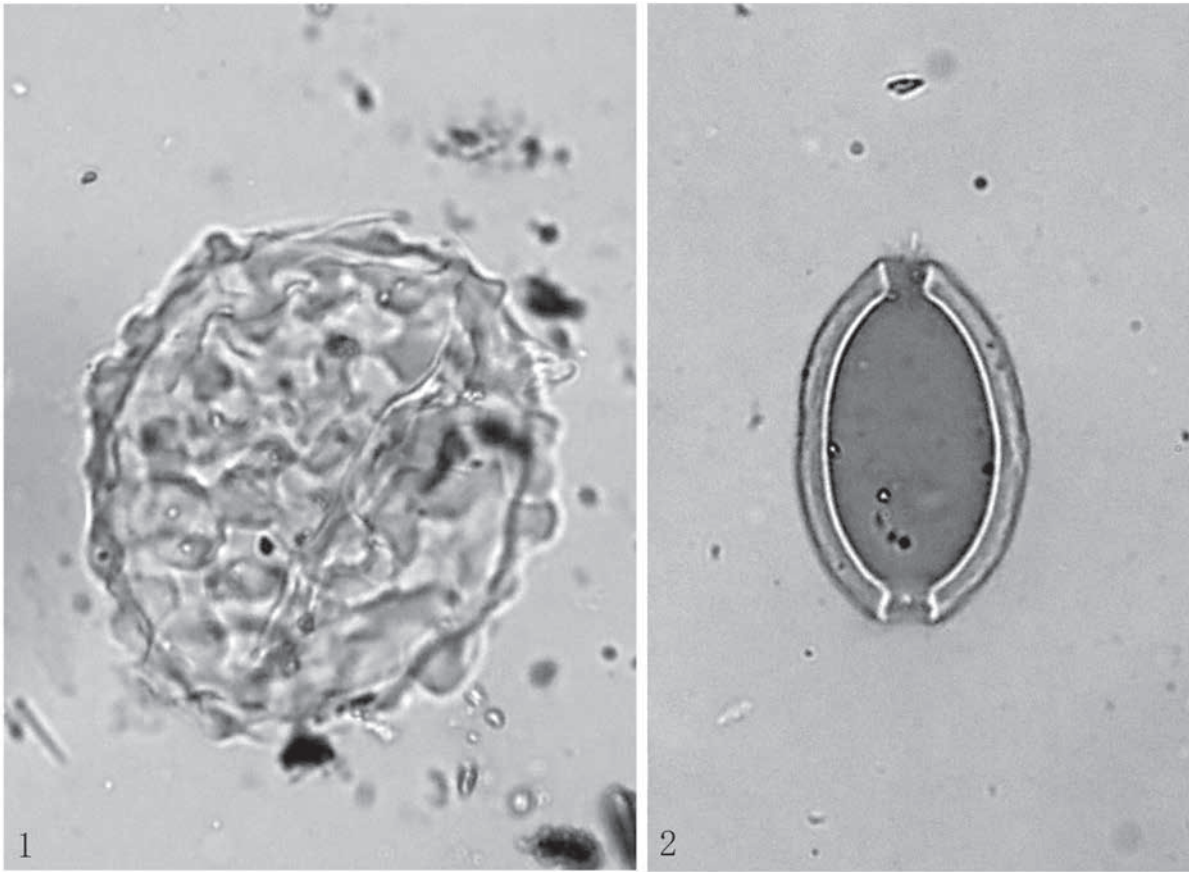


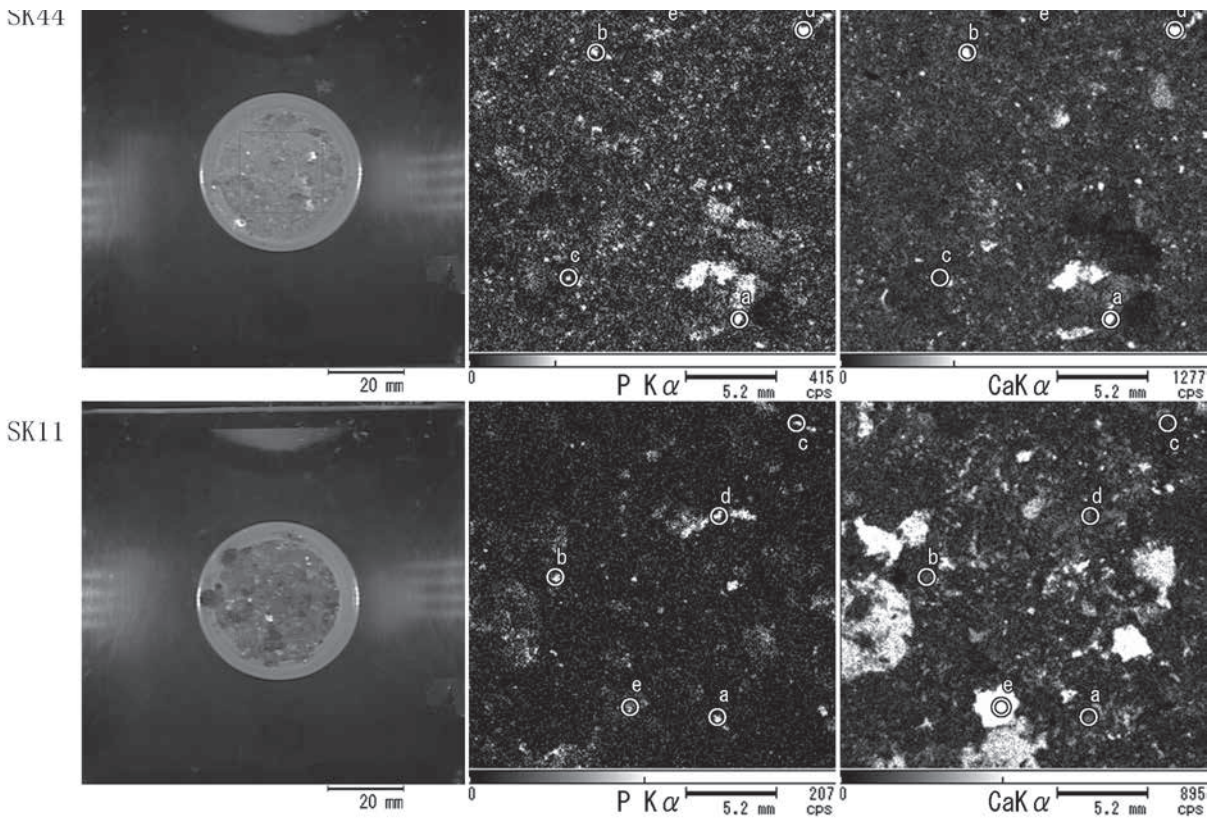
図 3 X線回折分析結果 (3) (No. 17 ~ 20)



0.03mm

図版1 SK45から産出した寄生虫卵

1. 回虫卵 (PLC. 3380) 2. 鞭虫卵 (PLC. 3381)



図版2 プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図

第8節 甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）から出土した大型植物遺体

バンダリ スダルシャン・森 将志（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡は、江戸時代から近代の遺跡である。ここでは、中央5丁目2・3・4区における江戸時代中期～近代の遺構内から出土した大型植物遺体の同定結果を報告し、当時の利用植物や植生、栽培状況について検討した。なお、同じ堆積物試料を用いて花粉分析と昆虫同定、寄生虫卵分析も行われている（別項参照）。

2. 試料と方法

試料は、肉眼で確認・回収された現地取り上げ試料16試料と、堆積物試料が16試料である。現地取り上げ試料は、江戸時代前期～中期の3区F地点SX51から1試料と、江戸時代後期の2区A-1地点SK6、SK14、SS2から各1試料、2区A-2地点SK20とSD3から3試料、2区E-1地点SK72とSK87から各1試料、3区C地点SX21（SK23）とSK27から各1試料、幕末～明治期の2区A-1地点SK11から1試料、近代の2区E-1地点SS27から2試料、時期不明の2区E-1地点SP89と3区E地点SS41から各1試料が採取された。

堆積物試料は、江戸時代中期～後期の2区B-1地点SK51から1試料、4区②地点SK18から1試料、江戸時代後期の2区A-2地点SK44から1試料、2区E-1地点SK72、SK87、SD7から各1試料、2区E-2地点SD10とSD11から各1試料、3区B地点東SK11から1試料、4区②地点SK14、SD1から1試料、江戸時代後期～幕末の2区A-2地点SK45から1試料、近代の2区A-2地点SK22から1試料、2区E-1地点SK90から1試料、4区④・⑤地点SD2から2試料が採取された。試料が採取された遺構は、土坑（SK：井戸内、大型土坑覆土、溝内覆土、埋桶、廃棄土坑）と、上水遺構（SD）、石列・礎石・基礎（SS）、礎石・柱列（SP）、性格不明土坑（SX）である。試料は、昭和測量株式会社によって採取された。

堆積物試料の水洗は、パレオ・ラボで行った。各試料100ccについて最小0.5mm目の篩を用いて水洗した。大型植物遺体の抽出および同定は、実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。モモとヒメグルミ、オニグルミは形態を観察し、完形、一部破損の個体、動物食痕のある個体、打撃痕のある個体、半割の個体、破片に分類した。計数が困難な分類群は、記号（+）で示した。試料は、甲府市教育委員会に保管されている。

3. 結果

同定した結果、木本植物では針葉樹のイヌガヤ種子とマツ属複維管束亜属葉・炭化葉の2分類群、広葉樹のブドウ属種子と、モモ核、ウメ核、スモモ核、サクラ属サクラ節核、キイチゴ属核、ヒメグルミ核、オニグルミ核、サンショウ種子、カキノキ属種子、エゴノキ核の11分類群、草本植物ではオモダカ属果実とスゲ属果実、カヤツリグサ属果実、サンカクイーフトイ果実、ホタルイ属果実、メヒシバ属有ふ果・炭化有ふ果、ヒエ属有ふ果・炭化有ふ果・炭化種子（穎果）、イネ炭化粉塊・炭化粉・粉殻・炭化粉殻・炭化種子（穎果）、オオムギ炭化種子（穎果）、エノコログサ属炭化有ふ果、キケマン属種子、タガラシ果実、キンボウゲ属果実、トウガン種子、メロン仲間種子、ニホンカボチャ種子、ヒョウタン仲間種子、ヘチマ種子、カタバミ属種子、エノキグサ属種子、トウダイグサ種子、ソバ果実・炭化果実、サナエタデーオオイヌタデ果実、ミチヤナギ属果実、ギンギシ属果実・炭化果実、ノミノフスマ種子、ウシハコベ種子、ミドリハコベ種子、アカザ属種子、スベリヒコ属種子、ヤエムグラ属種子、ナス種子・炭化種子、ナス属種子、ゴマ種子、シソ属果実、タカサブロウ果実の36分類群の、計49分類群が得られた（表1～4）。このほかに、科以上の詳細な同定ができなかった炭化種実を不明A、残存状態が悪く微細な破片であるため識別点を欠く同定不能な一群を同定不能炭化種実とした。また、大型植物遺体以外には、不明動物遺体も得られたが、同定の対象外とした。

表1 甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）から出土した大型植物遺体（1）（括弧内は破片数）

試料No.	土5	土4	土6	土7	土10	土17	土16	土15	土19	土20		
工区	A-2地点			B-1地点		E-1地点			E-2地点			
調査地点	SK22			SK44		SK45		SK51		SK72		
遺構	SK22			SK44		SK45		SK51		SK72		
時期	近代 (明治期以降に 埋没か)		江戸後期か		江戸後期～幕末か		江戸中期～後期		江戸後期		近代か	
分類群	水洗量 (cc)			100								
イヌガヤ	種子											(1)
マツ属複維管束亜属	炭化葉		(1)	2 (+)		3 (++)						
	炭化葉			(+)		5 (++)	4 (++)					(+)
ブドウ属	種子	(3)	1									
サクラ属サクラ節	核	(1)										
キイチゴ属	核											(1)
カキノキ属	種子			2								(2)
エゴノキ	核											(1)
オモダカ属	果実											1
スゲ属	果実											(2)
カヤツリグサ属	果実					3						
サンカクイフトイ	果実		1									
ホタルイ属	果実					1						
メヒンバ属	有ふ果			369		3	1					3
	炭化有ふ果					1						
ヒエ属	有ふ果			12		4	2					
	炭化種子											
イネ	籾殻	2		41 (++++)	2 (+)	20 (++)	193 (++++)	9 (+)	(+)			3
	炭化籾殻		2 (+)	2 (+)	16 (+)	21 (++)	39 (++)	9 (+)	9 (+)	2		19 (+)
	炭化種子 (穎果)	(1)				1	(3)					
	炭化有ふ果				(2)		1					
エノコログサ属	種子	1	3 (2)	14	3	3	2 (1)					3
キクマン属	果実						1					
タガラン	果実			1								
キンボウグ属	種子	(2)	1	(2)		1 (1)				(5)		(5)
トウガン	種子	(4)		(1)		1		(2)	(1)			
メロン仲間	種子											
ヘチマ	種子	1										
カタバミ属	種子		1			1	1					6 (5)
エノキグサ属	種子											1 (1)
トウダイグサ	種子		1	(1)								
ソバ	果実			1		(3)	(3)					
	炭化果実					(1)						
サナエタデーオオイヌタデ	果実						1 (2)					
ミチヤナギ属	果実			7 (4)		9						
ギンギン属	果実			1								
	炭化果実				1							
ノミノフスマ	種子						1					
ウシハコベ	種子						1					
ミドリハコベ	種子											2
アカザ属	種子						2		(1)			
スベリヒユ属	種子		4 (3)	62		8	5 (3)	2				10 (5)
ヤエムグラ属	種子					1						
ナス	種子	2	3	2 (2)			2 (8)		(6)			
	炭化種子						1					
ナス属	種子							1 (1)				3 (1)
ゴマ	種子	(1)	(3)					1 (15)		(1)		(1)
シン属	果実											
タカサブロウ	果実					1						1
不明A	炭化種実				(7)							
同定不能	炭化種実		(2)			(5)			(5)			
不明	動物遺体	(+)	(+)		(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)		

+:1-9, ++:10-49, +++:50-99, ++++:100以上

以下に、大型植物遺体の産出傾向を時期ごとに、遺構別に記載する（不明 A 炭化種実と同定不能炭化種実は除く）。

<現地取り上げ試料>

[江戸時代前期～中期]

3区F地点SX51：打撃痕のオニグルミが1点得られた。

[江戸時代後期]

2区A-1地点SK6：完形のモモが1点、破片のモモが1点、半割のオニグルミが1点得られた。

2区A-1地点SK14：半割のヒメグルミが1点得られた。

2区A-1地点SS2：半割のモモが1点得られた。

2区A-2地点SD3：完形のモモが2点得られた。

2区A-2地点SK20：完形のモモが3点、一部破損したモモが1点、半割のモモが1点得られた。

2区E-1地点SK72：半割のヒメグルミが1点得られた。

2区E-1地点SK87：半割のモモが1点とウメが1点ずつ得られた。

3区C地点SX21 (SK23)：破片のヒメグルミが1点得られた。

3区C地点SK27：完形のモモが1点、完形のウメが2点、破片のウメ2点、ニホンカボチャが1点得られた。

表2 甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）から出土した大型植物遺体（②）（括弧内は破片数）

分類群	水洗量 (cc)	試料No.					
		土22	土24	土23	土27	土30	土31
サンショウ	種子						
ヒエ属	炭化有ふ果	1					
	炭化種子	1					
イネ	炭化籾殻	≒384 [*] 3.07g					
	炭化籾・炭化種子	≒774 ^{**} 6.19g					
	籾殻		1 (+)	1 (++)			
オオムギ	炭化籾殻		13 (++)	2 (+)	1		
	炭化種子	6					
キケマン属	種子		1	2			
トウガン	種子					(2)	
ヒョウタン仲間	種子					(1)	
ソバ	果実			(1)			
サナエタデーオオイヌタデ	果実			(1)			
ウシハコベ	種子					(1)	
スベリヒユ属	種子	1	1				
ナス	種子		1			(10)	1
ゴマ	種子					(1)	
シソ属	果実			(1)			
同定不能	炭化種実		(1)			(5)	
不明	動物遺体					(+)	(+)

*イネ炭化籾・炭化種子10点の重量0.08gから完形個体に換算した数

**1-9, ++:10-49

[幕末～明治期]

2区 A-1 地点 SK11：破片のモモが1点得られた。

[近代]

2区 E-1 地点 SS27：一部破損したモモが1点と半割のヒメグルミが1点ずつ得られた。

[時期不明]

2区 E-1 地点 SP89：完形のモモが1点得られた。

3区 E 地点 SS41：動物食痕のモモが1点、半割のモモが1点、半割のスモモが1点得られた。

<堆積物試料>

[江戸時代中期～後期]

2区 B-1 地点 SK51（大型土坑覆土）：イネが少量、ヒエ属やエノコログサ属、キケマン属、ギシギシ属がわずかに得られた。

4区②地点 SK18（大型土坑覆土）：イネが少量、サンショウやキケマン属、ソバ、サナエタデーオオイヌタデ、シソ属がわずかに得られた。

[江戸時代後期]

2区 A-2 地点 SK44（埋桶か）：マツ属複維管束亜属やブドウ属、サンカクイーフトイ、イネ、キケマン属、トウガン、カタバミ属、トウダイグサ、スベリヒユ属、ナス、ゴマがわずかに得られた。

2区 E-1 地点 SK72（大型土坑（穴蔵？）覆土）：イネがやや多く、マツ属複維管束亜属が少量、カヤツリグサ属やホタルイ属、メヒシバ属、ヒエ属、キケマン属、トウガン、メロン仲間、カタバミ属、ソバ、ミチヤナギ属、スベリヒユ属、ヤエムグラ属、タカサブロウがわずかに得られた。

2区 E-1 地点 SK87（埋桶）：イネが多く、マツ属複維管束亜属やナスが少量、イヌガヤやメヒシバ属、ヒエ属、エノコログサ属、キケマン属、タガラシ、メロン仲間、カタバミ属、ソバ、サナエタデーオオイヌタデ、ノミノフスマ、ウシハコベ、アカザ属、スベリヒユ属がわずかに得られた。

2区 E-1 地点 SD7（溝内覆土）：イネが少量、アカザ属やナスがわずかに得られた。

2区 E-2 地点 SD10（溝内覆土）：マツ属複維管束亜属やイネ、トウガン、ゴマがわずかに得られた。

2区 E-2 地点 SD11（溝内覆土）：イネやカタバミ属、スベリヒユ属が少量、エゴノキやオモダカ属、スゲ属、

表3 甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）から出土した大型植物遺体（3）（括弧内は破片数）

試料No.	S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7	S18	S19	S20	S21
工区	1区				2区			3区			
調査地点	A-1地点			A-2地点			E-1地点				
遺構	SK6	SK11	SK14 (井戸内)	SS2	SD3	SK20	SK72	SP89	SS27 (裏込)		
時期	江戸後期か 幕末～明治期		江戸後期か	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	不明	近代		
モモ	核（完形）	1			2	3		1			1
	核（一部破損）					1					
	核（半割）			(1)			(1)				
	核（破片）	(1)									
ヒメグルミ	核（半割）		(1)					(1)		(1)	
オニグルミ	核（半割）	(1)									

メヒシバ属、キケマン属、トウガン、エノキグサ属、ミドリハコベ、ナス属、ゴマ、シソ属がわずかに得られた。

3区B地点東SK11（火災ゴミの廃棄土坑？）：イネが非常に多かった。塊から得られたイネ炭化粉・炭化種子（穎果）の完形個体10点の重量（0.08g）をもとに、イネ炭化粉塊の重量から完形個体換算数を求めると、約1158点であった。100ccの土壌から得られたイネ炭化粉塊のほかに、総重量が136.38gm（約17,048点）のイネ炭化粉塊も得られた。ヒエ属やオオムギ、スベリヒユ属がわずかに得られた。

4区②地点SK14（上水井戸？）：イネが少量、キケマン属やスベリヒユ属、ナスがわずかに得られた。

4区②地点SD1（溝内覆土）：ナスが少量、サンショウやイネ、トウガン、ヒョウタン仲間、ウシハコベ、ゴマがわずかに得られた。

[江戸時代後期～幕末]

2区A-2地点SK45（埋桶）：メヒシバ属やイネが多く、スベリヒユ属がやや多く、ヒエ属やキケマン属、ミチヤナギ属が少量、マツ属複雑管束亜属やカキノキ属、キンポウゲ属、トウガン、メロン仲間、トウダイグサ、ソバ、ギシギシ属、ナスがわずかに得られた。

[近代]

2区A-2地点SK22（埋桶）：ブドウ属やサクラ属サクラ節、イネ、キケマン属、トウガン、メロン仲間、ヘチマ、ナス、ゴマがわずかに得られた。

2区E-1地点SK90（溝内覆土）：イネやゴマが少量、キイチゴ属やカキノキ属、メロン仲間、スベリヒユ属、ナス属がわずかに得られた。

4区④・⑤地点SD2（溝内覆土）：サンショウやナスがわずかに得られた。

次に、得られた主要な分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田（2003-）に準拠し、APG IIIリストの順とした。

(1) ブドウ属 *Vitis* spp. 種子 ブドウ科

褐色で、上面観は楕円形、側面観は基部が尖り、倒心形に近い倒卵形。背面の中央もしくは基部寄りに匙状の着点があり、腹面には中央の鈍稜上に1本の縦筋が走り、その両側に細く深い溝孔が2つある。種皮は薄く硬い。長さ5.1mm、幅4.1mm、厚さ2.8mm。

(2) モモ *Amygdalus persica* L. 核 バラ科

茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点があり、表面に不規則な深い皺がある。片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。高さ31.1mm、幅21.3mm、厚さ16.4mm。

(3) ウメ *Armeniaca mume* (Siebold et Zucc.) de Vriese 核 バラ科

茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は卵円形。表面全体に、不規則で深い小さな孔がある。着点は凹む。縫合線に沿って深い溝が入る。高さ19.6mm、幅16.3mm、厚さ11.9mm。

(4) スモモ *Prunus salicina* Lindl. 核 バラ科

暗茶色で、完形ならば上面観はやや扁平な両凸レンズ形、側面観は紡錘形。両側に縫合線があり、浅い溝が入る。表面は平滑。高さ15.2mm、幅12.9mm、残存厚4.7mm。

(5) ヒメグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *cordiformis* (Makino) Kitam. 核 クルミ科

表4 甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）から出土した大型植物遺体（4）（括弧内は破片数）

試料No.	S22	S27	S28	S30	S31
	2区		3区		
工区	E-1地点		C地点	E地点	F地点
遺構	SK87	SX21 (SK23)	SK27	SS41	SX51
層位	-	-	-	-	上層
時期	江戸後期		江戸後期か	不明	江戸前期～ 中期
モモ	核（完形）		1		
	核（動物食痕）			(1)	
	核（半割）	(1)		(1)	
	核（破片）				
ウメ	核	1	2 (2)		
スモモ	核			(1)	
ヒメグルミ	核（破片）		(1)		
オニグルミ	核（打撃痕）				(1)
ニホンカボチャ	種子		1		

淡褐色で、完形ならば上面観は楕円形、側面観は先端が尖る広卵形。外面中央にやや深い溝が走るが、それ以外は表面が平滑な点でオニグルミとは異なる。明瞭な縫合線がある。高さ 26.6mm、幅 23.3mm、残存厚 8.5mm。

(6) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam. 核 クルミ科

褐色で、完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は広卵形。表面に縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。溝や凹凸の間には微細な皺がある。内部は二室に分かれる。半割の個体の大きさは、高さ 30.0mm、幅 26.8mm、残存厚 12.1mm。打撃痕のある個体は、頂部と上部が欠けている。残存高さ 25.0mm、残存幅 21.6mm、残存厚 11.7mm。

(7) カキノキ属 *Diospyros* spp. 種子 カキノキ科

黒褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形。基部がやや曲がり、突出する。表面にはちりめん状のしわが見られる。高さ 3.4mm、幅 2.1mm。

(8) メヒシバ属 *Digitaria* spp. 有ふ果・炭化有ふ果 イネ科

赤褐色で、披針形。先が尖り、縦方向に細かい顆粒状の模様がある。長さ 2.8mm、幅 0.9mm。

(9) ヒエ属 *Echinochloa* spp. 有ふ果・炭化有ふ果・炭化種子（穎果）イネ科

赤褐色で、紡錘形。縦方向に細かい筋がある。内穎は膨らまず、外穎は中央部が最も膨らむ。長さ 2.6mm、幅 1.5mm。炭化有ふ果は、長さ 3.1mm、幅 1.8mm。完形ならば種子の側面観は卵形、断面が片凸レンズ形で、厚みは薄く、やや扁平である。胚は幅が広く、長さは全長の 2/3 程度と長い。臍は幅が広いうちわ型。種子の全長は、残存長 1.3mm、幅 1.2mm。那須（2017）に示された現生種の長幅比と比較すると、栽培型のヒエよりも野生植物のタイヌビエやイヌビエの長幅比に近かった。

(10) イネ *Oryza sativa* L. 炭化粃塊・炭化粃・粃殻・炭化種子（穎果）イネ科

粃は、上面観が楕円形、側面観が長楕円形。2 条の稜があり、表面には四角形の網目状隆線と隆線上の顆粒状突起が規則正しく並ぶ。炭化粃は長さ 6.6mm、幅 3.6mm。炭化粃塊は高さ 50.2mm、幅 51.4mm、厚さ 32.8mm。粃殻は残存 4.2mm、残存幅 2.1mm。種子（穎果）の上面観は両凸レンズ形、側面観は長楕円形で、一端に胚が残る。両面に縦方向の 2 本の浅い溝がある。長さ 5.0mm、幅 2.9mm。

(11) オオムギ *Hordeum vulgare* L. 炭化種子（穎果）イネ科

側面観は長楕円形。腹面中央部には上下に走る 1 本の溝がある。側面観で最も幅の広い部分が中央付近にある。背面の中央部下端には三角形の胚がある。断面は楕円形である。長さ 5.9mm、幅 4.0mm、厚さ 2.6mm。

(12) トウガン *Benincasa hispida* (Thunb.) Cogn. 種子 ウリ科

赤褐色で、倒卵形。表面は平滑。基部両側に薄い突出部がある。周囲を縁取る肥厚があり、中央部は窪む。長さ 10.7mm、幅 6.2mm。

(13) メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

赤褐色で、完形ならば上面観は扁平、側面観は狭卵形で頂部が尖る。幅狭でやや厚みがある。残存長 6.6mm、幅 3.8mm。

- (14) ニホンカボチャ *Cucurbita moschata* (Duchesne ex Lam.) Duchesne ex Poir. 種子 ウリ科
 暗茶色で、上面観は扁平、側面観は肩が張る長倒卵形。周縁を毛が取り囲む。長さ 13.7mm、幅 7.0mm。
- (15) ヒョウタン仲間 *Lagenaria siceraria* (Molina) Standl. 種子 ウリ科
 やや淡黄褐色～褐色で、完形ならば上面観は扁平、側面観は逆三角形。やや湾曲して左右は非対象、先端はW字状で、基部から先端まで、浅く広い溝が2本走る。壁はややスポンジ質。残存長 8.8mm、残存幅 6.1mm。
- (16) ヘチマ *Luffa aegyptica* Mill. 種子 ウリ科
 淡茶色で、上面観は卵形で扁平、基部両側に2つの翼のような隆起点がある。周辺の周りが薄くなる。長さ 14.0mm、幅 9.5mm。
- (17) ソバ *Fagopyrum esculentum* Moench 果実 タデ科
 暗赤茶色で、完形ならば側面観は頂部の尖った卵形、上面観は三角形。稜となる果実辺縁部はやや薄い。残存長 3.2mm、幅 3.5mm。
- (18) スベリヒユ属 *Portulaca* spp. 種子 スベリヒユ科
 黒色で、上面観は扁平、側面観は円形。全体的にいぼ状の突起がある。「の」の字状になり先端に着点がある。長さ 0.8mm、幅 0.9mm。
- (19) ナス *Solanum melongena* L. 種子・炭化種子 ナス科
 赤褐色で、上面観は長楕円形、側面観は楕円形。着点は明瞭に窪む。表面には畝状突起が覆瓦状となる細かい網目状隆線がある。長さ 2.6mm、幅 3.5mm。
- (20) ナス属 *Solanum* spp. 種子 ナス科
 赤褐色、上面観は扁平、側面観は楕円形。表面には細かい畝状突起をもつ網目状隆線がある。長さ 1.6mm、幅 2.2mm。
- (21) ゴマ *Sesamum orientale* L. 種子 ゴマ科
 赤褐色で、上面観は扁平、側面観は狭倒卵形。表面は平滑。縁に沿って浅い溝がある。長さ 3.4mm、幅 2.1mm。
- (22) シソ属 *Perilla* spp. 果実 シソ科
 黒褐色で、いびつな球形。端部に着点があり、表面には低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ 1.8mm、幅 1.2mm。
- (23) 不明 A Unknown A 炭化種実
 完形ならば円形または楕円形の可能性がある。表面には網目状隆線がある。残存長 1.9mm、残存幅 2.9mm。

4. 考察

甲府城下町遺跡中央5丁目2・3・4区の江戸時代中期～近代における遺構からは、多量かつ多種類の大型植物遺体が得られた。

以下、産出した大型植物遺体について、時期ごとに考察する。

[江戸時代前期～中期]

3区F地点SX51(性格不明土坑)の上層からは、食用可能な野生植物のオニグルミが得られた。オニグルミの核には打撃痕が見られたため、人為的に割られて中の子葉が取り出された可能性がある。

[江戸時代中期～後期]

2区B-1地点SK51(大型土坑覆土)と4区②地点SK18(大型土坑覆土)からは、サンショウの種子や水田作物であるイネの籾殻や畑作物のソバの果実が得られた。昆虫分析によると、SK18はゴミ捨て場のような場所が想定されており、イネの籾殻やソバ果実、油に利用されたサンショウの種子などが廃棄され堆積している可能性がある。草本植物では、湿生植物のヒエ属や、やや湿った環境の場所に生育するギシギシ属、乾いた場所に生育するエノコログサ属やキケマン属、サナエタデーオオイヌタデ、シソ属が産出しており、これらの草本類が大型土坑周辺に生育していたと考えられる。

[江戸時代後期]

火災ゴミの廃棄土坑の可能性が考えられている 3 区 B 地点東 SK11 では、イネの炭化籾・炭化籾塊やオオムギ炭化種子が産出した。イネ炭化籾塊は、炭化籾・炭化種子の完形換算個体数で 18,206 点ほどと考えられる。保管されていた穀類が火災で炭化して土坑に廃棄された可能性がある。

また、2 区 E-1 地点 SK72 や SK87、4 区②地点 SK14 などの土坑ではイネの籾殻・炭化籾殻が多量に含まれていた。特に、昆虫分析でゴミ捨て場と想定されている SK87 では、イネ以外にもメロン仲間種子やソバ果実、ナス種子・炭化種子といった栽培植物が産出しており、土坑に廃棄されたと考えられる。さらに、2 区 A-2 地点 SK44 や 2 区 E-1 地点 SK72、SD7、2 区 E-2 地点 SD10、SD11、3 区 C 地点 SK27、4 区②地点 SD1 でもサンショウやイネ籾殻、トウガン種子、メロン仲間種子、ヒョウタン仲間種子、ニホンカボチャ種子、ソバ果実、ナス種子、ゴマ種子が産出しており、土坑や溝に廃棄された可能性がある。

また、2 区 A-1 地点 SK6 や SS2、2 区 A-2 地点 SK20、SD3、2 区 E-1 地点 SK87 ではモモやウメの核が産出した。モモやウメの核は、果肉を食べた後に核だけが廃棄された可能性や、遺構周辺にこれらの果樹が植栽されており、果実が自然落下した可能性などが考えられる。モモについては、食利用以外にも、観賞用や薬用、呪術用、祭祀用などさまざまな目的で利用されるため（那須，2015）、食用以外の何らかの用途に用いられた後に、廃棄された可能性もある。2 区 A-1 地点 SK6、SK14（井戸内）、2 区 E-1 地点 SK72、3 区 C 地点 SX21（SK23）では、ヒメグルミとオニグルミが産出しており、これらの個体には打撃痕は見られず、自然に割れた可能性がある。

その他にも、江戸時代後期と推測される遺構（2 区 A-2 地点 SK44、2 区 E-1 地点 SK72、SK87、SD7、2 区 E-2 地点 SD10、SD11、3 区 B 地点東 SK11、4 区②地点 SK14）から産出した分類群を全体的に概観すると、木本植物ではイヌガヤやマツ属複雑管束亜属、エゴノキが得られており、遺構周辺にこれらの樹木が生育していたと推定される。なお、マツ属複雑管束亜属については、花粉分析で近世（19 世紀）に優占することが知られているが（鈴木，2009）、今回の大型植物遺体同定では、18 世紀代や 19 世紀代と推測される試料からマツ属複雑管束亜属が検出されており、大型植物遺体では時期によって産出が異なる傾向は見られなかった。草本植物では、抽水植物のオモダカ属や湿生～抽水植物のスゲ属、カヤツリグサ属、サンカクイ-フトイ、ホタルイ属、ヒエ属、タガラシなどが産出した。また、やや湿った環境の場所に生育するタカサブロウや、乾いた場所に生育するメヒシバ属やエノコログサ属、キケマン属、カタバミ属、エノキグサ属、トウダイグサ、サナエタデーオオイヌタデ、ミチヤナギ属、ノミノフスマ、ウシハコベ、ミドリハコベ、アカザ属、スベリヒユ属、ナス属、シソ属なども産出しており、これらの草本類が遺構周辺に生育していたと考えられる。

[江戸時代後期～幕末]

A-2 地点 SK45 からは栽培植物のイネやトウガン、メロン仲間、ソバ、ナス、食用可能な野生植物のカキノキ属やヒエ属が得られた。これらの植物が廃棄されたか、周辺に生育していた植物からもたらされた可能性がある。SK45 は昆虫分析でゴミ捨て場が想定されており、人為的に食用植物が廃棄された状況を示している可能性がある。

これら以外の草本植物では、やや湿った環境の場所に生育するギシギシ属や乾いた場所を好むメヒシバ属やキケマン属、キンポウゲ属、トウダイグサ、ミチヤナギ属、スベリヒユ属、が、樹木ではマツ属複雑管束亜属が産出しており、これらの植物が SK45 周辺に生育していたと考えられる。

[幕末～明治期]

2 区 A-1 地点 SK11 からは、栽培植物のモモが得られた。果肉を食べた後や何らかの用途に用いられた後に捨てられた可能性や、周辺に生育していた果樹からもたらされた可能性がある。

[近代]

2 区 A-2 地点 SK22 と 2 区 E-1 地点 SK90、SS27、4 区④・⑤地点 SD2 では、モモやイネ、トウガン、メロン仲間、ヘチマ、ナス、ゴマといった栽培植物や、食用可能な野生植物のブドウ属やサクラ属サクラ節、

キイチゴ属、ヒメグルミ、サンショウ、カキノキ属が得られており、食用に関わる植物が多い。食べられない部位が廃棄されている可能性がある。昆虫分析では、SK90 はゴミ捨て場と推測されているため、これらの植物が廃棄されていた可能性がある。

[時期不明]

2区E-1地点SP89と3区E地点SS41からは、栽培植物で果樹のモモやスモモが得られた。モモやスモモの核は、果肉を食べた後や何らかの用途に用いられた後に捨てられた可能性や、周辺に生育していた果樹からもたらされた可能性がある。

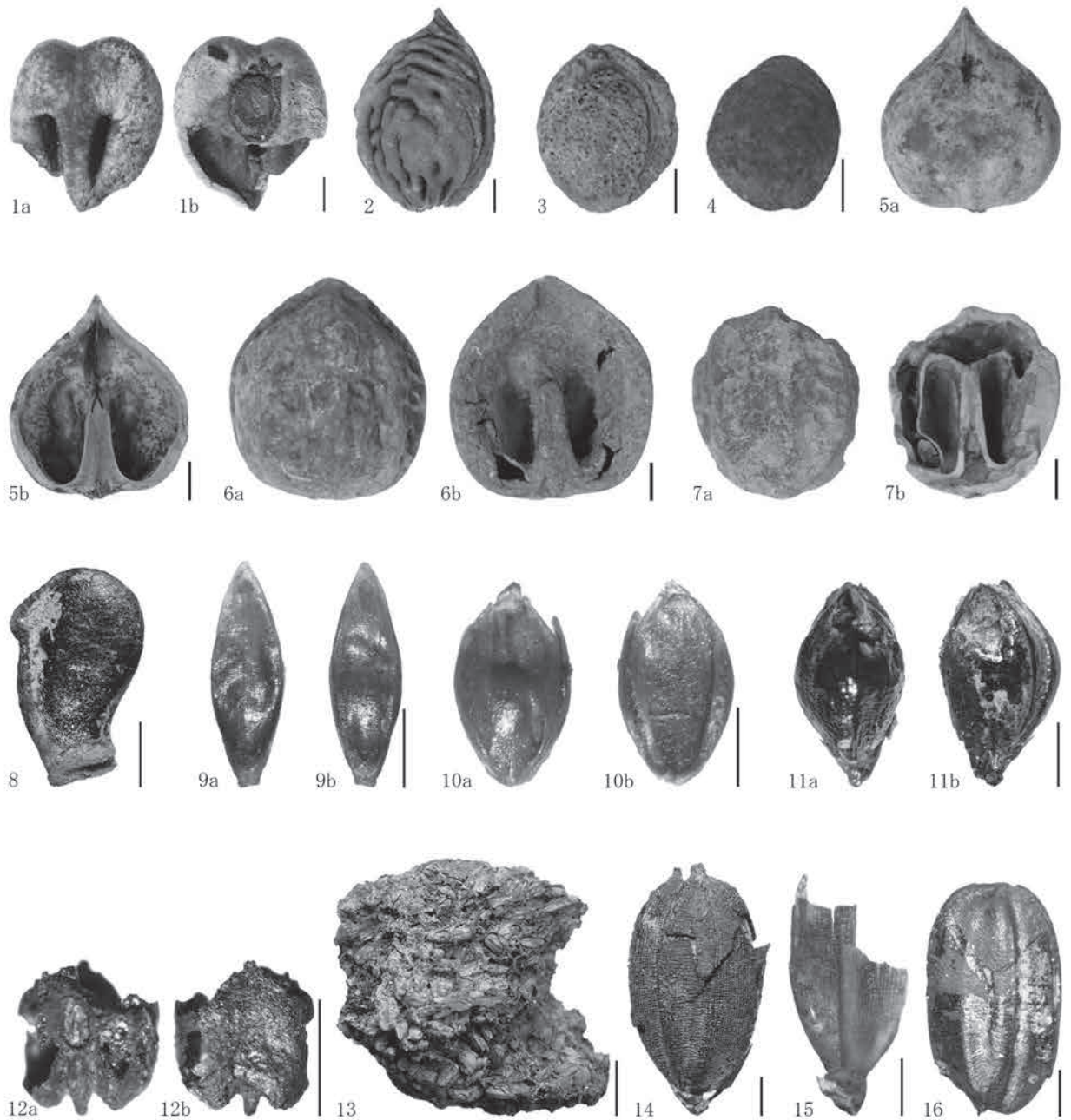
引用文献

那須浩郎（2015）古代のモモ. *BIOSTORY*, 22, 58-61.

那須浩郎（2017）縄文時代にヒエは栽培化されたのか？ *SEEDS CONTACT*, 4, 27-29.

鈴木 茂（2009）甲府城下町遺跡（紅梅地区再開発地点）の花粉化石. 甲府市教育委員会編「甲府城下町遺跡Ⅴ」: 52-62, 甲府市教育委員会.

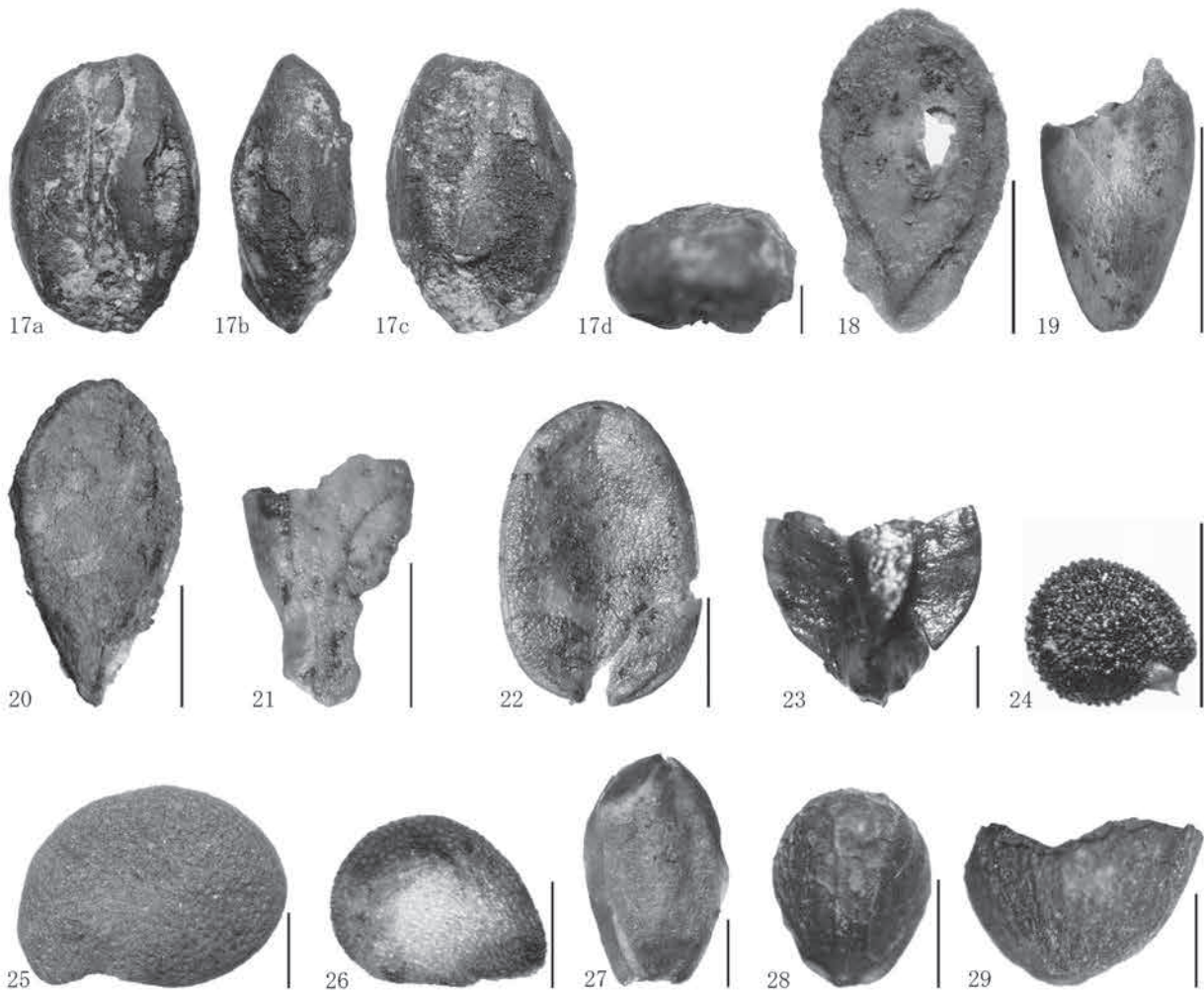
米倉浩司・梶田 忠（2003-）BG Plants 和名-学名インデックス (YList), <http://ylist.info>



スケール 1, 8-12, 14-16:1mm, 2-7:5mm, 13:10mm

図版1 甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）から出土した大型植物遺体（1）

1. ブドウ属種子（2区、SK44、土4）、2. モモ核（完形）（2区、SK6、S1）、3. ウメ核（2区、SK87、S22）、4. スモモ核（3区、SS41、S30）、5. ヒメグルミ核（半割）（2区、SK14、S3）、6. オニグルミ核（半割）（2区、SK6、S1）、7. オニグルミ核（打撃痕）（3区、SX51、S31）、8. カキノキ属種子（2区、SK45、土6）、9. メヒシバ属有ふ果（2区、SK45、土6）、10. ヒエ属有ふ果（2区、SK45、土6）、11. ヒエ属炭化有ふ果（3区、SK11、土22）、12. ヒエ属炭化種子（2区、SK51、土7）、13. イネ炭化朽塊（3区、SK11、土22）、14. イネ炭化朽（3区、SK11、土22）、15. イネ朽殻（2区、SK72、土10）、16. イネ炭化種子（穎果）（3区、SK11、土22）



スケール 17, 23-29:1mm, 18-22:5mm

図版2 甲府城下町遺跡（中央5丁目2・3・4区）から出土した大型植物遺体（2）

17. オオムギ炭化種子（穎果）（3区、SK11、土22）、18. トウガン種子（2区、SK44、土4）、19. メロン仲間種子（2区、SK72、土10）、20. ニホンカボチャ種子（3区、SK27、S28）、21. ヒョウタン仲間種子（4区、SD1、1層、土27）、22. ヘチマ種子（2区、SK22、土5）、23. ソバ果実（2区、SK45、土6）、24. スベリヒユ属種子（2区、SK45、土6）、25. ナス種子（2区、SK22、土5）、26. ナス属種子（2区、SD11、土20）、27. ゴマ種子（2区、SK90、土16）、28. シソ属果実（2区、SD11、土20）、29. 不明A炭化種実（2区、SK51、土7）

第7章 総括

中央5丁目2～4区の調査成果（第176・177図）

中央5丁目2～4区の調査全体を通して、土坑149基、埋桶15基、埋甕6基、井戸6基、小穴156基、集石遺構78基、建物跡3基、石列2条、石垣造りの溝2条、溝状遺構21条、地鎮遺構1基、不明遺構6基を検出した。これらの検出状況や切り合い関係、出土遺物の推定生産年代などから、遺構の時期を推定し、各時期の特筆すべき遺構を以下にまとめた。

江戸時代前期～中期（17世紀後葉～18世紀中葉）

甲府家期から柳沢期を経て、甲府勤番支配期にかけての時期である。3区L地点SK114がこの時期に位置づけられる。この遺構は火災で生じた焼土・炭化材などを投棄したとみられる。大窯期と推定される天目茶碗が出土しているが、肥前系磁器の小杯がともに出土しているため、この時期に位置づけた。

江戸時代中期～後期（18世紀前葉～中葉）

柳沢期から甲府勤番支配期にかけての時期である。2区B-1地点SK51、E地点SK91、3区A地点SX2、F地点SX51（SK52）、4区①②地点SK17・18、④⑤地点SK27・30がこの時期に位置づけられる。検出された遺構は少ないが、この中の7基が大型の土坑である。

これらの中で特筆される遺構として、3区F地点SX51がある。SX51の底面には溝状遺構（SD51・52）と土坑状遺構（SK51・52）が検出され、その底面より礎板や礎石が検出されている。火の見櫓など高さのある構造物の基礎であった可能性が考えられ、底面で検出された遺構の切り合いから、ある時点での造り替えが行われたと推定される。このSX51の底面で検出されたSK52内からは、ケヤキ材の礎板が出土しており、この礎板について、ウイグルマッチング法を用いた加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を実施した。その結果、最外年輪年代は1563-1601calAD（61.59%）および1614-1638calAD（33.86%）で、甲府城下町が形成された16世紀後半から17世紀前半の時期に重なる。また、第4層で瀬戸・美濃系播鉢の口縁部破片が出土している。この播鉢は口縁端部を外側に折り返し、体部と密着して幅広の縁帯が形成され、口縁内面はやや丸味を帯び、受け口状に形成されている。この特徴から、赤津村出土播鉢のI C3類に比定でき、その推定生産年代が17世紀後葉から18世紀前葉（瀬戸・美濃登窯製品編年第2段階第5～6小期）に位置づけられる。以上のことから、少なくとも18世紀中頃までは機能していた可能性が高い。SX51は甲府城下町の形成期に構築され、造り替えを経て、18世紀中頃までに礎石や礎板以外の構築材を撤去した上で埋め戻された可能性がある。

甲府城下町における火の見櫓の位置の記録には、元治元年（1864年）の「甲府町方取扱諸品取調帖」（『甲府市史 史料編二 近世I』収録）に次のように記録されている。

「下府中の内火の見五ヶ所 魚町三丁目 壺ヶ所 片羽町 壺ヶ所 西青沼町 壺ヶ所 緑町 壺ヶ所
一蓮寺地内町 壺ヶ所 右火の見建直修復共、其町々入用にて致来申候」

この記録には、調査地点である下連雀町の名はみられず、史料も19世紀の記録であるため、当該箇所には火の見櫓が建っていたかどうかは不明である。SX51がはたして火の見櫓の基礎なのか、この遺構が構造物の基礎であるかどうかも含めて検討の必要がある。

現在の連雀町通り南側では2基の大型土坑が検出された。火災により生じた焼土や被災した生活用品などを投棄したとみられるB-1地点SK51や、性格不明遺構である3区A地点SX2からは、磁器・陶器・土器や寛永通宝などが出土しており、これらの推定生産年代は18世紀中葉までにおさまる。

連雀町通り北側では4基の大型土坑が検出された。4区①②地点SK17・18、④⑤地点SK27・30については、いずれも各地点の最終面で検出され、出土遺物が少なく、遺構の性格や、明確な時期を決定するには検討が必要である。また埋土の状況も酷似しており、いずれも地山を掘り返してそのまま埋めたかのよ

うな埋土で、壁面や底面の検出は困難であった。この中で唯一、④⑤地点 S K 17 から角材や丸木材を井桁に組んだ構造物が検出されており、これを穴蔵の床板を敷くための根太であると推定した。江戸遺跡では、地下を利用して空間を設け、各種の目的に利用した「地下室」と呼ばれる空間が検出されている。「地下室」にはいわゆる穴蔵として利用されたとみられるものもあり、掘り抜き穴蔵、木製枅形穴蔵、石組み枅形穴蔵、瓦積み枅形穴蔵などがある。このうち



第175図 穴蔵「目黒行人阪火事絵巻」(国立国会図書館デジタルコレクション)

掘り抜き穴蔵は旗本御家人階層や町人などの屋敷にも設置され、間口付近に構築されることも多い。天保8年(1837)から慶応3年(1867)に記された『守貞謄稿』によると、明暦2年(1656)に江戸本町二丁目の呉服屋和泉屋久左衛門が、火事の備えとして最初に造ったとされる。土蔵より安価で、土蔵を造る敷地が無くても造れるため、庶民の間に普及し、火事の際に家財を安全に保管するために用いられていた(第175図)。

江戸時代後期(18世紀中葉～19世紀初頭)

甲府勤番支配期の時期である。2区A地点 S K 1・3・5・6・14・16・17・20・25・39・41・44・46、S P 19、S D 3、B地点 S K 47、C-1地点 S K 60、C-2地点 S K 61、S P 74～76、D地点 S K 100、E地点 S K 72・79～81・86・87・92・93・95・110、S D 6～11、3区A地点 S X 1、B地点 S K 11・13・15、C地点 S K 21・27、S X 21、4区①②地点 S K 14、S D 1、③地点 S K 16、④⑤地点 S K 22、⑥地点 S K 31・32、⑦地点 S D 3がこの時期に比定される。前段階と同様に大型土坑が散見される他、井戸や埋桶、溝状遺構などが検出されている。

検出された大型土坑には平面形が隅丸方形のものと、不整形な形状のものがみられる。不整形な形状の土坑には、火災により生じた焼土や炭化物を一括投棄したとみられる遺構が多く、掘方の底面も平坦でない場合が多い。このことから穴蔵などを転用した廃棄土坑ではなく、廃棄行為のために掘られた土坑であるかのような印象を覚える(2区A地点 S K 2、C-1地点 S K 60、C-2地点 S K 61、4区⑥地点 S K 31・32)。一方で、隅丸方形を呈するものは、掘方の底面が比較的平坦に造られており、屋敷の間口付近に構築された穴蔵といった性格が想起される。埋土に関しては地山に似た土で埋め戻されたものと(3区C地点 S X 21)、廃棄土坑として転用されたとみられるものがあり(2区A地点 S K 20、B-1地点 S K 47)、前者は出土遺物も少なく、人為的に短期間で埋戻しが行われたと推測する。いずれも4区④⑤地点 S K 27で検出されたような根太は遺存していない。また、3区C地点 S X 22の東隣りには、類似遺構である S X 22が検出されている。詳細な時期は不明であるが、底面から2基の土坑状遺構と板状の部材が出土している。前述の3区E地点 S X 51との共通性がみられ、何らかの構造物の基礎であった可能性も考えられる。

井戸は2区A地点から2基検出されている。S K 14は、内部に側板が巡り、開口部付近に石積みの痕跡が残る。側板は桶材とみられるが、桶側としては長く、積み重ねは確認できず、1段のみ検出された。井戸側の直下には井桁状に組まれた材が敷かれ、その下は素掘りとなる。望月氏の集成によると(甲府市教育委員会・山梨文化財研究所2012)、石積みに桶材を伴う形態については近世以降にみられる傾向があり、少なくとも17世紀以降の構築法と推定されている。S K 46は素掘りの井戸である。切り合いで S K 20に先行することからこの時期に位置づけた。

埋桶は2区A地点SK 87がこの時期に位置づけられる。この遺構で検出された昆虫化石や寄生虫卵分析、X線回折分析により、尿尿の存在が推測できるものの、寄生虫卵の密度が糞便堆積物の判断基準を下回るため、便槽ではなく、食品残渣などを含めた生活ゴミを捨てる場所として機能していた可能性がある。

溝状遺構は2区A地点、E地点、4区①②地点で検出されている。特に2区E地点と4区①②地点で検出された溝状遺構は、攪乱により詳細は不明であるが、それぞれ接続していた可能性も考えられる。一部には胴木と石積みの痕跡がみられ、個々の家からの生活排水や雨水などを流す小下水であったと推測する。このうち、2区E地点SD 10・SD 11、4区①②地点SD 1では、堆積土を採取し花粉分析を行った。その結果、2区E地点SD 11と4区①②地点SD 1の花粉組成は、19世紀以降の植生を反映している可能性があり、一方、2区E地点SD 7とSD 10では、18世紀の植生を反映している可能性がある。

江戸時代後期～幕末期（19世紀前葉～中葉）

甲府勤番支配期から幕末期にかけての時期である。2区A地点SK 10・15・23・45、3区C地点SK 21、4区①②地点SK 3・6、③地点SK 15がこの時期に位置づけられる。

2区A地点SK 45は埋桶である。この遺構で検出された昆虫化石や寄生虫卵分析、X線回折分析により、人糞や尿尿の存在が推測できるものの、便槽には決して生息しない昆虫化石が多数含有されている状況から、便槽ではなく、ゴミ捨て場のような場所であったと推定されている。

3区C地点SK 21は焼土廃棄土坑で、火災で生じた焼土や炭化物などを投棄した土坑であると推定する。

幕末期～明治期（19世紀中葉～後葉）

幕末期から明治期にかけての時期である。2区A地点SK9・11、3区E地点SE41・42、4区①②地点SK8・9、③地点SX1がこの時期に位置づけられる。

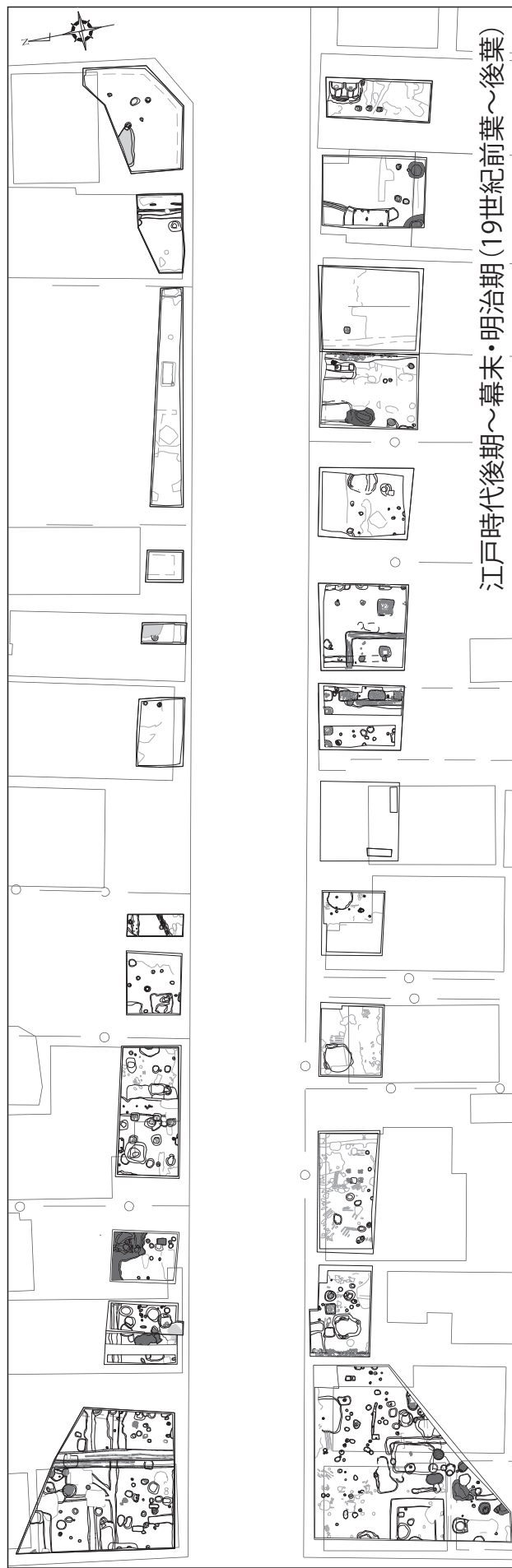
3区E地点SE41・42は素掘りの井戸である。出土遺物が少なく、明確な時期を決定するには検討が必要であるが、少なくとも開削時期は近世に遡り、近代以降に廃絶したとみられるため、この時期に位置づけた。SE42の平面形は隅丸方形に近い形状をしており、同時期の甲府城下町遺跡の資料として、北口県有地I区第11号井戸がある。またSE42からは人の右頭頂骨が出土しているが、これは後世の攪乱によって再堆積したものと考えられる。

明治期以降（19世紀後葉以降）

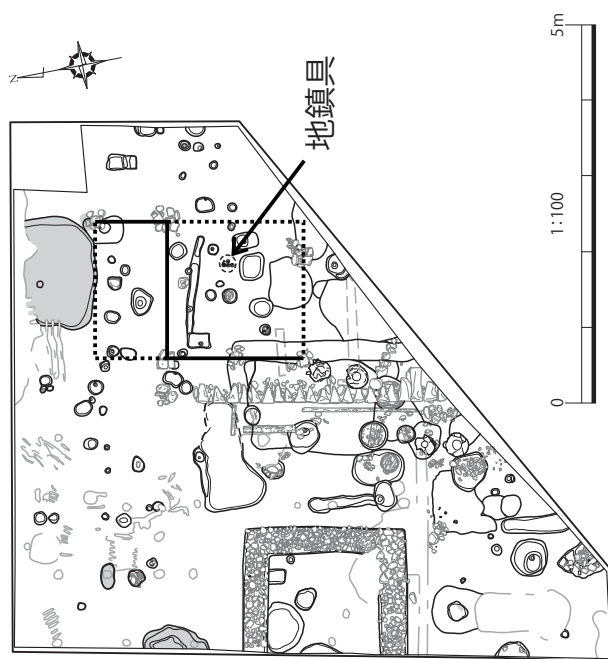
明治期以降の近代から現代にかけての時期である。2区A地点SK18・19・21・22・36・42・43、SS1・2・4～13、SU1、1～4号埋甕、B-1地点SK49・50、SS19、D地点SP101、SS20～24・29・30・SB2、E地点SS27、SB3、3区A地点SS1A・1B・2A～C・4～10、B地点SK12、SS11、C地点SS21、SD21、E地点SK43、SD41、G地点SP62、H地点SK71、K地点SK101・102、SS101・102、SD101～104、L地点SK111、SP111、4区①②地点SK7、SS2～5、③地点SS6～8、④⑤地点SK19・37、SS16～19・24、SD2、⑥地点SK36、⑦地点SD4がこの時期に位置づけられる。土地境に設置された石垣造りの溝や構造物の基礎と考えられる集石遺構、埋甕、戦災瓦礫土坑などが検出されている。

石垣造りの溝は2区A地点SS 12、E地点SS 27がある。土地境に設置された下水路である。胴木の上に間知石を積み、溝の側壁としている。構築時期は近代以降と考えられ、SS 27に関しては、出土遺物や近隣住民の証言から、近年まで使用が続けられていたことが分かる。また4区④⑤地点SD 2は、間知石による石垣や胴木は残存していないものの、同様の機能を持った溝であったと推測する。

構造物の基礎と考えられる集石遺構には、口の字形の布掘りに礫を詰めた土蔵跡とみられる遺構と、礎石と根石からなる遺構、いわゆる蠟燭石と呼ばれる角柱状の切石を建て、根石で固めた蠟燭地業（地形）の遺構がある。布掘りの基礎は2区D地点SB 2から3区SS 1 Aにかけての遺構と2区E地点SB 3がある。また、時期不明であるが、2区A地点SB 1も同様の遺構である。



第176図 遺構変遷図(近世)



第177図 遺構変遷図(明治期以降)

礎石と根石からなる遺構と蟻燭地形の遺構の中には、方形区画の建物を構成していたと推測できるものがある。2区A地点ではSS4～6・8・9・13が方形区画の建物を構成していた可能性がある。(但し、南東角に位置するSS9は南北の軸線がやや西にズレており、北西角から礎石は検出されていない。)この礎石群が囲む区画内には、灯明皿3枚と灯明受皿2枚がT字状に配置された状態で出土している(SU1)。これらの下には小石・粘土塊・火打ち石・水晶片が置かれていた。土地の地鎮に伴い埋納された地鎮具であると考えられ、同地点で検出された方形区画の建物と関連する可能性がある。

この他、方形区画を構成していた可能性があるものには、2区D地点SS20～24・29・30の一群、4区②地点SS2～5・③地点SS6～8の一群、④⑤地点SS16～19・SS24の一群がある。

埋嚢は2区A地点で4基検出されている(1～4号埋嚢)。いずれの嚢の内面には白色の結晶物が多量に付着していた。この結晶物についてX線回折分析を行ったところ、リン(P₂O₅)とカルシウム(CaO)が非常に多く含まれており、尿尿に由来する可能性が高い。これらは埋嚢式の便槽である。

戦災瓦礫土坑は3区B地点SK12、4区④⑤地点SK37の2基が検出されている。甲府空襲で生じた瓦礫を投棄した土坑である。焼土や瓦片、溶融したガラスや金属製品などが堆積し、空襲による被害の大きさを物語る遺構である。

おわりに

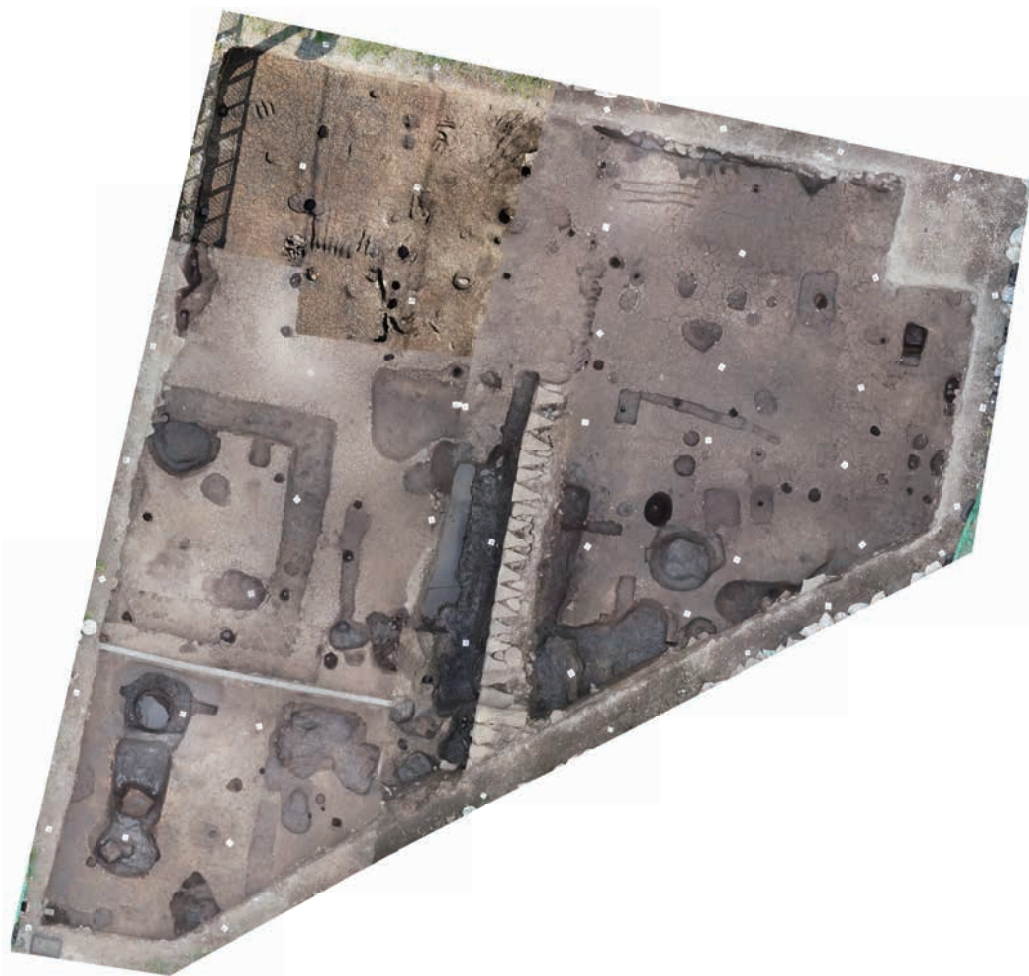
今回の調査では、城下町形成期にさかのぼる遺構が検出されたことが一つの大きな成果である。遺構の性格については不明な部分も多いが、城下町成立期の町人地の資料はいまだ少なく、当時の城下町の姿を考える上で重要な手掛かりとなる。また、近代の民間信仰の様相を伝える地鎮具も貴重な資料である。甲府城下町遺跡内において、いくつかの類例も検出されてきている。遺物についても陶磁器を中心として、数多くの遺物が出土し、本報告書ではその一部の掲載にとどまるが、江戸時代後期から幕末・明治期にかけての特徴的な遺物がみられる。今後の調査研究の一助になれば幸いである。

末筆となりますが、発掘調査から本報告書の刊行に至るまで、関係機関各位をはじめ、発掘調査・整理作業スタッフ、調査区のご近隣の皆様には、多大なご理解とご協力を頂きましたことを、深く感謝申し上げます。

【参考文献・調査報告書】

安芸彦子・大成可力ほか『東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類(1)』『東京大学構内遺跡調査研究年報2』東京大学埋蔵文化財調査室
井上喜久男1990『尾張陶磁(1)―近世初期の瀬戸物生産―』愛知県陶磁資料館 研究紀要9 愛知県陶磁資料館
江戸遺跡研究会2001『図説 江戸考古学研究事典』柏書房
大橋康二1989『肥前陶磁 考古学ライブラリー55』ニュー・サイエンス社
小川望福2019『江戸の土器 考古調査ハンドブック19』ニュー・サイエンス社
小沢詠美子1998『災害都市江戸と地下室 歴史文化ライブラリー33』吉川弘文館
九州近世陶磁学会2000『九州陶磁の編年―九州近世陶磁学会10周年記念―』
こうふ開府500年記念誌編集委員会2019『甲府歴史ものがたり』甲府市
甲府市教育委員会2001『甲府城下町遺跡Ⅰ』甲府市文化財調査報告15
甲府市教育委員会2002『甲府城下町遺跡Ⅱ』甲府市文化財調査報告19
甲府市教育委員会2006『甲府城下町遺跡Ⅲ』甲府市文化財調査報告33
甲府市教育委員会・山梨文化財研究所2007『甲府城下町遺跡Ⅳ』甲府市文化財調査報告39
甲府市教育委員会2009『甲府城下町遺跡Ⅴ』甲府市文化財調査報告52
甲府市教育委員会・山梨文化財研究所2012『甲府城下町遺跡Ⅵ』甲府市文化財調査報告57
甲府市教育委員会・国際文化財株式会社2012『甲府城下町遺跡Ⅶ』甲府市文化財調査報告6
甲府市教育委員会・山梨文化財研究所2013『甲府城下町遺跡Ⅷ』甲府市文化財調査報告62
甲府市教育委員会2013『甲府城下町遺跡Ⅸ』甲府市文化財調査報告64
甲府市教育委員会・株式会社シモン技術コンサル2014『甲府城下町遺跡Ⅹ』甲府市文化財調査報告66
甲府市教育委員会2014『甲府城下町遺跡Ⅺ』甲府市文化財調査報告69
甲府市教育委員会・株式会社パスコ2015『甲府城下町遺跡Ⅻ』甲府市文化財調査報告72
甲府市教育委員会・昭和測量株式会社2015『甲府城下町遺跡Ⅼ』甲府市文化財調査報告74
甲府市教育委員会・昭和測量株式会社2015『甲府城下町遺跡Ⅽ』甲府市文化財調査報告75
甲府市教育委員会・昭和測量株式会社2015『甲府城下町遺跡Ⅾ』甲府市文化財調査報告76
甲府市教育委員会2015『甲府城下町遺跡Ⅿ』甲府市文化財調査報告79
甲府市教育委員会2016『甲府城下町遺跡ⅰ』甲府市文化財調査報告85
甲府市教育委員会・昭和測量株式会社2020『甲府城下町遺跡ⅱ』甲府市文化財調査報告107
甲府市教育委員会・昭和測量株式会社2021『甲府城下町遺跡26』甲府市文化財調査報告11
甲府市史編さん委員会1987『甲府市史 史料編 第二巻 近世Ⅰ』甲府市役所
国際文化財株式会社2021『甲府城下町遺跡24』甲府市文化財調査報告114
新宿区内藤町遺跡調査会1992『内藤町遺跡―放射5号線整備事業に伴う緊急発掘調査報告書―』
長佐古信也1993『交付き灯明皿』みる生産と流通―受皿の型分類と胎の把握を通して―『東京都埋蔵文化財センター 研究論集』東京都埋蔵文化財センター
成瀬見司1997『江戸遺跡出土資料による磁器産・皿の変遷―型、銘、窯を中心に―』『東京大学構内遺跡調査研究年報1』東京大学埋蔵文化財調査室

成瀬見司2019『酒器からみた江戸の飲酒事情』『近世の酒と宴』『近世考古学の提唱』50周年記念研究大会実行委員会
榎木真2016『町人地の空間構成―建物の在り方―』『江戸の町人地2―遺跡から見る近世都市江戸―』江戸遺跡研究会
畑中英二2006『近世の信楽焼』『江戸時代のやきもの一生産と流通―』瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター
藤澤良祐1986『瀬戸大窯発掘調査報告』『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要Ⅴ』瀬戸市歴史民俗資料館
藤澤良祐1987『本業焼の研究(1)』『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要Ⅵ』瀬戸市歴史民俗資料館
藤澤良祐1988『本業焼の変遷(2)―赤津村・上水野村を中心に―』『研究紀要Ⅶ』瀬戸市歴史民俗資料館
藤澤良祐1989『本業焼の研究(3)―下野村・下半田川村を中心に―』『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要Ⅷ』瀬戸市歴史民俗資料館
藤澤良祐2006『瀬戸・美濃登窯製品の生産と流通』『江戸時代のやきもの一生産と流通―』瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター
服部郁1994『近世瀬戸窯における磁器生産の開始と展開』『研究紀要 第2輯』瀬戸市埋蔵文化財センター
藤澤良祐2006『瀬戸・美濃登窯製品の生産と流通』『江戸時代のやきもの一生産と流通―』瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター
堀内秀樹1997『東京大学本郷構内の遺跡における年代的考察』『東京大学構内遺跡調査研究年報1』東京大学埋蔵文化財調査室
森村健一2006『江戸時代のやきもの17-18-19世紀にみる大坂・京・堺の生産・流通・消費形態』『江戸時代のやきもの一生産と流通―』瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター
山梨県埋蔵文化財センター1999『日向町遺跡遺跡発掘調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第170集
山梨県埋蔵文化財センター2004『甲府城下町遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第215集
山梨県埋蔵文化財センター2004『甲府城下町遺跡(日向町遺跡第2地点)』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第220集
山梨県埋蔵文化財センター2007『甲府城下町遺跡(甲府地方裁判所地点)』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第249集
山梨県埋蔵文化財センター2008『甲府城下町遺跡(北口県有地)』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第258集
山梨県埋蔵文化財センター2013『甲府城下町遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第288集
山梨県埋蔵文化財センター2013『甲府城下町遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第292集
山梨県埋蔵文化財センター2015『甲府城下町遺跡(駅前駐輪場地点)』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第305集
山梨県埋蔵文化財センター2016『甲府城下町遺跡(旧柳町一丁目地点)』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第308集
山梨県埋蔵文化財センター2019『甲府城下町遺跡(公用車等駐車場地点)』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第321集
山梨県埋蔵文化財センター2019『甲府城下町遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第322集
山梨文化財研究所2011『甲府城下町遺跡(丸の内二丁目109地点)』
山梨文化財研究所2017『甲府城下町遺跡(丸の内一丁目1-3地点)』甲府市文化財調査報告96
山梨文化財研究所2018『甲府城下町遺跡ⅩⅨ』甲府市文化財調査報告101
山梨文化財研究所2020『甲府城下町遺跡22』甲府市文化財調査報告110



A 地点 完掘状況 (モザイク写真：上が北)



A 地点西側 検出状況 東から



A 地点東側 検出状況 東から



A 地点西側 完掘状況 東から



A 地点東側 完掘状況 南から



A 地点 SK1 セクション 南から



A 地点 SK2 セクション 東から

図版2 (2区)



A 地点 SK3 遺物出土状況 南から



A 地点 SK4 セクション 東から



A 地点 SK5 セクション 南から



A 地点 SK6・SD1 セクション 東から



A 地点 SB1・SK7 セクション 西から



A 地点 SK8 セクション 北から



A 地点 SK8・SK9 北から



A 地点 SK9 桶検出状況 西から



A 地点 SK10 セクション 南から



A 地点 SK11 集石検出状況 北から



A 地点 SK12 セクション 東から



A 地点 SK13 セクション 東から



A 地点 SK14 セクション 南から



A 地点 SK14 桶検出状況 南から



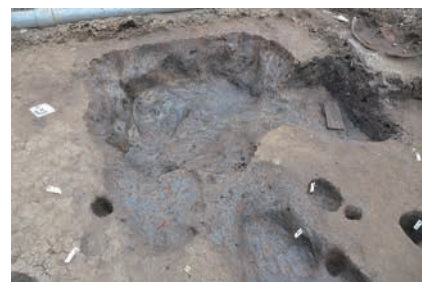
A 地点 SK14 掘方 南から



A 地点 SK14 断割 南から



A 地点 SK15 セクション 東から



A 地点 SK15 完掘 南から



A 地点 SK16・SK17 セクション 東から



A 地点 SK18 桶検出状況 西から



A 地点 SK19 桶検出状況 西から



A 地点 SK20 セクション 西から



A 地点 SK20 完掘 西から



A 地点 SK21 セクション 西から



A 地点 SK21 竹桶検出状況 西から



A 地点 SK22 桶検出状況 北から



A 地点 SK23 セクション 西から

図版4 (2区)



A 地点 SK24 完掘 西から



A 地点 SK25 セクション 西から



A 地点 SK26 セクション 南から



A 地点 SK27 セクション 東から



A 地点 SK28 セクション 南から



A 地点 SK29 セクション 南から



A 地点 SK30 セクション 東から



A 地点 SK30 完掘 東から



A 地点 SK31 セクション 西から



A 地点 SK32 セクション 東から



A 地点 SK33 底板検出状況 南から



A 地点 SK34 遺物出土状況 南から



A 地点 SK35 セクション 東から



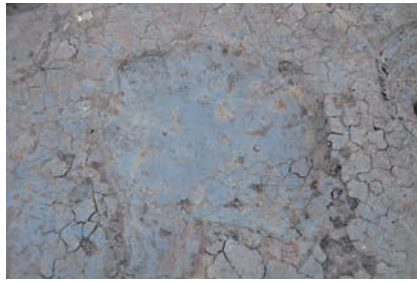
A 地点 SK36 セクション 西から



A 地点 SK37 セクション 西から



A 地点 SK38 木材検出状況 北から



A 地点 SK39 完掘 南から



A 地点 SK40 完掘 北から



A 地点 SK41 セクション 北から



A 地点 SK42 セクション 北から



A 地点 SK43 セクション 西から



A 地点 SK44 底板検出状況 南から



A 地点 SK45 桶検出状況 西から



A 地点 SK45 桶検出状況 西から



A 地点 SK46 セクション 北から



A 地点 SK46 断割 北から



A 地点 SP3 集石検出状況 西から



A 地点 SP12 礎石検出状況 西から



A 地点 SP13 集石検出状況 南から



A 地点 SP28・SP27 根石検出状況 西から

図版6 (2区)



A 地点 SP45 礎石検出状況 南から



A 地点 SP49 礎石検出状況 南から



A 地点 SP52 礎石検出状況 南から



A 地点 SS1 集石検出状況 南から



A 地点 SS2 集石検出状況 西から



A 地点 SS2 セクション 西から



A 地点 SS3 石臼検出状況 南から



A 地点 SS4 礎石検出状況 西から



A 地点 SS5 集石検出状況 西から



A 地点 SS6 集石検出状況 西から



A 地点 SS7 集石検出状況 西から



A 地点 SS8 礎石検出状況 西から



A 地点 SS9 集石検出状況 北から



A 地点 SS10 礎石検出状況 西から



A 地点 SS11 礎石検出状況 西から



A 地点 SS12 石積検出状況 西から



A 地点 SS12 桐木検出状況 西から



A 地点 SS13 集石検出状況 東から



A 地点 SB1 集石検出状況 東から



A 地点 SB1 セクション 南から



A 地点 SD2 完掘 西から



A 地点 SD4 完掘 東から



A 地点 1号・2号埋甕検出状況 西から



A 地点 3号・4号埋甕検出状況 東から



A 地点 SU1 地鎮具検出状況 東から



A 地点 SU1 下層 東から

図版8 (2区)



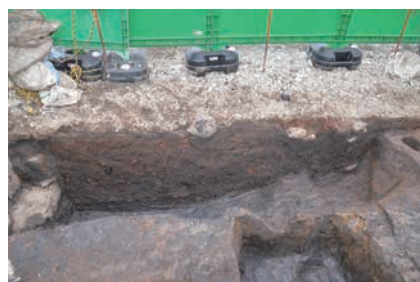
B-1 地点 完掘状況 (モザイク写真：上が北)



B-1 地点 遺構検出状況 西から



B-1 地点 完掘状況 西から



B-1 地点 SK47 セクション 南から



B-1 地点 SK48 集石検出状況 南から



B-1 地点 SK49 セクション 南から



B-1 地点 SK49 蠟燭石検出状況 南から



B-1 地点 SK49 下層集石検出状況 南から



B-1 地点 SK49 下層セクション 南から



B-1 地点 SK50 瓦検出状況 西から



B-1 地点 SK47・SK50・SK51 セクション 西から



B-1 地点 SK51 完掘 西から



B-1 地点 SK52 完掘 南から



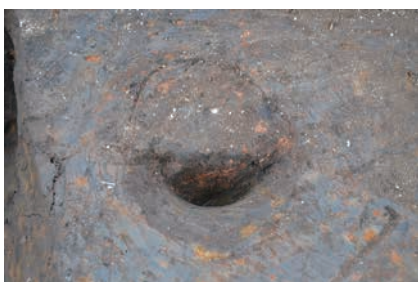
B-1 地点 SP59 セクション 南から



B-1 地点 SP63 完掘 南から



B-1 地点 SP64 セクション 南から



B-1 地点 SP65 セクション 南から



B-1 地点 SS14 セクション 南から



B-1 地点 SS19 蠟燭石検出状況 東から

図版 10 (2区)



B-2 地点 完掘状況 (モザイク写真：上が北)



B-2 地点 完掘状況 西から



B-2 地点 SK53 礎石検出状況 東から



B-2 地点 SK54 セクション 南から



B-2 地点 SK55 セクション 東から



B-2 地点 SK56 セクション 南から



B-2 地点 SK57 礎石検出状況 北から



B-2 地点 SK58 セクション 南から



B-2 地点 SK59 セクション 南から



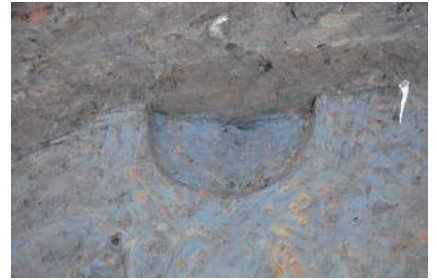
B-2 地点 SP66 セクション 南から



B-2 地点 SP67 セクション 南から



B-2 地点 SP68 セクション 南から



B-2 地点 SP69 セクション 北から



B-2 地点 SS15～SS18 集石検出状況 北から



C-1 地点 遺構検出状況 南から



C-1 地点 SK60 セクション 東から



C-1 地点 SK60 完掘 南から



C-2 地点 完掘状況 西から



C-2 地点 SK61 セクション 西から



C-2 地点 SK62 礎石検出状況 東から



C-3 地点西トレンチ 重機掘削状況 南から



C-3 地点東トレンチ 重機掘削状況 南から

図版 12 (2区)



C-1 地点 完掘状況 (モザイク写真：上が北)



C-2 地点 完掘状況 (モザイク写真：上が北)



D 地点 集石検出状況 (モザイク写真：上が北)



D 地点 桐木検出状況 (モザイク写真：上が北)

図版 14 (2区)



D地点 SK63 セクション 南から



D地点 SK64 完掘 西から



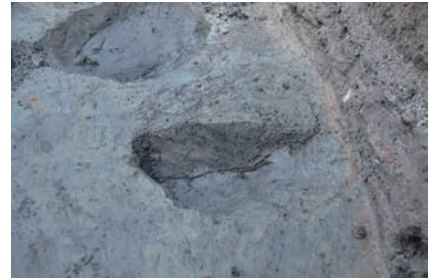
D地点 SK98 セクション 南から



D地点 SK99 セクション 南から



D地点 SP101・SK100 セクション 北から



D地点 SK101 セクション 南から



D地点 SS20・SS21 礎石検出状況 南から



D地点 SS22 礎石検出状況 西から



D地点 SS22 木杭検出状況 西から



D地点 SS23 礎石検出状況 西から



D地点 SS23 木杭検出状況 西から



D地点 SS24 蠟燭石検出状況 北から



D地点 SS29 蠟燭石検出状況 南から



D地点 SS30 礎石検出状況 南から



D地点 SB2 集石検出状況 北から



D 地点 SB2 桐木検出状況 南から



E 地点西側 完掘状況 東から



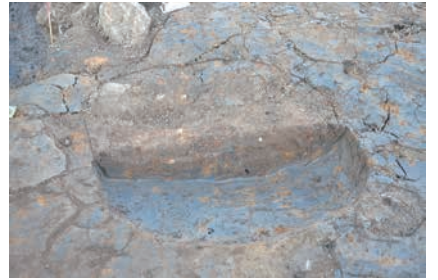
E 地点東側 完掘状況 北から



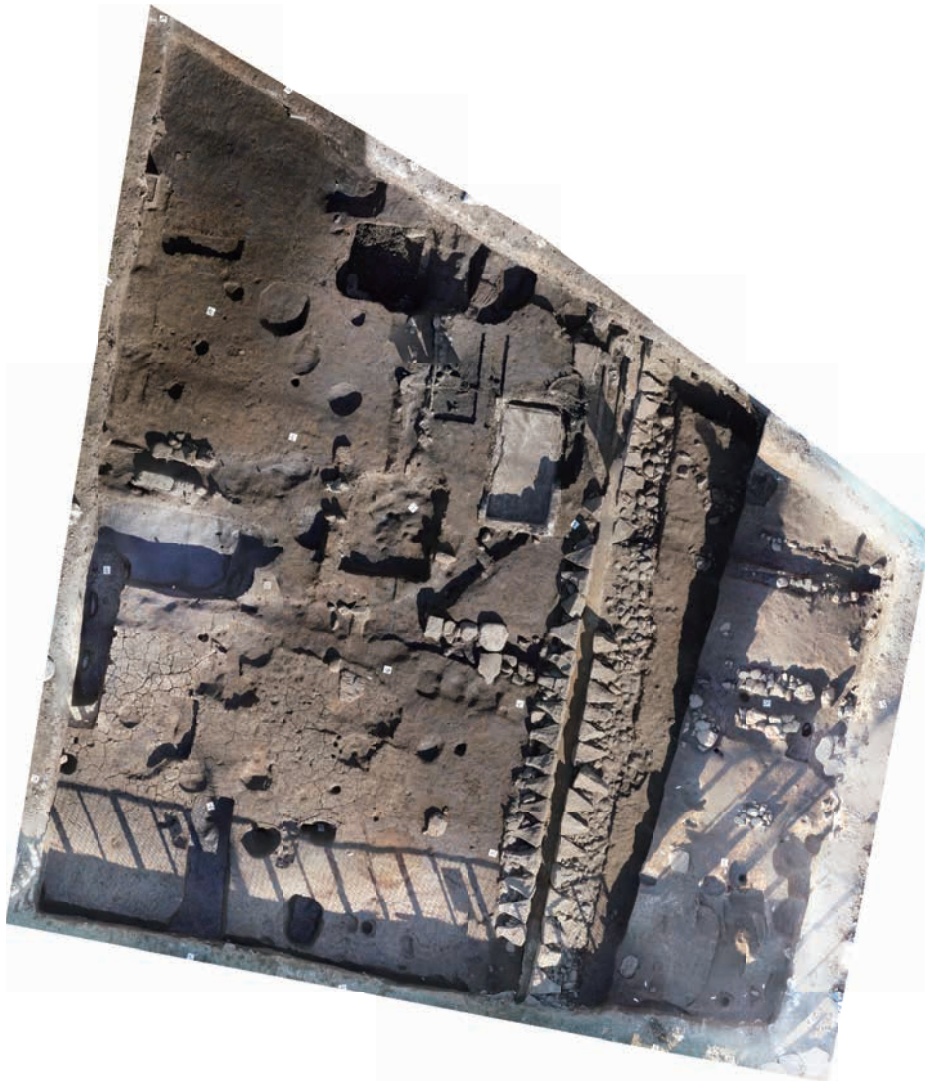
E 地点 SK65 完掘 西から



E 地点 SK66 セクション 西から



E 地点 SK67 セクション 南から



E 地点 完掘状況 (モザイク写真: 上が北)

図版 16 (2区)



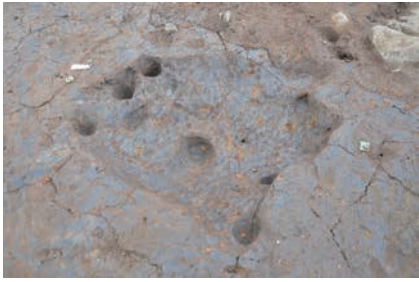
E 地点 SK68 セクション 南から



E 地点 SK69 セクション 北から



E 地点 SK70 セクション 南から



E 地点 SK70 完掘 南から



E 地点 SK71 セクション 北から



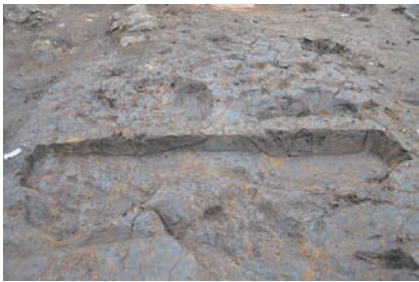
E 地点 SK71 完掘 北から



E 地点 SK72 完掘 東から



E 地点 SK72 遺物出土状況 東から



E 地点 SK73・SK74 セクション 西から



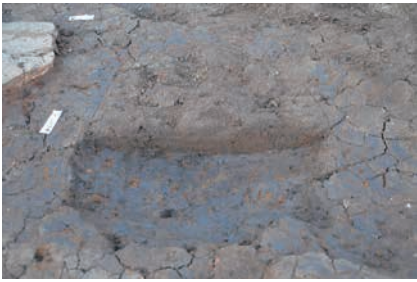
E 地点 SK75 セクション 南から



E 地点 SK76 完掘 東から



E 地点 SK77 セクション 西から



E 地点 SK78 セクション 南から



E 地点 SK79 セクション 西から



E 地点 SK80 セクション 東から



E 地点 SK81 セクション 南から



E 地点 SK72・SK80 完掘 北から



E 地点 SK82 セクション 南から



E 地点 SK83 セクション 南から



E 地点 SK84 セクション 西から



E 地点 SK85 セクション 南から



E 地点 SK86 セクション 東から



E 地点 SK87 遺物出土状況 南から



E 地点 SK88 セクション 西から

図版 18 (2区)



E 地点 SK90 桶検出状況 西から



E 地点 SK91 セクション 南から



E 地点 SK92 完掘 南から



E 地点 SK93 完掘 南から



E 地点 SK94 完掘 南から



E 地点 SK95 セクション 北から



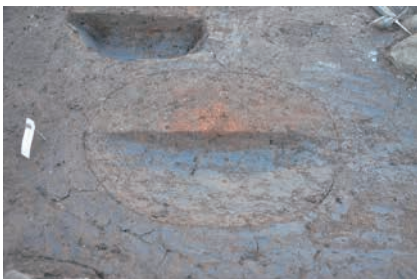
E 地点 SK96 桶検出状況 南から



E 地点 SK97 セクション 西から



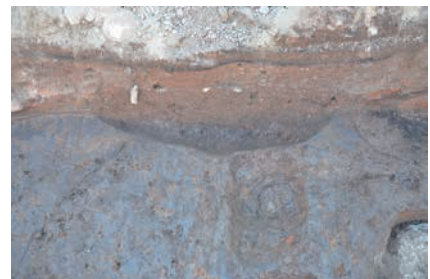
E 地点 SK102 セクション 南から



E 地点 SK103 セクション 南から



E 地点 SK104・SK105・SK106 セクション 西から



E 地点 SK107 セクション 北から



E 地点 SK108 セクション 西から



E 地点 SK109 完掘 南から



E 地点 SD11・SK110 セクション 西から



E地点 SK111 セクション 西から



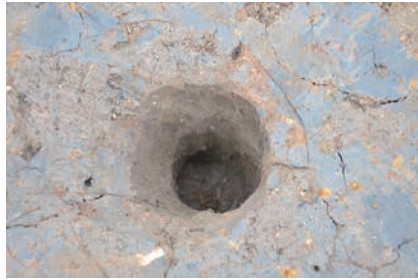
E地点 SP80 セクション 東から



E地点 SP81 セクション 北から



E地点 SP86 セクション 南から



E地点 SP87 完掘 南から



E地点 SP89 セクション 南から



E地点 SP93 セクション 南から



E地点 SP102 セクション 南から



E地点 SP103 セクション 南から



E地点 SP107 セクション 南から



E地点 SS25 集石検出状況 東から



E地点 SS26 礎石検出状況 西から



E地点 SS27 石積検出状況 南から



E地点 SS27 桐木検出状況 南から



E地点 SS27 セクション 北から

図版 20 (2区)



E 地点 SS31 集石検出状況 南から



E 地点 SS32 礎石検出状況 南から



E 地点 SS33 礎石検出状況 北から



E 地点 SB3 集石検出状況 東から



E 地点 SD5 セクション 北から



E 地点 SD6・SD9 遺物出土状況 北から



E 地点 SD7 完掘 東から



E 地点 SD8 セクション 南から



E 地点 SD11・SD10 完掘 西から



E 地点 SD10 遺物出土状況 西から



E 地点 SD11 遺物出土状況 西から

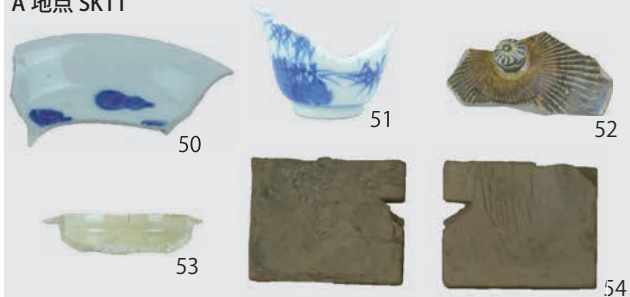


图版 22 (2区)

A 地点 SK10



A 地点 SK11



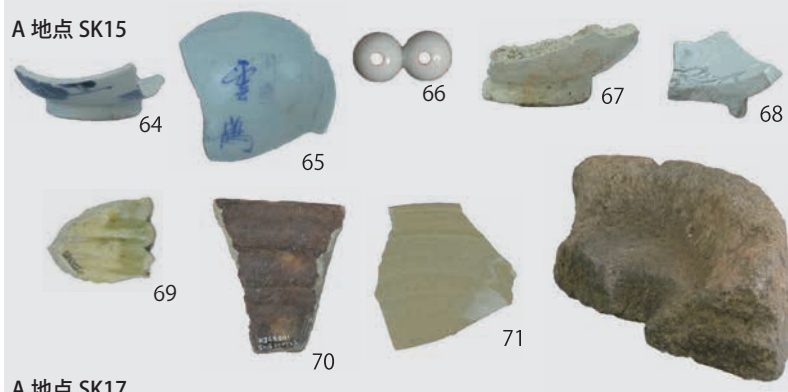
A 地点 SK12



A 地点 SK14



A 地点 SK15



A 地点 SK16



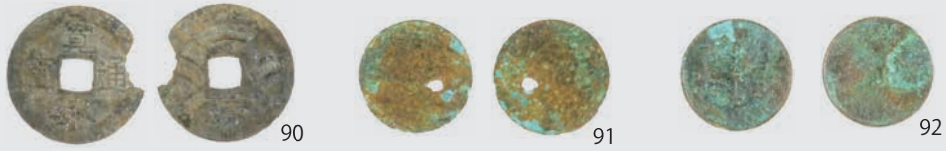
A 地点 SK17



A 地点 SK18



A 地点 SK19



A 地点 SK20



图版 24 (2区)

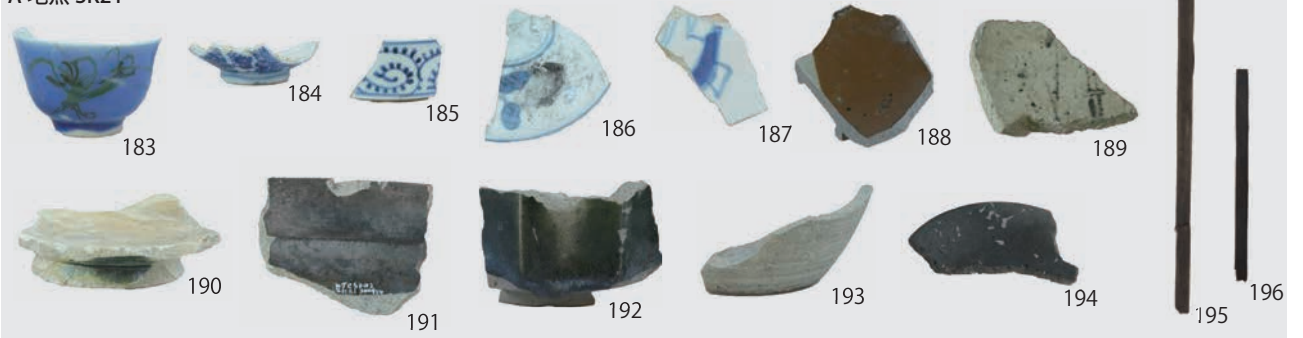
A 地点 SK20



A 地点 SK20



A 地点 SK21



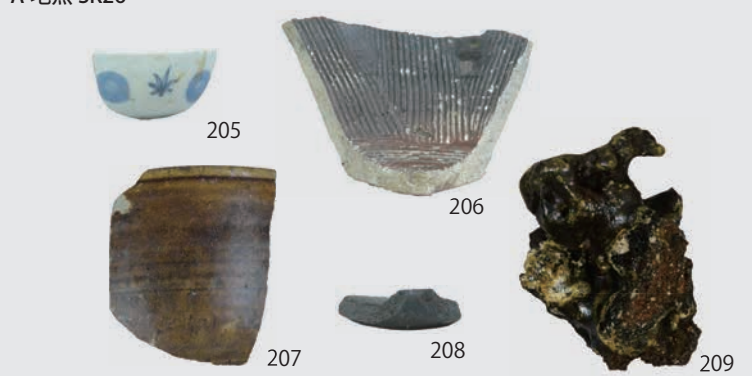
A 地点 SK22



A 地点 SK23



A 地点 SK26



图版 26 (2区)

A 地点 SK27



A 地点 SK29



A 地点 SK34



A 地点 SK36



A 地点 SK39



A 地点 SK40



A 地点 SK45



A 地点 SK41



A 地点 SK46



A 地点 SP21



A 地点 SP37



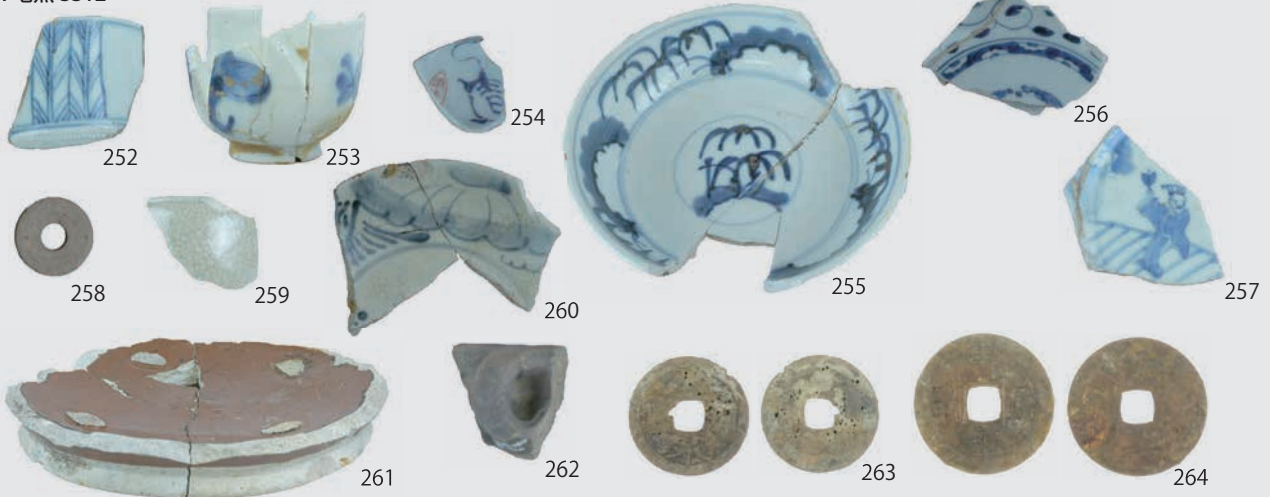
A 地点 SS2



A 地点 SS3



A 地点 SS12



A 地点 SD1



A 地点 SD3



A 地点 SU1



图版 28 (2区)

A 地点 1 号埋甃



A 地点遺構外



A 地点遺構外



图版 30 (2区)

A 地点遺構外



B-1 地点 SK47



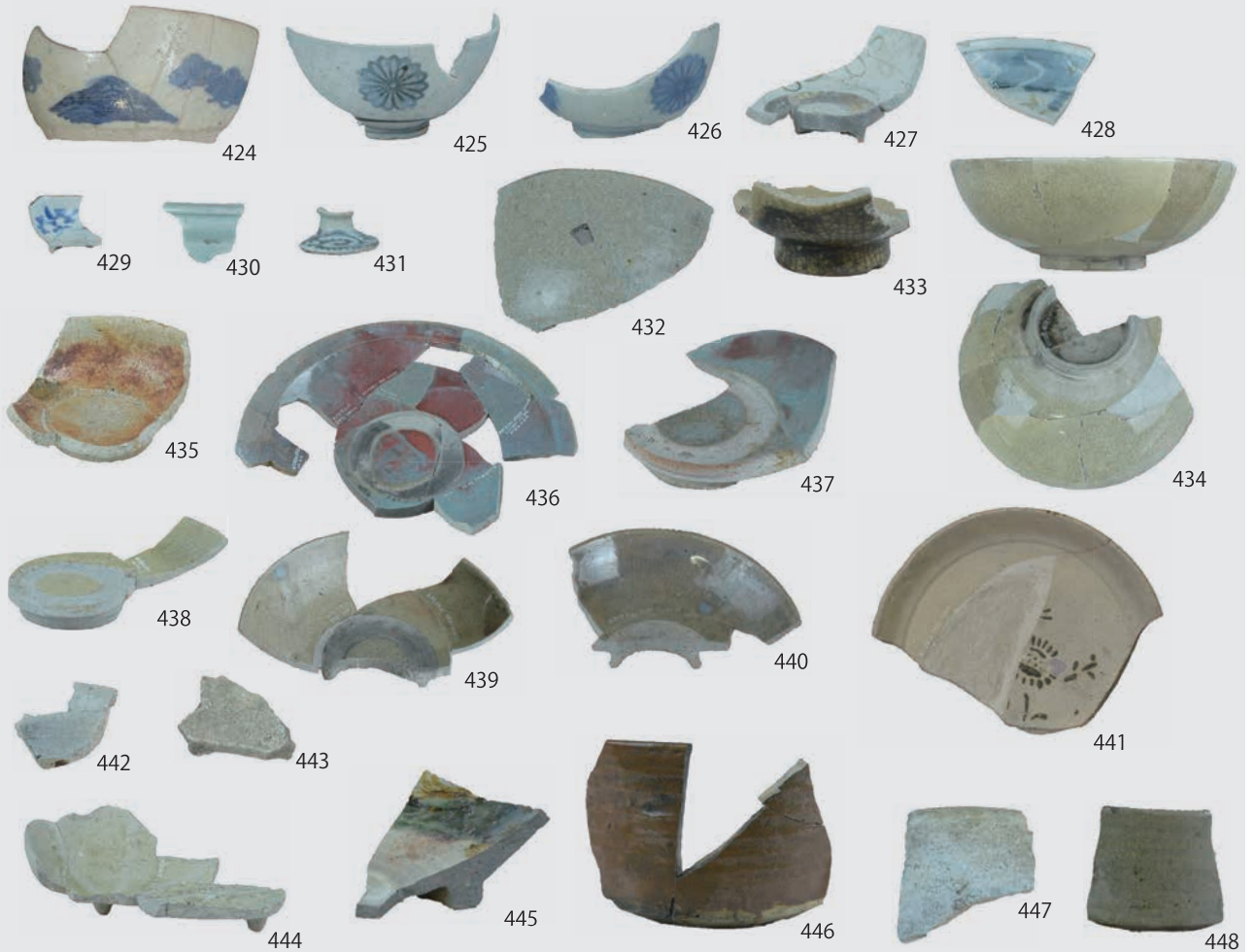
B-1 地点 SK50



B-1 地点 SK49



B-1 地点 SK51



图版 32 (2区)

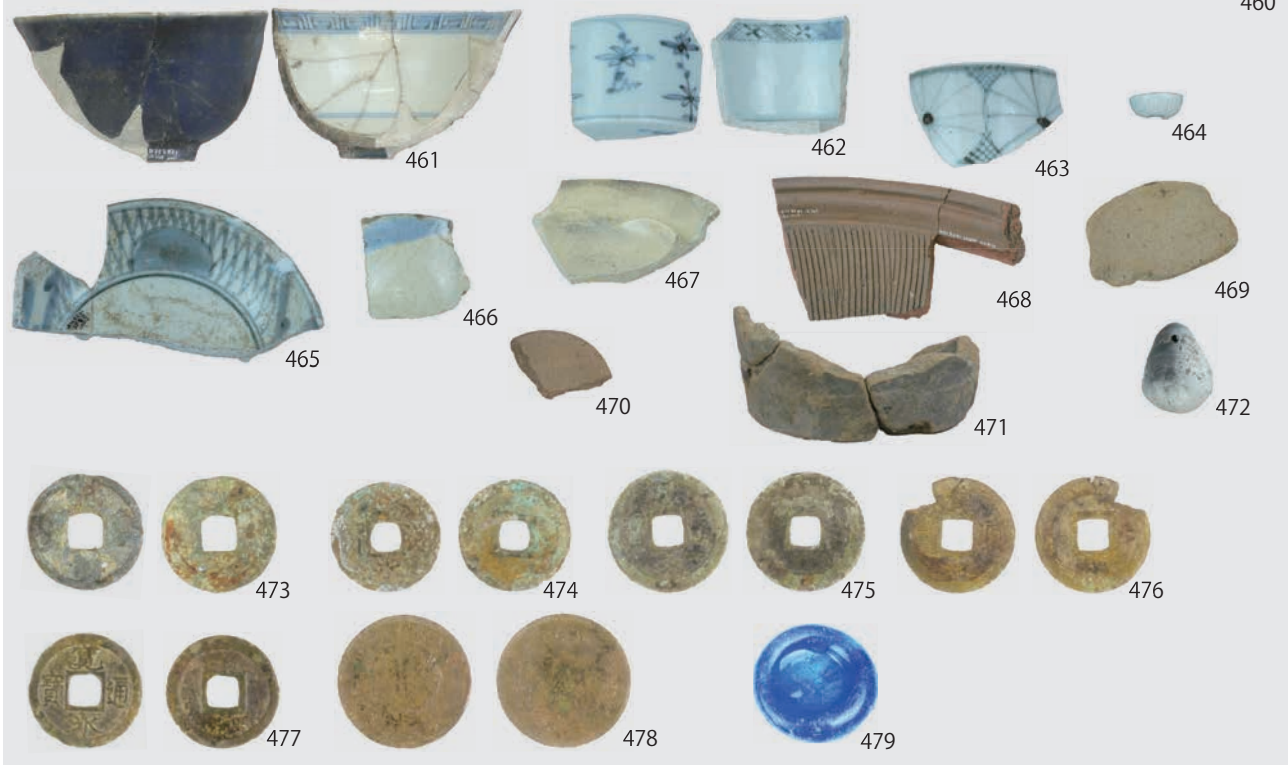
B-1 地点 SK51



B-1 地点 SP63



B-1 地点 遺構外



B-2 地点 SK54



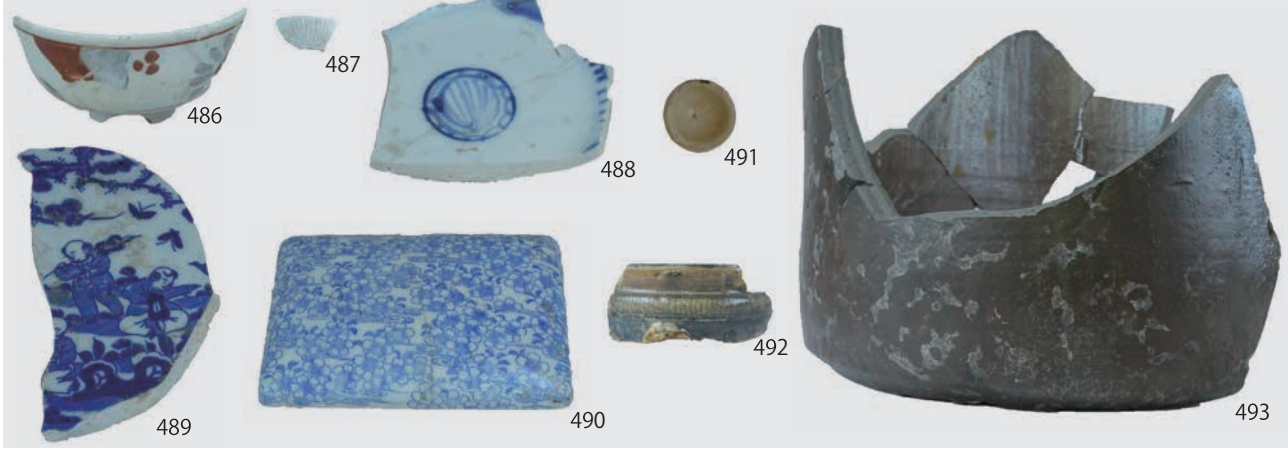
B-2 地点 SK58



B-2 地点 SK59



B-2 地点 遺構外



B-2 地点遺構外



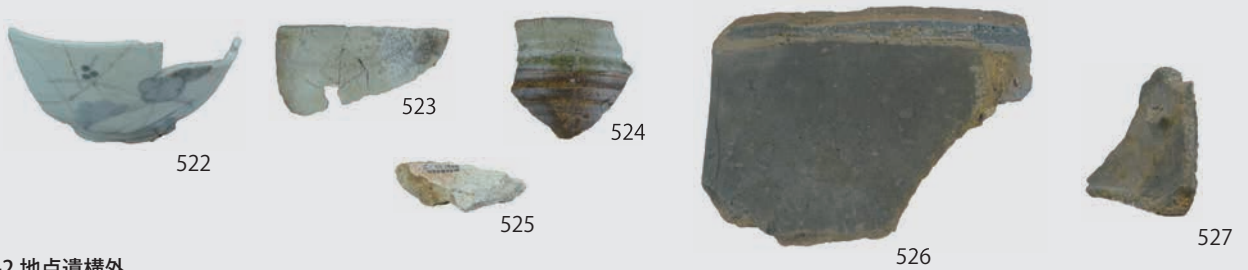
C-1 地点 SK60



C-1 地点遺構外



C-2 地点 SK61

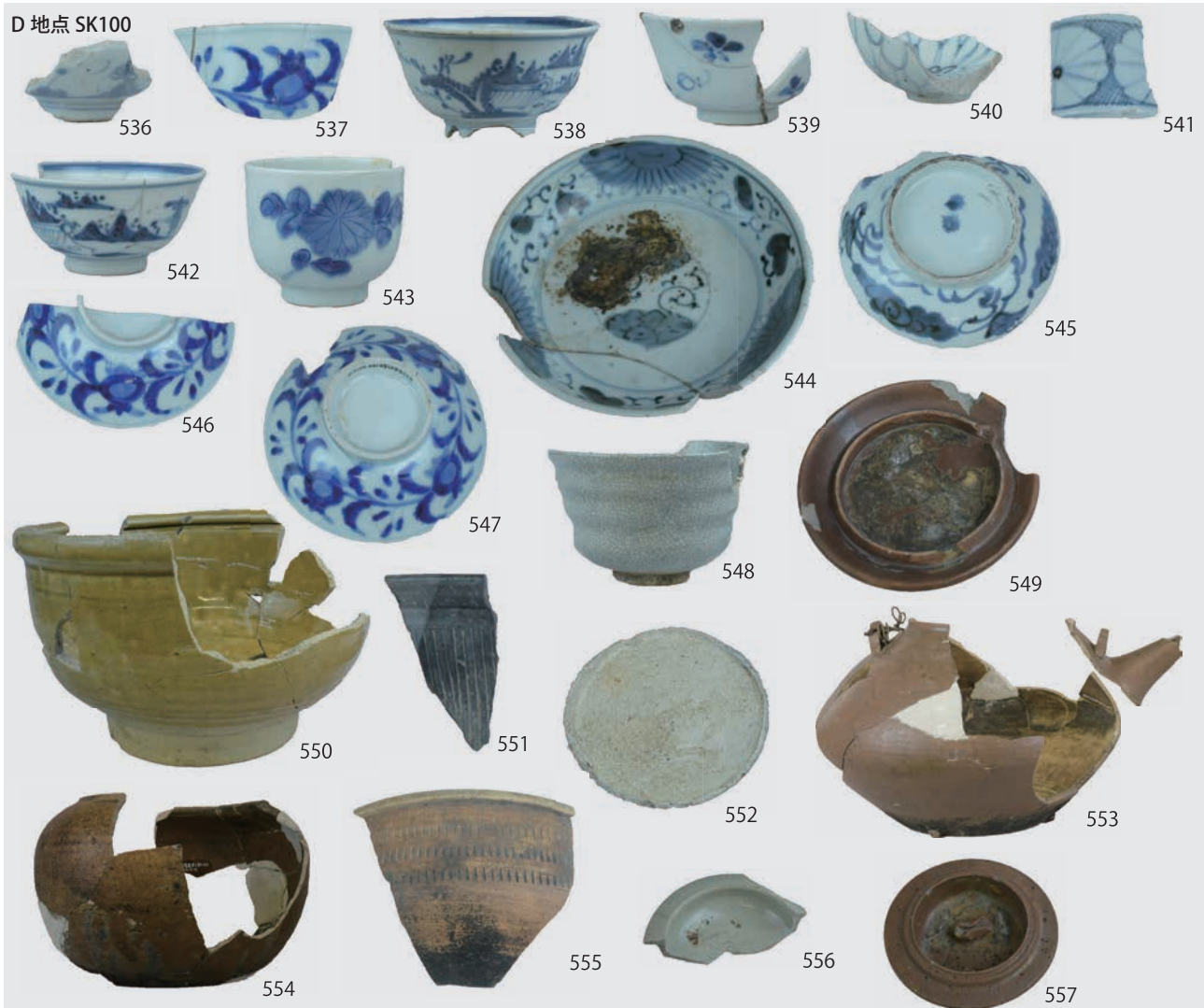


C-2 地点遺構外



图版 34 (2区)

D 地点 SK100



D 地点 SS24

D 地点 SB2



D 地点遺構外



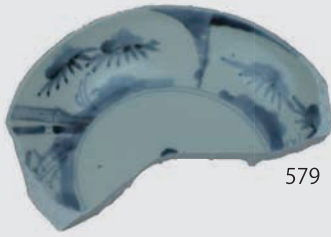
E 地点 SK65



577

578

E 地点 SK66

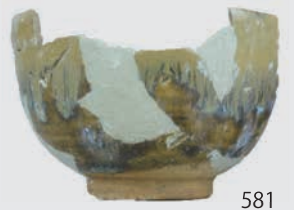


579



580

E 地点 SK69



581

E 地点 SK72



582



583



584



585



586



587



588



589



593



594



595



596



597

E 地点 SK74



598

E 地点 SK75



599

600

601

E 地点 SK78



602

E 地点 SK79



603

E 地点 SK81



604



605



606



607



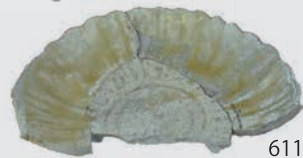
608



609



610



611



615



616



612



613



614

E 地点 SK82



617

E 地点 SK84



618

E 地点 SK85



619

E 地点 SK86



620



621



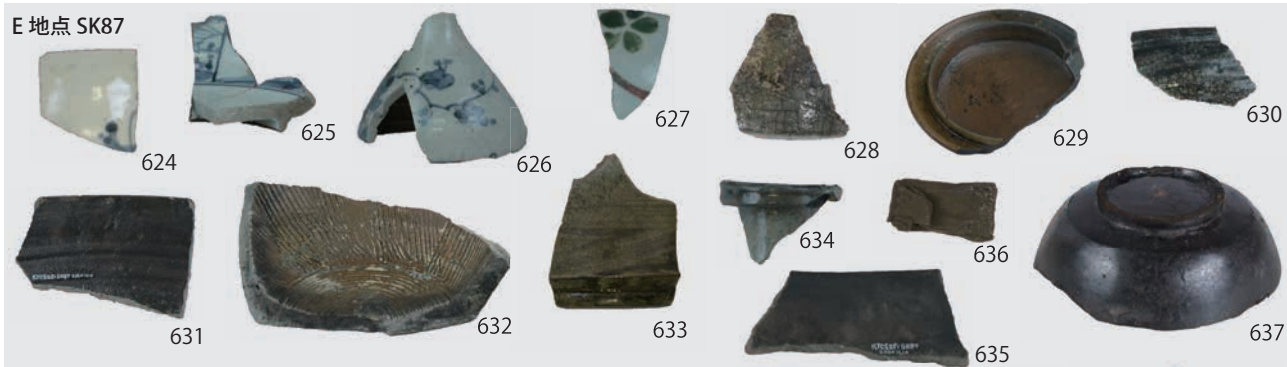
622



623

图版 36 (2区)

E 地点 SK87



E 地点 SK91



E 地点 SK93



E 地点 SK95



E 地点 SK96



E 地点 SK110



E 地点 SS27



E 地点 SK111



E 地点 SP103



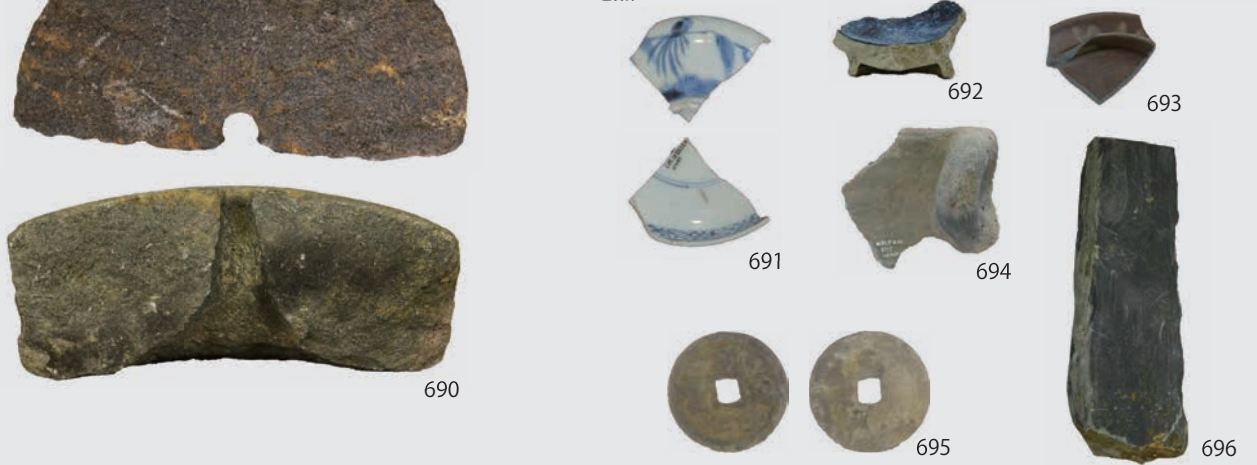
E 地点 SB3



E 地点 SD6



E 地点 SD7



E 地点 SD8



E 地点 SD9



E 地点 SD10



图版 38 (2区)

E地点 SD11



E 地点遺構外



图版 40 (2区)

E 地点遺構外



E 地点遺構外



図版 42 (3区)



A 地点西半部 上層遺構検出状況 (モザイク写真: 上が北)



A 地点西半部 漆喰面検出状況 東から



A 地点西半部 SS4 集石検出状況 北から



A 地点西半部 上層遺構完掘状況 (モザイク写真: 上が北)



A 地点東半部 遺構検出状況 (モザイク写真: 上が北)



A 地点 SK1 セクション 北から



A 地点 SK2 埋桶検出状況 北から



A 地点 SK3 セクション 北から



A 地点 SK4 集石検出状況 南から



A 地点 SK5 遺物出土状況 西から



A 地点 SK6 セクション 南から



A 地点 SS10・SK7 セクション 西から



A 地点 SS1A F セクション 東から



A 地点 SS1A G セクション 北から



A 地点 SS1B H セクション 北から



A 地点 SS2B 集石・木杭検出状況 北から



A 地点 SS2B 木杭検出状況 北から



A 地点 SS3 集石・遺物出土状況 西から



A 地点 SS4 礎石検出状況 北から



A 地点 SS4・SS2C 木杭検出状況 北から

図版 44 (3区)



A 地点 SS4 木杭検出状況 東から



A 地点 SS5 礎石検出状況 東から



A 地点 SS5 木杭検出状況 東から



A 地点 SS6～9 蠟燭石検出状況 北西から



A 地点 SX2 完掘状況 東から



A 地点 SX2 セクション 東から



B 地点西半部 完掘状況 東から



B 地点東半部 完掘状況 西から



B 地点 SK11 底板出土状況 東から



B 地点 SS11・SK11 セクション 東から



B 地点 SK12(戦災瓦礫土坑) セクション 南から



B 地点 SK13 遺物出土状況 南から



B地点 SK14 セクション 北から



B地点 SK15・SK13 セクション 南東から



B地点 SP11 完掘状況 南から



B地点 SP12 完掘状況 西から



B地点 SP14 完掘 北から



B地点 SP15 完掘 北から



B地点 SP16 セクション 東から



B地点 SP17 セクション 北から



B地点 SP18 セクション 北から



B地点 SS12 集石検出状況 南から



C地点西半部 完掘状況 南から



C地点東半部 完掘状況 南から



C地点 SK21 セクション 南から



C地点 SK22 セクション 東から



C地点 SK24・25 セクション 東から

図版 46 (3区)



C地点 SK26 埋甕出土状況 東から



C地点 SK27 曲物出土状況 北から



C地点 SS21 集石検出状況 東から



C地点 SX21 セクション 西から



C地点 SX21 完掘 南から



C地点 SX21 セクション 南から



C地点 SX22 完掘 北から



C地点 SX22 セクション 南から



C地点 SX22 完掘 西から



D 地点西半部 完掘状況 北から



D 地点東半部 完掘状況 北から



E 地点 SK41 セクション 西から



E 地点 SK42 セクション 西から



E 地点 SK43 セクション 南東から



E 地点 SE41 セクション 東から



E 地点 SE42 セクション 西から



E 地点 SE42 完掘 西から



E 地点 SS41 集石検出状況 北東から



E 地点 完掘状況 (モザイク写真: 上が北)

図版 48 (3区)



F 地点 SX51 完掘状況 南西から



F 地点 SS51・52・53 集石検出状況 西から



F 地点 SS54 セクション 北から



F 地点 完掘状況 北から



G 地点 完掘状況 東から



G 地点 SP61 セクション 西



G 地点 SP62 セクション 西から



H 地点 完掘状況 東から



H 地点 SK71 集石検出状況 北から



I地点 深掘り確認状況 西から



J地点西半部 完掘状況 西から



J地点東半部 完掘状況 東から



K地点西半部 完掘状況 東から



K地点東半部 完掘状況 北から



L地点 完掘状況 西から



L地点 SK113 セクション 東から



L地点 SK113 遺物出土状況 東から



L地点 SK113 遺物出土状況(近影) 東から



L地点 SK114 遺物出土状況 東から



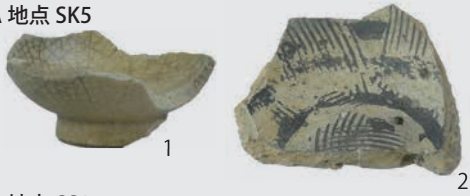
L地点 SK114 セクション 西から



L地点 SK114 完掘状況 西から

图版 50 (3区)

A 地点 SK5



A 地点 SK6



A 地点 SK7



A 地点 SS1



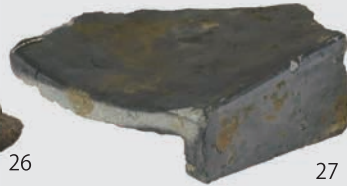
A 地点 SS3



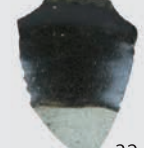
A 地点 SS5



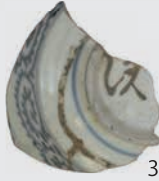
A 地点 SX1



A 地点 SX2



A 地点遺構外



A 地点遺構外



B 地点 SK11



B 地点 SK13



图版 52 (3区)

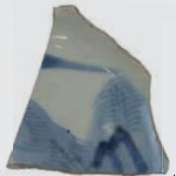
B 地点 SK13



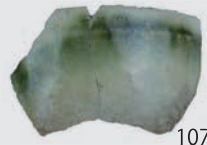
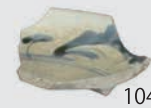
B 地点 SK15



B 地点遺構外



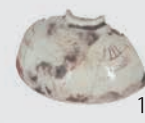
C 地点 SK21



C 地点 SK22



C 地点 SK27



C 地点 SK26



C 地点 SP23



C 地点 SD21



C 地点 SX21



C 地点 SX22



C 地点遺構外



D 地点遺構外



E 地点 SK41



E 地点 SK43



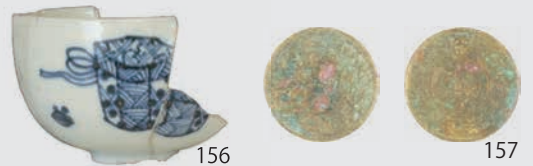
E 地点 SE41



E 地点 SE42



E 地点遺構外



图版 54 (3区)

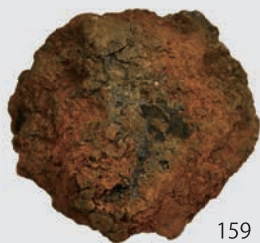
F 地点 SK51



F 地点 SK52



F 地点 SX51



F 地点 SD52



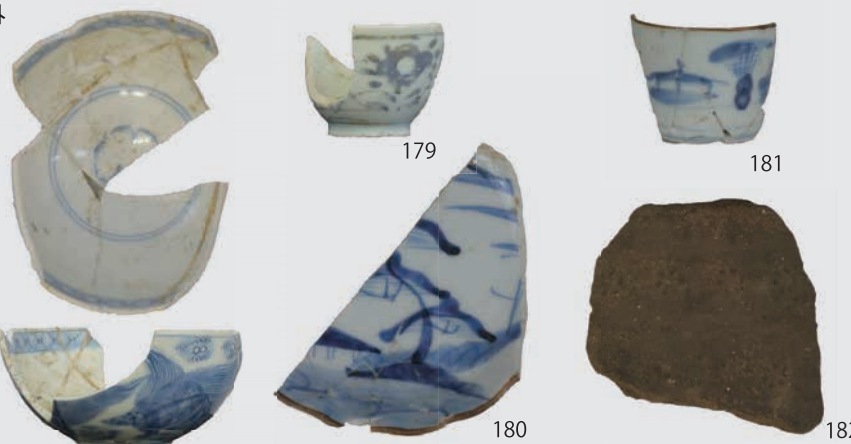
F 地点遺構外



G 地点 SP62



G 地点遺構外



H 地点遺構外



J 地点遺構外



K 地点 SK101



188

K 地点 SK102



189

K 地点 SS101



190



191

K 地点 SS102



192

L 地点 SK113



193



194



195

L 地点 SK114



196



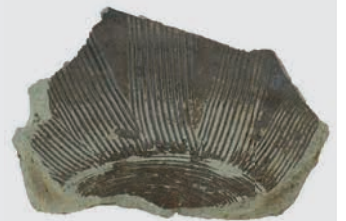
197



198



199



200

L 地点遺構外



201



202



203



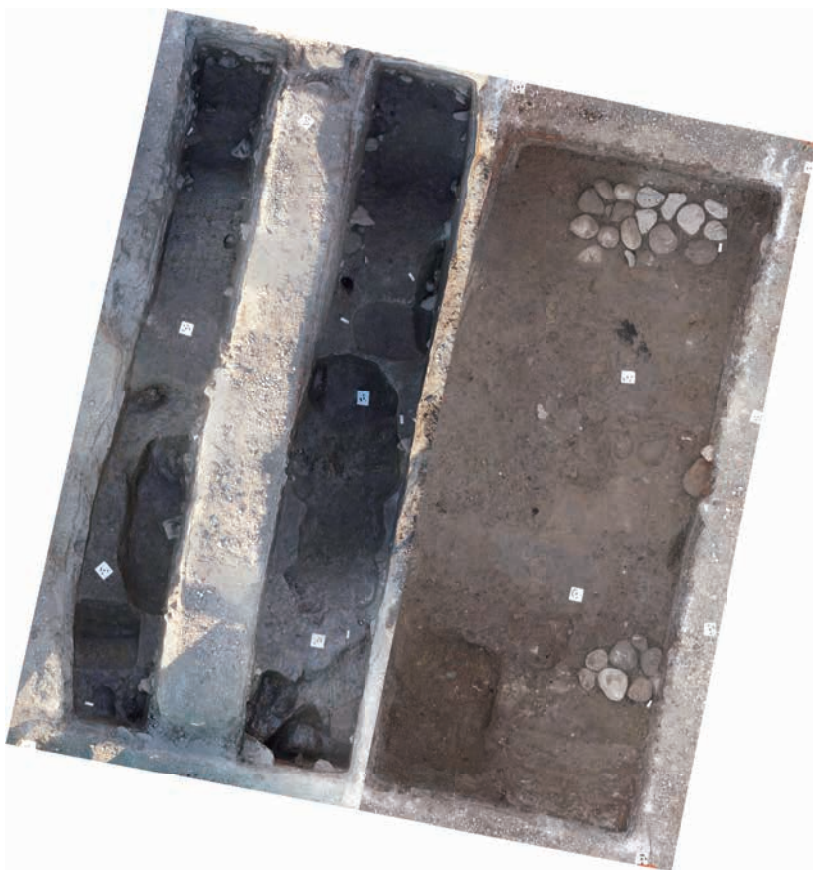
204



205



206



①・②地点 1 面目完掘状況 (モザイク写真：上が北)



①・②地点 2 面目完掘状況 (モザイク写真：上が北)



①地点 SK1 (SK10) セクション 西から



①地点 SK2 セクション 南から



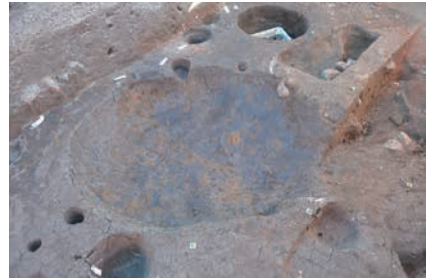
①地点 SK3 セクション 東から



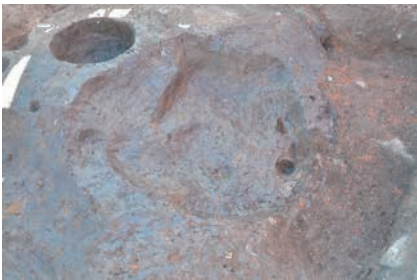
①地点 SK4 セクション 西から



②地点 SK6・SK7 セクション 西から



②地点 SK6 完掘 北から



②地点 SK7 完掘 北から



②地点 SK8 セクション 西から



②地点 SK9 セクション 南から



②地点 SK10 (SK1) セクション 東から



②地点 SK11 セクション 西から



②地点 SK12 セクション 西から



②地点 SK13 セクション 西から



①地点 SS1 (SK14) 上層 西から



②地点 SK14 (SS1) 上層 北から

図版 58 (4区)



②地点 SK14 (SS1) 下層 北から



①地点 SP2 セクション 南から



②地点 SP6 セクション 西から



②地点 SK17・SK18 完掘 (モザイク写真: 上が北)



②地点 SP9 セクション 西から



②地点 SS2 集石検出状況 南から



②地点 SS3 集石検出状況 南から



②地点 SS4 集石検出状況 南から



②地点 SS5 集石検出状況 南から



②地点 SS9 石臼出土状況 西から



②地点 SS12 集石検出状況 東から



①地点 SK5 (SD1) 西側遺物出土状況 南から



②地点 SK5 (SD1) 東側遺物出土状況 南から



②地点 SD1 (SK5) 桐木検出状況 南から



③地点 SK15 セクション 東から



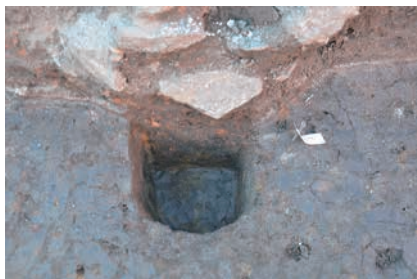
③点 SK15 出土状況 北から



③地点 完掘状況 (モザイク写真: 上が北)



③地点 SK16 セクション 東から



③地点 SP15 セクション 東から



③地点 SP16 集石検出状況 南から

図版 60 (4区)



③地点 SP17 セクション 北から



③地点 SS6 集石検出状況 南から



③地点 SS7 集石検出状況 南から



③地点 SS8 礎石検出状況 南から



③地点 SS11 集石検出状況 北から



③地点 SX1 セクション 西から



③地点 SX1 完掘 西から



④・⑤地点 SK19 完掘 南から



④・⑤地点 SK20 完掘 東から



④・⑤地点 SK21 完掘 西から



④・⑤地点 SK22 石臼出土状況 東から



④・⑤地点 SK23 セクション 西から



④・⑤地点 SK24・SS24 セクション 北から



④・⑤地点 SK25 集石検出状況 北から



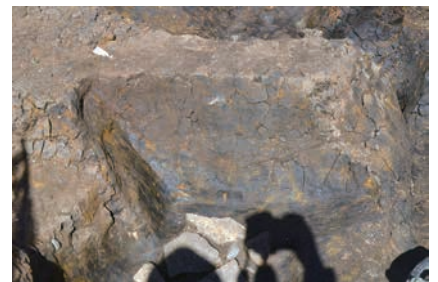
④・⑤地点 SK27 地中梁検出状況 東から



④・⑤地点 集石検出状況 (モザイク写真：上が北)



④・⑤地点 SK27 地中梁検出状況 西から



④・⑤地点 SK28 セクション 南から



④・⑤地点 SK29 集石検出状況 南から

図版 62 (4区)



④・⑤地点 SK30 完掘 北から



④・⑤地点 SK37 完掘 南から



④・⑤地点 SP19 セクション 南から



④・⑤地点 SP21 集石検出状況 南から



④・⑤地点 SP23 礎石検出状況 南から



④・⑤地点 SS14・SS15 礎石検出状況 東から



④・⑤地点 SS15 集石検出状況 南から



④・⑤地点 SS16 蠟燭石検出状況 南から



④・⑤地点 SS16・SD2 セクション 南から



④・⑤地点 SS16 木杭検出状況 南から



④・⑤地点 SS17 蠟燭石検出状況 南から



④・⑤地点 SS17・SD2 セクション 南から



④・⑤地点 SS17 木杭検出状況 南から



④・⑤地点 SS18 蠟燭石検出状況 西から



④・⑤地点 SS18 木杭検出状況 南から



④・⑤地点 SS19 木杭検出状況 西から



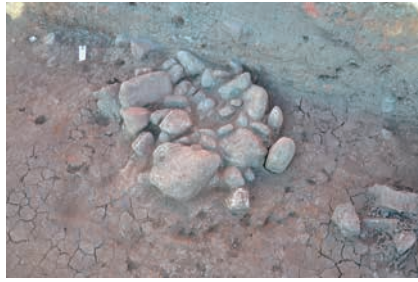
④・⑤地点 SS20 集石検出状況 南から



④・⑤地点 SS21 集石検出状況 南から



④・⑤地点 SS22 集石検出状況 南から



④・⑤地点 SS23 集石検出状況 南から



④・⑤地点 SS24 集石検出状況 北から



④・⑤地点 SD2 完掘 南から



⑥地点 SK31 遺物出土状況 東から



⑥地点 SK31 完掘 東から



⑥地点 SK32 遺物出土状況 東から



⑥地点 SK32 完掘 東から



⑥地点 SK33 甕検出状況 南から



⑥地点 SK34 セクション 東から



⑦地点 SK36 セクション 北から



⑦地点 SP34 セクション 南から



⑥・⑦地点 完掘状況 (モザイク写真：上が北)



⑦地点 SP27 セクション 南から



⑦地点 SD3・SD4 遺物出土状況 西から



⑦地点 SD3 遺物出土状況 西から



⑦地点 SD4 遺物出土状況 南から



⑦地点 SD4 完掘 西から

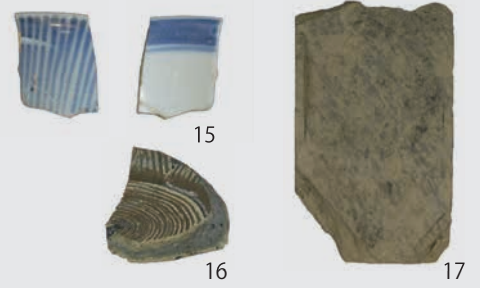


⑦地点 SD4 セクション 西から

①·②地点 SK3



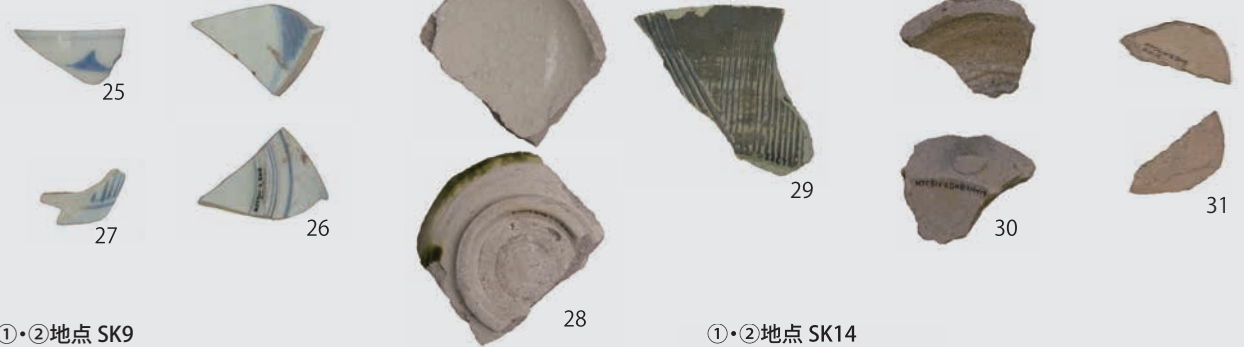
①·②地点 SK6



①·②地点 SK7



①·②地点 SK8



①·②地点 SK9



①·②地点 SK14



图版 66 (4区)

①·②地点 SK17



①·②地点 SK18



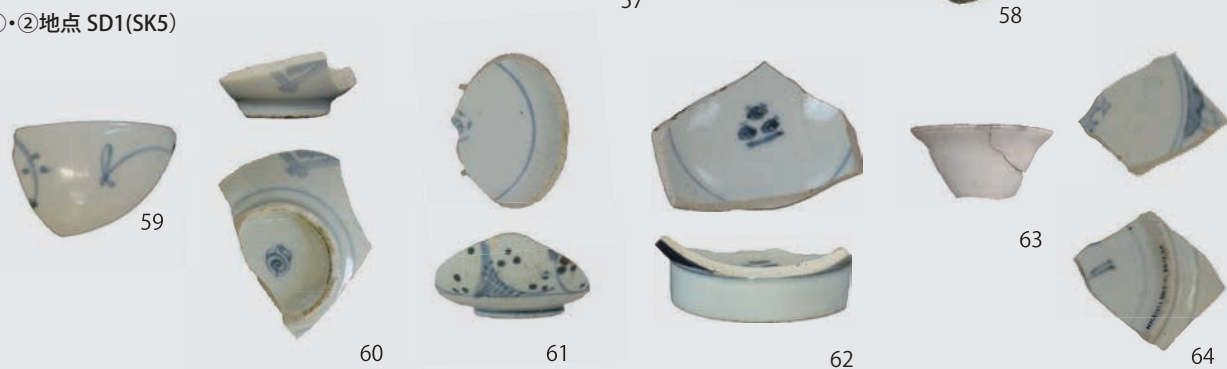
①·②地点 SP7



①·②地点 SS9



①·②地点 SD1(SK5)



①·②地点 SD1(SK5)



①·②地点遺構外



③地点 SK15



图版 68 (4区)

③地点 SP14



③SP17



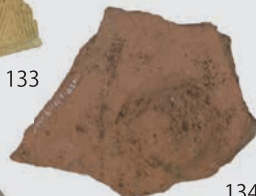
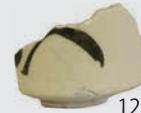
③地点 SS7



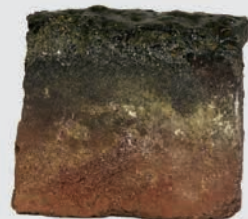
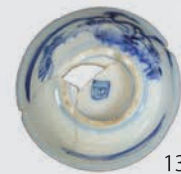
③地点 SS8



③地点 SX1



③地点遺構外



④·⑤地点 SK20



155

④·⑤地点 SK21



156

④·⑤地点 SK22



157



158



159



160



161



162



163



164



165



166



167



168



169



170

④·⑤地点 SK25



171

④·⑤地点 SK27



172

④·⑤地点 SK37



173



174



175



176



177



178

图版 70 (4区)

④·⑤地点 SD2



④·⑤地点 遺構外



⑥地点 SK31



⑥地点 SK32



⑥地点遺構外



⑦地点 SD3



報告書抄録

ふりがな	こうふじょうかまちいせき29 (やまなしけんこうふしちゅうおう5ちょうめ2～4く)
書名	甲府城下町遺跡29 (山梨県甲府市中央5丁目2～4区)
副書名	都市計画道路和戸町竜王線街路事業に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	甲府市文化財調査報告
シリーズ番号	126
編著者	志村憲一・萩野谷主税・泉英樹・伊藤茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtadize・小林克也・三谷智広・森勇一・森将志・竹原弘展・バンダリスダルシャン
編集機関	昭和測量株式会社
所在地	〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目11番27号 TEL055-235-4448
発行年月日	2022(令和4)年3月18日

ふりがな	ふりがな	コード	世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
こうふじょうかまちいせき	やまなしけんこうふしちゅうおうごちょうめ	19201	253	35° 39'28"	138° 34'33"	2区：令和2年7月7日～12月26日	2区：767㎡ 3区：748㎡ 4区：244㎡	都市計画道路和戸町竜王線街路事業
甲府城下町遺跡	山梨県甲府市中央5丁目					3区：令和2年10月7日～令和3年2月27日		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
甲府城下町遺跡	城下町	近世 近代	土坑・大型土坑・廃棄土坑・埋桶・埋甕・井戸・小穴・集石遺構・建物跡・石列・石垣造りの溝・溝状遺構・地鎮遺構・不明遺構	磁器・陶器・土器・瓦・土製品・木製品・石製品・金属製品・ガラス製品・動物遺体・種子など	大型建造物の基礎とみられる土坑が検出され、掘方底面に据えられた礎板の年代測定の結果、16世紀後半から17世紀前半にさかのぼる可能性がある。

要約	<p>特筆すべき遺構として、近世の大型土坑、近代の地鎮具が検出されている。</p> <p>大型土坑は、平面形が不整形な形状のものと方形のものがみられる。不整形な形状のものには、火災で生じたゴミを処分したとみられるものが多い。一方、方形のものは、商家の間口付近に構築された穴蔵と推定されるものや、大型の建造物の基礎と推定される遺構が検出されている。前者には、井桁状に組まれた木材が検出され、穴蔵の床板を敷くための梁と推定される。後者では、遺構の底面から礎石や礎板を据えた土坑が検出された。この礎板の年代測定の結果、16世紀後半から17世紀前半にさかのぼる可能性がある。城下町成立期に何らかの建造物が建っていた可能性が示唆される。</p> <p>地鎮具は、灯明皿3枚と灯明受皿2枚がT字状に伏せ置かれた状態で出土した。これらの中には小石・粘土塊・火打ち石・水晶が埋納されている。地鎮祭に伴い埋納されたものと推定される。</p>
----	---

甲府市文化財調査報告126

甲府城下町遺跡29

(山梨県甲府市中央5丁目2～4区)

—都市計画道路和戸町竜王線街路事業に伴う発掘調査報告書—

2022(令和4)年3月18日 発行

編集 昭和測量株式会社

〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目11番27号

TEL 055-235-4448

発行 山梨県中北建設事務所・甲府市教育委員会・昭和測量株式会社

印刷 株式会社内田印刷所